教育実習事前指導【情報】

1001
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　前期
林　　泰子

〔到達目標〕
・教育実習の意義と実習上の心がまえについて知る。
・学習指導案の機能と構成を知る。
・到達目標の形成関係分析の仕方を知る。
・学習指導案の作成ができる。
・実践的な授業ができる。

〔授業の概要〕
高校情報科で教育実習を行う学生を対象に、教育実習の意義と心構え、学習指導要領 第2章 第10節 情報 における共通教科「情報」の各科目の目標・内容とその取扱いに従った教育計画、授業研究、評価等について学習する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：毎時指定した教科書範囲を熟読してくること（毎回2時間）。
復習：毎時指定した教科書の知識問題・実践問題を解いてくること（毎回2時間）。

〔授業計画〕
第 1 回　教育実習の意義と実習上の心構え
教科「情報」の教育実習の意義と実習上の心構えについて講義する。
第 2 回　情報科教育の内容と教材研究の仕方
情報科教育の内容と教材の重要性および教材研究の仕方について具体的な事例を示して講義する。
第 3 回　教育評価と情報科の評価法
情報科の評価方法について講義する。
第 4 回　情報科教師の資質と職務、教育機器と施設の運営管理、安全指導
情報科教師の資質と職務、教育機器と施設の運営管理、安全指導について講義する。
第 5 回　学習指導案の作成と留意点
学習指導案の作成方法と留意点について実例を提示しながら講義する。
第 6 回　学習指導案の作成演習(1)
学習指導案を作成し、内容を吟味検討する。また授業に必要な教材等の準備をする。
第 7 回　模擬授業と評価(1)
作成した学習指導案による模擬授業の実施と模擬授業のビデオ映像による分析。
第 8 回　学習指導案の作成演習(2)
学習指導案を作成し、内容を吟味検討する。また授業に必要な教材等の準備をする。

〔成績評価〕
・課題レポートの提出50％
・授業への取組・実習状況など50％
※小テストやレポート課題については評価後、個別コメントつけて返します。

〔教科書〕
高等学校学習指導要領解説「情報編」文部科学省

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教育実践に関する科目、教育実習、高一種（情報）、必修

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日：11:00～12:00
③研究室
④y.hayashi@ashiya-u.ac.jp
⑤研究室に来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください。
　質問等は、基本的には授業終了後に講義教室で対応します。
　それ以降は、メールで受け付けます。

教育実習事前指導【技術】

1003
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　前期
実務経験有
藤本　　光司

〔到達目標〕
学習指導案の作成、授業研究、教材作成のコツ、模擬授業の実施など多面的に教員としての資質向上をめざす。また、学校業務に関わる対応や生徒指導上の留意点などについて、昨今の教育現場の状況を踏まえ、場面指導を実施する。さらに、教育実習前の不安や心構えについて、個々に話し合い、自信を持って教育実習に臨めるように準備を整える。

〔授業の概要〕
学習者同士の話し合いの活動、意見をまとめ発表するなど、共に学ぶ仲間と協働し学習する。中学校「技術科」の教職課程を履修する学生を対象にする。教育実習の意義を理解するとともに、教員としての使命感と責任感を身につける。模擬授業などの実践を通して、生徒の主体性を引き出す授業力を培う。また、教員としての夢や希望を学生相互の交流を図りながら、教育実習に対するモチベーションを上げる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・教育実習に向けての指導案作成、教育実習記録簿の準備
・授業時間内に、学習指導案を作成することができません。
・指導案などの作成は、ほとんどが授業外で作成することになる。
・各自で、ゼミなどの担当教員に提出し確認を受ける事。
・授業前にテーマに関連する文献を読み解く（120 分）
・テーマに関する興味を深めて論述（レポート作成）を行う（120 分）

〔授業計画〕
第 1 回　教育実習の意義と実習上の心構え

中学校「技術科」の教育実習の意義と実習上の心構えについて。
第 2 回　技術科教育の内容と教材研究
技術科教育の内容と教材の重要性および教材研究の方法について、具体的な事例を示して講義する。
第 3 回　確かな学力とものづくり
主体的な学習、学習内容の教材化、学校教育における技術科の役割
第 4 回　指導と評価の一体化
絶対評価、相対評価、パフォーマンス評価などの教育評価について
第 5 回　学習指導案の作成
指導案の作成、フローチャートの書き方、相互評価
第 6 回　中学校の諸問題
いじめ問題、体罰、事故、セクハラ、同和同推問題、人権教育
第 7 回　現職教員による指導（ゲスト講師）No1
講話聴講 : 現職教員を招聘して昨今の諸問題を聴講する
第 8 回　現職教員による指導（ゲスト講師）No2
講話聴講 : 現職教員を招聘して昨今の諸問題を聴講する

〔成績評価〕
授業への参画態度を中心に，指導案、授業研究、ディスカッション内容、課題レポートなどを総括的に評価する。なお，本授業を通して教育実習に対する資質が低い学生は，教育実習への参加が不可となる場合もある。

〔教科書〕
・林徳治、藤本光司ほか、『アクティブラーニングに導く教学改善のすすめ』、ぎょうせい（2020）
・技術分野　授業のKARUわざ、教育図書　（2019）
・技術分野　授業のＫＩＭＥわざ、教育図書（2019）
・中学校学習指導要領解説（技術・家庭：技術分野）、文部科学省：平成29年7月
・技術・家庭科教科書（東京書籍、開隆堂）
・中学校技術家庭科ハンドブック

〔参考文献〕
技術科教育に関して、各自の興味がある分野、得意分野をCiNii、J-Stageの論文により、先行研究資料を検索します。その他、必要に応じて適宜配布します。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教育実践に関する科目、教育実習、中一種（技術）、必修

【実務経験の活用】
学級・教科指導の経験を踏まえて教育実習に関する実践的な指導をする

〔オフィスアワー〕
水曜日1限
金曜日4限

教育実習【技術】

1011
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
藤本　　光司

〔到達目標〕
一般目標：
１．教育実習の意義や心得等、教育実習に臨む態度と能力を持つことができる。
２．授業実践者に相応しい技術科の知識や技能、指導力を持つことができる。

個別目標：
・教職関連の科目について、十分理解し実習生としての自覚をもって実習に臨むことができる。
・最新の学習指導要領「中学校（技術）」の内容が反映された指導案を作成することができる。
・ICT機器などを利用して、技術科4領域の内容を熟知し指導できる。
・授業改善についての相互評価を行い、指導方法や指導技術の改善を行うことができる。
・様々な場面で生徒理解に努め、実習校に対して有意義な活動を行うことができる。

〔授業の概要〕
教職課程及び教科に関する専門科目の学習で身につけた知識や理解をもとに、中学校技術科に赴き3週間の実地体験を行う。教育実習の後半に担当教員が実習校を訪問して研究授業などを見学する。また、教育実習の事前・事後指導を行う。事前指導では、教育実習の意義や実習にあたっての心得を中心に、教材研究、指導案作成、模擬授業、授業評価を確認する。事後指導では、各自の教育実習を振り返り、学生間で学びや反省を共有して学びを深める。実習中は、生徒との対話的で深い学びを自ら企画し教師力を磨く。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・教科指導以外にも様々な教育活動があるので、学校の勤務中にしかできないことを実習校で行い、教材研究や指導案の作成などは時間外学習で行う。（120分）
・担当教員や管理職の指示があれば、校外学習や休日の部活指導等にも積極的に参加する。（120分）

〔授業計画〕
第 1 回　実習校にて指導を仰ぐ
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。
第 2 回　実習校にて指導を仰ぐ
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。
第 3 回　実習校にて指導を仰ぐ

管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

第 4 回　実習校にて指導を仰ぐ
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

第 5 回　実習校にて指導を仰ぐ
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

第 6 回　実習校にて指導を仰ぐ
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

第 7 回　実習校にて指導を仰ぐ
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

第 8 回　実習校にて指導を仰ぐ
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

第 9 回　実習校にて指導を仰ぐ
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

第 10 回　実習校にて指導を仰ぐ
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

第 11 回　実習校にて指導を仰ぐ
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

第 12 回　実習校にて指導を仰ぐ
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

第 13 回　実習校にて指導を仰ぐ
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

第 14 回　実習校にて指導を仰ぐ
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

第 15 回　実習校にて指導を仰ぐ
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

〔成績評価〕
教育実習の実績（40%）、指導案＆研究授業の実績（40%）、教育実習の感想記録、生徒・担当教員などへのお礼の手紙など（20%）で総合的に評価する。

〔教科書〕
中学校学習指導要領解説、技術・家庭科編（平成29年7月告示、文部科学省）
実習校で使用している「技術・家庭科（技術分野）」※開隆堂、東京書籍など

〔参考文献〕
授業中に配布した、ベテラン教員の指導案など。
原則として、中等教科教育法技術 I, II, III, IV を修得していること。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕
教育実践に関する科目、教育実習、中一種（技術）、必修

〔オフィスアワー〕
水曜日1,2限
金曜日4限

経営学入門

1105
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
井上　徹

〔到達目標〕
「なぜ人は働くのか？」「企業は何の為に存在するのか？」などを解き明かす為に経営学を様々な視点より学び、疑問に思う事や考える力を身につける事を目標とする。

1.社会と企業活動を経営学を通して関係づける。
2.なぜ経営学を学ぶのかを知る。
3.学習・勤労の意義を知る。

〔授業の概要〕
経営学を経営・会計・商学の3つのフィールドにわけて経営学の基本原理をわかりやすく講義します。
その上で、社会の中で、経営学はどのような役割を持ち役に立つかを考えます。

・授業内レポートの発表・ディスカッションを行い、全受講者と共に検討。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業の予習・復習。

予習：テレビ・新聞・WEBなどを通して興味のある企業･ビジネスに関連する情報に注目する。（120分程度）

復習：講義内容の整理/講義内容を理解した上で次回の講義に臨む様にしてください。（120分程度）

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
　　・授業内容と授業の進め方。

第 2 回　経営学の領域
　　・「経営学とは何か？」について学ぶ

第 3 回　経営学のはじまり
　　・「会社とは何か？」について学ぶ

第 4 回　企業・組織の登場
　　・「企業・組織とは何か？」について学ぶ

第 5 回　経営管理の発展
　　・「経営管理とは何か？」について学ぶ

第 6 回　会計学の領域
　　・「会計学とは何か？」について学ぶ

第 7 回　財務諸表・監査
　　・「財務諸表とは何か？」について学ぶ

第 8 回　中間試験
　　・「7回までの授業内容をまとめた小テストorレポート」

第 9 回　商学の領域
　　・「商学とは何か？」について学ぶ

第 10 回　マーケティング
　　・「マーケティングとは何か」について学ぶ

第 11 回　生産・流通管理
　　・「生産・流通とは何か？」について学ぶ

第 12 回　モチベーション
　　・「なぜ人は働くのか？・モチベーションとは何か？」について学ぶ

第 13 回　リーダーシップ
　　・「リーダーの資質とは何か？」について学ぶ

第 14 回　コア・コンピタン
　　・「コア・コンピタンスとは何か？」を学ぶ

第 15 回　定期試験
　　・定期試験

〔成績評価〕

定期試験：40%

中間試験：30%

授業内レポート・発表：30%

※中間試験も評価に含みます。

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

「1からの経営学」「経営学入門」「やさしい経営学」「会計学入門」など

その他、参考文献は授業内にて適宜資料を紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

1.学　期：前期・後期

2.日　時：授業終了後／水曜日14：00～15：00

3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室

4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能

5.その他（相談をする際の留意事項）

①メールの場合

・急ぎの場合はメールにて相談してください。

・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。

1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容

②LMSメッセージの場合

・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」

より連絡する様にしてください。

・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。

③研究室に相談・質問に来る場合

・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。

※突然の来室は対応できない場合があります。

情報化社会と仕事の世界Ⅰ

1234
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
林　　徳治

〔到達目標〕

本科目は、高等学校教科「情報」の教職課程の科目である。授業では、情報に関する職業人としての在り方、職業観や勤労観、倫理の視点と情報化に進展

に伴う職業の変革の視点等を含め、情報と社会職業との関わりについて学ぶ。

到達目標は以下のとおりである。

・情報化社会への興味・関心を抱き、関わる意欲を持つことができる。

・情報化の進展に伴うビジネスや職業の変容を学び説明できる。

・情報関連職業の全体像を把握し説明できる。

・情報に関わる職業観と勤労観、倫理観を理解し、概要を説明できる。

〔授業の概要〕

本授業では、意欲関心など主体性やグループワークによる協働性を重視する。

与えられた知識・技能の学びだけではなく、問題解決能力、論理的思考力、（ロジカルシンキング、クリティカルシンキング）を学修できることを目指す。

対面授業の実施では、グループワークを実施する。

リモート授業では、ZOOMによる講義、グループ毎のディスカッションを実施する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

毎回の授業では予習・復習すること。
各授業のトピックについての情報を新聞や雑誌やインターネットなどで事前にチェックしておくこと。
復習については、授業で言及された文献を読んでおくこと（90分）

〔授業計画〕

第 1 回　イントロダクション　教科「情報」の教師の役割について
高等学校教科「情報」の教師に求められる資質や能力について考える。
2025年からの大学入学共通テストで新たに「情報」が試験科目に加わる見通しになったのを受け、専門性の高い教員の養成の必要性について学ぶ。

第 2 回　教科「情報」と情報教育、情報活用能力
3つの情報活用能力について学ぶ。

第 3 回　情報社会と情報システム
今日の情報システムの構築を学び、その特徴や課題について考察する。

第 4 回　情報化によるビジネス環境の変化（1）
今日のビジネス環境について、代表的なビジネスモデル事例を紹介し、その特徴と今後の課題について考察する。（アマゾンなど）

第 5 回　情報化によるビジネス環境の変化（2）
今日のビジネス環境について、代表的なビジネスモデル事例を紹介し、その特徴と今後の課題について考察する。（コンビニなど）

第 6 回　企業における情報活用（1）
代表的な企業を抽出し、情報活用について考察する。

第 7 回　企業における情報活用（1）
代表的な企業を抽出し、情報活用について考察する。

第 8 回　ネットビジネス（1）
代表的な企業を抽出し、ネットビジネスについて考察する。

第 9 回　ネットビジネス（1）
代表的な企業を抽出し、ネットビジネスについて考察する。

第 10 回　労働環境と労働観の変化（1）
経営側と労働者側を包括した労働環境や労働観の変化について、代表的な企業を抽出して考察する。

第 11 回　労働環境と労働観の変化（1）
経営側と労働者側を包括した労働環境や労働観の変化について、代表的な企業を抽出して考察する。

第 12 回　情報社会における負の遺産（犯罪と法制度）（1）
情報社会における負の遺産について代表的な事例を取り上げ、その特徴と課題について考察する。

第 13 回　情報社会における負の遺産（犯罪と法制度）（1）
情報社会における負の遺産について代表的な事例を取り上げ、その特徴と課題について考察する。

第 14 回　グループワークによるプレゼンテーション
各グループごとの今までに取り組みについてのプレゼンテーションを計画・実施・評価し、改善点を見つける。

第 15 回　理解度のまとめ
本授業を振り返って、自己の成長に最も役立った内容について、相互に意見交換しレポートにまとめる。

〔成績評価〕

定期試験（筆記試験）　50%
授業での課題レポート、小テスト　50%

〔教科書〕

高等学校学習指導要領
高等学校学習指導要領解説　（情報編）

〔参考文献〕

「情報と職業」、駒谷昇一、情報処理学会編集、オーム社

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、情報と職業、高一種（情報）、必修
リモート授業の場合は、対面に準じたグループワークを実施する。

〔オフィスアワー〕

質問や意見などは、メールで常時受け付けます。
tokujihayashi@hotmail.com

機械工作・計測実習Ⅰ

1245
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
成瀬　　優享

〔到達目標〕

整備士に求められる作業やそれに伴い発生する公害・災害を学ぶ。
整備作業における基本的工具名称を覚え、使用方法を習得する。
工作機器・計測工具の安全な取り扱いに関する技能を習得する。
各種保護具の適切な取り扱い及び運用を学ぶ。
機器類取り扱いに関連する労働安全衛生法等の関連法を知る。

〔授業の概要〕

計測作業や工作の基礎を身に着け、課題製作を実施する。課題製作過程において、どのような危険が考えられたか、効率化するためにどのような点を工夫したかなどの発表・議論を行い学びを深める。
※日本人学生においては、1年次　機械整備基礎を履修のこと

※留学生においては、1年次　自転車整備基礎を履修のこと
※PPE（Personal protection Equipment：個人保護装備）を備えない場合、出席を認めない
※原則的に対面授業とするが、感染症・その他事情によりオンデマンド授業を併用する場合があるので、通信環境を整えておくこと

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業前に指定する箇所の予習（90分）を実施すること。
授業終了後、課題を配布するので、内容を復習し次回授業開始時に提出すること。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
授業概要の説明と安全に関する諸注意
PPE（PersonalProtectionEquipment:個人保護具）の採寸
整備作業の目的と安全の確保
整備作業の心得
公害と災害

第 2 回　基本整備作業
基本整備作業に用いる工具の名称と使用方法

第 3 回　基本計測器具取り扱い（1）
ノギス・マイクロメーター取り扱い方法の確認

第 4 回　基本計測器具取り扱い（2）
ノギス・マイクロメーター取り扱い実技
計測方法振り返りと技能に関するグループ討議

第 5 回　基本計測器具取り扱い（3）
ノギス・マイクロメーター取り扱い実技小試験

第 6 回　基本計測器取り扱い（4）
ダイアルゲージ・シリンダーボアゲージ取り扱い方法確認

第 7 回　基本計測器取り扱い（5）
ダイアルゲージ・シリンダーボアゲージ取り扱い実技
計測方法振り返りと技能に関するグループ討議

第 8 回　基本計測器取り扱い（6）
ダイアルゲージ・シリンダーボアゲージ取り扱い実技小試験

第 9 回　部品洗浄機・昇降機・圧縮空気取り扱い実技
基本作業で頻繁に使用する機器の取り扱いを習得

第 10 回　小型旋盤実技
旋盤を用いた作業と災害の学習
災害予防方法に関するグループ討議

第 11 回　フライス盤実技
フライス盤を用いた作業と災害の学習
災害予防方法に関するグループ討議

第 12 回　切削盤・ボール盤実技
切削版・ボール盤を用いた作業と災害の学習
災害予防方法に関するグループ討議

第 13 回　課題制作（1）
図面にて指定する部品製作を実施

第 14 回　課題制作（2）
図面にて指定する部品製作を実施

第 15 回　課題制作（3）
図面にて指定する部品製作を実施

〔成績評価〕

試験５０％ 課題製作・小テスト２５％ 態度行動、取り組み評価２５％

〔教科書〕

国土交通省自動車局監修 自動車整備士養成課程 教科書
・基礎自動車整備作業
・基礎自動車工学

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕

【実務経験の活用】
整備士としての実務経験を活かし、自動車や自転車の整備作業実習をおこなう。また、物販や在庫管理に関わった経験から、関連する接客対応や商品の案内方法等を統合し、連結した実習授業の展開を行う。
潜水士として従事した各種業務より、安全・危機管理を取り入れた実技実習を行っている。

〔オフィスアワー〕

火曜日２限目（12時10分～13時40分）
※授業準備等で不在となる可能性があるため、事前に連絡すること。

機械加工②

1252
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
池田　　英夫

〔到達目標〕

・学ぶ仲間とアイデアを共有することにより、課題を解決する力を養うとともに、社会人として協働する態度を育む。(態度・チームワーク・課題解決力)
・機械加工及び設計製図の知識を深め、加工技術の基礎理論が理解できる。(知識・理解)
・材料の加工法を判断し、技術やものづくり教育について考えることができる．(思考・判断)
・エネルギー変換機器の仕組みを理解するとともに、保守点検を実践できる。(知識・技能)
・工具や工作機械を安全に使用し、設計図に沿った作品を工夫して製作できる。(思考表現)

〔授業の概要〕

・本科目は通年で実習に取り組む。前期の最初にペン立ての製作を通じて、金属加工の基本的な手仕上げの方法、旋盤での切削を学ぶ。続いて製作課題からグループで１台のロボット（親機）及び各自で１台のロボット（子機）の製作をする。その製作過程を通じて、設計製図、手工具の扱い方、工作機械の適切な使用方法、安全に留意した操作方法を身に付ける。
・ロボットの製作課題に対し、グループごとにその課題解

決機能を考え、解決したことをまとめ発表する。
・技術科教員として、環境保全社会に対する造詣も深めていく。なお実習の時間は、安全に実習ができる服装でのぞむこと。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

毎時間後には、学習した内容をまとめ、前期分の内容を配布された資料とともに冊子にする。(６０分)

〔授業計画〕

第 1 回　授業ガイダンス
自己紹介、カリキュラムの説明(授業の目的と予定)、成績評価について知る。
LMSと対面授業についての説明。

第 2 回　工作機械の使用方法と保守点検
卓上ボール盤、帯ノコ盤、旋盤、フライス盤、弓ノコ盤などの工作機械の基本的な使用方法とメンテナンスを学ぶ。

第 3 回　基本的な金属加工　ペン立ての製作１
部品図より仕上げ寸法を考えて、材料の切断(弓ノコ、弓ノコ盤）を行い、ヤスリがけによる底面の仕上げを行う。(定盤、光明丹を使った摺合せ)

第 4 回　基本的な金属加工　ペン立ての製作２
部品図の寸法に従って、旋盤による端面仕上げと穴あけの切削を行う。タップ、ダイスによるネジ切りをした後、組み立てる。組立図に完成した寸法を記入する。

第 5 回　加工実習１　ロボットの製作（基礎）
昨年度の製作課題より製作されたロボットを分解し、ロボットの寸法，機能、工夫点を学ぶ。全国高等学校ロボット競技大会のＶＴＲを見ることにより、ロボットのイメージを持つ。

第 6 回　加工実習２　ロボットの製作（設計１）
課題を解決できる機能、装置と取付方法の設計、製図を行う。（グループで考えを話し合う）
今年度の製作課題：グループで親機（１台）と子機（各自）のロボットを使い、ピン球を害物のセンターラインを越して相手コートに入れる。ピン球は２０個使用。

第 7 回　加工実習３　ロボットの製作(設計２）
ロボットの車体の寸法，剛性、重量を考慮し機能、課題を解決できる機能、装置の設計を行い、寸法を決めた部品図の作成を行う。(グループで考えをまとめ決定する）

第 8 回　加工実習４　ロボットの製作(組立図）
それぞれの部品を機能的に組み合わせた組立図の作成。(グループでまとめる）

第 9 回　加工実習５　ロボットの製作(部品の製作１）
旋盤、ボール盤、手仕上げ等による車体、駆動部の部品の製作。
使用材料：アルミニウム、黄銅、プラスチック
購入品：モータ、ネジ

第 10 回　加工実習６　ロボットの製作(部品の製作２）
旋盤、ボール盤、手仕上げ等による機能装置の部品の製作。
使用材料：アルミニウム、鋼、木材、黄銅、プラスチック、
購入品：ゴム、ノンスリップシート、モータ、丸ベルト

第 11 回　加工実習７　ロボットの製作(組立）
組立図をもとにした部品の組み立て。
購入品：スイッチ、電線、バッテリー（親機)、電池（子機)、モータ、ネジ

第 12 回　加工実習８　ロボットの製作(調整）
組み立てたロボットの調整改良を行い、ロボットの試験操作を行う。

第 13 回　製作したロボットの競技大会
各グループで製作したロボットによる競技を行い、グループでの製作全般及び活動の評価と課題をまとめる。

第 14 回　製作報告書、レポート作成
製作したロボットのプレゼンテーションとレポートの作成を行う。

第 15 回　まとめ
前期学びの振り返りと提出レポートについて。

〔成績評価〕

実技、実習の取り組み意欲と態度　４０％
レポート　３０％
製作品の完成度およびプレゼンテーション　３０％
実習を主体とした授業のため、欠席が多い場合は不認定になることもある。

〔教科書〕

図解　もの創りのための　やさしい機械工学
門田和雄著　技術評論社

〔参考文献〕

中学校学習指導要領解説（平成２９年文部科学省）
高等学校工業科教科書「機械工作１，２」「機械設計１，２」実教出版

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、金属加工（製図及び実習を含む。)、中一種（技術)、必修

【実務経験の活用】

金属加工による作品製作の実習を通して、機械工具や各種工作機械の安全な使用方法、指導者としての心得等、指導を行う。
ロボット、機構模型の仕組みや設計を、機械工作法、機械製図、機械設計等の観点から指導を行う。

〔オフィスアワー〕

授業終了後、金工室で対応します。
木曜日１４：００～１５：００
LMSでは質問等はメールで受け付けます。

機械加工③

1253
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
山田　喜夫

〔到達目標〕
・学ぶ仲間とアイデアを共有することにより、課題を解決する力を養うとともに、社会人として協働する態度を育む。(態度・チームワーク・課題解決力)
・機械加工及び設計製図の知識を深め、加工技術の基礎理論が理解できる。(知識・理解)
・材料の加工法を判断し、技術やものづくり教育について考えることができる．(思考・判断)
・エネルギー変換機器の仕組みを理解するとともに、保守点検を実践できる。(知識・技能)
・工具や工作機械を安全に使用し、設計図に沿った作品を工夫して製作できる。(思考表現)

〔授業の概要〕
・本科目は通年で実習に取り組む。前期の最初にペン立ての製作を通じて、金属加工の基本的な手仕上げの方法、旋盤での切削を学ぶ。続いて製作課題からグループで１台のロボット（親機）及び各自で１台のロボット（子機）の製作をする。その製作過程を通じて、設計製図、手工具の扱い方、工作機械の適切な使用方法、安全に留意した操作方法を身に付ける。
・ロボットの製作課題に対し、グループごとにその課題解決機能を考え、解決したことをまとめ発表する。
・技術科教員として、環境保全社会に対する造詣も深めていく。なお実習の時間は、安全に実習ができる服装でのぞむこと。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時間後には、学習した内容をまとめ、前期分の内容を配布された資料とともに冊子にする。(６０分)

〔授業計画〕
第 1 回　授業ガイダンス
自己紹介、カリキュラムの説明(授業の目的と予定)、成績評価について知る。
LMSと対面授業についての説明。
第 2 回　工作機械の使用方法と保守点検
卓上ボール盤、帯ノコ盤、旋盤、フライス盤、弓ノコ盤などの工作機械の基本的な使用方法とメンテナンスを学ぶ。
第 3 回　基本的な金属加工　ペン立ての製作１
部品図より仕上げ寸法を考えて、材料の切断(弓ノコ、弓ノコ盤）を行い、ヤスリがけによる底面の仕上げを行う。(定盤、光明丹を使った摺合せ)
第 4 回　基本的な金属加工　ペン立ての製作２
部品図の寸法に従って、旋盤による端面仕上げと穴あけの切削を行う。タップ、ダイスによるネジ切りをした後、組み立てる。組立図に完成した寸法を記入する。
第 5 回　加工実習１　ロボットの製作（基礎）
昨年度の製作課題より製作されたロボットを分解し、ロボットの寸法，機能、工夫点を学ぶ。全国高等学校ロボット競技大会のＶＴＲを見ることにより、ロボットのイメージを持つ。
第 6 回　加工実習２　ロボットの製作（設計１）
課題を解決できるロボットの機能、装置と取付方法の設計、製図を行う。（グループで考えを話し合う）
今年度の製作課題：グループで親機（１台）と子機（各自）のロボットを使いピン球を障害物のセンターラインを越して相手コートに入れる。ピン球は２０個使用。
第 7 回　加工実習３　ロボットの製作(設計２）
ロボットの車体の寸法，剛性、重量を考慮し課題を解決できる機能、装置の設計を行い、寸法を決めた部品図の作成を行う。(グループで考えをまとめ決定する）
第 8 回　加工実習４　ロボットの製作(組立図)
それぞれの部品を機能的に組み合わせた組立図の作成。(グループでまとめる）
第 9 回　加工実習５　ロボットの製作(部品の製作１）
旋盤、ボール盤、手仕上げ等による車体、駆動部の部品の製作。
使用材料：アルミニウム、黄銅、プラスチック
購入品：モータ、ネジ
第 10 回　加工実習６　ロボットの製作(部品の製作２）
旋盤、ボール盤、手仕上げ等による機能装置の部品の製作。
使用材料：アルミニウム、鋼、木材、黄銅、プラスチック
購入品：ゴム、ノンスリップシート、モータ、丸ベルト
第 11 回　加工実習７　ロボットの製作(組立)
組立図をもとにした部品の組み立て。
購入品：スイッチ、電線、バッテリー（親機)、電池（子機)、モータ
第 12 回　加工実習８　ロボットの製作(調整)
組み立てたロボットの調整改良を行い、ロボットの試験操作を行う。
第 13 回　製作したロボットの競技大会
各グループで製作したロボットによる競技を行い、グループでの製作全般及び活動の評価と課題をまとめる。
第 14 回　製作報告書、レポート作成
製作したロボットのプレゼンテーションとレポートの作成を行う。
第 15 回　まとめ
前期学びの振り返りと提出レポートについて。

〔成績評価〕
実技、実習の取り組み意欲と態度　４０％
レポート　３０％
製作品の完成度およびプレゼンテーション　３０％

実習を主体とした授業のため、欠席が多い場合は不認定になることもある。

〔教科書〕

図解　もの創りのための　やさしい機械工学

門田和雄著　技術評論社

〔参考文献〕

中学校学習指導要領解説（平成２９年文部科学省）

高等学校工業科教科書「機械工作１，２」「機械設計１，２」実教出版

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、金属加工（製図及び実習を含む。）、中一種（技術）、必修

【実務経験の活用】

金属加工による作品製作の実習を通して、機械工具や各種工作機械の安全な使用方法、指導者としての心得等、指導を行う。

ロボット、機構模型の仕組みや設計を、機械工作法、機械製図、機械設計等の観点から指導を行う。

〔オフィスアワー〕

授業終了後、金工室で対応します。

木曜日１４：００～１５：００　金工室

LMSでは質問等はメールで受け付けます。

機械加工①

1256

六麓荘キャンパス

経営教育学部 ＞ 経営教育学科

2単位　前期

実務経験有

池田　　英夫

〔到達目標〕

・学ぶ仲間とアイデアを共有することにより、課題を解決する力を養うとともに、社会人として協働する態度を育む。(態度・チームワーク・課題解決力)

・機械加工及び設計製図の知識を深め、加工技術の基礎理論が理解できる。(知識・理解)

・材料の加工法を判断し、技術やものづくり教育について考えることができる．(思考・判断)

・エネルギー変換機器の仕組みを理解するとともに、保守点検を実践できる。(知識・技能)

・工具や工作機械を安全に使用し、設計図に沿った作品を工夫して製作できる。(思考表現)

〔授業の概要〕

・本科目は通年で実習に取り組む。前期の最初にペン立ての製作を通じて、金属加工の基本的な手仕上げの方法、旋盤での切削を学ぶ。続いて製作課題からグループで１台のロボット（親機）及び各自で一台のロボット（子機）の製作をする。その製作過程を通じて、設計製図、手工具の扱い方、工作機械の適切な使用方法、安全に留意した操作方法を身に付ける。

・ロボットの製作課題に対し、グループごとにその課題解決機能を考え、解決したことをまとめ発表する。

・技術科教員として、環境保全社会に対する造詣も深めていく。なお実習の時間は、安全に実習ができる服装でのぞむこと。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

毎時間後には、学習した内容をまとめ、前期分の内容を配布された資料とともに冊子にする。(６０分)

〔授業計画〕

第 1 回　授業ガイダンス
自己紹介、カリキュラムの説明(授業の目的と予定)、成績評価について知る。
LMSと対面授業についての説明。

第 2 回　工作機械の使用方法と保守点検
卓上ボール盤、帯ノコ盤、旋盤、フライス盤、弓ノコ盤などの工作機械の基本的な使用方法とメンテナンスを学ぶ。

第 3 回　基本的な金属加工　ペン立ての製作１
部品図より仕上げ寸法を考えて、材料の切断(弓ノコ、弓ノコ盤）を行い、ヤスリがけによる底面の仕上げを行う。(定盤、光明丹を使った摺合せ)

第 4 回　基本的な金属加工　ペン立ての製作２
部品図の寸法に従って、旋盤による端面仕上げと穴あけの切削を行う。タップ、ダイスによるネジ切りをした後、組み立てる。組立図に完成した寸法を記入する。

第 5 回　加工実習１　ロボットの製作（基礎）
昨年度の製作課題より製作されたロボットを分解し、ロボットの寸法、機能、工夫点を学ぶ。全国高等学校ロボット競技大会のＶＴＲを見ることにより、ロボットのイメージを持つ。

第 6 回　加工実習２　ロボットの製作（設計１）
課題を解決できるロボットの機能、装置と取付方法の設計、製図を行う。（グループで考えを話し合う）
今年度の製作課題：グループで親機（１台）と子機（各自）のロボットを使いピン球を障害物のセンターラインを越して相手コートに入れる。ピン球は２０個使用。

第 7 回　加工実習３　ロボットの製作(設計２）
ロボットの車体の寸法，剛性、重量を考慮し課題を解決できる機能、装置の設計を行い、寸法を決めた部品図の作成を行う。(グループで考えをまとめ決定する）

第 8 回　加工実習４　ロボットの製作(組立図）
それぞれの部品を機能的に組み合わせた組立図の作成を行う。(グループでまとめる）

第 9 回　加工実習５　ロボットの製作(部品の製作１）
弓ノコ盤、旋盤、ボール盤、手仕上げ等による車体、駆動部の部品の製作。
使用材料：アルミニウム、黄銅、プラスチック
購入品：モータ、ネジ

第 10 回　加工実習６　ロボットの製作(部品の製作２）

弓ノコ盤、旋盤、ボール盤、手仕上げ等による機能装置の部品の製作。
使用材料：アルミニウム、鋼、木材、黄銅、プラスチック
購入品：ゴム、ノンスリップシート、モータ、丸ベルト

第 11 回　加工実習７　ロボットの製作(組立)
組立図をもとにした部品の組み立て。
購入品：スイッチ、電線、バッテリー（親機）、電池（子機）、モータ

第 12 回　加工実習８　ロボットの製作(調整)
組み立てたロボットの調整改良を行い、ロボットの試験操作を行う。

第 13 回　製作したロボットの競技大会
各グループで製作したロボットによる競技を行い、グループでの製作全般及び活動の評価と課題をまとめる。

第 14 回　製作報告書、レポート作成
製作したロボットのプレゼンテーションとレポートの作成を行う。

第 15 回　まとめ
前期学びの振り返りと提出レポートについて。

〔成績評価〕
実技、実習の取り組み意欲と態度　４０％
レポート　３０％
製作品の完成度およびプレゼンテーション　３０％
実習を主体とした授業のため、欠席が多い場合は不認定になることもある。

〔教科書〕
図解　もの創りのための　やさしい機械工学
門田和雄著　技術評論社

〔参考文献〕
中学校学習指導要領解説（平成２９年文部科学省）
高等学校工業科教科書「機械工作１，２」「機械設計１，２」実教出版

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、金属加工（製図及び実習を含む。）、中一種（技術）、必修

【実務経験の活用】
金属加工による作品製作の実習を通して、機械工具や各種工作機械の安全な使用方法、指導者としての心得等、指導を行う。
ロボット、機構模型の仕組みや設計を、機械工作法、機械製図、機械設計等の観点から指導を行う。

〔オフィスアワー〕
授業終了後、金工室で対応します。
木曜日１４：００～１５：００
LMSでは質問等はメールで受け付けます。

材料工学

1351
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
安東　茂樹

〔到達目標〕
・金属材料の特徴、性質及び生活向上や金属材料が産業の継承と発展に果たしている役割等を理解し、ものづくりに関する指導力を養う。（知識･技能、関心･意欲･態度）
・生活や社会を支える身の回りの製品及び建築物などの構造物に用いられる主な材料や加工についての科学的な原理･法則と、材料の製造方法や成形などの基礎的な技術の仕組みを理解するとともに、我が国の文化や伝統を技術力で支えてきたこと等への興味･関心を持つことができる。（知識･技能、思考･判断･表現、関心･意欲･態度）
・金属材料の性質に関する技能の習得及び金属材料を使用した簡単な製作品の設計･製作の知識や技能を備える。（知識･技能、関心･意欲･態度）

〔授業の概要〕
鉄やアルミニウムなどの金属材料の特徴や性質及び用途、技術と加工の進展、ものづくり産業と生活及び自然環境との関わりなどを追究するとともに、新しい材料（素材）への関心を高め、技術の役割や影響について評価する。
並びに、中学校技術科の「材料と加工の技術」の内容を指導する立場で、その知識と専門的な技能の獲得し、幅広い資質を身につけることを目指す。授業方法として、学習者同士の学び合いを取り入れる。
本内容は、後期科目「環境材料学」と関連して位置づける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
「授業前の予習（90 分）」「授業後のレポート作成等（90 分）」

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業内容、評価方法及び参考文献の取り扱い等について説明

第 2 回　序論
なぜ材料工学を学ぶか？　材料選定と設計は？　どのような材料があるか？

第 3 回　物質の構造
物質の原子配列は？　結晶に関すること

第 4 回　機械的性質の測定
どのような測定ができるか？　なぜ破壊するか？　どう変化するか？

第 5 回　金属材料
金属材料の加工法、合金の効果、金属材料の限界や寿命

第 6 回　ポリマー
ポリマーとは？　性質に影響する因子は？　製品はどう作られるか？　廃棄は？

第 7 回　セラミックスと炭素材料
セラミックス材料とは？　工業的利用　グラファイトは？

第 8 回　中間評価
これまでのまとめと課題レポート
第 9 回　複合材料
複合材料とその作製方法、使用済み複合材料と処理
第 10 回　電子材料と光学材料
金属柱の電子の流れは？　動作原理、電気的性質
第 11 回　生体材料と生物材料
用いられる材料とは？　生物材料と生体材料　機能と倫理は？
第 12 回　実習①
低融合金を使用した作品の製作（製作品の構想と設計）
第 13 回　実習②
低融合金を使用した作品の製作（製作品の加工）
第 14 回　実習③
低融合金を使用した作品の製作（製作品の仕上げと評価）
第 15 回　授業のまとめ
「材料工学」のまとめ

〔成績評価〕
授業への取り組み（技能･意欲･態度）40%、毎時のレポート課題30%、定期試験30%　で総合して評価する。

〔教科書〕
材料科学･材料工学 －基礎から応用までー（平成24年10月 東京化学同人）

〔参考文献〕
・中学校学習指導要領解説（平成29年3月告示　文部科学省）
・技術・家庭教科書（令和3年2月　開隆堂，東京書籍，教育図書）
・技術科教育の研究（日本産業技術教育学会編）

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、金属加工（製図及び実習を含む。）、中一種（技術）、選択

〔オフィスアワー〕
①前期・後期　②水曜日 11:00~12:00、金曜日 12:30~13:30
③研究棟 安東研究室　④s-andoh@ashiya-u.ac.jp　⑤その他(来室の際、事前にメールでアポイントを取ること)

木材加工の教育

1406
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
瀧　　巌

〔到達目標〕
・初歩的な木材加工技術を学び、さらに各部の構造を理解し正しい知識と技能を得る事を目標にする。

〔授業の概要〕
・教員採用試験問題の対策（各都道府県の過去の試験）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・授業での内容を復習しておく
・各自で受ける都道府県の過去の試験問題を勉強する。

〔授業計画〕
第 1 回　教員採用試験問題対策
・木質の強さ・美しさ・年輪など。
第 2 回　木材の種類と組織
・熱に対する性質
・音に対する性質
第 3 回　木材の性質
・乾燥剤と見乾燥材を比較して確かめる
第 4 回　繊維方向と強さ
・引っ張り強さ・曲げ強さ・圧縮強さ・剪断強さの比較
第 5 回　比重や含水率の関係
・木材の強さは、その含まれている水分の量によって違ってくる。
・木材を使って製作品を作るとき、なぜ乾燥材を使うのか。
第 6 回　木工具の手入れと使い方（1）
・鋸の目立て方法
・各部分の名称
第 7 回　木工具の手入れと使い方（2）
・鉋身の研ぎ方と裏だしの仕方
・各部の名称
第 8 回　工具の手入れと使い方（3）
・のみの研ぎ方・使い方
・
第 9 回　技術科木材加工と発想指導
・生活に必要な技術を習得させ、それを通して家庭や社会における生活と技術との関係を理解させる。
第 10 回　木工機械の安全使用法
・帯鋸盤・角のみ盤・自動丸鋸盤・自動鉋盤
第 11 回　製図
・等角図・キャビネット図を使って、木製品の設計させる
第 12 回　木製品の設計と製作（1）
・構想の進め方・機能の検討
第 13 回　木製品の設計と製作（2）
・構造と材料の検討
第 14 回　木製品の設計と製作（3）
・加工法の検討
第 15 回　まとめ
・全体をまとめてレポートを書かせる。

〔成績評価〕
・レポートを書かせる

〔教科書〕
・特になし

〔参考文献〕
・特になし

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、木材加工（製図及び実習を含む。）、中一種（技術）、選択
〔オフィスアワー〕
・金曜日　2時限目

自動車整備実習2-Ⅰ

1453
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
池田　　和三　成瀬　　優享

〔到達目標〕
エンジン関係の電子制御装置について、構造作動を理解し、単体での良否判定と車両に取り付けられた状態での良否判定及び点検が実施できるようになる。
２級ガソリン自動車整備士試験に出題されている問題を例に取り、実際に自動車メーカーで使われている一般的な部品についての作動等を理解し説明できるようになる。
〔授業の概要〕
国交省の定める実技内容の中で、エンジンの電子制御装置全般について扱う。燃料の流れ、電子制御燃料噴射装置の基本、点火時期制御、アイドルコントロール制御、フェイルセーフなどベーシックな構造作動と電子制御に関する新機構の説明に加え、OBDシステム、ハイブリッドシステム、燃料電池システム、電気自動車、超小型モビリティ等、今後の自動車に関連するものを取り上げ概略の説明を行う。
作業実施に伴い、各班で作業手順を考案して作業に着手する。作業後手順や取り組みについての評価を元にグループ討議を行う。
※PPE（Personal protection Equipment：個人保護装備）を備えない場合、出席を認めない。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
指定箇所を予習のこと。
受験対策として令和元年度より遡り、過去に実施された２４回分の自動車整備士２級国家試験の中からエンジン電子制御関係の問題を抜粋。練習問題としてプリントを配布するので、実施・提出のこと。

〔授業計画〕
第 1 回　電子制御システムの概要
電気と電子、電流の三作用等、電気の基礎について
第 2 回　電子制御システムの基本制御
ダイオード、トランジスタ等、電子制御に必要な部品の知識
第 3 回　電子制御の関する一般知識
応用回路と論理回路、入出力制御回路
第 4 回　電制燃料噴射装置の基本構造
燃料の流れの他、電子制御されていない機械部位の基本構造
第 5 回　電子制御の入出力信号　1
電子制御された燃料噴射制御の実際とシステム全般全体を確認
第 6 回　電子制御の入出力信号　2
入力センサー部品の種類について、信号の概略から詳細について
第 7 回　電子制御の入出力信号　3
出力アクチュエーター部品の種類とそれぞれの作動及び実際の動き
第 8 回　点火時期制御とノックコントロール
点火時期制御に関するマップ制御とノックコントロールシステム
第 9 回　アイドルコントロール制御
デューティ制御及びステップモーター制御による制御の詳細と動きについて
第 10 回　自己診断システムとOBD機器
メーカー別自己診断の概略とOBD機器の普及及び現在の動向
第 11 回　ガソリン・エンジン以外の電子制御
コモンレール式ディーゼルエンジンとLPG・CNGエンジンの概要
第 12 回　ハイブリッドシステム　Ⅰ
トヨタ車におけるハイブリッドエンジンの概要とハイブリッドシステムの基本構造
第 13 回　ハイブリッドシステム　Ⅱ
メーカー毎のハイブリッドシステムの違いとプラグインハイブリッド
第 14 回　燃料電池システムと太陽電池
燃料電池車の概要と今後、太陽電池車の問題点と今後　ＥＶ車の将来
第 15 回　エンジンの故障探求の進め方
電子制御エンジンの故障探求の進め方
〔成績評価〕
試験80％課題10％態度行動、取り組み評価10％
〔教科書〕
国土交通省自動車局監修　自動車整備士養成課程　教科書
・基礎自動車整備作業
・基礎自動車工学
・三級・二級自動車ガソリン・エンジン
・三級・二級自動車シャシ
〔参考文献〕
業界の関連研修資料と自作PPTを適宜使用
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他
〔備考〕
【実務経験の活用】
整備士としての実務経験を活かし、自動車の整備作業実習をおこなう。また、物販や在庫管理に関わった経験から、関連する接客対応や商品の案内方法等を統合し、連結した実習授業の展開を行う。

潜水士として従事した各種業務より、安全・危機管理を取り入れた実技実習を行っている。

〔オフィスアワー〕

土曜日　11：30～12：10

機械基礎実習②

1454
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
中岡　　禎雄

〔到達目標〕

・中学校技術・家庭「技術分野」における，「材料と加工に関する技術」、「エネルギー変換に関する技術」に関する基礎となる知識を身に付ける．（知識・理解）

・実験と実習を通じて安全に対する対応能力と基礎的な技能を身につける。（知識・理解・技能）

・ものづくりへの関心を高め、生活や技術にかかわる課題を見出し、解決しようとする態度を養う（関心・意欲）

・材料の特性を利用して、新しい教材の可能性を探ることができる。(創意工夫・表現力)

〔授業の概要〕

・ものづくりの実践や体験的な学習活動を通して技術科教員に必要な知識と技能を身につける。

・社会変化に伴う新しい技術に適応し、持続可能な社会の構築に向けた指導者としての資質や能力を身につける。

・ものづくりを通して、課題を話し合い、情報を共有する学習活動から適切な選択と新たな発想に基づいた改良や応用する能力を身につける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業前に中学校　技術・家庭科　技術分野教科書（東京書籍、開隆堂、教育図書）及び・中学校学習指導要領解説　技術・家庭編の「材料と加工に関する技術」の関連部分（工具の使い方など）を理解しておく

授業後のレポート（90分）

〔授業計画〕

第 1 回　開講にあたって
　　カリキュラムの説明（授業目的と予定）評価について

第 2 回　機械の構造とはたらき
　　身近な機械の構造と各部品の役割とはたらき

第 3 回　機械の点検整備（1）
　　機械の点検整備と正しい工具の使用方法

第 4 回　機械の点検整備（2）
　　機械部品の役割を学ぶ機会の分解と点検整備の方法

第 5 回　動力伝達のしくみ（1）
　　歯車の組み合わせによる速度伝達実験

第 6 回　動力伝達の仕組み（2）
　　歯車と摩擦車の動力伝達比較実験

第 7 回　運動変化の仕組み
　　リンク、クランク、カム機構の実験と利用

第 8 回　運動を変化させる仕組みを利用した教材製作（1）
　　リンク機構を利用した教材の製作（設計）

第 9 回　運動を変化させる仕組みを利用した教材製作（2）
　　リンク機構を利用した教材の製作（部品加工）

第 10 回　運動変化の仕組みを利用した教材製作（3）
　　リンク機構を利用した教材の製作（組み立て）

第 11 回　運動変化の仕組みを利用した教材製作（4）
　　カム機構、クランク機構を利用した教材の製作（設計）

第 12 回　運動変化の仕組みを利用した教材製作（5）
　　カム機構、クランク機構を利用した教材の製作（部品加工）

第 13 回　運動変化の仕組みを利用した教材製作（6）
　　カム機構、クランク機構を利用した教材の製作（組み立て）

第 14 回　運動変化の仕組みを利用した教材製作（7）
　　製作の振り返り、自己評価

第 15 回　前期授業のまとめ
　　製作発表と意見交換による情報共有

〔成績評価〕

・安全対策に関するレポート（10%）

・工具の使用に関するレポート(10%)

・教材製作についてのレポート(10%)

・製作発表(10%)

・筆記試験または課題レポート(60%)

〔教科書〕

中学校　技術・家庭科　技術分野教科書（東京書籍、開隆堂、教育図書）

中学校学習指導要領解説　技術・家庭編（平成29年7月告示、文部科学省）

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、機械（実習を含む。）、中一種（技術）、必修

〔オフィスアワー〕

対面授業を原則とし、毎回の授業前３０分間をオフィスアワーとし、質問及び相談を受け付ける。

機械基礎実習①

1455
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
中岡　　禎雄

〔到達目標〕

・中学校技術・家庭「技術分野」における，「材料と加工に関する技術」、「エネルギー変換に関する技術」に関する基礎となる知識を身に付ける．（知識・理解）

・実験と実習を通じて安全に対する対応能力と基礎的な技能を身につける。（知識・理解・技能）

・ものづくりへの関心を高め、生活や技術にかかわる課題

を見出し、解決しようとする態度を養う（関心・意欲）
・材料の特性を利用して、新しい教材の可能性を探ることができる。(創意工夫・表現力)・中学校技術・家庭「技術分野」における,「材料と加工に関する技術」、「エネルギー変換に関する技術」に関する知識を身に付ける.（知識・理解）

〔授業の概要〕

・ものづくりの実践や体験的な学習活動を通して技術科教員に必要な知識と技能を身につける。
・社会変化に伴う新しい技術に適応し、持続可能な社会の構築に向けた指導者としての資質や能力を身につける。
・ものづくりを通して、課題を話し合い、情報を共有する学習活動から適切な選択と新たな発想に基づいた改良や応用する能力を身につける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

具体的な学修内容をご記入すること
例：「授業前の英訳（90 分）」「授業後のレポート作成（90 分）」など

〔授業計画〕

第 1 回　開講にあたって
　　カリキュラムの説明（授業目的と予定）評価について
第 2 回　機械の構造とはたらき
　　身近な機械の構造と各部品の役割とはたらき
第 3 回　機械の点検整備（1）
　　機械の点検整備と正しい工具の使用方法
第 4 回　機械の点検整備（2）
　　機械部品の役割を学ぶ機会の分解と点検整備の方法
第 5 回　動力伝達のしくみ（1）
　　歯車の組み合わせによる速度伝達実験
第 6 回　動力伝達の仕組み（2）
　　歯車と摩擦車の動力伝達比較実験
第 7 回　運動変化のしくみ
　　リンク、クランク、カム機構の実験と利用
第 8 回　運動を変化させる仕組みを利用した教材製作（1）
　　リンク機構を利用した教材の製作（設計）
第 9 回　運動を変化させる仕組みを利用した教材製作（2）
　　リンク機構を利用した教材の製作（部品加工）
第 10 回　運動を変化させる仕組みを利用した教材製作（3）
　　リンク機構を利用した教材の製作（組み立て）
第 11 回　運動を変化させる仕組みを利用した教材製作（4）
　　カム機構、クランク機構を利用した教材の製作（設計）
第 12 回　運動を変化させる仕組みを利用した教材製作（5）
　　カム機構、クランク機構を利用した教材の製作（部品加工）
第 13 回　運動を変化させる仕組みを利用した教材製作（6）
　　カム機構、クランク機構を利用した教材の製作（組み立て）
第 14 回　運動を変化させる仕組みを利用した教材製作（7）
　　製作の振り返り、自己評価
第 15 回　前期授業のまとめ
　　製作発表と意見交換による情報共有

〔成績評価〕

・安全対策に関するレポート（10%）
・工具の使用に関するレポート(10%）
・教材製作についてのレポート(10%）
・製作発表(10%）
・筆記試験または課題レポート(60%）

〔教科書〕

中学校　技術・家庭科　技術分野教科書（東京書籍、開隆堂、教育図書）
中学校学習指導要領解説　技術・家庭編（平成29年7月告示、文部科学省）

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、機械（実習を含む。）、中一種（技術）、必修

〔オフィスアワー〕

対面授業を原則とし、毎回の授業前３０分間をオフィスアワーとし、質問及び相談を受け付ける。

バレエ実践Ⅰ-1

1801
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
尾本　　安代

〔到達目標〕

バレエに使われるダンスクラシックの技法は、身体をより深く感知しコントロールする為の最適な訓練方法としてあらゆるジャンルのダンスに取り入れられている。アカデミックな技術を身に付け、自由な芸術的身体表現が出来るようにする。

〔授業の概要〕

ダンスクラシックの技術基礎から応用まで深く学ぶ。
ピアノ伴奏で授業を進める。

毎回、各動きを説明。反復練習しながら身体に記憶させるよう動きを学んでいく。バーレッスンにて、上半身の動き、頭、手などの動きを分解し、下半身は脚の５つのポジションを中心に基本的な技術の反復練習を積み重ねて正確な動きが出来るようにする。センターレッスンにてパの繋がり、流れを学び、より複雑な動きへと展開できるよう練習して行く。プリエから始まるバーレッスンでは、バトマン・タンデュ、デガジェ、フォンデュ、フラッペ、ロン・ドゥ・ジャンプなどの動きを反復しながら習得していく。
アラインメントを意識し、アカデミックな技術を身に付けるために、各自の持っている体のくせなどを知覚し、矯正しながら毎回のレッスンでニュートラルな身体を作る。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

ストレッチなどをして授業に臨む。達成出来ない技術に関してはクラブ活動などを通じて自主練習する。

〔授業計画〕
第 1 回　実技1
基礎とバーレッスンを中心に足の位置重点的に
第 2 回　実技2
前回の授業内容に加え、体の方向について
第 3 回　実技3
前回の授業内容に加え、エポールマンでの首の方向について
第 4 回　実技4
前回の授業内容に加え、腕の位置・ポールドブラについて
第 5 回　実技5
これまでの内容の復習
第 6 回　実技6
基礎的なバーレッスン・上半身、下半身のポジションについて
第 7 回　実技7
前回の授業内容に加え、動きの抑揚を学ぶ
第 8 回　実技8
前回の授業内容に加え、音楽をさらに意識し動きに連動させる
第 9 回　実技9
前回の授業内容に加え、呼吸・視線・リズム感を重点的に
第 10 回　実技10
これまでの内容の復習・反復練習
第 11 回　実技11
バーレッスンでの基礎をセンターレッスンに発展させ、動きの繋がりを学ぶ
第 12 回　実技12
前回の授業内容に加えて、回転を重点的に
第 13 回　実技13
前回の内容に加えて、小・中・大の跳躍について
第 14 回　実技14
女性はポワントワーク、男性は跳躍を中心に
第 15 回　実技15
１～１４までの実技内容の復習
〔成績評価〕
毎回の授業に対する集中度、技術向上など総合評価とする
〔教科書〕
「バレエ入門」　川路　明・著（土屋書店）
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
芸術文化センターにて事前にアポイントを取ること

舞踊表現Ⅱ-1

1806
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　前期
谷　えりか

〔到達目標〕
・ジャズダンスのテクニックを学ぶ
・個性と表現力を磨く
〔授業の概要〕
・フロアでの基礎トレーニング・筋力トレーニング・クロスフロア及びセンターでのステップやコンビネーション（振付）を覚えて踊る・振り作りに挑戦する・ミニ発表
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・各トレーニングメニューとコンビネーションの復習をしておくこと
〔授業計画〕
第 1 回　トレーニングメニューを覚える
・アイソレーション
・バレエ要素を取り入れた基礎
・センターフロア
・クロスフロアステップ
それぞれのトレーニング内容を把握し、ルーティンを覚える
第 2 回　トレーニングメニューの反復・コンビネーションを覚えて踊る
・各トレーニングメニューの反復
・基礎トレーニングのメニューを増やす
・コンビネーション（振付）を覚えて踊る
第 3 回　コンビネーションを追加していく
・各トレーニングメニューの反復
・基礎トレーニングメニューを更に増やす
・コンビネーションを更に増やして踊る
第 4 回　センターフロアメニューの追加
・各トレーニングメニューの反復
・センターフロアのメニューを増やす
・筋力トレーニング
・コンビネーションを更に増やして踊る
第 5 回　筋力トレーニングメニューの追加
・各トレーニングメニューの反復
・クロスフロアステップを増やす
・筋力トレーニングのメニューを増やす
・コンビネーションを更に増やして踊る
第 6 回　クロスフロアステップの追加
・各トレーニングメニューの反復
・クロスフロアステップを更に増やす
・筋力トレーニング
・コンビネーションを更に増やして踊る
第 7 回　ミニ発表
・各トレーニングメニューの反復
・筋力トレーニング
・これまで覚えてきたコンビネーションを通して踊りミニ発表をし、意見交換する

第 8 回　新たなステップメニューとコンビネーションを覚える
・各トレーニングメニューの反復
・新たなステップのメニューを覚える
・筋力トレーニング
・新たなコンビネーションを覚えて踊る
第 9 回　クロスフロアステップとコンビネーションの追加
・各トレーニングメニューの反復
・クロスフロアステップを増やす
・筋力トレーニング
・コンビネーションを更に増やして踊る
第 10 回　クロスフロアステップの更なる追加
・各トレーニングメニューの反復
・クロスフロアステップを更に増やす
・筋力トレーニング
・コンビネーションを更に増やして踊る
第 11 回　コンビネーションの更なる追加
・各トレーニングメニューの反復
・筋力トレーニング
・コンビネーションを更に増やして踊る
第 12 回　振付を考える
・各トレーニングメニューの反復
・筋力トレーニング
・コンビネーションを更に増やして踊る
・個々に振付を考える
第 13 回　ミニ発表
・各トレーニングメニューの反復
・筋力トレーニング
・これまで覚えてきたコンビネーションに個々の振付をあわせて踊りミニ発表をし、意見交換を行う
第 14 回　定期試験用振付
・試験用の振付を覚える
第 15 回　まとめ
・これまでの総復習と試験用振付の確認

〔成績評価〕
授業態度・意欲（70%）
定期試験（30%）

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
希望日時を応相談

バレエⅡ－1

1810
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
尾本　安代　貞松　正一郎

〔到達目標〕
バレエに使われるダンスクラシックの技法は、身体をより深く感知しコントロールする為の最適な訓練方法としてあらゆるジャンルのダンスに取り入れられている。アカデミックな技術を身に付け、自由な芸術的身体表現が出来るようにしたい。

〔授業の概要〕
バレエⅠで学んだ技術の復習と反復練習を積み重ね、
より発展させていく。ダンスクラシックの技術基礎から応用まで深く学ぶ。
ピアノ伴奏で授業を進める。月・金曜日、両方受講すること。

ガイダンスはバレエⅠで学んだことの復習。毎回、各動きを説明。反復練習しながら身体に記憶させるよう動きを学んでいく。バーレッスンにて、上半身の動き、頭、手などの動きを分解し、下半身は脚の５つのポジションを中心に基本的な技術の反復練習を積み重ねて正確な動きが出来るようにする。センターレッスンにてパの繋がり、流れを学び、より複雑な動きへと展開できるよう練習して行く。プリエから始まるバーレッスンでは、バトマン・タンデュ、デガジェ、フォンデュ、フラッペ、ロン・ドゥ・ジャンプなどの動きを反復しながら習得していく。アラインメントを意識し、アカデミックな技術を身に付けるために、各自の持っている体のくせなどを知覚し、矯正しながら毎回のレッスンでニュートラルな体を作る。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ストレッチなどをして授業に臨む。

〔授業計画〕
第 1 回　実技１
クラシックの基礎とバーレッスンを中心に足の位置を重点的に
第 2 回　実技２
前回の授業内容＋体の方向について
第 3 回　実技３
前回の授業内容＋エポールマンでの首の方向について
第 4 回　実技４
前回の授業内容＋腕の位置・ポールドブラについて
第 5 回　実技５
これまでの内容の復習
第 6 回　実技６
基礎的なバーレッスンに加え上半身・下半身のポジションについて
第 7 回　実技７
前回の授業内容＋動きの抑揚を学ぶ
第 8 回　実技８

前回の授業内容＋音楽をさらに意識し、動きに連動させる
第 9 回　実技９
前回の授業内容＋呼吸・視線・リズム感を重点的に
第 10 回　実技10
これまでの内容の復習・反復練習
第 11 回　実技11
バーレッスンでの基礎をセンターレッスンに発展させ、動きの繋がりを学ぶ
第 12 回　実技12
前回の授業内容＋回転を重点的に
第 13 回　実技13
前回の授業内容＋小・中・大の跳躍について
第 14 回　実技14
女性はポワントワーク、男性は跳躍を中心に
第 15 回　実技15
1～14までの実技内容の復習

〔成績評価〕
毎回の授業に対する集中度、技術向上などを含め総合評価とする。

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
芸術文化センターにて事前にアポイントを取ること

バレエⅢ-1

1813
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
尾本　安代　貞松　正一郎

〔到達目標〕
バレエに使われるダンスクラシックの技法は、身体をより深く感知しコントロールする為の最適な訓練方法としてあらゆるジャンルのダンスに取り入れられている。アカデミックな技術を身に付け、自由な芸術的身体表現が出来るようにしたい。

〔授業の概要〕
バレエⅠで学んだ技術の復習と反復練習を積み重ね、
より発展させていく。ダンスクラシックの技術基礎から応用まで深く学ぶ。
ピアノ伴奏で授業を進める。月・金曜日、両方受講すること。

ガイダンスはバレエⅡで学んだことの復習。毎回、各動きを説明。反復練習しながら身体に記憶させるよう動きを学んでいく。バーレッスンにて、上半身の動き、頭、手などの動きを分解し、下半身は脚の５つのポジションを中心に基本的な技術の反復練習を積み重ねて正確な動きが出来るようにする。センターレッスンにてパの繋がり、流れを学び、より複雑な動きへと展開できるよう練習して行く。プリエから始まるバーレッスンでは、バトマン・タンデュ、デガジェ、フォンデュ、フラッペ、ロン・ドゥ・ジャンプなどの動きを反復しながら習得していく。アラインメントを意識し、アカデミックな技術を身に付けるために、各自の持っている体のくせなどを知覚し、矯正しながら毎回のレッスンでニュートラルな体を作る。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ストレッチなどをして授業に臨む。

〔授業計画〕
第 1 回　実技１
クラシックの基礎とバーレッスンを中心に足の位置を重点的に
第 2 回　実技２
前回の授業＋体の方向について
第 3 回　実技３
前回の授業内容＋エポールマンでの首の方向について
第 4 回　実技４
前回の授業＋腕の位置・ポールドブラについて
第 5 回　実技５
これまでの内容の総復習
第 6 回　実技６
基礎的なバーレッスンに加え上半身・下半身のポジションについて
第 7 回　実技７
前回の授業内容＋動きの抑揚を学ぶ
第 8 回　実技８
前回の授業内容＋音楽をさらに意識し、動きに連動させる
第 9 回　実技９
前回の授業内容＋回転を重点的に
第 10 回　実技１０
これまでの内容の復習・反復練習
第 11 回　実技１１
バーレッスンでの基礎をセンターレッスンに発展させ、動きのつながりを学ぶ
第 12 回　実技１２
前回の授業内容＋回転を重点的に
第 13 回　実技１３
前回の授業内容＋小・中・大の跳躍について
第 14 回　実技１４
女性はポアントワーク、男性は跳躍を中心に
第 15 回　実技１５
1～14まで実技内容の復習

〔成績評価〕
毎回の授業に対する集中度、技術向上など総合評価とする。

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
芸術文化センターにて事前にアポイントを取ること

舞踊表現Ⅲ-1

1814
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
1単位　前期
森田　　玲子

〔到達目標〕
①コンテンポラリーダンスの基礎技術の理解と習得を行い、動きの持つ呼吸・リズムを体得し、肉体と感性を対応させる。
②コンテンポラリーダンスのテクニックの向上とともに、新しいボキャブラリーを身につけ、身体の可能性を広げる。
③自分自身の動きの特徴等を知り、自分を取り巻く空間を認識し、イメージ通りに動かせる身体を手に入れる。
〔授業の概要〕
コンテンポラリーダンスの基礎技術を繰り返し行い身につけ、様々な表現に対応できる柔軟な身体の獲得を行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ストレッチ等を行い授業に臨むこと。
〔授業計画〕
第 1 回　授業についてのガイダンス
第 2 回　ウォームアップとダンステクニック、ポジションの把握①
第 3 回　ウォームアップとダンステクニック、ポジションの把握②
第 4 回　ウォームアップとダンステクニック、ポジションの把握③
第 5 回　テクニックの復習と練習、新しいテクニックの練習①
第 6 回　テクニックの復習と練習、新しいテクニックの練習②
第 7 回　テクニックの復習と練習、新しいテクニックの練習③
第 8 回　リズムの原則、工夫、要因からの指導①
第 9 回　リズムの原則、工夫、要因からの指導②
第 10 回　テクニックの修得、音楽の構造と動きの把握①
第 11 回　テクニックの修得、音楽の構造と動きの把握②
第 12 回　テクニックの完成、反復練習、空間・線の使い方①
第 13 回　テクニックの完成、反復練習、空間・線の使い方②
第 14 回　テクニックの完成、反復練習、空間・線の使い方③
第 15 回　前期まとめ

〔成績評価〕
出席状況
毎回の授業に対する取り組み
総合評価
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
適宜紹介する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
金曜日：授業前後

舞踊表現Ⅲ-2

1814

経営教育学部 > 経営教育学科
1単位　後期
森田　　玲子

〔到達目標〕
これまでに学んだバレエやコンテンポラリーダンスを基に、創造性とオリジナリティーを持って作品制作を行い、卒業公演で発表する。
〔授業の概要〕
卒業公演に向けた作品制作を行う。そのために必要な技術、及び知識の習得とリサーチを行う。また、バレエテクニックをベースにしたコンテンポラリーダンスの基礎クラスやフロアワーク、インプロヴィゼーション等の演習を毎回実施し、身体トレーニングの強化を図る。そして、レパートリー作品を踊り、振付の解釈、作品の構成、創造性等を学ぶ。作品制作では、客観的に分析する機会を設け、公演に向けてブラッシュアップしていく。さらに、卒業公演を成功に導くため、互いに協力するとともに総合的に関わる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ストレッチ等を行い授業に臨むこと。
〔授業計画〕
第 1 回　前期の復習
第 2 回　コンテンポラリーダンス基礎、作品制作①
第 3 回　コンテンポラリーダンス基礎、作品制作②
第 4 回　コンテンポラリーダンス基礎、作品制作③
第 5 回　コンテンポラリーダンス基礎、作品制作④
第 6 回　コンテンポラリーダンス基礎、作品制作⑤
第 7 回　コンテンポラリーダンス基礎、作品制作⑥
第 8 回　コンテンポラリーダンス基礎、作品制作⑦
第 9 回　通し稽古①
第 10 回　通し稽古②
第 11 回　舞台稽古①
第 12 回　舞台稽古②
第 13 回　ゲネプロ
第 14 回　ゲネプロ、本番
第 15 回　まとめ

〔成績評価〕
出席状況
毎回の授業に対する取り組み
総合評価
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
適宜紹介する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
金曜日：授業前後

バレエ技術概論Ⅰ

1815
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　前期
佐藤　　真左美

〔到達目標〕
前期授業到達目標：クラシックバレエ　バーレッスンの10項目について①～④を完全学習する
①技術修得のための段階的な練習方法　②用語理解　③クラシックバレエ特有の股間節の使い方であるターンアウトとの関連性について④各項目特有の練習方法が導く高度技術との関連性について

〔授業の概要〕
授業は常に講義と実技の両方向から運営する。筆記用具、参考資料（これは事前に配布いたします）参考文献（事前にこちらで準備いたします）を必ず準備すること。授業は講義と実際に動いて動きを理解する両方向のため、身体を動かすことができる服装を着用すること。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の授業で宿題を出すため、それについての学習過程を各自記録。授業毎に報告と発表できるように準備をすること。
〔授業計画〕
第 1 回　バーレッスンについて　10項目について
クラシックバレエのバーレッスンの10項目の用語について
バーレッスンとセンターレッスンの関連性。バーレッスンの必要性について
第 2 回　プリエ
基本の動きについて、種類、注意事項（解剖学的な面からの注意事項含）、
必須項目である理由　などについて
第 3 回　バットマン・タンジュ
基本の動きについて、種類、注意事項（解剖学的な面からの注意事項含）、
必須項目である理由　などについて
第 4 回　バットマン・ジェッテ、デガージェ、グリッセ
基本の動きについて、種類、注意事項（解剖学的な面からの注意事項含）、
必須項目である理由　などについて
第 5 回　レティレとパッセについて
2つの違いを正しく理解する。パッセデュバン、デリエール2種類の動きの違いを正しく理解する
第 6 回　ロン･デ・ジャンブ・ア･テール
基本の動きについて、種類、注意事項（解剖学的な面からの注意事項含）、
必須項目である理由　などについて
第 7 回　バットマン・フォンデュ
基本の動きについて、種類、注意事項（解剖学的な面からの注意事項含）、
必須項目である理由　などについて
第 8 回　バットマン･フラッペ
基本の動きについて、種類、注意事項（解剖学的な面からの注意事項含）、
必須項目である理由　などについて
第 9 回　プティ･バットマン
基本の動きについて、種類、注意事項（解剖学的な面からの注意事項含）、
必須項目である理由　などについて
第 10 回　ロン･デ･ジャンブ・アン・レール
基本の動きについて、種類、注意事項（解剖学的な面からの注意事項含）、
必須項目である理由　などについて
第 11 回　アダージオ　ルルベ･ロン、デベロッペ前･横･後ろ
基本の動きについて、種類、注意事項（解剖学的な面からの注意事項含）、
必須項目である理由　などについて
第 12 回　アダージオ　（アダージオの練習方法）
基本の動きについて、種類、注意事項（解剖学的な面からの注意事項含）、
必須項目である理由　などについて
第 13 回　グラン･バットマン
基本の動きについて、種類、注意事項（解剖学的な面からの注意事項含）、
必須項目である理由　などについて
第 14 回　バーを使ってのポールドブラの練習方法について
基本の動きについて、種類、注意事項（解剖学的な面からの注意事項含）、
必須項目である理由　などについて
第 15 回　バーレッスンの練習内容の作成
30分以内のバーレッスンの練習内容を作成し、実践する
〔成績評価〕
・課題提出３０％　　・授業時間内評価７０％（積極的発言、質疑応答能力）

〔教科書〕
使用するテキストブックの配布
必要資料は事前に配布

〔参考文献〕
第一回目の授業で参考文献の紹介等あり
必要文献については事前に配布あり
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
毎週水曜日　昼休み（11時30分～12時10分）
バレエコース講師控え室で直接に質問等可能

舞踊表現Ⅳ-1

1816
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　前期
井村　　薫子

〔到達目標〕
世界各国の舞踊表現の演習を通して、古典バレエ作品のより深い知識を修得する。
〔授業の概要〕
民族舞踊の実技、それらの国の気候や社会背景、宗教的・社交的慣習などを学ぶ。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ストレッチ等を行い授業に臨むこと。
ビデオ学習、レポート作成など。
〔授業計画〕
第 1 回　授業についてのガイダンス
第 2 回　キャラクターダンス演習⑴
手の動き、民族舞踊の特性について
第 3 回　キャラクターダンス演習⑵
バーレッスン（プリエ、バットマン・タンジュ、バットマン・ジュテ）
第 4 回　キャラクターダンス演習⑶
バーレッスン（ロンドジャンブ、バットマン・フォンデュ）
第 5 回　キャラクターダンス演習⑷
バーレッスン（バットマン・フラッペ、アダジオ、グラン・バットマン）
第 6 回　キャラクターダンス演習⑸
バーレッスン仕上げ
第 7 回　キャラクターダンスのセンターレッスン演習⑴
ポーランドの舞踊
第 8 回　キャラクターダンスのセンターレッスン演習⑵
ハンガリーの舞踊
第 9 回　キャラクターダンスのセンターレッスン演習⑶
ロシアの舞踊
第 10 回　キャラクターダンスのセンターレッスン演習⑷
イタリアの舞踊
第 11 回　キャラクターダンスのセンターレッスン演習⑸
スペインの舞踊
第 12 回　古典作品の中のキャラクターダンス⑴
「白鳥の湖」より第3幕のキャラクターダンスの実演
第 13 回　古典作品の中のキャラクターダンス⑵
「白鳥の湖」より第3幕のキャラクターダンスの実演
第 14 回　古典作品の中のキャラクターダンス⑶
「白鳥の湖」より第3幕のキャラクターダンスの実演
第 15 回　まとめ
〔成績評価〕
出席状況
毎回の授業に対する取り組み
総合評価
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
適宜紹介する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
⑴前期・後期
⑵月曜日：13:00～16:00、水曜日：13:00～16:00
⑶芸術文化センターにて
⑷連絡先：k-imura@ashiya-u.ac.jp
⑸来室の際は、事前にメールにてご連絡をお願いします

舞踊表現Ⅳ-2

1816

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　後期
尾本　　安代

〔到達目標〕
バレエの技術を表現手段として舞台で作品を通して役柄などを表現できるように学びを深める
〔授業の概要〕
古典作品及び及び創作バレエ作品を通してそれぞれの表現を学びダンスクラシックの技術向上・表現力の向上を目指す
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各自ウォーミングアップ等を行い授業に臨むこと
〔授業計画〕
第 1 回　実技１
各自古典バレエ作品のソロ演目（バリエーション）を選び、それらの演目を学ぶ
第 2 回　実技2
各自が選択したソロ演目（バリエーション）について、
その演目に使用される動きの技術を反復練習
第 3 回　実技３
各自が選択したソロ演目（バリエーション）について、
その演目に使用される動きの技術を反復練習
第 4 回　実技４

各自が選択したソロ演目（バリエーション）について、
その演目に使用される動きの技術を反復練習
第 5 回　実技５
各自が選択したソロ演目（バリエーション）について、
その演目に使用される動きの技術を反復練習
第 6 回　実技６
各自が選択したソロ演目（バリエーション）について、
演目の背景・役柄・音楽・振付等をより深く研究
第 7 回　実技７
各自が選択したソロ演目（バリエーション）について、
演目の背景・役柄・音楽・振付等をより深く研究
第 8 回　実技８
各自が選択したソロ演目（バリエーション）について、
演目の背景・役柄・音楽・振付等をより深く研究
第 9 回　実技９
各自が選択したソロ演目（バリエーション）について、
内面からの表現をだせるよう反復練習
第 10 回　実技10
各自が選択したソロ演目（バリエーション）について、
内面からの表現をだせるよう反復練習
第 11 回　実技11
観客に対する表現方法、実際の舞台上での表現（演技）方法についてより深く学ぶ
第 12 回　実技12
観客に対する表現方法、実際の舞台上での表現（演技）方法についてより深く学ぶ
第 13 回　実技13
舞台での発表（バレエコース卒業公演）に向けて反復練習
これまでの成果を舞台での発表に繋げ、実践する
第 14 回　実技14
舞台での発表（バレエコース卒業公演）に向けて反復練習
これまでの成果を舞台での発表に繋げ、実践する
第 15 回　実技15
舞台での発表（バレエコース卒業公演）に向けて反復練習
これまでの成果を舞台での発表に繋げ、実践する

〔成績評価〕
毎回の授業に対する集中度、理解度、技術向上等を含め総合評価とする

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
〔オフィスアワー〕
授業開講日芸術文化センターにて事前にアポイントを取ること

バレエテクニックⅡ-1

1817
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
1単位　前期
佐藤　　真左美

〔到達目標〕
クラシックバレエ特有の技術である「アンデオール」「ターンアウト」を正しく理解する。

〔授業の概要〕
初中級レベルのクラシック技術レッスン。25分間バーレッスン、45分間センターレッスン、後半の20分間は各授業での目標技術のための集中練習時間。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前10分間各自ストレッチ、ウォームアップ、授業終10分間各自クールダウンのストレッチ。
授業時間外の準備学習として：週2時間から3時間のボディメンテナンスのためのトレーニングを行う

〔授業計画〕
第 1 回　センターレッスンの基本動き・足裁き
体重移動のために欠かせない重要なステップを練習する。女子はポアントでセンターレッスンは行う。
第 2 回　センターレッスンの基本動き・足裁き
ほかのステップを組み合わせてアンシェヌマンの練習をする。
第 3 回　ポアントのアダージオの練習
女子はポアントのアダージオを練習。実践の公演舞台で必要とされる足裁きと片脚でのバランス感覚の強化。男子も同じ内容であるがバレエシューズでの練習
第 4 回　ポアントのアレグロの練習
アレグロを取り上げ練習する。
第 5 回　グランドアレグロの練習
グランドアレグロのステップを練習する。基礎となるジャンプ、ポールドブラを正しく理解する
第 6 回　グランドアレグロの練習
いくつかのステップを組み合わせて、グランドアレグロのアンシェヌマンを練習する
第 7 回　回転
基本の回転技の練習。単体での練習と組み合わせての練習の両方を訓練する。
第 8 回　回転
空中の回転技と通常の回転技を組み込んでのアンシェヌマンの練習。
第 9 回　回転

連続での回転技、移動を含めての回転技。男子はグランドピルエットを取り上げる。
第 10 回　ホップ(女子)　トゥールアンレール(男子)
トーシューズでのジャンプ（ホップ）の練習
男子は空中回転技の練習
第 11 回　実践ために
男女ともにバリエーション（舞台公演のための）ソロを選曲する。
第 12 回　実践ために
ソロ・バリエーションを練習をする。
第 13 回　実践（舞台公演）ために　３
ソロ・バリエーションの練習をする。
第 14 回　実践ために
ソロ・バリエーションの練習。練習後に全員でこれまでの練習成果、充実感、不足事案など意見交換をする。
第 15 回　実践のために
前期授業で練習してきたソロバリエーションを発表する。

〔成績評価〕
・課題提出３０％　　・授業時間内評価７０％（積極的発言、質疑応答能力）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
毎週水曜日　昼休み時間（11時30分～12時10分）
バレエコース講師控え室で直接に質問、相談可能

バレエⅣ-1

1818
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
尾本　　安代　貞松　　正一郎

〔到達目標〕
バレエに使われるダンスクラシックの技法は、身体をより深く感知しコントロールする為の最適な訓練方法としてあらゆるジャンルのダンスに取り入れられている。アカデミックな技術を身に付け、自由な芸術的身体表現が出来るようにしたい。

〔授業の概要〕
バレエⅢで学んだ技術の復習と反復練習を積み重ね、
より発展させていく。ダンスクラシックの技術基礎から応用まで深く学ぶ。
ピアノ伴奏で授業を進める。月・金曜日、両方受講すること。

ガイダンスはバレエⅢで学んだことの復習。毎回、各動きを説明。反復練習しながら身体に記憶させるよう動きを学んでいく。バーレッスンにて、上半身の動き、頭、手などの動きを分解し、下半身は脚の５つのポジションを中心に基本的な技術の反復練習を積み重ねて正確な動きが出来るようにする。センターレッスンにてパの繋がり、流れを学び、より複雑な動きへと展開できるよう練習して行く。プリエから始まるバーレッスンでは、バトマン・タンデュ、デガジェ、フォンデュ、フラッペ、ロン・ドゥ・ジャンプなどの動きを反復しながら習得していく。アラインメントを意識し、アカデミックな技術を身に付けるために、各自の持っている体のくせなどを知覚し、矯正しながら毎回のレッスンでニュートラルな体を作る。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ストレッチなどをして授業に臨む。

〔授業計画〕
第 1 回　実技１
クラシックの基礎とバーレッスンを中心に足の位置を重点的に
第 2 回　実技２
前回の授業内容＋体の方向について
第 3 回　実技３
前回の授業＋エポールマンでの首の方向について
第 4 回　実技４
前回の授業内容＋腕の位置・ポールドブラ
第 5 回　実技５
これまでの内容の復習
第 6 回　実技６
基礎的なバーレッスンに加え上半身・下半身のポジションについて
第 7 回　実技７
前回の授業内容＋動きの抑揚を学ぶ
第 8 回　実技８
前回の授業内容＋音楽をさらに意識し、動きに連動させる
第 9 回　実技９
これまでの授業内容＋呼吸・視線・リズム感を重点的に
第 10 回　実技１０
これまでの内容の復習・反復練習
第 11 回　実技１１
バーレッスンでの基礎をセンターレッスンに発展させ、動きの繋がりを学ぶ
第 12 回　実技１２
前回の授業内容＋回転を重点的に
第 13 回　実技１３
前回の授業内容＋小・中・大の跳躍について
第 14 回　実技１４
女性はポアントワーク、男性は跳躍を中心に
第 15 回　実技１５
1～14までの実技内容の復習

〔成績評価〕
毎回の授業に対する集中度、技術向上などを含め総合評価とする。

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
芸術文化センターにて事前にアポイントを取ること

バレエテクニックⅢ-1

1822
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
1単位　前期
佐藤　　真左美

〔到達目標〕
クラシックバリエーション（ソロ）を実技面だけでなく、古典バレエ特有の豊かな表現力を身に付ける。

〔授業の概要〕
・基本のクラシックレッスン　25分間
・ソロバリエーションの練習　50分間
・フィードバックと課題提示　15分間
・前期最終授業日：学習発表（ソロバリエーション）
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前10分間各自ストレッチ、授業終10分間各自クールダウンのストレッチ、授業時間外の準備学習として：週2時間から3時間のボディメンテナンスのためのトレーニングを行う
〔授業計画〕
第 1 回　選曲をする
各自、自分のソロバリエーションを選曲する。
話し合いでの選曲。自分の個性、タイプ、得意技などを良く考慮して選曲をする
第 2 回　実技練習１
選択したソロバリエーションの振付を正しく振り写しする
第 3 回　実技練習２
音楽を考える。
覚えた振付を実際に音楽とあわせて動いてみる
音楽の節、アクセント、間を正しく理解する
第 4 回　実技練習３
踊りの起承転結を考える
動きのアクセント、また各自の持ち味の出し方を考える
第 5 回　実技練習４
各自のソロバリエーションの練習
技術面での足りない点をより改善するように練習する
第 6 回　実技練習５
各自のソロバリエーションの練習
技術面での足りない点をより改善するように練習する
第 7 回　実技練習６
各自のソロバリエーションの練習
技術面での足りない点をより改善するように練習する
第 8 回　実技練習７
スタミナ、体力を強化するべく繰り返し練習を開始する
第 9 回　実技練習８
スタミナ、体力を強化するべく繰り返し練習を開始する
第 10 回　実技練習９
役柄を考えるべく、ひとつひとつの動き、ステップの持つ意味や、場面などを考えてみる
第 11 回　実技練習１０
「表現するには」何が必要であるのか。表現の持つ面白さや、バレエ作品での重要性を
各自のソロのを使って、追及する。
第 12 回　実技練習１１
技術、表現、スタミナと踊るための必須項目を順番をおって練習してきたことを
さらにつ追求するように、繰り返し練習。
第 13 回　実技発表のための準備１
最終授業での実技発表のための準備
（演目の順番、スタジオ環境を整える、衣装などを考える）
全員で話し合いをしながらチームになり準備を整える
第 14 回　実技発表のための準備２
実際の実技発表を想定してのリハーサル
第 15 回　前期実技発表
実技発表会を行う
（通常の授業と同じ舞台での発表会）
〔成績評価〕
・課題提出３０％　　・授業時間内評価７０％（積極的発言、質疑応答能力）
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
毎週水曜日　昼休み時間（11時30分～12時10分）
バレエコース講師控え室で直接に質問、相談受けます

バレエテクニックⅣ-1

1823
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　前期
佐藤　　真左美

〔到達目標〕
クラシックバリエーション（ソロ）を実技面だけでなく、古典バレエ特有の豊かな表現力を身に付ける。

〔授業の概要〕
・基本のクラシックレッスン　25分間
・ソロバリエーションの練習　50分間
・フィードバックと課題提示　15分間
・前期最終授業日：学習発表（ソロバリエーション）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前10分間各自ストレッチ、授業終10分間各自クールダウンのストレッチ、授業時間外の準備学習として週2時間から3時間のボディメンテナンスのためのトレーニングを行う

〔授業計画〕
第 1 回　選曲をする
各自、自分のソロバリエーションを選曲する。
話し合いでの選曲。自分の個性、タイプ、得意技などを良く考慮して選曲をする
第 2 回　実技練習１
選択したソロバリエーションの振付を正しく振り写しする
第 3 回　実技練習２
音楽を考える。
覚えた振付を実際に音楽とあわせて動いてみる
音楽の節、アクセント、間を正しく理解する
第 4 回　実技練習３
踊りの起承転結を考える
動きのアクセント、また各自の持ち味の出し方を考える
第 5 回　実技練習４
各自のソロバリエーションの練習
技術面での足りない点をより改善するように練習する
第 6 回　実技練習５
各自のソロバリエーションの練習
技術面での足りない点をより改善するように練習する
第 7 回　実技練習６
各自のソロバリエーションの練習
技術面での足りない点をより改善するように練習する
第 8 回　実技練習７
スタミナ、体力を強化するべく繰り返し練習を開始する
第 9 回　実技練習８
スタミナ、体力を強化するべく繰り返し練習を開始する
第 10 回　実技練習９
役柄を考えるべく、ひとつひとつの動き、ステップの持つ意味や、場面などを考えてみる
第 11 回　実技練習１０
「表現するには」何が必要であるのか。表現の持つ面白さや、バレエ作品での重要性を
各自のソロのを使って、追及する。
第 12 回　実技練習１１
技術、表現、スタミナと踊るための必須項目を順番をおって練習してきたことを
さらにつ追求するように、繰り返し練習。
第 13 回　実技発表のための準備１
最終授業での実技発表のための準備
（演目の順番、スタジオ環境を整える、衣装などを考える）
全員で話し合いをしながらチームになり準備を整える
第 14 回　実技発表のための準備２
実際の実技発表を想定してのリハーサル
第 15 回　前期実技発表会
実技発表会を行う
（通常の授業と同じ舞台での発表会）

〔成績評価〕
・課題提出３０％　　・授業時間内評価７０％（積極的発言、質疑応答能力）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
毎週水曜日　昼休み時間（11時30分～12時10分）
バレエコース講師控え室で直接に質問、相談をお受けいたします

振付Ⅱ-1

1824
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　前期
佐藤　　真左美

〔到達目標〕
バレエコース年末卒業公演で古典バレエ作品を上演する。古典バレエ作品の技術面と、作品アナライズの両方面から取り組みをする必要性を解釈する。

〔授業の概要〕
作品を創り上げるために必要なエレメンツを1つずつ取り上げ、グループワークでの作業と作品発表をする。創作する側と演じる側の両方の立場を学習し、創作活動の運営の基本姿勢を学ぶ。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業ノート作成をする。授業開始前10分間：各自でのストレッチ、授業終了10分間グループメンバー同士でのフィードバック。準備学習：古典バレエ作品の鑑賞、画像検索（120分程度の作品）

〔授業計画〕
第 1 回　「振付」作業について
「振付」は踊りのための動き、ステップを音楽もしくは無音の中で組み立てるだけのものではなく、思想、想像、象徴と人間の考えが伴うことで動きが振りとなり、その先の表現の世界へと繋がる。そのための基本の動き（６つのエレメンツ)、空間利用、音楽の使い方
など、作品となるまでの工程を学習する
第 2 回　基本エレメンツ・空間利用
空間利用をまず学習する。
第 3 回　基本エレメンツ（６つのエレメンツ）
６つのエレメンツ（６つのダイナミクス）について実際に動いてみる
グループワークもしくはペアリングで、いくつかのエレメンツを使っての単体の動作を作成する
第 4 回　基本のエレメンツ（空間と動作）
実際に動作を、空間利用を使って動きの材料を創作していく
グループワークでの作業発表する
第 5 回　音楽選曲と編集作業
クラシックバレエ作品を創作するに必須項目である「音楽」についての授業
目標とする卒業公演の演目に必要である音楽を選ぶ作業から開始する。
編集作業も必要となるため、いかに効果的に曲を選曲していくかを学習する
第 6 回　作業１　振り写し作業
卒業公演目の振付作業の開始。
担当する場面、曲の振付担当（4年生）が実際に作業を開始する。
第 7 回　作業２　振り写し作業
卒業公演目の振付作業の開始。
担当する場面、曲の振付担当（4年生）が実際に作業を開始する。
第 8 回　作業３　振り写し作業
卒業公演目の振付作業の開始。
担当する場面、曲の振付担当（4年生）が実際に作業を開始する。
第 9 回　上演する作品のアナライズについて
各自振り写し作業がある程度まとまってきてから、自分達が扱う作品についてを
よんでいく。時代背景、作品が生まれた理由、作曲者の生い立ち、初演について、
など、いくつかの項目を題材にしてグループワークでの作業にとりかかる。
第 10 回　アナライズ作業を開始する
授業後半に作業状況の発表をする。
第 11 回　アナライズ作業を開始する
途中経過発表。プレゼンテーションの仕方も話し合う。
第 12 回　グループ発表会
プレゼンテーション。
第 13 回　卒業公演に向けて　リハーサル開始
卒業公演演目の振付リハーサル開始
第 14 回　卒業公演に向けて
卒業公演演目の振付リハーサル開始
第 15 回　卒業公演に向けて
卒業公演演目の振付リハーサル開始
〔成績評価〕
・課題提出３０％　　・授業時間内評価５０％（積極的発言、質疑応答能力）
・授業時間内制作発表　２０％
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
毎週水曜日　昼休み時間（11時30分～12時10分）
バレエコース講師控え室で質問、課題の疑問点のこと直接に伺います。

振付Ⅲ-1

1825
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　前期
佐藤　　真左美

〔到達目標〕
古典バレエ作品の技術面と、作品アナライズの両方面から取り組みをする必要性を解釈する。
〔授業の概要〕
作品を創り上げるために必要なエレメンツを1つずつ取り上げ、グループワークでの作業と作品発表をする。創作する側と演じる側の両方の立場を学習し、創作活動の運営の基本姿勢を学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業ノート作成をする。授業開始前10分間各自でのストレッチ、授業終了10分間グループメンバー同士でのフィードバック。準備学習：古典バレエ作品の鑑賞、画像検索　（120分程度の作品）

〔授業計画〕
第 1 回　「振付」作業について
「振付」は踊りのための動き、ステップを音楽もしくは無音の中で組み立てるだけのものではなく、思想、想像、象徴と人間の考えが伴うことで動きが振りとなり、その先の表現の世界へと繋がる。そのための基本の動き（６つのエレメンツ)、空間利用、音楽の使い方
など、作品となるまでの工程を学習する
第 2 回　基本エレメンツ・空間利用
空間利用をまず学習する。
第 3 回　基本エレメンツ（６つのエレメンツ）
６つのエレメンツについて実際に動く。グループワークもしくはペアリングで、いくつかのエレメンツを使っての単体の動作を作成する。
第 4 回　基本のエレメンツ（空間と動作）
空間利用を使って動きの材料を創作していく。
第 5 回　音楽選曲と編集作業
クラシックバレエ作品を創作するに必須項目である「音楽」についての授業
目標とする卒業公演の演目に必要である音楽を選ぶ作業から開始する。
編集作業も必要となるため、いかに効果的に曲を選曲していくかを学習する
第 6 回　　振り写し作業
卒業公演目の振付作業の開始。担当する場面、曲の振付担当（4年生）が実際に作業を開始する。
第 7 回　　振り写し作業
担当する場面、曲の振付担当（4年生）が実際に作業を開始する。
第 8 回　　振り写し作業
担当する場面、曲の振付担当（4年生）が実際に作業を開始する。
第 9 回　上演する作品のアナライズについて
各自振り写し作業がある程度まとまってきてから、自分達が扱う作品についてを
よんでいく。時代背景、作品が生まれた理由、作曲者の生い立ち、初演について、
など、いくつかの項目を題材にしてグループワークでの作業にとりかかる。
第 10 回　アナライズ作業を開始する１
グループワーク。授業後半に作業状況の発表をする。
第 11 回　アナライズ作業を開始する２
グループワーク。途中経過発表あり
アナライズ発表会に必要な資料だけでなく、プレゼンテーションの仕方も話し合う。
第 12 回　アナライズ　グループ発表会
各グループでの担当項目のアナライズを発表する。
発表の仕方は事前に担当チーフが担当講師に伝えておくこと
第 13 回　卒業公演に向けて　リハーサル開始
リハ開始。
作品に取り組むための充分な知識とチームワークを結成した時期。
卒業公演演目の振付リハーサル開始
第 14 回　卒業公演に向けて
卒業公演演目の振付リハーサル開始
第 15 回　卒業公演に向けて
卒業公演演目の振付リハーサル開始
〔成績評価〕
・課題提出３０％　　・授業時間内評価５０％（積極的発言、質疑応答能力）
・授業時間内制作発表　２０％
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
毎週水曜日　昼休み時間（11時30分～12時10分）
バレエコース講師控え室で直接に質問、相談をお受けいたします

振付Ⅳ-1

1826
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　前期
佐藤　　真左美

〔到達目標〕
・卒業公演目の振付作業を成し遂げる。
〔授業の概要〕
チーム体制での作業をする
振付作業を円滑、成果のあるものとするために、分担作業で運営する
授業開始15分間：ウォームアップ、基礎体力運動
60分間：担当分野の創作作業
15分間：作業報告と次の授業のための準備についての討議をする

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
授業ノート作成をする
授業開始前10分間：各自でのストレッチ、ウォームアップ
授業終了10分間：グループメンバー同士でのフィードバックとお互いの評価をする
準備学習：古典バレエ作品の鑑賞、画像検索　(120分程度の作品)

〔授業計画〕
第 1 回　作業１

担当振付の場面、曲を全員の話合いのもと決める
何人のダンサーを使うかなどキャストの話し合いをする
第 2 回　作業２
各自での創作作業開始
授業後半には構成についての話合いする
第 3 回　作業３
各自での創作作業開始
授業後半には構成についての話合いする
第 4 回　作業４
各自での創作作業開始
授業後半には構成についての話合いする
第 5 回　作業５
中間発表。
各自の振付を実際に音楽で実演する。
問題点などの提示。改善の必要が求められる点を挙げる。
第 6 回　作業６
構成を考える
踊りの概要がある程度かたまってきた段階で、実際の舞台を想定してダンサーの配置や
出入りについてを話し合う
第 7 回　作業７
作業６で浮かび上がった改善が必要な事項、もしくは不足な点を補って、再度振付作業を
各自で取り組む。
お互いの意見交換などしながらの作業を続行する
第 8 回　作業８
改善した場面を提示。
再度の中間発表として各自の作品を実演する
第 9 回　作業９
リハーサル（振り写し）など本番当日から逆算してリハ運営を構成する
(振付４ミーティング)
第 10 回　作業１０
衣装等を選抜。
配色、アクセント、ソリスト、群舞など衣装効果がいかに作品に影響するかを
これまでの卒業公演を参考に、選抜する。
第 11 回　作業１１
実際に、誰かに振付ける作業の手順を学習する
・必須項目（作品について、場面説明、音楽の拍子、カウントのとり方　など）
第 12 回　作業１２
ロールプレイでの振付をお互いで実践する
第 13 回　作業１３
ロールプレイからの反省点、疑問点、理解が低い点など意見を出し合い、
振付作業を円滑にとりおこなうための話し合い
(振付４ミーティング)
第 14 回　作業１４
実際に、ダンサーに振付する
第 15 回　作業１５
実際に、ダンサーに振付けする

〔成績評価〕
・課題提出３０％　　・授業時間内評価５０％（積極的発言、質疑応答能力）
・授業時間内制作発表　２０％

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
毎週水曜日　昼休み時間（11時30分～12時10分）
バレエコース講師控え室で直接に質問、相談をお受けいたします

電気電子工学Ⅰ（教職）

2130
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
中岡　　禎雄

〔到達目標〕
・中学校技術・家庭「技術分野」における,「エネルギー変換の技術」の指導に必要な電気、電子工学の専門的な知識を身につける（知識・理解）
・電気エネルギーを安全かつ有効に利用することを指導するための技能と指導力を身につける（技能）
・持続可能な社会の構築につながる電気エネルギーの活用について関心を高め、意欲的に学習や教材製作に取り組む（関心・意欲）
・実験や教材製作を通して、新たな工夫の可能性を探ることができる(創意工夫)
〔授業の概要〕
・実験や学習者同士の話し合いの活動を通して、電気回路や力学的な機構について理解し、社会の変化に伴う新しい技術に適応できる資質や態度を育成する。
・電気エネルギーを利用するための仕組みや電気回路の構成について専門的な知識を身につけ、エネルギー変換に関する技術を社会、環境、経済に着目し考え、意見を発表し合いながら、技術を最適化する見方・考え方を身につける。
・電気エネルギーについて理論に基づいた実験を通して電気製品の安全な使用についての指導力を身につける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
配布資料を参考としたエネルギーの利用とエネルギー変換の技術についての事前学習 （90分）
授業後のレポート作成（90分）
〔授業計画〕
第 1 回　授業を始めるにあたって
授業の目標、内容、予習、復習、評価について説明

第 2 回　電気の基礎知識（1）
　　素粒子と電荷について
第 3 回　電気の基礎知識（2）
　　自由電子と帯電について
第 4 回　電気の基礎知識（3）
　　電流と導体、絶縁体について

第 5 回　電気の基礎知識（4）
　　電位と電圧について
　　交流と直流の特徴について
第 6 回　電気エネルギーの利用（1）
　　回路計の使用法
　　電気エネルギーの熱エネルギーへの変換
　　発熱体のしくみとジュールの法則について
第 7 回　電気エネルギーの利用（2）
　　電気エネルギーの光への変換とその仕組みについて発熱電球、蛍光灯、ＬＥＤライトにようるオームの法則に基づいた消費電力実験
第 8 回　電気エネルギーの利用（3）
　　電気エネルギーの動力への返還とその仕組みについてモーターの観察と実験
第 9 回　電気エネルギーに関する理論と実際（1）
　　フレミングの法則を用いた電流と磁界の実験
第 10 回　電気エネルギーに関する理論と実際（2）
　　フレミングの法則に基づいたモーターの教材製作(回路設計)
第 11 回　電気エネルギーに関する理論と実際（3）
　　フレミングの法則に基づいたモーターの教材製作(部品製作)
第 12 回　電気エネルギーに関する理論と実際（4）
　　フレミングの法則に基づいたモーターの教材製作(組み立て)
第 13 回　電気エネルギーに関する理論と実際（5）
　　フレミングの法則に基づいたモーターの教材製作発表
第 14 回　電気機器の安全な使用
　　電気機器の定格と事故防止に伴う仕組みと保守点検
第 15 回　授業のまとめ
　　自己評価、成果発表と意見交換

〔成績評価〕
・授業の振り返りレポート（10%）
・実験教材（10%）
・課題レポート（80%）

〔教科書〕
中学校　技術・家庭科　技術分野教科書（東京書籍、開隆堂、教育図書）
中学校学習指導要領解説　技術・家庭編（平成29年7月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、電気（実習を含む。）、中一種（技術）、必修

〔オフィスアワー〕
対面授業を原則とし、毎回の授業前３０分間をオフィスアワーとし、質問及び相談を受け付ける。

電気電子工学Ⅰ（自動車・一般）

2131
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
齋藤　　治

〔到達目標〕
・電気電子分野特有の用語、単位、呼称を関連づけた説明と計算ができる。
・電気の歴史的背景説明や基本的用語の正しい使い方ができる。

〔授業の概要〕
・進行する各テーマ演習を通じ電気固有単位を使った計算方法で演習する。
・学習者相互間にてアクティブラーニング形式設問を設け、数値変量に対応した思考習熟できているかどうか確認する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・各演習ワークで異なった解となった場合に諸計算式の習熟の確認やアンサーに至るまで、どこに見落とし箇所があったかをシート内で都度確認する。（準備と整理で約2時間程度）

〔授業計画〕
第 1 回　電気・電子の発展の歴史
　　電気単位の由来、発見者の歴史的時代背景を知りCGS単位、SI単位を使って相互の表示する意味の相違を説明できる。
第 2 回　電気回路の基本単位、図記号
　　電流、電圧、抵抗、電力、これら呼称の単位記号、回路図記号を使用して説明ができる。
第 3 回　簡単な直流回路計算・１閉回路内の計算
　　オームの法則、キルヒホッフの法則を用いて1閉回路内で計算する直流回路網の計算ができる。
第 4 回　ジュール熱と温度、ヒートポンプの原理
　　空調機器で使用されるヒータの電力計算、ヒートポンプの動作原理や熱エネルギーの関係を理解して説明ができる。
第 5 回　交流の単位・屋内配線、保安装置
　　屋内配線で使用される交流電力、保安装置、コンセント等の屋内配線の概要を知って説明ができる。
第 6 回　受動素子部品・電磁気回路
　　抵抗、コイル、コンデンサのそれぞれの性質や単位、電磁気回路の特徴の理解してこれらの諸計算ができる。
第 7 回　交流とトランス、絶縁、漏電、昇圧降圧回路

変圧器、トランスフォーマの構造理解と用途別での種類を掌握して説明ができる。

第 8 回　モータと発電機、各種モータの種類
直流、交流、誘導電動機、パルスモータ、サーボモータなどの各種モータの種類やこれらの特徴を知って相違を説明できる。

第 9 回　各種照明器具の構造と動作原理の理解
電球、蛍光灯、LED、インバータ、面発光、放電管など、各種照明器具の特徴や、目的に応じた用途を知って説明ができる。

第 10 回　能動素子の特徴
ダイオード、トランジスタの種類や各種電極名、用途、型番などの特徴を知って説明ができる。

第 11 回　半導体の基本特性
受動素子との差異を理解し、半導体回路の動作点やバイアス、増幅率など、これら半導体に固有のパラメータ表記を知って説明ができる。

第 12 回　整流回路と各種半導体
電源回路に用いるブリッジ整流回路、平滑回路、昇圧降圧専用電源ＩＣの動作原理を知って説明ができる。

第 13 回　トランジスタ増幅回路と汎用ＩＣ
アナログ増幅回路の動作原理とリニアオペアンプＩＣ集積回路の実例を知ることができる。

第 14 回　発振、共振回路、各種ＩＣ
実用的発振回路素子、低周波用途、高周波用途、代表的な汎用素子の特性を理解できる。

第 15 回　各種応用電子機器装置
電子応用機器の活用方法についての理解ができる。

〔成績評価〕

期末レポート（40）
小レポート（40）
授業態度（20）

〔教科書〕

特に指定なし。

〔参考文献〕

Kindle　カラー図解で一番やさしい！電気のことがわかる事典
著　戸谷次延（監修）　ISBN9784791622597 西東社
中学校学習指導要領　技術家庭科編

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

1.　学期：前期
2.　曜日・時間　：水曜日　10：00～11：30
3.　場所　：研究棟2F電気研究室
4.　連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp　…@を半角で
5.　その他　LMS科目です。可能な限り、フォリーのメールで送ってください。

電気電子工学Ⅱ

2132
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
齋藤　治

〔到達目標〕

・電気電子回路の基本回路構成と簡単な回路設計、電子回路内の電流電圧などの諸計算ができる。
・初歩的な論理回路動作の動作原理理解ができる。

〔授業の概要〕

・電気電子回路の回路設計、ブロックダイヤグラムを用いた設計演習ができる。
・回路シュミレータソフトなどで動作確認ができる。
・アクティブラーニングにより間違った箇所を互いに指摘しあう。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・電子回路の固有、独特専門用語が随所に並ぶので、学習者は、都度、リファレンスなどで読み方や意味などを都度、確認をする。（事前事後で約各2時間）

〔授業計画〕

第 1 回　オームの法則と計算
電流、電圧、抵抗、電力、の諸計算演習ができる。電子回路シュミレータソフトにて各自の理解到達状況をセルフにて数値確認をして説明ができる。

第 2 回　合成抵抗とキルヒホッフ法則の計算演習
抵抗素子の直列、並列接続における合成抵抗計算をする。キルヒホッフ法則を用いた閉回路内での計算演習をして説明ができる。

第 3 回　電気回路図記号の習熟
受動素子、能動素子、電気配線図記号、これら電気電子回路を作図する。回路図内でのパラメータを記述して電子設計図面を作成ができる。

第 4 回　3路、4路スイッチ回路
実用屋内配線で記載される電気回路を作成する。電気工事士領域で出題設問例を元に、実体配線製作ができる。

第 5 回　リレー回路
電磁スイッチでの内部構造や接点固有の名称、回路構成を実物の操作をする。後のシーケンサ制御の基礎となる制御素子独特の考え方ができる。

第 6 回　オペアンプ回路
アナログ演算素子、オペアンプの固有回路名称や動作特徴を調べる。加え、動作インピーダンス概念を理解ができる。

第 7 回　論理演算回路
論理演算素子（AND OR NOT EX-ORなど）の基本的な真理値表、演算の動作原理をシュミレータができる。

第 8 回　微分積分回路

パルス的電気信号を扱う際に必要な電子回路の代表的な回路構成方法を調べる。回路時定数などの概念理解を深めることができる。

第 9 回　低周波電子回路と高周波電子回路
取り扱う周波数によって異なったそれぞれの電子回路に用いられる増幅回路の特徴を理解できる。

第 10 回　電波と伝搬特性
無線通信での、周波数、波長によって伝搬する固有の特徴について調べる。長中短波など、波長の違いによって使い分ける無線通信の概要理解ができる。

第 11 回　無線通信装置の内部構成
送受信機内部で構成するブロックダイヤグラムを調べる。無線通信装置で求められる性能の概要理解ができる。

第 12 回　電気信号変換回路
電子通信回路内で用いられる信号変換回路（変調方式、利得レベルなど）の存在や特徴の理解ができる。

第 13 回　マイコンシステム概要
主要マイコン、組込チップマイコンなどのブロックダイヤグラム、内部構成を知らべる。それぞれの役割理解ができる。

第 14 回　電子回路設計概略
電子製品内部で求められる電子回路設計現場で求められる基本的な電子回路設計の理解ができる。

第 15 回　電子制御概論
サーボ技術や計測応用装置で用いる各種固有の電子制御回路動作の理解ができる。

〔成績評価〕

期末レポート（40）
小レポート（40）
授業態度（20）

〔教科書〕

特に指定なし。

〔参考文献〕

Kindle　カラー図解で一番やさしい！電気のことがわかる事典
著　戸谷次延（監修）　ISBN9784791622597 西東社
中学校学習指導要領　技術家庭科編

〔履修条件〕

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、電気（実習を含む。）、中一種（技術）、選択

〔オフィスアワー〕

1.　学期：前期
2.　曜日・時間　：水曜日　10：00～11：30
3.　場所　：研究棟2F電気研究室
4.　連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp　…@を半角で
5.　その他　LMS科目です。可能な限り、フォリーのメールで送ってください。

電気電子工学実験実習①【教職】

2133
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
中岡　　禎雄

〔到達目標〕

・中学校技術・家庭「技術分野」における，「エネルギー変換の技術」の指導に必要な電気、電子工学の専門的な知識と技能を身につける（知識・理解・技能）
・持続可能な社会の構築につながる電気エネルギーの生産と活用に対する意識を高める（関心・意欲）
・電気エネルギーの生産と利用について新たな可能性を探ることができる(創意工夫)

〔授業の概要〕

・実験通して学習者同士の意見交換を行いながら電気エネルギーを有効に活用するための知識と技術を身につける。
・教材製作を通して電気エネルギーを利用するための仕組みや電気回路の構成について専門的な知識を身につけ、エネルギー変換に関する技術を身につける。
・社会、環境、経済に着目し考え、製作発表を行い意見交換を行いながら技術を最適化する見方・考え方を身につける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

実験および教材製作前の配布資料による事前学習（30分）
実験後および教材製作後のレポート(60分)

〔授業計画〕

第 1 回　開講にあたって
授業の目標、概要、予習、復習、準備物、安全な実験および教材製作について

第 2 回　直流と交流の特性
回路系、オシロスコープを活用した直流と交流の特性

第 3 回　直流電源の特徴
市販の化学電池の仕組みと特徴
安全な電池使用のための配線実験

第 4 回　交流電源の特徴
コンセントの電圧測定と直流電源装置の仕組み
安全な交流電源使用についての配線実験

第 5 回　電気エネルギーの変換（1）
ＬＥＤ、蛍光灯、白熱電球を利用した電気エネルギーの光への変換実験

第 6 回　電気エネルギーの変換（2）
モーターを利用した電気エネルギーの動力への変換実験

第 7 回　電気エネルギーの変換（3）
ミクロ無線を利用した電気エネルギーの熱エネルギーへの変換実験

第 8 回　電子部品の役割（1）
ＬＥＤと炭素被膜固定抵抗器を利用した回路製作と実験

第 9 回　電子部品の役割（2）

電解コンデンサの清流作用と蓄電作用を利用した回路製作と実験
第 10 回　電子部品の役割（３）
ダイオードの清流作用を利用した回路製作と実験
第 11 回　電子部品の役割（４）
ＬＥＤ、炭素被膜固定抵抗器、トランジスタを使用した増幅回路の製作と実験
第 12 回　電子部品の役割（５）
光センサーを利用した回路製作と実験
第 13 回　電気回路の設計
電子部品を利用した点滅信号回路の設計
第 14 回　電気回路の製作
電子部品を利用した点滅信号回路の製作
第 15 回　成果発表
実験結果と製作した教材から身につけることができた知識と技能についての発表と意見交換

〔成績評価〕
・実験レポート（20%）
・成果発表（20%）
・課題レポート(60%)

〔教科書〕
中学校　技術・家庭科　技術分野教科書（東京書籍、開隆堂、教育図書）
中学校学習指導要領解説　技術・家庭編（平成29年7月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、電気（実習を含む。）、中一種（技術）、必修

〔オフィスアワー〕
対面授業を原則とし、毎回の授業後３０分間をオフィスアワーとし、質問及び相談を受け付ける。

木材の特性と設計①

2255
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
瀧　　巌

〔到達目標〕
・ものづくりへのこだわり
・木に対する思いやりや生きる姿勢

〔授業の概要〕
・簡単な木製品の設計と製作を通して木材の特徴を生かした使い方を理解し、基礎的な
　加工技術を身に着ける

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・授業での内容を復習しておく

〔授業計画〕
第 1 回　木材の種類
・グループに分けて・針葉樹、広葉樹、南洋樹、北洋樹の見分け方を理解させる
第 2 回　木材の組織
・木の外観的性質・年輪（春材・夏材）・心材・辺材の違いについて考えさせる
第 3 回　木材の性質と特徴
・熱に対する性質・音に対する性質・木材の違法性について、考えさせる
第 4 回　含水率
・水分の量によって強さが異なる（含水率にはどのようなものがあるのか）
第 5 回　木材の乾燥と強度
・木材の幹から角材や板材の取り方（木表・木裏）
第 6 回　木材の丈夫な使い方
・木材は一般に含水率が同じ場合は比重が多きものほど強い
第 7 回　工具の使い方（1）
・さしがね・まきがね・鋸の使い方（工具の名称と用途について）
第 8 回　工具の使い方（2）
・鉋の使い方・切削の仕組み
・学生に実習させる
第 9 回　木工具の使い方（3）
・のみ・きり・げんのうの使い方（用途について）
・学生に実習させる
第 10 回　木工機械の安全使用法
・安全管理の為の処置
・基準に沿った整備がされていないものは中学生に使用させない
第 11 回　組み継ぎの方法（1）
・板材を使い三枚組継する
第 12 回　組み継ぎの方法（2）
・板材を使い相かぎ継ぎをする
第 13 回　・組み継ぎの方法（3）
・角材を使い通しほぞを作る
第 14 回　木製品の製作（1）
・本立ての製作
第 15 回　木製品の製作
・本立ての製作
・出来栄えについて　レポートさせる

〔成績評価〕
・ペーパー試験をする

〔教科書〕
・特になし

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、木材加工（製図及び実習を含む。）、中一種（技術）、必修

〔オフィスアワー〕
・金曜日　2時限目

木材の特性と設計②

2256
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
瀧　　巌

〔到達目標〕
・ものづくりへのこだわり
・木に対する思いやりや生きる姿勢
〔授業の概要〕
・簡単な木製品の設計と製作を通して木材の特徴を生かした使い方を理解し、基礎的な
　加工技術を身に着ける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・授業での内容を復習しておく
〔授業計画〕
第 1 回　木材の種類
　・グループに分けて・針葉樹・広葉樹・南葉樹・北葉樹の見分け方を理解させる。
第 2 回　木材の組織
　・木の外観的性質・年輪（春材・夏材）・心材・辺材の違いについて考えさせる。
第 3 回　木材の性質と特徴
　・熱に対する性質・音に対する性質・木材の違法性について考えさせる。
第 4 回　含水率
　・水分の量によって強さが異なる。（含水率にはどのようなものがあるか。）
第 5 回　木材と乾燥と強度
　・木材の幹から角材や板材の取り方（木表・木裏）
第 6 回　木材の丈夫な使い方
　・木材は一般に含水率が多い場合は、比重が多きものほど強い。
第 7 回　工具の使い方（1）
　・さしがね・まきがね・鋸に使い方（工具の名称と用途について）
第 8 回　工具の使い方（2）
　・鉋の使い方・切削の仕組み
　・学生に実習をさせる。
第 9 回　木工具の使い方（3）
　・のみ・きり・げんのうの使い方（用途について）
　・学生に実習をさせる。
第 10 回　木工機械の安全使用法
　・安全管理のための処置
　・基準に沿った整備がされていないものは中学生に使用させない。
第 11 回　組み継ぎの方法（1）
　・板材を使い三枚組継する
第 12 回　組み継ぎの方法（2）
　・板材を使い相かぎ継ぎをする。
第 13 回　組み継ぎの方法（3）
　・角材を使い通しほぞを作る
第 14 回　木製品の製作（1）
　・本立ての製作。
第 15 回　木製品の製作
　・本立ての製作
　・出来栄えについて、レポートさせる。
〔成績評価〕
ペーパー試験をする。
〔教科書〕
「特になし」
〔参考文献〕
「特になし」
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、木材加工（製図及び実習を含む。）、中一種（技術）、必修
〔オフィスアワー〕
・金曜日　2時限目

経営教育学概論

2308
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
政岡　　勝治

〔到達目標〕
将来を経営者、管理者として活躍が期待される学生の基礎知識を次の視点から涵養する.
・現代の産業社会をさまざまな角度から考え,そして、現代の企業動向に関心を高める。
・経済学や経営学の視点から、経済社会や企業のあり方について理解する。
〔授業の概要〕
Covid-19の影響で、本科目は大学に来て頂くことなく、芦屋大学LMS（pholly）で、15回分の授業を行う。パソコンであれば毎回の参考資料（講義録）は問題なく見れるが、スマホで参考資料（講義録）の画面の一部が見えないようであれば芦屋大学教務科に是非相談のこと。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回課題提出が必要となるので、講義後の復習をしっかり行うこと。講義の質問があればPHOLLYのメッセイジを使用すること。出来るだけ早く回答する。
〔授業計画〕
第 1 回　授業全般の説明
　授業全般と到達目標、授業を通じて目指す、①知的な基礎体力向上②記述力を向上③思考力を磨くについて講義する。
第 2 回　自己紹介と総合商社

総合商社27年勤務したビジネス経験をもとに自己紹介をし、総合商社について講義する。

第 3 回　産業分類
日本標準産業分類での定義と概要、産業の三分類、産業変化の法則、そして日本の各産業のこれからの展望について講義する。

第 4 回　産業変化と革新
現在世界で見られる産業変化の3つの特徴、産業化進展の課題と経営者の革新者としての位置づけについて講義する。

第 5 回　産業構造～大企業と中小企業～
産業構造、法人企業分類での大企業と中小企業の違い、経済の牽引役である中小企業の課題を講義する。

第 6 回　国際化と企業
成長の経済、範囲の経済、多角化戦略、企業の国際化について述べ、そして企業の発展段階説と日本企業の国際化の今後の課題について講義する。

第 7 回　国際競争と企業～自動車産業～
現在の国際競争の3つの特徴①規模の重視②進出国での法令順守③異業種参入と自動車産業を取り上げて、現状・課題などについて講義する。

第 8 回　国際的孤立と克服　～キューバのケース～
資本主義と社会主義について説明の上、ソ連の崩壊により国際的に孤立し、多くの困難に見舞われ、これを克服したキューバのスペシャルピリオドを講義する

第 9 回　国際分業～弱電産業の新しい動き～
水平分業が進展する日本の弱電産業の概要と弱電産業での水平分業の形態EMSについて講義する。

第 10 回　産業と生産管理
日本の高度な産業展開を支えている生産管理と納期を確実化する工程管理について講義する。

第 11 回　産業と品質管理
品質管理の企業経営への効能と総合商社勤務時代に子会社の経営改善を果たした事例を講義する。

第 12 回　企業と教育
教育の二つのアプローチである計算主義と文化主義をもとに企業教育と現在の企業教育に影響を与えている商家の家訓について講義する。

第 13 回　就業と就業体験～インターンシップ～
大学卒業後の就業の必要性、非正規就業と正規就業の報酬格差とインターンシップについて講義し、芦屋大学の取組を紹介する。

第 14 回　企業の再生
産業の循環図と企業再生についての法律、制度と企業再生を実際のビジネスにして成功している事例について講義する。

第 15 回　産地・地場産業
産地・地場産業を軸にしての地方の活性化と国際化の必要性と産地産業の3つの研究系譜、産地産業の現状、新しい産地像を講義する。

〔成績評価〕
・毎回講義で出題する課題　100%　　・期末試験は実施しない。
・各課題に対応した参考資料（講義録）を必ず読むこと。参考資料（講義録）を読めば課題
　はできる。提出期限から少しでも遅れるとシステム上受け付けられなくなるので要注意。
・課題は毎回採点する。課題を10回以上提出しなかった場合は、不合格となる。10回以上
　提出していても内容が悪ければ不合格となる。

〔教科書〕
宮崎進・本庄真『日本経済図説　第四版』岩波新書,2013年 、800円（税抜き）

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
LMS科目となるので、質問はPHOLLYのメッセイジで受け付ける。出来るだけ早く返答する。

エネルギー変換工学1-Ⅰ

2321
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
大西　　昌哲

〔到達目標〕
2年次の自動車工学 Ⅰ、 および自動車工学基礎に引き続き、各種エンジンの性能･構造・機能および燃焼並びに、自動車ガソリン・エンジン整備技術の修得を目標とする。

〔授業の概要〕
国土交通省の定める養成課程学科項目のうち、自動車工学、自動車整備について講義を行う。
配布する事前資料に基づいた学習を行い、その内容や疑問点についてディスカッションを実施する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備学習は前もって資料を配布するので、予習すること。
復習は、毎回復習小テストを配布するので、実施・提出のこと。

〔授業計画〕
第 1 回　導入、内燃機関
概要：熱機関、内燃機関の分類

第 2 回　内燃機関
ピストンの運動による分類、点火方式による分類

第 3 回　ガソリン・エンジン
概要:空燃比、燃焼過程、ノッキング

第 4 回　ジーゼル･エンジン
概要:空気過剰率、燃焼過程

第 5 回　ガソリン・エンジン本体
構造・機能

第 6 回　ジーゼル･エンジン

構造・機能
第 7 回　ガソリン・エンジン本体
整備法：シリンダ、ピストン、クランクシャフト
第 8 回　ガソリン・エンジン本体
整備法：シリンダ･ヘッド
第 9 回　ジーゼル･エンジン本体
整備法：エンジン全般
第 10 回　潤滑装置
概要
第 11 回　潤滑装置
構造・機能
第 12 回　潤滑装置
整備法：オイルポンプ
第 13 回　冷却装置
概要
第 14 回　冷却装置
構造･機能：サーモスタット・出口制御と入り口制御
第 15 回　冷却装置
整備法：ウォータポンプ、ラジエタ

〔成績評価〕
試験80%小テスト10%取り組み10%

〔教科書〕
国土交通省自動車局監修　自動車整備士養成課程　教科書
・基礎自動車整備作業
・基礎自動車工学
・三級自動車ガソリン・エンジン
・三級自動車シャシ

〔参考文献〕
適宜紹介

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
【実務経験の活用】
ディーラー・専門学校などの勤務経験より、自動車工学、エンジン、シャシ、自動車整備士、法令、自動車整備士養成課程教育及び国家試験対応を解りやすい指導を目指します。

〔オフィスアワー〕
火曜日2限目（12時10分～13時40分）
※授業準備等により不在となる可能性があるため、事前に連絡すること。

経営管理論

2325
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
井上　徹

〔到達目標〕
経営学の基礎領域である、経営管理論を、自らの言葉で説明できることを目標にしています。

1.経営学の基礎的な考え方・分析手法を知る。
2.企業組織の仕組・理論を学び、企業成長の為の洞察力を養う。
3.経営学を用いた問題・課題を発見できる能力を身につける。

〔授業の概要〕
社会の中で、経営管理がどのような役割を持ち役に立つかを考えます。
3年次以降の専門教育科目（経営分野）の基礎的知識が身につくよう講義を行う。
また、経営学の基本術語の意味や内容も一緒に学びます。

・授業内レポートの発表・ディスカッションを行い、全受講者と共に検討。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：テレビ・新聞・WEBなどを通して興味のある企業・情報に注目し、調査・整理を行う。（120分程度）
復習：授業内レポートの振返り／講義内容の整理（120分程度）
※講義内容を理解した上で次回の講義に臨む様にしてください。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
・「講義の進め方・講義内容・評価方法の説明。」
第 2 回　経営管理とは
・「経営管理とは何か？」
第 3 回　伝統的管理論1
・「科学的管理法」「管理過程論」など
第 4 回　伝統的管理論2
・「フォードシステム」「官僚制組織」など
第 5 回　人間関係論
・「ホーソン実験・マズローの5段階欲求・XY理論とその発展」
第 6 回　コーポレートガバナンス
・「企業統治と経営管理」
第 7 回　コンティンジェンシー理論
・「リーダーシップにおけるコンティンジェンシーとは」
第 8 回　中間試験
・「第7回までの授業内容をまとめた小テストorレポート。」
第 9 回　人事労務管理論

・「終身雇用と能力主義・目標管理」
第 10 回　組織管理
・「組織と経営管理」
第 11 回　企業戦略
・「企業戦略と経営管理」
第 12 回　イノベーション論
・「イノベーションの種類と源泉」「イノベーションのジレンマ」「オープン・イノベーション」
第 13 回　ファミリービジネス
・「家族・同族経営のマネジメントとは」
第 14 回　ゴーイング・コンサーン
・「継続企業の前提とは」
第 15 回　定期試験
・「定期試験」

〔成績評価〕
定期試験：40%
中間試験：30%
授業内レポート・発表：30%
※中間試験も評価に含みます。

〔教科書〕
特になし。

〔参考文献〕
「よくわかる経営管理」「経営管理」「よくわかる組織論」「ゴーイング・コンサーンの経営学」など
その他の文献は、授業中に適宜紹介。

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
元企業経営・役員経験・視点から企業経営に必要な管理論の基礎を分かりやすく講義する。

〔オフィスアワー〕
1.学　期：前期・後期
2.日　時：授業終了後／水曜日14：00～15：00
3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室
4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能

5.その他（相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容

②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。

③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

エネルギー変換工学2-Ⅰ

2326
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
大西　　昌哲

〔到達目標〕
燃料や太陽電池などのエネルギーを自動車の動力として変換するシステムなどの知識の習得を目標とする。エネルギー変換工学Ⅰに引き続き、ガソリン・エンジンの理解を深めさせ、さらには今後の発展が予想される電気自動車（EV）、ハイブリッド車（HV）、燃料電池車（FCV)などの新エネルギー・環境対応自動車などの構造・性能の概略を理解させる。
特に前期(Ⅰ)では、ガソリン・エンジンについて、その性能、燃焼過程および排出ガスなどの理解に重点を置く。

〔授業の概要〕
国土交通省の定める養成課程学科項目のうち、自動車工学、自動車整備について講義を行う。
配布する事前資料に基づいた学習を行い、その内容や疑問点についてディスカッションを実施する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備学習は前もって資料を配布するので、予習すること。
復習は、毎回復習小テストを配布するので、実施・提出のこと。

〔授業計画〕
第 1 回　導入
講義概要、進め方などの説明
第 2 回　内燃機関の概要
内燃機関に関する復習
第 3 回　ガソリン・エンジンの概要Ⅰ
分類、ガソリン・エンジン(レシプロエンジン、ロータリーエンジン)とその概要
第 4 回　ガソリン・エンジンの概要Ⅱ
2,4サイクルの作動、排気量、圧縮比など（排気量・圧縮比実例問題）
第 5 回　ガソリン・エンジンの概要Ⅲ
サイクル作動、点火順序、バルブタイミングなど（バルブ実例問題①）
第 6 回　ガソリン・エンジンの燃焼方式
同上（バルブ実例問題②）
第 7 回　ガソリン・エンジンの性能
オットーサイクル、クラークサイクル、P-V線図など
第 8 回　ガソリン燃焼と排出ガスの概要
熱効率、有効圧力、仕事率、損失など
第 9 回　排出ガスと法規制
燃焼過程、ノッキング、排気ガスの発生過程、理論、空燃比など
第 10 回　燃焼特性と排出ガスⅠ
排気ガスと大気汚染、排出ガスと燃費に関する法規制、動向

第 11 回　燃焼特性と排出ガスⅡ
燃焼特性と熱効率、排出ガスの発生機構とその対策など
第 12 回　燃焼の改善Ⅱ
吸気系、燃焼室、EGRなど
第 13 回　前期のまとめ
低温HC低減、リーンNO x 触媒など
第 14 回　最新の環境対策技術（排気ガス処理）
第 15 回　最新の環境対策技術（バッテリー）

〔成績評価〕
試験80%
小テスト10%
取り組み10%

〔教科書〕
国土交通省自動車局監修　自動車整備士養成課程　教科書
・基礎自動車整備作業
・基礎自動車工学
・三級自動車ガソリン・エンジン
・三級自動車シャシ

〔参考文献〕
適宜紹介

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
【実務経験の活用】
ディーラー・専門学校などの勤務経験より、自動車工学、エンジン、シャシ、自動車整備士、法令、自動車整備士養成課程教育及び国家試験対応を解りやすい指導を目指します。

〔オフィスアワー〕
火曜日2限目（12時10分～13時40分）
※授業準備等により不在となる可能性があるため、事前に連絡すること。

教育の方法と技術【中等】

2402
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
藤本　　光司

〔到達目標〕
・授業づくりに関する教育方法および指導技術の知識を知る。（知識・理解）
・教育工学の視点からICTの活用方法や指導方法を身につける。（技能）
・教育目的に即した学習活動のあり方を探究し、教員としての資質を高める。（意欲・態度）
・よくわかる／楽しい授業を構築し、生徒の「生きる力」を育むための教材作成に取り組む。（創意工夫）
・昨今の教育事情を把握し、グループ討論を通じて問題解決に対する姿勢を育む。（課題解決）

〔授業の概要〕
この科目は、教育職員免許法施行規則の改訂により「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」に関する科目として習得しなければならなくなった。したがって、中・高の教職免許を取得しようとする学生に対する必修科目である。例年、100名を越える受講生の授業であるが、講義だけでなく学生が主体的に学ぶためにグループ演習やe-learningを随時取り入れながら、教育方法の歴史や教授学習理論を概観していく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・毎時の授業で記載したレポートを振り返り、関連する書籍や論文を読む。（120分）
・グループで討議した内容を授業中にプレゼンテーションすることもある。よって、パソコンなどの情報機器の基礎スキル（WordやPPTなど）は、各自で身につけておくこと。
・ノートPCなどを授業に持ち込んでもよい。
・次週までの課題を提示するので、各自、テキストを熟読してくこと。（120分）

〔授業計画〕
第 1 回　イントロデュース
・授業の概要（教員紹介、授業内容、課題レポート、成績評価など）
・キーコンピテンシー、p164
・教えること学ぶことの意義、
演習：学習者の「聴く」姿勢に関するグループワーク。
第 2 回　情報社会における教え方と学び方
教学とは、教学とコミュニケーション、ＫＲ情報、ICTの活用と学習効果、ムーアの法則、p1-11
演習：ICTを活用したe-learning、スマホの活用のリアルタイム授業分析（REAS）
第 3 回　生徒の自主性と学校の諸問題
自主性と主体性：自主性尺度分析、アンケートによる統計分析の手法、p186
演習：自分の自主性調査による５因子分析と自己評価
第 4 回　主体性で対話的な深い学び（伝える力）
メディアの活用、ＰＤＣＡ、視聴覚教材，ピグマリオン効果、p12-21
演習：シャノンとシュラムのコミュニケーションモデル、ビジュアルで伝える
第 5 回　自己肯定感・自尊感情
結果予期・効力予期、自尊感情、自己効力感、p21-27
演習：ほめ言葉
第 6 回　学び続ける大切さ・キャリア教育
AI時代、消える仕事・無くなる職業、キャリア教育、p27-29
演習：適職診断
第 7 回　教授・学習理論
行動主義と構成主義，これからの教え方と学び方、p39-45
演習：教師の教授法分析
第 8 回　教育評価の基本的な考え方

ブルームの評価段階、形成的評価と総括的評価、p45-47
演習：通知表に基づいた相対的評価と絶対評価
第 9 回　教育評価の方法と理論
ポートフォリオ評価、オーセンティック評価、パフォーマンス評価、p48-49
演習：中間レポート成績を振り返って，教育への質問
第 10 回　学外招聘講師による教育現場の諸事情
招聘講師（現職教員）による講話。テーマは「教育に対する夢と希望」
演習①：演習：ゲストティチャーへの質問
第 11 回　授業設計と教育効果
ピグマリオン効果、ゴーレム効果、ホーソン効果、p10
演習：教育効果の自己測定
第 12 回　教育におけるICT活用
GIGAスクール、ネット依存、p148-162
演習：ネット依存診断
第 13 回　学習者のレディネス分析
既有知識の視覚化、イメージマッピング、学習者のスキーマー、p91-95
演習：強制連結法による既有知識の可視化
第 14 回　チーム学校
リーダーシップ論とFFS理論の活用、p105-117
演習：FFS理論を活用したリーダーシップの特性分析
第 15 回　本授業のまとめ
前期授業内容をふり返り、よりよい授業を提供できるために、教育方法論の視点で認識を高め教育力を熟成する。

〔成績評価〕
15回中10回は小レポート(A4版1枚)を授業中に記述・回収し、添削後、評価して次時で返却する。ポートフォリオ化された小レポートやノートテイク、マイクロ・プレゼンテーションを形成的に評価する。試験は、最終レポートとマークシート試験(50問)、さらに授業の取り組み等総括的に評価する。

〔教科書〕
林徳治、藤本光司　編著、『アクティブラーニングに導く教学改善のすすめ』、ぎょうせい（2020）　※本テキストのみ期末試験への持ち込みを可とする。

〔参考文献〕
・授業中に適宜資料を配布する
・沖裕貴、藤本光司ほか、『相互理解を深める コミュニケーション実践学』、ぎょうせい（2010改訂版）
・田中耕治ほか、『新しい時代の教育方法』、有斐閣アルマ(2012)

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）、中一種、高一種、必修

【実務経験の活用】
学校教育、国際理解教育等の現職経験（25年）を活かして教職の指導する

〔オフィスアワー〕
水曜日１，２限
金曜日４限

企業内教育論Ⅰ

2403
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
西光　晴彦

〔到達目標〕
・企業が、どのような経緯を経て歴史的に発展したのか知る。
・企業を発展させてきた人間はどのように進歩し調和し、教育されてきたのか知る。
・社会・国家に果たしてきた役割と意義を知る。
・企業が発展存続してゆくための企業内教育を考える。
・人間が人間として、人間らしく生活してゆくための労働のあり方と企業内教育について考察する。

〔授業の概要〕
企業の誕生から、その企業が発展成長してゆくための最重要課題である人材育成と企業内教育について考察してゆく。また現在、実際企業で行われている企業内教育や研修を紹介し受講学生と討論する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：指定した配布プリントなどを熟読してくること。
復習：授業で学習した内容を復習し理解しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　企業内教育とは
企業内教育の位置付けと原則
第 2 回　我が国の企業内教育の歴史1
年功序列制度と企業内教育
第 3 回　我が国の企業内教育の歴史2
人事管理と企業内訓練の相関関係の歴史
第 4 回　我が国の企業内教育の歴史3
敗戦後の企業内教育
第 5 回　定型訓練のあり方1
TWI(Training Within In dustry)
第 6 回　定型訓練のあり方2
MTP(Management Training Program)
第 7 回　人事管理の構造1
人事管理フローと展開の契機
第 8 回　人事管理の構造2
訓練担当者と環境の変化
第 9 回　人事管理の構造3
組織と管理用具の変遷
第 10 回　企業内教育の実際1
経営方針と企業内教育
第 11 回　企業内教育の実際2
人事管理と企業内教育

第 12 回　企業内教育の実際3
企業特性を生かした企業内教育
第 13 回　企業内教育のシステム化
システム化に応じる企業内教育の変化
第 14 回　企業内教育と生涯教育
企業内教育に求められるもの
第 15 回　試験範囲の確認
重要ポイントの復習・告知

〔成績評価〕
その他に講義平常点10%
小テスト20%
定期試験70%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
資料やプリントは講義中に随時配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
木曜日11：30〜12：00

マーケティング論

2443
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
政岡　　勝治

〔到達目標〕
現代の企業発展に重要な機能を果たすマーケティングについての知識を深める。本授業で次のような実践力を高める。①自分の計画や自分のアイデアなど自分の夢を実現する力をつけていく。②自分の夢の実現に課題があるならばどう克服していけばよいのか解決力をつけていく。

〔授業の概要〕
Covid-19の影響で、本科目は大学に来て頂くことなく、芦屋大学LMS（pholly）で、15回分の授業を行う。パソコンであれば毎回の参考資料（講義録）は問題なく見れるが、スマホでLMS（pholly）の参考資料（講義録）の画面の一部が見えないようであれば芦屋大学教務科に是非相談のこと。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回課題提出が必要となるので、講義後の復習をしっかり行うこと。講義の質問があればPHOLLYのメッセイジを使用すること。出来るだけ早く回答する。

〔授業計画〕
第 1 回　授業全般の説明
授業全般の説明と、企業経営の構成単位と企業経営で重要な位置を占めるマーケティングについて講義する。
第 2 回　企業革新とマーケティング
マーケティングによって企業革新と成長を果たしたセブンイレブンをもとにコンビニエンス業界と課題が多いコンビニのビジネスモデル転換について講義する。
第 3 回　総合商社と自己紹介
自己紹介と共に、27年間勤務した総合商社の3つの総合性と機能を説明し、解決が迫られる課題について講義する。
第 4 回　マーケティングの基本概念
マーケティングの重要点と7つの経済的離間など基本概念とマーケティングを就職活動にどのように活用できるか講義する。
第 5 回　プロダクトプランニング
新製品を生み出すうえで重要となるプロダクトプランニングと実際の企業のケースをもとに新製品開発のヒントを講義する。
第 6 回　市場調査
市場調査についての2つの種類と新製品を生み出すうえで重要となるポイントについて講義する。
第 7 回　製品別マーケティング
消費財、生産財というふたつの財の分類と製品の5要素、そしてプロダクト・ライン、プロダクト・ミクスについて講義する。
第 8 回　販売促進
セールズプロモーション、マーケティング・コミュニケーション・プロセス、AIDMAモデル、コミュニケーション・チャネルなどを講義する。
第 9 回　広告戦略
販売促進の核となる広告戦略と、広告の種類、効果の測定、広告の予算などについて講義する。
第 10 回　キャッチ・コピー
キャッチ・コピ-の歴史的背景と実際のケースをもとにした有効なキャッチ・コピ-の作り方を講義する。そのうえで実際のキャッチコピーを各自作る。
第 11 回　価格
価格の構成要素を説明し、価格を決定する上での内部要因と外部要因について詳しく講義する。
第 12 回　損益分岐点売上高
価格の構成要素と損益分岐点売上高について分かり易く講義する。お好み焼き店経営を取り上げ、各自、損益分岐点売上高、客一人当たり目標売価を計算する。
第 13 回　販売経路
販売チャネルの長さ、販売チャネルの幅、販売チャネルの管理と卸売業の機能・課題について講義する。
第 14 回　売場管理
販売経路のひとつである小売業の売場管理と店舗管理の対象、売場の三形態、店舗レイアウトの手順、有効陳列範囲などについて講義する。
第 15 回　これからのマーケティング

IT化の進展が進む中、今後のマーケティングの変化とITを用いたデータ・ベース・マーケティングについて講義する。

〔成績評価〕

・毎回講義で出題する課題　100%　　・期末試験は実施しない。

・各課題に対応した参考資料（講義録）を必ず読むこと。参考資料（講義録）を読めば課題

はできる。提出期限から少しでも遅れるとシステム上受け付けられなくなるので要注意。

・課題は毎回採点する。課題を10回以上提出しなかった場合は、不合格となる。10回以上提

出していても内容が悪ければ不合格となる。

〔教科書〕

恩蔵直人 『マーケティング第2版』日本経済新聞社、2019年　900円（税抜き）

〔参考文献〕

特に無し

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

LMS科目となるので、質問はPHOLLYのメッセイジで受け付ける。出来るだけ早く返答する。

家業継承計画論

2447
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
今岡　重男　永井　正信

〔到達目標〕

実家に家業があり、将来家業を継ぎ経営者になるかもしれない学生を受講対象とする「家業継承」をテーマにした授業です。

経営者の家に生まれた以上、継ぐが継がないか決断を迫られる時がいつかはやってきます。学生時代に、家業を継ぐとはどういうことなのかを、自分で考える一定の能力を身につけることを到達目標とします。

＊実家が家業を営んでいない学生は受講できません。実家が家業を営んでいれば、家業をつく予定がなくても受講できます。

〔授業の概要〕

この授業は、家業継承をした経営者等との産学連携・地域連携講座です。家業継承者としての立場から、円滑な世代交代を行うため家業継承の考え方や経営者として必要な経営スキルを学びます。

講師は、本学教員の他、家業継承経験者、弁護士、公認会計士、企業のM&A（企業の売買）のプロフェッショナルが担当します。

授業の理解を深めるため、質疑応答やディスカッションの時間を設けます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

新聞やテレビ、経済誌などの視聴を通して、老舗（長寿企業のことで「しにせ」と読む）や家業継承に関する問題意識を高めて、教員や外部講師などに質疑ができるようにしておいて下さい。質問は

〔授業計画〕

第 1 回　老舗（長寿企業）の基礎知識修得
老舗（長寿企業のことで「しにせ」と読む）とは何か？全体像をつかむ。

第 2 回　長期継続の理論的理解
企業の長期継続の条件をJ.B.Barneyの資源ベース論（VRIO理論）から学ぶ。

第 3 回　わが国の長期継続企業の理解
百年続く企業の条件と家業継承の意義を学ぶ。

第 4 回　家業継承経験者から学ぶ（1）
家業継承の経験者を招き、それぞれ次のような視点からテーマを選んで、家業継承の苦労や工夫についての経験談や家業継承のアドバイス、自らの経営などについて聴き学び考える。
①家業継承の覚悟を決めた出来事　②創業者と後継者の相違　③経営能力の継承　④家業組織内外への適応　⑤老舗と革新　⑥家業の再生と再編　⑦家業継承後の競争戦略と成長戦略

第 5 回　家業継承経験者から学ぶ（2）
家業継承の経験者を招き、それぞれ次のような視点からテーマを選んで、家業継承の苦労や工夫についての経験談や家業継承のアドバイス、自らの経営などについて聴き学び考える。
①家業継承の覚悟を決めた出来事　②創業者と後継者の相違　③経営能力の継承　④家業組織内外への適応　⑤老舗と革新　⑥家業の再生と再編　⑦家業継承後の競争戦略と成長戦略

第 6 回　家業継承経験者から学ぶ（3）
家業継承の経験者を招き、それぞれ次のような視点からテーマを選んで、家業継承の苦労や工夫についての経験談や家業継承のアドバイス、自らの経営などについて聴き学び考える。
①家業継承の覚悟を決めた出来事　②創業者と後継者の相違　③経営能力の継承　④家業組織内外への適応　⑤老舗と革新　⑥家業の再生と再編　⑦家業継承後の競争戦略と成長戦略

第 7 回　家業継承経験者から学ぶ（4）
家業継承の経験者を招き、それぞれ次のような視点からテーマを選んで、家業継承の苦労や工夫についての経験談や家業継承のアドバイス、自らの経営などについて聴き学び考える。
①家業継承の覚悟を決めた出来事　②創業者と後継者の相違　③経営能力の継承　④家業組織内外への適応　⑤老舗と革新　⑥家業の再生と再編　⑦家業継承後の競争戦略と成長戦略

第 8 回　家業継承経験者から学ぶ（5）
家業継承の経験者を招き、それぞれ次のような視点からテーマを選んで、家業継承の苦労や工夫に

ついての経験談や家業継承のアドバイス、自らの経営などについて聴き学び考える。
①家業継承の覚悟を決めた出来事　②創業者と後継者の相違　③経営能力の継承　④家業組織内外への適応　⑤老舗と革新　⑥家業の再生と再編　⑦家業継承後の競争戦略と成長戦略

第 9 回　家業継承経験者から学ぶ（6）
家業継承の経験者を招き、それぞれ次のような視点からテーマを選んで、家業継承の苦労や工夫についての経験談や家業継承のアドバイス、自らの経営などについて聴き学び考える。
①家業継承の覚悟を決めた出来事　②創業者と後継者の相違　③経営能力の継承　④家業組織内外への適応　⑤老舗と革新　⑥家業の再生と再編　⑦家業継承後の競争戦略と成長戦略

第 10 回　家業継承経験者から学ぶ（7）
家業継承の経験者を招き、それぞれ次のような視点からテーマを選んで、家業継承の苦労や工夫についての経験談や家業継承のアドバイス、自らの経営などについて聴き学び考える。
①家業継承の覚悟を決めた出来事　②創業者と後継者の相違　③経営能力の継承　④家業組織内外への適応　⑤老舗と革新　⑥家業の再生と再編　⑦家業継承後の競争戦略と成長戦略

第 11 回　家業継承経験者から学ぶ（8）
家業継承の経験者を招き、それぞれ次のような視点からテーマを選んで、家業継承の苦労や工夫についての経験談や家業継承のアドバイス、自らの経営などについて聴き学び考える。
①家業継承の覚悟を決めた出来事　②創業者と後継者の相違　③経営能力の継承　④家業組織内外への適応　⑤老舗と革新　⑥家業の再生と再編　⑦家業継承後の競争戦略と成長戦略

第 12 回　家業継承に関する法律の課題
家業継承に関する法律について専門家から学ぶ。

第 13 回　家業継承に関する税務の課題
家業継承に関する税務について専門家から学ぶ。

第 14 回　企業のM&A(売買収)
企業の売買の方法論を専門家から学ぶ。

第 15 回　まとめ
全授業を振り返り質疑応答やディスカッションを通じて、本授業のまとめをする。

〔成績評価〕
授業中の質問・意見や毎回の授業後レポートなどを総合的に判定して評価する。

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
一橋大学イノベーション研究センター『ファミリービジネスその強さとリスク』一橋ビジネスレビュー 2015年AUT.63巻2号
武井一喜『同族経営はなぜ３代で潰れるのか？ファミリービジネス経営論』クロスメディア・パブリッシング 2014/8/4

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
質問事項などあれば、いつでも構わないので、imaoka@ashiya-u.ac.jp（担当教員：今岡重男）に遠慮なくメールを下さい。メールまたは電話、zoomなどで対応したいと思います。

自動車法規と検査Ⅰ

2453
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
池田　　和三

〔到達目標〕
道路運送車両法第１条から第39条までの内容について理解を深め、自動車に関係する税法、自賠法、ＰＬ法、労基法、独禁法等の法令について知識を習得する。

〔授業の概要〕
国土交通省が定める学科のうち、自動車検査、 自動車の整備に関する法を中心に実施。道路運送車両法第１条から第39条までの説明を主体とし、自動車に関係する様々な法令を交え、自動車業界を取り巻く環境問題まで言及する。
それぞれの単元ごとに、業界等のニュースを各自持ち寄り発表、討議を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
指定箇所の予習を行うこと。
受験対策として令和２年度より遡り、過去に実施された２４回分の自動車整備士２級国家試験の中か法令関係の問題を抜粋。練習問題としてプリントで配布するので、実施・提出のこと。

〔授業計画〕

第 1 回　自動車整備業界の実情
整備工場の種類、整備士資格、整備事業経営を取り巻く環境、保有台数、車検台数、無車検・無保険問題等

第 2 回　世界の自動車産業
欧州、米国、近隣アジア各国の車検制度と交通事情　環境問題大綱

第 3 回　憲法と基本六法
憲法と基本六法及び政令、省令、規則・規定・告示・通達、条例等の優先順位のそれぞれの概要

第 4 回　道路運送車両法　1
道路運送車両法　１条～3条　車両法の目的と意義　自動車の定義と公証

第 5 回　道路運送車両法　2
道路運送車両法　4条～７条　（１）　登録と登録の一般的効力

第 6 回　道路運送車両法　3
道路運送車両法　8条～11条　（２）　登録番号票と封印他

第 7 回　道路運送車両法　4

道路運送車両法　12条～16条　（３）　一時抹消登録と永久抹消登録
第 8 回　道路運送車両法　5
道路運送車両法　17条～19条　（４）　登録番号標の表示と車体番号の打刻他
第 9 回　道路運送車両法　6
道路運送車両法　20条～３９条　（５）　職権打刻と臨時運行許可他
第 10 回　自動車整備士に関係する労働基準法
労働基準法と労働安全衛生法及び労働安全衛生規則の概要（ハイブリッドカーの取り扱い関係）
第 11 回　販売・整備等と税法
印紙税・消費税等、税金の基本的な考え方と仕組み、国税と地方税の概略
第 12 回　自動車に関わる税金
自動車税、重量税、所得税、消費税及び自動車に関する税法関係
第 13 回　個人情報保護法・著作権法・プライバシーポリシーの考え方
車検証などの個人情報漏洩とプライバシーポリシーの考え方及びマニュアルの二次使用他著作権侵害の基本的考え方他
第 14 回　割賦販売法・独禁法関係
自動車ローンと登録に関わる知識、自動車公取協規約等
第 15 回　自賠法と各種保険及びＰＬ法
自賠法と各種保険に関する知識、及び製造物責任（ＰＬ法）と自動車整備との関係

〔成績評価〕
試験80％
小テスト10％
態度行動、取り組み評価10％

〔教科書〕
自動車整備技術　法令教材　（日本自動車整備振興会連合会編）他関係参考書

〔参考文献〕
業界の関連研修資料と自作パワーポイントを適宜使用

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
土曜日　11：30～12：10

機械工学実験実習

2455
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
盛谷　亨

〔到達目標〕
ロボット及び制御プログラムの製作と、競技会での試行錯誤を通し、プログラミングの実際と機械制御の基本を体得する。
ものづくりに対する興味関心を高め、また各自の特性を生かしたチームワークのありかたを学び、競技会などイベントの企画運営を協力して進めて行くことができる。

〔授業の概要〕
レゴ社がMITと共同開発した、コンピュータロボットを組み立てることのできる知育ブロック玩具「MindStorms」を教材として使用する。
実際にロボットを作製しながら、その機構やセンサーの仕組みを学び、さらにこれらを制御するソフトウェア「ROBOLAB」を使用して、計測制御の　基礎を体得する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
「情報処理基礎Ⅰ・Ⅱ」を履修し、その学習内容を理解していることを前提とする。
専用に利用できるパーソナルコンピュータを所有し、プログラミングに関する予習復習を行うことが可能な環境を用意することが望ましい。

〔授業計画〕
第 1 回　教材ハードウェアの概要
教材として取り扱うハードウェア「LEGO MindStorms」（レゴブロック）とソフトウェア「ROBOLAB」の機能と特徴、それぞれの役割を概説する。
第 2 回　教材ソフトウェアの概要
教材として取り扱うハードウェア「LEGO MindStorms」（レゴブロック）とソフトウェア「ROBOLAB」の機能と特徴、それぞれの役割を概説する。
第 3 回　機械要素とブロックパーツ
ブロックの種類と特徴、使用法を理解し、基本的な機構を再現する。
第 4 回　てこ・クランク機構
各種てこ・クランク機構を組み立て、その動作を確認する。
第 5 回　ギアの種類とギア比
ギアの種類と組み合わせ、ギア比の計算法を学ぶ。
第 6 回　モーターブロック
モーターブロックの利用法を学ぶ。
第 7 回　基本形ロボット１の製作
機構の組み立て方を習得した後、モーターブロックと機構を組み合わせ、「基本形ロボット１」を製作して動作の確認を行う。
第 8 回　センサーの種類と働き

センサーの種類と働きを理解した後、プログラマブルブロックにセンサーを接続し、その機能を確認する。

第 9 回　プログラマブルブロック
センサーの種類と働きを理解した後、プログラマブルブロックにセンサーを接続し、その機能を確認する。

第 10 回　基本形ロボット２の製作
プログラマブルブロックを核とした、センサー機能付きの「基本形ロボット２」を作成して動作の確認を行う。

第 11 回　ROBOLABのプログラミング
「ROBOLAB」によるプログラミング法を理解し、「基本形ロボット２」を題材に、モーターの制御法、センサーの利用法を習得する。

第 12 回　ロボットのプログラミング
「ROBOLAB」によるプログラミング法を理解し、「基本形ロボット２」を題材に、モーターの制御法、センサーの利用法を習得する。

第 13 回　モーターの制御法
回転方向、速度、トルクの制御法を学ぶ。

第 14 回　センサーの利用法
接触・非接触センサーの使い分けと読み取り値の処理法を学ぶ。

第 15 回　動作の確認とミニ競技
具体的な目標（競技のルール等）を提示して「基本形ロボット２」を利用した、簡単な競技を行う。

〔成績評価〕
・定期試験レポート （60%）
・授業に対する取り組み姿勢 （30%）
・課題作品 （10%）

〔教科書〕
・適時、プリントを配布する。

〔参考文献〕
・「はじめてのロボコンマニュアル」　オーム社
・「LEGO MindStorms ロボット開発講座」　翔泳社
・「中学校学習指導要領　平成20年3月告示」　文部科学省
・「中学校学習指導要領解説　技術・家庭編　平成29年7月」文部科学省

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、機械（実習を含む。）、中一種（技術）、選択

〔オフィスアワー〕
① 前　期
② 曜　日：月曜日　12:00～13:00
③ 場　所：研究室 （研究棟 3階）
④ 連絡先：moriya@ashiya-u.ac.jp
⑤ その他：時間に余裕があれば、いつでも対応します。

中等教科教育法Ⅰ（情報）

3232
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
若杉　　祥太

〔到達目標〕
・高等学校情報科における教育目標を知る。
・高等学校情報科における育成を目指す資質・能力を知る。
・学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連づけられる。

〔授業の概要〕
基礎的な教授学習理論や教育評価について学ぶとともに情報教育の歴史的経緯や在り方，目標について知る。また，情報教育に関わる内容事項とICT活用などによる効果的な指導方法と授業設計について考え理解を深める。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：毎時指定した教科書範囲を熟読してくること。
復習：毎時指定した教科書の知識問題・実践問題を解いてくること。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報教育の概要

第 2 回　情報科教育と情報活用能力
学習指導要領における目標及び内容、情報活用能力

第 3 回　教授学習理論（1）
情報教育のための行動主義に基づく諸学習理論

第 4 回　教授学習理論（2）
情報教育のための構成主義に基づく諸学習理論

第 5 回　教育評価（1）
情報教育のための教育評価理論

第 6 回　教育評価（2）
情報教育のための教育評価実践（情報機器の活用）

第 7 回　教育の情報化
校務の情報化、ICT活用教育、他教科での情報教育（情報機器の活用）

第 8 回　情報モラル教育
情報モラル教育に関する内容と指導方法

第 9 回　プログラミング教育
プログラミング教育に関する内容と指導方法

第 10 回　小中学校における情報教育
学習指導要領、小中学校の情報教育の在り方と目標、指導方法

第 11 回　指導方法と授業設計（1）
行動主義に基づく指導方法と授業設計方法

第 12 回　指導方法と授業設計（2）
構成主義に基づく指導方法と授業設計方法

第 13 回　新しい情報教育と授業技術（1）
　　主体的・対話的で深い学習のための方法と技術
第 14 回　新しい情報教育と授業技術（2）
　　e-Learning、LMS、タブレット端末活用、教育クラウド
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ

〔成績評価〕
定期試験100%（持ち込み不可）
※小テストやレポート課題については評価後、個別コメントつけて返します。

〔教科書〕
・高等学校学習指導要領情報（最新版，文部科学省）
・高等学校学習指導要領解説 情報編（最新版，文部科学省）
・主体的に学び意欲を育てる教学改善のすすめ（平成28年4月，ぎょうせい）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、高一種（情報）、必修

【実務経験の活用】
教育困難校から進学校までの現場経験を活かし、多様な授業方法や今日的な課題（いじめ、学習意欲低下・進路指導など）の対応を指導する。
積極的にＩＣＴ活用を取り入れ効果的な授業を展開する。

〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 2限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

中等教科教育法Ⅱ（情報）

3232

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
若杉　　祥太

〔到達目標〕
・情報教育における授業設計や授業技術について知り実践できる。
・ICT活用による授業技法を知り効果的な活用方法を考えることができる。
・情報科の授業を設計し、適切な授業技術や授業技法を用いた授業ができる。

〔授業の概要〕
情報教育における授業設計や授業技術を学び実践を積み重ねる。また、ICT活用による授業技法を学び、効果的な授業方法とはなにか考える。さらに、情報科の授業を設計し模擬授業を通して、適切な授業技術や授業技法、評価方法を体験的に学び身に付ける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
別途授業中に指示する

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、成績評価、情報教育の目標と内容、授業技術と授業設計
第 2 回　情報教育における授業設計(1)
　　インストラクショナルデザイン
第 3 回　情報教育における授業設計(2)
　　学習指導案
第 4 回　情報教育における授業技術(1)
　　板書、机間巡視、立ち居振る舞い
第 5 回　情報教育における授業技術(2)
　　説明・指示・質問・発問
第 6 回　情報教育における授業技術(3)
　　動的・静的な問題解決、合意形成
第 7 回　ICT活用による授業技法(1)
　　視聴覚教材及び学習支援教材の活用（情報機器の活用）
第 8 回　ICT活用による授業技法(2)
　　ICT活用と学習環境の構築（情報機器の活用）
第 9 回　模擬授業と授業評価(1)
　　学習指導案作成と模擬授業、授業分析と評価①
第 10 回　模擬授業と授業評価(2)
　　学習指導案作成と模擬授業、授業分析と評価②
第 11 回　模擬授業と授業評価(3)
　　学習指導案作成と模擬授業、授業分析と評価③
第 12 回　模擬授業と授業評価(4)
　　学習指導案作成と模擬授業、授業分析と評価④
第 13 回　模擬授業と授業評価(5)
　　学習指導案作成と模擬授業、授業分析と評価⑤
第 14 回　模擬授業と授業評価(6)
　　学習指導案作成と模擬授業、授業分析と評価⑥
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　学習の振り返りとまとめ

〔成績評価〕
レポート試験（50%）、実技試験（50%）
変更がある場合、別途授業中に説明する

〔教科書〕
高等学校学習指導要領情報（最新版，文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 情報編（最新版，文部科学省）
アクティブラーニングに導く教学改善のすすめ（平成31年4月，ぎょうせい）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
授業方法により変更する場合があるため、しっかり確認すること

〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 2限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

自動車工学実験実習Ⅰ

3251
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
成瀬　　優享

〔到達目標〕
自動車の基本構造と各構成部分品の作動原理を理解し、基本的な分解組み立て作業ができるようになる。

〔授業の概要〕
エンジン・トランスミッション・ステアリングシステム・ブレーキシステムなどの分解、組み立て作業を中心として、国土交通省が定める養成課程の実習 を実施する。
実施した作業内容での注意点や工夫した箇所などのグループ討議や発表を都度行い、学生間での相互学習を行う。
※日本人学生においては、1年次　機械整備基礎を履修のこと
※留学生においては、1年次　自転車整備基礎を履修のこと
※PPE（Personal protection Equipment：個人保護装備）を備えない場合、出席を認めない
※原則的に対面授業とするが、感染症・その他事情によりオンデマンド授業を併用する場合があるので、通信環境を整えておくこと

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に指定する箇所の予習（90分）を実施すること。
授業終了後、課題を配布するので、内容を復習し次回授業開始時に提出すること。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・整備基本工具
授業概要の説明と安全に関する諸注意
工具名称・役割と特性　手動工具類の役割
第 2 回　動力工具　適用と禁忌
動力工具の種類と適応、禁忌について学ぶ
動力工具を使用する際に関連する法律を学ぶ
動力工具使用における災害の発生と予防について
グループ討議を実施する
第 3 回　自動車の基本構造
自動車の基本構造とそれぞれの部品による役割学ぶ
第 4 回　内燃機構造Ⅰ
各種エンジン模型・視聴覚教材活用による動作原理の把握
第 5 回　内燃機構造Ⅱ
実習教材を用いた構造の学習・分解・組み立て１
作業時に工夫した点や注意した点、危険性や効率化に関する発表・意見交換
第 6 回　動力伝達装置Ⅰ
視聴覚教材を用いた動力伝達装置概要の学習
分解組み立て実習
第 7 回　動力伝達装置Ⅱ
動力伝達装置・分解組み立て実習
作業時に工夫した点や注意した点、危険性や効率化に関する発表・意見交換
第 8 回　動力伝達装置Ⅲ
クラッチ分解組み立て実習
作業時に工夫した点や注意した点、危険性や効率化に関する発表・意見交換
第 9 回　操舵装置
操舵装置模型による作動原理実験と分解組み立て実習
作業時に工夫した点や注意した点、危険性や効率化に関する発表・意見交換
第 10 回　制動装置Ⅰ
制動装置・種類と概要
分解組み立て実習
第 11 回　制動装置Ⅱ
分解組み立て実習
作業時に工夫した点や注意した点、危険性や効率化に関する発表・意見交換
第 12 回　灯火装置
灯火装置種類と交換手順
交換実技
作業時に工夫した点や注意した点、危険性や効率化に関する発表・意見交換
第 13 回　12カ月点検
12カ月点検実施シミュレーション
作業時に工夫した点や注意した点、危険性や効率化に関する発表・意見交換
第 14 回　ロールプレイングⅠ
12カ月点検を主軸としたロールプレイングⅠ
第 15 回　ロールプレイングⅡ
12カ月点検を主軸としたロールプレイングⅡ

〔成績評価〕
試験50％課題・ 小テスト25％ 態度行動、取り組み評価25％

〔教科書〕
国土交通省自動車局監修 自動車整備士養成課程 教科書
・基礎自動車整備作業
・基礎自動車工学
・三級自動車ガソリンエンジン
・三級自動車シャシ

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
【実務経験の活用】
整備士としての実務経験を活かし、自動車や自転車の整備作業実習をおこなう。また、物販や在庫管理に関わった経験から、関連する接客対応や商品の案内方法等を統合し、連結した実習授業の展開を行う。
潜水士として従事した各種業務より、安全・危機管理を取り入れた実技実習を行っている。
〔オフィスアワー〕
火曜日2限目（12時10分～13時40分）
授業準備等により不在となる可能性があるため、事前に連絡すること。

情報処理基礎Ⅰ

3303
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
若杉　　祥太

〔到達目標〕
・コンピュータの基本構成や仕組みを説明できる。
・コンピュータでのデータの表現について説明できる。
・さまざまな情報技術について仕組みや役割を知り、説明できる。
〔授業の概要〕
コンピュータに関する基本構成や仕組み、データ表現を学ぶ。さらに、コンピュータに関わるさまざまな情報技術の仕組みや役割を学ぶ。授業については講義＋演習形式を基本とし、積極的に参画することが望ましい。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：毎時指定した教科書範囲を熟読してくること（毎回2時間）。
復習：毎時指定した教科書の知識問題・実践問題を解いてくること（毎回2時間）。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、成績評価、情報処理基礎の概要
第 2 回　コンピュータの基本構成
　　コンピュータの歴史、ハードウェア・ソフトウェアの役割と性能
第 3 回　入出力装置
　　入出力の形態、入力装置、出力装置
第 4 回　プロセッサの仕組みと性能評価
　　プロセッサの仕組みと役割、プログラムの実行と命令、半導体記憶素子
第 5 回　データの表現①
　　アナログとディジタル、2進数、10進数、16進数、論理演算
第 6 回　データの表現②
　　画像・音声・文字の表現
第 7 回　補助記憶装置
　　補助記憶装置の役割と機能、磁気・光ディスク、SSD、磁気テープ
第 8 回　入出力インタフェース
　　入出力インタフェース、インタフェースとの種類
第 9 回　オペレーティングシステム
　　オペレーティングシステムの役割と機能
第 10 回　アプリケーションソフトウェア
　　共通・個別アプリケーションソフトウェア
第 11 回　データベース
　　データベースの概念と必要性、関係データベース
第 12 回　ネットワーク
　　通信ネットワークシステムの基本構成
第 13 回　インターネット
　　インターネットの仕組みと通信規約
第 14 回　情報セキュリティー
　　情報セキュリティーの必要性と対策、脅威と貧弱性、法規
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ
〔成績評価〕
小テスト・演習50%
定期テスト50%
※小テストやレポート課題については評価後、個別コメントつけて返します。
〔教科書〕
・國友義久「ITの基礎」近代科学社、2011（2200円（税抜））＜テキスト購入必須＞
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、情報とコンピュータ（実習を含む。）、中一種（技術）、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、コンピュータ・情報処理（実習を含む。）、高一種（情報）、必修
〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 2限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

情報処理実習Ⅰ

3317
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
林　　泰子

〔到達目標〕
・Wordの基本操作技能を習得し、目的に応じた効果的な文書を作成することができる。
・PowerPointの基本操作技能を習得し、提示目的に応じたプレゼン資料を作成することができる。
・コンピュータを活用したプレゼンテーションを行うことができる。
・SNSなどのインターネット利用の際に、情報モラルを意識して活用することができる。

〔授業の概要〕
・教育現場やビジネスなどで必要とする文書を、Wordを用いて目的に応じた内容で効率よく　作成する技術を身に付ける。
・教材やプレゼンなどのスライドを、PowerPointを用いて目的に応じた説得力のある提示資料として、効率よく作成する技術を身に付ける。
・グループワークにおいて役割分担を考え、お互いにコミュニケーションをとり協力して提出課題を完成させる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の授業内容に関する準備と復習をし、日頃からコンピュータに慣れ親しんでおくことが望ましい。（授業準備９０分、授業の復習９０分）

※注意事項
　授業で学習した内容のデータを保存するため、USBメモリー（２ＧＢ以上）を必ず毎回持参すること。第1回目からUSBに保存するので、必ず忘れずに持参すること。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
　　授業の到達目標・授業の進め方と注意・成績評価の説明
第 2 回　文書の構成
　　テキスト、特殊文字、数式、書式設定
第 3 回　文書の作成と編集
　　文字の編集、ビジネス文書の書式
第 4 回　表と罫線
　　表と罫線を用いた文書作成、ヘッダー、フッター、ページ番号の付与
第 5 回　図形描画と編集
　　図形の編集、レイアウトとグループ化

第 6 回　オブジェクトの挿入
　　表や図を統合した通信文書（学級通信）の作成
第 7 回　オブジェクトの編集
　　ビジュアルコンテンツの作成を用いたパンフレットの作成
第 8 回　中間チェック
　　Wordのまとめと振り返り
第 9 回　情報モラルとインターネット
　　SNSの適切な使い方
第 10 回　ペイントの基本操作
　　画像作成、様々な描画機能
第 11 回　PowerPointの基本操作
　　スライド作成と編集、アニメーション効果、
第 12 回　PowerPointを用いた教材作成①
　　立案、スライドとコンテンツの作成
第 13 回　PowerPointを用いた教材作成②
　　スライドとコンテンツの編集
第 14 回　PowerPointを用いた教材作成③
　　スライドの統合編集とプレゼンの練習
第 15 回　発表
　　効果的なプレゼンテーション、相互評価

〔成績評価〕
・課題提出物　50%
・チェックテスト（実技）　40%
・授業への取り組み・態度　10%

〔教科書〕
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　情報編（平成30年7月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、コンピュータ・情報処理（実習を含む。）、高一種（情報）、必修

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日：11:00～12:00
③研究室
④y.hayashi@ashiya-u.ac.jp
⑤研究室に来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください。
　質問等は、基本的には授業終了後に講義教室で対応します。
　それ以降は、メールで受け付けます。

技術科教材研究

3404
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
安東　　茂樹

〔到達目標〕
・技術科教員として教材の在り方や意義を理解する。(知識･技能，関心･意欲･態度)
・技術科教育における教材（題材・教材教具を含む）の意義を理解しその開発ができる。（知識･技能，思考･判断）
・実践力養成として，技術科教育の学習指導案が作成できる。（知識･技能，思考･判断･表現）

〔授業の概要〕
技術科教育の応用論として，技術科教育がめざすもの，教材の在り方，教材（題材・教材教具を含む）開発の視点，製作題材の開発などについて取り扱う。
具体的には，毎時間，授業内容について自分の考えをまとめ，意見発表や学習者同士のディスカッションを通して授業展開を考察する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業外学習として，テキスト「新編 技術教材論」の講読，授業に関した予習と復習，課題に対するレポート，関連書物の読解，学習指導案の作成等に取り組む。
具体的には，「授業前の予習（90 分）」「授業後の授業内容のまとめ（90 分）」を求める。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
技術科教育のとらえと「技術科教材研究」のガイダンス
第 2 回　技術科教育のとらえ（その１）
技術科教育の課題と技術科教材論の意味づけ
第 3 回　技術科教育のとらえ（その２）
技術科教育の意義
第 4 回　技術科教育のとらえ（その３）
学習指導要領における技術科の内容
第 5 回　教材の在り方（その１）
技術科における教材とは，教材・教具・題材の定義
第 6 回　教材の在り方（その２）
技術科における効果的な教材例
第 7 回　教材の在り方（その３）
教材開発とは何か，その意味についてのディスカッション
第 8 回　中間評価
これまでの学修で学んだことから，教材の在り方についてまとめて発表
第 9 回　教材開発（その１）
教材開発の視点
第 10 回　教材開発（その２）
技術科における教材開発
第 11 回　製作題材（その１）
生徒に実態に即した製作題材
第 12 回　製作題材（その２）
目指す能力を具現化する製作題材
第 13 回　製作題材（その３）
目的や条件に即した設計を無理なく体験できる製作題材
第 14 回　製作題材（その４）
製作題材の教育効果を高める導入題材
第 15 回　最終評価
最終評価 : 技術科教材研究で学んだことから題材の開発（レポート等）

〔成績評価〕
定期試験（40%），授業課題のレポート(30%)，授業における発問と応答（30%）で総合的に評価する。

〔教科書〕
・新編 技術科教材論（令和３年4月 竹谷出版）
・中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
・技術･家庭 教科書（令和３年2月 開隆堂，東京書籍，教育図書）
・技術科教育の研究（1993年4月 日本産業技術教育学会編）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場の経験を活かして、学校教育における技術科教育の指導法の在り方、教材開発の方法、及び評価活動の方法など、具体的・実践的に導入し指導する。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期　②水曜日 11:00~12:00、金曜日 12:30~13:30
③研究棟 安東研究室　④s-andoh@ashiya-u.ac.jp　⑤その他(来室の際、事前にメールでアポイントを取ること)

自動車工学2-Ⅰ

3510
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
大西　　昌哲

〔到達目標〕
自動車材料、燃料、油脂等について、規格等を説明できるようになる。
自動車関連の材料生成学、電気理論と計算など理論的な内容を学び整備に活用できる状態になる。

〔授業の概要〕
国土交通省の定める養成課程学科項目のうち、主に自動車工学、自動車整備、機器の構造及び取り扱いについて講義を行う。
配布する事前資料に基づいた学習を行い、その内容や疑問点についてディスカッションを実施する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
　準備学習は前もって資料を配布するので、予習すること。復習は、毎回復習小テストを配布するので、実施・提出のこと。
〔授業計画〕
第 1 回　自動車材料
　　総論
第 2 回　金属材料
　　性質
第 3 回　鉄鋼材料
　　性質・炭素鋼・特殊鋼・鋳鉄他
第 4 回　非鉄金属材料
　　アルミニウム・銅合金・軸受け合金他
第 5 回　結晶合金
　　焼結合金部品
第 6 回　非金属材料
　　プラスチック、ゴム、ガラス他
第 7 回　軽量化構造
　　モノコック、波板、リブ構造、ハニカム構造他
第 8 回　自動車用燃料
　　石油の精製
第 9 回　ガソリン
　　性質等
第 10 回　軽油・LPガス
　　性質等
第 11 回　潤滑油
　　概要
第 12 回　エンジン・オイル
　　エンジン・オイル性状と規格概要
第 13 回　ギア・オイル
　　他油脂の性状と規格概要
第 14 回　グリース
　　摩擦力と潤滑作用、性状
第 15 回　作動油・その他
　　ATFの摩擦力と潤滑作用、性状
〔成績評価〕
試験80％
小テスト10％
取り組み10％
〔教科書〕
国土交通省自動車局監修　自動車整備士養成課程　教科書
・基礎自動車工学、基礎作業
・三級、二級自動車ガソリン
・三級、二級自動車シャシ
〔参考文献〕
適宜紹介
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他
〔備考〕
【実務経験の活用】
ディーラー・専門学校などの勤務経験より、自動車工学、エンジン、シャシ、自動車整備士、法令、自動車整備士養成課程教育及び国家試験対応を解りやすい指導を目指します。
〔オフィスアワー〕
火曜日2限目（12時10分～13時40分）
※授業準備等により不在となる可能性があるため、事前に連絡すること。

人間環境概論Ⅰ

4216
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
池田　　聡

〔到達目標〕
人間と人間を取り巻く環境の言及
今日の複雑化する人間環境を自然環境の側面
受講生の自然環境についての意識の向上
上記の内容を目標とする。
〔授業の概要〕
環境とは何か？人間生活と自然環境との関係を中心に地球のしくみや歴史、人類と自然環境との密接な結びつきについて学習する。
毎時間、内容理解を深めるために課題を用意する。
ネイチャーゲームを用いてのアクティブラーニング
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で指定した課題の復習（2時間）
講義内で指定した課題の予習（2時間）
毎回講義内で課題資料を配布。
〔授業計画〕
第 1 回　環境とは何か？　社会環境・自然環境について
　　環境とは何か？　社会環境・自然環境についての導入
第 2 回　人間社会と自然環境の結びつきについて学ぶ
　　人間社会と自然環境の結びつきについて学習する
第 3 回　我々が生活する地球のしくみを考える
　　地球のしくみを学習する
第 4 回　原始地球に含まれていた原料物質と微惑星との関係について考える
　　原始地球に含まれていた原料物質と微惑星との関係について学習する
第 5 回　生命誕生の条件と陸上進出について考える
　　生命誕生の条件と陸上進出について学習する
第 6 回　人類の歴史について考える
　　人類の歴史について学習する
第 7 回　環境問題を中心に諸問題について学ぶ
　　環境問題を中心に諸問題について学習する
第 8 回　地球温暖化の原因とその対策について学ぶ
　　地球温暖化の原因とその対策について学習する
第 9 回　紫外線が体内にあたえる影響を学ぶ
　　紫外線が体内にあたえる影響を学習する
第 10 回　太陽光が動植物にあたえる影響について学ぶ
　　太陽光が動植物にあたえる影響について学習する
第 11 回　防護・保全・保存・回復・復元について学ぶ

防護・保全・保存・回復・復元について学習する
第 12 回　環境教育の指導方法について学ぶ。
環境教育の指導方法について学習する
ネイチャーゲームを用いてのアクティブラーニング
第 13 回　観光と環境Ⅰ
エコツーリズムやグリーン・ツーリズムを用い、マスツーリズムとの違いを考察し、宿泊を伴う旅行形態で実施するリスクマネージメントを中心にその手法について学習する。
第 14 回　観光と環境Ⅱ
エコツーリズムやグリーン・ツーリズムを用い、マスツーリズムとの違いを考察し、宿泊を伴う旅行形態で実施するリスクマネージメントを中心にその手法について学ぶ。ネイチャーゲームを用いてのアクティブラーニング。
第 15 回　全体のまとめ
全体のまとめ及び定期試験の説明

〔成績評価〕
レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

経営ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論

4225
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
藤本　　光司

〔到達目標〕
この授業は、課題解決型の授業で、大学で昨今進められているPBL（Project/Problem Based Learning）の活動、例えば、ソーラーカープロジェクト、バレエ公演、学生会の運営などの活動を発展させるための組織マネジメントや広報活動を行います。よって、現在、何かの活動を行っていることが人が受講に望ましい。
・共に学ぶ仲間と切磋琢磨し、教養と柔軟な思考力を身に付け、応用・発展できる。
・キャリア教育として、各自の職業観を育む。
・授業外の課外活動として、調査やスポンサー獲得など、フィールドワークを重視する。
・対人との折衝能力やプレゼンテーションの表現力等を育む。

〔授業の概要〕
社会の変化に対応できる資質を育むために、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動できる能力や教養を身に付ける。本授業は、講義の他、グループ演習や視聴覚教材、プレゼン等、学生参画型授業とする。学生諸君は、仲間と協働し切磋琢磨しながら学習を深めること。また、企業と連携した授業を展開する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・3回目授業までに、各自やチームの課題や目標を決める。
・記述レポートは、添削・評価し返却する。
・授業資料も含め、ファイリングし、さらに各自の興味関心を広げ試験に臨むこと。
・ICTの基礎スキル（メール添付やパワポ作成等）を日頃からスキルアップする事。
・課題に対して、積極的に調査や分析、フィールドワークを行う事。
・授業前にテーマに関連する文献を読み解く（120 分）
・テーマに関する興味を深めて論述（レポート作成）を行う（120 分）

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
授業内容、成績評価、授業の到達目標について
演習：コミュニケーションとチーム作り
第 2 回　ビジネスは「BtoB」から「BtoC」,「CtoC」へ
・ＥＣに役立つビジネス用語
・「Ｃ to Ｃ」のビジネスモデル
・「分販分野の市場」と「トラブル件数」
演習：VTR「次世代ビジネスの挑戦者たち、メルカリを徹底解剖！」による討議
第 3 回　コラボレーション・マーケティング
・トレンド商品
・複数ショップのコラボレーション例
・農業は「３Ｋ」から「新３Ｋ」へ！
演習：この商品は何？、私のお勧め商品はコレ！
第 4 回　“Society 5.0”の世界とは？
・デジタル革新がもたらす新たな未来
・新たな価値で経済発展と社会的課題解決の両立に！
演習：VTR「Society5.0（ソサエティ5.0）未来の日本の姿」の視聴と討議
第 5 回　SGDsの概要
・SDGsの17目標と169ターゲット
・事例、自動車業界
演習：私にも取り組めるSDGsの活動とは？興味ある企業や自治体を調査しよう。
第 6 回　SDGs！企業の取り組みを探る
・「欲しい！」が社会を回してる。リセールバリューについて。
・「欲しい」が集まると、モノが回りだす。
・化粧品メーカーのSDGs活動：“海を救いたい”
演習：今すぐできるSDGsアクションリスト30
第 7 回　ロジカル・シンキング①：MECEの理論

・ＭＥＣＥ（ミッシー）理論の基本
・一般教養を“ＭＥＣＥ”で表現すると
・ビジネスで活かす“ＭＥＣＥ”の基本的な考え方
・トップダウン・ダウンボトムのアプローチ法
演習：私のMECEを紹介！

第 8 回　ロジカル・シンキング②：強制連結法の理論
・「自動車」→「えび」の強制連結法の事例
・隣人の強制連結を分析する
演習：強制連結法を活用して「学生生活の課題」を分析！

第 9 回　ロジックツリー①：基礎編
・ＭＥＣＥ理論と強制連結法との関連
・林さんの事例によるＬＴ
・大学1年生の鈴木君の事例によるＬＴ
演習：自分の問題と課題設定を考えてみよう。

第 10 回　ロジックツリー②：応用編
・大学生活をロジックツリーで自己分析してみよう。
・問題分析と目的分析
演習：分析結果をプレゼンテーションする

第 11 回　コンピュータに代替えされない力
・「消える職業」「なくなる仕事」702業種
・10年後に新しく生まれる職業例
・コンピュータに代替されない, される分野の職業
演習：適職診断テスト，未来年表

第 12 回　デザイン思考による問題解決
・デザイン思考の教科書
・フォルクスワーゲン アウトシュタット工場
・Apple Ｉ（1976）と最新iPhone
・3大100円ショップのロングベスト・ヒット商品
・デザイン思考のプロセス
演習：身の回りの身近な問題の課題設定

第 13 回　デジタル・トランスフォーメーション(DX)とは？
・ＤＸの意味とは？
・経済産業省と情報処理推進機構（IPA）の定義
・ＤＸの海外における成功事例
・ＤＸの国内における成功事例
・ＤＸを支えるテクノロジー

第 14 回　チーム力とマネジメント
・企業におけるチームワーク
・社会人基礎力
・産学連携とスポンサード
演習：チームビルディング（紙の塔）

第 15 回　講義のまとめと振り返り
これまでの講義のまとめと質疑応答
前期試験について

〔成績評価〕
・毎時の小レポート＆出席点（30%）
・グループ演習の参画態度や取組姿勢（20%）
・最終レポートと最終プレゼンテーション（50%）
以上を総括的に評価する。

〔教科書〕
林徳治、藤本光司ほか著、「アクティブラーニングに導く教学改善のすすめ」（ぎょうせい）（2020）

〔参考文献〕
・演習に関わるプリント類は、随時必要に応じて配布する。
・日経新聞、その他、ビジネス雑誌

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
水曜日：1，2限
金曜日：4限

情報数理学Ｉ

4302
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
若杉　　祥太

〔到達目標〕
・表計算ソフトの効果的な操作技法を身に付ける。
・教育評価のための統計処理方法について知り、算出・分析できる。
・データ分析のための統計的知識技能を知り、実践できる。

〔授業の概要〕
表計算ソフトを用いて、基本的な統計学及びデータ処理・分析方法に関して学び統計的知識と技能を身に付ける。さらに教員としての教育評価方法や成績処理についての統計的に解釈し、生徒支援や授業改善に役立てられる知識と技能を身に付ける。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
教員としての成績評価や授業分析などのために必ず身に付けないとならない知識技能であり、しっかりと身に付くまで授業外学習をすること。
予習：毎時指定した教科書範囲を熟読してくること（毎回2時間）。
復習：毎時指定した教科書の知識問題・実践問題を解いてくること（毎回2時間）。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報数理学Ｉの概要

第 2 回　統計学基礎
基本統計量

第 3 回　Excel操作と関数
Excelの操作技法、統計処理のための関数

第 4 回　グラフ作成とテーブル作成
様々なグラフの作成とテーブル作成、クロス集計

第 5 回　教育評価と統計処理①
相対評価ための統計処理

第 6 回　教育評価と統計処理②
絶対評価のための統計処理

第 7 回　教育評価と統計処理③

成績評価のための統計処理
第 8 回　分散と標準偏差
分散と標準偏差の統計的理解と算出方法
第 9 回　偏差値
偏差値の統計的理解と算出方法
第 10 回　母集団と標本、不偏分散
母集団と標本の平均と不偏分散の統計的理解と算出方法
第 11 回　正規分布
正規分布の統計的理解と算出方法
第 12 回　相関
相関の統計的理解と算出・分析方法
第 13 回　平均値の信頼区間
信頼区間の統計的理解と算出・分析方法
第 14 回　アンケートの信頼区間
アンケートの具体例と調査分析方法
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ

〔成績評価〕
定期試験100%（実技）
※小テストやレポート課題については評価後、個別コメントつけて返します。

〔教科書〕
・玄場 公規 他「Excel で学ぶ ビジネスデータ分析の基礎 ビジネス統計スペシャリスト・エクセル分析ベーシック対応」オデッセイコミュニケーションズ、2016（1620円(税抜)）＜テキスト購入必須＞

〔参考文献〕
・相澤裕介「統計処理に使うExcel 2016活用法―データ分析に使えるExcel実践テクニック」カットシステム、2016（2200円（税抜））

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、情報システム（実習を含む。）、高一種（情報）、選択

【実務経験の活用】
各種調査分析担当の経験より効果的な統計的理解を指導する。

〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 2限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

マルチメディア技術Ⅰ

4304
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
谷口　知司

〔到達目標〕
・メディアの歴史的変遷について説明できる。
・メディアの特性について理解する。
・情報の表現方法について説明できる。
・通信ネットワークの種類や仕組みについて説明できる。
・教育実践に必要なマルチメディア技術を身に付ける。

〔授業の概要〕
メディアの特性や歴史、情報の表現方法について学ぶ。また通信ネットワークの種類や仕組みについて学ぶことを通じて、マルチメディア技術についての理解を深める。また、応用的な分野として、教育実践に必要なマルチメディア技術を教材開発などによって身につける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
▽予習
予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
▽復習
毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。また、適宜課題を出題するので、次回までに必ずしておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、マルチメディア技術の概要
第 2 回　情報を伝えるメディア
メディアの定義と特質
第 3 回　メディアの歴史的変遷
メディアの歴史と損の変遷
第 4 回　AD変換①
文字、音、画像、動画像について
第 5 回　AD変換②
標本化、量子化、符号化について
第 6 回　情報の表現と理解①
音の合成、音声の合成と認識
第 7 回　情報の表現と理解②
画像の合成、画像の認識
第 8 回　通信ネットワーク①
電話網、携帯電話網、放送網
第 9 回　通信ネットワーク②
インターネット、ネットワークとの接続
第 10 回　メディアの携帯化と普遍化知覚を補助するメディア
携帯機器の発展、情報機器の一元化、情報環境の遍在化
第 11 回　教材開発とマルチメディア技術の活用①
音声、画像に関する技術演習
第 12 回　教材開発とマルチメディア技術の活用②

音声、画像に関する技術演習
第 13 回　教材開発とマルチメディア技術の活用③
動画に関する技術演習
第 14 回　教材開発とマルチメディア技術の活用④
動画に関する技術演習
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
学習の振り返りとまとめ

〔成績評価〕
小テスト30%
レポート30%
課題発表40%

〔教科書〕
小泉宣夫・圓岡偉男「情報メディア論」講談社、2016（2400円（税抜））

〔参考文献〕
水嶋英治・谷口知司他『デジタルアーカイブの資料基盤と開発技法』晃洋書房、2016（2500円（税抜））

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）、高一種（情報）、必修

【実務経験の活用】
学校ＨＰの開発運用担当の経験よりＨＰの開発運用方法を指導する。
eラーニングシステムの構築により包括的学習支援を行う。

〔オフィスアワー〕
授業時間の前後

電気電子工学Ⅲ

4309
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
齋藤　　治

〔到達目標〕
・産業用電気電子機械系の基礎的メンテナンスに携わることができる。
・自動車など産業用機械内部で使われているセンサー箇所の基準校正手法や実測装置系での固有メンテナンスに通じる技術概要を教材等体験を通じ評価ができる。

〔授業の概要〕
・保守点検業務で多用する基本的な作業手順、故障診断の手順を系統的に調査応用する。
・アクティブラーニングで、学習者相互間にて故障等原因箇所の類推を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・実務メンテナンス業務内容に近いテーマを扱う関係上、正しい測定方法や工具類の扱い方を確認する。理解整理を事前事後（各2時間程度）設けてほしい。

〔授業計画〕
第 1 回　実務の電気理論
導通試験…固有抵抗、導電率、温度係数、の各パラメータが理解できる。
第 2 回　電気保安回路の習熟
ヒューズやブレーカの種類、電気系統図での扱いを調べ、回路固有の保安装置の使い分けが理解できる。
第 3 回　電線、被覆種類選定の研究
産業用機械内で使用される電線の種類やコネクタの特徴が理解できる。
第 4 回　蓄電池の特性研究
電気化学的特性の掌握や保守方法について理解できる。
第 5 回　オルタネータの点検技術
発電機廻りに関する保守方法の習熟ができる。
第 6 回　点火装置の研究
イグナイターコイル絶縁点検や制御回路廻りに関する保守全般の技術が習得できる。
第 7 回　三相交流と整流回路の研究
交流直流変換装置点検、DC-DCコンバータなど電力系ユニットが点検できる。
第 8 回　電力制御素子の研究
サイリスタ、トライアック、MOS-FETの回路構成事例が理解できる。
第 9 回　交流理論と基礎計算
交流インピーダンスの概念が理解できる。
第 10 回　直流電気回路の実務点検法研究
テスターを使った、計測基本が理解できる。
第 11 回　交流電子系回路の実務的点検方法
オシロスコープを活用した交流信号系での各種診断が理解できる。
第 12 回　各種計測法の事例研究
クランプメータでの取り扱い方などが理解できる。
第 13 回　故障時での回路保守手順方法
装置故障時での対応方法手順が鑑別できる。
第 14 回　回路のメンテナンス技法
経年変化に伴う部品劣化に伴って生じる故障要因が理解できる。
第 15 回　フェイルセーフ技術の研究
装置故障を未然に防ぐための実例回路の理解ができる。

〔成績評価〕
期末レポート（40）
小レポート（40）
授業態度（20）

〔教科書〕
特に指定なし。

〔参考文献〕
Kindle　カラー図解で一番やさしい！電気のことがわかる事典
著　戸谷次延（監修）　ISBN9784791622597 西東社

〔履修条件〕

〔備考〕
〔オフィスアワー〕
1. 学期：前期
2. 曜日・時間　：水曜日　10：00～11：30
3. 場所　：研究棟2F電気研究室
4. 連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp　　@を半角で
5. その他　LMS科目です。可能な限り、フォリーのメールで送ってください。

電気電子工学Ⅳ

4310
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
齋藤　　治

〔到達目標〕
・産業用組込マイコン制御システムについて説明ができる。
・産業機械、工場用途で稼働するシーケンサプログラム作成で、施工配線設計技法、技術動向などの説明ができる。
〔授業の概要〕
・実務計装装置内部がマイコン応用装置で構成されていることを調査する。各種電子機器を適切に扱うための有用な各種アイテム、ツールなどを用い実習する。
・学習者相互間にて、アクティブラーニング形式での相互事例紹介をおこなう。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・故障時には一瞬にてデータが消失するため、バックアップを絶えず心がけてほしい。
・開発プログラムは膨大な中間ファイルを生成するので、タイムスタンプを良く管理し、バックアップ保存に留意する。（これら資料整理に前後各2時間相当）
〔授業計画〕
第 1 回　組込マイコン回路の動向を調べる
ワンチップマイコン素子の内部動作原理が理解できる。
第 2 回　インターフェイス回路の研究
センサーが捉えた電気信号系回路の専門素子の存在の理解ができる。
第 3 回　配線部品の選定と設計技術の研究
コネクタ、各種規格部品の種類を調査して、その応用が理解できる。
第 4 回　制御記述言語選択の研究
ＯＳの種類(Windows 、Linux)や開発系言語(C、C++、アセンブラ)の特徴を研究して、応用力についての理解ができる。
第 5 回　PLCラダー言語の研究
シーケンサを代表とする産業用装置の記述言語、ラダー言語の理解ができる。
第 6 回　プログラム設計手順の手法
実務応用に帰するための各種ライブラリプログラムコーディングをすることができる。
第 7 回　電子計測装置の制御技術の研究
自動制御手法について理解ができる。
第 8 回　データ収集法と分析法の研究
デジタルサンプリング設定方法、データの解析手法の概念の理解ができる。
第 9 回　各種センサーの特性研究
信号源の音、温度、湿度、加速度、歪、ケミカルセンサーなど、センサーの特徴についての理解ができる。
第 10 回　システム構築法の研究
各種計装装置同志を接続するインターフェイスの内部構成の理解ができる。
第 11 回　組込マイコンの動向研究
専用機器に搭載される組込マイコン装置の特徴の理解ができる。
第 12 回　ハードウェアメンテナンスの実務研究
過酷な温度変化や経年変化等、各種装置でのメンテナンスの事例の理解ができる。
第 13 回　ソフトウェアメンテナンスの実務研究
論理デバックツール、シュミレータソフトを使った操作の理解ができる。
第 14 回　ソフトウェアプログラム操作の研究
システムデバッガを用いた固有プログラム操作、センサの扱いの理解ができる。
第 15 回　応用電子技術の実例紹介
システム装置内部ユニットメンテナンスについての理解ができる。
〔成績評価〕
期末レポート（40）
小レポート（40）
授業態度（20）
〔教科書〕
特に指定なし。
〔参考文献〕
Kindle　カラー図解で一番やさしい！電気のことがわかる事典
著　戸谷次延（監修）　ISBN9784791622597 西東社
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
1. 学期：前期
2. 曜日・時間　：水曜日　10：00～11：30
3. 場所　：研究棟2F電気研究室
4. 連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp　　@を半角で
5. その他　LMS科目です。可能な限り、フォリーのメールで送ってください。

情報社会と情報倫理Ⅰ

4321
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
西光　　晴彦

〔到達目標〕
時代はまさに高度通信情報化社会である。マスメディアの果たす役割は益々重要になってきている。
マスメディアから発信される情報は受信者である受け手を選ばない。そこで、この時代に生きる私たちがマスメディアにアジテートされることなくマスメディアから発信される情報を性格に判断し批判するメディアリテラシーを養成する教育の重要性について考察してゆく。
〔授業の概要〕
マスメディアから発信される情報が社会に与えてきた影響とジャーナリズムのあり方と使命について研究してゆく。そのために受講学生に毎授業終了から１週間のマスメディアの報道を興味深く観察させ次講義時に発表させ受講学生間で議論させる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：指定した配布プリントなどを熟読してくること。
復習：授業で学習した内容を復習し理解しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　マスメディアの報道
　　報道・ニュースは制作過程
第 2 回　我が国のマスメディア産業
　　種別と役割と社会に及ぼす影響
第 3 回　各所に配置される記者クラブ
　　その制約　　実態と批判
第 4 回　報道と人権1
　　匿名報道・容疑者呼称・被害者保護
第 5 回　報道と人権2
　　誤報による悪影響・報道訂正
第 6 回　各社の報道協定とその実態
　　人命尊重(誘拐報道等)
第 7 回　報道の自由と自主規制
　　伝える義務と知る権利
第 8 回　民間放送局とNHK
　　その役割と差異・監督官庁の行政指導
第 9 回　視聴者とマスメディア1
　　法規制の有無・情報立法の確立
第 10 回　視聴者とマスメディア2
　　自主規制と第3者機関の評価と監視
第 11 回　視聴者とマスメディア3
　　アクセス権・内部的自由の活動(公共性の維持)
第 12 回　営利企業としてのマスメディア1
　　新聞、雑誌の部数獲得競争の過熱
第 13 回　営利企業としてのマスメディア2
　　視聴率獲得合戦とその影響
第 14 回　より良いマスメディアの育成1
　　パブリックアクセス番組
第 15 回　より良いマスメディアの育成2
　　メディアリテラシーの向上と教育方法
〔成績評価〕
その他平常点10%
小テスト20%
定期試験70%
〔教科書〕
高等学校学習指導要領解説　情報編（平22年5月告示、文部科学省）
〔参考文献〕
資料やプリントは講義中に随時配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、情報社会・情報倫理、高一種（情報）、必修
〔オフィスアワー〕
水曜日11：30～12：00

中等教科教育法Ⅰ（技術）

4324
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
安東　　茂樹

〔到達目標〕
中学校技術科教育の授業を実践するために必要とされる知識・技能を横断的に習得する。技術科教育の歴史を理解し，現行および次期学習指導要領に示されている内容を熟知する。教育実習に臨む前に，実際に授業を遂行できる実践力を身に付ける。共に学ぶ仲間と主体的・対話的で深い学びとして協働し，技術科教育に関する理解を深める。毎時、体験的な授業で教師力を身に着けていきます。
〔授業の概要〕
中学校技術・家庭科における技術分野について，その目的，歴史的変遷，現状の課題について概説する。学生は自分の指導力の強みと弱みを知り，模擬授業により指導力の向上をめざす。授業スタイルは，学校の教室を想定したグループワークを取り入れる。教育実習に向けて，板書計画や指導案作成，ICT機器活用による効果的指導法など，実務的な能力を高める。他方，先輩教員を招聘し現場の現状と課題を認識し教師力を高める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・授業時間外の学習活動として，附属中学校の授業見学を実施しミニレポートを記述する。
・教育実習に向けた指導案作成は，授業時間外の課題とします。ノートPCの所持は必須。
・招聘講師の講話は，貴重な体験ですので、欠席がないように。
・学習指導案、模擬授業の練習などは自主学習を行うこと。
・試験では、技術科摸試を行います、日頃から技術の教科書内容を把握すること。
・授業前にテーマに関連する文献を読み解く。（120 分）

・テーマに関する興味を深めて論述（レポート作成）を行う。（120 分）

〔授業計画〕

第 1 回　中学校技術科の歴史
　　戦前から現代の教育
　　教授学習理論における、行動主義・構成主義

第 2 回　技術・家庭科の目標
　　教育にかかわる法律について

第 3 回　学習指導要領を読み解くNo1
　　総則，新旧学習指導要領の比較

第 4 回　学習指導要領を読み解くNo2
　　材料と加工の技術

第 5 回　技術分野の指導法①
　　構想図，第三角法など設計・製作図の指導方法

第 6 回　技術分野の指導法②
　　木材・金属など材料の特徴や加工法を整理し指導力を身に付ける。

第 7 回　学習指導案の作成（1）
　　設計・製図，材料と加工の分野における学習指導案を作成する。

第 8 回　学習指導要領を読み解くNo3
　　エネルギー変換（電気領域を中心に）

第 9 回　技術分野の指導法③
　　電気エネルギー変換の仕組・伝達の指導力を身に付ける。

第 10 回　技術分野の指導法④
　　機械エネルギー変換の仕組・伝達の指導力を身に付ける。

第 11 回　学習指導案の作成（2）
　　エネルギー変換の分野における学習指導案を作成する。

第 12 回　技術科の招聘講師による講話
　　本学卒業生の技術科教員を招聘した実践的な講話およびQ＆A。

第 13 回　模擬授業①
　　グループ学習の形態での模擬授業，一人10分程度

第 14 回　模擬授業②
　　グループ学習の形態での模擬授業，一人10分程度

第 15 回　教育委員会からの招聘講師による講話
　　教育行政から教育公務員としての任務についての講話

〔成績評価〕

演習への取り組み（20%）、共に学ぶ仲間との協働態度（10%）課題レポートへの取組(20%)、模擬授業における授業実践力(20%)

技術科採用試験摸試、最終試験(30%)、上記の内容を総合的に評価する

〔教科書〕

・『技術科教材論』、2021、竹谷書房

・中学校技術・家庭科文科省検定教科書（開隆堂，東京書籍）

・中学校技術・家庭科　学習指導要領解説（平成29年版，文部科学省）

〔参考文献〕

『アクティブ・ラーニングで深める技術科教育』（安東茂樹・藤本光司他，開隆堂)

『技術科教育概論』、九州大学出版会、2018

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、中一種（技術）、必修

【実務経験の活用】

現職時代の実践や経験を踏まえて、教科の実践的な指導をする

〔オフィスアワー〕

水曜日：1、2限

金曜日：4限

中等教科教育法Ⅰ（技術）

4325
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
安東　　茂樹

〔到達目標〕

・中学校技術科教育の授業を実践するために必要とされる知識･技能を横断的に習得する。（知識･技能）

・技術科教育の歴史を理解し，現行および次期学習指導要領に示されている内容を熟知する。（知識･技能）

・実際に授業を遂行できる実践力を身に付け，共に学ぶ仲間と主体的･対話的で深い学びとして協働し，技術科教育に関する理解を深める。（思考･判断･表現，関心･意欲･態度）

以上から，毎時，体験的な授業を通して教師としての力量を身に付ける。

〔授業の概要〕

中学校技術・家庭科の技術分野について，その目的，歴史的変遷，現状の課題について概説する。学生は自分の指導力の強みと弱みを知り，模擬授業により指導力の向上をめざす。授業スタイルは，学校の教室を想定したグループワークを取り入れる。

教育実習に向けて，板書計画や指導案作成，ICT機器活用による効果的指導法など，実務的な能力を高める。他方，先輩教員を招聘し現場の現状と課題を認識し教師力を高める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

「授業前の予習（90 分）」「授業後のレポート作成等（90 分）」

〔授業計画〕

第 1 回　授業のはじめに（1）
　　中学校技術科の歴史（戦前から現代の教育）

第 2 回　授業のはじめに（2）

技術･家庭科の目標，教育にかかわる法律等についての理解
第 3 回　ガイダンスと材料と加工（1）
学習指導要領を読み解くNo1：総則，新旧学習指導要領の比較
第 4 回　材料と加工（2）
学習指導要領を読み解くNo2：材料と加工の技術
第 5 回　材料と加工（3）
技術分野の指導法①：等角図，第三角法など設計・製作図の指導
第 6 回　材料と加工（4）
技術分野の指導法②：木材・金属など材料の特徴や加工法を整理し指導力の養成
第 7 回　材料と加工（5）
学習指導案の作成(1)：設計・製図，材料と加工の分野における学習指導案の作成
第 8 回　生物育成（1）
学習指導要領を読み解くNo3：生物育成の技術
第 9 回　生物育成（2）
技術分野の指導法③：生物育成における教材化と指導方法
第 10 回　生物育成（3）
学習指導案の作成(2)：生物育成の内容における学習指導案の作成
第 11 回　招聘講師による講話
本学卒業生の技術科教員を招聘した実践的な講話およびQ&A。
第 12 回　模擬授業①
グループ学習の形態でのマイクロティーチング，一人5分程度（材料加工）
第 13 回　模擬術業②
グループ学習の形態でのマイクロティーチング，一人5分程度（生物育成）
第 14 回　招聘講師による講話
教育行政から教育公務員としての任務についての講話
第 15 回　授業のまとめ
教材教具の整備と安全教育

〔成績評価〕
定期試験（40%），毎時の授業に関する小レポート（40%），授業への参加する力(質問、発表など)（20%）

〔教科書〕
・『アクティブ・ラーニングで深める技術科教育』（平成27年10月 開隆堂)
・中学校技術･家庭科文科省検定教科書（令和3年2月 開隆堂，東京書籍，教育図書）
・中学校技術･家庭科　学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）

〔参考文献〕
中学校技術科学習ノート（開隆堂出版），その他随時配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。)、中一種（技術)、必修
【実務経験の活用】
教育現場の経験を活かして、学校教育における技術科教育の指導法の在り方、教材開発の方法、及び評価活動の方法など、具体的・実践的に導入し指導する。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期　②水曜日 11:00~12:00、金曜日 12:30~13:30
③研究棟 安東研究室　④s-andoh@ashiya-u.ac.jp　⑤その他(来室の際、事前にメールでアポイントを取ること)

機械と設計

4351
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
池田　　英夫

〔到達目標〕
・機械要素の基礎的理論を知る。(知識・理解)
・ものづくりに対する関心を高め、積極的に設計や実験実習に取り組む。(関心・意欲)
・工作機械の保守点検や安全に操作する方法を知る。(知識・理解)
・１年生で履修した「設計製図Ｉ」の理解を実践的場面で発展させる。(論理的思考能力)
・中学校技術科教員として、教える立場に立った機械の操作や手工具の使い方を理解する。(技能)

〔授業の概要〕
・中学校技術科学習指導要領に示された「材料と加工の技術」及び「エネルギー変換の技術」について、実習を通して幅広い知識や技能を身に付けることをねらいとする。
・なお本科目は、機械・工作系の理論を学ぶので、「機械加工(通年・実習)」と一対の授業としていること及び後期の「機械工作」も履修することが望ましい。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
毎時間後には、学習した内容をまとめておき、配布された資料とともに、前期分の授業内容を冊子にすること。(６０分)

〔授業計画〕
第 1 回　授業ガイダンス
自己紹介、カリキュラムの説明(授業の目的と予定)、成績評価について知る。
LMSと対面授業についての説明。
第 2 回　機械の定義、機械材料
機械を定義づける。
機械に使用されている金属、非金属について学ぶ。
第 3 回　長さの測定
直尺、コンベックス、ノギス、マイクロメータ、ブロックゲージの精度、測定方法、使用例を学ぶ。

第 4 回　機械と設計、製図
機械の設計に必要な条件を考え、実技実習として与えられた課題の簡易ロボットの設計を行い、図面に表す。（斜投影図、等角図、第三角法による投影図）
第 5 回　質量及び力の計測
ダイヤルゲージ、天秤、ばねばかりの精度、測定方法を学び、実生活での使用例を探る。
第 6 回　金属材料と材料試験
金属材料の特徴と各種の材料試験(金属）の方法を学ぶ。
引張試験、衝撃試験、硬さ試験等を実際に体験する。
第 7 回　機械に作用する力
力の種類、向き、作用する力、運動の法則を学ぶ。
第 8 回　機械要素　リンク機構１
てこクランク機構、両クランク機構、平行クランク機構の理論を学ぶ。（実際に製作された機構模型を題材に）
第 9 回　機械要素　リンク機構２
両てこ機構、往復スライダークランク機構、早戻り機構の理論を学ぶ。（実際に製作された機構模型を題材に）
第 10 回　機械要素　カム装置
カムの種類とカムを利用した装置について学び、カム変位線図の描き方やその動きを解析する。
第 11 回　機械要素　歯車、プーリ、ベルト
力のいろいろな伝達の方法を学び、その一つである歯車について、種類、各部名称を知り、速度伝達比を計算で求める。（製作された機構模型を題材にする）
第 12 回　機械要素　ネジ、軸受け
ネジの原理を知り、ネジの各部の名称やタップ・ダイスによるネジ切りの方法を学ぶ。
軸の力を伝える要素、軸受けに関する要素、伝達用機械要素をまとめる。
第 13 回　溶接
溶接についての理論を学ぶ。(ビデオ等）
ガス溶接、アーク溶接、ロウ付け、ハンダ付けについて学ぶ。
第 14 回　まとめ１
前期の学びの振り返りと前期試験について。
第 15 回　まとめ２
教員採用試験について

〔成績評価〕
定期試験　６５％
授業への取り組み、レポート　３５％

〔教科書〕
図解　もの創りのための　やさしい機械工学　改訂版
門田和雄著　技術評論社

〔参考文献〕
中学校技術・家庭科　技術分野教科書(開隆堂、東京書籍）
中学校「学習指導要領解説」技術・家庭編(平成２９年、文部科学省）
技術・家庭科ハンドブック

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、機械（実習を含む)、中一種（技術)、必修

【実務経験の活用】
金属加工による作品製作の実習を通して、機械工具や各種工作機械の安全な使用方法、指導者としての心得等、指導を行う。
ロボット、機構模型の仕組みや設計を、機械工作法、機械製図、機械設計等の観点から指導を行う。

〔オフィスアワー〕
木曜日　授業終了後、１３：４０～１４：４０　金工室

デザイン論

5105
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
井上　徹

〔到達目標〕
1.デザインの意味や役割を理解し自らの言葉で説明できる。
2.日常生活の中のデザインを発見し役割を知る。

〔授業の概要〕
・私たちの生活を豊かにしてくれるデザインは社会のあらゆる分野に存在しています。
講義では、デザインのジャンルや歴史、最新動向（IT,IoT社会のデザイン）を学び、
デザインの広がりをビジュアル資料を用い講義を行います。
日常にあるデザインを発見し、あたらな可能性や広がりを考えます。
その上で、具体的に、自らの生活でどの様なデザインがあれば、より良い生活が築けるかを議論します。

・授業内レポートの発表・ディスカッションを行い、全受講者と共に検討。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
予習：まわりにあるデザインに目を向ける。(120分程度）
復習：講義内容の整理/講義内容を理解した上で次回の講義に臨む様にしてください。(120分程度）

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
・授業内容、授業の進め方について説明
・デザインとは何か？を学ぶ
第 2 回　デザイン体系
・デザインのジャンルについて学ぶ
・デザインジャンルのアンケート実施
第 3 回　2Dデザイン

・ビジュアルデザイン（ポスター・広告・雑誌）について学ぶ
第 4 回　3Dデザイン
・プロダクトデザイン（家電・自動車・車両）について学ぶ
第 5 回　建築・インテリアデザイン
・3次元空間（インテリア・建築・都市）について学ぶ
第 6 回　情報デザイン
・コミュニケーション・インターフェイスデザイン等について学ぶ
第 7 回　中間テスト
7回までの授業内容をまとめた小テストorレポート
第 8 回　デザイン史1
・欧米デザイン史（アーツアンドクラフツ～デ・スティル）について学ぶ
第 9 回　デザイン史2
・欧米デザイン史（モダニズム）について学ぶ
第 10 回　デザイン教育（バウハウスデザイン）
・バウハウスデザインとデザイン教育について学ぶ
第 11 回　日本デザイン史
日本のデザイン（江戸・明治・大正・昭和・平成）の変化と背景ついて学ぶ
第 12 回　近代デザイン
・モダニズム以降のデザインについて学ぶ
第 13 回　色彩総論
・色彩基礎理論について学ぶ
第 14 回　色彩心理学
・色彩心理学
第 15 回　デザインの未来
・デザインは今後どのような変化・進展するか

〔成績評価〕
定期試験：40%
中間試験：30%
授業内レポート・アンケート回答・発表：30%

〔教科書〕
特になし。

〔参考文献〕
阿部公正監修「世界デザイン史」美術出版社
トーマス・ハウフェ／藪亨「デザイン史入門」晃洋書房
D.A.ノーマン 「誰のためのデザイン」新曜社
その他、参考文献は授業内にて適宜資料を紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
デザイン現場の経験より、デザインの役割を初学者にも分かりやすく講義する。

〔オフィスアワー〕
1.学　期：前期・後期
2.日　時：授業終了後又は水曜日14：00～15：00
3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室
4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能
5.その他（相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容

②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。

③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

ＣＧ・ＣＡＤ技術概論Ⅰ

5202
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
井上　徹

〔到達目標〕
1.２Dデザインの基礎知識・理論を知る。
2.CGの基礎知識・理論を知る。
3.イラストソフトIllustrator及び画像処理ソフトPhotoshopの基本操作方法を身につける。

〔授業の概要〕
2D・CGデザインの基礎知識・理論を学び、社会へ出て2D・CGデザインに対応できるよう、その理論と技能を学習・体得する。
講義では、専門のアプリケーションの操作・表現・作画等の実習を分かりやすく講義します。

・授業で行った実習成果を発表し互いに評価する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：日常のデザイン・業種や仕組みを注意深く閲覧・分析をする。（120分 程度）
復習：講義・実習内容を授業終了後整理し、理解しておくこと。（120分程度）

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
・「授業内容の説明・進め方・出席方法。」
・Illustratorツール説明
第 2 回　CG概説
・「デジタル化の技術・関連ソフトの概説」
・2Dデザイン：基本図形を使用したデザイン構成
第 3 回　平面デザイン理論

・「平面デザイン画面性格・構成・基本図形」
・2Dデザイン：分割・スウォッチを使用したデザイン作成
第 4 回　色彩学
・「色彩理論・色相環」
・2Dデザイン：色相環制作・色彩構成作成
第 5 回　図形理論
・「図形分類・基本図形・フラクタル図形」
・2Dデザイン：遠近法を使用したデザイン作成
第 6 回　フォント
・「日本文字・英文字・フォントの基礎」
・2Dデザイン：文字打ち・フォント構成のデザイン作成
第 7 回　フォントデザインと文字コード
・「デザインフォントと文字コード」
・2Dデザイン：文字アウトライン方法
第 8 回　視覚心理学1
・恒常現象・錯視
・2Dデザイン：パス曲線を使用したデザイン作成
第 9 回　視覚心理学1
・恒常現象・錯視
・2Dデザイン：パス曲線を使用したデザイン作成
・ゲシュタルト原則
第 10 回　視覚心理学2
・・ゲシュタルト原則
・Photoshopツール説明
第 11 回　画像合成
・「Photoshop・画像合成」
・画像編集：クロマキー合成
第 12 回　画像処理
・「画像処理基礎」
・画像編集：画像切り抜き・マスク処理
第 13 回　知的財産権1
・「知的財産権の種類」
・画像編集：フィルター加工作成
第 14 回　知的財産権2
・「知的財産権とデザイン」
・2Dデザイン：IllustratorとPhotoshopを使用した画像合成
第 15 回　定期試験
定期試験

〔成績評価〕
定期・筆記試験：40%
授業への取組み・発表：30%
実習実作物：30%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
はぎのよしか「Adobe Illustrator基礎テキスト ACA Illustrator対応」
等その他、参考文献は授業にて紹介する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
【実務経験の活用】
実務経験より、現場で役立つ技術を初学者にも分かりやすく講義する。

〔オフィスアワー〕
1.学　期：前期・後期
2.日　時：授業終了後／水曜日14：00～15：00
3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室
4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能

5.その他（相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容

②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。

③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

マルチメディア概論Ⅰ

5203
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
森下　博行

〔到達目標〕
私たちの日常生活は、メディアと切り離せないものになっている。テレビ、ラジオ、新聞、雑誌といった従来からあるメディアはもちろん、ICTの進歩によってコンピュータ、インターネットといった「デジタル」技術を駆使したメディアも一般化している。このデジタル技術をデジタル情報とするマルチメディア技術について理解する。

〔授業の概要〕
さまざまな形態の情報を、デジタル情報として一元化し、目的に合わせて加工できるマルチメディア技術を理解し、その基本を学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
当日の朝刊等から、コンピュータ、ユビキタス、スマートフォン、ICT等、情報技術に関する問題や時事問題について調べておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　マルチメディアとコミュニケーション
ガイダンス
コミュニケーションとは
第 2 回　コミュニケーションの共通基盤

コミュニケーションの構造
第 3 回　視覚と聴覚
コミュニケーションをとるための五感（視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚）
第 4 回　デジタル・コミュニケーション
コミュニケーションをデジタル化する
第 5 回　ヒューマンインターフェース
人間とコンピュータとの橋渡し　―ヒューマンインターフェース―
第 6 回　コミュニケーション情報のデザイン
複数のメディアによる効果的な情報伝達
第 7 回　マルチメディア既存要素技術
マルチメディアのための既存要素技術
第 8 回　音声・音響
音の概念・音楽・音響
第 9 回　文書
印刷技術・文字装飾
第 10 回　映像
画像（色の三原色と光の三原色）、動画
第 11 回　マルチメディア処理技術
アナログデータをデジタルデータへの変換とは
第 12 回　サウンド処理
コンピュータで扱う音声・音響
第 13 回　符号化（デジタル化）技術
音声合成・音声認識
第 14 回　音声合成
波形処理形、生成源処理形
第 15 回　MIDIとは
電子楽器で定められた統一規格（GM、GS、XG音源とは）

〔成績評価〕
受講態度及び定期試験（筆記試験）等による評価とする。
定期試験70％
授業への取り組み10％
ノート点20％

〔教科書〕
文部科学省(最新版)
・高等学校学習指導要領
・高等学校学習指導要領解説(情報編)

〔参考文献〕
「改訂マルチメディア概論」電子開発学園出版局

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）、高一種（情報）、必修

この授業は、パソコン教室で授業支援システムを活用し、課題の配布や回収、テストなどを実施して授業を行います。また、課題の作成状況をこのシステムでモニターしながら、学習の理解状況を把握し授業を進行します。

〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

情報通信ネットワークⅠ【教職】

5204
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕
ＬＡＮ概念及びネットワークの構築と活用について実習をしながら学習をする。
ＬＡＮを導入するメリットについてスタンドアローン型と比較しながら、データ共有の利点について実際にネットワークを構築しながら学習をします。

〔授業の概要〕
実習を伴う授業です。
古いWindowsマシーンを利用しスタンドアローンの状態からネットワークを構築する。
ケーブル作成では各自がカテゴリー5ケーブルを作成し通信確認テストを行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業が始まる前には専門用語について事前学習が必要です。専門用語等については、自宅や1階のＰＣコーナーにて準備すること。また、授業後学習習熟確認プリントを配付し復習とする。

〔授業計画〕
第 1 回　スタンドアローンとネットワーク
スタンドアローンのパソコンとネットワークにつながったパソコンを見ながらその利便性について学習をする。
第 2 回　ネットワークの必要性
第1回目で見た違いを元に、なぜネットワークにつなげる必要があるのかを学習する
第 3 回　ＬＡＮの基本形
スター型、リング型などネットワークの形を詳しく説明しながら現在よく使われる形を確認してゆく
第 4 回　小規模ネットワークについて
実際にＰ２Ｐ接続からハブを使った接続をして確認をしてゆく
第 5 回　通信ケーブルの製作実習
カテゴリー5ケーブルの作成、配線時になぜ自作ケーブルが必要となるか、市販ののケーブルとともに制作実習をする
第 6 回　ＬＡＮの計画必要な機器
ＬＡＮ配線に必要な機材を確認してゆく
第 7 回　データの基礎知識
サーバーについて確認をしてデータサーバーやクラウドについて学習をする
第 8 回　小規模有線ネットワークの構築実習

ＬＡＮ配線をしながら、家庭や小規模なネットワーク構築を実習しながら学習をする
第 9 回　集線装置について
ハブについて種類と特徴について学習をする
第 10 回　ＩＰアドレスとドメインについて
ＩＰアドレスについてグローバルＩＰとプライベートＩＰについても学習をする
第 11 回　ハードディスク共有設定について
ハードディスクを利用し共有設定について学習をしその利便性について広く学習をする
第 12 回　ＬＡＮの運用について
管理者としてのＬＡＮ運営方法について考える
第 13 回　グループウェアについて
単独で動くソフトとグループウェアの違いについて操作をしながら見てゆく
第 14 回　セキュリティについて
有線と無線ＬＡＮその特性と危険性
簡易ネットワークに無線欄アクセスポイントを設置し設定実習をする
第 15 回　不正アクセスとは
ルータ機器の設置と設定

〔成績評価〕
授業態度を重視し、授業中の課題・実習および学期末試験による総合評価

〔教科書〕
図解 ネットワーク 仕事で使える基本の知識［改訂新版］

〔参考文献〕
改訂版自分のペースでゆったり学ぶTCP/IP
２台目からのパソコンＬＡＮ
文部科学省「高等学校学習指導要領第10節」

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、情報通信ネットワーク（実習を含む。）、高一種（情報）、必修

【実務経験の活用】
学校現場でのネットワーク構造やネット環境（セキュリティを含む）などについて、高校の情報教科の教員に必要なスキルを教授する。

〔オフィスアワー〕
月曜日3限

情報通信ネットワークⅠ【一般】

5205
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕
ＬＡＮ概念及びネットワークの構築と活用について実習をしながら学習をする。
ＬＡＮを導入するメリットについてスタンドアローン型と比較しながら、データ共有の利点について実際にネットワークを構築しながら学習をします。

〔授業の概要〕
実習を伴う授業です。
古いWindowsマシーンを利用しスタンドアローンの状態からネットワークを構築する。
ケーブル作成では各自がカテゴリー5ケーブルを作成し通信確認テストを行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業が始まる前には専門用語について事前学習が必要です。
また、授業後学習習熟確認プリントを配付し復習をする。

〔授業計画〕
第 1 回　スタンドアローンとネットワーク
スタンドアローンのパソコンとネットワークにつながったパソコンを見ながらその利便性について学習をする。
第 2 回　ネットワークの必要性
第1回目で見た違いを元に、なぜネットワークにつなげる必要があるのかを学習する
第 3 回　ＬＡＮの基本形
スター型、リング型などネットワークの形を詳しく説明しながら現在よく使われる形を確認してゆく
第 4 回　小規模ネットワークについて
実際にＰ２Ｐ接続からハブを使った接続をして確認をしてゆく
第 5 回　通信ケーブルの製作実習
カテゴリー5ケーブルの作成、配線時になぜ自作ケーブルが必要となるか、市販ののケーブルとともに制作実習をする
第 6 回　ＬＡＮの計画必要な機器
ＬＡＮ配線に必要な機材を確認してゆく
第 7 回　データの基礎知識
サーバーについて確認をしてデータサーバーやクラウドについて学習をする
第 8 回　小規模有線ネットワークの構築実習
ＬＡＮ配線をしながら、家庭や小規模なネットワーク構築を実習しながら学習をする
第 9 回　集線装置について
ハブについて種類と特徴について学習をする
第 10 回　ＩＰアドレスとドメインについて
ＩＰアドレスについてグローバルＩＰとプライベートＩＰについても学習をする
第 11 回　ハードディスク共有設定について
ハードディスクを利用し共有設定について学習をしその利便性について広く学習をする
第 12 回　家庭内ＬＡＮでのセキュリティ
自宅でのＬＡＮ環境を安心安全に保つためには・・を学習する
第 13 回　グループウェアについて
単独で動くソフトとグループウェアの違いについて操作をしながら見てゆく
第 14 回　セキュリティについて

有線と無線ＬＡＮその特性と危険性
簡易ネットワークに無線欄アクセスポイントを設置し設定実習をする
第 15 回　不正アクセスとは
ルータ機器の設置と設定

〔成績評価〕
授業態度を重視し、授業中の課題・実習および学期末試験による総合評価

〔教科書〕
図解 ネットワーク 仕事で使える基本の知識［改訂新版］

〔参考文献〕
改訂版自分のペースでゆったり学ぶTCP/IP
２台目からのパソコンＬＡＮ
文部科学省「高等学校学習指導要領第10節」

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
学校現場でのネットワーク構造やネット環境（セキュリティを含む）などについて、高校の情報教科の教員に必要なスキルを教授する。

〔オフィスアワー〕
月曜日3限

システム設計Ⅰ

5244
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
和田　浩一

〔到達目標〕
さまざな企業の経営管理や私たちの身近な生活を支える多くのインフラストラクチャーにおいて、いろいろな情報システムが深く関わっています。この授業では、情報システムの役割や概念を理解して、情報システム構築のための設計技法を学び、実践的な開発方法の習得を主な目標とする。さらに、情報システムの設計を通して、システム思考の考え方を身につけ、社会のいろいろな問題解決に活かせることを目的とする。

〔授業の概要〕
実際に稼動している代表的な情報システムを通して、それらのシステムの全体像を概観しながら、基本的な設計手法を詳細に学び，システム設計の基本理論の習得を目指す。また講義と並行しながらアクティブラーニングとして実用的なアプリケーションの作成を行い、その過程を通じて意見をまとめて発表などを行うことにより、講義内容の理解を深めるともに実際にシステムを設計するための力を養う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
情報システムが、どのような形で私たちの生活の中で稼働しているかを、日ごろから注意深く観察して、興味深い情報システムについては、インターネットや書籍などにより歴史や機能などを調べてまとめておく。

授業前（30分）
前回の授業で配布したプリントを必ず読み返し、次回の授業で配布プリントから１つの質問ができるように考えておく。
授業後（30分）
授業において行った小テストの内容を調べて正誤及び関連する事柄について確認しておく。

〔授業計画〕
第 1 回　システムとは
様々なシステムの紹介とシステムの分類
第 2 回　情報システムについて
情報システムの構造とシステム設計の概要
第 3 回　システム開発
システム開発の手法とその実例
第 4 回　システム分析の方法
データ中心分析，プロセス分析，オブジェクト指向分析
第 5 回　システム開発のモデル
ウォーターフォールモデル，プロトタイプモデル，スパイラルモデル
第 6 回　システム基本計画
システム化計画，プロジェクト計画，要求定義
第 7 回　システム設計
外部設計，内部設計，プログラム設計，構造化設計
第 8 回　アプリケーション作成（Ⅰ）
アプリケーション作成のための仕様の定義および設計
第 9 回　アプリケーション作成（Ⅱ）
アプリケーションプログラミング
第 10 回　システム実装
プログラミング言語の種類，構造化プログラミング，アルゴリズムとデータ構造
第 11 回　システム管理
テスト，デバッグ，テストの手法，運用，保守
第 12 回　システム評価
システム評価の方法，ブレインストーミング，マトリックス法，関連樹木法
第 13 回　システム管理方法
PERT，信頼性管理，故障解析
第 14 回　ネットワークシステム
ネットワークの種類，インターネット
第 15 回　アプリケーション作成（Ⅲ）
運用，保守，マニュアル作成

〔成績評価〕
小テスト（30%）、演習点（20%）そして試験の点数（50%）により総合的に評価する。

〔教科書〕
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　情報編（平成30年7月告示、文部科学省）
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
増田智明「図解入門 よくわかる最新システム開発者のための仕様書の基本と仕組み[第3版]」（秀和システム）

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、情報システム（実習を含む。）、高一種（情報）、必修
〔オフィスアワー〕
電子メール及び授業支援システムPhollyを利用します。金曜日の講義前後の時間に授業教室にて対応します。

ウェブデザインⅠ

5245
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
井上　徹

〔到達目標〕
1.本科目はインターネットの基礎知識とWEBデザインの基本知識を知る。
2.WEBサイト制作ソフトAdobe Dreamweaver画像処理ソフトPhotoshopを使用した、WEBデザイン基礎技術を身につける。
〔授業の概要〕
前期：インターネット・WEBデザインに関する基礎知識を学ぶ。
WEBサイト制作ソフトAdobe Dreamweaverと画像処理ソフトPhotoshopの講義と実習を行う。

・授業で行った実習成果を発表し互いに評価する。
※受講人数：20名（20名以上の場合はクラス分けを行います）
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：日常使用するWEBサイトを閲覧する際に、サイトのデザイン・業種や仕組みを注意深く閲覧すること。（120分程度）
復習：講義・実習内容を整理し、理解しておくこと。（120分程度）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
・「講義の進め方・講義内容・評価方法の説明。」
第 2 回　WEBデザインの特徴
・「WEBの特徴（ユーザビリティ・アクセシビリティ）」
第 3 回　WEBデザインの基礎知識
・「ドメイン・ファイル名のルール」
第 4 回　インターネットの仕組み
・「URL HTTP www. Smtp　等インターネットの基礎知識」
第 5 回　インターネット・WEBの歴史
・「インターネット・WEBの歴史」
第 6 回　インターフェイスデザインの基礎知識
・「インターフェイスの種類と役割」
第 7 回　文字コードとWEBデザイン
・「WEBデザインで使用する文字コード」
第 8 回　中間試験
・「第7回までの授業内容をまとめた小テストorレポート。」
第 9 回　デジタルデータの基礎知識
・「WEBで使用するデジタルデータ」
第 10 回　デジタル画像の基礎知識
・「WEBで使用する画像(jpeg/gif/png/svg)の種類と特性」
第 11 回　WEBデザイン基本用語
・「WEBデザインで使用する基本用語の説明。」
第 12 回　WEBサイトの種類と役割
・「WEBサイトの種類と役割とデザインの特長」
第 13 回　WEBサイトに関する法律
・「個人情報保護法・特定商取引法・薬事法など」
第 14 回　スマートフォンサイト
・「スマートフォンサイトの特長と注意点」
第 15 回　定期試験
・定期試験
〔成績評価〕
定期試験：40%
中間試験：30%
課題提出・実習実習実作物・レポートなど：30%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
『初級ウェブ解析士認定試験公式テキスト』ウェブ解析士協会
『Webデザイン[改訂版]』CG-ARTS協会 等
その他、参考文献は授業中に適宜紹介する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
【実務経験の活用】
多くの企業等のWEBサイトデザインの経験により得た知識と最新の動向・基礎を初学者にも分かりやすく講義する。
〔オフィスアワー〕
1.学　期：前期・後期
2.日　時：授業終了後／水曜日14：00～15：00
3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室
4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能

5.その他（相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容

②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。

・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。

③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

自動車工学1-Ⅰ

5257
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
福田　　芳行

〔到達目標〕
速度、加速度、力、トルク、出力等の各種物理量について、自動車工学基礎1-Ⅰで学習した数量計算技能並びに図表・グラフの作成技能を生かして演習問題を解き、自動車工学の理解に必要な基本的な知識と確かな数量計算技能を身につける。特に、数量を(数値×単位)として計算を進めることができるようになることを重点目標とする。

〔授業の概要〕
本時の課題提示→演習問題の板書→解答時の注意事項の補足説明→解答の作成→解答提出→教師による検閲という流れで授業を進める。毎回、定型解答用紙を配布し、解答を完了した学生については、解答内容を検閲の上、解答用紙を回収する。提出を完了した学生から退出を許可するため、最初の退出者と最後の退出者との間に時間差が乗じるが、ほとんどの場合、極めて自然発生的に解答を完了した学生と解答途中の学生との間で、教え合い、意見交換などの場面が生じる。学生同士であるが故に抵抗なく実現する有効な相互学習の場が生まれる。回収した解答用紙は、必要に応じて赤ペンを入れ、赤丸を付けて次時の授業開始前に返却する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・前時に提出した解答用紙の検閲結果に関する授業後の自己点検（30分）

〔授業計画〕
第 1 回　各種物理量の数量計算の演習①
①人間の歩行速度4(km/h)の単位を(m/s)に換算する演習問題
②定速走行している自動車が、既知の2点間距離L(m)を通過する時間t(s)から、自動車の速度Vを(km/h)の単位で求める演習問題

第 2 回　各種物理量の数量計算の演習②
①地球上に置かれた物体の既知の質量(kg)と重力加速度(m/s2)から、物体に作用する重力(N)を求める演習問題
②V1(m/s)から加速してt(s)後に、V2(m/s)になった自動車の加速度(m/s2)を求める演習問題

第 3 回　各種物理量の数量計算の演習③
①自動車の走行パターンによる移動距離L(m)の求め方の復習
②速度V1(m/s)からV2(m/s)に加速走行する自動車が、t(s)の時間に移動する距離L(m)を求める演習問題

第 4 回　力と運動（ベクトルの合成）
①向きが同じで大きさが異なる２種類の力の足し算の演習問題
②向きも大きさも異なる２種類の力の足し算の演習問題
③向きが同じで大きさが異なる２種類の力の引き算の演習問題
④向きも大きさも異なる２種類の力の引き算の演習問題
⑤向きも大きさも異なる３種類の力の足し算・引き算の演習問題(難問として提示)

第 5 回　力と運動（ベクトルの分解）
①任意の向きを持つ力を水平方向と垂直方向とに分解する演習問題
②重量が既知の物体が、高さの異なる２点から２本のロープで吊り下げられている時、それぞれのロープに作用する力を図示する演習問題(難問として提示)

第 6 回　てことモーメント・トルク
重量が既知の物体を定滑車で持ち上げる演示実験の詳細図から、物体を持ち上げるのに必要なトルクを算出し、滑車のロープを引っ張るのに必要な力を算出する演習問題

第 7 回　てこの作用、自動車の軸荷重と重心の位置
模型自動車の軸荷重（前軸荷重・後軸荷重）を上皿天秤で求めた実験結果から、模型自動車の重心の位置を求める演習問題

第 8 回　三角比とその応用①
２種類の三角定規を使って、高さの異なる２本の木の高さH1(m)、H2(m)を求める場合の原理図を書く作図演習問題

第 9 回　三角比とその応用②
前時の、木の高さの測定原理を用いて、三角定規を使って実験用卓上スタンドの高さを求める演習問題

第 10 回　仕事とエネルギー
①模型自動車とばね秤を使った物の引っ張り実験の結果から、模型自動車を一定距離L(m)だけ引っ張った時の仕事W(N)を求める演習問題
②質量(kg)が既知の物体をL(m)だけ持ち上げるのに必要な仕事W(N)を求める演習問題

第 11 回　直線仕事と動力
①力F(N)でトロッコを引っ張って、トロッコの速度がV(m/s)になったときの動力P(w)を求める演習問題
②傾斜角が既知の斜面を、質量m(kg)の円板状物体が距離L(m)だけ転がってt(s)の時間を要したときの仕事率P(w)を求める演習問題

第 12 回　回転仕事と動力
①直径d(m)の滑車で質量m(kg)の物体を持ち上げて、滑車の回転角がθ(rad)だったときの回転仕事W(J)を求める演習問題

②直径d(m)の滑車で質量m(kg)の物体を持ち上げて、滑車の回転角がθ(rad)、所要時間がt(s)だったときの回転動力P(W)を求める演習問題

第 13 回　物体の運動形態と仕事、動力①
①回転速度N(rpm)と角速度ω(rad/s)の定義と関係式を解説する
②機械の回転速度N(rpm)を角速度ω(rad/s)に換算する演習問題
③物体の角速度ω(rad/s)を回転速度N(rpm)に換算する演習問題

第 14 回　物体の運動形態と仕事、動力②
①質量m(kg)の荷物を電動ウインチで、速度V(m/s)で持ち上げるのに必要な動力P(W)を求める演習問題

第 15 回　期末試験に関する連絡及び質疑応答
期末試験の出題内容に関して、概要を箇条書きで板書、解説するとともに、これまでの学習内容における重点事項を板書で確認し、各自で復習しておくべき内容を告知するとともに、質疑応答を行う。

〔成績評価〕
評価割合
各時の授業で行った演習問題の解答の提出率：2割、期末試験の得点：8割

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
LMSの質問コーナーで、随時、対応する。

自動車工学基礎1－Ⅰ

5259
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
福田　　芳行

〔到達目標〕
速度、加速度、力、トルク、出力等の各種物理量の単位の意味を知り、数量計算技能並びに図表やグラフの作成技能を習得し、自動車工学の理解に必要な基礎的・基本的な考え方と数量計算技能を身につける。

〔授業の概要〕
本時の課題提示→課題解決に必要な重点事項の解説→例題の板書→解答の板書と解説という流れで授業を進める。学生には課題提示前に、毎回、板書筆記用の用紙を配布し、授業終了時に回収して点検の上、必要に応じて赤ペンを入れて修正し、Good(良好)か否かの評価を付加して、次時の授業開始前に返却する。この際、Good表記のない学生には、周囲の学生との間で比較検討や意見交換を行わせ、自分の筆記内容の不十分な箇所に関する自己点検を実施させる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・前時終了時に提出した筆記プリントの検閲結果に関する授業後の自己点検（30分）

〔授業計画〕

第 1 回　各種物理量の単位の意味と数量計算①
①数量計算の基本法則（加減乗除）、等式の変形法則を例題により解説する
②時間の単位：(s)、(min)、(h)とそれぞれの相互変換の仕方を例題により解説する
③速度の単位：(m/s)、(km/h)の意味とそれぞれの相互変換の仕方を例題により解説する

第 2 回　各種物理量の単位の意味と数量計算②
①力の定義と単位について解説し、例題を板書する
②重量の定義と単位について解説し、例題を板書する
③速度v(m/s)と加速度a(m/s2)の関係、加速度の計算法を解説し、例題を板書する

第 3 回　各種物理量の単位の意味と数量計算③
①速度v(m/s)と移動距離L(m)の関係、移動距離の計算法を解説し、例題を板書する
②走行パターン(定速・加速・減速)ごとの移動距離L(m)の求め方を解説し、例題を板書する

第 4 回　力と運動（ベクトルの合成・分解）①
①2種類の力の合成①（足し算）のやり方を例題により解説する
②2種類の力の合成②（引き算）のやり方を例題により解説する

第 5 回　力と運動（ベクトルの合成・分解）②
力の分解のやり方を例題により解説する

第 6 回　てことモーメント・トルク
①実験用てこによる導入実験（４通り）を提示する
②力とトルクの定義及びモーメントとトルクの同義性を解説する
③トルクの算出法を例題により解説する
④定滑車による物体の持ち上げの演示実験を行い、トルクの算出法を解説する

第 7 回　てこの作用、自動車の軸荷重と重心の位置
①てこの３点とてこの種類を解説する
②自動車の軸荷重の演示実験を行い、重心の位置の求め方を解説する

第 8 回　三角比とその応用①
①三角比(sin、cos、tan)の意味と活用目的を解説する
②三角比の実際の活用例を例題により解説する（物の高さの算出法①）

第 9 回　三角比とその応用②
①三角比の実際の活用例を卓上スタンドと三角定規を用いた実験教材により解説する（物の高さの算出法②）

第 10 回　仕事・仕事率とエネルギー・出力

①模型自動車とばね秤を使った物の引っ張り実験を提示し、仕事の定義及び仕事とエネルギーの同義性並びに仕事の算出法を例題により解説する
②定滑車・ばね秤・ストップウォッチを使った物の持ち上げ実験を提示し、仕事率の定義及び仕事率と出力・動力の同義性を解説する。
③仕事率の算出法を例題により解説する

第 11 回　直線仕事と動力
物体を直線運動させるときに必要な動力の求め方を例題により解説する

第 12 回　回転仕事と動力
物体を回転運動させるときに必要な動力の求め方を例題により解説する

第 13 回　物体の運動形態と仕事、動力①
物体の運動形態(直線運動・回転運動)と仕事、動力の関係を一覧表にまとめて解説する

第 14 回　物体の運動形態と仕事、動力②
物体の運動形態(直線運動・回転運動)と仕事、動力の関係の一覧表をもとに、いくらかの例題を板書し、重点事項を解説する

第 15 回　期末試験に関する連絡及び質疑応答
期末試験の出題内容に関して、概要を箇条書きで板書、解説するとともに、これまでの学習内容における重点事項を板書し、各自で確認しておくべき内容を告知するとともに、質疑応答を行う

〔成績評価〕
評価は期末試験のみで行う。

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
LMSの質問コーナーで、随時、対応する。

デザインマネジメント史

5308
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
井上　徹

〔到達目標〕
デザインマネジメントの始まりと進化・動向及び
デザインの歴史とマネジメントの関係を自らの言葉で説明できる事を目標としています。

1.デザイン・デザインジャンルの歴史を知る。
2.マネジメントの発生要因を歴史と関係づける。
3.デザインのマネジメント活用を歴史的に概観する。

〔授業の概要〕
企業経営（マネジメント）におけるデザインと歴史を学ぶ。グローバルな視点よりマネジメントとデザインの進化・動向を学びます。
その上で、歴史的なデザインマネジメントの事例を分かりやすく講義します。

・授業内レポートの発表・ディスカッションを行い、全受講者と共に検討。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：話題となっているデザインや企業を図書館・WEBなどを利用して調査する。（120分程度）
復習：授業後のレポート作成・講義内容を理解し、次回の講義に臨む。（120分）

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
・「講義の進め方・講義内容・評価方法の説明。」

第 2 回　デザインマネジメント史とは
・「デザインマネジメント史とは？」

第 3 回　デザインの分類
・「プロダクト・スペース・ヴィジュアル・映像の分野と役割」

第 4 回　新時代のデザイン
・「21世紀のデザイン論」

第 5 回　デザイン行為の原点
・「デザインの始まり」

第 6 回　企業活動と科学技術
・「企業活動と科学技術の進展」

第 7 回　産業革命とデザイン
・「産業革命とデザインの関係」

第 8 回　中間試験
・第7回までの授業内容をまとめた小テストorレポート。

第 9 回　マネジメントとデザインの関係①
・年代別マネジメントとデザインの役割（1950年～1970年）

第 10 回　マネジメントとデザインの関係②
・年代別マネジメントとデザインの役割（1970年～1980年）

第 11 回　マネジメントとデザインの関係③
・年代別マネジメントとデザインの役割（1980年～現代）

第 12 回　ブランドとデザイン
・ブランド形成とデザインマネジメント関係

第 13 回　デザインマネジメントの始まり01
・「コスト管理と労働管理」
・WEDGWOOD社（窯業）におけるデザインマネジメント

第 14 回　デザインマネジメントの始まり02
・「販売・広告戦略とデザインマネジメント」
・WEDGWOOD社（窯業）におけるデザインマネジメント

第 15 回　定期試験
・定期試験

〔成績評価〕
定期試験：40%
中間試験：30%
課題提出・授業内レポートなど：30%

※達成度確認の為に、授業内にて質問することがある。
〔教科書〕
特になし。
〔参考文献〕
阿部公正監修『世界デザイン史』美術出版社
坂下清監修『デザインマネジメント』武蔵野美術大学出版局　等
その他、参考文献は授業内にて適宜資料を紹介する。
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
企業のデザインマネジメント経験より実践的な手法と基礎知識の講義を行う。
〔オフィスアワー〕
1.学　期：前期・後期
2.日　時：授業終了後／水曜日14：00～15：00
3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室
4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能

5.その他（相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容

②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。

③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

デザインマネジメントⅠ

5309
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
井上　徹

〔到達目標〕
企業・組織におけるデザインマネジメントの基礎的な知識・手法を身につける事を目標にしています。
1.企業・組織とデザインの関わり知る。
2.デザインに関わるマネジメント手法を知る。
3.企業・組織におけるデザインマネジメント手法を身につける。
〔授業の概要〕
企業・組織内でデザインを有効活用できる様に
1. デザイン意味
2. デザイン機能
3. デザインの役割
3つを中心に、実例を含めたデザインマネジメント手法を分かりやすく講義します。

・授業内レポートの発表・ディスカッションを行い、全受講者と共に検討。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：1.話題の企業・デザイン等を図書館やWEBなどを利用して調査する。（120分程度）
2.次回の講義までに、授業内容の不明点を調べる事。
復習：授業内レポートの振返り／講義内容の整理（120分程度）
※講義内容を理解した上で次回の講義に臨む様にしてください。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　・デザインマネジメントとは
第 2 回　デザインの分野1
　・プロダクト・スペースデザインの分野と役割
第 3 回　デザインの分野2
　・ヴィジュアル・映像デザインの分野と役割
第 4 回　新時代のデザイン
　・21世紀のデザイン論
第 5 回　デザイナーの役割
　・デザインマネジメントにおけるデザインとデザイナーの役割
第 6 回　企業アイデンティティ1
　・CI（Corporate Identity）とデザイン
　・BI（Brand Identity）とデザイン
第 7 回　企業アイデンティティ2
　・VI（Visual Identity）とデザイン
　・PI（Product Identity）とデザイン
第 8 回　デザインとマーケティング
　・デザイン・デザインマネジメントにおけるマーケティングの基礎知識
第 9 回　法律とデザイン
　・デザイン・デザインマネジメントに関わる法律
第 10 回　エコロジーデザイン
　・エコロジカルデザインとマネジメント
第 11 回　ユニバーサルデザイン
　・ユニバーサルデザインとマネジメント
第 12 回　グローバルスタンダード
　・グローバルスタンダードとマネジメント
第 13 回　公共とデザイン
　・生活・環境（公共）に関わるデザイン
第 14 回　公共環境とデザインマネジメント
　・公共環境（空間）におけるデザインマネジメント

第 15 回　まとめ・総括
・授業のまとめ
・試験について

〔成績評価〕
定期試験：40%
中間試験：30%
授業内レポート・発表：30%
※中間試験も評価に含みます。

〔教科書〕
特になし。

〔参考文献〕
坂下清監修『デザインマネジメント』武蔵野美術大学出版局
長沢 伸也・佐藤 典司編『デザインマネジメント入門―デザインの戦略的活用 』京都新聞出版センター
その他、参考文献は授業内にて適宜紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
企業のデザインマネジメント経験より実践的な手法と基礎知識の講義を行う。

〔オフィスアワー〕
1.学　期：前期・後期
2.日　時：授業終了後／水曜日14：00～15：00
3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室
4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能

5.その他（相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容

②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。

③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑと計測・制御Ⅰ

5310
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
盛谷　亨

〔到達目標〕
コンピュータを利用した計測と制御の基本的な仕組みを学び、併せて、そのプログラミングの基礎的技法を体得することで、基礎的アルゴリズムを用いた計測・制御プログラムを作成できる。

〔授業の概要〕
プログラミング言語「HSP」と外部インタフェース「USB I/O」を利用して、機械制御の基礎的なプログラミング実習を行う。
各課題ごとに、制御アルゴリズムについてのグループ討議を行う。
前期はLEDの点灯制御を題材にオープンループ制御について学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
「情報処理基礎Ⅰ・Ⅱ」を履修し、その学習内容を理解していることを　前提とする。
専用に利用できるパーソナルコンピュータを所有し、プログラミングに　関する予習復習を行うことが可能な環境を用意することが望ましい。

〔授業計画〕
第 1 回　コンピュータ制御とは
コンピュータの制御機能について概説する。
第 2 回　コンピュータと機械の関わり
機械を自動的に動かす仕組みから、自動機械の成り立ちについて概説する。
第 3 回　制御システムの構成
コンピュータと機械の接続など、コンピュータ制御システムの構成について概説する。
第 4 回　入力装置と出力装置
入力・出力装置とその制御の仕組みについて概説する。
第 5 回　教材インタフェースの仕組み
インタフェースの役割と仕組みについて学び、教材「USB I/O」装置の機能と働きを理解する。
第 6 回　制御プログラミングの実際
USB I/Oを機能させるドライバーソフトウェアの役割と、プログラミング言語からの利用法を学ぶ。
第 7 回　LED点灯装置の仕組み
教材「LED点灯装置」の仕組みを理解し、その制御法の実習を行う。
第 8 回　順次点灯
LED点灯・消灯の手法を学び、順次点灯プログラムを作成する。
第 9 回　任意パターンの表示
ネオンサインを模し、自由点灯パターンの表示プログラムを作成する。
第 10 回　7セグメントLED表示器の仕組み
教材「7セグメントLED表示器」の仕組みを理解し、その制御法の実習を行う。
第 11 回　セグメントの対応と順次点灯
7セグメントLEDの各セグメントを、順次点灯させるプログラムを作成する。
第 12 回　数字の表示
7セグメントLEDに、0～9の数字を順次表示するプログラムを作成する。
第 13 回　スイッチ入力

外部スイッチの入力信号に従って、表示を制御するプログラムを作成る。
第 14 回　電子サイコロの製作
7セグメントLED表示器を利用した、電子サイコロプログラムを作成する。
第 15 回　まとめ
まとめとして、LED表示器を利用した、自由課題プログラムの作成を行う。

〔成績評価〕
・定期試験レポート （60%）
・授業に対する取り組み姿勢 （30%）
・課題作品 （10%）

〔教科書〕
・適時、プリントを配布する。

〔参考文献〕
・「HSPでつくる! はじめてのプログラミング HSP3.5+3Dish入門」　秀和システム
・「簡単！USBで電子制御」　オーム社
・「中学校学習指導要領　平成20年3月告示」　文部科学省
・「中学校学習指導要領解説　技術・家庭編　平成29年7月」　文部科学省

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
① 前　期
② 曜　日：月曜日　12:00～13:00
③ 場　所：研究室 （研究棟 3階）
④ 連絡先：moriya@ashiya-u.ac.jp
⑤ その他：時間に余裕があれば、いつでも対応します。

自転車整備基礎 I

5401
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
成瀬　　優享

〔到達目標〕
機械装置や構造物の役割を視覚情報から判断できるようになる。
機械装置の役割に応じて、適切な調整ができるようになる。
競技用自転車の分解・組み立て・調整ができるようになる。

〔授業の概要〕
競技用自転車を用い、各部品の名称や使用工具名称を覚える事から始める。
それぞれの装置の役割や構造、動作原理を分解組み立て・調整作業を通じて理解していく。
それぞれの機械装置について予習した内容の発表を行う。
取り組んだ作業の工夫した点、危険性等についてグループ討議を行う。
※2級自動車整備士資格取得希望者は履修のこと
※人留学生対象定員12名（内容からベトナム人留学生を優先とする）
※日本人は機械整備基礎を履修のこと
※原則的に対面授業とするが、感染症・その他事情によりオンデマンド授業を併用する場合があるので、通信環境を整えておくこと

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に指定する箇所の予習（90分）を実施すること。
授業終了後、課題を配布するので、内容を復習し次回授業開始時に提出すること。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・自転車部品各部名称
受講に関する諸注意
自転車各部の名称と役割
第 2 回　整備箇所と使用工具
整備の必要性を知り、そこで使用される工具の種類と名称を覚える
第 3 回　トルクと素材
締め付けの指標となるトルクに関する学習
軸力とトルクの関係、素材ごとの特性に関する学習
第 4 回　各種ケミカルの取扱い
整備作業で用いられるケミカル類の取り扱いと、公害や災害、予防法、適用と禁忌を学ぶ
第 5 回　タイヤ交換とパンク修理
タイヤやリムの種類ごとの構造の違いを学び、それぞれの修理方法を学ぶ
第 6 回　変速装置の分解
変速装置の分解（取り外し）作業を通じて、負荷のかかったワイヤーやスプリング等の取り扱いを学ぶ
第 7 回　変速装置の組立
変速装置の組み立て（取り付け）作業を通じて、組み立て時に必要な初期化・基準位置の重要性や、負荷がかかった状態でのネジ類締め付け技術を学ぶ
第 8 回　変速装置の調整
変速装置の調整作業を通じて、調整作業において必要となる動作原理を理解する方法を学ぶ
第 9 回　チェーンメンテナンス
チェーンメンテナンス作業を通じて、油脂類劣化による機械効率や寿命の低下を学ぶ
第 10 回　チェーン交換
チェーン交換作業を通じて、複数種類のチェーンに触れ、設計思想の多様さや使用環境により構造が異なることを学ぶ
第 11 回　ブレーキメンテナンス I
ブレーキメンテナンス作業を通じて、点検時に何を考えてどこを確認すればよいかを理解するための考え方を学ぶ
第 12 回　ブレーキメンテナンス II

ブレーキメンテナンス作業を通じて、点検時に何を考えてどこを確認すればよいかを理解するための考え方を踏まえて実作業を行い、その作業について意見交換を行う

第 13 回　クランク分解・組み付け
クランク分解・組付け作業を通じ、上下方向の運動を回転運動に変換する機構や用いられているベアリングの種類について学ぶ

第 14 回　ロールプレイングⅠ
競技車両の持ち込みメンテナンスを想定したロールプレイングの実施Ⅰ

第 15 回　ロールプレイングⅡ
競技車両の持ち込みメンテナンスを想定したロールプレイングの実施Ⅱ

〔成績評価〕
試験50% 課題・小テスト25% 態度行動、取り組み評価25%

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
自転車組立、検査及び整備マニュアル
自転車技士学科試験過去問題

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
【実務経験の活用】
整備士としての実務経験を活かし、自動車や自転車の整備作業実習をおこなう。また、物販や在庫管理に関わった経験から、関連する接客対応や商品の案内方法等を統合し、連結した実習授業の展開を行う。
潜水士として従事した各種業務より、安全・危機管理を取り入れた実技実習を行っている。

〔オフィスアワー〕
火曜日2限目（12時10分～13時40分）
※授業準備等により不在となる可能性ががあるため、事前に連絡すること

機械整備基礎

5402
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
藤本　　裕太

〔到達目標〕
整備実習を通じて機械や工具に触れ、自動車整備や機械整備に携わる基礎となる工具の正しい使い方を習得することを目的とする。

〔授業の概要〕
機械整備に用いる工具の名称と使用方法、目的や作業に伴う危険性を知る基礎的な内容から始める。
実習では工具を使用し身体の使い方、力の掛け方に重点を置いて習得し、学科では工具の名称、使用要領を把握し、使用条件に的確な選択ができる事に重点を置いて習得する。
二輪車と四輪車との相違点、共通点を元に理解を深める。
各単元ごとに、取り組みについてのディスカッションを実施する。
※自動車技術コース選択者対象
※2級ガソリン自動車整備士資格取得希望者対象
※日本人学生対象
※12名以上の場合のみ後期開講としクラス分けを行う
※PPE（Personal protection Equipment：個人保護装備）の購入や着用は講師の指示に従うこと。サンダル等、負傷する危険のある服装での履修は認めない。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に指定する箇所の予習（90分）を実施すること。
授業終了後、課題を配布するので、内容を復習し次回授業開始時に提出すること。

〔授業計画〕
第 1 回　学科：工具の説明と実習車両の説明　実習：工具の使い方、注意事項の説明
第 2 回　学科：エンジンの概要　実習：前後ホイールの脱着
第 3 回　学科：懸架装置　実習：懸架装置の構造と脱着の説明
第 4 回　学科：燃料装置　実習：キャブレターとEFIの構造と説明
第 5 回　学科：潤滑装置、冷却装置　実習：キャブレターとEFIの構造と説明
第 6 回　学科：吸排気装置　実習：キャブレターとEFIの構造と説明
第 7 回　学科：電子制御装置　実習：前後ホイールタイヤの脱着
第 8 回　学科：動力伝達装置　実習：クラッチの構造と説明
第 9 回　学科：動力伝達装置　実習：トランスミッションの構造と説明
第 10 回　学科：動力伝達装置　実習：ホイールタイヤ脱着
第 11 回　学科：ホイール及びタイヤ　実習：ホイールタイヤ脱着
第 12 回　実習：テストに向けて練習
第 13 回　実習：テストに向けて練習
第 14 回　実習テスト１回目
第 15 回　実習テスト２回目

〔成績評価〕
実技試験（９０%）
熟練度合いを測る小テスト（１０%）

〔教科書〕
授業毎参考資料配布

〔参考文献〕
無し

〔履修条件〕
資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期
②水曜日：　10：00～11：00

③場所　自動車実験室（二輪実習室）
④連絡先　fujimototecnica@gmail.com か、フォーリーのメッセージにて質問、相談してください。
⑤その他　必ずアポイントを取ること。

自動二輪整備基礎Ⅰ

5404
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
藤本　　裕太

〔到達目標〕
実習車の分解、組み立て、調整が完結出来る事を目標とする。実習を通じて工具に親しむ。
使用方法を習得すると共に、部品や工具の名称と役割を理解し、汎用可能な技能を獲得する。
〔授業の概要〕
実習車（ホンダ、スーパーカブ）を使用し、二輪車の構造、特徴、機械要素を学び、整備士としての技術と技能を開発する。
前期実習は、シャシを軸に分解整備を行う。
前期学科は、部品の名称、機能、を習得し、二輪車と四輪車との相違点、共通点の理解を深める。
各単元ごとに取り組みについてグループディスカッションを行う。
※自動車技術コース選択者対象
※留学生対象
※講義で紹介されるPPE（Personal protection Equipment：個人保護装備）の購入や着用は講師の指示に従うこと。サンダル等、負傷する危険のある服装での履修は認めない。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業時間外、授業中配布の資料にて予習復習のこと。
〔授業計画〕
第 1 回　学科：工具の説明とスーパーカブの歴史　実習：工具の使い方、注意事項の説明
第 2 回　学科：エンジンの概要　実習：前後ホイールの脱着
第 3 回　学科：懸架装置　実習：懸架装置の構造と脱着の説明
第 4 回　学科：燃料装置　実習：キャブレターとEFIの構造と説明
第 5 回　学科：潤滑装置、冷却装置　実習：キャブレターとEFIの構造と説明
第 6 回　学科：吸排気装置　実習：キャブレターとEFIの構造と説明
第 7 回　学科：電子制御装置　実習：前後ホイールタイヤの脱着
第 8 回　学科：動力伝達装置　実習：クラッチの構造と説明
第 9 回　学科：動力伝達装置　実習：トランスミッションの構造と説明
第 10 回　学科：動力伝達装置　実習：ホイールタイヤ脱着
第 11 回　学科：ホイール及びタイヤ　実習：ホイールタイヤ脱着
第 12 回　実習：テストに向けて練習
第 13 回　実習：テストに向けて練習
第 14 回　実習テスト１回目
第 15 回　実習テスト２回目
〔成績評価〕
実技試験（９０％）
熟練度合いを測る小テスト（１０％）
〔教科書〕
授業毎参考資料配布
〔参考文献〕
無し
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期
②水曜日：　10：00～11：00
③自動車実験室（二輪実習室）
④連絡先　fujimototecnica@gmail.com か、フォーリーのメッセージで質問、相談をしてください。
⑤その他　必ずアポイントメントを取ってください。

四輪自動車整備基礎1-Ⅰ

5405
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
池田　　和三

〔到達目標〕
四輪自動車に関する各種工具の基礎知識と、使用方法を身に着ける。
〔授業の概要〕
2回生までの各自動車整備士資格関連授業を受講した者を対象として能力強化を行う。
2回生まで資格志望であり関連科目受講済みで、その後資格取得を志望しなくなったものは受講できる。
3級及び2級自動車整備士の内容を各回実践形式で行う。また、各回の最終回で、それぞれの学びをまとめ、発表を行う。
※PPE（Personal protection Equipment：個人保護装備）を備えない場合、出席を認めない
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に指定する箇所の予習（90分）を実施すること。
授業終了後、課題を配布するので、内容を復習し次回授業開始時に提出すること。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション

受講に関する諸注意
個人保護具
実習車両提供に関する注意
緊急時の対応
第 2 回　基本点検作業
12カ月点検作業を通じて、効率の良い作業順序を考え、発表を行う
第 3 回　エンジンオイル・フィルター交換Ⅰ
エンジンオイル・フィルター交換に伴う作業手順・災害事例・安全対策を学ぶ
第 4 回　エンジンオイル・フィルター交換Ⅱ
エンジンオイル・フィルター交換作業を実施し、作業を通じて得られた内容についてグループ討議と発表を行う
第 5 回　ＡＴＦ・ＣＶＴＦ交換Ⅰ
ＡＴＦ・ＣＶＴＦ交換に伴う作業手順・災害事例・安全対策を学ぶ
第 6 回　ＡＴＦ・ＣＶＴＦ交換Ⅱ
ＡＴＦ・ＣＶＴＦ交換作業を実施し、作業を通じて得られた内容についてグループ討議と発表を行う
第 7 回　ブレーキメンテナンスⅠ
ブレーキメンテナンスに伴う作業手順・災害事例・安全対策を学ぶ
第 8 回　ブレーキメンテナンスⅡ
ブレーキメンテナンス作業を実施し、作業を通じて得られた内容についてグループ討議と発表を行う
第 9 回　洗車技術
車両やボディーコート、汚れごとに異なる注意点や作業手順・災害事例・安全対策を学ぶ
第 10 回　車内清掃技術
車内清掃作業に伴う作業手順・災害事例・安全対策を学ぶ
第 11 回　パンク修理
パンク修理に伴う作業手順・災害事例・安全対策を学ぶ
第 12 回　補器ベルト交換
補器ベルト交換に伴う作業手順・災害事例・安全対策を学ぶ
第 13 回　灯火類交換
灯火類交換に伴う作業手順・災害事例・安全対策を学ぶ
第 14 回　アライメント作業Ⅰ
アライメント作業に伴う作業手順・災害事例・安全対策を学ぶ
第 15 回　アライメント作業Ⅱ
アライメント作業を実施し、作業を通じて得られた内容についてグループ討議と発表を行う

〔成績評価〕
試験80％ 課題・小テスト10％ 態度行動、取り組み評価10％

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
国土交通省自動車局監修 自動車整備士養成課程教科書
・基礎自動車整備作業
・基礎自動車工学
・三級・二級自動車ガソリンエンジン
・三級・二級自動車シャシ

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、その他

〔備考〕
【実務経験の活用】
整備士としての実務経験を活かし、自動車や自転車の整備作業実習をおこなう。また、物販や在庫管理に関わった経験から、関連する接客対応や商品の案内方法等を統合し、連結した実習授業の展開を行う。
潜水士として従事した各種業務より、安全・危機管理を取り入れた実技実習を行っている。

〔オフィスアワー〕
木曜日　11：30～12：10

四輪自動車整備基礎2－Ⅰ

5406
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
池田　　和三

〔到達目標〕
四輪自動車に関する各種工具の知識と、使用方法を身に着ける。
実務現場での即戦力として活躍できる人材を育成する。

〔授業の概要〕
四輪自動車整備基礎1－Ⅰ・1－Ⅱ履修済み者を対象とする。
主に実技作業を通じて、それぞれの作業における技術・技能の向上を目指す。また、各回の最終回で、それぞれの学びをまとめ、発表を行う。
※PPE（Personal protection Equipment：個人保護装備）を備えない場合、出席を認めない

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に指定する箇所の予習（90分）を実施すること。
授業終了後、課題を配布するので、内容を復習し次回授業開始時に提出すること。

〔授業計画〕
第 1 回　エンジンメンＯＨⅠ
エンジンメンＯＨ作業を通じ、分解した部品の管理方法や再使用不可部品について学ぶ
第 2 回　エンジンメンＯＨⅡ
エンジンメンＯＨ作業を通じ、汚れの種類に応じた洗浄方法、部品ごとの管理方法を学ぶ
第 3 回　エンジンメンＯＨⅢ
エンジンメンＯＨ作業を通じ、組み立て時における調整方法を学ぶ
第 4 回　エンジンメンＯＨⅣ

エンジンメンＯＨ作業を通じ、完成検査と不具合対処の方法を学ぶ
エンジンOH最終回として、それぞれの班で取りまとめと発表、意見交換を行う
第 5 回　トランスミッションＯＨＩ
トランスミッションＯＨ作業を通じ分解した部品の管理方法やそれぞれの部品の役割を学ぶ
第 6 回　トランスミッションＯＨＩ
トランスミッションＯＨ作業を通じ、動作を理解した組み立て方法を学ぶ
最終回として、それぞれの班で取りまとめと発表、意見交換を行う
第 7 回　クラッチＯＨ
クラッチOH作業を通じ、動作を理解した組み立て方法を学ぶ
第 8 回　ディファレンシャルＯＨＩ
ディファレンシャルＯＨ作業を通じ、動作を理解した組み立て方法を学ぶ
第 9 回　ディファレンシャルＯＨⅡ
ディファレンシャルＯＨ作業を通じ、動作を理解した組み立て方法を学ぶ
ディファレンシャルOH最終回として、それぞれの班で取りまとめと発表、意見交換を行う
第 10 回　故障診断機Ⅰ
故障診断機の対応範囲と活用、症状の説明方法を学ぶ
第 11 回　故障診断機Ⅱ
故障診断機の対応範囲と活用、症状の説明方法を学ぶ
第 12 回　故障診断機Ⅲ
故障診断機の対応範囲と活用、症状の説明方法を学ぶ
故障診断機を用いたロールプレイングを実施する
第 13 回　異音探求Ⅰ
異音探求作業を通じ、動作箇所特融の音を把握し、その対応と説明方法を学ぶ
第 14 回　異音探求Ⅱ
異音探求作業を通じ、動作箇所特融の音を把握し、その対応と説明方法を学ぶ
異音探求のロールプレイングを実施する
第 15 回　異音探求Ⅲ
異音探求作業を通じ、動作箇所特融の音を把握し、その対応と説明方法を学ぶ
異音探求のロールプレイングを実施する
異音探求最終回として、それぞれの班で取りまとめと発表、意見交換を行う

〔成績評価〕
試験80% 課題・小テスト10% 態度行動、取り組み評価10%

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布

〔参考文献〕
国土交通省自動車局監修 自動車整備士養成課程教科書
・基礎自動車整備作業
・基礎自動車工学
・三級・二級自動車ガソリンエンジン
・三級・二級自動車シャシ

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、その他

〔備考〕
【実務経験の活用】
整備士としての実務経験を活かし、自動車や自転車の整備作業実習をおこなう。また、物販や在庫管理に関わった経験から、関連する接客対応や商品の案内方法等を統合し、連結した実習授業の展開を行う。
潜水士として従事した各種業務より、安全・危機管理を取り入れた実技実習を行っている。

〔オフィスアワー〕
木曜日　11：30～12：10

設備工事業経営論Ⅰ

5417
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
齋藤　治

〔到達目標〕
・電気、通信、ガス、空調、水道など各諸設備の工事事業を経営、運営する際に必要となる実務内容の概要について説明ができる。

〔授業の概要〕
・時代の専門技術をベースに展開する設備施工ビジネスの実務を体系的把握のため、事例毎に調査する。
・専門ツールを用いた施工現場でのエンジニアリング資料引用方法、ツールの扱い方などを事前調査する。
・学習者間での相互アクティブラーニングにより、理解進捗状況を確認する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・建設、設備、工務店業界で大きな存在の設備工事技術は日々、進歩している。受講者各位は、設備工事の質、施工のコスト意識を探求し、技術コストでの背景掌握情報収集をしてほしい。（事前事後に約2時間相当）

〔授業計画〕
第 1 回　設備工事業とは
電気、通信、ガス、水道その他インフラ設備工事を業とする職業は、どのようなジャンルかを知り、併せて工事設備に必要な概念の沿革の理解ができる。
第 2 回　監督官庁事業免許への届け出
各種設備工事をするにあたり、許認可をする監督官庁の存在とそれら工事に従事するライセンスの種類などの理解ができる。
第 3 回　工事従業者と労働法規
各種工事士免許が扱う資格の範囲の掌握と工事に従事する際に必要となる労働法規の概念理解ができる。
第 4 回　設計施工コストと納期計算

各種設備工事にかかる工事単価計算の基準、見落としてはならない箇所などの掌握ができる。
第 5 回　工事安全基準と監督
労働法規に基づいた工事安全ガイドラインの掌握ができる。
第 6 回　検査基準と施工評価
各種工事での検査項目や評価ポイントが理解できる。
第 7 回　各種関連法令の理解
工事実施で必要な関連法令順守項目、行政手続きなどを掌握ができる。
第 8 回　設備メンテナンス
設備保守契約に関する条項理解と定期的検査項目箇所の掌握ができる。
第 9 回　施工技術講習
工事施工技術に関わる各種技術講習情報でのポイントを掌握ができる。
第 10 回　新技法情報と講習
施工技術者向け新アイテム導入の動向、検討および情報入手ができる。
第 11 回　環境配慮対策
環境に配慮した施工方法、施工技術の具体的手順など掌握し調査する。
第 12 回　工事ヒヤリハット対策
施工工事中における、危険作業箇所部位の掌握と未然防止のための対策、理解ができる。
第 13 回　事業者のコンプライアンス
コンプライアンス事項の具体例の掌握ができる。
第 14 回　施工主、顧客への対応
施工における施工主、顧客に対する説明事項と契約内容説明のポイントを解説すし、重要箇所の理解ができる。
第 15 回　工事ノウハウと技術伝承
工事事業者に共通するスキルアップのための教育研修、先輩エンジニアからのノウハウ伝授、技術継承についての掌握ができる。

〔成績評価〕
期末レポート（20）
小レポート（60）
授業態度（20）

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
新人教育ー電気設備（社）日本電設工業協会編
ISBN9874889490763

その他、必要に応じ、授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
1. 学期：前期
2. 曜日・時間　：水曜日　10：00～11：30
3. 場所　：研究棟2F電気研究室
4. 連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp　　@を半角で
5. その他　LMS科目です。可能な限り、フォリーのメールで送ってください。

工学基礎

6110
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
盛谷　亨

〔到達目標〕
中等教育の技術科や初等教育の図工などで扱うものづくりに関連して、企画・設計・製作・改善・評価を理解し、これらを教育現場において実践できる基礎的な知識を身につけ、教科指導へ生かすことができる。

〔授業の概要〕
ソーラーカーの開発と太陽光発電を題材に、物質、エネルギー、情報など広い範囲の基礎工学を、もの作りの立場から概説する。
本学ソーラーカープロジェクトが製作した実車のソーラーカーを題材に、実習を行う。
近未来の交通、エネルギー、環境などの問題について、グループ討議も行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
インターネット等を利用し、再生可能エネルギーやソーラーカーに関する最新情報に接する機会を積極的に持つこと。
課外授業として授業時間外にも、小・中学校への訪問授業を実施する予定である。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の概要と進め方を説明する。
第 2 回　エネルギーと車社会
環境を踏まえたエネルギーの需給と、車社会の在り方について考察する。
第 3 回　太陽電池とソーラーカー
太陽電池の働きとソーラーカーの歴史や仕組みについて概説する。
第 4 回　ソーラーカーの仕組み
各単元では基幹機能について、実車を用いた実習も行う。
第 5 回　太陽電池
太陽電池の材料、種類、発電の仕組みについて学ぶ。
第 6 回　MPPT
MPPT（最大電力点追尾装置）の機能、動作の仕組みについて学ぶ。
第 7 回　モーター
モーターの材料、種類、動作の仕組みについて学ぶ。
第 8 回　バッテリー
バッテリーの材料、種類、蓄電の仕組みについて学ぶ。

第 9 回　計器と計測装置
計器と計測装置の、種類、機能、計測・操作方法について学ぶ。
第 10 回　ホディー
ホディーの材料、デザイン、空力性能について学ぶ。
第 11 回　車両の機構
車両の機構について学ぶ。
第 12 回　競技会と競技規則
競技会の歴史、各競技会の規則と競技車両の規格について概説する。
第 13 回　競技車両の規格と性能
車両の高性能化にはどのような技術が必要であるかを学ぶ。
第 14 回　エネルギーマネージメント
エネルギーマネージメントを中心とした競技の運営方について考察する。
第 15 回　ソーラーカーの実用性
現競技車両の性能を踏まえ、ソーラーカーの実用性について考察する。

〔成績評価〕
・定期試験レポート （60%）
・授業に対する取り組み姿勢 （40%）

〔教科書〕
・適時、プリントを配布する。

〔参考文献〕
・「ソーラー電気自動車のおはなし」　日本規格協会
・「エコ電気自動車のしくみと製作」　太陽エネルギー学会

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
① 前　期
② 曜　日：月曜日　12:00～13:00
③ 場　所：研究室 （研究棟 3階）
④ 連絡先：moriya@ashiya-u.ac.jp
⑤ その他：時間に余裕があれば、いつでも対応します。

栽培学

6203
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
渡　康彦

〔到達目標〕
生物育成に関する基礎的・基本的な知識及び技術を身につける。
技術と社会や環境とのかかわりについて評価できる。
技術を適切に評価し活用する能力と態度を身につける。
植物の性質と栽培のための環境条件について理解する。

〔授業の概要〕
野菜づくりのための、土づくり，土壌の種類、肥料の施し方，病害虫の防除方など，基本的な事項を学ぶ。また，基礎植物学についても学ぶ。
オンデマンド授業と対面授業を行っていく。学習者同士で話し合い、意見をまとめ発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
配布プリントを見直す（120分）
プリントでわからないこと、興味のあることなどを調べる（120分）

〔授業計画〕
第 1 回　はじめに
栽培学で何を学ぶのかについて知る。
第 2 回　植物の成長のしくみ
植物の光合成や呼吸のしくみについて考える。
第 3 回　植物の性質（1）
植物の発芽の条件とは何かについて考える。
第 4 回　植物の性質（2）
植物の開花条件と光周性について考える。
第 5 回　土壌（1）
作物に良い土の条件とは何かについて考える。
第 6 回　土壌（2）
作物の連作の弊害、植物が育つ土壌のｐH条件について考える。
第 7 回　土壌（3）
作物に良い土壌に改良するにはどうしたら良いかについて考える。
第 8 回　肥料（1）
作物が育つ栄養条件と肥料の働きについて考える。
第 9 回　肥料（2）
肥料の三要素（窒素、リン酸、カリ）について考える。
第 10 回　肥料（3）
その他の肥料について考える。
第 11 回　病害虫の防除（1）
作物の病気とその対策について考える。
第 12 回　病害虫の防除（2）
作物の害虫と防除のための農薬について考える。
第 13 回　栄養体生殖の方法
さし芽、さし木、つぎ木などの方法について考える。
第 14 回　動物の飼育
飼育する動物の性質や習性，食性，生理や発育の状況について考える。
第 15 回　生育と環境
作物栽培での気象的要素，土壌的要素，生物的要素を総括する。

〔成績評価〕
プリント提出（20%）と期末試験（80%）にて評価する。

〔教科書〕
授業中に適宜プリントを配布する。
中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（平成29年7月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、栽培（実習を含む。）、中一種（技術）、必修
〔オフィスアワー〕
木曜日2時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

栽培学実習②

6204
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
渡　　康彦

〔到達目標〕
生物育成に関する基礎的・基本的な知識及び技術を身につける。
技術と社会や環境とのかかわりについて評価できる。
技術を適切に評価し活用する能力と態度を身につける。
目的とする野菜の育成計画を立て，栽培ができる。
〔授業の概要〕
野菜の栽培や組織培養などを通して、技術科教員に必要な栽培技術を学ぶ。
畑、温室を使って野菜や花の栽培をしていく。
クリーンベンチを使って組織培養を行う。
対面授業で行っていくが、状況によってオンデマンド授業と対面授業を併用する。学習者同士で話し合い、意見をまとめ発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
中学校学習指導要領、学習指導要領解説（技術・家庭編）をよく読んでおく（120分）。
〔授業計画〕
第 1 回　はじめに
　　栽培学実習で何を学ぶのかについて知る。
第 2 回　栽培計画を立てる
　　温室や畑で栽培する野菜の栽培計画を立てる。
第 3 回　野菜の苗を植える（1）
　　キュウリ、ナス、スイカ、ピーマンなど実際に野菜のプランター栽培を行う。
第 4 回　野菜の苗を植える（2）
　　サツマイモ栽培のための畑を耕す。
第 5 回　野菜の苗を植える（3）
　　サツマイモの苗を植える。
第 6 回　畑の草取りと温室の管理
　　畑の草取りと温室の野菜の管理をする。
第 7 回　組織培養（1）
　　組織培養のための溶液の調合をする。
第 8 回　組織培養（2）
　　組織培養のための寒天培地の作成をする。
第 9 回　組織培養（3）
　　組織培養のためのニンジンを植付け、クローンニンジンをつくる。
第 10 回　畑の草取りと温室の管理
　　畑の草取りと温室の野菜の管理をする。
第 11 回　おが屑堆肥の作成
　　おが屑に鶏糞や米ぬかを混ぜて、積み込んで堆肥を作成する。
第 12 回　溶液栽培
　　カイワレダイコンなどを溶液栽培する。
第 13 回　畑の草取りと温室の管理
　　畑の草取りと温室の野菜の管理をする。
第 14 回　野菜の収穫
　　春に植えた温室の野菜を収穫する。
第 15 回　まとめ
　　栽培学実習についての総括をする。
〔成績評価〕
実習状況（80%）とレポート（20%）で評価する。
〔教科書〕
中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（平成29年7月告示、文部科学省）
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、栽培（実習を含む。）、中一種（技術）、必修
〔オフィスアワー〕
木曜日2時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

栽培学実習①

6207
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
渡　　康彦

〔到達目標〕
生物育成に関する基礎的・基本的な知識及び技術を身につける。
技術と社会や環境とのかかわりについて評価できる。
技術を適切に評価し活用する能力と態度を身につける。 目的とする野菜の育成計画を立て，栽培ができる。
〔授業の概要〕
野菜の栽培や組織培養などを通して、技術科教員に必要な栽培技術を学ぶ。
畑、温室を使って野菜や花の栽培をしていく。
クリーンベンチを使って組織培養を行う。
対面授業を行っていくが、状況によってオンデマンド授業と対面授業を併用していく。学習者同士で話し合い、意見をまとめ発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
中学校学習指導要領、学習指導要領解説（技術・家庭編）をよく読んでおく（120分）。

〔授業計画〕
第 1 回　はじめに
　　栽培学実習で何を学ぶのかについて知る。
第 2 回　栽培計画を立てる
　　温室や畑で栽培する野菜の栽培計画を立てる。
第 3 回　野菜の苗を植える（1）
　　キュウリ、ナス、スイカ、ピーマンなど実際に野菜のプランター栽培を行う。
第 4 回　野菜の苗を植える（2）
　　サツマイモ栽培のための畑を耕す。
第 5 回　野菜の苗を植える（3）
　　サツマイモの苗を植える。
第 6 回　畑の草取りと温室の管理
　　畑の草取りと温室の野菜の管理をする。
第 7 回　組織培養（1）
　　組織培養のための溶液の調合をする。
第 8 回　組織培養（2）
　　組織培養のための寒天培地の作成をする。
第 9 回　組織培養（3）
　　組織培養のためのニンジンを植付け、クローンニンジンをつくる。
第 10 回　畑の草取りと温室の管理
　　畑の草取りと温室の野菜の管理をする。
第 11 回　おが屑堆肥の作成
　　おが屑に鶏糞や米ぬかを混ぜて、積み込んで堆肥を作成する。
第 12 回　溶液栽培
　　カイワレダイコンなどを溶液栽培する。
第 13 回　畑の草取りと温室の管理
　　畑の草取りと温室の野菜の管理をする。
第 14 回　野菜の収穫
　　春に植えた温室の野菜を収穫する。
第 15 回　まとめ
　　栽培学実習についての総括をする。

〔成績評価〕
実習状況（80%）とレポート（20%）で評価する。

〔教科書〕
中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（平成29年7月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、栽培（実習を含む。）、中一種（技術）、必修

〔オフィスアワー〕
木曜日2時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

自動車整備技術1-Ⅰ

6511
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
大西　　昌哲

〔到達目標〕
2年次の自動車工学Ⅰ、および自動車工学基礎に引き続き、3級自動車ガソリンの構造･機能および整備技術を修得。

〔授業の概要〕
国土交通省の定める養成課程学科項目のうち、主に自動車整備について講義を行う。
配布する事前資料に基づいた学習を行い、その内容や疑問点についてディスカッションを実施する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備学習は前もって資料を配布するので、予習すること。復習は、毎回復習小テストを配布するので、実施・提出のこと。

〔授業計画〕
第 1 回　ガソリン・エンジン本体
　　導入、概要
第 2 回　ガソリン・エンジン本体
　　構造･機能：レシプロ・エンジン
第 3 回　ガソリン・エンジン本体
　　整備法
第 4 回　潤滑装置
　　概要
第 5 回　潤滑装置
　　構造･機能
第 6 回　潤滑装置
　　整備法：オイルポンプ、オイルフィルタ、オイル・パン
第 7 回　冷却装置
　　概要
第 8 回　冷却装置
　　構造･機能
第 9 回　冷却装置
　　整備法：ウォータ・ポンプ、サーモスタット
第 10 回　燃料装置
　　概要
第 11 回　燃料装置
　　構造･機能
第 12 回　燃料装置
　　整備法：キャブレーター　、インジェクター、他
第 13 回　吸排気装置
　　概要・構造･機能・整備
第 14 回　エンジン
　　点検・整備概要
第 15 回　エンジン
　　点検・整備法

〔成績評価〕
試験80%小テスト10%取り組み10%

〔教科書〕
国土交通省自動車局監修　自動車整備士養成課程　教科書
・基礎自動車工学
・三級自動車ガソリン
・三級自動車シャシ
〔参考文献〕
適宜紹介
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他
〔備考〕
【実務経験の活用】
ディーラー・専門学校などの勤務経験より、自動車工学、エンジン、シャシ、自動車整備士、法令、自動車整備士養成課程教育及び国家試験対応を解りやすい指導を目指します。
〔オフィスアワー〕
火曜日2限目（12時10分～13時40分）
※授業準備等により不在となる可能性があるため、事前に連絡すること。

自動車整備実習1-Ⅰ

6512
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
成瀬　優享　森木　一彦

〔到達目標〕
2年次の自動車工学実験実習および機械工作･計測実習に引き続き、前期はエンジンを主体に3級ガソリン自動車レベルから2級ガソリン自動車レベルの構造･機能および整備技術実技を修得する。
〔授業の概要〕
各単元の項目に沿った現車による実習を主体とするが、時折講義形式の解説をしながら授業を進める。
それぞれの単元ごとに取り組みについてグループディスカッションを行う。
※2級ガソリン自動車整備士資格取得希望者対象
※PPE（Personal protection Equipment：個人保護装備）を備えない場合、出席を認めない
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
前もって配布する資料の予習・各単元ごとの復習をそれぞれ90分義務付ける。
〔授業計画〕
第 1 回　ガソリン・エンジン本体
導入・概要：内燃機関分類・排ガス対策
第 2 回　ガソリン・エンジン本体
構造・機能：シリンダ・ヘッド、ブロック、ピストン
第 3 回　ガソリン・エンジン本体
整備：コンロッド、クランク、バルブ機構
第 4 回　潤滑装置
概要
第 5 回　潤滑装置
構造・機能　オイルポンプ
第 6 回　潤滑装置
整備：ストレーナー、オイルフィルター
第 7 回　冷却装置
概要
第 8 回　冷却装置
構造・機能：ウォーターポンプ、ラジエーター
第 9 回　冷却装置
構造・機能：サーモスタット、ファン
第 10 回　燃料装置
概要
第 11 回　燃料装置
構造・機能：キャブレータ、インジェクター、フューエルフィルター
第 12 回　燃料装置
フューエルタンク、フューエルポンプ
第 13 回　吸排気装置
概要：エアクリーナ、インレット・エキゾーストマニホールド他
第 14 回　エンジン
点検・整備
第 15 回　エンジン
点検・整備
〔成績評価〕
試験50％
課題製作25％
態度行動、取り組み評価25％
〔教科書〕
国土交通省自動車局監修　自動車整備士養成課程　教科書
・基礎自動車整備作業
・基礎自動車工学
・三級・二級自動車ガソリン・エンジン
・三級・二級自動車シャシ
〔参考文献〕
無し
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他
〔備考〕
【実務経験の活用】
整備士としての実務経験を活かし、自動車や自転車の整備作業実習をおこなう。また、物販や在庫管理に関わった経験から、関連する接客対応や商品の案内方法等を統合し、連結した実習授業の展開を行う。
潜水士として従事した各種業務より、安全・危機管理を取り入れた実技実習を行っている。
〔オフィスアワー〕
開講日の12時～17時

自動車整備技術2-Ⅰ

6513
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
大西　　昌哲

〔到達目標〕
整備に必要とされる車両に用いられる基礎技術の説明を行えるようになる。
整備で必要とされる機器の使用方法について説明を行えるようになる。

〔授業の概要〕
国土交通省の定める養成課程学科項目のうち、主に自動車整備、機器の構造及び取り扱いについて講義を行う。
配布する事前資料に基づいた学習を行い、その内容や疑問点についてディスカッションを実施する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備学習は前もって資料を配布するので、予習すること。
復習は、毎回復習小テストを配布するので、実施・提出のこと。

〔授業計画〕
第 1 回　電子制御の基本システム　Ⅰ
電気と電子、電流の作用等　電気の基礎知識　オームの法則など
第 2 回　電子制御の基本システム　Ⅱ
合成抵抗と電流の分流、電圧の分圧等、電気の基本回路について
第 3 回　電子制御システムの一般知識
電気の基本回路の応用と自動車に使われている実際の電気回路
第 4 回　燃料噴射装置の基本構造
燃料の流れ、電子制御外部位についての基本構造等
第 5 回　電子制御式燃料噴射装置
電子制御燃料噴射システムの部位、メーカー・システムの違い
第 6 回　電子制御式点火時期装置
機械的な電子制御と電子制御された点火時期制御の比較
第 7 回　アイドルコントロールシステム　Ⅰ
機械式ISCと電子制御ISCの相違
第 8 回　アイドルコントロールシステム　Ⅱ
ロータリー型デューティ制御、ステップモーターの作動
第 9 回　自己診断システムとOBD規制
OBD採用と排気ガス規制について、世界規模での取組み
第 10 回　OBD－Ⅱの基本
OBD規制の基礎知識とOBDの今後　故障探求に生かす方法
第 11 回　GDIやD-4等直噴システムの基本
気筒内直接燃料噴射の基礎構造とメーカー毎の工夫
第 12 回　LPG/CNGの電子制御燃料噴射装置
一般的なLPG/CNGについて　電子制御された部位の確認
第 13 回　その他、エンジンの電子制御
ディーゼルエンジンのコモンレール、最新のシステムの概略
第 14 回　ハイブリッドカーの基礎知識
トヨタ・ホンダのハイブリッドシステムの確認と労働安全衛生法５９条解説
第 15 回　燃料電池の基礎知識
自動車の近未来を考える　地球環境にかかわる今後の自動車産業

〔成績評価〕
試験80％小テスト10％取り組み10％

〔教科書〕
国土交通省自動車局監修　自動車整備士養成課程　教科書
・基礎自動車工学、基礎作業
・三級、二級自動車ガソリン
・三級、二級自動車シャシ

〔参考文献〕
適宜紹介

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
【実務経験の活用】
ディーラー・専門学校などの勤務経験より、自動車工学、エンジン、シャシ、自動車整備士、法令、自動車整備士養成課程教育及び国家試験対応を解りやすい指導を目指します。

〔オフィスアワー〕
火曜日2限目（12時10分～13時40分）
※授業準備等により不在となる可能性があるため、事前に連絡すること。

観光立国概論

7305
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
坂下　正憲

〔到達目標〕
観光・旅行産業に関心を持つ受講生に、観光・旅行産業の事業知識やその実態について、基礎から分かり易く説明する。また、旅行代理店をはじめとする観光関連産業で働くためにどうすれば良いのか、どういう意識を持てば良いのか等、就業意識や社会で働く力を高めることを目標とする。

〔授業の概要〕
主にパワーポイントを使用しての授業となる。講義を理解しやすいように適宜関連プリントを配布する。また、参考に関連映像を視聴する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前にプリントを配布するので毎回予習し、疑問点、関心事を整理するなどの事前準備をしてくる事。授業後はプリントの整理をし、理解できたことを確認する。「授業前のポイント整理（30 分）」「授業後のプリント整理と理解点の確認（30 分）」
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
講師紹介。授業概要、到達点の説明。講義方法の説明。成績評価、履修上の注意点などの説明。
第 2 回　観光の意味と仕組み
観光・旅行産業を学ぶにあたり観光の概念（意味と仕組み）について学ぶ。
第 3 回　観光の意義と効果
観光・旅行産業の基礎となる観光の意義とその効果について学ぶ。
第 4 回　世界の観光の歴史
世界の観光の歴史について欧州を例に取り、現代観光が成り立つまでの遷り変わりを説明する。
第 5 回　日本の観光の歴史
我が国の観光と旅の始まりから、現代までの遷り変わりについて学ぶ。
第 6 回　観光旅行の現状
世界の観光の動向、我が国の国内旅行の市場規模、推移と現状について学ぶ。
第 7 回　我が国の海外旅行の現状
我が国の海外観光旅行の市場規模、その推移と現状を解説する。
第 8 回　訪日外国人旅行
我が国を訪れる外国人旅行者の推移、実態と課題について学ぶ。
第 9 回　国際収支
国際収支とは何かを学び、観光産業が国際収支にどのように貢献しているのか、他国との比較も加えて検証する。
第 10 回　ツーリズムの広がり
観光の形態が見る観光から体験する観光に替わりつつある。また、環境への配慮が問われる中、期待される新しいコンセプトの観光のあり方について説明。
第 11 回　観光対象と観光資源・観光施設
観光資源や観光施設の種類を説明し、それら観光対象の特徴と評価について解説する。
第 12 回　観光地の形態
観光地の形態としてどのようなものがあるのか？温泉、社寺、町並み、都市、自然風景、リゾートなどの形態について解説する。
第 13 回　観光産業（定義と構成、JRとクルーズ）
観光に関わる企業にはどのようなものがあり、どのように関わっているのかを学ぶ。具体的な観光産業としてＪＲ、クルーズの実態について解説する。
第 14 回　観光産業（航空と宿泊産業）
前回の続きで航空産業、宿泊産業について解説する。
第 15 回　観光産業（旅行業）
最後に観光産業のまとめ役である旅行業について解説する。
〔成績評価〕
評価は、授業参加度（３０％）、レポート（２０％）、小テスト、定期テスト（５０％）に基づいて総合的に行う。
〔教科書〕
特に指定しない。適宜プリントを配布する。
〔参考文献〕
観光学入門　岡本伸之　有斐閣
観光読本　（財）日本交通公社　東洋経済社
観光概論　宍戸学他　ジェイティービー出版
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
航空関連勤務経験より、ホテル・旅館のブッキング方法や航空会社のネット予約システムやチケットの販売、販売促進、格安航空の運賃の仕組みや利益を上げる方法など実務経験に基づいて講義する。
〔オフィスアワー〕
前期
火曜日 15:20~16:20
授業終了後、講義教室にて対応します。
連絡先　sakashita31@ashiya-u.ac.jp

ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論

7308
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
東山　愛

〔到達目標〕
現在、多様化された社会の中で、なぜホスピタリティが様々な産業で注目され、組織を通してマネジメントする必要があるのか、ホスピタリティ産業の代表的な組織を取り上げ、そこで実践されているマネジメントを分析・考察することでその必要性を理解する。また具体的産業を取り上げることで、現代社会で求められる思考力・表現力・他社との協調性など「基礎的な応用力」を理解し、体得に繋げる。
〔授業の概要〕
近年、社会で取り上げられている「ホスピタリティ」を基軸とし、ホスピタリティ産業で実践されているホスピタリティマネジメントに注目する。とりわけ様々な雇用や勤務形態が発生し性別、人種、個性あふれる多様化した職場において、いかにマネジメントが重要であるかを分析し、事例研究を通して学び、理解を深める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
日常生活の様々なシーンにおいて、「気付き」を大切にし、ホスピタリティやコミュニケーションを意識して行動する。また、日ごろから新聞やニュースでホスピタリティ産業（航空・ホテル・テーマパークなど）における情報などの収集に努めておく。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業概要説明・受講ルール・評価の説明
第 2 回　ホスピタリティの原義
　　「ホスピタリティとは」言葉からのアプローチ（ホスピタリティ論からの復習）
第 3 回　異文化コミュニケーションを理解する
　　相手の「文化」「価値観」「習慣」などを考えて交流を図るコミュニケーションを理解する。
第 4 回　コミュニケーション（社会で求められる力）
　　社会で求められるホスピタリティの高い人間とは
第 5 回　コミュニケーション実習（立ち居振る舞い）
　　印象を高める立ち居振る舞い・笑顔の実践
第 6 回　コミュニケーション（敬語表現）
　　ホスピタリティとコミュニケーション　敬語表現
第 7 回　ホスピタリティ産業　事例研究Ⅰ
　　ホスピタリティ産業を分析／マネジメントする（ホテル業界）
第 8 回　CSとESの関係性①
　　CSとESの関係性を知る
第 9 回　CSとESの関係性②
　　CSとESの関係性を知る
第 10 回　ホスピタリティ産業　事例研究Ⅱ
　　ホスピタリティ産業を分析／マネジメントする（ブライダル業界）
第 11 回　ホスピタリティ産業　事例研究Ⅲ
　　ホスピタリティ産業を分析／マネジメントする（TDR　VS　USJ）
第 12 回　ホスピタリティ産業　事例研究Ⅳ
　　ホスピタリティ産業を分析／マネジメントする（航空業界）
第 13 回　ホスピタリティ産業　事例研究Ⅴ
　　ホスピタリティ産業を分析／マネジメントする（スターバックスカフェ）
第 14 回　ホスピタリティ産業　事例研究Ⅵ
　　ホスピタリティ産業を分析／マネジメントする（京料理）
第 15 回　まとめ
　　まとめ
〔成績評価〕
●定期試験　６０％
●授業内レポート　２０％
●授業への取り組み・態度・提出期限　２０％
社会人になる心得として、基本的な授業中のルール（レポート提出等の提出期限厳守・小レポートのコピペ厳禁・積極的な参加など）を守れること
〔教科書〕
適宜プリント・資料を配布
必要に応じ映像・関連DVDを使用
〔参考文献〕
「航空とホスピタリティ」
（株）ANA総合研究所（監修）山路顕（編）NTT出版
その他ホスピタリティに関する書籍・事例などを紹介
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
前期　月曜日11時30分～12時30分
LMS科目のため,質問や相談はメールかPhollyのメッセージで受付ます。
メールアドレス：higashiyama@ashiya-u.ac.jp

旅行関連事業概論

7502
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
大中　　育功

〔到達目標〕
旅行関連事業は非常に裾野の広い産業で旅行業、宿泊業、飲食業、旅客輸送業、娯楽サービス業、その他の予約サービス業など多岐にわたる。それぞれの業務の具体的な仕事内容及び経営課題と今後の展望について学習する。
◎各業種の業務内容と将来展望を把握することができるようになる。
◎将来、観光業界を目指す学生にとっては、自身の進路を選定する際に大いに役立ちます。
〔授業の概要〕
◎旅行業とその周辺事業のビジネスモデルの概要を知識面のみならず、実務面からPhollyにパワーポイント形式で掲出して解説する。
◎ツーリズム（観光）に永年従事した経験を活かして各事業の実際の業務内容を紹介します。
◎時宜をみて旅行関連の時事ニュースを取り上げ、受講生と一緒にディベートします。（対面授業の場合）
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
◎毎受講後に必ず復習を行ってください。特に専門用語については、各自で辞書を引いて意味を確認すること。（60分）
◎毎講義前の一週間分の新聞、ＴＶやネットニュースなどのツーリズム関連記事に目を通して内容を把握しておくこと。（90分）
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス（講義の進め方）
　　我が国の観光の現状と旅行業の基礎知識
第 2 回　旅行業の現状と課題①
　　国内旅行と海外旅行
　　競争の激しい業界の実態
第 3 回　旅行業の現状と課題②

インバウンドとMICE
今後も成長が見込まれるビジネスモデル
第 4 回　宿泊業の現状と課題①
ホテル業のいろいろな形態に対する基礎知識と成長が見込める業態
第 5 回　宿泊業の現状と課題②
日本旅館の二極化と民宿等のその他の宿泊施設
第 6 回　航空輸送業の現状と課題①
国際線航空と国内線航空の基礎知識
国際線のアライアンスの今後の展望
第 7 回　航空輸送業の現状と課題②
格安航空（LCC）とチャーター
伸び続けるLCCの実態と今後の展望
第 8 回　鉄道業の現状と課題
JRグループ（6社）と主要私鉄
JR各社の現状とリニア新幹線
第 9 回　クルーズ客船の現状と課題
豪華クルーズ客船
我が国の遅れている外航クルーズ普及など
第 10 回　空港施設と送迎斡旋業の現状と課題
ビジネスモデルとしての空港経営と送迎斡旋業など
第 11 回　観光バス / 添乗員とガイド / ツアーオペレーター
各業種の基礎知識と収益構造など
第 12 回　テーマパークの現状と課題
東京ディズニーリゾートやＵＳＪの実態と各施設の顧客満足度アップの戦略
第 13 回　免税店と飲食・土産店の現状と課題
今後の免税店展開と駅ナカ、道の駅、地域B級グルメビジネスなど
第 14 回　地方創生とまちづくりビジネス
地方創生と観光ビジネス
町家、史跡巡り、まつりビジネスなど
第 15 回　まとめ
講義全体のまとめ

〔成績評価〕
期末試験（筆記）：50%
授業内提出物：40%
授業への発表・取組等：10%

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
新聞各紙およびウェブサイトの観光関連ニュース・記事
その他、必要に応じて紹介

〔履修条件〕
資格取得希望者のみ

〔備考〕
【実務経験の活用】
永年のツーリズム（観光）業界の実務経験を活かして、担当科目の基礎知識と課題について解説し、学生のツーリズムに対する理解が深まるように指導する。

〔オフィスアワー〕
LMS科目になるので質問等は、Phollyの「メッセージ」で受け付けます。原則、次回の授業までに回答します。

大学生活入門　経営①

8126
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
森下　博行

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
2) 円満に意志疎通を図ることができる。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
4) 論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲
を持つことができる。

〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、前期はクラスまたは学科を軸に活動する。
・授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動
(アクティブラーニング)である。
・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業
を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
・毎時記入する小レポートは担当教員が採点返却する。これはプレゼンテーション能力を育
む。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・グループ討議内容を授業中に、プレゼン発表を行うこともある。よって、PCなどの情報機器
基礎スキル(Word、PowerPoint)は、各自で身に着けておくことを推奨する。
・次週までの課題の提示をすることがあるので、各自がテキストを事前に熟読しておくことを
望む(準備と事後で約２時間)。

〔授業計画〕
第 1 回　授業概要説明、フォリーの操作方法など
遠隔授業（LMS・フォリー）の操作方法などについて、各担当教員を通じて、操作方法を習熟ができる。
第 2 回　大学について知る
芦屋大学紹介動画を見て、大学の諸設備の位置関係や主な利用用途を知る。各担当教員のHPを見て、担当教員の顔などを知ることができるようになる。
第 3 回　各部署の紹介
大学の各部署（教務課、学生部、就職部、入試広報部、国際交流課）の紹介映像を見て、各部署の諸手続きなどを知ることができるようになる。
第 4 回　大学生としての心構え

大学生としての心構えについて学び、4年間のロードマップを参考に、大学での学修や生活について理解を深めることができる。

第 5 回　クラス別「強制連結法」
イメージされた断片情報から情報を視覚的に整理することができるようになる。

第 6 回　クラス別「A、B、C　犬バラ法 」
犬、バラなどに例え、対話、やりとり場面で、受容的に聴く力を演習する。

第 7 回　生活習慣（1）栄養
食事の重要性についての理解を深めることができるようになる。

第 8 回　生活習慣（2）運動
運動の重要性についての理解を深めることができるようになる。

第 9 回　生活習慣（3）睡眠
睡眠の重要性についての理解を深めることができるようになる。

第 10 回　クラス別「A、B、C　ジェスチャー」
ハンドジェスチャーを積極的に用いた話題の盛り上げ方、効果的に伝える力の演習をする。

第 11 回　ハラスメント・ＤＶ被害について
ハラスメント、ＤＶ被害についての認識映像を見て、理解を深めることが出来る。大学内ハラスメント防止委員会からの啓蒙情報内容に参加する。

第 12 回　違法薬物について
法律で禁じられた違法薬物使用の実態紹介セミナーに参加し、違法薬物に対する危険性についての理解を深めることができる。

第 13 回　クラス別「アサーション」
自分も相手も大切にした対応力の演習をする。

第 14 回　クラス別「問題発見と情報収集力」
新聞記事や論文紀要などから必要な情報を収集し、信憑性などの議論を通じ、課題解決スキルを向上することができるようになる。

第 15 回　まとめレポート課題
前期に実施した各メニューの振り返りをレポートにまとめる。

〔成績評価〕

・レポート評価100%
・小レポート記述(量、質)のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。

〔教科書〕

「相互理解を深める コミュニケーション実践学」沖裕貴・林徳治　ぎょうせい

〔参考文献〕

ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

月曜日1限目、水曜日1限目

大学生活入門　経営②

8128
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
林　　泰子

〔到達目標〕

1) 少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
2) 円満に意志疎通を図ることができる。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
4) 論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲を持つことができる。

〔授業の概要〕

・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、前期はクラスまたは学科を軸に活動する。
・授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動（アクティブラーニング）である。
・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
・毎時記入する小レポートは担当教員が採点返却する。これはプレゼンテーション能力を育む。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、各自で身に着けておくことを推奨する。
・次週までの課題提示があるので、事前に熟読しておくことを望む。(準備と事後で約２時間)

〔授業計画〕

第 1 回　授業概要説明、フォリーの操作方法など
遠隔授業（LMS　フォリー）の操作方法などについて、各担当教員を通じて、操作方法を習熟ができる。

第 2 回　大学について知る
芦屋大学PV2019動画を見て、大学の諸設備の位置関係や、主な利用用途を知る。各担当教員のHPを見て、担当教員の顔などを知ることができるようになる。

第 3 回　各部署の紹介
大学の各部署（教務課、学生部、就職部、入試広報部、国際交流課）の紹介映像を見て、各部署の諸手続きなどを知ることができるようになる。

第 4 回　生活習慣（1）栄養
食事の重要性についての理解を深めることができるようになる。

第 5 回　生活習慣（2）運動
運動の重要性についての理解を深めることができるようになる。
第 6 回　生活習慣（3）睡眠
睡眠の重要性についての理解を深めることができるようになる。
第 7 回　強制連結法
イメージされた断片情報から情報を視覚的に整理することができるようになる。
第 8 回　ハラスメント・ＤＶ被害について
ハラスメント、ＤＶ被害についての認識映像を見て、理解を深めることが出来る。大学内ハラスメント防止委員会からの啓蒙情報内容に参加する。
第 9 回　クラス別　A、B、C　犬バラ法
犬、バラなどに例え、対話、やりとり場面で、受容的に聴く力を演習する。
第 10 回　クラス別　A、B、C　ジェスチャー
ハンドジェスチャーを積極的に用いた話題の盛り上げ方、効果的に伝える力の演習をする。
第 11 回　アサーション
アサーション：自分も相手も大切にした対応力の演習をする。
第 12 回　違法薬物 について
法律で禁じられた違法薬物使用の実態紹介セミナーに参加し、違法薬物に対する危険性について理解を深めることができる。
第 13 回　フォトランゲージ
メディア写真特性を利用して情報構造化力を深めることができる。
第 14 回　問題発見と情報収集力
新聞記事や論文紀要などから必要な情報を収集し、信憑性などの議論を通じ、課題解決スキルを向上することができるようになる。
第 15 回　まとめレポート課題
前期実施での各メニューの振り返りをレポートにまとめる。

〔成績評価〕
・レポート評価100％
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。

〔教科書〕
相互理解を深める　コミュニケーション実践学　沖裕貴・林徳治　ぎょうせい
ISBN9784324090053

〔参考文献〕
演習用シートなどは必要に応じ、随時配布。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
1.　学期　前期
2.　曜日・時間　：月曜日　10：00～11：30
3.　場所　：研究棟３F林研究室
4.　連絡先（メールアドレス）　y.hayashi@ashiya-u.ac.jp
　　メールには学籍番号と氏名を必ず明記してください。
5.　その他　一部対面を除き、LMS科目です。

大学生活入門　経営③

8129
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
齋藤　　治

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
2) 円満に意志疎通を図ることができる。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
4) 論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲を持つことができる。

〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、クラスまたは学科を軸に活動する。
・授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動（アクティブラーニング）である。
・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
・毎時記入する小レポートは担当教員が採点返却する。これはプレゼンテーション能力を育む。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、各自で身に着けておくことを推奨する。
・次週までの課題提示があるので、事前に熟読しておくことを望む。(準備と事後で約２時間)

〔授業計画〕
第 1 回　授業概要説明、フォリーの操作方法など
遠隔授業（LMS　フォリー）の操作方法などについて、各担当教員を通じ操作方法を習熟できる。
第 2 回　大学について知る
芦屋大学PV2019動画を見て、大学の諸設備の位置関係や、主な利用用途を知る。各担当教員のHPを見て、担当教員の顔などを知ることができるようになる。
第 3 回　各部署の紹介
大学の各部署（教務課、学生部、就職部、入試広報部、国際交流課）の紹介映像を見て、各部署の諸手続きなどを知ることができるようになる。
第 4 回　大学生としての心構え
大学生としての心構えについて学び、4年間のロードマップを参考に、大学での学修や生活について理解を深めることができる。

第 5 回　強制連結法
イメージされた断片情報から情報を視覚的に整理することができるようになる。
第 6 回　クラス別　A、B、C　犬バラ法
犬、バラなどに例え、対話、やりとり場面で、受容的に聴く力を演習する。
第 7 回　生活習慣（1）栄養
食事の重要性についての理解を深めることができるようになる。
第 8 回　生活習慣（2）運動
運動の重要性についての理解を深めることができるようになる。
第 9 回　生活習慣（3）睡眠
睡眠の重要性についての理解を深めることができるようになる。
第 10 回　クラス別　A、B、C　ジェスチャー
ハンドジェスチャーを積極的に用いた話題の盛り上げ方、効果的に伝える力の演習をする。
第 11 回　ハラスメント・ＤＶ被害について
ハラスメント、ＤＶ被害についての認識映像を見て、理解を深めることが出来る。大学内ハラスメント防止委員会からの啓蒙情報内容に参加する。
第 12 回　違法薬物 について
法律で禁じられた違法薬物使用の実態紹介セミナーに参加し、違法薬物に対する危険性についての理解を深めることができる。
第 13 回　アサーション
アサーション : 自分も相手も大切にした対応力の演習をする。
第 14 回　問題発見と情報収集力
新聞記事や論文紀要などから必要な情報を収集し、信憑性などの議論を通じ、課題解決スキルを向上することができるようになる。
第 15 回　まとめレポート課題
前期実施での各メニューの振り返りをレポートにまとめる。

〔成績評価〕
・レポート評価100%
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。

〔教科書〕
相互理解を深める　コミュニケーション実践学　沖裕貴・林徳治　ぎょうせい
ISBN9784324090053

〔参考文献〕
演習用シートなどは必要に応じ、随時配布。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
1.　学期：前期
2.　曜日・時間　：水曜日　10：00～11：30
3.　場所　：研究棟2F電気研究室
4.　連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp　　@を半角で
5.　その他　一部対面を除き、LMS科目です。可能な限り、フォリーのメールで送ってください。

大学生活入門　経営④

8130
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
中谷　　有里

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
2) 円満に意志疎通を図ることができる。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
4) 論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲を持つことができる。

〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1~2名の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、前期はクラスまたは学科を軸に活動する。
・授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動(アクティブラーニング)である。
・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
・毎時記入する小レポートは担当教員が採点返却する。これはプレゼンテーション能力を育む。
・(全)記号は全学科合同での実施メニュー

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、PCなどの情報機器基礎スキル(Word、パワポ)は、各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。
・次週までの課題の提示をすることがあるので、各自がテキストを事前に熟読しておくことを望む。

〔授業計画〕
第 1 回　(全)講話(各諸部長)、授業概要、作文
講話(学部長、学生部長、各担当者紹介、など)と本授業の概要、評価の説明。
作文:「4年後に卒業する自分に宛てた手紙」の記述ワーク。
第 2 回　(全)スマホセキュリティ (教学支援部他)
学生のほぼ100%が所有のICT端末、スマホセキュリティ意識の向上を掌握理解のため、外部有識者を招いての特別一斉講座でICTセキュリティの理解を深める。
第 3 回　(全)FFSリーダー特性 (藤本他)

自己分析の判断基軸となるチャート分析シートを使って、自分の特性を客観的に理解する。また演習仲間との相互チャート比較などもおこなう。

第 4 回　(全)キャリア形成について(1)
就職部主催：働くことの意味、意義を知って、実際の就職活動や将来目指す職業への具体的な関心度を深める。

第 5 回　クラス別
A：テキスト...強制連結法の演習
B：施設...図書館利用の講話(司書)など。
※AとB...は、学科単位内構成グループ名単位の呼称。

第 6 回　クラス別
B：テキスト...強制連結法の演習
A：大学施設...図書館利用の講話(司書)など。

第 7 回　クラス別
テキスト...オーディエンス教育の実習。聴き手に求められる力を養う。

第 8 回　(全)ハラスメント・DV被害(三浦他)
ハラスメント、DV被害についての認識を映像で学び、併せて大学内ハラスメント防止委員会からの啓蒙情報等を周知する。

第 9 回　クラス別
テキスト...犬、バラなどに例え、対話、やりとり場面で、受容的に聴く力を養う。

第 10 回　クラス別
テキスト...ハンドジェスチャーを積極的に用い、話題を盛り上げ、効果的に伝える力を養う。

第 11 回　クラス別
テキスト...アサーション。自分も相手も大切にした対応おこなう力を養う。

第 12 回　(全)違法薬物動画(武田他)
法律で禁じられている違法薬物使用の実態を知り、身近に迫る誘惑の手口や怖さを知る。

第 13 回　クラス別
テキスト...図形カード。カードを並べながら、的確な指示をおこなう力を養う。

第 14 回　クラス別
テキスト...フォトランゲージ。メディアに多用されている写真が持つ特性を利用し、情報を構造化する力を養う。

第 15 回　クラス別
前期で実施した各メニューを振り返り、レポート試験受験のための準備とする。

〔成績評価〕
・レポート評価100%
・小レポート記述(量、質)のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。
※小テストやレポート課題については評価後、個別コメントつけて返します。

〔教科書〕
「相互理解を深める コミュニケーション実践学」沖裕貴・林徳治　ぎょうせい

〔参考文献〕
ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容
②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

大学生活入門　経営⑤

8131
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
成瀬　　優享

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
2) 円満に意志疎通を図ることができる。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
4) 論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲を持つことができる。

〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、クラスまたは学科を軸に活動する。
・授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動（アクティブラーニング）である。
・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
・毎時記入する小レポートは担当教員が採点返却する。これはプレゼンテーション能力を育む。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、各自で身に着けておくことを推奨する。
・次週までの課題提示があるので、事前に熟読しておくことを望む。(準備と事後で約２時間)
〔授業計画〕
第 1 回　授業概要説明、フォリーの操作方法など
遠隔授業（LMS　フォリー）の操作方法などについて、各担当教員を通じて、操作方法を習熟ができる
第 2 回　大学について知る
芦屋大学PV2019動画を見て、大学の諸設備の位置関係や、主な利用用途を知る。各担当教員のHPを見て、担当教員の顔などを知ることができるようになる。
第 3 回　各部署の紹介
大学の各部署（教務課、学生部、就職部、入試広報部、国際交流課）の紹介映像を見て、各部署の諸手続きなどを知ることができるようになる。
第 4 回　大学生としての心構え
大学生としての心構えについて学び、4年間のロードマップを参考に、大学での学修や生活について理解を深めることができる。
第 5 回　強制連結法
イメージされた断片情報から情報を視覚的に整理することができるようになる。
第 6 回　クラス別　犬バラ法
犬、バラなどに例え、対話、やりとり場面で、受容的に聴く力を演習する。
第 7 回　生活習慣（1）栄養
食事の重要性についての理解を深めることができるようになる。
第 8 回　生活習慣（2）運動
運動の重要性についての理解を深めることができるようになる。
第 9 回　生活習慣（3）睡眠
睡眠の重要性についての理解を深めることができるようになる。
第 10 回　クラス別　ジェスチャー
ハンドジェスチャーを積極的に用いた話題の盛り上げ方、効果的に伝える力の演習をする。
第 11 回　ハラスメント・ＤＶ被害について
ハラスメント、ＤＶ被害についての認識映像を見て、理解を深めることが出来る。大学内ハラスメント防止委員会からの啓蒙情報内容に参加する。
第 12 回　違法薬物 について
法律で禁じられた違法薬物使用の実態紹介セミナーに参加し、違法薬物に対する危険性についての理解を深めることができる。
第 13 回　アサーション
アサーション：自分も相手も大切にした対応力の演習をする。
第 14 回　問題発見と情報収集力
新聞記事や論文紀要などから必要な情報を収集し、信憑性などの議論を通じ、課題解決スキルを向上することができるようになる。
第 15 回　まとめレポート課題
前期実施での各メニューの振り返りをレポートにまとめる。
〔成績評価〕
・レポート評価100%
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
〔教科書〕
相互理解を深める　コミュニケーション実践学 沖裕貴・林徳治 ぎょうせい ISBN9784324090053 ￥2,000　＋　税
〔参考文献〕
演習用シートなどは必要に応じ、随時配布。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
火曜日　１２時１０分～１３時：４０分　（研究棟自動車職員室）
連絡先　naruse@ashiya-u.ac.jp
※可能な限り、フォリーのメールで送ってください。
※授業準備等により不在となる可能性があるため、事前に連絡すること
その他　一部対面を除き、LMS科目です。

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　経営②

8222
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
中村　　宏敏

〔到達目標〕
大学生の間に自分が進むべき進路（就職）を明確にするため、各方面の卒業生に来ていただき自分の将来像を描くことが出来ることを目的とする。
〔授業の概要〕
多くの時間本学の卒業生（先輩）に来ていただき、過去の就活体験談や学生生活を振り返った講話をいただきます。また、今大学生の時にしておけば良かったこと、現在の2年生に伝えたいことをお話しいただきます。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：自分が進むべき進路とそれに向けて何をすべきかどう行動するべきかを考える。[120分程度]
復習：講義内容を整理し、講義内の不明点を次回講義までに解決する。[120分程度]
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション ①
・「前期学事予定・履修登録確認」
第 2 回　オリエンテーション ②
・「クラス編成：所属コースとクラスの確認」
第 3 回　学外講師を迎えての講義の前に

・「次回より外部講師をお迎えしてキャリア教育を行うに当たり事前指導」
第 4 回　外部講師1
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。
第 5 回　外部講師2
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。
第 6 回　外部講師3
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。
第 7 回　外部講師4
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。
第 8 回　外部講師5
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。
第 9 回　卒業後の進路について
・「自身の現状と将来に向けた計画について[専門演習の選択について]」
第 10 回　就職部の活用方法
・「就職部の活用方法」
第 11 回　キャリアデザインについて
・「キャリアデザインについて考える。」
第 12 回　専門演習説明会
・「経営教育学科 専門演習担当教員の紹介と各演習内容の説明」
第 13 回　オリエンテーション ③
・「 専門演習 事前授業 （プレゼミ） についての説明」
第 14 回　前期試験・夏期休暇について
・「前期試験・夏期休暇についての心得」
第 15 回　定期試験
・「定期試験」

〔成績評価〕
・課題レポート（100%）
※各回聴講レポートを記入し提出。

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容
②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。
③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　経営③

8223
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
井上　徹

〔到達目標〕
大学生の間に自分が進むべき進路（就職）を明確にするため、各方面の卒業生に来ていただき自分の将来像を描くことが出来ることを目的とする。

〔授業の概要〕
多くの時間本学の卒業生（先輩）に来ていただき、過去の就活体験談や学生生活を振り返った講話をいただきます。また、今大学生の時にしておけば良かったこと、現在の2年生に伝えたいことをお話しいただきます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：自分が進むべき進路とそれに向けて何をすべきかどう行動するべきかを考える。[120分程度]
復習：講義内容を整理し、講義内の不明点を次回講義までに解決する。[120分程度]

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション ①
・「前期学事予定・履修登録確認」
第 2 回　オリエンテーション ②
・「クラス編成：所属コースとクラスの確認」
第 3 回　学外講師を迎えての講義の前に
・「次回より外部講師をお迎えしてキャリア教育を行うに当たり事前指導」
第 4 回　外部講師1
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。
第 5 回　外部講師2
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就

職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。
第 6 回　外部講師3
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。
第 7 回　外部講師4
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。
第 8 回　外部講師5
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。
第 9 回　卒業後の進路について
・「自身の現状と将来に向けた計画について[専門演習の選択について]」
第 10 回　就職部の活用方法
・「就職部の活用方法」
第 11 回　キャリアデザインについて
・「キャリアデザインについて考える。」
第 12 回　専門演習説明会
・「経営教育学科 専門演習担当教員の紹介と各演習内容の説明」
第 13 回　オリエンテーション ③
・「 専門演習 事前授業 （プレゼミ） についての説明」
第 14 回　前期試験・夏期休暇について
・「前期試験・夏期休暇についての心得」
第 15 回　定期試験
・「定期試験」

〔成績評価〕
・課題レポート（100%）
※各回聴講レポートを記入し提出。

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
1.学　期：前期・後期
2.日　時：授業終了後／水曜日14：00～15：00
3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室
4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能
5.その他（相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容
②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。
③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　経営④

8224
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
池田　聡

〔到達目標〕
大学生の間に自分が進むべき進路（就職）を明確にするため、各方面の卒業生に来ていただき自分の将来像を描くことが出来ることを目的とする。

〔授業の概要〕
多くの時間本学の卒業生（先輩）に来ていただき、過去の就活体験談や学生生活を振り返った講話をいただきます。また、今大学生の時にしておけば良かったこと、現在の2年生に伝えたいことをお話しいただきます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：自分が進むべき進路とそれに向けて何をすべきかどう行動するべきかを考える。[120分程度]
復習：講義内容を整理し、講義内の不明点を次回講義までに解決する。[120分程度]

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション ①
・「前期学事予定・履修登録確認」
第 2 回　オリエンテーション ②
・「クラス編成：所属コースとクラスの確認」
第 3 回　学外講師を迎えての講義の前に
・「次回より外部講師をお迎えしてキャリア教育を行うに当たり事前指導」
第 4 回　外部講師1
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。
第 5 回　外部講師2
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。
第 6 回　外部講師3
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。

第 7 回　外部講師4
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。
第 8 回　外部講師5
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。
第 9 回　卒業後の進路について
・「自身の現状と将来に向けた計画について[専門演習の選択について]」
第 10 回　就職部の活用方法
・「就職部の活用方法」
第 11 回　キャリアデザインについて
・「キャリアデザインについて考える。」
第 12 回　専門演習説明会
・「経営教育学科 専門演習担当教員の紹介と各演習内容の説明」
第 13 回　オリエンテーション ③
・「 専門演習 事前授業 （プレゼミ） についての説明」
第 14 回　前期試験・夏期休暇について
・「前期試験・夏期休暇についての心得」
第 15 回　定期試験
・「定期試験」

〔成績評価〕
・課題レポート（100%）
※各回聴講レポートを記入し提出。

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容
②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。
③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　経営⑤

8225
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
松本　　達也

〔到達目標〕
大学生の間に自分が進むべき進路（就職）を明確にするため、各方面の卒業生に来ていただき自分の将来像を描くことが出来ることを目的とする。

〔授業の概要〕
多くの時間本学の卒業生（先輩）に来ていただき、過去の就活体験談や学生生活を振り返った講話をいただきます。
また、今大学生の時にしておけば良かったこと、現在の2年生に伝えたいことをお話しいただきます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：自分が進むべき進路とそれに向けて何をすべきかどう行動するべきかを考える。[120分程度]
復習：講義内容を整理し、講義内の不明点を次回講義までに解決する。[120分程度]

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション ①
・「前期学事予定・履修登録確認」
第 2 回　オリエンテーション ②
・「クラス編成：所属コースとクラスの確認」
第 3 回　学外講師を迎えての講義の前に
・「次回より外部講師をお迎えしてキャリア教育を行うに当たり事前指導」
第 4 回　外部講師1
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。
第 5 回　外部講師2
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。
第 6 回　外部講師3
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。
第 7 回　外部講師4
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。
第 8 回　外部講師5
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。

第 9 回　卒業後の進路について
・「自身の現状と将来に向けた計画について[専門演習の選択について]」
第 10 回　就職部の活用方法
・「就職部の活用方法」
第 11 回　キャリアデザインについて
・「キャリアデザインについて考える。」
第 12 回　専門演習説明会
・「経営教育学科 専門演習担当教員の紹介と各演習内容の説明」
第 13 回　オリエンテーション ③
・「 専門演習 事前授業 （プレゼミ） についての説明」
第 14 回　前期試験・夏期休暇について
・「前期試験・夏期休暇についての心得」
第 15 回　定期試験
・「定期試験」

〔成績評価〕
・課題レポート（100%）
※各回聴講レポートを記入し提出。

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容
②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。
③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

演習Ⅰ【電気利用技術】

8308
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
齋藤　治

〔到達目標〕
・電気電子工学専門用語の理解を深めた説明ができる。
・電気単位系、基本的測定法の演習を通じエレクトロニクス応用スキル場面に寄与参加ができる。

〔授業の概要〕
・実習用電気教材や測定器テスターを用い、電気電子部品の名称呼称、電気回路の各部導通点検、電子回路配線を理解しながら操作します。
・複数名受講者での場面は、異なる部品の測定値の相違をお互いグループにて発表します。（実験体験がアクティブラーニングに相当）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
電子回路実習演習で得られた計測のデータ、回路図や実体ワーク配線資料など、次の配線研究継続のため、各自のノート…以後、自分ノート、に記録をまとめ、付属資料の整理をしておきます。（前後2時間程度）

〔授業計画〕
第 1 回　電気電子の歴史と発明者を知ろう
電圧、電流、抵抗の基本的な単位の名前と測定の方法を体験し調査理解ができる。
第 2 回　計測器…テスターの使い方をマスターしよう
電圧の直流、交流の違いを比較します。抵抗は内部電池で動くので、極性も確認します。電流配線を間違えず、正しい測定法の理解ができる。
第 3 回　抵抗の種類や計算方法を理解しよう
抵抗部品の複数抵抗測定を、計算式で求める方法、計算ができる。
第 4 回　コンデンサやコイルの電気単位を知ろう
抵抗以外、コンデンサ、コイル、の働きについて測定実験ができる。
第 5 回　半導体を知ろう
ダイオード、ＬＥＤ、トランジスタ半導体の仲間の種類を調べます。半導体電極の独特名前を調べ、接続配線図を描くことができる。
第 6 回　交流の単位を知ろう
テスターで簡単に測定ができない交流の固有電圧名称や、周波数の電気単位を調査するこができる。
第 7 回　照明器具の種類を知ろう
ＬＥＤ照明器具や従前の照明器具の歴史を知って回路の特徴を理解できる。
第 8 回　蛍光灯回路照明器具の仕組みを知ろう
蛍光灯照明器具内部の独特回路工夫についての理解ができる。
第 9 回　モータの種類を知ろう
直流と交流の違いによってブラシ有無の独特な制御回路を持つモータを調べ、多くの種類の固有個別名称の理解ができる。
第 10 回　電熱ヒータの仲間を知ろう
調理、空調、家庭用の各種電気製品に用いる電熱ヒータ特性研究し、特徴の理解ができる。
第 11 回　調理家電の特徴を知ろう
加熱方法でヒータ以外、ＩＨ電磁コンロ、電子レンジの加熱技術について特徴を比較、特徴の理解ができる。
第 12 回　音響機器の特徴を知ろう
携帯IPhoneやBluetoothスピーカーに搭載される小型音響機器を調べ、特徴を理解できる。

第 13 回　電子映像機器の特徴を知ろう
パソコン接続画面モニタ、プロジェクタなど、映像表示装置の特徴を理解できる。
第 14 回　簡単なハンダ付けの要領を知りましょう
電子部品を接続の際に重要なハンダこて作業要領の理解ができる。
第 15 回　コネクタの種類や名称を知りましょう
電気配線時での多種多様コネクタ接続について研究し、種類名称の分類整理が理解できる。

〔成績評価〕

記述ノート評価：100%
各ワークテーマごとに理解の達成度を自己評価、自己採点をし、自分ノートに記載します。難しかった用語の理解等、課題や各自の宿題事項もを録をし、自分ノート充実度に応じた総合評価とします。

〔教科書〕

各テーマに応じた実習室内にある実在模型や教材など。
テーマ内容に応じ、各種プリント類やネットＵＲＬの引用を行います。

〔参考文献〕

ゼミ授業内にて適宜、必要資料を提示、配布します。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

1.　学期：前期
2.　曜日・時間　：水曜日　10：00～11：30
3.　場所　：研究棟2F電気研究室
4.　連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp　…@を半角で
5.　その他　LMS科目です。可能な限り、フォリーのメールで送ってください。

演習Ｉ【技術とものづくり】

8314
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
瀧　　巌

〔到達目標〕

・製作学習を中心とし、製作の為に必要な基本的技能や知識を身に付けさせる

〔授業の概要〕

・自己アピール、面接の仕方、文章の書き方
・木製品の製作において製作品の機能・構造・材料の加工などを研究する

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・過去の試験問題の勉強

〔授業計画〕

第 1 回　自分自身のアピール
・ゼミの説明
・自己紹介・長所・特技など発表させる
第 2 回　面接の仕方
・個人面接・団体面接の違い
第 3 回　文章を書かせる
・題目をつけて文章を書かせる（作文）
第 4 回　小論文の書き方
・題目をつけて書かせる（質問をする）
第 5 回　卒業論文について説明する
・実習論文の書き方の説明
第 6 回　木工具　1　鋸
・鋸の機能と種類（縦挽き鋸・横挽き鋸・両刃鋸・同付き鋸）
第 7 回　木工具　2　鉋
・鉋の機能と種類（鉋の材料と構造・鉋身・鉋の仕込み勾配・鉋場の研磨）
第 8 回　木工具　3　鉋
・鉋削りの方法（鉋削りの姿勢と要領・鉋削りの順序と注意）
第 9 回　木工具　4　けびき
・けびきの機能と種類（けびきの構造と用途及び寸法・けびきの使用方法
第 10 回　木工具　5　のみ
・のみの機能と種類・のみの構造と各部の名称
・のみの使用上の注意
第 11 回　木工具　6　玄能・金槌・木槌
・種類と用途・使用法
第 12 回　各部材の木取りと部品加工　1
・板材を使い三枚組継を作らせる
第 13 回　各部材の木取りと部品加工　2
・４㎝の角材を使い通しほぞを作らせる
第 14 回　木製品の製作　1
・木工具の構造と正しい使用法を理解させ製作に即した加工を出来るようにさせる
第 15 回　木製品の製作　2
・本立ての製作

〔成績評価〕

レポートを書かせる

〔教科書〕

・特になし

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

・金曜日　2時限目

演習Ⅰ【マスコミ文化論】

8317
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
西光　晴彦

〔到達目標〕
現代社会におけるマスコミの果たす役割を認識しながらマスコミの成立過程を理解する。

〔授業の概要〕
マスコミの歴史と、その時代におけるマスコミの活用、そして実社会での発展を具体的に学ぶにあたって実際のマスメディア活動から理解する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の授業内で説明することとするが、基本原則は当日受講した内容要点のレポート提出と次回授業内容の告知し事前学習させる。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の年間計画、メディア接触率アンケート実施
第 2 回　マス・コミの成立
マス・コミの歴史と発展と、その時代への影響と役割
第 3 回　マス・コミと大衆文化①
文化の消費者としての大衆(社会的影響)
第 4 回　マス・コミと大衆文化②
商品としての大衆文化「テクノロジーとコミュニケーション技術の発達による」
第 5 回　マス・コミの影響過程①
放送技術とメディアの状況の解説
第 6 回　マス・コミの影響過程②
小集団とオピニオン・リーダーシップ「大衆支配のネットワーク」
第 7 回　マス・コミの影響過程③
マス・メデイアの受け手の相対的独立性
第 8 回　放送の歴史（黎明期）
放送の役割を歴史的に検証する。三回連続で、それぞれ初期、中期、後期に
分けて、特に欧米での歴史的発達段階を中心に考察しながら、その未来像を
探る放送の歴史的発展状況を理解した上で、四回連続で現代社会において、放送が
担っている役割を、娯楽、教養、報道、そして教育にジャンル分けにして、
それぞれ具体例、具体的番組を多面的に提示しながら明らかにする。
第 9 回　放送の歴史（発展期）
放送の役割を歴史的に検証する。三回連続で、それぞれ初期、中期、後期に
分けて、特に欧米での歴史的発達段階を中心に考察しながら、その未来像を
探る放送の歴史的発展状況を理解した上で、四回連続で現代社会において、放送が
担っている役割を、娯楽、教養、報道、そして教育にジャンル分けにして、
それぞれ具体例、具体的番組を多面的に提示しながら明らかにする。
第 10 回　放送の歴史（現代）
放送の役割を歴史的に検証する。三回連続で、それぞれ初期、中期、後期に
分けて、特に欧米での歴史的発達段階を中心に考察しながら、その未来像を
探る放送の歴史的発展状況を理解した上で、四回連続で現代社会において、放送が
担っている役割を、娯楽、教養、報道、そして教育にジャンル分けにして、
それぞれ具体例、具体的番組を多面的に提示しながら明らかにする。
第 11 回　放送の可能性（娯楽）
放送の役割を歴史的に検証する。三回連続で、それぞれ初期、中期、後期に
分けて、特に欧米での歴史的発達段階を中心に考察しながら、その未来像を
探る放送の歴史的発展状況を理解した上で、四回連続で現代社会において、放送が
担っている役割を、娯楽、教養、報道、そして教育にジャンル分けにして、
それぞれ具体例、具体的番組を多面的に提示しながら明らかにする。
第 12 回　放送の可能性（教養）
放送の役割を歴史的に検証する。三回連続で、それぞれ初期、中期、後期に
分けて、特に欧米での歴史的発達段階を中心に考察しながら、その未来像を
探る放送の歴史的発展状況を理解した上で、四回連続で現代社会において、放送が
担っている役割を、娯楽、教養、報道、そして教育にジャンル分けにして、
それぞれ具体例、具体的番組を多面的に提示しながら明らかにする。
第 13 回　放送の可能性（報道）
放送の役割を歴史的に検証する。三回連続で、それぞれ初期、中期、後期に
分けて、特に欧米での歴史的発達段階を中心に考察しながら、その未来像を
探る放送の歴史的発展状況を理解した上で、四回連続で現代社会において、放送が
担っている役割を、娯楽、教養、報道、そして教育にジャンル分けにして、
それぞれ具体例、具体的番組を多面的に提示しながら明らかにする。
第 14 回　放送の可能性（教育）
放送の役割を歴史的に検証する。三回連続で、それぞれ初期、中期、後期に
分けて、特に欧米での歴史的発達段階を中心に考察しながら、その未来像を
探る放送の歴史的発展状況を理解した上で、四回

連続で現代社会において、放送が
担っている役割を、娯楽、教養、報道、そして教育にジャンル分けにして、
それぞれ具体例、具体的番組を多面的に提示しながら明らかにする。
第 15 回　前期まとめ質問討論会
前期授業を総括しながら、質問討論会を行い学生の総合理解力を受講者に提示する。

〔成績評価〕
授業への集中度、随時提出するレポートの内容評価、筆記試験の結果などを総合的に判断する。

〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」など

〔参考文献〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」など

〔履修条件〕
その他

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
金曜日11：30～12：00

演習Ⅰ【自動車工学】

8318
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
大西　昌哲　成瀬　優享

〔到達目標〕
車両制作等に必要な法令や基準を理解する。
制作車両・物品に求める諸元を理解できる。
製作車両・物品のコンセプトを確立する。
製作車両・物品に必要な部品や材料の予算化が行える。
製作車両・物品の完成検査項目を策定する。
車両・物品製作に求められる基礎的な力学を理解する。

〔授業の概要〕
〔授業の概要〕
教材としての車両や物品の制作を行うPBL活動を通じ、学びを形にして出力
していく。車両・物品のコンセプト確立や技術的・予算的課題を
担当ごとに洗い出す過程で、課題解決手法を身に着ける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
班ごとに取り決めた役割分担に基づき、次回ゼミ活動までに調査や作業を実施すること。また、それぞれの活動に関して、振り返りと取りまとめを行うこと。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
組み立て教材を制作することに関して、概要の説明を実施
第 2 回　コンセプトに関する協議
第 3 回　コンセプトの確立
第 4 回　必要な法令等の確認
第 5 回　先行研究・事例確認
第 6 回　基本構成要素の決定
第 7 回　必要な力学的知識の習得（1）
第 8 回　必要な力学的知識の習得（2）
第 9 回　設計・構成部品・材料の検討
第 10 回　設計・構成部品・材料の検討
第 11 回　設計・構成部品・材料の検討
第 12 回　構成部品の決定と予算化
第 13 回　予算獲得手段の検討
第 14 回　予算獲得手段の検討
第 15 回　前期研究活動まとめ

〔成績評価〕
課題制作・取り組み評価100%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
火曜日2限目（12時10分～13時40分）
※授業準備等により不在となる可能性があるため、事前に連絡すること

演習Ⅰ【ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨﾏｲﾝﾄﾞｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】

8327
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
森下　博行

〔到達目標〕
エントリーシートの書き方から面接練習、就職活動まで徹底指導を行うことでコミュニケーション力を身に付け「おもてなし」の心を育て、観光・航空業界はもちろん一般の企業でも活躍できる人材を育てる。

〔授業の概要〕
このゼミは、ANA総合研究所との完全タイアップにより、エアラインを始めホテル、観光、ブライダルといったホスピタリティ産業への就職を目指す。またインターンシップやフィールドワーク先には、3つのルートから希望や目的に応じて参加可能で、キャリアサポート、エントリーシートの書き方、面接練習、就職活動まで指導を指導する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ホテル、教会、空港といったホスピタリティ産業へのインターンシップやフィールドワークを通して実務を知り学ぶ。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
履修確認、ゼミの概要説明
企業が求める人材とスキル
第 2 回　口語表現Ⅰ

口語表現ワークシート
第 3 回　口語表現Ⅱ
口語表現ワークシート
第 4 回　口語表現Ⅲ
口語表現ワークシート
第 5 回　口語表現Ⅳ
口語表現ワークシート
第 6 回　口語表現Ⅴ
口語表現ワークシート
第 7 回　スピーチ構成シート
スピーチのための構成シートを使用したスピーチの練習
第 8 回　ワークシート
ワークシートを使用した活用基礎
第 9 回　やってみよう
ワークシートを使用した活用事例
第 10 回　自己紹介
自己紹介のための準備
第 11 回　インターンシップ活用講座
就職部主導によるインターンシップ活用講座
第 12 回　グループディスカッション
テーマに基づいたグループディスカッション
第 13 回　薬物セミナー
学生部主導による薬物セミナー
第 14 回　グループワーク
ワークシートを使用したゲーム型グループトーク
第 15 回　前期のまとめ
ゼミの前期総括と後期へ向けた指導等

〔成績評価〕
ワークシートへの取り組み態度とディスカッションへの参加態度を重視する。

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
この授業は、パソコン教室で授業支援システムを活用し、課題の配布や回収、テストなどを実施して授業を行います。また、課題の作成状況をこのシステムでモニターしながら、学習の理解状況を把握し授業を進行します。

〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

演習Ⅰ【コンピュータ制御】

8328
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
4単位　前期
盛谷　亨

〔到達目標〕
卒業研究に関わる分野をより深く理解することを目的として、各自研究テーマを中心に科学的・論理的な思考法や、資料のまとめ方、発表の仕方、文章として仕上げる力を養う。
学びの中の興味・関心から、自らの専門性を確立させ、そのまとめとして卒業論文を作成する。

〔授業の概要〕
(1) 中学校 技術･家庭科「情報に関する技術」分野における、コンピュータ制御を題材とした教材の考案と情報リテラシーの育成について考察する。

(2) 電気自動車やソーラーカーなどの次世代低公害車両を題材として、近未来自動車社会の在り方やエネルギー、環境問題について考察する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
専用に利用できるパーソナルコンピュータを所有し、オフィスアプリケーションやプログラミングアプリケーションを活用した予習復習を行うことが可能な環境を用意する。
卒業研究は、自ら課題を考え、実験や試作を通して成果物の効果を評価していく。これらの活動は、講義以外の時間を用いて実施するので、積極的に研究室や実習室に来て、自主的に研究を進める。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
演習の進め方、年間の授業計画についてオリエンテーションを行う。
第 2 回　市販教材の調査 ①
トップマン社の教材を目的の分野に絞り調査する。
第 3 回　市販教材の調査 ②
山﨑教育システム社の教材を目的の分野に絞り調査する。
第 4 回　市販教材の調査 ③
イスペット社の教材を目的の分野に絞り調査する。
第 5 回　市販教材の調査 ④
久富電気産業社の教材を目的の分野に絞り調査する。
第 6 回　市販教材の調査 ⑤
テクノキット社の教材を目的の分野に絞り調査する。
第 7 回　市販教材の検討 ①
各社の教材を比較検討して卒業研究の分野と対象教材を絞り込む。
第 8 回　市販教材の検討 ②
調査と比較検討の過程、絞り込みの結果をレポートにまとめ、発表する。

第 9 回　市販教材の製作①
研究対象に決定した教材を、授業の展開を想定しながら製作を進める。
第 10 回　市販教材の製作②
研究対象に決定した教材を、完成させる。
第 11 回　市販教材の製作③
教材製作の工程と学びの要点についてレポートにまとめ、発表する。
第 12 回　市販教材の評価①
対象教材の優れている点や、改良を要する点が無いかなどを吟味する。
第 13 回　市販教材の評価②
対象教材の特長について吟味した内容を基に評価し、レポートにまとめる。
第 14 回　教材選定の視点
ここまでの学びの過程を踏まえ、教材を選定する上での視点について議論する。
第 15 回　研究テーマの決定
ここまでの学びの過程を踏まえ、各自の研究テーマを決定する。

〔成績評価〕
・授業に対する取り組み姿勢 （40%）
・課題作品 （30%）
・課題発表 （30%）

〔教科書〕
適時、資料を配布する。

〔参考文献〕
・「技術科教材論」 竹谷出版
・他適時、文献を紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
① 前　期
② 曜　日：月曜日　12:00～13:00
③ 場　所：研究室 （研究棟 3階）
④ 連絡先：moriya@ashiya-u.ac.jp
⑤ その他：時間に余裕があれば、いつでも対応します。

演習Ⅰ 【ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾈｯﾄﾜｰｸ】

8331
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
中村　　宏敏

〔到達目標〕
コンピュータネットワークの計画、設置・管理・運営など実際の状況場面を例として研究したい。なお研究論文については、「日本産業科学学会関西部会（学生研究会）」において研究内容を他大学の学生の前で12月に発表をすることが望ましい。

〔授業の概要〕
自分の研究テーマを報告し合い、ディスカッションをしてもらいます。その中での気づきや理解を深めることで、研究を進めてゆきたい。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
自分の空き時間などに、付属図書館や大学1階に設置されているＰＣルームにおいて研究を進めてもらう。

〔授業計画〕
第 1 回　論文とは
論文と感想文の違い。論文の基本構成について
第 2 回　研究テーマの確定
自分が研究するテーマについてプレゼンテーション原稿の作成
第 3 回　研究テーマについてプレゼンテーション
プレゼンテーションをして、自分の研究テーマの方向性を再認識する
第 4 回　先行研究の調査
自分が研究しようとする研究テーマの先行研究を調査する
第 5 回　先行研究の調査
他の人が研究した論文を熟読する
第 6 回　現代社会の実態調査
研究しようとする事柄の、現状を研究する
第 7 回　論文執筆
論文を書いたことがないとなかなか難しいので、序論を書いてみる
第 8 回　論文の結末を考える
起承転結で進めるのですが、どっちに進めてゆくかわからなくなる場合があるので、結末をどこに持って行くのかの整理
第 9 回　就職部からのお話
エントリーシートの書き方
第 10 回　論文執筆
それぞれのペースがあると思うので,個人指導
第 11 回　論文執筆
それぞれのペースがあると思うので,個人指導
第 12 回　論文執筆
それぞれのペースがあると思うので,個人指導
第 13 回　論文執筆
それぞれのペースがあると思うので,個人指導
第 14 回　論文執筆
それぞれのペースがあると思うので,個人指導
第 15 回　進路相談
3年後期に向けて論文の作成状況の確認と今後の相談

〔成績評価〕
研究態度とディスカッションの発言や聴く力を総合的に見ながら評価

〔教科書〕
「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕
過年度の卒業論文や個人の研究テーマに合わせた過去の論文など

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
アポイントを取って随時

演習Ⅰ【日本企業と日本的経営研究】

8333
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
4単位　前期
今岡　重男

〔到達目標〕
①経営学の基本書を輪読し、卒業論文を書く知識・能力を養成する。
②ゼミ生全員で企業訪問し経営者の話を聞くなどして、企業活動への関心を高める。
③普段の授業の中でも社会人としてのビジネスマナーの基本を学ぶ。
〔授業の概要〕
この授業は、phollyを使い下記のように遠隔授業で行う。
①卒業論文を書くための基礎力を養うために、経営学の基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。
②ゼミ生全員で企業訪問し経営者から直接経営に実際を聞く機会を持つ。
③授業の中で、卒業後に備えてビジネスマナーを学ぶ機会を持つ。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
①経営学の基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を事前によく読み、自習しておく。
②新聞や経済誌を読み経済や経営に関する知識を深める。
③テレビなどでもビジネス番組を見て知識を深めるようにしておく。
〔授業計画〕
第 1 回　授業ガイダンス
授業の目的や進め方を説明する。受講者全員が自己紹介をし仲間意識も高める。
第 2 回　経営学の基本書の輪読①
「企業経営とは何か」をテーマにして、経営学の基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。
第 3 回　経営学の基本書の輪読②
「企業経営とは何か」をテーマにして、経営学の基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。
第 4 回　経営学の基本書の輪読③
「企業経営とは何か」をテーマにして、経営学の基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。
第 5 回　経営学の基本書の輪読④
「環境変化の展望」をテーマにして、経営学の基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。
第 6 回　経営学の基本書の輪読⑤
「環境変化の展望」をテーマにして、経営学の基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。
第 7 回　経営学の基本書の輪読⑥
「環境変化の展望」をテーマにして、経営学の基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。
第 8 回　経営学の基本書の輪読⑦
「成長と競争の戦略」をテーマにして、経営学の基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。
第 9 回　経営学の基本書の輪読⑧
「成長と競争の戦略」をテーマにして、経営学の基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。
第 10 回　経営学の基本書の輪読⑨
「成長と競争の戦略」をテーマにして、経営学の基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。
第 11 回　経営学の基本書の輪読⑩
「成長と競争の戦略」をテーマにして、経営学の基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。
第 12 回　経営学の基本書の輪読⑪
「成長と競争の戦略」をテーマにして、経営学の基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。
第 13 回　経営学の基本書の輪読⑫
「組織の設計と管理」をテーマにして、経営学の基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。
第 14 回　経営学の基本書の輪読⑬
「組織の設計と管理」をテーマにして、経営学の基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。
第 15 回　まとめ
前期の授業で学んだことを中心にして質疑応答とまとめの講義を行う。
〔成績評価〕
授業中の発表・質問・ディスカッションを通じて総合的に評価する。
〔教科書〕
金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
相談事項などがあれば、遠慮なくメール（imaoka @ashiya-u.ac.jp）か電話（090-8375-1660）で今岡に連絡ください。

演習Ⅰ【人間社会と環境】

8338
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
池田　　聡

〔到達目標〕
人間社会と環境問題の関連性
社会・文化・自然環境について
専門的知識を身につける
上記の内容を到達目標とする
〔授業の概要〕
環境とは何か？　講義を通して環境問題に関する文献を紹介する。受講学生は様々な諸問題を理解する中で自らの研究テーマを決める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で提示した課題の復習（2時間）
講義内で提示した課題の予習（2時間）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーションⅠ
　　ゼミで何をするのか導入
第 2 回　オリエンテーションⅡ
　　ゼミの諸ルールの決定
第 3 回　社会的環境Ⅰ
　　社会的環境について学習する
第 4 回　社会的環境Ⅱ
　　前回学習した内容のまとめと全体報告
第 5 回　文化的環境Ⅰ
　　文化的環境について学習する
第 6 回　文化的環境Ⅱ
　　前回学習した内容のまとめと全体報告
第 7 回　自然的環境Ⅰ
　　自然的環境について学習する
第 8 回　自然的環境Ⅱ
　　前回学習した内容のまとめと全体報告
第 9 回　第3回から8回までの比較研究
　　これまで学習してきた内容の比較研究
第 10 回　比較研究とまとめ
　　前回までのまとめと比較研究のまとめ
第 11 回　環境問題と課題Ⅰ
　　環境問題と課題についての学習
第 12 回　環境問題と課題Ⅱ
　　環境問題と課題についての学習
第 13 回　環境問題と課題Ⅲ
　　これまで学習した内容についてのまとめと報告
第 14 回　まとめⅠ
　　前期のゼミを振り返り内容をまとめる
第 15 回　まとめⅡ
　　前期のゼミ内容を全体報告
〔成績評価〕
レポート及び課題評価
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

演習Ⅰ【教育方法・経営コミュニケーション論】

8346
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
藤本　　光司

〔到達目標〕
・3年生の間に、卒業論文のテーマを確定して文献検索や調査研究を行う。
・外部団体（学会や研究会）の場に参加し研究意識を高める。
・卒業論文プレゼンテーション大会に参加して先輩の研究内容を知る。
〔授業の概要〕
・今日的な教育上の課題と関連させながら教育方法の理論と実践を学ぶ。
・教師に必要とされる、真の授業実践力を身につける。
・共に学ぶ仲間と協働して、学外におけるフィールドワークに取り組む。
・研究テーマに対する議論を深め、説得力のある発表ができるようになる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
常に興味・関心がわいたら、その書籍や論文検索して文献を保管しておくこと。
・授業前にテーマに関連する文献を読み解く（120 分）
・テーマに関する興味を深めて論述（レポート作成）を行う（120 分）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　担当教員、共に学ぶ学生の自己紹介により相互理解を深める。
　　演習の進め方、年間計画を知る。
第 2 回　研究計画について
　　2年間の研究計画について概要を知る。
　　研究について、担当教員、同じゼミ生で意見交換を行う。
第 3 回　研究計画の立て方
　　各自の興味・関心を報告して、研究の進め方を吟味する。
　　研究計画を整理してデジタル書面にまとめる。
第 4 回　研究計画の概要を報告する。

前週の課題「私の研究計画」を説明する。
また、他者の計画を知り、自分の研究計画を整理する。
第 5 回　研究計画の立案（1）
学びの目的と目標を設定する。
第 6 回　研究計画の立案（2）
研究について、フィールドワークやＰＢＬ活動（学外活動）の方法について知る。
自分のフィールドワークの可能性を探る。
第 7 回　研究計画の立案（3）
研究に関する、アンケート調査の方法を知る。
具体的に調査枝を作り、簡易検証する。
第 8 回　卒業論文の設計（1）
序論と終論で記載する内容、目次の「章」や「節」の立て方について知る。
第 9 回　卒業論文の設計（2）
前回の課題であった、「卒論設計」について報告を行う。
また、その研究に対して、J-STAGEやCINIIを利用して関連研究を調査する。
第 10 回　卒業論文の設計（3）
自分の卒論に関連する研究について、関連する文献からどのように引用文献や参考文献を利用するのか知る。
第 11 回　卒業論文と就活の関連性
就職活動や教員採用試験で卒業論文をどのように活かすのか、その関連性を探る。
第 12 回　過去の卒業論文（1）を知る
これまでの先輩学生が取り組んだ卒業論文について、いくつかの事例を紹介する。
その際、卒論プレゼンテーション大会で使用したパワーポイントなども紹介する。
第 13 回　過去の卒業論文（2）を知る
これまでの先輩学生が取り組んだ卒業論文について、いくつかの事例を紹介する。
その際、卒論プレゼンテーション大会で使用したパワーポイントなども紹介する。
第 14 回　研究課題の整理
自分の研究テーマに関するキーワードを整理して、研究の仮設を練る。
第 15 回　前期のまとめ
前回の研究仮説について、製作したレポートやパワーポイントを使用して報告する。

〔成績評価〕
授業に対する取り組み姿勢（40%）
レポート制作（30%）
課題発表（30%）

〔教科書〕
「中学校学習指導要領解説　技術・家庭科」（平成29年7月告示、文部科学省）
「主体的に学び意欲を育てる教学改善のすすめ」（ぎょうせい）
「中学校技術・家庭科」（開隆堂、東京書籍など）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
水曜日1,2限
金曜日4限

演習Ⅰ【公演事業研究・卒業公演】

8354
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
藤本　光司　井村　薫子

〔到達目標〕
論文の種類や構成を類別できるようになる。論文スタイルの文章が書けるようになる。論理の組み立てを指摘できるようになる。

〔授業の概要〕
論文の種類を知る。卒業生たちの先行研究を読み、本コースでの研究方法及びテーマについて議論する。「だである」調の文書に書き替える練習をする。論理の組み立て方を学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
指定された論文を読む。「である調」でレポートを書く。
・授業前にテーマに関連する文献を読み解く（120 分）
・テーマに関する興味を深めて論述（レポート作成）を行う（120 分）

〔授業計画〕
第 1 回　論文とは何か。
論文の種類とその種類によってどのような構成になるのかをいくつかの例をみながら理解する。
第 2 回　論理の組み立て方
三段論法の理解と例題。
第 3 回　論文の構成
IMRAD形式のパターンを学ぶ。
第 4 回　文章のスタイル
「だである調で書かなければならない理由」についての論文を読む。いくつかの文章をだである調に書き替える。
第 5 回　文章を書くことに慣れるための方法
文章を書くことに慣れるためにはどうすればよいかについての議論をする。個々のスキルにあった方法を見つける。
第 6 回　卒業論文を書くための材料について
卒業論文を書き始めるまでの準備について、おおまかに何が材料として必要かを理解する。時間が必要な研究の場合について。
第 7 回　バレエコースのこれまでの研究 1
バレエコースのこれまでの研究のテーマと方法について知る。バレエ業界に少ないアカデミックな先行研究について。文献資料の確保の難しさとアンケートやヒヤリングについて。

第 8 回　バレエコースのこれまでの研究２
バレエコースのこれまでの研究のテーマと方法について知る。卒業公演との関連について。卒業公演とタイムラインについて。
第 9 回　バレエコースのこれまでの研究３
バレエコースのこれまでの研究のテーマと方法について知る。バレエ公演の裏方作業に関して。
第 10 回　バレエコースのこれまでの研究４
バレエコースのこれまでの研究のテーマと方法について知る。卒業公演の作品を振り付けた場合について。
第 11 回　卒業公演演習とリンクする場合について　1
卒業公演とリンクする場合の論旨について。レポートと論文の違いについて。
第 12 回　卒業公演演習とリンクする場合について　2
バレエ公演のどのような部分にスポットをあてるのか、テーマ選びとその対策。
第 13 回　卒業公演演習とリンクする場合について　3
自分の選びたいテーマを見つけるために、自分たちの卒業公演のプランをシュミレーションする。卒業公演の演目や目標を立てる。
第 14 回　卒業公演演習とリンクする場合について　4
シュミレーションとして、予算案を作成する。
第 15 回　卒業公演演習とリンクする場合について　5
シュミレーション結果と予算案を全員でプレゼンテーションの準備。

〔成績評価〕
課題制作（５０%）課題発表プレゼンテーション（５０%）

〔教科書〕
特になし。

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
⑴前期・後期
⑵月曜日：13:00～16:00、水曜日：13:00～16:00
⑶芸術文化センターにて
⑷連絡先：k-imura@ashiya-u.ac.jp
⑸来室の際は、事前にメールにてご連絡をお願いします

演習Ⅱ【ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾈｯﾄﾜｰｸ】

8417
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
中村　宏敏

〔到達目標〕
コンピュータネットワークの計画、設置・管理・運営など実際の状況場面を例として研究したい。なお研究論文については、「日本産業科学学会関西部会（学生研究会）」において研究内容を他大学の学生の前で12月に発表をすることが望ましい。

〔授業の概要〕
自分の研究テーマを報告し合い、ディスカッションをしてもらいます。その中での気づきや理解を深めることで、研究を進めてゆきたい。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
自分の空き時間などに、付属図書館や大学1階に設置されているＰＣルームにおいて研究を進めてもらう。

〔授業計画〕
第 1 回　論文とは
論文と感想文の違い。論文の基本構成について
第 2 回　研究テーマの確定
自分が研究するテーマについてプレゼンテーション原稿の作成
第 3 回　研究テーマについてプレゼンテーション
プレゼンテーションをして、自分の研究テーマの方向性を再認識する
第 4 回　先行研究の調査
自分が研究しようとする研究テーマの先行研究を調査する
第 5 回　先行研究の調査
他の人が研究した論文を熟読する
第 6 回　現代社会の実態調査
研究しようとする事柄の、現状を研究する
第 7 回　論文執筆
論文を書いたことがないとなかなか難しいので、序論を書いてみる
第 8 回　論文の結末を考える
起承転結で進めるのですが、どっちに進めてゆくかわからなくなる場合があるので、結末をどこに持って行くのかの整理
第 9 回　就職部からのお話
エントリーシートの書き方
第 10 回　論文執筆
それぞれのペースがあると思うので,個人指導
第 11 回　論文執筆
それぞれのペースがあると思うので,個人指導
第 12 回　論文執筆
それぞれのペースがあると思うので,個人指導
第 13 回　論文執筆
それぞれのペースがあると思うので,個人指導
第 14 回　論文執筆
それぞれのペースがあると思うので,個人指導
第 15 回　進路相談
3年後期に向けて論文の作成状況の確認と今後の相談

〔成績評価〕
研究態度とディスカッションの発言や聴く力を総合的に見ながら評価

〔教科書〕
「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕
過年度の卒業論文や個人の研究テーマに合わせた過去の論文など
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
アポイントを取って随時

演習Ⅱ【マスコミ文化論】

8418
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
西光　　晴彦

〔到達目標〕
卒業論文の作成・完成
〔授業の概要〕
3年次に行った専門演習の学習を復習確認しながら個別指導を行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業毎時間、準備学習(予習・復習)について告知する。
更には授業時間外も質問等(詳細授業時に伝達)は受け付ける。
〔授業計画〕
①3年次に行った専門演習の学習を復習確認しながら個別指導を行う。
②過去に作成された卒業論文を開示して参考にさせたうえで、各人の希望に従って卒業論文の仮テーマを定めさせる。
③仮テーマに従って参考文献を選択する。
④卒業論文作成の進捗状況を確認しながら随時指導を行う。
⑤卒業論文発表会参加の有無を確認。
⑥卒業論文完成
〔成績評価〕
卒業論文研究内容と執筆内容によって評価する。
〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」「各個人が準備したもの」
〔参考文献〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」「各個人が準備したもの」
〔履修条件〕
その他
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
金曜日11：00～12：00

演習Ⅱ【自動車技術】

8419
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
大西　　昌哲　成瀬　　優享

〔到達目標〕
コンセプトや法令に基づき製作車両・物品の性能評価基準を作ることが出来る
製作車両・物品の性能評価ができる
製作車両・物品の性能評価を元に、改善点を予測することができる
予測した改善点を元に車両・物品の改善が出来る
〔授業の概要〕
教材としての車両や物品を制作するPBL活動を通じ、学びを形にして出力
していく。車両コンセプトの確立や技術的・予算的課題を担当ごとに洗い出す過程で、課題解決手法を身に着ける。
※原則的に対面授業とするが、感染症・その他事情によりオンデマンド授業を併用する場合があるので、通信環境を整えておくこと
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
班ごとに取り決めた役割分担に基づき、次回ゼミ活動までに調査や作業を実施すること。また、それぞれの活動に関して、振り返りと取りまとめを行うこと。
〔授業計画〕
第 1 回　３年後期計画事前確認
第 2 回　車両・物品制作作業（９）
第 3 回　車両・物品制作作業（１０）
第 4 回　車両・物品制作作業（１１）
第 5 回　車両・物品制作作業（１２）
第 6 回　車両・物品制作作業（１３）
第 7 回　完成検査・性能評価
第 8 回　完成検査・性能評価
第 9 回　製作物実地試験
第 10 回　製作物実地試験
第 11 回　改良計画立案
第 12 回　改良計画分担
第 13 回　改良計画実施（1）
第 14 回　改良計画実施（2）
第 15 回　前期研究活動まとめ
〔成績評価〕
課題制作・取り組み評価100%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
火曜日2限目（12時10分～13時40分）
※授業準備等により不在となる可能があるため、事前に連絡すること

演習Ⅱ【技術とものづくり】

8423
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
瀧　　巌

〔到達目標〕
生活に必要な学習を習得させ、それを通して家庭や社会における生活と技術の関係を理解させる
〔授業の概要〕
面接（個人面接・団体面接）
教員採用試験の過去の問題
簡単な作品を製作させる
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
採用試験の過去の問題を解く
〔授業計画〕
第 1 回　面接　1 （集団）
・グループでディスカッション進める（貢献度・協調性・主導性・企画性）
第 2 回　面接　2 （個人）
・態度（礼儀）・性格（積極性・協調性）・能力（表現力・理解力・判断力）
・意識（志望動機・教育観）
第 3 回　教員採用試験の過去の問題　1
・木材の種類
・木材の組織
第 4 回　教員採用試験の過去の問題　2
・含水率
・木材の組織
第 5 回　教員採用試験の過去の問題　3
・木材の乾燥と強度
第 6 回　教員採用試験の過去の問題　4
・木材加工の基本について
第 7 回　教員採用試験の過去の問題　5
木工具に見る切削理論（鋸・鉋）
第 8 回　木工具の種類と各部　1
・鋸の各部の名称と用途について（切れ刃角・切削角・あさり）
第 9 回　木工具の種類と各部　2
・鉋の各部と名称と用途について
・鉋削りの作業の基本
第 10 回　木工具の種類と各部　3
・のみの機能と種類
・のみの構造と各部の名称
第 11 回　木工機械の安全使用法
・安全管理のための処置（丸鋸盤・帯鋸盤・手押し鉋盤）
第 12 回　組み継ぎ　1
・板組み継ぎの方法
・平打ち継ぎの方法
・ほぞ組み継ぎの方法
第 13 回　組み継ぎ　2
・三枚組継ぎ
第 14 回　組み継ぎ　3
・通しほぞ継ぎ
第 15 回　まとめ
・木材加工法全般について（レポート）
〔成績評価〕
レポートを書かせる
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
・金曜日　2時限目

演習Ⅱ【ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨﾏｲﾝﾄﾞｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】

8425
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
森下　　博行

〔到達目標〕
エントリーシートの書き方から面接練習、就職活動まで徹底指導を行うことでコミュニケーション力を身に付け「おもてなし」の心を育て、観光・航空業界はもちろん一般の企業でも活躍できる人材を育てる。
〔授業の概要〕
このゼミは、ANA総合研究所との完全タイアップにより、エアラインを始めホテル、観光、ブライダルといったホスピタリティ産業への就職を目指す。またインターンシップやフィールドワーク先には、3つのルートから希望や目的に応じて参加可能で、キャリアサポート、エントリーシートの書き方、面接練習、就職活動まで指導を指導する。）
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ホテル、教会、空港といったホスピタリティ産業へのインターンシップやフィールドワークを通して実務を知り学ぶ。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
履修確認
卒論指導やインターンシップ、フィールドワーク等について
第 2 回　ビジネスに必要な基礎知識
ビジネス能力検定3級の問題集より
第 3 回　ビジネスに必要な基礎知識
ビジネス能力検定3級の問題集より
第 4 回　ビジネスに必要な基礎知識

ビジネス能力検定3級の問題集より
第 5 回　ビジネスに必要な基礎知識
ビジネス能力検定3級の問題集より
第 6 回　ビジネスに必要な基礎知識
ビジネス能力検定3級の問題集より
第 7 回　インターンシップ
ホテル、空港、教会等
第 8 回　キャリアサポート
キャリアサポートと個人面談、エントリーシート書き方
第 9 回　インターンシップ
キャリアサポートと個人面談、エントリーシート書き方
第 10 回　インターンシップ
キャリアサポートと個人面談、エントリーシート書き方
第 11 回　卒業論文の書き方
卒業論文作成指導
第 12 回　卒業論文の書き方
卒業論文作成指導
第 13 回　卒業論文の書き方
卒業論文作成指導
第 14 回　卒業論文の書き方
卒業論文作成指導
第 15 回　卒業論文の書き方
卒業論文作成指導

〔成績評価〕
ワークシートへの取り組み態度とディスカッションへの参加態度を重視する。

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
この授業は、パソコン教室で授業支援システムを活用し、課題の配布や回収、テストなどを実施して授業を行います。また、課題の作成状況をこのシステムでモニターしながら、学習の理解状況を把握し授業を進行します。

〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

演習Ⅱ【日本企業の日本的経営研究】

8428
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
今岡　重男

〔到達目標〕
教員の指導のもとでの研究に取組み、専門的なテーマについての知識や成果を論文にまとめるための過程を段階的に習得する。また、各自のテーマに沿って、文献研究た現地調査を実践。専門演習Ⅰで身につけた学習方法を土台として、学生同士が意見を出し合い、議論を重ねる中経営学の理論と知識を深めます。さらにゼミへの参加を通じた専門的なテーマについての知識や卒業論文の執筆に向けた過程を確認するために、専門演習Ⅱ前期の終了時点までに「研究計画書等」を作成する。

〔授業の概要〕
この授業は、phollyとzoomを使用し遠隔で授業を行う。
専門演習Ⅰで身につけた学修方法を土台に、専門教育で学修した理論と知識を整理し、総合し、それぞれの分野における研究を強化し、これをふまえつつ現代的諸問題への接近をはかることを目標とします。
当ゼミナールでは、自主的積極的な学修・研究を基礎に進めていきます。学生諸君が自主的に学びとったものを発表し、学生の間で意見をたたかわせ、教員との議論を通じて、経営学の理解を深め、専門的力量をたかめることができます。4年生後期で「卒業論文」を作成し4年間の学修を総括することになります。
また当ゼミナールは、集団づくり、仲間づくりの場でもあります。各人の主体的な努力と集団的な討議によって、学生間の結びつきを深めていくことができます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
①新聞や経済誌を読み経済や経営に関する知識を深める。
②テレビなどでもビジネス番組を見て知識を深めるようにしておく。
③授業中で推薦する書籍や論文はよく読んでおく。

〔授業計画〕
第 1 回　授業ガイダンス
授業の目的と進め方について説明する。
第 2 回　論文とは何かを学ぶ
次の３点を学ぶ。
(1)レポートと論文の違い

(2)オリジナル（独自）な考察

(3)リサーチ・クエスチョン（研究前提となる疑問）

第 3 回　「問い」の設定方法を学ぶ
(1)基本的な考え方
・論文ではgoogleですぐに調べられるような問題は扱わない
・複数の答えが可能なリサーチクエスチョン（「問い」）を立て、ある立場を選択する
・自分の力で扱えるテーマであること

(2)リサーチクエスチョンと仮説
・仮説とは、物事を考える際に「最も確からしいと考えられる仮の答え」のこと
・あらゆる論文は、「リサーチクエスチョン」に対して何らかの答えを導く、という形を取る
・仮説の数に合わせて章立てを決める
第 4 回　テーマの設定方法を学ぶ

次の3つの方法を学ぶ。
（1）対立法：　関連する資料や文献を読む　→　相互に対立する主張を抽出

（2）問答法：　最も優れた（権威ある）文献一冊を精読
→　途中で疑問に感じた点をもとに著者の説に反駁を加える

（3）通説批判：　一般に信じられている通念を、社会科学的な調査や理論によって批判反論する

第 5 回　資料の収集方法を学ぶ
次の3つの方法を説明する。
(1)基礎知識の確認
(2)先行研究の調査
(3)情報の収集と整理

第 6 回　アウトラインの作成方法を学ぶ
以下の点を説明する。
(1)集まった資料を読み込みながら、「アウトライン」を作成する
(2)アウトラインは以下の要素を含む
①全体の章立て
②各章、各節のできるだけ細かい要点（箇条書き）
③資料からの引用、引用元の情報
(3)論文の執筆は、できるかぎり詳しいアウトラインの作成と並行して行う

第 7 回　自分の研究テーマと仮説を考える
これまでの授業の中で得た知識を活用して卒業論文の研究テーマと仮説を考えてみる。

第 8 回　研究テーマと仮説の各自発表
自分の卒業論文のテーマと仮説を一人ずつ発表する。

第 9 回　研究方法論を学ぶ①　量的研究
量的研究とは、主に実験法や調査法を用いて数量的なデータを収集し、統計手法を用いて変数間の関係を明らかにする研究法のことです。
仮説検証を目的として行われることが多いが、量的研究の経営学研究論文を読みながらその長所と短所も考える。

第 10 回　研究方法論を学ぶ②　質的研究
質的研究とは、現象のありようを記述するために数値的表現ではなく、言語的表現を使用し て、データの収集・分析・結果の提示（記述）を行う研究法のことです。仮説発見を目的として行われることが多いが、質的研究の経営学研究論文を読みながらその長所と短所も考える。

第 11 回　研究計画書の書き方を学ぶ
研究計画書の書き方について学ぶ。研究計画書の中身として、①卒業論文のテーマおよび課題、②テーマおよび課題を設定しようとする背景、③課題を明らかにするための調査・分析方法、④予想される参考文献リストについての考え方や書き方を学ぶ。

第 12 回　研究計画書の作成①
各受講者は授業の中で研究計画書を書いてみる。研究計画書の内容としては、①卒業論文のテーマおよび課題、②テーマおよび課題を設定しようとする背景、③課題を明らかにするための調査・分析方法、④予想される参考文献リストを最小限必要とする。
卒業論文の骨子や途中経過があることが望ましいが、必要要件とはしない。A4判1～２枚程度を目安に書いてみる。

第 13 回　研究計画書の作成②
研究計画書を書いていくうちに出てくる疑問点について、ゼミナールにおいて質疑応答しながら、各自の研究計画書を作り上げる。

第 14 回　研究計画書の発表①
各自が作成した研究計画書を順次発表し、ゼミナールで学生の間で意見をたたかわせ、教員との議論を通じて、研究計画をブラッシュアップする。

第 15 回　研究計画書の発表②
各自が作成した研究計画書を順次発表し、ゼミナールで学生の間で意見をたたかわせ、教員との議論を通じて、研究計画をブラッシュアップする。

〔成績評価〕
授業中の発表・質問・ディスカッションを通じて総合的に評価する。

〔教科書〕
特にない。

〔参考文献〕
授業の中で随時示す。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
相談がある時は、遠慮なくメールimaoka@ashiya-u.ac.jpまたは電話090-7375-1660で今岡に連絡ください。

演習Ⅱ【コンピュータ制御】

8429
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
盛谷　亨

〔到達目標〕
卒業研究に関わる分野をより深く理解することを目的として、各自研究テーマを中心に科学的・論理的な思考法や、資料のまとめ方、発表の仕方、文章として仕上げる力を養う。
学びの中の興味・関心から、自らの専門性を確立させ、そのまとめとして卒業論文を作成する。

〔授業の概要〕
(1) 中学校 技術科「情報に関する技術」分野における、コンピュータ制御を題材とした教材の考案と情報リテラシーの育成について考察する。

(2) 電気自動車やソーラーカーなどの次世代低公害車両を題材として、近未来自動車社会の在り方やエネルギー、環境問題について考察する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

専用に利用できるパーソナルコンピュータを所有し、オフィスアプリケーションやプログラミングアプリケーションを活用した自宅学習を行うことが可能な環境を用意する。

卒業研究は、自ら課題を考え、実験や試作を通して成果物の効果を評価していく。これらの活動は、講義以外の時間を用いて実施するので、積極的に研究室や実習室に来て、自主的に研究を進める。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
演習の進め方、年間の授業計画についてオリエンテーションを行う。

第 2 回　研究の中間発表
完成した教材を基にした、研究の概略ついて発表する。

第 3 回　授業計画の立案 ①
学びの目的と目標を設定する。

第 4 回　授業計画の立案 ②
導入に関する考察を行う。

第 5 回　授業計画の立案 ③
指導の狙いと視点に関する考察を行う。

第 6 回　授業計画の立案 ④
教材活用のポイントと評価に関する考察を行う。

第 7 回　授業計画の立案 ⑤
具体的な指導案をまとめる。

第 8 回　授業計画の立案 ⑥
授業の構成に即した、スライドやプリントなど教具の作成を進める。

第 9 回　授業計画の立案 ⑦
スライドやプリントなど教具を完成させる。

第 10 回　模擬授業の実施 ①
指導案に沿って、模擬授業を行う。

第 11 回　模擬授業の実施 ②
相互に模擬授業の講義・受講を踏まえ、それぞれの視点から議論する。

第 12 回　模擬授業の実施 ③
議論を踏まえ、指導案の再構築を行う。

第 13 回　教材・教具の改良
模擬授業を踏まえ、教材・教具の改良を行う。

第 14 回　教材の学習効果
擬授業やこれまでの議論を踏まえ、教材の学習効果について考察する。

第 15 回　研究課題の整理
研究の残課題などを整理して、卒業論文執筆の準備にかかる。

〔成績評価〕

・授業に対する取り組み姿勢 （40%）
・課題作品 （30%）
・課題発表 （30%）

〔教科書〕

・適時、資料を配布する。

〔参考文献〕

・「技術科教材論」 竹谷出版
・他適時、文献を紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

① 前　期
② 曜　日：月曜日　12:00～13:00
③ 場　所：研究室 （研究棟 3階）
④ 連絡先：moriya@ashiya-u.ac.jp
⑤ その他：時間に余裕があれば、いつでも対応します。

演習Ⅱ【電気利用技術】

8437
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
4単位　前期
齋藤　　治

〔到達目標〕

・3年次で培った電子系専門測定装置応用分野に特化した専門装置を用いた電子計測装置を使った諸測定ができる。
・より専門的な電子系エンジニアのスキルアップ操作手法の改善ができる。

〔授業の概要〕

・業務、産業用電子系機器の整備や調整、実務的な操作体験により、関心度向上とより理解、奥行きを深めていきます。
・ゼミ生同志の自分ノート開示がアクティブラーニングに相当します。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

周辺の専門知識も引用、リンクしながら進め、これまで培ったある程度のご自身体験での情報の整理を進めておいてください。（前後2時間程度が理想的）

〔授業計画〕

第 1 回　デジタル論理素子の基礎演習をしよう
基本論理ロジック素子のAND OR NOR NOT EX-OR 各種FF回路名称理解とこれら動作確認（実技）ができる。

第 2 回　表示回路の配線技術を理解しよう
LED を複合的に組み合わせた7セグ表示器に代表される駆動ドライバの回路方式の理解ができる。

第 3 回　電源装置回路の基本技術の理解しよう
交流を直流に変換するダイオード整流回路、平滑回路、レギュレータ安定化回路、スイッチング回路、昇圧回路などの徴を理解できる。

第 4 回　デジタルカウンタ、タイマの原理を知ろう
減算、加算回路、カウンタ、ストップウオッチ、デジタル時計など身近な製品機能のデジタル論理回路についての理解ができる。

第 5 回　電子センサ応用製品の設計原理を理解しよう
医療用パルスオキシメータなどに使われる微小な電気信号系センサユニットの設計概念が理解できる。

第 6 回　アイソレーション技術を理解しよう
動作電位が大きく異なる2つの回路系を確実に接続するためのインターフェイス、フォトカプラなど絶縁伝達装置回路設計技術の理解ができる。
第 7 回　高電圧回路、保護回路の設計を理解しよう
高耐圧ＦＥＴに代表されるスイッチング素子回路内で留意すべき独特な回路技術が理解できる。
第 8 回　ノイズ除去回路技術の理解をしよう
差動平衡回路に代表される弁別回路を理解できるようになると、生体計測装置などの回路動作の理解ができる。
第 9 回　有線固定電話の交換機回路の演習をしよう
固定有線電話の2-4変換回路、Dual-Tone発信回路、着信、保留、転送機能となどの動作原理の理解ができる。
第 10 回　離散サンプリング電子計測回路の理解しよう
デジタルテスターでの離散サンプリング誤差についての理解ができる。
第 11 回　応用電子装置-1（超音波画像診断装置）体験
医療現場で用いる超音波画像診断装置、Ｂモード、Mモードなどの機能についての理解ができる。
第 12 回　応用電子計測装置-2（ECG）体験
心臓マッサージ用途のAED装置内部にも装備されているECG装置の設計についての理解ができる。
第 13 回　応用システム計測装置-3（受注計測器）体験
ワークステーションPCでの耐久性に優れた性能技術評価や理解ができる。
第 14 回　PICマイコンを使った演習-1をしよう
USB-RS-232C 準機能チップを用いた身近ツールでの開発技術の理解ができる。
第 15 回　PIC アセンブラプログラム演習-2をしよう
PIC16F84　にアセンブラコーディングのプログラムを転送する手法の理解ができる。

〔成績評価〕
記述ノート評価：100%
各テーマごとに自己理解の達成度、自己採点を行います。

〔教科書〕
専門機器利用の場合はそのマニュアルが座右のテキストとなります。

〔参考文献〕
適切な専門用語をキーワードで適宜区切ってネット検索をすると、目的の資料を得ることはほぼ可能です。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
1.　学期：前期
2.　曜日・時間　：水曜日　10：00～11：30
3.　場所　：研究棟2F電気研究室
4.　連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp　…@を半角で
5.　その他　LMS科目です。可能な限り、フォリーのメールで送ってください。

演習Ⅱ【教育方法・経営コミュニケーション論】

8446
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
4単位　前期
藤本　光司

〔到達目標〕
・卒業論文を完成する。
・外部団体（学会や研究会）の場で研究成果を発表する。
・卒業論文プレゼンテーション大会に発表して学修成果を報告する。

〔授業の概要〕
・今日的な教育上の課題と関連させながら教育方法の理論と実践を学ぶ。
・教師に必要とされる、真の授業実践力を身につける。
・共に学ぶ仲間と協働して、学外におけるフィールドワークに取り組む。
・研究テーマに対する議論を深め、説得力のある発表ができるようになる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
常に興味・関心がわいたら、その書籍や論文検索して文献を保管しておくこと。
・授業前にテーマに関連する文献を読み解く（120 分）
・テーマに関する興味を深めて論述（レポート作成）を行う（120 分）

〔授業計画〕
第 1 回　春季休業期間における諸活動の報告
卒論テーマに対する研究の経過報告を行う。
学校インターシップ、企業のインターシップ、ボランティアなどの報告を行う。
第 2 回　これまでの研究成果の報告
前期にテーマ設定した研究内容について、進捗状況を報告する。
第 3 回　卒業論文のタイトルを確定する。
各自が絞り込んだ興味・関心を整理して、卒論のタイトルを決める。
第 4 回　卒業論文の構成を考える。
卒論の根幹となる基礎理論を整理する。
第 5 回　卒論の目次案作成
卒論の構成を考え、目次案を作成する。
第 6 回　卒論の執筆（1）
目次案に沿って、卒論執筆に着手する。
第 7 回　卒論の執筆（2）
議論・推敲を重ね、論文の執筆を進める。
第 8 回　卒論の執筆（3）
執筆の進捗状況を報告し、引き続き論文の執筆を進める。
第 9 回　卒論の執筆（4）
議論・推敲を重ね、論文の執筆を進める。
第 10 回　卒論の執筆（5）
執筆の進捗状況を報告し、引き続き論文の執筆を進める。
第 11 回　研究経過の報告

就職活動や教員採用試験で卒業論文をどのように活かすのか、その関連性を探る。
第 12 回　研究発表の準備（1）
これまでの先輩学生が取り組んだ卒業論文について、いくつかの事例を紹介する。
その際、卒論プレゼンテーション大会で使用したパワーポイントなども紹介する。
第 13 回　研究発表の準備（2）
これまでの先輩学生が取り組んだ卒業論文について、いくつかの事例を紹介する。
その際、卒論プレゼンテーション大会で使用したパワーポイントなども紹介する。
第 14 回　研究発表の準備（3）
卒論発表会に向けて、調査資料を整理して発表の準備を行う。
第 15 回　前期のまとめ
研究仮説をまとめ、パワーポイントなどを使用して報告する。

〔成績評価〕
授業に対する取り組み姿勢（40%）
課題制作（30%）
課題発表（30%）

〔教科書〕
「中学校学習指導要領解説　技術・家庭科」（平成29年7月告示、文部科学省）
「主体的に学び意欲を育てる教学改善のすすめ」（ぎょうせい）
「中学校技術・家庭科」（開隆堂、東京書籍など）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
水曜日1,2限
金曜日4限

演習Ⅱ【人間社会と環境】

8453
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
池田　聡

〔到達目標〕
人間社会と環境問題の関連性
社会・文化・自然環境について
SDGｓについて
専門的知識を身につける
上記の内容と卒業論文を仕上げることを到達目標とする

〔授業の概要〕
3年次に決定した研究テーマを基に、卒業論文のための文献を読み、講義では論文の書き方についての指導を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で提示した内容の復習（2時間）
講義内で提示した内容の予習（2時間）

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
4回生での到達目標について
第 2 回　卒業論文についてⅠ
卒業論文注意点等
第 3 回　卒業論文Ⅱ
文献調査方法等
第 4 回　卒業論文Ⅲ
過去の卒業論文の紹介
第 5 回　先行研究調査Ⅰ
各テーマに基づいた研究
第 6 回　先行研究調査Ⅱ
研究テーマのまとめ
第 7 回　卒論テーマの方向性
卒論テーマの方向性の決定
第 8 回　卒論テーマの報告
決定した卒論テーマの全体報告
第 9 回　卒論テーママッピング
決定した卒論テーマ事にグループ分けをする
第 10 回　グループ討論Ⅰ
前回グループ分けをした各班に分かれテーマの方向性を決定する
第 11 回　グループ討論Ⅱ
前回の討論内容をまとめる
第 12 回　グループ討論Ⅲ
前回まとめた内容について全体報告
第 13 回　テーマの方向性
全体の卒論テーマを再度構築し最後のグループ分けをする
第 14 回　演習内中間報告Ⅰ
中間報告を実施する
第 15 回　演習内中間報告Ⅱ
前期の振り返りと前回の修正した内容を中間報告する

〔成績評価〕
レポート及び課題
中間報告の内容及び完成度

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

演習Ⅱ【公演事業研究】

8454
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
藤本　光司　井村　薫子

〔到達目標〕
卒業論文のテーマを決定。スケジュールを作成できる。それぞれのテーマにそって資料を作成。卒業公演演習の準備を始める。序論を書き始める。

〔授業の概要〕
個々のタイムラインの作成する。個々の研究テーマに沿った卒業公演の資料作成。考えをまとめる為に、お互いの研究テーマや論点についてクラスでディスカッションする。論文で使ってはいけない表現を理解する。序論を書き始める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
先行研究・参考文献を読み、それらの詳細と引用個所リストを作成。自由帳もしくはＵＳＢにメモする。卒業公演演習資料の作成。・授業前にテーマに関連する文献を読み解く（120 分）
・テーマに関する興味を深めて論述（レポート作成）を行う（120 分）

〔授業計画〕
第 1 回　スケジュールの作成
卒業論文提出までのスケジュールを作成。
第 2 回　テーマの選択
前学年でディスカッションしたトピックなどから、自分書きたいテーマを絞り込む。トピックにそった先行研究や引用できる文献のサーチの方法を学ぶ。
第 3 回　序論の準備
序論の準備。つかってはいけない文章表現を理解する。メインとなる演習資料保存方法を理解。
第 4 回　卒業公演演習準備　1
卒業公演演習の準備。創作・演出の作業開始。
第 5 回　卒業公演演習準備　2
卒業公演演習の準備。創作・演出の作業。
第 6 回　卒業公演演習準備　3
卒業公演演習の準備。創作・演出の作業。
第 7 回　卒業公演演習準備　4
卒業公演演習の準備。創作・演出の作業。
第 8 回　卒業公演演習準備　5
卒業公演演習の準備。創作・演出の作業。
第 9 回　卒業公演演習準備　6
卒業公演演習の準備。卒業公演演習の準備。創作・演出の作業継続。広報（チラシ、ポスター、ＳＮＳ）の作業開始。
第 10 回　卒業公演演習準備　7
卒業公演演習の準備。卒業公演演習の準備。創作・演出の作業継続。広報（チラシ、ポスター、ＳＮＳ）の作業継続。
第 11 回　卒業公演演習準備　8
卒業公演演習の準備。卒業公演演習の準備。創作・演出の作業継続。広報（チラシ、ポスター、ＳＮＳ）の作業継続。
第 12 回　報告会
これまでの準備についての報告。演習の報告書の提出と反省（ディスカッション）
論文作成用の資料及び文献のリスト提出。
第 13 回　卒業公演演習準備　9
卒業公演演習の準備。卒業公演演習の準備。創作・演出の作業継続。広報（チラシ、ポスター、ＳＮＳ）の作業継続。
第 14 回　卒業公演演習準備　１０
卒業公演演習の準備。卒業公演演習の準備。創作・演出の作業継続。広報（チラシ、ポスター、ＳＮＳ）の作業継続。
第 15 回　卒業公演演習準備　１１
夏休みのリハーサルスケジュールの作成。

〔成績評価〕
レポート制作（50%）課題発表（50%）

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
⑴前期・後期
⑵月曜日：13:00～16:00、水曜日：13:00～16:00
⑶芸術文化センターにて
⑷連絡先：k-imura@ashiya-u.ac.jp
⑸来室の際は、事前にメールにてご連絡をお願いします。

演習Ⅱ【ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ・ﾃﾞｻﾞｲﾝ研究】

8470
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
井上　徹

〔到達目標〕
1専門知識、ロジカル・デザイン思考を知る。
2.学術的・実務的価値の高い卒業論文・制作の準備。
3.専門知識を分かりやすく伝える力を身につける。
4.情報分析力を身につける。
5.人間関係を形成する力を身につける。

〔授業の概要〕
自らの興味のある企業・デザインジャンルを選定し、マネジメント・デザインの制作等を行い、卒業論文・制作を行う。前期は、各自のテーマに合わせた先行研究調査とフィールドワーク（現状リサーチとデザイン）を中心に卒業論文・制作を進める。

・研究・調査・デザイン等の報告・ディスカッション・ディベート。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：各回の演習で行う内容を事前に調査・整理する。（120分程度）
復習：各回の演習で課題として残された問題点などを次回までにまとめる。（120分程度）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　・演習・卒業論文の進め方。
第 2 回　卒業論文の執筆・制作について（1）
　　・卒業論文・制作の注意点等
第 3 回　卒業論文の執筆・制作について（2）
　　・卒業論文・制作の文献等調査方法
第 4 回　卒業論文のテーマ
　　・各自テーマの決定と卒業論文の目次作成
第 5 回　先行研究調査（1）
　　・各テーマに基づいた歴史（制作・研究）

第 6 回　先行研究調査（2）
　　・各テーマに基づいた事例（制作・研究）
第 7 回　先行研究調査結果の報告・ディスカッション
　　・先行研究の調査報告会
第 8 回　フィールドワーク（1）
　　・各自のテーマに基づいた（リサーチ&デザイン）
第 9 回　フィールドワークの報告（1）
　　・フィールドワークの報告会
第 10 回　フィールドワーク（2）
　　・各自のテーマに基づいた（リサーチ&デザイン）
第 11 回　フィールドワークの報告（2）
　　・フィールドワークの報告会
第 12 回　フィールドワークのまとめ（1）
　　・リサーチ内容を完成させる。
第 13 回　フィールドワークのまとめ（2）
　　・デザインを完成させる。
第 14 回　フィールドワークのまとめ（3）
　　・フィールドワークの総評。
第 15 回　中間発表
　　・演習内中間発表
〔成績評価〕
プレゼンテーション（40%）
研究・作品の完成度（30%）
発表・ディスカッション・ディベートへの参加度（30%）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし・授業中に適宜資料を配布。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
1.学　期：前期・後期
2.日　時：授業終了後／水曜日14：00～15：00
3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室
4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能

5.その他（相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容

②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。

③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

情報処理実習Ⅱ

3317
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4年
2単位　後期
経営_選択
林　　泰子

〔到達目標〕
・Excelの基本操作技能を習得し、実践的な情報処理を行うことができる。
・Excelの機能を応用し、教育現場などの社会で活用できる課題を、作成することができる。
・Excelで処理したデータ結果を、WordやPowerPointと統合し、活用することができる。
・個人情報や著作権を遵守する必要性について説明することができる。
〔授業の概要〕
・Excelの基本的な計算処理をはじめ、利用頻度の高い関数、グラフ機能、データベース機能などの実践的な情報処理スキルを習得する。
・教育現場やビジネスなどのデータを、Excelの機能を用いて効率よく計算処理する能力を培う。さらに、会計報告や成績処理、名簿台帳の作成・管理など、社会人として必要な技術を身に付ける。
・職場での個人情報や著作権の取り扱いなどについて、事例をもとに学習しグループで討議する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の授業内容に関する準備と復習をし、日頃からコンピュータに慣れ親しんでおくことが望ましい。（授業準備90分、授業の復習90分）

※注意事項
授業で学習した内容のデータを保存するため、USBメモリー（２GB以上）を必ず毎回持参すること。第1回目からUSBに保存するので、必ず忘れずに持参すること。

〔授業計画〕

第 1 回　イントロダクション
　　授業の到達目標・授業の進め方と注意・成績評価の説明
第 2 回　Excelの基本操作
　　データの入力と編集、簡単な計算
第 3 回　シートの編集
　　シートやブックの編集、罫線
第 4 回　基本的な関数1
　　相対参照・絶対参照の計算
第 5 回　基本的な関数2
　　基本的な関数の復習
第 6 回　データベース機能
　　台帳作成とデータ管理、入力規則の設定、条件付き書式
第 7 回　関数の応用１
　　論理関数、論理的に式を導く
第 8 回　関数の応用2
　　関数を応用した課題作成
第 9 回　グラフ機能
　　用途別グラフ、2パターンのグラフの統合
第 10 回　中間チェック
　　Excelのまとめと振り返り
第 11 回　情報モラル
　　個人情報と著作権
第 12 回　Excelの機能を応用した課題作成1
　　表計算のシート作成と編集
第 13 回　Excelの機能を応用した課題作成2
　　データとコンテンツの入力
第 14 回　Excelの機能を応用した課題作成3
　　データ処理とコンテンツの編集
第 15 回　課題作成
　　Word、Excelの機能を統合した報告書の作成

〔成績評価〕
・課題提出物　60%
・チェックテスト（実技）　30%
・授業への取り組み・態度　10%

〔教科書〕
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　情報編（平成30年7月告示、文部科学省）
必要に応じて適宜プリントを配布する

〔参考文献〕
授業内で適宜参考文献を紹介する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、コンピュータ・情報処理（実習を含む。）、高一種（情報）、選択

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日：11:00～12:00
③研究室
④y.hayashi@ashiya-u.ac.jp
⑤研究室に来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください。
　質問等は、基本的には授業終了後に講義教室で対応します。
　それ以降は、メールで受け付けます。

演習Ⅱ【マスコミ文化論】

8418
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
西光　晴彦

〔到達目標〕
卒業論文の作成・完成。

〔授業の概要〕
3年次に行った専門演習の学習を復習確認しながら個別指導を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業毎時間、準備学習(予習・復習)について告知する。
更には授業時間外も質問等(詳細授業時に伝達)は受け付ける。

〔授業計画〕
①3年次に行った専門演習の学習を復習確認しながら個別指導を行う。
②過去に作成された卒業論文を開示して参考にさせたうえで、各人の希望に従って卒業論文の仮テーマを定めさせる。
③仮テーマに従って参考文献を選択する。
④卒業論文作成の進捗状況を確認しながら随時指導を行う。
⑤卒業論文発表会参加の有無を確認。
⑥卒業論文完成

〔成績評価〕
卒業論文研究内容と執筆内容によって評価する。

〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」「各個人が準備したもの」

〔参考文献〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」「各個人が準備したもの」

〔履修条件〕
その他

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
金曜日11：00～12：00

情報社会と情報倫理Ⅱ

4321
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
西光　　晴彦

〔到達目標〕
技術革新・科学技術の発達により大量の情報社会に生活する私たちは巨大なマスメディアに大きな影響を受けると共に重要な情報源として捉えている。パソコンのインターネットによりコミュニケーションツールもマルチメディア化が急激に進んでいるが、未だテレビ・ラジオ放送がその王座に君臨している。
そこで放送局の歴史と現状を考察し、これらから発信される情報を正しく取捨選択する能力を養うと共に視聴者としてのあり方を学ぶ。
〔授業の概要〕
企業としてのマスメディアの獲得目的と使命とは如何なるものなのかを考察する。そして視聴者に与える影響が時代の変遷と共にどのように変化してきたかについて、その歴史と背景を研究してゆく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：指定した配布プリントなどを熟読してくること。
復習：授業で学習した内容を復習し理解しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　放送界概観1
　　放送局の種類・放送局の内容別区分
第 2 回　放送界概観2
　　放送局の配置とネットワーク
第 3 回　放送局開局の歴史と社会背景
　　開局までの社会情勢と放送開始
第 4 回　放送局の経営と営業活動1
　　組織形態と財源及び収支・増収策と節約
第 5 回　放送局の経営と営業活動2
　　利潤追求と公共性の維持
第 6 回　放送局の経営と営業活動3
　　民間放送局の収入源(スポンサーの番組への介入)
第 7 回　コマーシャルメッセージ1
　　我が国のCMの歴史
第 8 回　コマーシャルメッセージ2
　　CMに関する規定(時間制限・内容制限等)
第 9 回　コマーシャルメッセージ3
　　特殊なCM・効果のあるCM
第 10 回　放送局(番組編成局の業務)
　　編成権・法規と放送基準
第 11 回　視聴率
　　定義と調査方法及びその実態
第 12 回　ニューメディア時代到来
　　発祥と我が国における現状と発展
第 13 回　マスメディアと社会生活1
　　コミュニケーションツールとしての役割
第 14 回　マスメディアと社会生活2
　　視聴覚メディアの影響
第 15 回　試験範囲の確認
　　重要ポイントの復習・告知
〔成績評価〕
その他平常点10%
小テスト20%
定期試験70%
〔教科書〕
高等学校学習指導要領解説　情報編（平成22年5月告示、文部科学省）
〔参考文献〕
資料やプリントは講義中に随時配布する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、情報社会・情報倫理、高一種（情報）、選択
〔オフィスアワー〕
水曜日11：00～12：00

企業内教育論Ⅱ

2403
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
西光　　晴彦

〔到達目標〕
・企業における構造改革を遂行するために、企業に携わる全ての『人』が改革の意義について認識・理解し実行する方法を考察する。
・自己の構造改革のための教育が、これからの企業内教育の研究課題の中核となってくることを考察する。
〔授業の概要〕
企業が社会に果たすべき役割と使命。更にはその企業で働く従業員に対する企業内教育が如何に重要なものなかについて考察してゆく。
また、近年はこれらの教育を外部の教育研修機関に任せている企業も多々存在する。その教育研修機関の教材やシステムについても研究する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：指定した配布プリントなどを熟読してくること。
復習：授業で学習した内容を復習し理解しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　企業内教育訓練の進め方1
　　役に立つ企業内教育訓練の展開
第 2 回　企業内教育訓練の進め方2
　　短期・中期・長期の企業内教育訓練
第 3 回　企業内教育訓練の進め方3
　　企業内教育訓練の機能
第 4 回　OJTの進め方・取り組み1
　　OJTの意義と必要性
第 5 回　OJTの進め方・取り組み2
　　OJTの方法と取り組み方
第 6 回　OJTの進め方・取り組み3
　　OJTの制度化と技法

第 7 回　問題解決訓練1
　　問題解説プロセスの確立
第 8 回　問題解決訓練2
　　問題解説プロセスの説明
第 9 回　問題解決訓練3
　　問題解説プロセスの教育訓練と技法
第 10 回　各種教育訓練の重要性と解説1
　　階層別教育訓練の必要性
第 11 回　各種教育訓練の重要性と解説2
　　青少年訓練の意義とポイント
第 12 回　企業内教育訓練の評価1
　　企業内教育訓練評価の意義と考え方
第 13 回　企業内教育訓練の評価2
　　企業内教育訓練評価方法と結果分析
第 14 回　総合的企業内教育訓練計画
　　目標管理と継続性
第 15 回　試験範囲の確認
　　重要ポイントの復習・告知

〔成績評価〕

その他平常点10%
小テスト20%
定期試験70%

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

資料やプリントは講義中に随時配布する。

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

木曜日11：30～12：00

演習Ⅰ【マスコミ文化論】

8317
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
西光　　晴彦

〔到達目標〕

マスコミの基礎的理解の上に、その問題点、特に法律、行政との関係を明らかにし、現代社会に果たす更なる応用の可能性について考察する。

〔授業の概要〕

実社会におけるマスコミ利用の実情、未来像などについて、実例をもとに分かりやすく、かつ具体的に描き出す。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

毎回の授業内で説明することとするが、基本原則は当日受講した内容要点のレポート提出と次回授業内容の告知し事前学習させる。

〔授業計画〕

第 1 回　授業方針のガイダンス
　　後期授業方針、評価方針の説明と確認。
第 2 回　マスコミの現状と課題（法的問題点）
　　憲法を頂点とする現代日本の法規範がメディアと如何なる関係を有しているかについて概説する。
第 3 回　放送の課題と現状（行政、特に国家権力との関係における問題点）
　　憲法を頂点とする現代日本の法規範がメディアと如何なる関係を有しているかについて概説する。放送法について、その目的、効果を中心に考察を加える。
第 4 回　マスコミの課題と現状（市民のアクセス権とメディアスクラムをめぐる今日的問題）
　　市民社会における放送の役割と可能性を探り、さらには、メディアスクラム等の用語に象徴される、メディアが市民社会と敵対する可能性についても、具体的に考察する。
第 5 回　具体的マスコミ視聴と読解
　　テレビ・新聞・雑誌・インターネット等の実際のプログラムを提示して見分する。
第 6 回　マスコミをめぐる問題
　　これまでに起こったマスコミをめぐる事件事例を検証する。
第 7 回　マスコミの改善点についての考察
　　各マスメディアの制作過程を考察し番組制作の、面白さ、困難さを学び、その潜在的可能性を知る。この授業は七回目の授業から九回目の授業にかけて三回連続で行い、同一テーマを深化させる。
第 8 回　マスメディア教育への応用（総論）
　　各マスメディアの制作過程を考察し番組制作の、面白さ、困難さを学び、その潜在的可能性を知る。この授業は七回目の授業から九回目の授業にかけて三回連続で行い、同一テーマを深化させる。
第 9 回　マスメディア教育への応用（各論）
　　各マスメディアの制作過程を考察し番組制作の、面白さ、困難さを学び、その潜在的可能性を知る。この授業は七回目の授業から九回目の授業にかけて三回連続で行い、同一テーマを深化させる。
第 10 回　マスメディア教育への応用
　　実際に行われているマスメディア教育の素材を使用しながら、その現代社会における存在意義、未来の可能性について学ぶ。
第 11 回　マスコミ環境と法（憲法）
　　マスメディア教育にとどまらず、メディア全般をコントロールするものとしての現代日本の法システムを概観し、アメリカ合衆国憲法に明示された言論の自由との歴史的つながりについて学び、更なる発展段階を予想する。
第 12 回　マスコミ環境と法（公法）
　　マスメディア教育にとどまらず、メディア全般をコントロールするものとしての現代日本の法システムを概観し、アメリカ合衆国憲法に明示された

言論の自由との歴史的つながりについて学び、更なる発展段階を予想する。
第 13 回　マスコミ環境と法（私法）
マスメディア教育にとどまらず、メディア全般をコントロールするものとしての現代日本の法システムを概観し、アメリカ合衆国憲法に明示された言論の自由との歴史的つながりについて学び、更なる発展段階を予想する。
第 14 回　マスメディア教育総括
後期授業の総括を行う。
第 15 回　年間授業のまとめ
年間授業の総括を行う。

〔成績評価〕
授業への集中度、随時提出するレポートの内容評価、筆記試験の結果などを総合的に判断する。

〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」など

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
金曜日11：30～12：00

演習Ⅱ【技術とものづくり】

8423
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
瀧　　巌

〔到達目標〕
・生活と技術の関係を理解させ、創造能力や実践的な態度を育てる
・優れた題材は学習過程において、技術・家庭科教育の学力を身に着ける

〔授業の概要〕
・作品と卒業論文を仕上げる（知識や体験を生かして、用具や材料をを活用し製作の為に
必要な技能や知識を身に着ける）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・各自製作の為の準備をする

〔授業計画〕
第 1 回　卒業論文について
・研究目的と意義
第 2 回　卒業論文について
・研究対象と研究方法
第 3 回　卒業論文について
・実習論文の進め方
第 4 回　木製品の製作
・題材の設定の理由
・製作したい木製品の構想を練り構想図を書く
第 5 回　設計（設計の順序）
・木材加工学習の目的
・製作したいもののスケッチ
第 6 回　設計（機能・構造）
・使用目的に合った製作品の機能目的
・材料を丈夫に組み合わせる
第 7 回　設計（材料）
・木材の組織と性質
・木質材料の構造と特徴
第 8 回　設計（加工法）
・用途に適した接合材料を選ぶ
・用途に適した塗装材料を選ぶ
第 9 回　製作の準備
・製作工程の作成
・安全作業のための行動
第 10 回　製作（木取り）
・けがき工具の使い方
・木取り寸法でけがく
第 11 回　製作（部品加工）
・平鉋の構造と働き
・鉋刃の出し入れの調節
第 12 回　製作（組み立て）
・組み立て順序を決める
・接合部のけがき（墨付け）
第 13 回　製作（仕上げ）
・接着剤を使用して組み立てる
・作品の検査をする
第 14 回　製作（塗装）
・塗装の工程・目止めの目的
・製作品の塗装「下地作り」
第 15 回　製作（塗装仕上げ）
・下塗りをする
・上塗りをする

〔成績評価〕
作品と論文の提出

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
・金曜日　2時限目

木材加工実習①

2255
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
瀧　　巌

〔到達目標〕
・創造的実践的育成
・自分の手で何かを作り上げ、素材である木そのものの魅力を知ることによって製作を楽しむ
〔授業の概要〕
・木製品の製作を通して、木材の特徴と加工法の関係について理解させる
・材料の選び方、工具の使い方も理解させる
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・工具名と使用法の理解
・立体図、部品図の作成
〔授業計画〕
第 1 回　木工塗装の特色と目的
・素材の美化（色彩・光沢・平滑性・好触感性など）
・素材の保護（素材の狂い、割れなどの防止）
第 2 回　考案設計
・木製品の設計と製作をとうして、木材の特徴と加工法との関係について理解させる
第 3 回　設計
・製作したいと思う製作品を書き表す
第 4 回　機能の研究
・使用目的に合った製作品の機能分析をする
第 5 回　完成予想図
・自分が製作したい木材製品の構想図を等角図で書く
第 6 回　木取り図作成
・完成予想図をもとに、木材料より部品加工するための木取り図を作成する
第 7 回　製作の準備
・主な工具・機械（工具・機械の名称と用途）
・安全作業（安全作業のための行動を知る）
・工程表の作成（製作工程を作成する）
第 8 回　製作
・けがき（けがき工具の使い方）
・鋸挽き（両刃鋸を使用して材料を切断する）
第 9 回　部品加工
・鉋削り（鉋刃の出し入れをしては先の調整をする）
・ならい目と逆目の識別、部品の平削りをする
第 10 回　組み立て
・組み立て順序を決める
・接合（接合部のけがきをする）
・組み立て（釘と接着剤を使用して組み立てる）
第 11 回　塗装
・素地磨き・面取りをする
・目止め（製作品の塗装の下地作りをする）
第 12 回　下塗り
・素地に塗膜の足掛かりとして塗るもので素地と密着良い塗料を塗る
第 13 回　中塗り
・下塗り面の凹凸の最終的な修正と膜厚をつける
第 14 回　上塗り
・仕上げ塗として、ごみやほこりがついたり、刷毛目が立たないように塗る
第 15 回　仕上げ
・塗膜が十分乾燥硬化した後、刷毛目や吹き肌を修正し、研磨剤などで磨く
〔成績評価〕
製作品にて採点をする
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
・石塚末豊・技術シリーズ塗装・朝倉書店　１９７９年
・技術家庭科研究会・新しい技術家庭科の指導・A木材加工編・１９７７年
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、木材加工（製図及び実習を含む。）、中一種（技術）、必修
〔オフィスアワー〕
・金曜日　2時限目

木材加工実習②

2256
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
瀧　　巌

〔到達目標〕
・創造的実践的育成
・自分の手で何かを作り上げ、素材である木そのものの魅力を知ることによって木工を楽しむ
〔授業の概要〕
・木製品の製作を通して、木材の特徴と加工法の関係について理解させる
・材料の選び方、工具の使い方も理解させる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・工具名と使用法の理解
・立体図、部品図の作成
〔授業計画〕
第 1 回　木工塗装の特色と目的
・資材の美化（色彩・光沢・平滑性・好触感性など）
・素材の保護（素材の狂い、割れなどの防止）
第 2 回　考案設計
木製品の設計と製作をして、木材の特徴と加工法との関係について理解させる
第 3 回　・設計
・製作したいと思う製作品を書き表す

第 4 回　機能の研究
・使用目的に合った製作品の機能分析をする。
第 5 回　完成予想図
・自分が製作したい木材製品の構想図を等角図で書く
第 6 回　木取り図作成
・完成予想図をもとに、木材料より部品加工するための木取り図を作成する。
第 7 回　製作の準備
・主な工具・機械（工具・機械の名称と用途）
・安全作業（安全作業のための行動を知る）
・工程表の作成（製作工程を作成する）
第 8 回　製作
・けがき（けがき工具の使い方）
・鋸挽き（両刃鋸を使用して材料を加工する）
第 9 回　部品加工
・鉋削り（鉋刃の出し入れをして刃先の調整をする）
・ならい目と逆目の識別、部品の平削りをする。
第 10 回　組み立て
・組み立て順序を決める
・接合（接合部のけがきをする）
・組み立て（釘と接着剤を使用して組み立てる）
第 11 回　塗装
・素地磨き・面取りをする
・目止め（製作品の塗装の下地作りをする）
第 12 回　下塗り
・素地に塗膜の足掛かりとして塗るもので素地と密着良い塗料を塗る
第 13 回　中塗り
・下塗り面の凸凹の最終的な修正と膜厚をつける
第 14 回　上塗り
・仕上げ塗として、ごみやほこりがついたり、刷毛目が立たないように塗る
第 15 回　仕上げ
・塗膜が十分乾燥硬化した後、刷毛目や吹き肌を修正し、研磨剤などで磨く

〔成績評価〕
製作品にて採点する

〔教科書〕
「特になし」

〔参考文献〕
・石塚未豊・技術シリーズ塗装・朝倉書店　1979
・技術家庭科研究会・新しい技術家庭科の指導・A4木材加工編・1977

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、木材加工（製図及び実習を含む。）、中一種（技術）、選択

〔オフィスアワー〕
・金曜日　2時限目

演習Ⅰ【技術とものづくり】

8314
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
4単位　後期
瀧　　巌

〔到達目標〕
木材の性質を理解させ、機能に応じて合理的に活用した設計ができるようにする

〔授業の概要〕
製作図に合わせて、部品や完成品の検査をしたり、木工具や機械を使用する過程で、正確さや
安全に留意する態度を養う

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
木工具の点検をさせる

〔授業計画〕
第 1 回　木製品の製作
・題材設定の理由を考えさせる
第 2 回　木製品の製作目標
・木製品の製作において、製作品の機能・構造・加工法などの研究
第 3 回　設計
・設計の順序を示す
・製作したいと思う木製品をスケッチさせる
第 4 回　製作の準備
・主な手工具・機械の名称と用途を結びつけるせ
第 5 回　製作　1　木取り
・製材された木材から部品（材）として適する部分を取る
・けがき（墨付け）
第 6 回　製作　2　木取り
・鋸挽き（両刃鋸の構造と働き）
・鋸の使い方（鋸身・横挽き刃・縦挽き刃・あさり）
第 7 回　製作　3　部品加工
・鉋削り
・鉋の構造と働き・鉋身のさし方と抜き方
・裏金の合わせ方
第 8 回　製作　4　組み立て
・組み立ての手順（組み立ての為のけがき・接着剤の塗布・組み合わせ
釘打ち接合・検査・修正）
第 9 回　製作　5　組み立て
・下穴開け・釘打ち・接着剤の使い方・仕上
第 10 回　製作　6　塗装
・下地つくり（素地磨き・目止め）
第 11 回　製作　7　塗装
・下塗り
第 12 回　製作　8　塗装
・中塗り
第 13 回　製作　9　塗装
・上塗り
第 14 回　製作　10　塗装

・仕上げ
第 15 回　まとめ
製作品とレポート提出

〔成績評価〕
・製作品とレポート

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
・金曜日　2時限目

演習Ⅱ【電気利用技術】

8437
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
4単位　後期
齋藤　　治

〔到達目標〕
・各自が取り組んだ各自のテーマ内容に沿った、卒業論文作成での必要な基礎的計測データ取得ができる。
・各種電子計測装置に独自アタッチメントを接続して総合オペレーション機能評価などを実施し検証ができる。

〔授業の概要〕
・卒論テーマが、例えば製品開発の基礎的研究といった場合、長期動作のための安定性を確認するために長期間通電した評価が必要となり、この準備計画をします。
・各人が目指す評価項目、データレコーダ記録期間、ラボ以外で設置した観点視点から、実務環境設定を想定した各人に応じた演習項目設定を設定作成します。（ゼミ生間での自分ノート開示がアクティブラーニングに相当）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
経過観測中でのイレギュラルな（例えば瞬間停電などの）対応もある程度の想定をします。限りなく自動復帰が可能な対策を事前に講じることが所要目的へ近づきます。（資料整理前後2時間相当）

〔授業計画〕
第 1 回　ペンデータレコーダの取扱いを知りましょう
長期間のデータ記録に欠かせないロギング装置の１つ、ペンレコーダの操作方法の理解ができる。
第 2 回　熱電対温度記録装置の取扱いを知りましょう
夏は35℃を越え、冬は5℃を下回る気温環境下から怪しい挙動をし始めることが多いことの理解ができる。
第 3 回　電子系パーツ入手経路の研究をしましょう
大学近隣で手に取って入手可能な電子パーツで入手が出来ない時に必要となる電子部品スペック規格の情報の読み取り方の理解ができる。
第 4 回　リサイクル電子部品活用技術を知りましょう
民生機器内に各随所、使用している電子部品をよく知ることができる。
第 5 回　電子装置のリペア整備技術を知りましょう
アナログオシロスコープ内部整備場面で、入手不可能電子部品調達のための代用パーツ補修整備技術を深めることができる。
第 6 回　電子部品の品質管理を知りましょう
電子部品でも市場コスト単価幅が異なるため、安価な電子部品に潜む危険な動作上の理解ができる。
第 7 回　アクチュエータパーツの考察をしましょう
主に機構部品（ソレノイドやバネなど）の関連機械部品の特徴理解ができる。
第 8 回　エレクトロニクスツールの研究をしましょう
電子系ワーク、ドライバ、電線カット、ハンダといったツールの正しい使い方を今一度、体験後でのポイント箇所を記述整理ができる。
第 9 回　DIY　Tool の研究をしましょう
専用ワークベンチ装置（治具の類）はオーダすると非常に高額なため、エンジニアが日夜心がけているTool類の着眼点工夫についての背景理解ができる。
第 10 回　リビルト製品活用の研究をしましょう
普通の家電製品には、使用の安全設計の観点から耐久寿命が設定されていることが多く、エンジニアを目指す人に必要となる寿命箇所ポイント理解ができる。
第 11 回　シーケンサ装置の制御演習をしましょう
製造工場の制御装置の中で動作活躍するシーケンサの開発言語であるラダー言語を使ってプログラム記述ができる。
第 12 回　プレゼンテーションパネル設計をしましょう
各種イベント装飾等で電子エンジニア手腕を持つ人々達が任さたイルミネーション類電子回路設計について研究、考察ができる。
第 13 回　電子効果音　音響装置の研究をしましょう
車載ブーストアンプに代表される準産業用途向き電子機器類での、独特な通信スイッチ連携、リモコン装着装置の特徴を理解できる。
第 14 回　民生電子機器の簡易修理技術習得をしましょう
ホームセンタで入手可能な汎用パーツや接着剤を使った、ターンアラウンドタイムを最小に抑えるエンジニアリングの極意を理解できる。
第 15 回　電子遊具類のリペア技術を知りましょう
子供向けToyの中にも、実はエンジニアからのメッセージが込められている作品があり、リペア技術を理解できる。

〔成績評価〕
記述ノート評価：100%
各自の自分ノートを良く見直し、点検し、自己採点の際の、参考としてください。

〔教科書〕
都度丁寧に自身の手で記録コメントされたノートが実は座右のマイテキストです。

〔参考文献〕
実験記録がオリジナルテキストとなるよう各自努力を怠らないようにしてください。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
1. 学期：後期
2. 曜日・時間　：水曜日　10：00～11：30
3. 場所　：研究棟2F電気研究室
4. 連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp　…@を半角で
5. その他　LMS科目です。可能な限り、フォリーのメールで送ってください。

電気電子工学実験実習Ⅰ②【自動車】

2134
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
齋藤　治

〔到達目標〕
・エネルギー変換領域で取り扱う受動能動素子の特性実験を通じデータ記述ができる。
・平易な電気回路構成の実験実習で、基本的電気技術操作を通じ工夫ができる。
・機器の点検で必要な実務的術習得のための配線保守整備ができる。
〔授業の概要〕
・各種実習のテーマにしたがい、電子回路製作、実験、実務保守ワーク演習をする。
・測定装置での単位の読み違えなどに留意して記述する。
・実験データはアクティブラーニング形式により受講者同志で相互評価をする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
回路図と実体配線には相応の隔たりがある。実験時に得られる観測データは貴重な資料であり、作業進捗状況ノートを付記記録しながらの実習が必備となる。事前に測定器の操作ポイントを予習復習しておくことが望ましい。（前後2時間相当）
〔授業計画〕
第 1 回　合成抵抗の結線実験
抵抗の直列・並列結線、でのテスター抵抗測定検査の理解ができる。
第 2 回　オームの法則の実験
直流電圧計、直流電流計、安定化電源装置、配線プラグ類一式での配線設定操作ができる。
第 3 回　電圧計、電流計の計装取扱い注意と確認
正しい電圧レンジ、電流レンジの選択や回路構成の確認操作ができる。
第 4 回　白熱電球の特性試験
電球フィラメントに流れる電流負荷特性を知って、V-I-P-T特性の特徴を調べ、温度係数についての理解ができる。
第 5 回　オシロスコープと発信器の取扱いの習熟
オシロスコープの操作方法を知ることができる。
第 6 回　トランスの変圧実験
商用電源を降圧したトランスを用い、最大値と実効値の波形を計算で求めることができる。
第 7 回　交流の周波数と位相の観測
発信器とトランスの2つの信号源を利用し、交流信号の位相や波形の歪などについて理解ができる。
第 8 回　コイル、コンデンサ回路
発信器に接続したコイル、コンデンサの波形の様子を観測し、コイルのヒステリシスやコンデンサ、コイルのリアクタンスに関する概念を計算で求めることができる。
第 9 回　蛍光灯、LED照明器具の電気回路
蛍光灯の点灯回路やLED照明装置内部の駆動回路などを比較調査して特徴を理解できる。
第 10 回　モータの運転観測
直流・交流整流子電動機、交流誘導電動機の其々の特徴、用途、構造を理解できる。
第 11 回　半導体の特性理解
能動素子の半導体（Di、Tr、複合Tr・LED各種素子類など）の基本特性を理解できる。
第 12 回　電源回路の原理・基本設計
半波、全波整流回路や平滑回路、安定化回路の動作原理を理解できる。
第 13 回　トランジスタ増幅回路の実験
トランジスタ動作各種バイアス回路や動作点、動作クラスの特徴を知ることができる。
第 14 回　リレー制御素子による制御の実験
リレーが持つ各接点名称の理解と継電器接続によって動作可能な独自動作の特徴を理解できる。
第 15 回　発振回路の研究
アナログデバイスを使った各種電子発振回路の特徴を理解できる。
〔成績評価〕
期末レポート（40）
小レポート（40）
授業態度（20）
〔教科書〕
特に指定なし。
〔参考文献〕
Kindle　カラー図解で一番やさしい！電気のことがわかる事典
著　戸谷次延（監修）　ISBN9784791622597 西東社
中学校学習指導要領　技術家庭科編
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
1. 学期：後期
2. 曜日・時間　：水曜日　10：00～11：30
3. 場所　：研究棟2F電気研究室
4. 連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp　…@を半角で

5. その他　LMS科目です。可能な限り、フォリーのメールで送ってください。

設備工事業経営論Ⅱ

5417
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
齋藤　　治

〔到達目標〕
・設備工事業界が求めている、より高品質施工技術習熟のコンセプトが理解可能な諸技術情報を調べ、説明ができる。
〔授業の概要〕
・新素材、新加工技術の出現で旧来技術による施工方法が変わってきていることを各自が調査を進める。
・学習者が目指す各種設備工事事業者がよりよい施工技術習得となるための技術取得動向を得ることを目的とし、トピックステーマについてアクティブラーニングにより知見を深め、討論をする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・同業施工業者でも優れた技術を持つ施工業者にあるそれぞれ独特のノウハウを知るための情報を収集する。
・学習者が取得を目指すノウハウとなるコンテンツがどこにあるかを各自で探しておく。
（事前事後2時間程度）
〔授業計画〕
第 1 回　電気設備工事・機器設置
電灯、動力等の屋内配線に関する電気配線設備関連の工事についての理解ができる。
第 2 回　空調機器の設置工事
電気エアコンをはじめ、ガス空調を含めた、空調機器設置に関する工事の概要を知ることができる。
第 3 回　弱電LAN・SOHOなどの通信工事
電話、LAN（有線、無線）通信、放送受信設備の諸電気設備に関する工事の概要を知ることができる。
第 4 回　給排水設備工事
上下水道まわりの配管工事に関する理解を深めることができる。
第 5 回　住宅衛生設備機器工事
居宅内洗面、風呂、手洗い、換気設備等の工事概要を知ることができる。
第 6 回　ガス設備工事
ガス配管、器具設置工事の概要を知ることができる。
第 7 回　バリアフリー化工事
段差解消等のための設備施工工事の概要を知ることができる。
第 8 回　消防設備機器工事
消火および通報設備工事の概要を知って、設備の分類、安全について列記し、評価することができる。
第 9 回　床暖房、暖房器具工事
床暖房工事やセントラルヒーティングなどの工事事例を知ることができる。
第 10 回　昇降機設備機器工事
宅内用エレベータ、リフト等設置に関する工事概要を知ることができる。
第 11 回　建築付帯設備工事
居住住宅増設に関わる各種付帯設備設計の概要を知ることができる。
第 12 回　エクステリア、造園工事
庭廻り、外溝、車庫等に関する工事の概要を知ることができる。
第 13 回　共同住宅、ビル管理
集合住宅、共同住宅における施工工事の特徴、概要を知ることができる。
第 14 回　各種専門工事
さく井施工工事などの概要を調査し、メリットなど理解ができる。
第 15 回　総合設備コンサルト
地域、環境に応じた施工特徴、配慮の概要を調査し、マネージメントスキルについて理解ができる。
〔成績評価〕
期末レポート（20）
小レポート（60）
授業態度（20）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
新人教育－電気設備（社）日本電設工業協会編
ISBN9874889490763

その他、必要に応じ、授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
1. 学期：後期
2. 曜日・時間　：水曜日　10：00～11：30
3. 場所　：研究棟2F電気研究室
4. 連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp　…@を半角で
5. その他　LMS科目です。可能な限り、フォリーのメールで送ってください。

キャリア基礎　経営③

8129
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
齋藤　　治

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。

2) 円満に意志疎通を図ることができる。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
4) 論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲を持つことができる。

〔授業の概要〕

・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、クラスまたは学科を軸に活動する。
・授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動（アクティブラーニング）である。
・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
・毎時記入する小レポートは担当教員が採点返却する。これはプレゼンテーション能力を育む。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、各自で身に着けておくことを推奨する。
・次週までの課題の提示があるので、事前に熟読しておくことを望む。(準備と事後で約２時間)

〔授業計画〕

第 1 回　リーダーシップ論について
リーダーシップに必要な概念についての理解を深めることができるようになる。

第 2 回　キャリア形成（SPI、就職、教職試験対策）
就職に必要なさまざまな情報活用、スキルアップについて各種情報を得ることでスキルアップ向上ができる。

第 3 回　学園祭について
大学のイベント、学園祭についての各種情報について知り、有意義な参加で楽しい学生生活を過ごすことができる。

第 4 回　社会保障制度について
社会人になって加入する各種諸制度についての知識や理解ができる。

第 5 回　ほめ言葉
ほめ言葉演習を通じ、相手のことを考えてコミュニケーションスキルを向上させることができる。

第 6 回　オーディエンス
聞き手のスタンスで相手に対する理解度、親密度の違いが理解できる。

第 7 回　図形カード
的確な指示をおこなうための説明手順、効率的な会話技術について理解を深めることができる。

第 8 回　各コース別クラスによるメニュー（1）
各コースに必要なメニューの紹介をし、事前情報を得ることで理解を深めることができる。

第 9 回　各コース別クラスによるメニュー（2）
第8回の続き。

第 10 回　（全）キャリア形成について（1）…働く…
就職部主催：働くことの意味や意義を聴いて就職活動や将来目指す職業への具体的関心度をより深めることができる。

第 11 回　(全)キャリア形成について(2)…SPIなど…
就職部主催：就職試験の日程掌握、SPI対策、基礎学力向上の秘訣、就職に必要な具体的キャリア形成をステップアップができる。

第 12 回　裁判員制度について
DVD映像を見て、裁判員に選ばれた判例ケースを想定し、裁判員立場に立った思考を身に付けることができる。

第 13 回　図書館の紹介
図書館の効率的な利用方法を知って勉学や就職に役立つ情報入手方法の理解を深めることができる。

第 14 回　キャリア形成について…先輩からのメッセージ…
就職が内定した4年生のインタビューを見て、就職についての理解をより現実的に深めることができる。

第 15 回　クラス別　後期試験レポート作成準備
卒論発表会日程の場合は参加をする。進級情報の整理掌握ができる。

〔成績評価〕

・レポート評価100％
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。

〔教科書〕

相互理解を深める　コミュニケーション実践学　沖裕貴・林徳治　ぎょうせい　ISBN9784324090053

〔参考文献〕

ガイダンスの資料、演習用シートなど必要に応じ随時配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

1.　学期：後期
2.　曜日・時間　：水曜日　10：00～11：30
3.　場所　：研究棟2F電気研究室
4.　連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp …@を半角で
5.　その他　一部対面を除き、LMS科目です。
可能な限り、フォリーのメールで送ってください。

電気電子工学実験実習Ⅱ

4309
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
齋藤　　治

〔到達目標〕

・エレクトロニクス回路構成（アナログデジタル）回路技術の諸診断が可能となるエンジニアスキルを習得できる。
・電子制御で用いる種々技術背景を体系的に説明できる。

〔授業の概要〕
・受動素子（R、C、L）、能動素子（Tr、Di他）や汎用アナログ、デジタルロジックＩＣなどを用いた電子回路をハンダ不要のブレッドボードを用い、学習者が回路構成を組む。
・動作した作品は学習者相互でアクティブラーニング形式により相互評価をする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
取り組むテーマでアセンブル（組立）ワークタイムが到底１コマ時間内で終了することがないため、作業進捗状況ノートを記録しながら実習をする。（資料整理に前後約2時間程度）
〔授業計画〕
第 1 回　ブレッドボードワークの操作
電子配線ツール・ブレッドボードの基本的な取り扱い方を操作することができる。
第 2 回　電源回路と基本接続
電子回路に必備な電源回路の接続に重要となるポイントの理解ができる。
第 3 回　基本電子部品の特性評価
能動素子トランジスタの負荷曲線、チェナーDi特性など、能動素子が持つリニア特性、飽和特性、逆バイアス動作時特性など理解ができる。
第 4 回　ＯＰアンプ回路の研究
反転、非反転、それぞれＯＰアンプ回路動作で用いられる特徴を知ることができる。
第 5 回　ＯＰアンプ発振回路の研究
アナログＯＰアンプによる発振回路構成技法を知ることができる。
第 6 回　基本論理回路素子の研究
汎用ロジックＩＣ（TTL、C-MOS）の真理値、内部回路を理解ができる。
第 7 回　カウンタ基本回路素子の研究
FF、デコーダ、エンコーダ、デジタルカウンタに用いられる論理素子の動作原理を理解ができる。
第 8 回　マトリクス表示回路構成の研究
7セグLEDに代表される表示回路の配線技法を調べ、ダイナミックスキャン点灯技術や液晶表示器駆動方法などの理解ができる。
第 9 回　パルス回路駆動法の研究
ステッピングモータに代表されるデジタルモータを扱う際に基本となる電子駆動回路、制御素子、パルス駆動方法などの理解ができる。
第 10 回　インターフェイス回路の研究
電子信号系の変換回路、アイソレーションアンプや信号伝達系で用いられる各種インターフェイス回路の特徴を理解できる。
第 11 回　マイコンボード回路の研究
各種ＣＰＵを複合的に組み合わせて動作するマイコンチップ製品を用いた、インターフェイスを中心とした電子開発系環境の概論の理解ができる。
第 12 回　マイコン基本ソフトの設計
CPU固有命令となるアセンブラコーディング手法を知り、コーディングに伴う各種インターフェイスモード設定方法やメモリアクセス技法などの理解ができる。
第 13 回　マイコンボード内のレジスタ操作の研究
電子系設計に固有機能を持たせるインタラプト技法について理解ができる。
第 14 回　PLC装置を使った制御の研究
ラダープログラムを使った制御専用PLC装置の制御技術についての理解ができる。
第 15 回　マイコンモジュール開発法の研究
PIC、H8、AVR、など、汎用マイコンチップ素子を用いたユニークな専用装置開発プラットフォームの理解ができる。
〔成績評価〕
期末レポート（40）
小レポート（40）
授業態度（20）
〔教科書〕
特に指定なし。
〔参考文献〕
Kindle　カラー図解で一番やさしい！電気のことがわかる事典
著　戸谷次延（監修）　ISBN9784791622597 西東社
中学校学習指導要領　技術家庭科編
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、電気（実習を含む。）、中一種（技術）、選択
〔オフィスアワー〕
1.　学期：後期
2.　曜日・時間　：水曜日　10：00～11：30
3.　場所　：研究棟2F電気研究室
4.　連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp　…@を半角で
5.　その他　LMS科目です。可能な限り、フォリーのメールで送ってください。

演習Ｉ【電気利用技術】

8308
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
齋藤　治

〔到達目標〕
・前期演習Ｉで学んだ内容以外、少し深い分野スキルを身に付けることができる。
・電気電子系エンジニアにより近づく内容実験の創意工夫ができる。
〔授業の概要〕
・テーマに沿った微細電子工学系の各種測定は、独特計測ツール準備アタッチメントなどの事前準備が必要です。
・各種測定ツールを使いこなすため、実習場面は大事なポイントを押さえて参加し、記録をしてください。（ゼミ生間での自分ノート開示がアクティブラーニングに相当）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
データ測定、記録を開始する前は事前準備が欠かせません。専門計測器取り扱いは、マニュアル記載事項の専門用語理解が必要です。専門用語理解には、相応時間が必要で、各自キーワードの調査をしてください。（前後2時間程度）
〔授業計画〕
第 1 回　より精密な電気電子系測定の手法を知ろう
アナログテスターより高精度高感度を有する計測器の操作ができる。
第 2 回　オシロスコープを使って交流の計測をしよう
交流信号を扱う際で不可欠なオシロスコープ操作、未知ノイズ描写の操作ができる。
第 3 回　SG、Freqカウンタの使い方を知ろう
任意交流信号を自在作成可能な使い方などを習熟することができる。
第 4 回　交流電力の力率について理解をしよう
誘導性容量性リアクタンス成分などの理解ができる。
第 5 回　デジタルモータの駆動方法の理解をしよう
プリンタなどデジタル制御で動くメカトロ製品に多用するステッピングモータ駆動原理を操作することができる。
第 6 回　サーボモータ駆動原理の理解をしよう
高精度精密回転系を制御する電子系サーボ回路の理解ができる。
第 7 回　オペアンプ回路動作の基礎理解をしよう
反転、非反転回路、バーチャルグランド（仮想接地）、オペアンプ回路の独特な回路名称呼称の理解ができる。
第 8 回　トランジスタ増幅回路の名称と理解しよう
オペアンプ内部搭載の、最も小さい基本素子トランジスタ電子回路設計の際に用いる動作クラス基本原理の理解ができる。
第 9 回　電力制御素子部品達の理解をしよう
直流用サイリスタ、交流用トライアック、バリスタ、サージヒューズ、ＳＳＲ、フォトカプラなどの各種複合電子部品の理解ができる。
第 10 回　発振回路とヒステリシス動作の理解しよう
非線形電子回路動作の電気信号…発振信号回路の調査をし、理解ができる。
第 11 回　変調回路方式の理解をしよう
ＡＭ、ＦＭラジオ放送の変調原理、ＰＷＭ・デジタル変調など無線通信分野の基礎理解ができる。
第 12 回　無線通信装置の理解をしよう
無線電子通信工学で用いる送受信機の内部構造、ブロックダイヤグラムについての理解ができる。
第 13 回　無線アンテナの仕組みと電離層を理解しよう
周波数、電波の波長の違いでアンテナ名称、中短波無線伝搬原理や面・パラボラアンテナなどの仕組みなどの理解ができる。
第 14 回　各種電線ワイヤの種類、コネクタを知ろう
各種用途に応じて、単芯、撚り線、防水、通信線、同軸線、と、銅線に対応した各種規格、これら対応コネクタ名称の理解ができる。
第 15 回　各種の配線技法を知ろう
設計図の電子回路どおり作成しても上手く動かない原因、対策についての理解ができる。
〔成績評価〕
記述ノート評価：100%
前期と同様、各ワークテーマごとに理解達成度を自己評価、自己採点をし、自分ノートに記載します。
〔教科書〕
各テーマに応じた実習室にある実在の計測装置やマニュアル、など。必要に応じ、マニュアルの該当箇所をコピーし、自分ノートの参考テキストとしてください。
〔参考文献〕
ゼミ時間内に随時必要参考資料を提供します。ネットからダウンロードして調べることもします。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
1.　学期：後期
2.　曜日・時間　：水曜日　10：00～11：30
3.　場所　：研究棟2F電気研究室
4.　連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp　…@を半角で
5.　その他　LMS科目です。可能な限り、フォリーのメールで送ってください。

演習Ⅱ【コンピュータ制御】

8429
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
盛谷　亨

〔到達目標〕
卒業研究に関わる分野をより深く理解することを目的として、各自研究テーマを中心に科学的・論理的な思考法や、資料のまとめ方、発表の仕方、文章として仕上げる力を養う。
学びの中の興味・関心から、自らの専門性を確立させ、そのまとめとして卒業論文を作成する。
〔授業の概要〕
(1) 中学校 技術科「情報に関する技術」分野における、コンピュータ制御を題材とした教材の考案と情報リテラシーの育成について考察する。

(2) 電気自動車やソーラーカーなどの次世代低公害車両を題材として、近未来自動車社会の在り方やエネルギー、環境問題について考察する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
専用に利用できるパーソナルコンピュータを所有し、オフィスアプリケーションやプログラミングアプリケーションを活用した自宅学習を行うことが可能な環境を用意する。
卒業研究は、自ら課題を考え、実験や試作を通して成果物の効果を評価していく。これらの活動は、講義以外の時間を用いて実施するので、積極的に研究室や実習室に来て、自主的に研究を進める。

〔授業計画〕

第 1 回　研究成果の発表
ここまでの研究の成果と進捗状況について発表する。

第 2 回　論文タイトルの確定
卒業論文のタイトルを確定する。

第 3 回　論文目次案の作成
卒業論文の構成を考え、目次案を作成する。

第 4 回　卒業論文の執筆 ①
目次案に沿って、論文執筆に着手する。

第 5 回　卒業論文の執筆 ②
議論、推敲を重ね、論文の執筆を進める。

第 6 回　卒業論文の執筆 ③
執筆の進捗状況を報告。引き続き論文の執筆を進める。

第 7 回　卒業論文の執筆 ④
議論、推敲を重ね、論文の執筆を進める。

第 8 回　卒業論文の執筆 ⑤
執筆の進捗状況を報告。引き続き論文の執筆を進める。

第 9 回　卒業論文の執筆 ⑥
議論、推敲を重ね、論文の執筆を進める。

第 10 回　卒業論文の執筆 ⑦
卒業論文の大枠を完成させる。

第 11 回　論文発表の準備 ①
論文発表の構成を考え、図・表などの資料を整える。

第 12 回　論文発表の準備 ②
論文発表に要するスライドを作成する。

第 13 回　論文発表の練習 ①
卒業論文発表の練習を行う。

第 14 回　論文発表の練習 ②
論文発表の方法や、スライドの不具合点などを修正する。

第 15 回　卒業論文の完成
完成した卒業論文を印刷し、冊子にまとめる。

〔成績評価〕

・授業に対する取り組み姿勢 （40%）
・課題作品 （30%）
・課題発表 （30%）

〔教科書〕

・適時、資料を配布する。

〔参考文献〕

・「技術科教材論」 竹谷出版
・他適時、文献を紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

① 後　期
② 曜　日：月曜日　12:00～13:00
③ 場　所：研究室 （研究棟 3階）
④ 連絡先：moriya@ashiya-u.ac.jp
⑤ その他：時間に余裕があれば、いつでも対応します。

情報処理基礎Ⅱ

3303
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
盛谷　亨

〔到達目標〕

技術科教育における情報教育の目的を理解し、生徒を指導する上で　必要とされる情報及びコンピュータの基礎的な知識を身につけ、教科指導へ生かすことができる。

コンピュータとソフトウェアの働きについて学び、プログラム言語の役割を理解して、基礎的なプログラムが作成できる。

〔授業の概要〕

情報技術の発展に対応し、コンピュータを幅広く活用するためには、その基本原理の理解が必要となる。

本講では、コンピュータの成り立ち、プログラムの動作と仕組み、アルゴリズムの考え方を学びながら、簡単なアニメーション処理を題材とした、プログラミングの基礎的な実習を行う。また、課題作品の評価について、グループ討議を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

マウスやキーボードの操作、文書入力の方法などWindowsの基本操作を修得していることを前提とする。

専用に利用できるパーソナルコンピュータを所有し、プログラミングに関する予習復習を行うことが可能な環境を用意することが望ましい。

〔授業計画〕

第 1 回　コンピュータとは
コンピュータとは何か、その進化の過程から概説する。

第 2 回　ソフトウェアとハードウェアの関わり
コンピュータの動作と仕組みについて、ソフトウェアとハードウェアの関係から概説する。

第 3 回　ソフトウェアの役割
ソフトウェアの働きと分類、OSとアプリケーションの関係などについて概説する。

第 4 回　プログラミング言語
コンピュータを動作させるためにはどのように命令を与えるのか、また、命令を受け取ったコンピュータはこれをどのように実行するのか、その仕組みをプログラミング言語の役割と共に概説する。

第 5 回　プログラムの動作と仕組み
コンピュータを動作させるためにはどのように命令を与えるのか、また、命令を受け取ったコンピュータはこれをどのように実行するのか、その仕組みをプログラミング言語の役割と共に概説する。

第 6 回　プログラミングとは
Windows上で実行可能なスクリプト言語を用い、具体的なプログラムの作成実習を行い、実際のプログラムの動作を確認すると共に、アルゴリズム

の考え方や、初歩的なプログラミングの手法を学ぶ。

第 7 回　プログラムの作成法
Windows上で実行可能なスクリプト言語を用い、具体的なプログラムの作成実習を行い、実際のプログラムの動作を確認すると共に、アルゴリズムの考え方や、初歩的なプログラミングの手法を学ぶ。

第 8 回　画面の構成とウィンドウの表示
ウィンドウ画面の成り立ちと、カレント座標の指定法。

第 9 回　演算と結果の表示
数式、演算子の表現法と数値、文字列の画面への表示法。

第 10 回　変数と値の代入
値の記憶と変数の利用法。

第 11 回　実行ボタンと入力ボックス
イベントドリブン型のプログラム実行とプログラム上での値の入力法。

第 12 回　条件分岐
If 命令を利用した、条件式によるプログラムの分岐。

第 13 回　繰り返し 処理
repeat ～ loop 命令を利用した、繰り返し処理。

第 14 回　課題プログラムの作成
指定課題（ボールが画面上を移動するアニメーション）と、自由課題のアニメーションプログラムを製作する。

第 15 回　課題プログラムの評価
グループ単位で課題作品の批評を行い、その評価と方法について討議する。

〔成績評価〕

・定期試験・課題レポート （60%）
・授業に対する取り組み姿勢 （30%）
・課題作品 （10%）

〔教科書〕

・適時、プリントを配布する。

〔参考文献〕

・「よくわかるプログラムとソフトウェアの動作と仕組み」秀和ｼｽﾃﾑ
・「パソコン・インターネットの教え方」　共立出版
・「中学校学習指導要領　平成20年3月告示」　文部科学省
・「中学校学習指導要領解説　技術・家庭編　平成29年7月」文部科学省

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、情報とコンピュータ（実習を含む。）、中一種（技術）、選択
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、コンピュータ・情報処理（実習を含む。）、高一種（情報）、選択

〔オフィスアワー〕

① 後　期
② 曜　日：月曜日　12:00～13:00
③ 場　所：研究室 （研究棟 3階）
④ 連絡先：moriya@ashiya-u.ac.jp
⑤ その他：時間に余裕があれば、いつでも対応します。

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　経営①

8221
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
盛谷　亨

〔到達目標〕

大学生の間に自分が進むべき進路（就職）を明確にするため、各方面の卒業生に来ていただき自分の将来像を描くことが出来ることを目的とする。

〔授業の概要〕

多くの時間本学の卒業生（先輩）に来ていただき、過去の就活体験談や学生生活を振り返った講話をいただきます。また、今大学生の時にしておけば良かったこと、現在の2年生に伝えたいことをお話しいただきます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

自分が進むべき進路について、考える時間を授業時間外でとってもらいます。また、それに向けて何をすべきかどう行動するべきかを考える

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション ①
前期学事予定・履修登録確認

第 2 回　学園祭イベント計画について
学園祭企画もイベント企画の重要な課題であると考えます

第 3 回　学生生活について
クラブ活動や大学行事、アルバイトや就職活動など学内外の活動と学業の両立

第 4 回　外部講師1
マイナビによる就職活動に関わるガイダンス

第 5 回　先輩講師1
本学4年生の就活体験を聞く ①

第 6 回　先輩講師2
本学4年生の就活体験を聞く ②

第 7 回　先輩講師3
大学院生の経験に学ぶ

第 8 回　外部講師2
就職活動、その具体的な情報収集と活動の方法について

第 9 回　外部講師3
就職活動、その具体的な情報収集と活動の方法について

第 10 回　外部講師4
就職活動、その具体的な情報収集と活動の方法について

第 11 回　専門演習と卒業論文について

専門演習にどのようなものがあるか、卒業論文とは
第 12 回　専門演習説明会
経営教育学科 専門演習担当教員の紹介と各演習内容の説明　／ 専門演習登録用紙 配布
第 13 回　オリエンテーション ②
専門演習 事前授業 （プレゼミ） について
第 14 回　オリエンテーション ③
専門演習 事前授業 （プレゼミ）
第 15 回　経営教育学科　卒業論文発表会
先輩の卒業論文発表を聞く

〔成績評価〕
毎回聴講レポートを記入し提出します。その聴講レポートが試験となります。
レポート（100%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容
②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。
③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

加工材料の特性

4022
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
盛谷　亨

〔到達目標〕
・金属材料を中心とする加工理論の基礎・基本を知る。（知識・理解）
・ものづくりに対する関心を高め、積極的に設計や製作実習に取り組む。（関心・意欲）
・技術科教育として教える立場に立った手工具の扱いなどの基本技能を身につける。（技能）
・実技実習において発想を膨らませ、創意工夫して作品の製作に取り組む。（表現力）
・共に学ぶ仲間と協働する。（チームワーク）

〔授業の概要〕
本科目は、経営教育学科の中学校技術科教員養成コースに関心を持っている学生に対して1年生の段階で技術科教育の概要を知ってもらうために開設している。
また、教員免許取得を希望している他学科の学生でも、技術科教育に関心のある学生も履修が可能である。授業の内容は、材料工学の基礎理論を学んだ後、糸ノコやヤスリなどの手工具を使用し、「空き缶小物入れ」などの製作実習を通して材料加工の教育方法を学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
中学生時に利用していた、「技術・家庭科」の教科書を今一度用意し、内容を確認しておくこと。
単元毎に教材の製作を行うので、時間内に完成できない場合は、補修時間を利用して定められた期間までに、必ず作品を完成させる。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業内容、成績評価、中学校技術科教育に関する概要。
第 2 回　木材の特徴
木材の名称、繊維方向の強さ、木材の変形、比重、加工した木質。
第 3 回　製作実習①（材質と切削加工）
身近な切削工具（小刀、カッターナイフ、キリなど）の使用法。
第 4 回　金属材料とその特徴
色々な鉱石、弾性と塑性、延性、展性、加工硬化、金属とさび。
第 5 回　製作実習②（金属の塑性加工）
空き缶（アルミ、スチール）で、ペン立て・小物入れを製作する。
第 6 回　設計製図とけがきの基礎基本
寸法記入の基本、第三角法による正投影図、立体の描き方。
第 7 回　金属材料の鋳造・鍛造
製鉄の方法、鉄、アルミニウム、黄銅、低融点合金の性質。
第 8 回　製作実習③（切削・穴開け加工）
工作機械（ボール盤、帯鋸盤、旋盤、フライス盤）の用途と使用法。
第 9 回　製作実習④（仕上げと塗装）
研磨の工具と方法、塗料の種類と用途。
第 10 回　製作実習⑤（検査と修正）
ノギス、マイクロメータの使用法、いろいろな測定器具。
第 11 回　金属材料と電気電子部品
導体と絶縁体、半導体、金属材料と導通、回路計の使い方。
第 12 回　製作実習⑥（被覆、はんだ）
はんだ素材、はんだづけの実際、電気機器の安全な使い方。
第 13 回　製作実習⑦（作品の点検）

リーフタップ製作を通した安全教育、実技科目の指導方法。
第 14 回　材料加工の模擬授業
模擬授業の実践と学生相互による評価。
第 15 回　まとめ
本科目の振り返りおよび後期試験について。

〔成績評価〕
・定期試験・課題レポート （60%）
・授業に対する取り組み姿勢 （30%）
・課題作品 （10%）

〔教科書〕
・「中学校 技術・家庭科 教科書」 東京書籍、開隆堂出版
・「技術家庭科ハンドブック」 兵庫県中学校技術・家庭科研究会

〔参考文献〕
・「中学校学習指導要領　平成20年3月告示」 文部科学省
・「中学校学習指導要領解説　技術・家庭編　平成29年7月」文部科学省

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、金属加工（製図及び実習を含む。）、中一種（技術）、必修

〔オフィスアワー〕
① 後　期
② 曜　日：月曜日　12:00～13:00
③ 場　所：研究室 （研究棟 3階）
④ 連絡先：moriya@ashiya-u.ac.jp
⑤ その他：時間に余裕があれば、いつでも対応します。

演習Ⅰ【コンピュータ制御】

8328
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
盛谷　亨

〔到達目標〕
卒業研究に関わる分野をより深く理解することを目的として、各自研究テーマを中心に科学的・論理的な思考法や、資料のまとめ方、発表の仕方、文章として仕上げる力を養う。
学びの中の興味・関心から、自らの専門性を確立させ、そのまとめとして卒業論文を作成する。

〔授業の概要〕
(1) 中学校 技術科「情報に関する技術」分野における、コンピュータ制御を題材とした教材の考案と情報リテラシーの育成について考察する。

(2) 電気自動車やソーラーカーなどの次世代低公害車両を題材として、近未来自動車社会の在り方やエネルギー、環境問題について考察する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
専用に利用できるパーソナルコンピュータを所有し、オフィスアプリケーションやプログラミングアプリケーションを活用した自宅学習を行うことが可能な環境を用意する。
卒業研究は、自ら課題を考え、実験や試作を通して成果物の効果を評価していく。これらの活動は、講義以外の時間を用いて実施するので、積極的に研究室や実習室に来て、自主的に研究を進める。

〔授業計画〕
第 1 回　研究テーマの確認
各自の研究テーマと今後の方針について、発表する。
第 2 回　先行研究の調査 ①
ネットワークを活用し、ウェブサイトに掲載された関連事例の調査を行い報告する。
第 3 回　先行研究の調査 ②
学会の論文集などを検索し、関連研究の調査を行い報告する。
第 4 回　先行研究の調査 ③
図書館及び図書検索システムを活用し、関連書籍の調査を行い報告する。
第 5 回　独自教材の検討 ①
先行研究の調査に基づき、独自教材の検討を行う。
第 6 回　独自教材の検討 ②
各自の検討内容をそれぞれが発表し、その内容について議論する。
第 7 回　独自教材の設計 ①
教材のハードウェアについて設計を進める。
第 8 回　独自教材の設計 ②
教材のハードウェアの構成を踏まえ、ソフトウェアの設計を進める。
第 9 回　独自教材の設計 ③
教材のハード・ソフトウェア相互の構成に、無理・矛盾はないか確認する。
第 10 回　独自教材の設計 ④
教材のハード・ソフトウェア相互に最適化を行い、設計を完了させる。
第 11 回　独自教材の製作 ①
設計に従い、まず独自教材のハードウェアの製作を進める。
第 12 回　独自教材の製作 ②
ハードウェアの製作状況に併せ、可能な範囲でソフトウェアの製作を進める。
第 13 回　独自教材の製作 ③
ハード・ソフト相互の製作状況教に併せ、動作テストを行いながら製作を進める。
第 14 回　独自教材の製作 ④
ハードウェアを完成させた上で、ソフトウェアの最適化を行う。
第 15 回　独自教材の製作 ⑤
完成した教材が設計どおりの動作を行えるか検証する。

〔成績評価〕
・授業に対する取り組み姿勢 （40%）
・課題作品 （30%）
・課題発表 （30%）
〔教科書〕
・適時、資料を配布する。
〔参考文献〕
・「技術科教材論」 竹谷出版
・他適時、文献を紹介する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
① 後　期
② 曜　日：月曜日　12:00～13:00
③ 場　所：研究室 （研究棟 3階）
④ 連絡先：moriya@ashiya-u.ac.jp
⑤ その他：時間に余裕があれば、いつでも対応します。

機械工学実験実習

2455
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
盛谷　亨

〔到達目標〕
ロボット及び制御プログラムの製作と、競技会での試行錯誤を通し、プログラミングの実際と機械制御の基本を体得する。
ものづくりに対する興味関心を高め、また各自の特性を生かしたチームワークのありかたを学び、競技会などイベントの企画運営を協力して進めて行くことができる。
〔授業の概要〕
前期講義と実習を基に、実際にMindStormsを用いたオリジナルロボットを作製して、競技会（コンテスト）を行う。
中学校「技術・家庭科」、高校「情報」での取り組みを想定し、受講生自らが競技のテーマやルール作りなど、運営も行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
「情報処理基礎Ⅰ・Ⅱ」を履修し、その学習内容を理解していることを前提とする。
専用に利用できるパーソナルコンピュータを所有し、プログラミングに関する予習復習を行うことが可能な環境を用意することが望ましい。
〔授業計画〕
第 1 回　ロボットコンテストの概要
これから取り組む、具体的ロボットコンテストについて概説する。
第 2 回　コンテストのテーマ設定
ロボットコンテストが果たす役割や効果を理解し、中学校「技術」または高校「情報」教科を想定し、コンテストのテーマについて検討する。
第 3 回　コンテストのルール作り
コンテストのテーマに即した競技場の設定と、競技会のシナリオ、競技のルールについて検討する。
第 4 回　競技場の製作
コンテストのテーマとルールに沿った、競技場の作成を行う。
第 5 回　競技用ロボットの製作１
コンテストのルールに沿ったロボットの製作を行う。
第 6 回　競技用ロボットの製作２
機構的な動作の不具合、強度の不足はないかを確認する。
第 7 回　ロボットのプログラミング１
製作したロボットが目的の動作をするようプログラムする。
第 8 回　ロボットのプログラミング２
目的の動作が実現するまで試行錯誤を繰り返しロボットを完成させる。
第 9 回　コンテスト予行演習
コンテストの予行演習を行い、想定したシナリオのとおりに競技が進行できるか、ルールに無理や矛盾はないかなど、競技の流れや内容を確認する。
第 10 回　ルールの再考と競技場の改良
予行演習の状況・結果を踏まえ、発生した問題点を修正した内容でルールや競技場を改訂する。
第 11 回　ロボットの改良
ルールの見直しや競技場の改訂に伴い、ロボットも変更されたルールに沿って改修・改良を行う。
第 12 回　競技用ロボットの最適化
改修・改良を施したロボットで競技の練習を行い、その内容・結果をさらにフィードバックすることで、ロボットの調整・最適化を進める。
第 13 回　競技場とロボットの最終調整
競技場とロボットの最終調整を行い、競技会本番に備える。
第 14 回　コンテスト
あらかじめ設定したシナリオとルールに沿って、コンテストを行う。
第 15 回　ロボットの評価と批評
参加者全員が、競技に出場したロボット・競技者を批評・評価し、発想の優れたロボット、成績優秀な競技者に対して表彰を行う。
〔成績評価〕
・定期試験・課題レポート （60%）
・授業に対する取り組み姿勢 （30%）
・課題作品 （10%）
〔教科書〕
・適時、プリントを配布する。
〔参考文献〕
・「はじめてのロボコンマニュアル」　オーム社
・「LEGO MindStorms ロボット開発講座」　翔泳社
・「中学校学習指導要領　平成20年3月告示」 文部科学省

・「中学校学習指導要領解説　技術・家庭編　平成29年7月」文部科学省

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、機械（実習を含む。）、中一種（技術）、選択

〔オフィスアワー〕

① 後　期
② 曜　日：月曜日　12:00～13:00
③ 場　所：研究室（研究棟 3階）
④ 連絡先：moriya@ashiya-u.ac.jp
⑤ その他：時間に余裕があれば、いつでも対応します。

ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑと計測・制御Ⅱ

5310
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
盛谷　亨

〔到達目標〕

コンピュータを利用した計測と制御の基本的な仕組みを学び、併せて、そのプログラミングの基礎的技法を体得することで、基礎的アルゴリズムを用いた計測・制御プログラムを作成できる。

〔授業の概要〕

プログラミング言語「HSP」と外部インタフェース「USB I/O」を利用して、自動計測の基礎的なプログラミング実習を行う。

各課題ごとに、制御アルゴリズムについてのグループ討議を行う。

後期は、温度センサーの利用方法とフィードバック制御について学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

「情報処理基礎Ⅰ・Ⅱ」を履修し、その学習内容を理解していることを前提とする。

専用に利用できるパーソナルコンピュータを所有し、プログラミングに関する予習復習を行うことが可能な環境を用意することが望ましい。

〔授業計画〕

第 1 回　オープンループ制御
　予め設定された手順のみで、動作を行うオープンループ制御につて概説する。

第 2 回　フィードバック制御
外部条件により、その動作を変化させるフィードバック制御につて概説する。

第 3 回　教材温室実験装置の仕組み
入力装置として温度計とタイマー、出力装置として温度表示器、ヒーター、喚起ファンを備えた「温室実験装置」仕組みを理解し、各装置の制御法・計測法を習得した後、温室の室温を一定に保つ実験実習を行う。

第 4 回　センサーの種類と働き
入力装置として温度計とタイマー、出力装置として温度表示器、ヒーター、喚起ファンを備えた「温室実験装置」仕組みを理解し、各装置の制御法・計測法を習得した後、温室の室温を一定に保つ実験実習を行う。

第 5 回　A-D変換装置の仕組み
入力装置として温度計とタイマー、出力装置として温度表示器、ヒーター、喚起ファンを備えた「温室実験装置」仕組みを理解し、各装置の制御法・計測法を習得した後、温室の室温を一定に保つ実験実習を行う。

第 6 回　温度計測の方法
温度センサーによる温度計測の手法を学ぶ。

第 7 回　計測値の吟味と制御の分岐
計測した値とその結果を基に、制御の選択と分岐の手法について学ぶ。

第 8 回　SSRによるヒーターの制御
SSR（ソリッド・ステート・リレー）による、ヒーターの制御法について学ぶ。

第 9 回　リレーによるファンの制御
メカニカルリレーによる、ファンの制御法について学ぶ。

第 10 回　タイマーによる割り込み
コンピュータに内蔵されたタイマー機能と、割り込みプログラムの手法を学ぶ

第 11 回　計測結果の記録と表示
計測結果の記録と表示法について学ぶ。

第 12 回　温室実験装置の制御
「温室実験装置」の、室温を一定温度に保つプログラムを作成する。

第 13 回　室温を一定温度に保つ実験
作成したプログラムを実行し、温室の温度変化の状況を計測する。

第 14 回　計測データの活用法
計測したデータのグラフ化など、2次利用するための手法を学ぶ。

第 15 回　実験のまとめ
実験のまとめを行い、レポートを作成する。

〔成績評価〕

・定期試験・課題レポート（60%）
・授業に対する取り組み姿勢（30%）
・課題作品（10%）

〔教科書〕

・適時、プリントを配布する。

〔参考文献〕

・「HSPでつくる! はじめてのプログラミング HSP3.5+3Dish入門」 秀和システム
・「簡単！USBで電子制御」 オーム社
・「中学校学習指導要領　平成20年3月告示」 文部科学省
・「中学校学習指導要領解説　技術・家庭編　平成29年7月」文部科学省

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
① 後　期
② 曜　日：月曜日　12:00～13:00
③ 場　所：研究室 （研究棟 3階）
④ 連絡先：moriya@ashiya-u.ac.jp
⑤ その他：時間に余裕があれば、いつでも対応します。

設計製図Ⅰ【技術教職・自動車】

6105
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
山田　喜夫

〔到達目標〕
設計を行うのに必要な知識、特に設計者の意図を表現する「言葉」である「製図」について、その必要性と役割、図形の表わしかた、製図規格等を理解する。
〔授業の概要〕
現在の工業化社会では、設計者と製作者とは別である。製作者に設計者の考えを伝えるための言葉が図面であるが、その図面の指示通りみ加工すると正しい製品が得られ、見る人によって違った解釈をすることがないようにするためには、一定の法則が必要である。
この製図のための規則、製図規格について解説する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予め、テキストの次回予定箇所を読み、疑問点や不明箇所をまとめておき、授業時に確認すること。
・日頃から、身の回りの物を見て、どのような構造をしているか、どのような材料が使用されているのかを意識するようにする。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス、設計製図の意義
授業予定・評価方法、設計製図の意義、製図の規格（国内JIS規格、外国の規格について講義する。
第 2 回　線の種類と用途
線の種類と用途について講義し、例題を解説する。
第 3 回　投影図
投影法、第一角法と第三角法について講義し、例題を解説する。
第 4 回　立体図
立体図と投影図の関係、表現されている面や線の対応について講義し、例題を解説する。
第 5 回　補助投影図等
補助となる図法として、補助投影図、部分投影図、回転投影図、想像図について講義し、例題を解説する。
第 6 回　断面図
断面図の種類と図示法について講義し、例題を解説する。
第 7 回　慣用図示法
省略及び慣用図示法について講義し、例題を解説する。
第 8 回　寸法記入
寸法記入法として、寸法線、寸法数学の記入について、講義し、例題を解説する。
第 9 回　寸法補助記号
寸法記入法として、寸法補助記号、特別な寸法記入について講義し、例題を解説する。
第 10 回　サイズ公差
サイズ公差の紀入法について講義し、例題を解説する。
第 11 回　はめあい
はめあい方式の表示法について講義し、例題を解説する。
第 12 回　寸法記入の注意点
寸法を記入する場合の注意事項を講義し、実際の寸法記入例に沿って解説する。
第 13 回　材料記号・溶接記号
図面に表示される記号として、材料記号、溶接記号などについて講義し、例題を解説する。
第 14 回　ねじ
主要な機械部品として、ねじの製図法について講義し、例題を解説する。
第 15 回　ばね・歯車・軸受け
主要な機械部品として、ばね、歯車、軸受の製図法について講義し、例題を解説する。
〔成績評価〕
・授業中に実施する「演習問題」＆「参照プリント」
・期末に実施する「筆記試験」にて評価する。
(期末試験は、自筆ノート、テキスト、持ち込み可)
〔教科書〕
書名：JISにもとづく標準製図法
著者：大西清、出版社：オーム社
定価：2,200円
〔参考文献〕
「特になし」
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、木材加工（製図及び実習を含む。）、中一種（技術）、必修
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②日時　土曜日　１１:３０～１２:００
③場所　授業終了後、講義教室で対応します。
④連絡先　y-yamada@ashiya-u.ac.jpにメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。

設計製図Ⅰ【技術教職・自動車】

6105

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
山田　喜夫

〔到達目標〕
設計を行うのに必要な知識、特に設計者の意図を表現する「言葉」である「製図」について、その必要性と役割、図形の表わしかた、製図規格等を理解する。

〔授業の概要〕
現在の工業化社会では、設計者と製作者とは別である。製作者に設計者の考えを伝えるための言葉が図面であるが、その図面の指示通りみ加工すると正しい製品が得られ、見る人によって違った解釈をすることがないようにするためには、一定の法則が必要である。
この製図のための規則、製図規格について解説する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予め、テキストの次回予定箇所を読み、疑問点や不明箇所をまとめておき、授業時に確認すること。
・日頃から、身の回りの物を見て、どのような構造をしているか、どのような材料が使用されているかを意識するようにする。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス、設計製図の意義
授業予定・評価方法、設計製図の意義、製図の規格（国内JIS規格、外国の規格について講義する。
第 2 回　線の種類と用途
線の種類と用途について講義し、例題を解説する。
第 3 回　投影図
投影法、第一角法と第三角法について講義し、例題を解説する。
第 4 回　立体図
立体図と投影図の関係、表現されている面や線の対応について講義し、例題を解説する。
第 5 回　補助投影図等
補助となる図法として、補助投影図、部分投影図、回転投影図、想像図について講義し、例題を解説する。
第 6 回　断面図
断面図の種類と図示法について講義し、例題を解説する。
第 7 回　慣用図示法
省略及び慣用図示法について講義し、例題を解説する。
第 8 回　寸法記入
寸法記入法として、寸法線、寸法数学の記入について、講義し、例題を解説する。
第 9 回　寸法補助記号
寸法記入法として、寸法補助記号、特別な寸法記入について講義し、例題を解説する。
第 10 回　サイズ公差
サイズ公差の記入法について講義し、例題を解説する。
第 11 回　はめあい
はめあい方式の表示法について講義し、例題を解説する。
第 12 回　寸法記入の注意点
寸法を記入する場合の注意事項を講義し、実際の寸法記入例に沿って解説する。
第 13 回　材料記号・溶接記号
図面に表示される記号として、材料記号、溶接記号などについて講義し、例題を解説する。
第 14 回　ねじ
主要な機械部品として、ねじの製図法について講義し、例題を解説する。
第 15 回　ばね・歯車・軸受け
主要な機械部品として、ばね、歯車、軸受の製図法について講義し、例題を解説する。

〔成績評価〕
・授業中に実施する「演習問題」＆「参照プリント」
・期末に実施する「筆記試験」にて評価する。
(期末試験は、自筆ノート、テキスト、持ち込み可)

〔教科書〕
書名：JISにもとづく標準製図法
著者：大西清、出版社：オーム社
定価：2,200円

〔参考文献〕
「特になし」

〔履修条件〕

〔備考〕
教材及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、木材加工（製図及び実習を含む。）、中一種（技術）、必修

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②日時　土曜日　１１:３０～１２:００
③場所　授業終了後、講義教室で対応します。
④連絡先　y-yamada@ashiya-u.ac.jpにメールがphollyのメッセージで質問・相談をしてください。

設計製図Ⅱ【技術教職・自動車】

4253
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
福田　　芳行

〔到達目標〕
設計製図Ⅰで学んだ製図法・製図規格にしたがって、各種の課題図面を作成する。

〔授業の概要〕
市販の「機械製図練習ノート」を使用して、図面作成に必要な基本的作業を終えた後、方眼用紙と製図用具セットで、Vブロックなどの実物を図面化する作業を繰り返して行い、

最終段階での図面作成には、ドラフター（製図機械）を使用する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

日頃から、身の回りの生活用品や電化製品などを見て、どのような構造をしているか、どのような材料が使用されているかということに関心を持ち、特に興味深い物については、写真撮影しておくことが望ましい。。

〔授業計画〕

第 1 回　図面構成について
製図用紙のサイズ、図面の様式・尺度、図面に使う線・文字の種類について解説し、実際の機械図面を見学する。

第 2 回　製図のための準備作業①
様々な線の種類と役割について解説し、製図練習ノートで線の描画練習をする。

第 3 回　製図のための準備作業②
様々な文字の種類と役割について解説し、製図練習ノートで文字の描画練習をする。

第 4 回　製図のための準備作業③
実物の表し方である投影法の中の「第三角法」について解説し、製図練習ノートで第三角法を使った描画練習をする。

第 5 回　スケッチ図面作成①
直線定規を使って「Vブロック」各部の寸法を測り、スケッチ図面を作成する。

第 6 回　図面作成①
スケッチ図面を参考にしながら、「Vブロック」の正規図面を第三角法で作成する。

第 7 回　スケッチ図面作成②
直線定規とノギスを使って実物①(「小型風車模型」)各部の寸法を測り、スケッチ図面を作成する。

第 8 回　図面作成②
スケッチ図面を参考にしながら、「小型風車模型」の正規図面を第三角法で作成する。

第 9 回　スケッチ図面作成③-1
直線定規とノギスを使って実物②(「都市型風車ロータ」)各部の寸法を測り、スケッチ図面を作成する。

第 10 回　スケッチ図面作成③-2
直線定規とノギスを使って「都市型風車ロータ」各部の寸法を測り、スケッチ図面を作成する。

第 11 回　図面作成③-1
スケッチ図面を参考にしながら、「都市型風車ロータ」の正規図面を第三角法で作成する。

第 12 回　図面作成③-2
スケッチ図面を参考にしながら、「都市型風車ロータ」の正規図面を第三角法で作成する。

第 13 回　ドラフターによる図面作成①
ドラフターの操作方法を説明を受けた後、図面作成②で作成した「小型風車模型」の図面をドラフターでケント紙に作成する。

第 14 回　ドラフターによる図面作成②-1
図面作成③で作成した「都市型風車ロータ」の図面をドラフターでケント紙に作成する。

第 15 回　ドラフターによる図面作成②-2
図面作成③で作成した「都市型風車ロータ」の図面をドラフターでケント紙に作成する。

〔成績評価〕

提出された作成図面で評価する。
(筆記試験は行わない)

〔教科書〕

・書名：JISにもとづく標準製図法 、 著者：大西　清、出版社：オーム社
・機械製図練習ノート、著者：関口　剛、出版社：実教出版

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、木材加工（製図及び実習を含む。）、中一種（技術）、選択

【実務経験の活用】

民間企業にて、設計開発部門（FF自動車用変速機の設計、新製品開発業務）に従事した経験より、実際に図面を書く製図実習を実務的観点より教授する。

〔オフィスアワー〕

毎週1回、曜日と時間を決めて設定し、相談･質問等に応じる。

情報通信ネットワークⅡ【一般】

5205
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕

ＬＡＮ概念及びネットワークの構築と活用について実習をしながら学習をする。
ＬＡＮを導入するメリットについてスタンドアローン型と比較しながら、データ共有の利点について実際にネットワークを構築しながら学習をします

〔授業の概要〕

ネットワークセキュリティを中心に、実習と講義を同時進行で行います。また、講義途中では、セキュリティについて各自レポート報告をしグループ討議をします。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業が始まる前には専門用語について1階のＰＣコーナーにて事前学習が必要。また、授業後学習習熟確認プリントを配付し復習とする。（事前90分＋事後90分）

〔授業計画〕

第 1 回　ファイアーウォールの働きとその必要性について

ローカルエリアネットワークとファイヤーウォールについてその働きを見ながら学習をする
第 2 回　データの流れを理解する
学校のデーターを考えながらその流れについて見てゆく
第 3 回　セキュリティーポリシーとは
セキュリティポリシーが無いまま管理することの難しさについて考える
第 4 回　仮想ネットワークを考える
ＯＡフロアーやモールによる配線を見ながら、仮想ネットワークを考える
第 5 回　フィルタリングソフトについて
想定を中学校として、フィルタリングソフトを考える
第 6 回　ネットワークの規模を体感するためにサーバー室見学をします
配線と、普段見えない配線について見ながら学習を深める
第 7 回　Wi-Fiの危険性
フリーWi-Fiの危険性について（野良Wi-Fi）
第 8 回　システムリカバリーの必要性について
「もしも、パソコンがクラッシュしてしまったら」を想定しシステムのリカバリーにかかる時間等もけんとうしつつリカバリーの必要性について考える
第 9 回　個々にネットワークに関する発表
課題をまとめ授業内で報告をする。発表者全員が報告が終わったところで、各自の報告や他者の報告について、討論をする。
第 10 回　システムのリカバリーについて
リカバリーソフトとハードディスクコピーマシーンを使い実習をします。
第 11 回　仮想ネットワーク構築距離と通信速度を考えながら仮想ネットワークの構築図面を作成。
仮想ネットワーク（学校・教室）でのネットワーク配線を考える
第 12 回　仮想ネットワークにおける主要機器の配置場所の検討
機器の適切な配置とは
第 13 回　情報漏洩の問題点
情報漏洩に関する過去の新聞記事を元に、そうならないようにするための防止策を考える
第 14 回　モラル教育について
ネット利用に関するモラル教育について
第 15 回　その危険性について
著作権について
ネットワーク担当者としてのセキュリティやモラルについて

〔成績評価〕
授業態度を重視し、授業中の課題・実習および学期末試験による総合評価

〔教科書〕
図解 ネットワーク 仕事で使える基本の知識［改訂新版］

〔参考文献〕
改訂版自分のペースでゆったり学ぶTCP/IP
２台目からのパソコンＬＡＮ
文部科学省「高等学校学習指導要領第10節」

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
学校現場でのネットワーク構造やネット環境（セキュリティを含む）などについて、高校の情報教科の教員に必要なスキルを教授する。

〔オフィスアワー〕
月曜日3限

演習Ⅱ【ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾈｯﾄﾜｰｸ】

8417
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
中村　　宏敏

〔到達目標〕
コンピュータネットワークの計画、設置・管理・運営など実際の状況場面を例として研究したい。なお研究論文については、「日本産業科学学会関西部会（学生研究会）」において研究内容を他大学の学生の前で12月に発表をすることが望ましい。

〔授業の概要〕
自分の研究テーマを報告し合い、ディスカッションをしてもらいます。その中での気づきや理解を深めることで、研究を進めてゆきたい。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
自分の空き時間などに、付属図書館や大学1階に設置されているＰＣルームにおいて研究を進めてもらう。

〔授業計画〕
第 1 回　卒業論文進捗状況報告会
同じゼミ生の中で、自分がどれだけ出来ているか、他者の意見を聞き進め方を考える。
第 2 回　卒業論文執筆
書き進めてゆく
第 3 回　卒業論文執筆
行き詰まりがないかを検討しながら執筆を進める
第 4 回　進路相談
卒業後の進路と現在進めている論文がリンクしているかを検討しながら方向性と論文の着地点を検討する
第 5 回　卒業論文執筆
一度データを印刷して各自読み直しをする
第 6 回　卒業論文執筆
データ照合と、その信憑性について検討をする
第 7 回　卒業論文執筆
再度起承転結になっているかを検討する
第 8 回　卒業論文仮印刷
印刷をして体裁とともに内容の確認をする

第 9 回　就職部からのお話
　　エントリーシートの書き方
第 10 回　論文執筆
　　それぞれのペースがあると思うので,個人指導
第 11 回　論文執筆
　　それぞれのペースがあると思うので,個人指導
第 12 回　論文執筆
　　それぞれのペースがあると思うので,個人指導
第 13 回　論文執筆
　　それぞれのペースがあると思うので,個人指導
第 14 回　卒業論文本印刷・製本
　　印刷製本をして提出日に備える
第 15 回　進路相談
　　卒業後の進路相談

〔成績評価〕
研究態度とディスカッションの発言や聴く力を総合的に見ながら評価

〔教科書〕
「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕
過年度の卒業論文や個人の研究テーマに合わせた過去の論文など

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
アポイントを取って随時

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　経営②

8222
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
中村　　宏敏

〔到達目標〕
大学生の間に自分が進むべき進路（就職）を明確にするため、各方面の卒業生に来ていただき自分の将来像を描くことが出来ることを目的とする。

〔授業の概要〕
多くの時間本学の卒業生（先輩）に来ていただき、過去の就活体験談や学生生活を振り返った講話をいただきます。また、今大学生の時にしておけば良かったこと、現在の2年生に伝えたいことをお話しいただきます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
自分が進むべき進路について、考える時間を授業時間外でとってもらいます。また、それに向けて何をすべきかどう行動するべきかを考える

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション ①
　　前期学事予定・履修登録確認
第 2 回　学園祭イベント計画について
　　学園祭企画もイベント企画の重要な課題であると考えます
第 3 回　学生生活について
　　クラブ活動や大学行事、アルバイトや就職活動など学内外の活動と学業の両立
第 4 回　外部講師1
　　マイナビによる就職活動に関わるガイダンス
第 5 回　先輩講師1
　　本学4年生の就活体験を聞く ①
第 6 回　先輩講師2
　　本学4年生の就活体験を聞く ②
第 7 回　先輩講師3
　　大学院生の経験に学ぶ
第 8 回　外部講師2
　　就職活動、その具体的な情報収集と活動の方法について
第 9 回　外部講師3
　　就職活動、その具体的な情報収集と活動の方法について
第 10 回　外部講師4
　　就職活動、その具体的な情報収集と活動の方法について
第 11 回　専門演習と卒業論文について
　　専門演習にどのようなものがあるか、卒業論文とは
第 12 回　専門演習説明会
　　経営教育学科 専門演習担当教員の紹介と各演習内容の説明　／ 専門演習登録用紙 配布
第 13 回　オリエンテーション ②
　　専門演習 事前授業 （プレゼミ） について
第 14 回　オリエンテーション ③
　　専門演習 事前授業 （プレゼミ）
第 15 回　経営教育学科　卒業論文発表会
　　先輩の卒業論文発表を聞く

〔成績評価〕
毎回聴講レポートを記入し提出します。その聴講レポートが試験となります。
レポート（100%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
月曜日2限目または3限目

情報通信ネットワークⅡ【教職】

5204
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕
ＬＡＮ概念及びネットワークの構築と活用について実習をしながら学習をする。
ＬＡＮを導入するメリットについてスタンドアローン型と比較しながら、データ共有の利点について実際にネットワークを構築しながら学習をします
〔授業の概要〕
ネットワークセキュリティを中心に、実習と講義を同時進行で行います。また、講義途中では、セキュリティについて各自レポート報告をしグループ討議をします。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業が始まる前には専門用語について1階のＰＣコーナーにおいて事前学習が必要。また、授業後学習習熟確認プリントを配付し復習とする。（事前90分＋復習90分）
〔授業計画〕
第 1 回　ファイアーウォールの働きとその必要性について
ローカルエリアネットワークとファイヤーウォールについてその働きを見ながら学習をする
第 2 回　データの流れを理解する
学校のデーターを考えながらその流れについて見てゆく
第 3 回　セキュリティーポリシーとは
セキュリティポリシーが無いまま管理することの難しさについて考える
第 4 回　仮想ネットワークを考える
ＯＡフロアーやモールによる配線を見ながら、仮想ネットワークを考える
第 5 回　フィルタリングソフトについて
想定を中学校として、フィルタリングソフトを考える
第 6 回　ネットワークの規模を体感するためにサーバー室見学をします
配線と、普段見えない配線について見ながら学習を深める
第 7 回　ネットワーク確認機器監視装置について
ネットワーク監視・管理について考える。
日々繋がっていて当たり前のネットワーク機器その管理について
第 8 回　システムリカバリーの必要性について
「もしも、パソコンがクラッシュしてしまったら」を想定しシステムのリカバリーにかかる時間等もけんとうしつつリカバリーの必要性について考える
第 9 回　個々にネットワークに関する発表
課題をまとめ授業内で報告をする。発表者全員が報告が終わったところで、各自の報告や他者の報告について、討論をする。
第 10 回　システムのリカバリーについて
リカバリーソフトとハードディスクコピーマシーンを使い実習をします。
第 11 回　仮想ネットワーク構築距離と通信速度を考えながら仮想ネットワークの構築図面を作成。
仮想ネットワーク（学校・教室）でのネットワーク配線を考える
第 12 回　仮想ネットワークにおける主要機器の配置場所の検討
機器の適切な配置とは
第 13 回　情報漏洩の問題点
情報漏洩に関する過去の新聞記事を元に、そうならないようにするための防止策を考える
第 14 回　モラル教育について
ネット利用に関するモラル教育について
第 15 回　その危険性について
著作権について
ネットワーク担当者としてのセキュリティやモラルについて
〔成績評価〕
授業態度を重視し、授業中の課題・実習および学期末試験による総合評価
〔教科書〕
図解 ネットワーク 仕事で使える基本の知識［改訂新版］
〔参考文献〕
改訂版自分のペースでゆったり学ぶTCP/IP
２台目からのパソコンＬＡＮ
文部科学省「高等学校学習指導要領第10節」
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、情報通信ネットワーク（実習を含む。）、高一種（情報）、選択

【実務経験の活用】
学校現場でのネットワーク構造やネット環境（セキュリティを含む）などについて、高校の情報教科の教員に必要なスキルを教授する。
〔オフィスアワー〕
月曜日3限

演習Ⅰ【ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾈｯﾄﾜｰｸ】

8331
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
中村　　宏敏

〔到達目標〕
コンピュータネットワークの計画、設置・管理・運営など実際の状況場面を例として研究したい。なお研究論文につ

いては、「日本産業科学学会関西部会（学生研究会）」において研究内容を他大学の学生の前で12月に発表をすることが望ましい。

〔授業の概要〕

自分の研究テーマを報告し合い、ディスカッションをしてもらいます。その中での気づきや理解を深めることで、研究を進めてゆきたい。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

自分の空き時間などに、付属図書館や大学1階に設置されているＰＣルームにおいて研究を進めてもらう。

〔授業計画〕

第 1 回　論文とは
　　論文と感想文の違い。論文の基本構成について
第 2 回　研究テーマの確定
　　自分が研究するテーマについてプレゼンテーション原稿の作成
第 3 回　研究テーマについてプレゼンテーション
　　プレゼンテーションをして、自分の研究テーマの方向性を再認識する
第 4 回　先行研究の調査
　　自分が研究しようとする研究テーマの先行研究を調査する
第 5 回　先行研究の調査
　　他の人が研究した論文を熟読する
第 6 回　現代社会の実態調査
　　研究しようとする事柄の、現状を研究する
第 7 回　論文執筆
　　論文を書いたことがないとなかなか難しいので、序論を書いてみる
第 8 回　論文の結末を考える
　　起承転結で進めるのですが、どっちに進めてゆくかわからなくなる場合があるので、結末をどこに持って行くのかの整理
第 9 回　就職部からのお話
　　エントリーシートの書き方
第 10 回　論文執筆
　　それぞれのペースがあると思うので,個人指導
第 11 回　論文執筆
　　それぞれのペースがあると思うので,個人指導
第 12 回　論文執筆
　　それぞれのペースがあると思うので,個人指導
第 13 回　論文執筆
　　それぞれのペースがあると思うので,個人指導
第 14 回　論文執筆
　　それぞれのペースがあると思うので,個人指導
第 15 回　進路相談
　　3年後期に向けて論文の作成状況の確認と今後の相談

〔成績評価〕

研究態度とディスカッションの発言や聴く力を総合的に見ながら評価

〔教科書〕

「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕

過年度の卒業論文や個人の研究テーマに合わせた過去の論文など

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

アポイントを取って随時

演習Ⅱ【ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨﾏｲﾝﾄﾞｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】

8425
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
森下　博行

〔到達目標〕

エントリーシートの書き方から面接練習、就職活動まで徹底指導を行うことでコミュニケーション力を身に付け「おもてなし」の心を育て、観光・航空業界はもちろん一般の企業でも活躍できる人材を育てる。

〔授業の概要〕

このゼミは、ANA総合研究所との完全タイアップにより、エアラインを始めホテル、観光、ブライダルといったホスピタリティ産業への就職を目指す。またインターンシップやフィールドワーク先には、3つのルートから希望や目的に応じて参加可能で、キャリアサポート、エントリーシートの書き方、面接練習、就職活動まで指導を指導する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

ホテル、教会、空港といったホスピタリティ産業へのインターンシップやフィールドワークを通して実務を知り学ぶ。

〔授業計画〕

第 1 回　卒業論文の書き方
　　卒業論文作成指導
第 2 回　卒業論文の書き方
　　卒業論文作成指導
第 3 回　卒業論文の書き方
　　卒業論文作成指導
第 4 回　卒業論文の書き方
　　卒業論文作成指導
第 5 回　卒業論文の書き方
　　卒業論文作成指導
第 6 回　卒業論文の書き方
　　卒業論文作成指導
第 7 回　卒業論文の書き方
　　卒業論文作成指導
第 8 回　卒業論文の書き方
　　卒業論文作成指導
第 9 回　卒業論文の書き方
　　卒業論文作成指導
第 10 回　卒業論文の書き方
　　卒業論文作成指導
第 11 回　卒業論文の書き方

卒業論文作成指導
第 12 回　卒業論文の書き方
卒業論文作成指導
第 13 回　卒業論文の書き方
卒業論文作成指導
第 14 回　卒業論文の書き方
卒業論文作成指導
第 15 回　卒業論文の書き方
卒業論文作成指導

〔成績評価〕
授業態度とディスカッションへの参加意欲を重視する。

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
この授業は、パソコン教室で授業支援システムを活用し、課題の配布や回収、テストなどを実施して授業を行います。また、課題の作成状況をこのシステムでモニターしながら、学習の理解状況を把握し授業を進行します。

〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

演習Ⅰ【ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨﾏｲﾝﾄﾞｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】

8327
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
森下　博行

〔到達目標〕
エントリーシートの書き方から面接練習、就職活動まで徹底指導を行うことでコミュニケーション力を身に付け「おもてなし」の心を育て、観光・航空業界はもちろん一般の企業でも活躍できる人材を育てる。

〔授業の概要〕
このゼミは、ANA総合研究所との完全タイアップにより、エアラインを始めホテル、観光、ブライダルといったホスピタリティ産業への就職を目指す。またインターンシップやフィールドワーク先には、3つのルートから希望や目的に応じて参加可能で、キャリアサポート、エントリーシートの書き方、面接練習、就職活動まで指導を指導する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ホテル、教会、空港といったホスピタリティ産業へのインターンシップやフィールドワークを通して実務を知り学ぶ。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
履修確認
ゼミの後期の進め方やインターンシップ、フィールドワーク等について
第 2 回　就活スタートアップ講座
就職部主導による就活スタートアップ講座
第 3 回　グループディベート
2班に分けてテーマに基づいたディベート
第 4 回　グループディベート
2班に分けてテーマに基づいたディベート
第 5 回　グループディベート
2班に分けてテーマに基づいたディベート
第 6 回　グループディベート
2班に分けてテーマに基づいたディベート
第 7 回　グループディベート
2班に分けてテーマに基づいたディベート
第 8 回　グループディベート
2班に分けてテーマに基づいたディベート
第 9 回　キャリアサポート
キャリアサポートと個人面談、エントリーシート書き方
第 10 回　キャリアサポート
キャリアサポートと個人面談、エントリーシート書き方
第 11 回　キャリアサポート
キャリアサポートと個人面談、エントリーシート書き方
第 12 回　キャリアサポート
キャリアサポートと個人面談、エントリーシート書き方
第 13 回　キャリアサポート
キャリアサポートと個人面談、エントリーシート書き方
第 14 回　卒業論文の書き方について
4年生の就活日記(4年生からの就活成功アドバイス等)
卒業論文の書き方について
第 15 回　後期のまとめ
ゼミの後期総括と4年生へ向けた指導等

〔成績評価〕
ワークシートへの取り組み態度とディスカッションへの参加態度を重視する。

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
この授業は、パソコン教室で授業支援システムを活用し、課題の配布や回収、テストなどを実施して授業を行います。また、課題の作成状況をこのシステムでモニターしながら、学習の理解状況を把握し授業を進行します。

〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

マルチメディア概論Ⅱ

5203
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
森下　　博行

〔到達目標〕
私たちの日常生活は、メディアと切り離せないものになっている。テレビ、ラジオ、新聞、雑誌といった従来からあるメディアはもちろん、ICTの進歩によってコンピュータ、インターネットといった「デジタル」技術を駆使したメディアも一般化している。このデジタル技術をデジタル情報とするマルチメディア技術について理解する。

〔授業の概要〕
さまざまな形態の情報を、デジタル情報として一元化し、目的に合わせて加工できるマルチメディア技術を理解し、その基本と応用を学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
当日の朝刊等から、コンピュータ、ユビキタス、スマートフォン、ICT等、情報技術に関する問題や時事問題について調べておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　テキスト処理
　　テキストデータ処理技術による表現
第 2 回　文字認識
　　文字認識装置　―光学式文字読み取り装置―
第 3 回　電子テキスト
　　パソコンやワープロで編集ができる電子テキスト
第 4 回　ハイパーテキスト
　　関連したテキスト（ページ）の相互互換、その構造
第 5 回　映像処理
　　マルチメディアで最も大事な表現手法
第 6 回　デジタル映像の種類
　　図形・画像・動画
第 7 回　画像・動画処理
　　ビットマップによる画像処理
第 8 回　アニメーション処理
　　コンピュータアニメーションの種類
第 9 回　３次元ＣＧ処理
　　３次元コンピュータアニメーション
第 10 回　モデリングとレンダリング
　　モデリングの種類とレンダリング技術
第 11 回　オーサリングとは
　　マルチメディアタイトル製作のための技術とは
第 12 回　マルチメディアの未来
　　これから考えられるマルチメディアの未来とは
第 13 回　オーサリング実習①
　　マルチメディア処理技術を用いて、マルチメディア・コンテンツの基本
第 14 回　オーサリング実習②
　　マルチメディア処理技術を用いて、マルチメディア・コンテンツの制作
第 15 回　オーサリング実習③
　　マルチメディア処理技術を用いて、マルチメディア・コンテンツの発表

〔成績評価〕
受講態度及び中間試験（筆記試験）、制作発表等による評価とする。
中間試験40%
授業への取り組み10%
制作発表50%

〔教科書〕
文部科学省(最新版)
・高等学校学習指導要領
・高等学校学習指導要領解説(情報編)

〔参考文献〕
「改訂マルチメディア概論」電子開発学園出版局

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）、高一種（情報）、選択

この授業は、パソコン教室で授業支援システムを活用し、課題の配布や回収、テストなどを実施して授業を行います。また、課題の作成状況をこのシステムでモニターしながら、学習の理解状況を把握し授業を進行します。

〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

キャリア基礎　経営①

8126
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
森下　　博行

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
2) 円満に意志疎通を図ることができる。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
4) 論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲
　を持つことができる。

〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、前期はクラスまたは学科を軸に活動する。
・授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動
　(アクティブラーニング)である。

・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業
を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
・毎時記入する小レポートは担当教員が採点返却する。これはプレゼンテーション能力を育
む。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・グループ討議内容を授業中に、プレゼン発表を行うこともある。よって、PCなどの情報機器
基礎スキル(Word、PowerPoint)は、各自で身に着けておくことを推奨する。
・次週までの課題の提示をすることがあるので、各自がテキストを事前に熟読しておくことを
望む(準備と事後で約２時間)。

〔授業計画〕

第 1 回　リーダーシップについて
リーダーシップに必要な概念についての理解を深めることができる。

第 2 回　キャリア形成（SPI、就職、教職試験対策）
就職に必要なさまざまな情報活用、スキルアップについての各種情報を得ることにより、自身のスキルアップ向上に貢献できる。

第 3 回　学園祭について
大学のイベント、学園祭についての各種情報について知り、有意義な参加で楽しい学生生活を過ごすことができる。

第 4 回　社会保障制度について
社会人になって加入する各種諸制度についての知識や理解ができる。

第 5 回　クラス別「ほめ言葉」
ほめ言葉演習を通じ、相手のことを考えてコミュニケーションスキルを向上させることができる。

第 6 回　クラス別「オーディエンス」
聞き手のスタンスで相手に対する理解度、親密度の違いが理解できる。

第 7 回　クラス別「図形カード」
的確な指示をおこなうための説明手順、効率的な会話技術について理解を深めることができる。

第 8 回　各コース・専攻別クラスによるメニュー（1）
各コース・専攻に必要なメニューの紹介をし、事前情報を得ることで理解を深めることができる。

第 9 回　各コース・専攻別クラスによるメニュー（2）
各コース・専攻に必要なメニューの紹介をし、事前情報を得ることで理解を深めることができる。

第 10 回　キャリア形成について（1）「働く」
就職部主催：働くことの意味や意義を聴いて就職活動や将来目指す職業への具体的関心度をより深めることができる。

第 11 回　キャリア形成について(2)「SPIなど」
就職部主催：就職試験の日程掌握、SPI対策、基礎学力向上の秘訣、就職に必要な具体的キャリア形成をステップアップするための手法を聴く。

第 12 回　裁判員制度について
DVD映像、裁判員に選ばれた場合での各種判例ケースを想定し、裁判員の立場に立ったケースでの思考、知見を養う。

第 13 回　図書館の紹介
図書館の効率的な利用方法を知って、勉学や就職に役立つ情報入手の理解を深めることができる。

第 14 回　キャリア形成について
就職が内定した4年生のインタビューを見て、就職についての理解をより現実的に深めることができる。

第 15 回　クラス別
卒論発表会日程に重なる日程の場合は、そちらへ優先的に参加。
後期演習実施メニューレポ内容の整理、年度末、進級情報の掌握など。

〔成績評価〕

・レポート評価100%
・小レポート記述(量、質)のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。

〔教科書〕

「相互理解を深める コミュニケーション実践学」沖裕貴・林徳治　ぎょうせい

〔参考文献〕

ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

月曜日1限目、水曜日1限目

情報化社会と仕事の世界Ⅱ

1234
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
林　　徳治

〔到達目標〕

本科目は、高等学校教科「情報」の教職課程の科目である。授業では、情報化社会と仕事の世界Ⅰをさらに深化したケーススタディによる応用編として位置付ける。そこでは、主体性を重視した協働性、表現能力、論理的思考力の観点から、情報に関する職業人としての在り方、職業観や勤労観、倫理の視点と情報化に進展に伴う職業の変革の視点等を含め、情報と社会職業との関わりについて学ぶ。
到達目標は以下のとおりである。
・情報化社会への興味・関心を抱き、関わる意欲を持つことができる。
・情報化の進展に伴うビジネスや職業の変容を学び説明できる。

・情報関連職業の全体像を把握し説明できる。
・情報に関わる職業観と勤労観、倫理観を理解し、概要を説明できる。

〔授業の概要〕

本授業では、意欲関心など主体性やグループワークによる協働性を重視する。
与えられた知識・技能の学びだけではなく、問題解決能力、論理的思考力、（ロジカルシンキング、クリティカルシンキング）を学修できることを目指す。
対面授業の実施では、グループワークを実施する。
リモート授業では、ZOOMによる講義、グループ毎のディスカッションを実施する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

毎回の授業では予習・復習すること。
各授業のトピックについての情報を新聞や雑誌やインターネットなどで事前にチェックしておくこと。(90分)
復習については、授業で言及された文献を読んでおくこと(90分)

〔授業計画〕

第 1 回　イントロダクション　教科「情報」の教師の役割について(リマインドによるリフレクション
教科「情報」の教員として、どのように情報と社会職業との関わりについて相互に話し合い、自己の考えを持つことができる。

第 2 回　教科「情報」と情報教育、情報活用能力（リマインドによるリフレクション
ケーススタディをもとに情報活用能力の学習用教材の開発を話し合い、構想をまとめることができる。

第 3 回　情報社会における職業の特徴
ケーススタディをもとに情報社会における職業の特徴を学ぶ教材について話し合い、構想をまとめることができる。

第 4 回　情報化によるビジネス環境の変化（1）
ケーススタディをもとに情報化によるビジネス環境の変化について学ぶ教材について話し合い、構想をまとめることができる。

第 5 回　情報化によるビジネス環境の変化（2）
前の授業で作成した構想の視覚教材（PPTなど）を作成、プレゼンができる。

第 6 回　企業における情報活用（1）
ケーススタディをもとに企業における情報活用について学ぶ教材について話し合い、構想をまとめることができる。

第 7 回　企業における情報活用（2）
前の授業で作成した構想の視覚教材（PPTなど）を作成、プレゼンができる。

第 8 回　ネットビジネス（1）
ケーススタディをもとにネットビジネスを学ぶ教材について話し合い、構想をまとめることができる。

第 9 回　ネットビジネス（2）
前の授業で作成した構想の視覚教材（PPTなど）を作成、プレゼンができる。

第 10 回　労働環境と労働観の変化（1）
ケーススタディをもとに労働環境と労働観の変化について学ぶ教材について話し合い、構想をまとめることができる。

第 11 回　労働環境と労働観の変化（2）
前の授業で作成した構想の視覚教材（PPTなど）を作成、プレゼンができる。

第 12 回　情報社会における負の遺産（犯罪と法制度）（1）
ケーススタディをもとに情報社会における負の遺産について学ぶ教材について話し合い、構想をまとめることができる。

第 13 回　情報社会における負の遺産（犯罪と法制度）（2）
前の授業で作成した構想の視覚教材（PPTなど）を作成、プレゼンができる。

第 14 回　グループワークによるプレゼンテーション
グループ毎に今までの教材の中から一つ抽出し、全体でのプレゼンテーションを実施し相互評価できる。

第 15 回　理解度の検証とまとめ
評価結果をまとめ、よかった点、改善点について話し合い、検証しレポートを作成できる。

〔成績評価〕

作成した教材　30点
プレゼンテーション　40点
課題レポート　30点

〔教科書〕

文部科学省
高等学校学習指導要領
高等学校学習指導要領解説（情報編）

〔参考文献〕

「情報と職業」、駒谷昇一、情報処理学会編集、オーム社

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、情報と職業、高一種（情報）、選択

〔オフィスアワー〕

常時メールで質問や意見を受け付けます。
tokujihayashi@hotmail.com

システム設計Ⅱ

5244
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
和田　浩一

〔到達目標〕

様々な情報の蓄積・検索・整理などを効率的に行うデータベースシステムは、近年のインターネットで代表されるようにその利用範囲およびその形態は加速度的に広がっている。この授業では情報システムの根幹をなすデータベースシステムについて、その役割と設計技法を学ぶ。到達目標は、データベースシステムの概念そしてその構造について

理解すると共に基本的なデータベースシステムを構築できるようになることである。

〔授業の概要〕

現在、社会において稼動している代表的なデータベースシステムを実例とし、データベースの仕組みやその利用方法について学ぶ。さらに、データベースシステムとしては最もよく用いられているリレーショナルデータベースを対象にしてシステムの構築方法およびケーススタディーを通してより実践的なデータベースシステムの構造を学ぶ。また、アクティブラーニングとしてデータベースソフトを使用して実際にデータベースシステムを構築し、その利用を通して意見をまとめて発表などを行うことにより、システムそのものの理解を深めると共に、実際に活用する能力を育てる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

データベースシステムが、どのような形で私たちの生活の中で稼働しているかを、日ごろから注意深く観察して、興味深い情報システムについては、インターネットや書籍などにより歴史や機能などを調べてまとめておく。

授業前（30分）

前回の授業で配布したプリントを必ず読み返し、次回の授業で配布プリントから１つの質問ができるように考えておく。

授業後（30分）

授業において行った小テストの内容を調べて正誤及び関連する事柄について確認しておく。

〔授業計画〕

第 1 回　データベースシステムの概要
　　データベースの目的と機能およびデータベースの種類とデータベース管理システム

第 2 回　リレーショナルデータベース（RDB）について
　　データ定義、同時実行制御、セキュリティー、権限、ロール

第 3 回　RDBの構成要素
　　ドメイン、リレーション、タプル、属性など

第 4 回　Microsoft AccessとMySQLについて
　　Microsoft Accessの概要とその使用方法、MySQLの概要とその使用方法

第 5 回　リレーショナル代数演算
　　和・差集合演算、共通集合演算、選択演算、射影演算、結合演算、商演算

第 6 回　データの正規化
　　正規化必要性、関数従属性、第１正規化、第２正規化、第３正規化

第 7 回　データベース設計について
　　論理データベース設計、概念データベース設計、物理データベース設計

第 8 回　データモデリング
　　データモデリングの概要、ER図、IDEF1Xによる記述

第 9 回　データモデルパターン
　　データモデルパターンの説明、１対多、１対１、多対多

第 10 回　商品管理サブシステムの構築（I）
　　テーブル設計と実装

第 11 回　商品管理サブシステムの構築（II）
　　テーブル設計と実装

第 12 回　Webデータベースシステムについて
　　検索エンジンシステム、クラウドコンピューティング

第 13 回　履修管理システムの構築
　　システムの設計と利用

第 14 回　アジャイル開発について
　　アジャイル開発の方法論とその評価

第 15 回　ケーススタディー
　　百貨店のデータベースシステムの実例

〔成績評価〕

評価方法および評価の割合を明記すること

出席点は入れないこと

出席状況・出席重視・出席回数を加味する表記は避けること

〔教科書〕

片岡 信弘, 宇田川 佳久, 工藤 司, 五月女 健治「データベースの応用　ーデータモデリングから実装までー」（共立出版）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）

高等学校学習指導要領解説　情報編（平成30年7月告示、文部科学省）

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

Matt LeMay 著、吉羽 龍太郎、永瀬 美穂、原田 騎郎、有野 雅士 訳、及川 卓也 まえがき「みんなでアジャイル」（オライリー・ジャパン）

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、情報システム（実習を含む。）、高一種（情報）、選択

〔オフィスアワー〕

電子メール及び授業支援システムPhollyを利用します。

金曜日の講義前後の時間に授業教室にて対応します。

現代社会経営論

2308
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
政岡　　勝治

〔到達目標〕

現代社会のさまざまな事象や課題を経営学の視点を元に講義する。到達目標は次の通り。

・どのような事象や課題を学生として認識すべきか理解する。

・これらの事象や課題を深い視点で学ぶことで、思考力、洞察力を高める。

〔授業の概要〕

授業は、パワーポイントで進める。パワーポイントで表示された画面は、重要事項は赤字そして参考事項は黒字で表

示されている。赤字で表示された重要事項を中心にノートを取るようにする。また、臨場感をもって理解するために、毎回の授業で10～15分間映像学習をする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

次回授業に関連したテキストの部分を毎回の授業で示すので30分程度事前に予習をしておくこと。授業後30分程度復習し、そして分からない点などは、次の授業時に質問をすること。

〔授業計画〕

第 1 回　授業全般の説明と近代日本の変遷①
・授業全般の説明し、現代社会を理解するため日本の近代・現代史について2回の授業で取り上げる。今回の授業では明治維新～大正時代について講義する。

第 2 回　近代日本の変遷②
前回授業に続き、昭和時代の第二次世界大戦後の混乱、戦後の復興（1948年～55年）、高度成長期（1955年～70年）からバブル崩壊と平成不況迄講義する。

第 3 回　少子高齢化社会
先進国の中で高齢化速度が最も早い日本について理解をするため、長期的人口の推移等を説明をする。日本の高齢化比率予測、社会変化等について講義する。

第 4 回　高齢化社会への対応
グラットン＝スコット著『ライフシフト-100年時代の人生戦略-』の概略を説明する。日本の介護保険制度、高齢化社会への対応を講義する。

第 5 回　詐欺ビジネスへの対応
特殊詐欺の近年の被害実態推移について説明する。多様化、ハイテク化する詐欺の実態と標的は企業や若者にも広がっていることを講義する。

第 6 回　格差社会
所得の世帯間格差を示す指標であるジニ係数と所得格差が開いている実態を説明する。派遣・契約、正規社員など雇用形態別生涯賃金の格差等を講義する。

第 7 回　金融
通貨の種類、3つの金融政策の原理等を説明する。ライト＝ロゴフ『国家は破綻する』を取り上げ、多くの国家も金融破綻してきたことを講義する。

第 8 回　国際収支と海外直接投資
国際収支の意味と日本は所得収支の黒字で稼ぐ時代に入っていることを説明する。業種に拘らず海外で働く可能性があることを講義する。

第 9 回　BOP(Base of the Pyramid)ビジネス
アジアでの低所得層の所得拡大は予想を超えるスピードで進んできていることを説明する。日本企業の伸びるアジアでの成長戦略を講義する。

第 10 回　情報化社会
情報化社会の進展、情報化のメリット・デメリットを説明する。個人情報保護は企業の重要管理課題となっていることを講義する。

第 11 回　情報化社会と企業
現代の企業経営はコンピュータなくして成り立たないことを説明する。経営情報システムの技術的発展段階・概念的発展段階等を講義する。

第 12 回　現代社会と環境
日本の1960年代での高度成長とエネルギー大量生産・大量消費によって生じた公害を説明する。後始末を考える社会をテーマ別に講義する。

第 13 回　環境経営の進展
地球環境への関心の高まりで環境経営に至る重要事項を説明する。環境経営の要点、実践面からみた状況、ESG投資について講義する。

第 14 回　日本的経営①
日本的経営の歴史的側面・社会文化的側面を説明する。日本的経営の5つの特徴の内、企業に対する集団帰属性、終身雇用制、年功序列制の3つを講義する。

第 15 回　日本的経営②
日本的経営の残る2つの特徴を講義する。日本的経営の合理性とそれに対するバブル経済崩壊後の成果主義人事制度等を講義する。

〔成績評価〕

・定期試験　90%
　定期試験では授業ノート（自筆に限る）、テキストの持ち込み可能

・授業への取り組み（質疑応答・感想などの発表）　10%

〔教科書〕

宮崎進・本庄真『日本経済図説　第四版』岩波新書,2013年

〔参考文献〕

「特になし」

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

火曜日2時限の講義後、毎回実施する。講義内容の質問に加え、広くマスコミに報道されている時事的な企業経営についての質問も歓迎する。

国際経営論

2443
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
政岡　　勝治

〔到達目標〕

総合商社に27年間勤務しブラジルや米国での留学・駐在体験などを加え授業する。この授業を通じ次のような能力を高めて欲しい。
①国内経営と異なった国際経営についての知識・理解を培っていくようにする。
②日本人だけの価値観に縛られない多様性を理解し、国際感覚を培う。

〔授業の概要〕
授業は、パワーポイントで進める。パワーポイントの赤字で表示された重要事項を中心にノートを取るようにする。毎回の授業で10～15分間映像学習をする。また数回発表課題を提示しグループ・ディスカッション（G.D.）する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業に関連したテキストの部分は事前に30分程度予習をしておくこと。また授業後は毎回の配布資料や、授業内容を30分程度復習すること。
〔授業計画〕
第 1 回　授業の全般説明と国際感覚
授業全般の説明と総合商社での海外勤務経験を紹介し、国際感覚と自国文化、国際経営と多様性、経営学の枠組みについて講義する。
第 2 回　経営学と国際経営論
経営学と経営学に影響を与えている4つの主要概念と国内経営と国際経営の相違、国際経営を特徴づける3要因を講義する。
第 3 回　経営の社会性原則と国際経営
国際経営が認識・順守すべきこと、経営社会学、企業と環境問題、ESG投資について講義する。
第 4 回　グループディスカッション
国際経営のジレンマを講義する。前回講義をしたESG投資について有効性、改善すべき点をグループディスカッションし、討議結果を発表する。
第 5 回　企業システムと国際経営
企業システムの重要性と構成要素、日本企業の企業システムの特徴とアジアの企業システムの特徴について講義する。
第 6 回　企業と国際経営戦略
国際経営戦略の基礎事項となる成長の経済、 範囲の経済、多角化戦略 、企業がとる国際経営戦略の優位性などを講義する。
第 7 回　国際経営の発生理由：ファーストリテイリング
日本の代表的なカジュアルウエア企業ファーストリテイリングを取り上げる。同社の企業概要、世界の主なアパレル製造小売業（SPA）との比較などを講義する。
第 8 回　グループディスカッション
ファーストリテイリングがバングラディシュに進出した際のドキュメントを映像学習し、同社の従来とは異なる商品化の試みついてグループディスカッションする。
第 9 回　国際マーケティング
国際マーケティングの基本事項と国際マ-ケティングの課題、新しいビジネスモデルとしてPFI とPPPについて講義する。
第 10 回　現地化：商社のケース
多国籍企業の現地化モデル、総合商社の現地化のレベル、総合商社の現地化遅れの要因、今後現地化を推進しなければ理由などを講義する。
第 11 回　物流・貿易実務
物流の機能と課題、ロジスティクス（LOGISTICS）と貿易の5段階の流れを総合商社勤務の経験を加え講義する。
第 12 回　事業投資：合弁会社のケース
総合商社勤務で実際に担当した4つの海外事業投資と合弁会社の長所・短所、合弁スタイルの変化などについて分かり易く講義する。
第 13 回　危機管理
ビジネスリスクの分類、国際経営とリスクマネジメント、カントリーリスク、リスクのライフサイクル、BCMなどを講義する。
第 14 回　国際経営と文化
各国の文化は国際企業の活動に影響することを具体的に説明の上、メッセイジの伝わり方をもとにした異文化比較、国際経営と文化のポイントについて講義する。
第 15 回　国際経営とブランド
インターブランド社発表の2011年と2021年の世界的企業のブランド順位と価値、ブランドの体系、ブランドの分類などを講義する。
〔成績評価〕
・定期試験　80%
　定期試験では授業ノート（自筆に限る）、テキスト、配布資料の持ち込み可能
・授業への取り組み（質疑応答・感想、グループディスカッション）　20%
〔教科書〕
吉原英樹『国際経営　第四版』有斐閣アルマ、2200円（税込み）
〔参考文献〕
毎回の授業で資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
木曜日3時限に行う授業後に毎回実施する。授業内容の質問に加え、広くマスコミで報道される企業経営に関する質問も歓迎する。

経営者論

4023
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
政岡　勝治

〔到達目標〕
次の二点を到達目標とする。①経営者・管理者として求められてきた能力、資質、心構えなどについて、理論の歴史的系譜を含め理解する。②企業経営をする上で求められる専門的な能力であるリーダーシップ、意思決定力、コミュニケーション力等の理解を深める。

〔授業の概要〕
Covid-19の影響で、本科目は大学に来て頂くことなく、芦屋大学LMS（pholly）で、15回分の授業を行う。パソコンであれば問題なく毎回の参考資料（講義録）は見れるが、スマホで参考資料（講義録）の画面の一部が見えないようであれば芦屋大学教務科に是非相談すること。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回課題提出が必要となるので、講義後の復習をしっかり行うこと。講義の質問があればPHOLLYのメッセイジを使用すること。出来るだけ早く回答する。
〔授業計画〕
第 1 回　授業全般の説明と産業の変遷
授業全般の説明と明治時代以降の日本の主な産業変遷と労働者の意識・価値観の変遷と産業の変遷にともなう経営教育の今後の課題について講義する。
第 2 回　教育の変化と新しい産業
戦後の教育史の主な流れ、学歴化社会の問題点、今後の教育の展望および今後の社会変化などにより求められる新しい産業の例について講義する。
第 3 回　人間モデル
産業の発達とともに打ち出された産業で働く人間をどのようにみるかという5つの人間観を経営学の主要管理論と関連付けて講義する。
第 4 回　キャリア
経営学の視点からキャリアの基本事項と経営教育とキャリア、企業のキャリア重視の背景、資質の二極化について講義する。
第 5 回　人材育成
ヒト管理についての系譜、人的資源管理、企業の人材獲得と企業での実務経験を加え人的資源開発、後輩社員を教育するポイントなどを講義する。。
第 6 回　ビジネスコーチング
ビジネスコーチングの歴史、狙いなどとコーチングの種類、営業でのコーチングの具体例などについて講義する。
第 7 回　心構え（困難・危機対応）と討議
2011年3月11日の東日本大震災で経営基盤を全て失った八木澤商店の再建への道を、実際に同社を3回訪問し行ったインタビュー内容をもとに講義する。
第 8 回　問題解決
問題解決の4ステップと3つの問題（①回復問題②向上問題③新規の道を切り開く）について実務経験を加え講義する。
第 9 回　よき経営者の姿と討議
伊丹孝之著『良き経営者の姿』（日本経済新聞社）をもとに経営者について様々な要素と経営者に向く特性とは何か講義する。。
第 10 回　リーダーシップと発表課題
リーダーシップ研究の系譜、行動アプローチ研究、コンティンジェンシー理論などとどのようなリーダが望ましいか講義する。
第 11 回　モティベーション
組織や企業でやる気を起こさせるモティベーション（動機付け）の意味とポイントとモティベーション理論の2つの流れを講義する。
第 12 回　創造性
今後、機械がなしえない創造的な仕事がヒトの仕事となっていくことと創造性発揮のプロセスを講義する。
第 13 回　意思決定
近代組織論について組織均衡論を取り上げ意思決定と就活にも役立つように適応的動機行動モデル、満足化原理について講義する。
第 14 回　財務管理の基礎と演習
企業会計について財務会計と管理会計の基本事項と実際の企業の簡易決算書(株)をもとにした財務分析を講義する。
第 15 回　交渉力
総合商社で行ってきた実務での交渉をもとに、交渉力の系譜、交渉力の3要素、交渉力を支える論理性、3つの論理的思考について講義する。
〔成績評価〕
・毎回講義で出題する課題 100%　期末試験は実施しない。
・提出期限から少しでも遅れるとシステム上受け付けられなくなるので注意のこと。
・課題は毎回採点する。課題を10回以上提出しなかった場合は、不合格となる。10回以上提
出していても内容が悪ければ不合格となる。
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
・伊丹孝之『良き経営者の姿』日本経済新聞社
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
LMS科目となるので、質問はPHOLLYのメッセイジで受け付ける。出来るだけ早く返答する。

自動車法規と検査Ⅱ

2453
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
池田　　和三

〔到達目標〕
道路運送車両法第40条からについて理解する。
自動車が環境に及ぼす影響と、地球環境問題に関する法律についての知識を習得する。
〔授業の概要〕
国土交通省が定める学科のうち、自動車検査、 自動車の整備に関する法を中心に実施。道路運送車両法第４０条からについての説明を主体とし、自動車に関係する様々な法令を交え、自動車業界を取り巻く環境問題まで言及する。
それぞれの単元ごとに、業界等のニュースを各自持ち寄

り発表、討議を行う。
　履修希望者は前期履修のこと。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
指定箇所の予習を行うこと。
受験対策として令和元年度より遡り、過去に実施された２４回分の自動車整備士２級国家試験の中か法令関係の問題を抜粋。練習問題としてプリントで配布するので、実施・提出のこと。
〔授業計画〕
第 1 回　道路運送車両法　7　保安基準
道路運送車両法　40条～46条　保安基準　自動車の構造他
第 2 回　道路運送車両法　8　保安基準
道路運送車両法　40条～46条　保安基準　自動車の装置他
第 3 回　道路運送車両法　9　保安基準
道路運送車両法　40条～46条　保安基準　定員と最大積載量他
第 4 回　道路運送車両法　10　保安基準
道路運送車両法　40条～46条　保安基準　点検と整備の義務他
第 5 回　道路運送車両法　11　点検基準
道路運送車両法　47条～57条の２　点検　整備　（１）定期点検関係
第 6 回　道路運送車両法　12　点検基準
道路運送車両法　47条～57条の２　点検　整備　（２）自動車整備士他
第 7 回　道路運送車両法　13　点検基準
道路運送車両法　58条～76条　検査の種類他
第 8 回　道路運送車両法　14　整備事業
道路運送車両法　77条～96条　自動車分解整備事業と遵守事項他
第 9 回　道路運送車両法と道路交通法
車両法と道交法　車種の分類方法の違いなどの概略について
第 10 回　環境問題と環境基本法
自動車が関わる地球温暖化の傾向と考え方及び京都議定書及びモントリオール議定書による取り決めと各国の取り組みなどの概略について
第 11 回　環境問題で自動車そのものに関わる法律
悪臭防止法、NOx・PM法、産業廃棄物処理法、自動車リサイクル法などの概略について
第 12 回　環境問題で自動車整備工場に関係する法律
建築基準法、消防法、自動車損害賠償法、浄化槽法、騒音・振動規制法などの概略について
第 13 回　身近な環境問題と関係法令の概略
水質汚濁防止法、汚染土壌対策法、PRTR法、バーゼル法などの概略について
第 14 回　日本の環境問題と関係法令の概略
地球温暖化対策推進法、オゾン層保護法、フロン回収破壊法などの概略について
第 15 回　世界規模、地球規模で考える環境問題
各国の取り組みと生物多様性基本法、環境アセスメントの考え方とその必要性等について
〔成績評価〕
試験80%
小テスト10%
態度行動、取り組み評価10%
〔教科書〕
・自動車整備技術　法令教材　（日本自動車整備振興会連合会編）
〔参考文献〕
業界の関連研修資料と自作パワーポイントを適宜使用
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
土曜日　11：30～12：10

自動車整備実習2-Ⅱ

1453
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
池田　和三　成瀬　優享

〔到達目標〕
　シャシ関係の電子制御装置について、基本構造から最新の電子制御システムまでを検証し、理解を深めたうえで技術を習得する。
　２級ガソリン自動車整備士の国家試験に出題されている問題を例にとり、実際に使われている部品を比較し、確認等を行いながら、知識と技術（技能）を実務に活用できるようにすることを目的とする。
〔授業の概要〕
　ＡＢＳ、ＳＲＳエアバックシステム、ＴＲＣシステム、車両安定制御、電子制御パワーステアリング等、一般的となったシャシ電子制御装置についての基本構造と最新の電子制御システムや今後の最先端技術について理解を深めて整備技術を習得する。
　作業実施に伴い、各班で作業手順を考案して作業に着手する。作業後手順や取り組みについての評価を元にグループ討議を行う。

※PPE（Personal protection Equipment：個人保護装備）を備えない場合、出席を認めない
※原則対面授業とするが、感染症予防等を目的としてLMSを併用する場合があるため、インターネット環境の整備を行っておくこと
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
指定箇所の予習を行うこと。
受験対策として令和２年度より遡り、過去に実施された２４回分の自動車整備士２級国家試験から問題を抜粋。練習問題としてプリントで配布するので、実施・提出のこと。

〔授業計画〕
第 1 回　ＡＴの油圧制御システム
バルブユニット内の油圧制御バルブと各クラッチの作動
第 2 回　ＡＴの電子制御　１
電気信号で作動する各ソレノイドバルブの作動で行う制御
第 3 回　ＡＴの電子制御　２
ロックアップ制御・変速制御・フェイルセーフについて
第 4 回　安全装置概要
アクティブセーフティ・パッシブセーフティ等、各安全装置の概要
第 5 回　ブレーキの基本構造とＡＢＳの概要
油圧式ブレーキのメカニズムとＡＢＳの作動・構造の概略
第 6 回　アンチロックブレーキシステム　1
ＡＢＳの内部構造（各種センサー及びバルブユニット内作動）と電子制御
第 7 回　アンチロックブレーキシステム　２
ＡＢＳに関する各種センサーを車両上で点検し、良否の確認方法を検証
第 8 回　トラクションコントロール
ＡＢＳの復習とＴＲＣ制御との関係を確認し、システムの互換性を検証
第 9 回　電子制御パワーステアリング
一般的なＥＰＳの構造と作動及びメーカー毎の違い
第 10 回　ビークルスタビリティコントロール
ＶＳＣの構造と作動及び車両安定制御の実際を確認
第 11 回　シャシ総合制御
四輪トータルアライメントを含むシャシ総合制御の概要
第 12 回　ＳＲＳエアバックシステム
ＳＲＳエアバックシステムの構造と作動、展開実験、廃棄方法他
第 13 回　マニュアルエアコンの構造
冷媒の流れを含むマニュアルエアコンの基本構造と各種冷媒
第 14 回　オートエアコンの構造と作動
マニュアルエアコンとオートエアコンの違いを重点に、必要なセンサー類を確認
第 15 回　電子制御概論
前期・後期のまとめ　エンジンとシャシの電子制御の相違点等
〔成績評価〕
試験80％課題10％態度行動、取り組み評価10％
〔教科書〕
国土交通省自動車局監修　自動車整備士養成課程　教科書
・基礎自動車整備作業
・基礎自動車工学
・三級・二級自動車ガソリン・エンジン
・三級・二級自動車シャシ
〔参考文献〕
業界の関連研修資料と自作PPTを適宜使用
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他
〔備考〕
【実務経験の活用】
整備士としての実務経験を活かし、自動車の整備作業実習をおこなう。また、物販や在庫管理に関連する接客対応や商品の案内方法等を統合し、連結した実習授業の展開を行う。
潜水士として従事した各種業務より、安全・危機管理を取り入れた実技実習を行っている。
〔オフィスアワー〕
土曜日　11：30～12：10

演習Ⅱ【日本企業の日本的経営研究】

8428
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
今岡　　重男

〔到達目標〕
各自のテーマに沿って、文献研究や現地調査を実践。専門演習Ⅱ前期で身につけた学習方法を土台として、各自が執筆した卒業論文をゼミナールで発表し、 同じゼミ生の意見を聞き、担当教員の指導を受けて論文を完成する。
〔授業の概要〕
当ゼミナールでは、自主的積極的な学修・研究を基礎に書き込んだ卒業論文を学生諸君が発表し、学生の間で意見をたたかわせ、教員との議論を通じて、経営学の理解を深め、専門的力量をたかめることができます。「卒業論文」を作成し4年間の学修を総括することになります。
また当ゼミナールは、集団づくり、仲間づくりの場でもあります。各人の主体的な努力と集団的な討議によって、学生間の結びつきを深めていくことができます。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
①新聞や経済誌を読み経済や経営に関する知識を深める。
②テレビなどでもビジネス番組を見て知識を深めるようにしておく。
③授業中で推薦する書籍や論文はよく読んでおく。
〔授業計画〕
第 1 回　授業ガイダンス
授業の目的と進め方について説明する。
第 2 回　卒業論文のゼミナール内1回目発表①
毎回2人位ずつ、各自が書き進んだ卒業論文の発表し、 同じゼミ生の意見を聞き、担当教員の指導を受けて論文をブラッシュアップしていく。
発表者以外の者は、発表者に適切な質問をすることとする。
第 3 回　卒業論文のゼミナール内1回目発表②

毎回2人位ずつ、各自が書き進んだ卒業論文の発表し、 同じゼミ生の意見を聞き、担当教員の指導を受けて論文をブラッシュアップしていく。
発表者以外の者は、発表者に適切な質問をすることとする。

第 4 回　卒業論文のゼミナール内1回目発表③
毎回2人位ずつ、各自が書き進んだ卒業論文の発表し、 同じゼミ生の意見を聞き、担当教員の指導を受けて論文をブラッシュアップしていく。
発表者以外の者は、発表者に適切な質問をすることとする。

第 5 回　卒業論文のゼミナール内1回目発表④
毎回2人位ずつ、各自が書き進んだ卒業論文の発表し、 同じゼミ生の意見を聞き、担当教員の指導を受けて論文をブラッシュアップしていく。
発表者以外の者は、発表者に適切な質問をすることとする。

第 6 回　卒業論文のゼミナール内2回目発表①
毎回2人位ずつ、各自が書き進んだ卒業論文の発表し、 同じゼミ生の意見を聞き、担当教員の指導を受けて論文をブラッシュアップしていく。
発表者以外の者は、発表者に適切な質問をすることとする。

第 7 回　卒業論文のゼミナール内2回目発表②
毎回2人位ずつ、各自が書き進んだ卒業論文の発表し、 同じゼミ生の意見を聞き、担当教員の指導を受けて論文をブラッシュアップしていく。
発表者以外の者は、発表者に適切な質問をすることとする。

第 8 回　卒業論文のゼミナール内2回目発表③
毎回2人位ずつ、各自が書き進んだ卒業論文の発表し、 同じゼミ生の意見を聞き、担当教員の指導を受けて論文をブラッシュアップしていく。
発表者以外の者は、発表者に適切な質問をすることとする。

第 9 回　卒業論文のゼミナール内2回目発表④
毎回2人位ずつ、各自が書き進んだ卒業論文の発表し、 同じゼミ生の意見を聞き、担当教員の指導を受けて論文をブラッシュアップしていく。
発表者以外の者は、発表者に適切な質問をすることとする。

第 10 回　卒業論文のゼミナール内3回目発表①
毎回2人位ずつ、各自が書き進んだ卒業論文の発表し、 同じゼミ生の意見を聞き、担当教員の指導を受けて論文をブラッシュアップしていく。
発表者以外の者は、発表者に適切な質問をすることとする。

第 11 回　卒業論文のゼミナール内3回目発表②
毎回2人位ずつ、各自が書き進んだ卒業論文の発表し、 同じゼミ生の意見を聞き、担当教員の指導を受けて論文をブラッシュアップしていく。
発表者以外の者は、発表者に適切な質問をすることとする。

第 12 回　卒業論文のゼミナール内3回目発表③
毎回2人位ずつ、各自が書き進んだ卒業論文の発表し、 同じゼミ生の意見を聞き、担当教員の指導を受けて論文をブラッシュアップしていく。
発表者以外の者は、発表者に適切な質問をすることとする。

第 13 回　卒業論文のゼミナール内3回目発表③
毎回2人位ずつ、各自が書き進んだ卒業論文の発表し、 同じゼミ生の意見を聞き、担当教員の指導を受けて論文をブラッシュアップしていく。
発表者以外の者は、発表者に適切な質問をすることとする。

第 14 回　卒業論文完成前の質疑応答
各自書き上げた論文に関して、提出直前にさらに疑問・質問がないか確認して、修正を要する箇所があればそれを修正して卒業論文を完成させる。

第 15 回　卒業論文作成の反省
卒業論文作成を振り返って、論文の書き方などが今後の職業人生の中で生かせるかどうかディスカッションする。

〔成績評価〕
授業中の発表・質問・ディスカッションを通じて総合的に評価する。

〔教科書〕
特にない。

〔参考文献〕
授業の中で随時示す。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
遠隔授業を行う予定ですので、質問や相談はいつでも電話またはパソコンメールで連絡ください。携帯電話：09083751660　メール：imaoka@ashiya-u.ac.jp

演習Ⅰ【日本企業と日本的経営研究】

8333
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
今岡　重男

〔到達目標〕
①経営学の基本書を輪読し、卒業論文を書く知識・能力を養成する。
②ゼミ生全員で企業訪問し経営者の話を聞くなどして、企業活動への関心を高める。
③普段の授業の中でも社会人としてのビジネスマナーの基本を学ぶ。

〔授業の概要〕
①卒業論文を書くための基礎力を養うために、経営学の基本書（金原達夫『やさしい経営学』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。
②ゼミ生全員で企業訪問し経営者から直接経営に実際を聞く機会を持つ。

③授業の中で、卒業後に備えてビジネスマナーを学ぶ機会を持つ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

①経営学の基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を事前によく読み、次週しておく。
②新聞や経済誌を読み経済や経営に関する知識を深める。
③テレビなどでもビジネス番組を見て知識を深めるようにしておく。

〔授業計画〕

第 1 回　経営学の基本書の輪読①
「モティベーション（動機づけ）」をテーマにして、経営学の 基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。

第 2 回　経営学の基本書の輪読②
「モティベーション（動機づけ）」をテーマにして、経営学の 基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。

第 3 回　経営学の基本書の輪読③
「モティベーション（動機づけ）」をテーマにして、経営学の 基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。

第 4 回　経営学の基本書の輪読④
「リーダーシップ」をテーマにして、経営学の 基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。

第 5 回　経営学の基本書の輪読⑤
「リーダーシップ」をテーマにして、経営学の 基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。

第 6 回　経営学の基本書の輪読⑥
「リーダーシップ」をテーマにして、経営学の 基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。

第 7 回　経営学の基本書の輪読⑦
「計数管理」をテーマにして、経営学の 基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。

第 8 回　経営学の基本書の輪読⑧
「計数管理」をテーマにして、経営学の 基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。

第 9 回　経営学の基本書の輪読⑨
「ビジネスプラン」をテーマにして、経営学の 基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。

第 10 回　経営学の基本書の輪読⑩
「ビジネスプラン」をテーマにして、経営学の 基本書（金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10）を輪読しディスカッションする。

第 11 回　卒業論文の書き方①　論文とは何か
(1)レポートと論文の違い
〇レポート：　あるテーマについて調べたことの要約・整理
〇論文：　ⅰ自ら問いを設定し、ⅱ客観的な論理やデータに基づいて、ⅲ自分なりの立場や主張を論証したもの
(2)独自な考察
　論文では独自な考察が求められる
→　たんなる要約ではなく、自分の主張を行う。研究論文の場合、序論で研究史を整理し、それらの不十分さを指摘したうえで、自らの課題を設定する
(3)リサーチ・クエスチョン（研究の前提となる疑問）
　論文作成の最初の難関は「リサーチ・クエスチョンの設定」にある

第 12 回　卒業論文の書き方②　問いの設定
・論文ではgoogleですぐに調べられるような問題は扱わない
・複数の答えが可能な「問い」（リサーチクエスチョン）を立て、ある立場を選択する
・自分の力で扱えるテーマであること

　大学図書館、地方や組織の図書館、ネット、インタビューなどによって資料が集まるか？

第 13 回　卒業論文の書き方③　仮説の設定
仮説とは、物事を考える際に「最も確からしいと考えられる仮の答え」のことである。この仮説をどのように立てるかを考える

第 14 回　卒業論文の書き方④　研究方法論と論文構成
自分のリサーチクエスチョンの対してどのような研究方法を選択するかを学ぶ。量的研究方法と質的研究方法について概要を学ぶ
論文の構成についても事例を上げて説明する

第 15 回　卒業論文の書き方⑤　論文を読んでみる
経営学の論文を読んで、ディスカッションする

〔成績評価〕

授業中の発表・質問・ディスカッションを通じて総合的に評価する。

〔教科書〕

〔教科書〕 金原達夫『やさしい経営学 』文眞堂 2019/9/10

〔参考文献〕

都度関係の書籍や資料を説明する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

遠隔授業を行うので、質問や相談は携帯電話やパソコンメールで連絡ください。
携帯：09083751660　パソコンアドレス：imaoka@ashiya-u.ac.jp

ＣＧ・ＣＡＤ技術概論Ⅱ

5202
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
井上　徹

〔到達目標〕
1.3Dデザインの基礎知識・理論を知る。
2.CADの基礎知識と基本理論を知る。
3.3DCADソフトVectorworksの基本操作方法を身につけ る。
〔授業の概要〕
3D・CADの基礎知識・理論を学び、社会へ出て3D・CADに対応できるよう、その理論と技能を学習・体得する。
講義では、専門のアプリケーションの操作・表現・作画等の実習をわかりやすく講義します。

・授業で行った実習成果を発表し互いに評価する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：日常の3Dデザインの構造・仕組みを注意深く閲覧・分析を行う。（120分 程度）
復習：講義・実習内容を整理し、理解しておくこと。（120分程度）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
・授業内容の説明・進め方・出席方法。
・Vectorworks基本操作
第 2 回　図形理論
・2Dと3Dの違い・基本立体について
・3Dモデル作成：柱状体
第 3 回　モデリング
・立体表現手法
・3Dモデル作成：多段柱状体
第 4 回　立体生成
・円柱・直交座標について
・3Dモデル作成：回転体・トーラス
第 5 回　3D空間座標
・3D空間座標について
・3Dモデル作成：斜立体
第 6 回　3Dプリント1.
・3Dプリント基礎
・3Dモデル作成：コイン
第 7 回　3Dプリント2.
・3Dプリントの素材
・3Dモデル作成：ソファー
第 8 回　中間試験
7回までの授業内容をまとめた小テストorレポート。
第 9 回　立体表現
・立体表現と種類について
・3Dモデル作成：室内レイアウト・シンボル
第 10 回　曲線・曲面
・曲線・曲面生成方法
・3Dモデル作成：エッジ・レイヤー間移動
第 11 回　投影法1
・正投影法について
・3Dモデル作成：回転アニメーション
第 12 回　投影法2
・斜投影法について
・3Dモデル作成：レンダリング
第 13 回　投影法3
・透視投影について
・3Dモデル作成：室内ウォークスルー
第 14 回　移動理論
・移動理論（アニメーション・レンダリングの基礎知識）
・3Dモデル作成：屋外ウォークスルー
第 15 回　まとめ・総括
・授業のまとめ
・試験について
〔成績評価〕
定期試験：40%
中間試験：30%
課題提出（実習実作物・レポートなど）：30%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
メディア・アート国際化推進委員会　編「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲームfrom1989」
長嶋 竜一著「はじめて学ぶ Vectorworks」等
その他、参考図書は授業にて紹介。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
【実務経験の活用】
実務経験より、現場で役立つ技術を初学者にも分かりやすく講義する。
〔オフィスアワー〕
1.学　期：前期・後期
2.日　時：授業終了後／水曜日14：00～15：00
3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室
4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能

5.その他（相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容

②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。

③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

ウェブデザインⅡ

5246
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
井上　徹

〔到達目標〕
1.WEBデザイン（インターネットも含む）に関連する基本知識を知る。
2.WEB・SNSサイトの分析・解析方法を知る。
3.オーサリングソフトを使用し、WEBデザイン基礎技術を身につける。
〔授業の概要〕
WEBデザインに関連するプログラム・動画の利用法等の基礎を学ぶ。
また、企業でのWEB・SNSサイトの活用方法とその分析・解析方法を学ぶ。
WEBサイト制作ソフトAdobe Dreamweaver中心に講義と実習行う。
・授業で行った実習成果を発表し互いに評価する。
※受講人数：20名（20名以上の場合はクラス分けを行います。）
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習1：日常使用するWEBサイトを閲覧する際に、サイトのデザイン･業種や仕組みを注意深く閲覧すること。(60分程度)
予習2：制作予定のWEBデザインを考える。（60分程度）

復習：講義・実習内容を整理しておくこと。（120分程度）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　・授業内容の説明・進め方
第 2 回　WEBプログラム
　・WEBプログラム言語・種類と基礎知識
第 3 回　SNSの基礎知識1
　・SNSの発展と主要SNS
第 4 回　SNSの基礎知識2
　・SNSの活用方法
第 5 回　インターネット広告
　・インターネットにおけるデジタル広告の種類と手法
第 6 回　クラウド
　・クラウドの基礎知識
第 7 回　サーバの種類
　・サーバの種類と役割
第 8 回　中間試験
　・7回までの授業内容をまとめた小テストorレポート。
第 9 回　ネットワークセキュリティ
　・セキュリティ上の脅威とセキュリティの基礎知識
第 10 回　IoT（Internet of Things）
　・IoTとWEBデザインの未来
第 11 回　WEBサイト解析1
　・WEB解析の基礎知識
第 12 回　WEBサイト解析2
　・WEB解析の基本用語
第 13 回　WEBサイト解析3
　・KPI・KGIとWEBの目標
第 14 回　WEBサイト価値
　・日本企業のWEBサイトの価値と最新ランキング
第 15 回　まとめ・総括
　・授業のまとめ
　・試験について
〔成績評価〕
定期試験：40%
中間試験：30%
課題提出（実習実習実作物・レポートなど）：30%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
『初級ウェブ解析士認定試験公式テキスト』ウェブ解析士協会
『標準ガイドブック2　Webデザイン』ワークスコーポレーション　　等
その他、参考文献は授業中に適宜紹介。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
【実務経験の活用】
多くの企業等のWEBサイトデザインの経験により得た知識と最新の動向・基礎を初学者にも分かりやすく講義する。
〔オフィスアワー〕
1.学　期：前期・後期
2.日　時：授業終了後／水曜日14：00～15：00
3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室
4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能

5.その他（相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容

②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。

③研究室に相談・質問に来る場合

・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

演習Ⅱ【ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ・ﾃﾞｻﾞｲﾝ研究】

8470
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
井上　徹

〔到達目標〕
1専門知識及びロジカル・デザイン思考力をみにつける。
2.学術的・実務的価値の高い卒業論文・制作を実施する。
3.専門知識を分かりやすく伝える力を身につける。
4.情報分析力を身につける。
5.人間関係を形成する力を身につける。
〔授業の概要〕
自らの興味のある企業・デザインジャンルを選定し、マネジメント・デザインの制作等を行い、卒業論文・制作を行う。後期は、事前調査した先行研究の評価・課題の整理・自己評価をまとめ、各自のテーマに合わせた卒業論文・制作を完成させる。

・研究・調査・デザイン等の報告・ディスカッション。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：各回の演習で行う内容を事前に調査・整理する。（120分程度）
復習：各回の演習で課題として残された問題点などを次回までにまとめる。（120分程度）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　・演習・卒業論文の進め方。
第 2 回　卒業論文のアウトライン提示
　　・卒論の概要決定
第 3 回　論文に使用する先行研究一覧の提出
　　・先行研究の調査・分析
第 4 回　先行研究の評価と課題（1）
　　・テーマについての論文など
第 5 回　先行研究の評価と課題（2）
　　・当該企業・デザインについての論文など
第 6 回　先行研究の評価と課題（3）
　　・産業間比較
第 7 回　先行研究の評価と課題（4）
　　・国際比較
第 8 回　論文の最終中間報告会
　　・卒業論文の中間発表
第 9 回　卒業論文の自己評価（1）
　　・卒業論文の趣旨・主題をまとめる。
第 10 回　卒業論文の自己評価（2）
　　・自己評価の報告
第 11 回　卒業論文の自己評価（3）
　　・論文に不足しているものを考える。
第 12 回　卒業論文のまとめ（1）
　　・卒業論文の完成。
第 13 回　卒業論文のまとめ（2）
　　・演習内での最終成果報告会。
第 14 回　卒業論文のまとめ（3）
　　・年間成果の報告・今後の自己課題
第 15 回　学部卒業論文発表
　　・学部内での卒業論文発表会への準備
〔成績評価〕
研究・作品の完成度（50%）
プレゼンテーション（30%）
発表・ディスカッション・ディベートへの参加度（20%）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし・授業中に適宜資料を配布。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
1.学　期：前期・後期
2.日　時：授業終了後／水曜日14：00～15：00
3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室
4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能
5.その他（相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容
②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。
③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

演習Ⅰ【ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ・ﾃﾞｻﾞｲﾝ研究】

8348
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
井上　徹

〔到達目標〕
デザインと経営・マネジメントの関係づけて、活用できることを目標とします。
1.社会の動向を分析する力を身につける。
2.自ら考える力を身につける。
3.デザイン・ビジネスセンスを身につける。
4.プロダクトデザインの基礎制作方法を知る。
〔授業の概要〕
デザイン分野は、宇宙・地球レベルから国や地域、都市、そして私たちの日常生活の隅々まで広がっている。
専門分野別のデザインと、“広く・新しい”視野により「デ

ザイン」「マネジメント」を、学生生活を通して学びます。
　演習・研究では、基礎的なデザインの意味・重要性を知り、自主的なデザイン分野選択により、社会・企業の中で、どのようなデザイン・知識が必要であるかを活用できる人材の育成を行います。

・研究・調査・実習等の発表・合評・ディスカッション。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習：テレビ・新聞・WEBなどを通して興味のある情報に注目し、情報収集を行う。（120分程度）
復習：各回の演習で課題として残された問題点などを次回までにまとめる。（120分程度）

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
　　・演習の進め方
第 2 回　イノベーション研究・調査1.
　　・事例調査
第 3 回　イノベーション研究・調査2.
　　・フィールドワーク
第 4 回　合評会
　　・発表・ディベート
第 5 回　デザインシンキング研究・調査1
　　・事例調査
第 6 回　デザインシンキング研究・調査2
　　・事例調査
第 7 回　合評会
　　・発表・ディベート
第 8 回　プロダクト基礎1.
　　・立体色彩構成1
第 9 回　プロダクト基礎2.
　　・立体色彩構成2
第 10 回　合評会
　　・発表・ディベート
第 11 回　プロダクト基礎3
　　・ペーパーカップデザイン
第 12 回　プロダクト基礎4
　　・3Dプリント実習
第 13 回　合評会
　　・発表・ディベート
第 14 回　卒論テーマ
　　・発表決定
第 15 回　総評
　　・まとめ

〔成績評価〕

研究・作品の完成度（40%）
プレゼンテーション（30%）
発表・ディスカッション・ディベートへの参加度（30%）

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

特になし・授業中に適宜資料を配布。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

1.学　期：前期・後期
2.日　時：授業終了後／水曜日14：00～15：00
3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室
4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能

5.その他（相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容

②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。

③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

経営学基礎論

1105
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
木元　清明

〔到達目標〕

経営学は「組織（特に企業や団体）」を対象とする学問です。多くの社会人が関わるビジネスの世界において、「企業と社会の関り」「企業の形態」「働く人のモチベーション」「経営者の役割」「競争に打ち勝つための戦略」などについて、実際の企業活動の実例を通して学びを深め、その事業活動の「基本的な仕組み」を理解できるようにしましょう。

〔授業の概要〕

ただ単に「経営学の知識」を得るのではなく、なぜ社会の中で「企業」が生まれ、その「企業」がどのような歴史的過程を経ながら現在に至るのかについて、数々の企業現場における実例を紹介しながら系統的に学びます。企業とは「人の集団」であり、経営とは「人が実践する」ものです。企業を通した経営活動を「人という視座」を通して考えてみましょう。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習：テレビ・新聞・WEBなどを通して興味のある企業･ビジネスに関連する情報に注目する。
　　特に自分の身の回りで起きている企業活動や社会現象に興味を持ち「なぜそうなるの
　　か？」という思考を深めて下さい。
　　また、シラバスに明記した毎回の授業における教科書範囲を熟読して講義に出席するよ

うにして下さい。
復習：講義内容の整理：講義内容を理解した上で次回の講義に臨む様にしてください。（120分
程度）

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
・教員の自己紹介
・授業の進め方と学び方
・教科書紹介と参考書籍の紹介
教科書20ページまでを熟読して講義に臨んで下さい。

第 2 回　経営学はなぜ必要か？
経営学は「これを学べば儲かる経営ができる」というハウツー的な学問ではありません。究極的には「経営する人」「働く人」「周囲の関わる人」などがすべてWin-Winの関係になるにはどうすればよいかを考えてみる学問です。
教科書32ページから68ページまでを熟読して講義に臨んで下さい。

第 3 回　企業とは何か？①
そもそも「なぜ企業という組織が、いつ頃、なぜ生まれたのか？」という原点を考えてみましょう。
教科書70ページから91ページまで熟読して講義に臨んで下さい。

第 4 回　企業とは何か？②
日本における株式会社は、どのような歴史的背景でいつ頃に誕生して現在に至るのかについて考え、著名経営学者による「企業の定義」に触れてみましょう。
教科書91ページから108ページまで熟読して講義に臨んで下さい。

第 5 回　職場にやる気を起こすモチベーション理論①
企業とは「人の集団」です。モチベーションを持たない人の集団は「烏合の衆」に過ぎず成果を上げることはできません。働く人は、どのようにすればモチベーションをアップすることができるのかを学びましょう。
教科書110ページから131ページまで熟読して講義に臨んで下さい。

第 6 回　職場にやる気を起こすモチベーション理論②
近年の日本企業において導入が進む「成果主義」と「目標管理制度」について学ぶとともに、従業員自らがモチベーションを高める「内発的動機付け」について学びましょう。
教科書131ページから150ページを熟読して講義に臨んで下さい。

第 7 回　優れたリーダーの条件①
人が属するあらゆる集団においては、必ずリーダーが存在します。多くの人が所属する集団においては、優れたリーダーの存在の有無がその集団の運命を左右することになります。優れたリーダーとは何を指すのか考えてみましょう。
教科書152ページから168ページまで熟読して講義に臨んで下さい。

第 8 回　優れたリーダーの条件②
あらゆる組織にリーダーは存在しますが、企業のリーダーは「競合企業との競争」の中で生き残りを図るために経営のかじ取りを行う必要があります。つまり、企業のリーダーには「失敗すれば倒産」という破局的運命が待っているのです。
教科書169ページから189ページまで熟読して講義に臨んで下さい。

第 9 回　１＋１を２以上にする組織とは①
算数の世界では「１＋１＝２」と決まっています。しかし、経営の世界では「１＋１＝10」や「１＋１＝０」もあり得ます。逆に言えば、「１＋１＝２以上」にしないと経営は成り立たないということを考えてみましょう。
教科書192ページから214ページまで熟読して講義に臨んで下さい。

第 10 回　１＋１を２以上にする組織とは②
何かの目的をもって集まった人の集団においては、集団のリーダーが生まれると同時に、それぞれの役割分担を明示した「組織」が生まれます。特に、企業における組織とはどのように編成されるかを考えてみましょう。
教科書215ページから237ページまで熟読して講義に臨んで下さい。

第 11 回　良い戦略的経営を実現するには①
目的を持って集まった人の集団である組織の中でも、特に企業は競争に打ち勝ちながら永続的な事業活動を続けることを目標としています。そこで「戦略」という未来への生き残り方策が必要になることを考えてみましょう。
教科書240ページから275ページまで熟読して講義に臨んで下さい。

第 12 回　良い戦略的経営を実現するには②
「戦略」という用語は二千年以上も前から使われており、古代中国や欧州における戦争用語として定着しています。企業の将来性を決定的に形作る「経営戦略」とは何かについて、古代国家戦略の実例を通して考えてみましょう。
教科書276ページから300ページまで熟読して講義に臨んで下さい。

第 13 回　これからの経営学①
日本企業は「IT革命などの情報化社会」などの様々なトレンドに取り囲まれています。特に、インターネットとスマホの急速な普及は、新しい巨大ビジネスを生み出しながら急速に発展を遂げています。そのような状況下に、日本企業はどのように対応していけばよいのかを考えてみましょう。
教科書302ページから322ページまで熟読して講義に臨んで下さい。

第 14 回　これからの経営学②

日本企業の経営は、単一民族の企業という特殊性もあり、世界的に見れば「日本人という一つの民族で構成される珍しい存在」とされてきました。グローバル化の時代となり、この独特の日本企業の在り方がどのようになっていくのかを考えてみましょう。
教科書322ページから最後まで熟読して講義に臨んで下さい。

第 15 回　まとめ／総括
・期末試験についてのまとめを行います
・最後に「グローバル視点からみた日本企業の課題」と「少子高齢化社会が企業経営に与える影響」などに関して、皆さんで考えてみましょう。

〔成績評価〕
定期試験：70%
課題レポート：30%

〔教科書〕
「みんなの経営学」佐々木圭吾　日経ビジネス人文庫（日本経済新聞出版社）
※講義で使用する教科書なので予習・復習に必要です。

〔参考文献〕
参考文献は授業内にて適宜資料を紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
質問や相談がある場合には、毎回の講義終了直後の教室にて口頭で受け付けます。希望学生は授業終了後ただちに担当教員に申し出て下さい。

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　経営③

8223
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
井上　徹

〔到達目標〕
大学生の間に自分が進むべき進路（就職）を明確にするため、各方面の卒業生に来ていただき自分の将来像を描くことが出来ることを目的とする。

〔授業の概要〕
多くの時間本学の卒業生（先輩）に来ていただき、過去の就活体験談や学生生活を振り返った講話をいただきます。また、今大学生の時にしておけば良かったこと、現在の2年生に伝えたいことをお話しいただきます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
自分が進むべき進路について、考える時間を授業時間外でとってもらいます。また、それに向けて何をすべきかどう行動するべきかを考える

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション ①
前期学事予定・履修登録確認
第 2 回　学園祭イベント計画について
学園祭企画もイベント企画の重要な課題であると考えます
第 3 回　学生生活について
クラブ活動や大学行事、アルバイトや就職活動など学内外の活動と学業の両立
第 4 回　外部講師1
マイナビによる就職活動に関わるガイダンス
第 5 回　先輩講師1
本学4年生の就活体験を聞く ①
第 6 回　先輩講師2
本学4年生の就活体験を聞く ②
第 7 回　先輩講師3
大学院生の経験に学ぶ
第 8 回　外部講師2
就職活動、その具体的な情報収集と活動の方法について
第 9 回　外部講師3
就職活動、その具体的な情報収集と活動の方法について
第 10 回　外部講師4
就職活動、その具体的な情報収集と活動の方法について
第 11 回　専門演習と卒業論文について
専門演習にどのようなものがあるか、卒業論文とは
第 12 回　専門演習説明会
経営教育学科 専門演習担当教員の紹介と各演習内容の説明　／ 専門演習登録用紙 配布
第 13 回　オリエンテーション ②
専門演習 事前授業 （プレゼミ） について
第 14 回　オリエンテーション ③
専門演習 事前授業 （プレゼミ）
第 15 回　経営教育学科　卒業論文発表会
先輩の卒業論文発表を聞く

〔成績評価〕
毎回聴講レポートを記入し提出します。その聴講レポートが試験となります。
レポート（100%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容

②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。
③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

健康スポーツ科学概論（再履修対象）

2340
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
西光　　哲治

〔到達目標〕
現代社会における我々の日常生活では身体活動が著しく低下する傾向にあり、様々な生活習慣病を引き起こしている。学生の青年期において身体的・精神的特性を理解し、そして健康で活力に満ちた生活を自ら実践する生涯スポーツ・体育への態度の育成が必要である。そこで本講義を通じて生涯にわたって体育やスポーツにかかわった生活が健康の保持・増進にとっていかに大切であるかを理解し、積極的な運動・スポーツ実践につながることを目標とする。
〔授業の概要〕
パワーポイントを活用
現代社会の健康に関する諸問題や健康を疎外するもの、或いは健康観について過去の健康に関する文献や運動生理学的視点からの基礎的知識を紹介する。また、スポーツが健康の保持・増進に関与していることからトレーニング科学や栄養についての基礎的知識も紹介し、健康スポーツ科学への理解を深める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：授業計画に記載されているキーワードについて事前に調べておくこと。(1時間)
復習：講義内容を復習し、ノートなどにまとめておくこと。(1時間)
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　講義の進め方、受講の共通理解、評価の内容伝達
第 2 回　生体リズム
　　運動能力と精神機能、スキャモンの発達曲線、神経系、リンパ系
第 3 回　健康の指標
　　健康の三原則、睡眠のメカニズム、体内時計
第 4 回　現代の健康問題(1)
　　食生活(三大栄養素・五大栄養素)
第 5 回　現代の健康問題(2)
　　運動の起源、運動と筋肉
第 6 回　体力とトレーニング
　　体力つくりとトレーニングの原理・原則
第 7 回　健康の指針
　　WHOの健康観
第 8 回　健康を疎外するもの(1)
　　生活習慣病の現状と改善策
第 9 回　健康を疎外するもの(2)
　　食中毒の原因・分類・予防
第 10 回　健康を疎外するもの(3)
　　飲酒と喫煙の行動
第 11 回　健康を疎外するもの(4)
　　感染症(病原体・感染経路・予防)
第 12 回　健康を疎外するもの(5)の i
　　性感染症　　性病の歴史、原因と現状
第 13 回　健康を疎外するもの(5)の ii
　　性感染症　　特徴と種類と予防
第 14 回　健康を疎外するもの(6)
　　摂食障害　　過食症と拒食症の危険
第 15 回　まとめ
　　まとめテスト
〔成績評価〕
毎回の授業への取組＋レポート提出＋定期試験
総合的に評価する。
〔教科書〕
適宜資料配布する。

〔参考文献〕
文部科学省　学習指導要領・解説(最新版)
適宜紹介する。
〔履修条件〕
その他
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①後期
②木曜日　10:00～11:30
③場所：西光研究室(福山記念館１階)
④連絡先：メール(tetsuji@ashiya-u.ac.jp)にて対応
⑤来室の際はメールにてアポイント取って下さい。

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　経営⑤

8225
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
松本　　達也

〔到達目標〕
大学生の間に自分が進むべき進路（就職）を明確にするため、各方面の卒業生に来ていただき自分の将来像を描くことが出来ることを目的とする。
〔授業の概要〕
多くの時間本学の卒業生（先輩）に来ていただき、過去の就活体験談や学生生活を振り返った講話をいただきます。また、今大学生の時にしておけば良かったこと、現在の2年生に伝えたいことをお話しいただきます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
自分が進むべき進路について、考える時間を授業時間外でとってもらいます。また、それに向けて何をすべきかどう行動するべきかを考える
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション ①
前期学事予定・履修登録確認
第 2 回　学園祭イベント計画について
学園祭企画もイベント企画の重要な課題であると考えます
第 3 回　学生生活について
クラブ活動や大学行事、アルバイトや就職活動など学内外の活動と学業の両立
第 4 回　外部講師1
マイナビによる就職活動に関わるガイダンス
第 5 回　先輩講師1
本学4年生の就活体験を聞く ①
第 6 回　先輩講師2
本学4年生の就活体験を聞く ②
第 7 回　先輩講師3
大学院生の経験に学ぶ
第 8 回　外部講師2
就職活動、その具体的な情報収集と活動の方法について
第 9 回　外部講師3
就職活動、その具体的な情報収集と活動の方法について
第 10 回　外部講師4
就職活動、その具体的な情報収集と活動の方法について
第 11 回　専門演習と卒業論文について
専門演習にどのようなものがあるか、卒業論文とは
第 12 回　専門演習説明会
経営教育学科 専門演習担当教員の紹介と各演習内容の説明　／ 専門演習登録用紙 配布
第 13 回　オリエンテーション ②
専門演習 事前授業 （プレゼミ） について
第 14 回　オリエンテーション ③
専門演習 事前授業 （プレゼミ）
第 15 回　経営教育学科　卒業論文発表会
先輩の卒業論文発表を聞く
〔成績評価〕
毎回聴講レポートを記入し提出します。その聴講レポートが試験となります。
レポート（100%）
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容
②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。
③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

演習Ⅱ【人間社会と環境】

8453
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
4単位　後期
池田　聡

〔到達目標〕
人間社会と環境問題の関連性
社会・文化・自然環境について
SDG s について
専門的知識を身につける
上記の内容と卒業論文を仕上げることを到達目標とする
〔授業の概要〕
3年次に決定した研究テーマを基に、卒業論文のための文献を読み、講義では論文の書き方についての指導を行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で提示した課題の復習（2時間）
講義内で提示した課題の予習（2時間）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
前期の振り返り
第 2 回　卒業論文Ⅰ
卒業論文の文献、注意点等全体確認
第 3 回　卒業論文Ⅱ
個々の進捗状況等確認
第 4 回　卒業論文Ⅳ
各班によるグループワーク
第 5 回　卒業論文Ⅴ
各班代表者によるゼミ内報告
第 6 回　卒業論文Ⅵ
前回報告した内容の修正
第 7 回　卒業論文Ⅶ
修正した内容の全体報告
第 8 回　卒業論文Ⅷ
各班に分かれた担当個所の個人報告
第 9 回　卒業論文Ⅹ
担当個所の個人修正

第 10 回　卒業論文?
各班事に第1回卒論提出
第 11 回　卒業論文?
添削個所の修正
第 12 回　卒論報告Ⅰ
添削内容を修正した各班事に全体報告及び第2添削
第 13 回　卒論報告Ⅱ
添削内容を修正した各班事に全体報告及び第3添削
第 14 回　卒論報告Ⅲ
添削内容を修正した各班事に全体報告及び第4添削
第 15 回　卒業論文代表者決定
これまでの内容を含めゼミの代表者を決定する

〔成績評価〕
卒業論文の完成度及び貢献度を評価する

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

演習Ⅰ【人間社会と環境】

8338
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
池田　　聡

〔到達目標〕
人間社会と環境問題の関連性
社会・文化・自然環境について
SDGｓについて
専門的知識を身につける
上記の内容を到達目標とする

〔授業の概要〕
環境とは何か？　講義を通して環境問題に関する文献を紹介する。受講学生は様々な諸問題を理解する中で自らの研究テーマを決める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で提示した課題の復習（2時間）
講義内で提示した課題の予習（2時間）

〔授業計画〕
第 1 回　はじめに
前期の振り返り
第 2 回　環境問題関連法Ⅰ
環境問題関連法について学習する
第 3 回　環境問題関連法Ⅱ
前回学習した内容について全体報告
第 4 回　日本の環境問題Ⅰ
日本の環境問題について学習する
第 5 回　日本の環境問題Ⅱ
前回学習した内容のまとめと全体報告
第 6 回　世界の環境問題Ⅰ
世界の環境問題について学習する
第 7 回　世界の環境問題Ⅱ
前回学習した内容のまとめと全体報告
第 8 回　SDGｓ Ⅰ
SDGｓについての学習
第 9 回　SDGｓ Ⅱ
前回学習した内容のまとめと全体報告
第 10 回　環境と経営Ⅰ
環境と経営ついて学習する
第 11 回　環境と経営Ⅱ
前回学習した内容のまとめと全体報告
第 12 回　SDGｓを用いた会社経営Ⅰ
SDGｓを用いた会社経営について学習する
第 13 回　SDGｓを用いた会社経営Ⅱ
前回学習した内容のまとめと全体報告
第 14 回　まとめⅠ
後期の講義内容をまとめる
第 15 回　まとめⅡ
後期ゼミで実施した内容の全体報告

〔成績評価〕
レポート及び提示した課題により成績を評価する

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

環境教育

5312
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
池田　　聡

〔到達目標〕
環境教育の現状と問題点を把握
環境教育の在り方について自分の考えを構築
上記の内容を目標にする。

〔授業の概要〕
環境教育の理論と実践を学習し、持続可能な社会づくりをめざす環境教育について、参加型学習・問題解決型・体験型の方法とスキルを理解する。
ネイチャーゲームを導入しアクティブラーニングを実施する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で指定した課題の復習（2時間）
講義内で指定した課題の予習（2時間）
毎回講義内で課題資料を配布。
〔授業計画〕
第 1 回　環境教育で何を学ぶかについて
環境問題とは何かについての導入
第 2 回　原始地球の誕生と生命の誕生について学ぶ
地球と生命の誕生について学習する
第 3 回　人類の進化と独自の文化について学ぶ
人類の進化と独自の文化について学習する
第 4 回　温暖化のしくみと影響について考える
温暖化のメカニズムtと影響について学習する
第 5 回　環境教育とは何かその歴史と理念を学ぶ
環境教育の考え方とその歴史について学習する
第 6 回　環境教育の進め方について学ぶ
環境教育の実施について学習する
第 7 回　体験型環境教育について学ぶ
体験型環境教育について学習する
第 8 回　ゲームを用いて実践的な環境教育を体験する
ネイチャーゲームを用いてのアクティブラーニング
第 9 回　参加型環境教育の事例と効果について学ぶ
参加型環境教育の事例と効果について学習する
第 10 回　問題解決型環境教育について学ぶ
問題解決型環境教育について学習する
第 11 回　学校における環境教育について学ぶ
学校における環境教育について学習する
第 12 回　学校におけるエコツーリズム実施の可能性について
学校教育におけるエコツーリズムの導入について参考事例をもとに学習する
第 13 回　地域における環境教育について学ぶ
地域における環境教育について学習する
第 14 回　家庭における環境教育について学ぶ
家庭における環境教育について学習する
第 15 回　全体のまとめ
全体のまとめ及び定期試験の説明
〔成績評価〕
レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　経営④

8224
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
池田　　聡

〔到達目標〕
大学生の間に自分が進むべき進路（就職）を明確にするため、各方面の卒業生に来ていただき自分の将来像を描くことが出来ることを目的とする。
〔授業の概要〕
多くの時間本学の卒業生（先輩）に来ていただき、過去の就活体験談や学生生活を振り返った講話をいただきます。また、今大学生の時にしておけば良かったこと、現在の2年生に伝えたいことをお話しいただきます。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
自分が進むべき進路について、考える時間を授業時間外でとってもらいます。また、それに向けて何をすべきかどう行動するべきかを考える
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション ①
前期学事予定・履修登録確認
第 2 回　学園祭イベント計画について
学園祭企画もイベント企画の重要な課題であると考えます
第 3 回　学生生活について
クラブ活動や大学行事、アルバイトや就職活動など学内外の活動と学業の両立
第 4 回　外部講師1
マイナビによる就職活動に関わるガイダンス
第 5 回　先輩講師1
本学4年生の就活体験を聞く ①
第 6 回　先輩講師2
本学4年生の就活体験を聞く ②
第 7 回　先輩講師3
大学院生の経験に学ぶ
第 8 回　外部講師2
就職活動、その具体的な情報収集と活動の方法について
第 9 回　外部講師3
就職活動、その具体的な情報収集と活動の方法について
第 10 回　外部講師4
就職活動、その具体的な情報収集と活動の方法について
第 11 回　専門演習と卒業論文について
専門演習にどのようなものがあるか、卒業論文とは
第 12 回　専門演習説明会
経営教育学科 専門演習担当教員の紹介と各演習内容の説明　／ 専門演習登録用紙 配布
第 13 回　オリエンテーション ②
専門演習 事前授業 （プレゼミ） について

第 14 回　オリエンテーション ③
専門演習 事前授業 （プレゼミ）
第 15 回　経営教育学科　卒業論文発表会
先輩の卒業論文発表を聞く

〔成績評価〕
毎回聴講レポートを記入し提出します。その聴講レポートが試験となります。
レポート（100%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容
②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。
③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

人間環境概論Ⅱ

4216
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
池田　　聡

〔到達目標〕
人間と人間を取り巻く環境の言及
社会環境を中心に我々が直面する諸問題
上記の内容と受講生の意識向上を目的とする。

〔授業の概要〕
自然環境と社会環境の関係について学習し、我が国の環境問題に関する認識と法体系について学び、諸問題の原因と今後の課題について学習する。
毎時間、内容理解を深めるために課題を用意する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で指定した課題の復習（2時間）
講義内で指定した課題の予習（2時間）
毎回講義内で課題資料を配布。

〔授業計画〕
第 1 回　前期の講義のふりかえりと後期の講義について
前期の講義のふりかえりと後期の講義についての導入
第 2 回　人間社会と自然環境の結びつきについて学ぶ
人間社会と自然環境の結びつきについて学習する
第 3 回　社会性昆虫Ⅰ
社会性昆虫による年間被害を中心に人を襲う可能性のある危険生物の生態について学習する。
第 4 回　社会性昆虫Ⅱ
諸生命体が人体に与える影響及びその対策について学習する。
第 5 回　環境問題関連法Ⅰ
環境基本法等環境関連法について学び、我が国における自然環境活動、環境問題との関係、それに付随する諸問題解決のための結びつきについて学習する。
第 6 回　環境問題関連法Ⅱ
環境基本法等環境関連法について学び、我が国における自然環境活動、環境問題との関係、それに付随する諸問題解決のための結びつきについて学習する。
第 7 回　地球上に生息する生命体について（動物）
地球上に生息する生命体について（動物）について学習する
第 8 回　地球上に生息する生命体について（植物）
地球上に生息する生命体について（植物）について学習する
第 9 回　ネイチャーゲームを用いての環境教育1
ネイチャーゲームを用いてのアクティブラーニング
第 10 回　ネイチャーゲームを用いての環境教育2
ネイチャーゲームを用いてのアクティブラーニング
第 11 回　映像から考える環境問題Ⅰ
映像を用いて環境問題を学習する
第 12 回　映像から考える環境問題
映像を用いて環境問題を学習する
第 13 回　環境諸問題Ⅰ
環境諸問題を学習する
第 14 回　環境諸問題Ⅱ
環境諸問題をまとめ全体報告
第 15 回　全体のまとめ
全体のまとめ及び定期試験の説明

〔成績評価〕
レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

キャリア開発論

5216
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
池田　　聡

〔到達目標〕
雇用と就業問題
働くとは何かをテーマに昨今の多様化する雇用形態
若者、女性の社会進出等自らに直結する社会的問題について学習
〔授業の概要〕
就業問題と雇用形態これらに関する法規制について
児童虐待
女性の社会進出等
社会問題全体を考え、諸問題の原因と今後の課題について学ぶ。
毎時間、内容理解を深めるために課題を用意する。
講義にはケースメソッド形式のアクティブラーニングを取り入れる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で指定した課題の復習（2時間）
講義内で指定した課題の予習（2時間）
毎回講義内で課題資料を配布。
〔授業計画〕
第 1 回　講義について
15回の講義についての説明及び導入。
第 2 回　働くとは何か？就業と雇用について考える
就業と雇用について働くとは何か考える。
課題あり。
第 3 回　日本における労働と法律の関連性1
日本で働くにあたり、労働と法律の関連性について学習する。
第 4 回　日本における労働と法律の関連性2
第3回で学習した内容を復習し、ケースメソッドを用いてのグループワーク。
第 5 回　雇用形態の多様化とキャリア開発の課題1
昨今の多様化する雇用形態について学習する。
第 6 回　雇用形態の多様化とキャリア開発の課題2
第5回で学習した内容を復習し、ケースメソッドを用いてのグループワーク。
第 7 回　非正規就業とキャリア1
非正規就業と正規就業の違いや多様な就業形態を学習する。
第 8 回　非正規就業とキャリア2
第7回で学習した内容を復習し、ケースメソッドを用いてのグループワーク。
第 9 回　女性の社会進出と再就職1
女性の社会進出についての現状と社会的背景について学習する。
第 10 回　女性の社会進出と再就職2
第9回で学習した内容を復習し、ケースメソッドを用いてのグループワーク。
第 11 回　児童虐待1
児童虐待の要因、親のストレス（兄弟を持つ親・一人っ子の親）、悲惨な事例を取り上げ、何が児童虐待につながるのか、その対策にはどのようなことが必要なのかを考える。
第 12 回　児童虐待2
第11回で学習した内容を復習し、ケースメソッドを用いてのグループワーク。
第 13 回　働く女性と社会的背景1
現代の働く女性の子育て及び労働環境の問題点と労働基準法及び育児休業法を考え、現行の制度の仕組みやそれがどのように機能しているのかを学び、今後の方向性について学習する。
第 14 回　働く女性と社会的背景2
第13回で学習した内容を復習し、ケースメソッドを用いてのグループワーク。
第 15 回　全体のまとめ
15回の講義の振り返り。
定期試験の説明。
〔成績評価〕
レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

演習Ⅱ【自動車技術】

8419
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
大西　　昌哲　成瀬　　優享

〔到達目標〕
関連して実施した研究や実験内容を取りまとめることが出来る。
取りまとめた内容を分かりやすく発表することができる。
〔授業の概要〕
教材としての車両制作PBL活動を通じ、学びを形にして出力していく。車両コンセプトの確立や技術的・予算的課題を担当ごとに洗い出す過程で、課題解決手法を身に着ける。
後期は主に卒業論文の取りまとめを実施する。
※原則的に対面授業とするが、感染症・その他事情によりオンデマンド授業を併用する場合があるので、通信環境を整えておくこと

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
班ごとに取り決めた役割分担に基づき、次回ゼミ活動までに調査や作業を実施すること。また、それぞれの活動に関して、振り返りと取りまとめを行うこと。
発表に用いるパワーポイントやエクセル・ワード等の使用方法に関して、自学自習を行うこと。
〔授業計画〕
第 1 回　改良計画実施
第 2 回　改良計画実施
第 3 回　改良計画実施
第 4 回　性能評価試験
第 5 回　性能評価試験
第 6 回　担当別取りまとめ
第 7 回　担当別発表
第 8 回　統括・論文執筆分野取り決め
第 9 回　卒業論文執筆
第 10 回　卒業論文執筆
第 11 回　卒業論文執筆
第 12 回　卒業文執筆中間発表
第 13 回　卒業論文執筆・修正
第 14 回　卒業論文執筆・修正
第 15 回　卒業論文執筆最終確認（プレゼンテーション）
〔成績評価〕
最終のプレゼンテーション80%
態度行動取り組み評価20%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
適宜紹介する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
火曜日2限目（12時10分～13時40分）
※授業準備等により不在となる可能性があるため、事前に連絡すること

演習Ⅰ【自動車工学】

8318
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
大西　昌哲　成瀬　優享

〔到達目標〕
計画に基づき車両制作に着手し参加することが出来る
必要な部品を製造することができる
自力でできない作業を外部に協力依頼をして達成することが出来る
製作車両・物品の組み立てや整備が出来る
〔授業の概要〕
教材としての車両や物品を制作するPBL活動を通じ、学びを形にして出力
していく。車両コンセプトの確立や技術的・予算的課題を担当ごとに洗い出す過程で、課題解決手法を身に着ける。
※原則的に対面授業とするが、感染症・その他事情によりオンデマンド授業を併用する場合があるので、通信環境を整えておくこと
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
班ごとに取り決めた役割分担に基づき、次回ゼミ活動までに調査や作業を実施すること。また、それぞれの活動に関して、振り返りと取りまとめを行うこと。
〔授業計画〕
第 1 回　進行予定表の作成
第 2 回　研究項目・作業分担確認
第 3 回　車両・物品制作作業（1）
第 4 回　車両・物品制作作業（2）
第 5 回　車両・物品制作作業（3）
第 6 回　車両・物品制作作業（4）
第 7 回　製作活動中間確認（1）
第 8 回　車両・物品制作作業（5）
第 9 回　車両・物品制作作業（6）
第 10 回　車両・物品制作作業（7）
第 11 回　車両・物品制作作業（8）
第 12 回　製作活動中間確認（2）
第 13 回　課題取りまとめ・修正計画
第 14 回　修正計画発表
第 15 回　後期まとめ
〔成績評価〕
課題制作・取り組み評価100%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
火曜日2限目（12時10分～13時40分）
※授業準備等により不在となる可能性があるため、事前に連絡すること

自動車整備技術1-Ⅱ

6511
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
大西　　昌哲

〔到達目標〕
シャシ整備に必要とされる3級の内容に関して基礎技術の説明を行えるようになる。
整備で必要とされる機器の使用方法について説明を行えるようになる。

〔授業の概要〕
国土交通省の定める養成課程学科項目のうち主に自動車整備について講義を行う。
配布する事前資料に基づいた学習を行い、その内容や疑問点についてディスカッションを実施する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備学習は前もって資料を配布するので、予習すること。
復習は、毎回復習小テストを配布するので、実施・提出のこと。

〔授業計画〕
第 1 回　自動車シャシ
総論
第 2 回　動力伝達装置
構造･機能
第 3 回　動力伝達装置
整備法：クラッチ、トランスミッション
第 4 回　アクスルおよびサスペンション
構造･機能
第 5 回　アクスルおよびサスペンション
整備法：アクスルおよびサスペンション（スプリング、ショック・アブソーバ)
第 6 回　ステアリング装置
構造･機能：操作機構、ギヤ機構
第 7 回　ステアリング装置
整備法
第 8 回　ホイールおよびタイヤ
構造･機能
第 9 回　ホイールおよびタイヤ
整備法：ホイールバランス他
第 10 回　ホイール・アライメント
構造･機能
第 11 回　ホイール・アライメント
整備法：ホイール・アライメントの測定と調整
第 12 回　ブレーキ装置
構造･機能
第 13 回　ブレーキ装置
整備法：ブレーキ分解法方、倍力装置
第 14 回　フレームおよびボデー
構造･機能
第 15 回　フレームおよびボデー
整備法

〔成績評価〕
試験80％小テスト10％取り組み10％

〔教科書〕
国土交通省自動車局監修　自動車整備士養成課程　教科書
・基礎自動車工学
・三級自動車ガソリン
・三級自動車シャシ

〔参考文献〕
適宜紹介

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
【実務経験の活用】
ディーラー・専門学校などの勤務経験より、自動車工学、エンジン、シャシ、自動車整備士、法令、自動車整備士養成課程教育及び国家試験対応を解りやすい指導を目指します。

〔オフィスアワー〕
火曜日2限目（12時10分～13時40分）
※授業準備等により不在となる可能性があるため、事前に連絡すること。

自動車工学2-Ⅱ

3510
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
実務経験有
大西　　昌哲

〔到達目標〕
２級自動車整備士として必須の自動車の構造、性能、力学などを習得する。

〔授業の概要〕
国土交通省の定める養成課程学科項目のうち主に自動車工学、自動車整備について講義を行う。
配布する事前資料に基づいた学習を行い、その内容や疑問点についてディスカッションを実施する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備学習は前もって資料を配布するので、予習すること。
復習は、毎回復習小テストを配布するので、実施・提出のこと。

〔授業計画〕
第 1 回　導入
講義概要、進め方などの説明
第 2 回　自動車に関わる基礎的な原理と法則
自動車に関わる基礎的な力学原理と法則、SI単位系
第 3 回　タイヤ分担荷重の算定（Ⅰ）
車両重量と車両総重量、てこの原理と各輪の分担荷重
第 4 回　タイヤ分担荷重の算定（Ⅱ）

具体的問題での理解
第 5 回　自動車に係わる圧力問題
パスカルの原理と圧力、油圧ブレーキ
第 6 回　歯車に係わる問題
歯車の基本、ミッションと減速比
第 7 回　エンジン性能と走行性能
エンジン性能曲線の見方、走行性能（エンジン回転速度と車速）
第 8 回　トルクコンバータ
原理、仕組み、性能曲線
第 9 回　走行性能Ⅱ
車速、加速度および燃料消費率、登坂性能と出力
第 10 回　駆動力クと駆動トルク
軸トルクと駆動トルクおよび駆動トルクと駆動力の関係
第 11 回　エンジンの基本諸元
排気量と圧縮比とピストンの平均速度
第 12 回　4サイクルエンジンの燃焼行程（Ⅰ）
燃焼行程、バルブタイミング
第 13 回　4サイクルエンジンの燃焼行程（Ⅱ）
カムリフトとバルブクリアランス、バルブクリアランスの調整
第 14 回　電気の基礎
オームの法則と合成抵抗
第 15 回　電気回路
自動車の電装系と電力、電圧降下の算定

〔成績評価〕
試験80%
小テスト10%
取り組み10%

〔教科書〕
国土交通省自動車局監修　自動車整備士養成課程　教科書
・基礎自動車工学
・三級、二級自動車ガソリン
・三級、二級自動車シャシ

〔参考文献〕
適宜紹介

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
【実務経験の活用】
ディーラー・専門学校などの勤務経験より、自動車工学、エンジン、シャシ、自動車整備士、法令、自動車整備士養成課程教育及び国家試験対応を解りやすい指導を目指します。

〔オフィスアワー〕
火曜日2限目（12時10分～13時40分）
※授業準備等により不在となる可能性があるため、事前に連絡すること。

エネルギー変換工学1-Ⅱ

2321
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
大西　　昌哲

〔到達目標〕
前期に引き続き、エンジン電子制御装置の構造・機能を主に修得することを目標とする。

〔授業の概要〕
国土交通省の定める養成課程学科項目のうち、自動車工学、自動車整備について講義を行う。
配布する事前資料に基づいた学習を行い、その内容や疑問点についてディスカッションを実施する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備学習は前もって資料を配布するので、予習すること。
復習は、毎回復習小テストを配布するので、実施・提出のこと。

〔授業計画〕
第 1 回　導入、電子制御装置
概要
第 2 回　電子制御装置
構造･機能
第 3 回　吸気系統
概要：吸入空気量検出装置
第 4 回　吸気系統
構造・機能：アイドル回転速度制御装置
第 5 回　燃料系統
概要
第 6 回　燃料系統
構造･機能：インジェクタ、プレッシシャレギュレータ
第 7 回　燃料系統
整備法：インジェクタ、プレッシシャレギュレータ他
第 8 回　吸排気装置
概要
第 9 回　吸排気装置
構造･機能：吸入空気量検出装置、ＩＳＣＶ
第 10 回　吸排気装置
整備法：吸入空気量検出装置、ＩＳＣＶ
第 11 回　点火系統
概要
第 12 回　点火系統
構造・機能・整備：各センサ、コントロール･ユニット
第 13 回　点火系統
概要：クランク角度基準位置の検出
第 14 回　制御系等
構造･機能：センサおよびコントロールユニット
第 15 回　制御系等
燃料噴射制御と点火時期制御

〔成績評価〕
試験80%
小テスト10%
取り組み10%
〔教科書〕
国土交通省自動車局監修　自動車整備士養成課程　教科書
・基礎自動車整備作業
・基礎自動車工学
・三級自動車ガソリン・エンジン
・三級自動車シャシ
〔参考文献〕
適宜紹介
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他
〔備考〕
【実務経験の活用】
ディーラー・専門学校などの勤務経験より、自動車工学、エンジン、シャシ、自動車整備士、法令、自動車整備士養成課程教育及び国家試験対応を解りやすい指導を目指します。
〔オフィスアワー〕
火曜日2限目（12時10分～13時40分）
※授業準備等により不在となる可能性があるため、事前に連絡すること。

自動車整備技術2-Ⅱ

6513
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
大西　　昌哲

〔到達目標〕
電子制御オートマチックトランスミッション、アンチロックブレーキシステム、SRSエアバッグ、トラクションコントロール、電動パワーステアリング、４輪駆動の電子制御、４ホイルステアリング装置など、車両走行時の走行を安定させる総合制御についての理解を深め、今後の自動車のシャシ関係の最先端技術を理解し、説明を行えるようになる。
〔授業の概要〕
国土交通省の定める養成課程学科項目のうち主に自動車整備について講義を行う。
配布する事前資料に基づいた学習を行い、その内容や疑問点についてディスカッションを実施する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備学習は前もって資料を配布するので、予習すること。
復習は、毎回復習小テストを配布するので、実施・提出のこと。
〔授業計画〕
第 1 回　オートマチックミッション　Ⅰ
油圧制御部
第 2 回　オートマチックミッション　Ⅱ
電気信号で作動するオートマチックミッションの各部位の構造作動
第 3 回　オートマチックミッション　Ⅲ
オートマチックミッションの電子制御（変速・ロックアップ・電子制御油圧）
第 4 回　安全装置　総論
アクティブセーフティとパッシブセーフティの比較、ボデイ安全装置他
第 5 回　アンチロックブレーキ　Ⅰ
油圧発生原理とABS基本原理、ABSの種類とメーカー毎の違い
第 6 回　アンチロックブレーキ　Ⅱ
電子制御ABSの作動と実作業上での注意事項（エア抜き等）
第 7 回　トランクションコントロールシステム
トラクションコントロールシステムの作動とABSとの関係
第 8 回　電子制御パワーステアリング装置
油圧制御と電子制御の違い　電子制御方式の構造作動
第 9 回　ビークルスタビリティコントロール
スタビリティコントロールの基本的な考え方と車両総合安定制御
第 10 回　SRSエアバッグシステム
エアバッグシステムの作動と取り扱いの注意事項、廃棄方法まで
第 11 回　エアコン　Ⅰ
空調システムの概略と冷媒の環境汚染　マニュアルエアコンについて
第 12 回　エアコン　Ⅱ
オートエアコンの構造作動　各種センサーと作動部品の確認
第 13 回　産業廃棄物とリサイクル法
産業廃棄物と自動車リサイクル法、フロン回収法、４Rについて
第 14 回　自動車の排気有害ガス
地球環境に影響を及ぼす自動車のかかわり
第 15 回　これからの自動車産業と自動車経済
自動車に関する経済、工場の売上と粗利、必要経費
〔成績評価〕
試験80%小テスト10%取り組み10%
〔教科書〕
国土交通省自動車局監修　自動車整備士養成課程　教科書
・基礎自動車工学
・三級、二級自動車ガソリン
・三級、二級自動車シャシ
〔参考文献〕
適宜紹介
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
【実務経験の活用】
ディーラー・専門学校などの勤務経験より、自動車工学、エンジン、シャシ、自動車整備士、法令、自動車整備士養成課程教育及び国家試験対応を解りやすい指導を目指します。
〔オフィスアワー〕
火曜日2限目（12時10分～13時40分）
※授業準備等により不在となる可能性があるため、事前に連絡すること。

エネルギー変換工学2-Ⅱ

2326
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
大西　　昌哲

〔到達目標〕
電気、水素など新エネルギーの紹介と実際について説明その概要を理解する。エネルギー変換工学Ⅰに引き続き、ガソリン・エンジンの理解を深めさせ、さらには今後の発展が予想される電気自動車（EV）、ハイブリッド車（HV）、燃料電池車（FCV)などの新エネルギー・環境対応自動車などの構造・性能の概略を理解させる。
〔授業の概要〕
国土交通省の定める養成課程学科項目のうち、自動車工学、自動車整備について講義を行う。
配布する事前資料に基づいた学習を行い、その内容や疑問点についてディスカッションを実施する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備学習は前もって資料を配布するので、予習すること。復習は、毎回復習小テストを配布するので、実施・提出のこと。
〔授業計画〕
第 1 回　導入
講義概要、進め方などの説明
第 2 回　前期のまとめ、復習Ⅰ
ガソリン・エンジンのサイクル作動、性能、燃焼過程、排出ガスなど
第 3 回　前期のまとめ、復習Ⅱ
排気量、圧縮比、バルブタイミングなど
第 4 回　環境問題とエネルギー問題
温暖化効果ガス、各エネルギー源の見直しなど
第 5 回　環境対応自動車の概要
地球温暖化防止対応、燃料問題対応など
第 6 回　代替燃料エンジンⅠ
概要、天然ガスエンジン(CNG、LNG)など
第 7 回　代替燃料エンジンⅡ
メタノール・エタノールエンジン、バイオマス、フェーエル、LPG、水素エンジンなど
第 8 回　電気自動車Ⅰ
電気自動車(EV)の概要
第 9 回　電気自動車Ⅱ
EV用電池、モーターなど
第 10 回　ハイブリッド自動車Ⅰ
ハイブリッド自動車(HV)の概要、種類と特徴など
第 11 回　ハイブリッド自動車Ⅱ
HVの構造、性能、今後の動向など
第 12 回　燃料電池車Ⅰ
燃料電池車(FCV)の概要、燃料電池の仕組みなど
第 13 回　燃料電池車Ⅱ
FCVの構造、実証試験、今後の動向など
第 14 回　後期まとめ
重要事項の総復習
第 15 回　全体まとめ
〔成績評価〕
試験80%
小テスト10%
取り組み10%
〔教科書〕
国土交通省自動車局監修　自動車整備士養成課程　教科書
・計算問題を解くノウハウ
・基礎自動車工学
・三級・二級自動車ガソリン・エンジン
・三級・二級自動車シャシ
〔参考文献〕
適宜紹介
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他
〔備考〕
【実務経験の活用】
ディーラー・専門学校などの勤務経験より、自動車工学、エンジン、シャシ、自動車整備士、法令、自動車整備士養成課程教育及び国家試験対応を解りやすい指導を目指します。
〔オフィスアワー〕
火曜日2限目（12時10分～13時40分）
※授業準備等により不在となる可能性があるため、事前に連絡すること。

教育実習事後指導【技術】

1003
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　後期
実務経験有
藤本　　光司

〔到達目標〕
教育実習を終えた後、その反省や成果に基づき、教職に従事するために必要な資質を再考する。特に、実体験から学んだことについては、研究授業で撮影したVTRを視聴しながら、自分の指導力や教材作成のあり方について振り返えりを大切にしつつ、さらなる指導力を身につける。また、

学級指導や学校行事の体験より、生徒指導や学校の諸問題についての理解を深める。

〔授業の概要〕

教育実習の経験より、教員としての意義、使命感、責任感について振り返る。撮影したVTRを活用して授業分析を行い、さらなる授業力を身につけるために学生同士の相互評価を実施する。また、今後の課題を明確にして残りの学生生活への目標を定める。アクティブラーニングとして、学習者同士の話し合いの活動や意見をまとめ発表する場面を設定している。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・授業前にテーマに関連する文献を読み解く（120 分）

・テーマに関する興味を深めて論述（レポート作成）を行う（120 分）

〔授業計画〕

第 1 回　教育実習を終えて、各種書類の作成と内容確認
実習手帳の他、関連する提出書類の整理と確認。

第 2 回　各自の教育実習体験について
教育実習を終えた後の感想を学生同士で発表し合い各事例を研究する。

第 3 回　研究授業の振り返りとマイクロティーチング（１）
最終授業で行った、指導案を全員に配布して、その模擬授業を２０分程度行う。３~４人程度。その後、質疑応答を交えて指導方法を討論する。また、研究授業の記録として録画したVTRを視聴し、授業のあり方について研究する。

第 4 回　研究授業の振り返りとマイクロティーチング（２）
最終授業で行った、指導案を全員に配布して、その模擬授業を２０分程度行う。３~４人程度。その後、質疑応答を交えて指導方法を討論する。また、研究授業の記録として録画したVTRを視聴し、授業のあり方について研究する。

第 5 回　研究授業の振り返りとマイクロティーチング（３）
最終授業で行った、指導案を全員に配布して、その模擬授業を２０分程度行う。３~４人程度。その後、質疑応答を交えて指導方法を討論する。また、研究授業の記録として録画したVTRを視聴し、授業のあり方について研究する。

第 6 回　研究授業の振り返りとマイクロティーチング（４）
最終授業で行った、指導案を全員に配布して、その模擬授業を２０分程度行う。３~４人程度。その後、質疑応答を交えて指導方法を討論する。また、研究授業の記録として録画したVTRを視聴し、授業のあり方について研究する。

第 7 回　研究授業の振り返りとマイクロティーチング（５）
最終授業で行った、指導案を全員に配布して、その模擬授業を２０分程度行う。３~４人程度。その後、質疑応答を交えて指導方法を討論する。また、研究授業の記録として録画したVTRを視聴し、授業のあり方について研究する。

第 8 回　お礼状の記入と送付について
教育実習校へのお礼状を作成する（校長，教科担当，学級担当など）

〔成績評価〕

実習記録簿、指導案の作成力（30%）、授業を録画したVTRによる振り返り（20%）、実習校の担当教員の評価（20%）、実習後のレポート（30%）などに基づき総括的に評価する。

〔教科書〕

・林徳治、藤本光司ほか、『アクティブラーニングに導く教学改善のすすめ』、ぎょうせい（2020）

・中学校学習指導要領解説「技術・家庭科」開設　平成29年7月　文部科学省

・技術・家庭科教科書（東京書籍、開隆堂）

・安東茂樹、藤本光司、他「技術科教材論」、竹谷書房、(2021)

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ

〔備考〕

教育実践に関する科目、教育実習、中一種（技術）、必修

【実務経験の活用】

学級・教科指導の経験を踏まえて教育実習に関する実践的な指導をする

〔オフィスアワー〕

水曜日1,2限

金曜日4限

教育実習【技術】

1011
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
実務経験有
藤本　　光司

〔到達目標〕

学習指導案の作成、授業研究、教材作成のコツ、模擬授業の実施など多面的に教員としての資質向上をめざす。また、学校業務に関わる対応や生徒指導上の留意点などについて、昨今の教育現場の状況を踏まえ、場面指導を実施する。さらに、教育実習前の不安や心構えについて、個々に話し合い、自信を持って教育実習に臨めるように準備を整える。

〔授業の概要〕

学習者同士の話し合いの活動、意見をまとめ発表するなど、共に学ぶ仲間と協働し学習する。中学校「技術科」の教職課程を履修する学生を対象にする。教育実習の意義を理解するとともに、教員としての使命感と責任感を身につける。模擬授業などの実践を通して、生徒の主体性を引き出す授業力を培う。また、教員としての夢や希望を学生相互の交流を図りながら、教育実習に対するモチベーションを上げる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・教育実習に向けての指導案作成、教育実習記録簿の準備。

・授業時間内に、学習指導案を作成することができません。

・指導案などの作成は、ほとんどが授業外で作成することになる。ゼミなどの担当教員に提出し確認を受ける事。

・授業前にテーマに関連する文献を読み解く（120 分）
・テーマに関する興味を深めて論述（レポート作成）を行う（120 分）

〔授業計画〕

第 1 回　教育実習の意義と実習上の心構え
中学校「技術科」の教育実習の意義と実習上の心構えについて。

第 2 回　技術科教育の内容と教材研究
技術科教育の内容と教材の重要性および教材研究の方法について、具体的な事例を示して講義する。

第 3 回　確かな学力とものづくり
主体的な学習、学習内容の教材化、学校教育における技術科の役割

第 4 回　指導と評価の一体化
絶対評価、相対評価、パフォーマンス評価などの教育評価について

第 5 回　学習指導案の作成
指導案の作成、フローチャートの書き方、相互評価

第 6 回　中学校の諸問題
いじめ問題、体罰、事故、セクハラ、同和同推問題、人権教育

第 7 回　現職教員による指導（ゲスト講師）No1
講話聴講 : 現職教員を招聘して昨今の諸問題を聴講する

第 8 回　現職教員による指導（ゲスト講師）No2
講話聴講 : 現職教員を招聘して昨今の諸問題を聴講する

第 9 回　現職教員による指導（ゲスト講師）No3
講話聴講 : 現職教員を招聘して昨今の諸問題を聴講する

第 10 回　模擬授業Ⅰ：設計製図
模擬授業 : マイクロティーチングと相互評価、グループ討論：特別に支援の必要な生徒への対応

第 11 回　模擬授業Ⅱ：材料加工
模擬授業 : マイクロティーチングと相互評価、グループ討論：生徒指導（組織的対応、管理職・教育委員会との連携）

第 12 回　模擬授業Ⅲ：エネルギー変換
模擬授業：マイクロティーチングと相互評価

第 13 回　教育実習における事務処理(1)
授業研究の意義と授業参観記録の取り方

第 14 回　教育実習に於ける心構え
学級経営における生徒とへの対応と課題

第 15 回　定期考査への対応
専門教科の担当としての考査（試験）の作成注意点
実際に、チームに分かれて問題を作成する。

〔成績評価〕

授業への参画態度を中心に，指導案、授業研究、ディスカッション内容、課題レポートなどを総括的に評価する。なお，本授業を通して教育実習に対する資質が低い学生は，教育実習への参加が不可となる場合もある。

〔教科書〕

・林徳治、藤本光司ほか、『教学改善のすすめ』、ぎょうせい(201６)
・中学校学習指導要領解説（技術・家庭：技術分野）、文部科学省：平成29年7月
・技術・家庭科教科書（東京書籍、開隆堂）
・中学校技術家庭科ハンドブック

〔参考文献〕

技術科教育に関して、各自の興味がある分野、得意分野をＣｉＮｉｉの論文により、先行研究資料を検索します。その他、必要に応じて適宜配布します。

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ

〔備考〕

教育実践に関する科目、教育実習、中一種（技術）、必修

【実務経験の活用】

学級・教科指導の経験を踏まえて教育実習に関する実践的な指導をする

〔オフィスアワー〕

水曜日1,2限
金曜日4限

演習Ⅱ【教育方法・経営コミュニケーション論】

8446
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
4単位　後期
藤本　　光司

〔到達目標〕

・卒業論文を完成する。
・外部団体（学会や研究会）の場で研究成果を発表する。
・卒業論文プレゼンテーション大会に発表して学修成果を報告する。

〔授業の概要〕

・今日的な教育上の課題と関連させながら教育方法の理論と実践を学ぶ。
・教師に必要とされる、真の授業実践力を身につける。
・共に学ぶ仲間と協働して、学外におけるフィールドワークに取り組む。
・研究テーマに対する議論を深め、説得力のある発表ができるようになる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

常に興味・関心がわいたら、その書籍や論文検索して文献を保管しておくこと。
・授業前にテーマに関連する文献を読み解く（120 分）
・テーマに関する興味を深めて論述（レポート作成）を行う（120 分）

〔授業計画〕

第 1 回　夏季休業期間における諸活動の報告
卒論テーマに対する研究の経過報告を行う。
学校インターシップ、企業のインターシップ、ボランティアなどの報告を行う。

第 2 回　4年生前期の研究成果の報告
前期にテーマ設定した研究内容について、進捗状況を報告する。
第 3 回　卒論の執筆（6）
議論・推敲を重ね、論文の執筆を進める。
第 4 回　卒論の執筆（7）
議論・推敲を重ね、論文の執筆を進める。
第 5 回　卒論の執筆（8）
議論・推敲を重ね、論文の執筆を進める。
第 6 回　卒論の執筆（9）
議論・推敲を重ね、論文の執筆を進める。
第 7 回　卒論の執筆（10）
議論・推敲を重ね、論文の執筆を進める。
第 8 回　学会発表の準備（1）
卒論の主軸となる内容から、学会発表のテーマやキーワードを決める。
第 9 回　学会発表の準備（2）
学会発表に向けての原稿を執筆する。
第 10 回　学会発表の準備（3）
学会発表に向けての原稿を執筆する。
第 11 回　学会発表の準備（4）
学会発表に向けてのプレゼンテーション資料を作成する。
パワーポイント、ＰＤＦ資料など
第 12 回　学会発表の準備（5）
学会発表に向けてのプレゼンテーション資料を作成する。
パワーポイント、ＰＤＦ資料など
第 13 回　卒業論文の最終点検（1）
共に学ぶ仲間（下級生も含めて）と協働して、卒業論文の最終チェックを行う。
第 14 回　卒業論文の最終点検（2）
共に学ぶ仲間（下級生も含めて）と協働して、卒業論文の最終チェックを行う。
第 15 回　ゼミナールのまとめ
2年間の研究を振り返り、今後の社会活動（就職・教職など）にどう生かしていくのか討議・発表する。

〔成績評価〕
授業に対する取り組み姿勢（40%）
課題制作（30%）
課題発表（30%）

〔教科書〕
「中学校学習指導要領解説　技術・家庭科」（平成29年7月告示、文部科学省）
「主体的に学び意欲を育てる教学改善のすすめ」（ぎょうせい）
「中学校技術・家庭科」（開隆堂、東京書籍など）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
水曜日1,2限
金曜日4限

演習Ⅱ【公演事業研究】

8454
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
藤本　光司　井村　薫子

〔到達目標〕
卒業公演演習（卒業公演）の実施。卒業論文を作成する。

〔授業の概要〕
卒業公演演習（卒業公演）のリハーサル実施。卒業公演演習の準備。舞台スタッフとの打ち合わせ。卒業公演演習（卒業公演）の反省と報告。資料をもとに論文の構成を考え、結論にまとめていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
USB/自由帳にメモしたことを整理しPCに下書きする。(１時間）卒業公演演習資料の作成。(１時間）先行研究や参考文献を読み引用個所を書き出す。（１時間）論文作成。（１時間）

〔授業計画〕
第 1 回　卒業公演演習の準備　１２
卒業公演演習（卒業公演）の準備。リハーサルスケジュールの作成。衣装・小道具の手配作業。プログラムの手配作業。
第 2 回　卒業公演演習の準備　１３
卒業公演演習（卒業公演）の準備。衣装・小道具の手配作業。プログラムの手配作業。
第 3 回　卒業公演演習の準備　１４
卒業公演演習（卒業公演）の準備。衣装・小道具の手配作業。プログラムの手配作業。
第 4 回　卒業公演演習の準備　１５
卒業公演演習（卒業公演）の準備。衣装・小道具の手配作業。スタッフ下見の準備。
第 5 回　卒業公演演習の準備　１６
卒業公演演習（卒業公演）の準備。スタッフ下見の準備。当日スケジュールの作成。
第 6 回　報告会
卒業公演演習（卒業公演）の準備報告。資料提出と反省。これまでの論文の下書きや準備のチェック。
第 7 回　卒業公演演習の準備　１７
芦屋市民センターへ本番打ち合わせ会議。当日スケジュールの提出。
第 8 回　卒業公演演習の準備　１８
卒業公演演習（卒業公演）の準備。舞台スタッフ下見の準備。キューシート及び衣装リストの作成。
第 9 回　卒業公演演習の準備　１９
舞台スタッフ下見。キューシート及び衣装リストの提出。

第 10 回　卒業公演演習の準備　２０
卒業公演演習（卒業公演）の準備。楽屋割表、当日手伝いのタイムライン作成。
第 11 回　卒業公演演習の準備　２１
これまでの準備報告と当日までの流れの確認。
第 12 回　反省会と資料まとめ
卒業公演演習の反省会。資料まとめと論文の組み立てを考える。
第 13 回　下書き　1
各部分の下書きと集めた資料をまとめる。配分を考え、結論に導く。写真データなどの処理法を学ぶ。
第 14 回　下書き　2
冬休み期間中に作成した下書きのチェックと直し。
第 15 回　提出のための準備
最終チェックと手直し。提出の装丁の確認。

〔成績評価〕
論文査定100%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
⑴前期・後期
⑵月曜日：13:00～16:00、金曜日：13:00～16:00
⑶芸術文化センターにて
⑷連絡先：k-imura@ashiya-u.ac.jp
⑸来室の際は、事前にメールにてご連絡をお願いします。

教育方法学

2402
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
藤本　　光司

〔到達目標〕
・本科目は、前期の「教育の方法と技術【中等教育】」の発展的な内容であり、グループワークを柱に学生が主体的に課題解決に臨む学びである。（意欲・態度）
・毎時の小レポートを論理的に記述し的確な文章表現で伝えることができる。（技能）
・効果的なプレゼンテーション力を育成に向け、発表の場を設けて相互評価を行う。（表現）
・ICT機器を有効かつ適切に教育活用できる。（技能）
・教育現場における指導方法・技術の理論を知り、授業の実践力を育成する。（知識・理解）

〔授業の概要〕
教育現場においては、学習者同士あるいは学習者と教師のコミュニケーションが大切である。本授業では、教育方法として他者との相互理解を深めるための理論と実践を学ぶ。特に演習は、グループを形成し、PDCAサイクルで評価と課題を随時行う。学生諸君は、主体的かつ体験的な演習を通して教育の方法論を学んでいく。また、プレゼンテーションソフト（パワーポイントなど）を実践的に活用する能力育成を目指す。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・15回中10回は、グループ演習などのアクティブラーニングによる内容の小レポート記述を課す。この小レポートは、形成的に評価する上で中間成績評価も各自に返却し自分を見つめ直す機会を設ける。テキストや資料を事前に熟読しておくことは基本的事項であるが、さらに、主体的に調査した内容を発表することもある。
・授業前にテーマに関連する文献を読み解く（120 分）
・テーマに関する興味を深めて論述（レポート作成）を行う（120 分）

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
能動的学習としての学びの概要、この授業の成績評価について
GPA，到達目標，学習ピラミッド，採用試験情報，自己紹介レポート
第 2 回　相手や自分の情報を整理する力
MECEの理論，MECEのフレームワーク
・強制連結法とは？
演習：「ロケット」←→「じゃがいも」で強制連結法を実践

第 3 回　学びの目標を設定する方法
自己効力感，メラビアンの法則(Mehrabian,1971)、結果予期と効力予期の関係
自尊感情の低下を防ぐ３つの視点
荻生祖徠の「聞く」と「聴く」、演習

第 4 回　学習者の意欲的側面を高める方法
自尊感情と自己肯定感
バンデューラ（Bandura）とシュンク（Schunk）
2020年、“消える仕事、無くなる職業”
自尊感情の「高い子供・低い子供」の教員のイメージ調査
自己肯定感を高める教育支援「アドラーの名言集より」
第 5 回　命の教育
見えないところでドラマが始まる。受精から着床へ
胎児の発育、妊娠期間、
DVD:「弟たちの誕生」（文部科学省　選定）の視聴
参考文献『SEX & our BODY10代の性とからだの常識』，集英社文庫、河野 美代子
第 6 回　論理的に議論し相手を説得する方法

既有知識・関心事・考え方の視覚化、イメージマッピング、学習者のスキーマー
演習：「強制連結法」を応用して、教育問題を論理的に展開できる。
第 7 回　学び続けることの大切さ
学校教育の未来と展望　20XX年の社会は？
コンピュータに代替されない力とは？
今後、労働市場で生き残っていくために求められる能力とは？
VTR：スーパープレゼンテーション「イーロン・マスクが語る驚きの未来」前編
第 8 回　近未来を見据えたキャリアとは？
適職診断（キャリアインデックス）の自己分析
「キャリア」の語源と共通認識
学校におけるキャリア教育
若い世代に夢を与える企業
VTR：スーパープレゼンテーション「イーロン・マスクが語る驚きの未来」後編
第 9 回　問題解決の方法：ロジックツリー（基礎編）
問題分析と目的分析
ロジックツリーを用いた論理的な分析方法の基礎理論
演習：大学1年生の鈴木君の場合を事例として
第 10 回　問題解決の方法：ロジックツリー（応用編）
応用ロジック・ツリーで問題分析
身近な問題分析から目的分析へ
社会的課題13ジャンル
演習：グループワークによる問題分析
第 11 回　問題解決の方法：ロジックツリー（発展編）
「問題の分析」と「課題の設定」　事例１：学内行事
「問題の分析」と「課題の設定」　事例２：学内環境
演習：ＡＩＤＭＡの法則を活用した、マイクロプレゼンテーション
第 12 回　議論に負けない力：ディベート（基礎編）
ディベートの基礎理論
価値理論、推定理論、政策理論とは？
演習：グループでやってみよう。
Ａ：日本のアニメといえば，ドラえもん・サザエさんどっち？
Ｂ：人は，見かけ・ココロ どちらで判断するべきなのか？
Ｄ：昔の恋人の写真，捨てる・捨てない？
Ｅ：日本の国民食といえば、ラーメン・カレーライス？
Ｆ：ペットにするなら，猫・犬か？
Ｄ：朝食は，ご飯・パンか？
第 13 回　議論に負けない力：ディベート（応用編）
VTR：カンブリア宮殿「最新の学校教育の事例」
ディベートによる演習
①定期テスト派　VS　単元テスト派
②宿題をしっかり出す派　VS　各自の課題を自主的に設定する派
③学級担任を設定する派　VS　学級担任を設定しない派
（担任と副担任）　（学年教員全員で全生徒）
第 14 回　ゲストティーチャー：教育現場の諸事情
本学出身の若手教員による講演。
学生との対話、Q&A
第 15 回　教育の国際化、まとめ
JICA関西より講師を招き、教育分野での国際貢献の事例を紹介
SDGS、途上国への日本の国際貢献

〔成績評価〕
・毎時の課題レポート「A4版1枚」（50%）
・マイクロ・プレゼンテーションへの取り組み（10%）
・教育方法の知識に関する筆記試験（30%）
・最終レポート（10%）
上記を総括的に評価する

〔教科書〕
林徳治、藤本光司ほか、『教学改善のすすめ』、ぎょうせい（2020）　※前期の「教育の方法と技術（中等教育）で使用している書籍と同じ。試験への持ち込みは、本テキストのみを可とする。

〔参考文献〕
・小野賢太郎、他、『教師を目指す人のための、教育方法・技術論』、学芸図書出版（2012）
・佐藤学、『教育方法学』、岩波書店（2003）
・「授業中に適宜資料を配布する」など

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
【実務経験の活用】
現職時代の授業実践の経験を活かし、教育方法論を展開する

〔オフィスアワー〕
水曜：1，2限
金曜：4限

キャリア基礎　経営②

8128
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
林　　泰子

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
2) 円満に意志疎通を図ることができる。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
4) 論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲を持つことができる。

〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、前期はクラスまた

は学科を軸に活動する。
・授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動（アクティブラーニング）である。
・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
・毎時記入する小レポートは担当教員が採点返却する。これはプレゼンテーション能力を育む。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、各自で身に着けておくことを推奨する。
・次週までの課題の提示があるので、事前に熟読しておくことを望む。(準備と事後で約２時間)

〔授業計画〕

第 1 回　リーダーシップ論について
リーダーシップに必要な概念についての理解を深めることができるようになる。

第 2 回　キャリア形成（SPI、就職、教職試験対策）
就職に必要なさまざまな情報活用、スキルアップについての各種情報を得ることにより、自身のスキルアップ向上に貢献できるようになる。

第 3 回　学園祭について
大学のイベント、学園祭についての各種情報について知り、有意義な参加で楽しい学生生活を過ごすことができるようになる。

第 4 回　社会保障制度について
社会人になって加入する各種諸制度についての知識や理解ができるようになる。

第 5 回　ほめ言葉
ほめ言葉演習を通じ、相手のことを考えてコミュニケーションスキルを向上させることができる。

第 6 回　オーディエンス
聞き手のスタンスで相手に対する理解度、親密度の違いが理解できるようになる。

第 7 回　図形カード
的確な指示をおこなうための説明手順、効率的な会話技術について理解を深めることができるようになる。

第 8 回　各コース別クラスによるメニュー（1）
各コースに必要なメニューの紹介をし、事前情報を得ることで理解を深めることができる。

第 9 回　各コース別クラスによるメニュー（2）
第8回の続き。

第 10 回　（全）キャリア形成について（1）…働く…
就職部主催：働くことの意味や意義を聴いて就職活動や将来目指す職業への具体的関心度をより深めることができる。

第 11 回　(全)キャリア形成について(2)…SPIなど…
就職部主催：就職試験の日程掌握、SPI対策、基礎学力向上の秘訣、就職に必要な具体的キャリア形成をステップアップするための手法を聴く。

第 12 回　裁判員制度について
DVD映像を見て、裁判員に選ばれた判例ケースを想定し、裁判員立場に立った思考を身に付けることができるようになる。

第 13 回　図書館の紹介
図書館の効率的な利用方法を知って勉学や就職に役立つ情報入手の理解を深めることができるようになる。

第 14 回　キャリア形成について…先輩からのメッセージ…
就職が内定した4年生のインタビューを見て、就職についての理解をより現実的に深めることができる。

第 15 回　クラス別　後期試験レポート作成準備
卒論発表会日程の場合は参加をする。進級情報の整理掌握をする。

〔成績評価〕

・レポート評価100％
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。

〔教科書〕

相互理解を深める　コミュニケーション実践学　沖裕貴・林徳治　ぎょうせい　ISBN9784324090053

〔参考文献〕

ガイダンスの資料、演習用シートなど必要に応じ随時配布する。

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

1. 学期　前期
2. 曜日・時間　：水曜日　10：00～11：30
3. 場所　：研究棟３F林研究室
4. 連絡先（メールアドレス）　y.hayashi@ashiya-u.ac.jp

メールには学籍番号と氏名を必ず明記してください。

5. その他　一部対面を除き、LMS科目です。

中等教科教育法Ⅱ（技術）

4324
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
安東　　茂樹

〔到達目標〕

中学校技術科教育の授業を実践するために，前期（中等教科教育法Ⅰ）で学んだ基礎・基本の知識・技能をベースに応用・発展的な指導力を習得する。技術科の教材化として，地域性や学校の独自性に対応できる教材作成ができる。実際の授業において，よりわかりやすい授業を遂行できる実践力を身に付ける。共に学ぶ仲間と協働し，技術科教育に関する理解を深める。毎時、体験的な授業で教師力を身に着けていきます。

〔授業の概要〕
これまでに学んできた技術科教育を総括的に整理しつつ，各学生の指導力の強みと弱みを知る。後期は，学外授業を2回設定している。他の授業との兼ね合いがある故，任意の参加とするが，できるだけ実践的な授業を見学してほしい。また，技術科教育を深く理解するために，仲間とチームを組んで教科書内容の比較研究を実施する。一方，先輩教員を招聘し教育現場の実情を深く理解する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・授業時間外の学習活動として，技術・家庭科研究大会に参加し最新の指導技術を学ぶ。
・指導案の作成，課題レポート，その他ICT機器の利用技術の実践力を培う。
・自前のノートパソコンを所持しておくこと。
・招聘講師への感想文など，授業時間内に完成しない場合はE-mailでの添付提出もある。
・日頃から技術の教科書内容を把握すること。
・授業前にテーマに関連する文献を読み解く（120 分）
・テーマに関する興味を深めて論述（レポート作成）を行う（120 分）
〔授業計画〕
第 1 回　教科の指導方法No1
主体的で対話的な深い学びを実施するための教科指導のポイント
第 2 回　教科の指導方法No2
さまざまな情報機器の活用
教材化とデジタルアーカイブ
第 3 回　学習指導要領を読み解くNo4
これまで学んできた生物育成の技術を概観し、教材観を議論する。
第 4 回　技術分野の指導法③
生物育成における教材化と指導方法をグループ討議する。
第 5 回　学習指導案の作成（3）
生物育成の分野における学習指導案を作成し発表する。
第 6 回　学習指導要領を読み解くNo5
情報の技術
小中校の連携とプログラミング学習
第 7 回　技術分野の指導法④
情報の技術における教材化と指導方法
第 8 回　学習指導案の作成（4）
情報の分野における学習指導案を作成する。
第 9 回　学外授業
附属中学校への学校訪問による授業見学および指導方法の研究
第 10 回　模擬授業③
グループ学習の形態での模擬授業，一人10分程度
第 11 回　模擬授業④
グループ学習の形態での模擬授業，一人10分程度
第 12 回　招聘講師による講話
本学卒業生の技術科教員を招聘した実践的な講話およびQ&A。
第 13 回　学校でのマネジメント
教材教具の整備と安全教育
第 14 回　指導と評価の一体化
観点別評価の方法，絶対評価と相対評価
定期試験、通知表の作成
第 15 回　まとめ
技術科教育の役割と現状の課題
〔成績評価〕
演習への取り組み（20%）、共に学ぶ仲間との協働態度（10%）課題レポートへの取組(20%)、模擬授業における授業実践力(20%)
技術科採用試験摸試、最終試験(30%)、上記の内容を総合的に評価する
〔教科書〕
・「技術科教材論」、2021、竹谷書房
・中学校技術・家庭科教科書（開隆堂，東京書籍）
・中学校技術・家庭科　学習指導要領解説（平成29年度版 文部科学省）
・技術・家庭科ハンドブック
〔参考文献〕
・『相互理解を深める コミュニケーション実践学 改訂版』
・観点別学習状況の評価規準と判定基準 中学校技術・家庭」，北尾 倫彦，2012
・「技術科教育における技能の形成と支援」，山本利一，2010
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、中一種（技術）、必修

【実務経験の活用】
現職時代の実践や経験を踏まえて、教科の実践的な指導をする
〔オフィスアワー〕
水曜日：1，2限
金曜日：4限

演習Ⅰ【教育方法・経営コミュニケーション論】

8346
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
藤本　　光司

〔到達目標〕
・3年生の間に、卒業論文のテーマを確定して文献検索や調査研究を行う。
・外部団体（学会や研究会）の場に参加し研究意識を高める。
・卒業論文プレゼンテーション大会に参加して先輩の研究内容を知る。
〔授業の概要〕
・今日的な教育上の課題と関連させながら教育方法の理論と実践を学ぶ。

・教師に必要とされる、真の授業実践力を身につける。
・共に学ぶ仲間と協働して、学外におけるフィールドワークに取り組む。
・研究テーマに対する議論を深め、説得力のある発表ができるようになる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

常に興味・関心がわいたら、その書籍や論文検索して文献を保管しておくこと。
・授業前にテーマに関連する文献を読み解く（120 分）
・テーマに関する興味を深めて論述（レポート作成）を行う（120 分）

〔授業計画〕

第 1 回　夏季休業期間における諸活動の報告
卒論テーマに対する研究の経過報告を行う。
学校インターシップ、企業のインターシップ、ボランティアなどの報告を行う。

第 2 回　これまでの研究経過の報告
前期にテーマ設定した研究内容について、進捗状況を報告する。

第 3 回　卒業論文のタイトルを吟味する。
興味・関心を整理して、卒論の方向性を決める。

第 4 回　卒業論文の構成について学ぶ。
これまでの卒論を参考に、大まかな構成を知る。

第 5 回　教材化や調査への取り組み（1）
実践の中心となる教材や論文の核となる調査について深める

第 6 回　教材化や調査への取り組み（2）
実践の中心となる教材や論文の核となる調査について深める

第 7 回　教材化や調査への取り組み（3）
実践の中心となる教材や論文の核となる調査について深める

第 8 回　フィールドワークの企画と立案（1）
学外での諸活動について調べ、研究の内容を立案する。

第 9 回　フィールドワークの企画と立案（2）
学外での諸活動について調べ、研究の内容を立案する。

第 10 回　フィールドワークの報告（1）
調査対象や教材化など、これまで実施した内容について報告する。

第 11 回　フィールドワークの報告（1）
調査対象や教材化など、これまで実施した内容について報告する。

第 12 回　研究テーマに関連する文献検索（1）
テーマに則した研究対象の文献について発表する。

第 13 回　研究テーマに関連する文献検索（2）
テーマに則した研究対象の文献について発表する。

第 14 回　卒論の執筆の準備
次年度の活動計画を立てる。

第 15 回　3年次の研究のまとめ
これまでの活動を総括し報告する。

〔成績評価〕

授業に対する取り組み姿勢（40%）
課題制作（30%）
課題発表（30%）

〔教科書〕

「中学校学習指導要領解説　技術・家庭科」（平成29年7月告示、文部科学省）
「主体的に学び意欲を育てる教学改善のすすめ」（ぎょうせい）
「中学校技術・家庭科」（開隆堂、東京書籍など）

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

水曜日1,2限
金曜日4限

観光サービス論

6530
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
大内　　敏子

〔到達目標〕

観光とは、その関係職種、 観光サービスに関して全般に把握する
空港における仕事、航空会社から、貨物整備などの全体の流れ、
基本的な仕事内、内容から、専門業務まで、
即、実践レベルまでスキルアップを目標とする

〔授業の概要〕

現場からみた観光論、その関連ビジネス、行政とまちづくり。
観光に関わる仕事、世界的な観光関連スポット、など幅広く理解する。
空港における色んな職種の実務を学び、整備、運航まで全ての職種を
深く掘り下げて、学ぶ。
学習のアクティブラーニングとして、観光活性化、その他の現場における具体的な意見、方法など、ブレインストーミングし、内容に応じて、グループごとに、向上すべき事の話し合い、発表する。（対面授業が出来れば）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

観光サービスに不可欠な英語の　基本的な学び方、日々の積み重ねの指導をする
状況が許せば、 空港見学なども組み入れる。

〔授業計画〕

第 1 回　観光とは、サービスとの関連
観光ビジネスの現状と、これから

第 2 回　観光ビジネス
日本における、観光への取り組み

第 3 回　日本の観光

観光サービスとは、 その関連ビジネス。
日本の中の　世界遺産について
第 4 回　海外市場、観光の移り変わり
海外での観光への取り組み方。各国の世界遺産について。
第 5 回　世界遺産
日本の中の世界遺産、海外での世界遺産、自然遺産などの学習
それら遺産継承への、取り組み
第 6 回　空港における色んな職種
CIQ,　保安検査から、空港活性化について
ケータリング事業、その他.
第 7 回　航空概論
航空の歩み、世界の主要空港、コードシェアとアライアンスとは
LCCについて。 世界の空港。
第 8 回　旅客ハンドリング業務（出発業務）
日本の主要航空会社、その空港における業務全般について学ぶ
第 9 回　旅客ハンドリング業務（到着業務）
国内、国際便の到着業務全般について
第 10 回　整備士業務、貨物業務
現場の仕事に基づき、業務内容を学ぶ
第 11 回　客室乗務員
トレーニングから、実践の仕事内容まで
第 12 回　パイロット、ディスパッチャー
その資格と、実際業務の内容まで
第 13 回　空港外での観光と関係する仕事
航空会社の予約、営業、そのノウハウまで。
第 14 回　空港外の仕事
航空会社、旅行代理店の仕事、 管理、広報まで
第 15 回　その他の空港内の仕事、総まとめ
観光未来について。
業界の専門用語の　総まとめ

〔成績評価〕
講義中の態度（積極的な取り組み）20%
学期末試験(80%）と、総合的に評価する
オンライン授業が中心の場合は、毎回のレポート課題の提出が,50%と重きを置きます。

〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕
観光ビジネス未来白書（加藤弘治　著）
観光サービス論　　（安田亘宏　著）
グランドスタッフ概論
「授業中に適宜資料を配布する」

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
後期、火曜日、第３限　１３時より

演習Ⅰ【公演事業研究】

8354
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
3年
2単位　後期
藤本　光司　井村　薫子

〔到達目標〕
論文の種類や構成を類別できるようになる。論文スタイルの文章が書けるようになる。論理の組み立てを指摘できるようになる。

〔授業の概要〕
論文の種類を知る。卒業生たちの先行研究を読み、本コースでの研究方法及びテーマについて議論する。「だである」調の文書に書き替える練習をする。論理の組み立て方を学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
指定された論文を読む。「である調」でレポートを書く。
・授業前にテーマに関連する文献を読み解く（120 分）
・テーマに関する興味を深めて論述（レポート作成）を行う（120 分）

〔授業計画〕
第 1 回　論文とは何か。
論文の種類とその種類によってどのような構成になるのかをいくつかの例をみながら理解する。
第 2 回　論理の組み立て方
三段論法の理解と例題。
第 3 回　論文の構成
IMRAD形式のパターンを学ぶ。
第 4 回　文章のスタイル
「だである調で書かなければならない理由」についての論文を読む。いくつかの文章をだである調に書き替える。
第 5 回　文章を書くことに慣れるための方法
文章を書くことに慣れるためにはどうすればよいかについての議論をする。個々のスキルにあった方法を見つける。
第 6 回　卒業論文を書くための材料について
卒業論文を書き始めるまでの準備について、おおまかに何が材料として必要かを理解する。時間が必要な研究の場合について。
第 7 回　バレエコースのこれまでの研究１
バレエコースのこれまでの研究のテーマと方法について知る。バレエ業界に少ないアカデミックな先行研究について。文献資料の確保の難しさとアンケートやヒヤリングについて。
第 8 回　バレエコースのこれまでの研究２
バレエコースのこれまでの研究のテーマと方法について知る。卒業公演との関連について。卒業公演とタイムラインについて。
第 9 回　バレエコースのこれまでの研究３
バレエコースのこれまでの研究のテーマと方法について知る。バレエ公演の裏方作業に関して。

第 10 回　バレエコースのこれまでの研究４
バレエコースのこれまでの研究のテーマと方法について知る。卒業公演の作品を振り付けた場合について。
第 11 回　卒業公演演習とリンクする場合について　１
卒業公演とリンクする場合の論旨について。レポートと論文の違いについて。
第 12 回　卒業公演演習とリンクする場合について　２
バレエ公演のどのような部分にスポットをあてるのか、テーマ選びとその対策。
第 13 回　卒業公演演習とリンクする場合について　３
自分の選びたいテーマを見つけるために、自分たちの卒業公演のプランをシュミレーションする。卒業公演の演目や目標を立てる。
第 14 回　卒業公演演習とリンクする場合について　４
シュミレーションとして、予算案を作成する。
第 15 回　卒業公演演習とリンクする場合について　５
シュミレーション結果と予算案を全員でプレゼンテーションの準備。

〔成績評価〕
課題制作（５０%）課題発表プレゼンテーション（５０%）

〔教科書〕
特になし。

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
⑴前期・後期
⑵月曜日：13:00～16:00、水曜日：13:00～16:00
⑶芸術文化センターにて
⑷連絡先：k-imura@ashiya-u.ac.jp
⑸来室の際は、事前にメールにてご連絡をお願いします

バレエ実践Ⅰ-2

1801
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
尾本　　安代

〔到達目標〕
バレエに使われるダンスクラシックの技法は、身体をより深く感知しコントロールする為の最適な訓練方法としてあらゆるジャンルのダンスに取り入れられている。アカデミックな技術を身に付け、自由な芸術的身体表現が出来るようにしたい。

〔授業の概要〕
ダンスクラシックの技術基礎から応用まで深く学ぶ。
ピアノ伴奏で授業を進める。

毎回、各動きを説明。反復練習しながら身体に記憶させるよう動きを学んでいく。バーレッスンにて、上半身の動き、頭、手などの動きを分解し、下半身は脚の５つのポジションを中心に基本的な技術の反復練習を積み重ねて正確な動きが出来るようにする。センターレッスンにてパの繋がり、流れを学び、より複雑な動きへと展開できるよう練習して行く。前期で学んだバーレッスンでの動き、センターレッスンでの動きを更に複雑な動きへ対応できるようにトレーニングして行く。センターレッスンにおけるタンデュ、グランバットマンあるいは、シャセ、クペ、グリッサード、ファイなどの補助的なパのつなぎを学ぶ。更にバチェ、ブリゼ、アントルシャなど打つパの反復練習とピルエット、アンデ・ドゥオール、アン・ドゥダンなどの回転のパを反復練習し、より高度な技術へと発展させて行く。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ストレッチなどをして授業に臨む。達成出来ない技術に関してはクラブ活動などを通じて自主練習する。

〔授業計画〕
１～５回
クラッシックの技法／基礎とバーレッスンを中心に学ぶ／前期のバーレッスンにおける動きの復習（反復練習）

６～１０回
上半身・下半身のポジション／基本の動きを学ぶ／アッサンブレ、ジュテ、パ・ドゥ・シャ、アンボアテ、バロネ、シソンヌなどの回転技術を学ぶ

１１～１５回
センターレッスンに発展させパの繋がりなどを学ぶ（反復練習）
実技の練習積み重ねの成果として、実際の舞台での実践へと発展させる
舞台での発表を目的として練習を行う

定期試験

〔成績評価〕
毎回の授業に対する集中度、技術向上など総合評価とする

〔教科書〕
「バレエ入門」川路　明・著（土屋書店）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
芸術文化センターにて事前にアポイントを取ること

バレエⅡ-2

1810
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
尾本　　安代　貞松　　正一郎

〔到達目標〕
バレエに使われるダンスクラシックの技法は、身体をより深く感知しコントロールする為の最適な訓練方法としてあらゆるジャンルのダンスに取り入れられている。アカデミックな技術を身に付け、自由な芸術的身体表現が出来るようにしたい。
〔授業の概要〕
バレエⅠで学んだ技術の復習と反復練習を積み重ね、
より発展させていく。ダンスクラシックの技術基礎から応用まで深く学ぶ。
ピアノ伴奏で授業を進める。月・金曜日、両方受講すること。

毎回、各動きを説明。反復練習しながら身体に記憶させるよう動きを学んでいく。バーレッスンにて、上半身の動き、頭、手などの動きを分解し、下半身は脚の５つのポジションを中心に基本的な技術の反復練習を積み重ねて正確な動きが出来るようにする。センターレッスンにてパの繋がり、流れを学び、より複雑な動きへと展開できるよう練習して行く。前期で学んだバーレッスンでの動き、センターレッスンでの動きを更に複雑な動きへ対応できるようにトレーニングして行く。
センターレッスンにおけるタンデュ、グランバットマンあるいは、シャセ、クペ、グリッサード、ファイなどの補助的なパのつなぎを学ぶ。
　更にバチェ、ブリゼ、アントルシャなど打つパの反復練習とピルエット、アンデ・ドゥオール、アン・ドゥダンなどの回転のパを反復練習し、より高度な技術へと発展させて行く。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ストレッチなどをして授業に臨む。
〔授業計画〕
１～５回
クラシックの技法／基礎とバーレッスンを中心に学ぶ／前期のバーレッスンにおける動きの復習（反復練習）

６～１０回
上半身・下半身のポジション／基本の動きを学ぶ／アッサンブレ、ジュテ、パ・ドゥ・シャ、アンボアテ、バロネ、シソンヌなどの回転技術を学ぶ

１１～１５回
センターレッスンに発展させパの繋がりなどを学ぶ（反復練習）

定期試験

〔成績評価〕
毎回の授業に対する集中度、技術向上などを含めて総合評価とする。
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
芸術文化センターにて事前にアポイントを取ること

バレエⅢ-2

1813
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
尾本　　安代　貞松　　正一郎

〔到達目標〕
バレエに使われるダンスクラシックの技法は、身体をより深く感知しコントロールする為の最適な訓練方法としてあらゆるジャンルのダンスに取り入れられている。アカデミックな技術を身に付け、自由な芸術的身体表現が出来るようにしたい。
〔授業の概要〕
バレエⅡで学んだ技術の復習と反復練習を積み重ね、
より発展させていく。ダンスクラシックの技術基礎から応用まで深く学ぶ。
ピアノ伴奏で授業を進める。月・金曜日、両方受講すること。

毎回、各動きを説明。反復練習しながら身体に記憶させるよう動きを学んでいく。バーレッスンにて、上半身の動き、頭、手などの動きを分解し、下半身は脚の５つのポジションを中心に基本的な技術の反復練習を積み重ねて正確な動きが出来るようにする。センターレッスンにてパの繋がり、流れを学び、より複雑な動きへと展開できるよう練習して行く。前期で学んだバーレッスンでの動き、センターレッスンでの動きを更に複雑な動きへ対応できるようにトレーニングして行く。
センターレッスンにおけるタンデュ、グランバットマンあるいは、シャセ、クペ、グリッサード、ファイなどの補助的なパのつなぎを学ぶ。
　更にバチェ、ブリゼ、アントルシャなど打つパの反復練習とピルエット、アンデ・ドゥオール、アン・ドゥダンなどの回転のパを反復練習し、より高度な技術へと発展させて行く。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ストレッチなどをして授業に臨む。
〔授業計画〕
１～５回
クラッシックの技法・基礎とバーレッスンを中心に学ぶ

前期のバーレッスンにおける動きの復習（反復練習）

６～１０回
上半身・下半身のポジション／基本の動きを学ぶ／アッサンブレ、ジュテ、パ・ドゥ・シャ、アンボアテ、バロネ、シソンヌなどの回転技術を学ぶ

１１～１５回
センターレッスンに発展させパの繋がりなどを学ぶ（反復練習）
舞台で発表することを目的に反復練習を行う

定期試験
〔成績評価〕
授業に対する集中度、技術向上などを含めて総合評価とする。
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
芸術文化センターにて事前にアポイントを取ること

バレエⅣ-2

1818
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
尾本　安代　貞松　正一郎

〔到達目標〕
バレエに使われるダンスクラシックの技法は、身体をより深く感知しコントロールする為の最適な訓練方法としてあらゆるジャンルのダンスに取り入れられている。アカデミックな技術を身に付け、自由な芸術的身体表現が出来るようにしたい。
〔授業の概要〕
バレエⅢで学んだ技術の復習と反復練習を積み重ね、
より発展させていく。ダンスクラシックの技術基礎から応用まで深く学ぶ。
ピアノ伴奏で授業を進める。月・金曜日、両方受講すること。

毎回、各動きを説明。反復練習しながら身体に記憶させるよう動きを学んでいく。バーレッスンにて、上半身の動き、頭、手などの動きを分解し、下半身は脚の５つのポジションを中心に基本的な技術の反復練習を積み重ねて正確な動きが出来るようにする。センターレッスンにてパの繋がり、流れを学び、より複雑な動きへと展開できるよう練習して行く。前期で学んだバーレッスンでの動き、センターレッスンでの動きを更に複雑な動きへ対応できるようにトレーニングして行く。
センターレッスンにおけるタンデュ、グランバットマンあるいは、シャセ、クペ、グリッサード、ファイなどの補助的なパのつなぎを学ぶ。
　更にバチェ、ブリゼ、アントルシャなど打つパの反復練習とピルエット、アンデ・ドゥオール、アン・ドゥダンなどの回転のパを反復練習し、より高度な技術へと発展させて行く。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ストレッチなどをして授業に臨むこと。
〔授業計画〕
１～５回
クラッシックの技法・基礎とバーレッスンを中心に学ぶ
前期のバーレッスンにおける動きの復習（反復練習）

６～１０回
上半身・下半身のポジション／基本の動きを学ぶ／アッサンブレ、ジュテ、パ・ドゥ・シャ、アンボアテ、バロネ、シソンヌなどの回転技術を学ぶ

１１～１５回
センターレッスンに発展させパの繋がりなどを学ぶ（反復練習）

定期試験
〔成績評価〕
毎回の授業に対する集中度、技術向上など含め総合評価とする。
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
芸術文化センターにて事前にアポイントを取ること

環境材料学

1351
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
安東　茂樹

〔到達目標〕
・材料の特性に関する知識の習得及び簡単な製作品の加工法について、幅広い知識･技能を習得する。（知識･技能）
・種々の材料の特徴、性質及び生活や産業に果たしている役割等を理解し、ものづくりに関する指導力を身に付ける。（知識･技能、関心･意欲･態度）
・技術の進展と環境について生活との関係を軸に、エネルギー消費やライフサイクルも含め、新材料に関する興味を

持ち、探究する能力を養う。（関心･意欲･態度、思考･判断･表現）

〔授業の概要〕

地球環境問題の本質を理解しその課題対応として、環境材料のあり方について自ら考え、その考えをディスカッションや発表を通して思考を深めたり表現する力を養ったりする。

また、技術科教育で実施されている製作題材の製作や、教科内容の演習問題に臨むことで、教師としての実践的な指導力を養う。

前期の「材料加工」とともに継続して履修することが望ましい。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

「授業の予習（90 分）」「授業後のレポート作成等（90 分）」

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
授業内容、評価方法及び参考文献の取り扱い等について説明

第 2 回　地球環境と循環型社会
環境変化　循環型社会　基盤整備と物質循環

第 3 回　構造物の建設と環境アセスメント
社会基盤施設　整備と環境保全　建設

第 4 回　産業副産物の活用
コンクリート材料　鉄鋼材料

第 5 回　産業副産物の活用
アスファルト材料　産業副生物

第 6 回　構造物としてのコンクリート
性能　使用材料と品質　フレッシュコンクリート

第 7 回　構造物としてのコンクリート
硬化コンクリート　耐久性　再利用

第 8 回　構造材としての鋼材の利用
鋼の製造と製品　鋼の性質

第 9 回　構造材としての鋼材の利用
鋼構造物の製作･施工　鋼構造物の腐食

第 10 回　舗装材料としてのアスファルトの利用
使用材料の構成　特性　加熱アスファルト

第 11 回　舗装材料としてのアスファルトの利用
耐久性　再生利用　環境への配慮

第 12 回　プラスチックの製品の製作①
オリジナルキーホルダーの設計･製作

第 13 回　プラスチックの製品の製作②
オリジナルキーホルダーの樹脂で個化

第 14 回　プラスチックの製品の製作③
オリジナルキーホルダーの仕上げ加工と評価

第 15 回　まとめと課題
環境材料学のまとめと課題確認（定期試験は実施ないが，レポート提出を課題とする）

〔成績評価〕

授業への取り組み（技能･意欲･態度）40%、毎時の課題内容30%、レポート30%　で総合して評価する

〔教科書〕

・環境材料学－基礎施設と建設材料の循環活用－（平成17年6月　理工図書）

・よくわかるプラスチック 入門ビジュアル･テクノロジー（平成22年2月　日本実業出版社）

〔参考文献〕

・中学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）

・技術・家庭教科書（令和3年2月　開隆堂，東京書籍，教育図書）

・技術科教育の研究（日本産業技術教育学会編）

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、金属加工（製図及び実習を含む。）、中一種（技術）、選択

〔オフィスアワー〕

①前期・後期　②水曜日 11:00~12:00、金曜日 12:30~13:30
③研究棟 安東研究室　④s-andoh@ashiya-u.ac.jp　⑤その他
(来室の際、事前にメールでアポイントを取ること)

機械加工①

1256
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
山田　喜夫

〔到達目標〕

・機械要素の基礎理論を発展させ、工作機械を活用したものづくりの関心を高める。（意欲・関心）

・学ぶ仲間とアイデアを共用することにより、課題を解決する力を養うとともに、社会人として協働する態度を育む。(態度・チームワーク・課題解決力)

・本格的な製品の設計、製図や実験実習に取り組み、ものづくりの技能を高める。(技能)

・工作機械の安全な操作を習得し、教える立場での操作や指導方法を身に付ける。(知識・理解)

・実技実習において、発想や感性を発揮しながら創意工夫をして製作に取り組める。(思考・表現)

〔授業の概要〕

・前期の応用編として、中学校技術科におけるものづくり(材料学や機械分野を中心に）の実践力を深めていく。

・旋盤やフライス盤などの工作機械を使用して本格的な金属加工に取り組む。

・前期ではアルミニウム、黄銅の材料を中心に金属加工を学んだが、後期ではハンマーの製作を通じて、鋼の材料を中心に金属加工を学ぶ。

・機構模型により、力学的な機構の要素や構成を知り、図面に表す。

・各自で中学校の教材であるリンク機構の設計、製作を行う。

・安全に実習ができる服装でのぞむこと。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

毎時間後には、学習した内容をまとめ、前期分の内容を配布された資料とともに冊子にすること。(６０分)

〔授業計画〕

第 1 回　授業ガイダンス(後期の授業について)
後期の授業内容と到達目標、成績評価について知る。
LMSと対面授業についての説明。

第 2 回　工作機械の基礎
弓ノコ盤、旋盤、ボール盤、手仕上げ等基礎加工の方法を再確認する。

第 3 回　ハンマーの製作１（頭部）
ハンマーの部品図より、弓ノコ盤、旋盤によるハンマー頭部の製作をする。切断、端面、外周の切削、面取り、穴あけ
使用材料：鋼（ＳＳ４００、Ｓ３５Ｃ)、黄銅

第 4 回　ハンマーの製作２（フライス盤による切削）
フライス盤を使った基礎切削の方法を理解し、ハンマー頭部の平面切削を行うことにより、フライス盤の安全な使用方法を知る。

第 5 回　ハンマーの製作３（柄及び組立）
部品図より、旋盤によるハンマーの柄の製作及びボール盤による穴あけ、タップ・ダイスによるネジ切り、ローレット加工、組み立てを行う。
使用材料：鋼（ＳＳ４００）

第 6 回　機構模型の要素を学ぶ１（分解）
昨年度までに本校で製作された機構模型を分解して、その機構の要素・構成を調べ、スケッチ図でその部品の図面を作成する。

第 7 回　機構模型の要素を学ぶ２（組立）
分解された機構模型を組み立てる。（スムーズに動作するように調整をする）
スケッチ図で、機構模型の組立図を作成する。

第 8 回　リンク機構模型の製作１（設計）
リンク機構を調べ、てこクランク、両てこ、平行クランク、往復スライダークランクの各機構を設計し、図面に表す。

第 9 回　リンク機構模型の製作２（リンク）
図面よりボール盤、フライス盤、帯鋸盤等を使いリンクを製作する。
使用材料：アクリル板

第 10 回　リンク機構模型の製作３（リンクの接続部）
リンクの接続部品を旋盤、ダイス等を使い製作する。
使用材料：黄銅、アルミニウム

第 11 回　リンク機構模型の製作４（ベース）
図面よりリンク機構模型をセットするベースを、ボール盤、帯鋸盤等を使い製作する。その他の模型に必要な部品を製作する。
使用材料：６ｍｍ合板

第 12 回　リンク機構模型の製作５（組立・調整）
ベースの合板にリンク、接続部品、ボルト、ナット、座金等で図面に従ってリンク機構模型の組み入れを行う。

第 13 回　製作報告書・レポート作成
製作したリンク機構模型の組立図、部品図、加工手順、使用機械等をまとめる。
設計した図面と組み立てた模型を比較し、変更点を確認する。

第 14 回　プレゼンテーション
製作したリンク機構模型のプレゼンテーションにより、学生の相互評価を行い、ものづくり科目における安全教育を深める。

第 15 回　まとめ
後期学びの振り返りと提出レポートについて。

〔成績評価〕

実技、実習の取り組み意欲と態度　４０％　レポート　３０％　　製作品の完成度及びプレゼンテーション　３０％
実習を主体とした授業のため、欠席が多い場合は不認定になることもある。

〔教科書〕

図解　もの創りのための　やさしい機械工学
門田和雄著　技術評論社

〔参考文献〕

中学校指導要領解説(平成２９年文部科学省)
「機械・仕上げの総合研究(下)　平田宏一著　技術評論社

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、金属加工（製図及び実習を含む。)、中一種（技術)、必修

【実務経験の活用】

金属加工による作品製作の実習を通して、機械工具や各種工作機械の安全な使用方法、指導者としての心得等、指導を行う。
ロボット、機構模型の仕組みや設計を、機械工作法、機械製図、機械設計等の観点から指導を行う。

〔オフィスアワー〕

授業終了後、金工室で対応します。
LMSでは質問等はメールで受け付けます。

機械加工②

1252
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
山田　喜夫

〔到達目標〕

・機械要素の基礎理論を発展させ、工作機械を活用したものづくりの関心を高める。（意欲・関心）
・学ぶ仲間とアイデアを共用することにより、課題を解決する力を養うとともに、社会人として協働する態度を育む。(態度・チームワーク・課題解決力)
・本格的な製品の設計、製図や実験実習に取り組み、ものづくりの技能を高める。(技能)
・工作機械の安全な操作を習得し、教える立場での操作や指導方法を身に付ける。(知識・理解)

・実技実習において、発想や感性を発揮しながら創意工夫をして製作に取り組める。(思考・表現)

〔授業の概要〕

・前期の応用編として、中学校技術科におけるものづくり(材料学や機械分野を中心に）の実践力を深めていく。

・旋盤やフライス盤などの工作機械を使用して本格的な金属加工に取り組む。

・前期ではアルミニウム、黄銅の材料を中心に金属加工を学んだが、後期ではハンマーの製作を通じて、鋼の材料を中心に金属加工を学ぶ。

・機構模型により、力学的な機構の要素や構成を知り、図面に表す。

・各自で中学校の教材であるリンク機構模型の設計、製作を行う。

・安全に実習ができる服装でのぞむこと。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕

毎時間後には、学習した内容をまとめ、前期分の内容を配布された資料とともに冊子にすること。(６０分)

〔授業計画〕

第 1 回　授業ガイダンス(後期の授業について)
後期の授業内容と到達目標、成績評価について知る。
LMSと対面授業についての説明。

第 2 回　工作機械の基礎
弓ノコ盤、旋盤、ボール盤、手仕上げ等基礎加工の方法を再確認する。

第 3 回　ハンマーの製作１（頭部）
ハンマーの部品図より、弓ノコ盤、旋盤によるハンマー頭部の製作をする。切断、端面、外周の切削、面取り、穴あけ
使用材料：鋼（SS４００、S３５C)、黄銅

第 4 回　ハンマーの製作２（フライス盤による切削）
フライス盤を使った基礎切削の方法を理解し、ハンマー頭部の平面切削を行うことにより、フライス盤の安全な使用方法を知る。

第 5 回　ハンマーの製作３（柄及び組立）
部品図より、旋盤によるハンマーの柄の製作及びボール盤による穴あけ、タップ・
ダイスによるネジ切り、ローレット加工、組み立てを行う。
使用材料：鋼（SS４００）

第 6 回　機構模型の要素を学ぶ１（分解）
昨年度までに本校で製作された機構模型を分解して、その機構の要素・構成を調べ、スケッチ図でその部品の図面を作成する。

第 7 回　機構模型の要素を学ぶ２（組立）
分解された機構模型を組み立てる。（スムーズに動作するように調整をする）
スケッチ図で機構模型の組立図を作成する。

第 8 回　リンク機構模型の製作１（設計）
リンク機構を調べ、てこクランク、両てこ、平行クランク、往復スライダークランクの各機構を設計し、図面に表す。

第 9 回　リンク機構模型の製作２（リンク）
図面よりボール盤、フライス盤、帯鋸盤等を使いリンクを製作する。
使用材料：アクリル板

第 10 回　リンク機構模型の製作３（リンクの接続部）
リンクの接続部品を旋盤、ダイス等を使い製作する。
使用材料：黄銅、アルミニウム

第 11 回　リンク機構模型の製作４（ベース）
図面よりリンク機構模型をセットするベースを、ボール盤、帯鋸盤等を使い製作する。その他の模型に必要な部品を製作する。
使用材料：６mm合板

第 12 回　リンク機構模型の製作５（組立・調整）
ベースの合板にリンク、接続部品、ボルト、ナット、座金等で図面に従ってリンク機構模型の組み入れを行う。

第 13 回　製作報告書・レポート作成
製作したリンク機構模型の組立図、部品図、加工手順、使用機械等をまとめる。
設計した図面と組み立てた模型を比較し変更点を確認する。

第 14 回　プレゼンテーション
製作したリンク機構模型のプレゼンテーションにより、学生の相互評価を行い、ものづくり科目における安全教育を深める。

第 15 回　まとめ
後期学びの振り返りと提出レポートについて。

〔成績評価〕

実技、実習の取り組み意欲と態度　４０％　レポート　３０％　　製作品の完成度及びプレゼンテーション　３０％
実習を主体とした授業のため、欠席が多い場合は不認定になることもある。

〔教科書〕

図解　もの創りのための　やさしい機械工学
門田和雄著　技術評論社

〔参考文献〕

中学校指導要領解説(平成２９年文部科学省)
「機械・仕上げの総合研究(下)　平田宏一著　技術評論社

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、金属加工（製図及び実習を含む。)、中一種（技術)、必修

【実務経験の活用】

金属加工による作品製作の実習を通して、機械工具や各種工作機械の安全な使用方法、指導者としての心得等、指導を行う。
ロボット、機構模型の仕組みや設計を、機械工作法、機械製図、機械設計等の観点から指導を行う。

〔オフィスアワー〕

授業終了後、金工室で対応します。
LMSでは質問等はメールで受け付けます。

機械加工③

1253
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
山田　喜夫

〔到達目標〕
・機械要素の基礎理論を発展させ、工作機械を活用したものづくりの関心を高める。（意欲・関心）
・学ぶ仲間とアイデアを共用することにより、課題を解決する力を養うとともに、社会人として協働する態度を育む。(態度・チームワーク・課題解決力）
・本格的な製品の設計、製図や実験実習に取り組み、ものづくりの技能を高める。(技能）
・工作機械の安全な操作を習得し、教える立場での操作や指導方法を身に付ける。(知識・理解）
・実技実習において、発想や感性を発揮しながら創意工夫をして製作に取り組める。(思考・表現）

〔授業の概要〕
・前期の応用編として、中学校技術科におけるものづくり(材料学や機械分野を中心に）の実践力を深めていく。
・旋盤やフライス盤などの工作機械を使用して本格的な金属加工に取り組む。
・前期ではアルミニウム、黄銅の材料を中心に金属加工を学んだが、後期ではハンマーの製作を通じて、鋼の材料を中心に金属加工を学ぶ。
・機構模型により、力学的な機構の要素や構成を知り、図面に表す。
・各自で中学校の教材であるリンク機構の設計、製作を行う。
・安全に実習ができる服装でのぞむこと。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時間後には、学習した内容をまとめ、前期分の内容を配布された資料とともに冊子にすること。(６０分）

〔授業計画〕
第 1 回　授業ガイダンス(後期の授業について）
後期の授業内容と到達目標、成績評価について知る。
LMSと対面授業についての説明。
第 2 回　工作機械の基礎
弓ノコ盤、旋盤、ボール盤、手仕上げ等基礎加工の方法を再確認する。
第 3 回　ハンマーの製作１（頭部）
ハンマーの部品図より、弓ノコ盤、旋盤によるハンマー頭部の製作をする。切断、端面、外周の切削、面取り、穴あけ
使用材料：鋼（SS４００、S３５C)、黄銅
第 4 回　ハンマーの製作２（フライス盤による切削）
フライス盤を使った基礎切削の方法を理解し、ハンマー頭部の平面切削を行うことにより、フライス盤の安全な使用方法を知る。
第 5 回　ハンマーの製作３（柄及び組立）
部品図より、旋盤によるハンマーの柄の製作及びボール盤による穴あけ、タップ・ダイスによるネジ切り、ローレット加工、組み立てを行う。
第 6 回　機構模型の要素を学ぶ１(分解）
昨年度までに本校で製作された機構模型を分解して、その機構の要素・構成を調べ、スケッチ図でその部品の図面を作成する。
第 7 回　機構模型の要素を学ぶ２（組立）
分解された機構模型を組み立てる。（スムーズに作動するように調整をする）
スケッチ図で、機構模型の組立図を作成する。
第 8 回　リンク機構模型の製作１(設計）
リンク機構を調べ、てこクランク、両てこ、平行クランク、往復スライダークランク機構を設計し、図面に表す。
第 9 回　リンク機構模型の製作２(リンク）
図面によりボール盤、フライス盤、帯鋸盤等を使いリンクを製作する。
使用材料：アクリル板
第 10 回　リンク機構模型の製作３(リンクの接続部）
リンクの接続部品を旋盤、ダイス等を使い製作する。
使用材料：黄銅、アルミニウム
第 11 回　リンク機構模型の製作４（ベース）
図面によりリンク機構模型をセットするベースを、ボール盤、帯鋸盤等を使い製作する。他に必要な部品を製作する。
使用材料：６ｍｍ合板
第 12 回　リンク機構模型の製作５(組立・調整）
ベースの合板にリンク、接続部品、ボルト、ナット、座金等で図面に従ってリンク機構模型の組み入れを行う。
第 13 回　製作報告書・レポート作成
製作したリンク機構模型の組立図、部品図、加工手順、使用機械等をまとめる。
設計した図面と組み立てた模型を比較し、変更点を確認する。
第 14 回　プレゼンテーション
製作したリンク機構模型のプレゼンテーションにより、学生の相互評価を行い、ものづくり科目における安全教育を深める。
第 15 回　まとめ
後期学びの振り返りと提出レポートについて。

〔成績評価〕
実技、実習の取り組み意欲と態度　４０％　レポート　３０％　　製作品の完成度及びプレゼンテーション　３０％
実習を主体とした授業のため、欠席が多い場合は不認定になることもある。

〔教科書〕
図解　もの創りのための　やさしい機械工学
門田和雄著　技術評論社

〔参考文献〕
中学校指導要領解説(平成２９年文部科学省）
「機械・仕上げの総合研究(下）　平田宏一著　技術評論社

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、金属加工（製図及び実習を含む。）、中一種（技術）、必修

【実務経験の活用】
金属加工による作品製作の実習を通して、機械工具や各種工作機械の安全な使用方法、指導者としての心得等、指導を行う。
ロボット、機構模型の仕組みや設計を、機械工作法、機械製図、機械設計等の観点から指導を行う。
〔オフィスアワー〕
授業終了後、金工室で対応します。
LMSでは質問等はメールで受け付けます。

機械工作

4351
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
池田　　英夫

〔到達目標〕
・機械や機械工作、ものづくりの設計や実験実習に意欲的に取り組む。(関心・意欲・態度)
・機械要素の発展的理論を知る。(知識・理解)
・工作機械の保守点検や安全に操作する方法を知る。(知識・理解)
・中学校技術科教員として、教える立場に立った機械の操作や手工具の使い方を理解する。(技能)
・発想や感性を発揮しながら創意工夫して製作品を構想できる。(理論的思考・表現力)
〔授業の概要〕
・中学校技術科指導要領に示された「材料と加工の技術」を中心に、実技実習を通して幅広い技術を身に付けることをねらいとしている。
・製作発表を通じて各自の意見をまとめ、相互理解をはかる。
・実習可能な服装で出席すること。なお本科目は機械・工作系の発展理論を学ぶが、「機械加工(通年)」と一対の授業であるとともに、前期に設定した基礎理論の「機械と設計」の単位修得を履修条件とする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時間後には学習した内容をまとめておき、配布された資料とともに後期分の授業内容を冊子にすること。(６０分)
〔授業計画〕
第 1 回　授業ガイダンス、金属の組織
自己紹介、カリキュラムの説明(授業の目的と説明)、成績評価について知る。
LMSと対面授業についての説明。
金属材料の性質、金属の結晶構造、金属の状態図を学ぶ。
第 2 回　機械材料、鉄鋼材料
製鉄、炭素鋼の状態図、鋼の熱処理、鉄鋼材料の種類を学ぶ。
第 3 回　機械材料、非鉄金属材料
アルミニウム、銅、マグネシウム、複合材料の特徴と実生活での使用例を学び、それぞれの用途を知る。
第 4 回　手仕上、組立と塗装
けがき作業(定盤、ハイトゲージ、トースカン、センターポンチ等)、ヤスリ仕上げ、ネジ切り(タップ、ダイス)等の手仕上げの方法を学び、試作実習を行う。
第 5 回　機械仕上、旋盤・ボール盤の基礎
旋盤、ボール盤の構造や安全な取扱い方法と切削の理論を知り、それぞれの穴あけ加工
の特徴を比較する。
第 6 回　機械仕上、旋盤理論１
旋盤に使用するバイトの種類と取付方法、旋削方法、旋削の安全な作業方法を学び、定められた寸法に材料を旋削する。
第 7 回　機械仕上、旋盤理論２
材料(アルミニウム，黄銅、炭素鋼）による旋削方法の違いを学び、硬さの異なる材料の切削を通して、材料に適した切削方法を学ぶ。
第 8 回　機械仕上、旋盤理論３
旋盤による材料の穴あけ、ネジ切り、曲面削り、ローレット切り、テーパ加工等の方法を学び、図面の形状寸法に材料を切削加工する。
第 9 回　旋盤による黄銅、アルミニウムのコマの製作
よく回るコマの特徴を考えコマの形状寸法を決め、最適の切削方法を考え、試作加工する。各自の製作したコマを回して比較し、よく回るコマの特徴を解析する。
第 10 回　黄銅によるペンホルダーを兼ねた文鎮の製作１
フライスの種類(正面，側、平面エンドミル）と取付方法と操作方法を学ぶ。与えられた材料で、使い勝手の良いペンホルダー文鎮の設計を行い、図面に形状寸法を記入する。
第 11 回　黄銅によるペンホルダーを兼ねた文鎮の製作２
フライス盤を使い材料の表面切削、溝切削、穴あけ加工を行いそれぞれの違いを知る。
フライス盤で文鎮の底面，上部を設計した寸法に切削する。
第 12 回　黄銅によるペンホルダーを兼ねた文鎮の製作３
ボール盤、旋盤による切削加工を行い、タップ、ダイスでネジを切る。
ネジの名称、使用目的などネジについて学ぶ。
第 13 回　製作報告書
製作作品のデジタルアーカイブと小レポートの作成を行う。
第 14 回　プレゼンテーションと安全教育
各自の製作発表で、過程や結果の評価を行い、改善及び修正について考える。
中学生に指導する際の安全教育の方法を考える。

第 15 回　まとめ
　　後期の学びの振り返りと後期試験について。
〔成績評価〕
定期試験　５０％、授業への取り組みとレポート　２５％
製作品の完成度及びプレゼンテーション　２５％
実習を主体とした授業のため、欠席が多い場合は不認定になることもある。
〔教科書〕
図解　もの創りのための　やさしい機械工学　改訂版
門田和雄著　技術評論社
〔参考文献〕
中学校技術・家庭科　技術分野教科書(東京書籍、開隆堂)
中学校学習指導要領解説　技術・家庭編（平成２９年、文部科学省）
機械工学のやさしい知識　オーム社　小野弘著
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、機械（実習を含む。）、中一種（技術）、選択

【実務経験の活用】
金属加工による作品製作の実習を通して、機械工具や各種工作機械の安全な使用方法、指導者としての心得等、指導を行う。
ロボット、機構模型の仕組みや設計を、機械工作法、機械製図、機械設計等の観点から指導を行う。
〔オフィスアワー〕
木曜日、授業終了後１３：４０～１４：４０　金工室で対応します。
LMSでは質問等はメールで受け付けます。

ツーリズム経営論

7503
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
大中　　育功

〔到達目標〕
ツーリズム（観光）は、宿泊・旅行・運輸・飲食などに留まらず、自治体やNPOなどと連携して地方創生の担い手として注目されている。広範なツーリズム産業の企業経営や地域経営の現状と課題を学習する。
◎ツーリズム産業の特性とその経営の基礎を習得する。
◎経営に関する幅広い教養を身につけることを目指す。
〔授業の概要〕
ツーリズム経営に関する理論やツーリズムを取り巻く環境（情報・政策など）について主な観光産業ごとにPhollyにパワーポイント形式で掲出するので熟読して内容把握してください。
また、観光事業体の現状と課題についても考察する。
◎疑問点は、毎回の「レポート課題」提出時に「レポート」に追加して問い合わせをお願いします。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
◎受講後に必ず復習を行ってください。特に専門用語については、各自で辞書を引いて意味を確認すること。(60分)
◎毎講義前の一週間分の新聞、ＴＶやネットニュースなどのツーリズム関連記事に目を通して内容を把握しておくこと。(90分)
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンスとツーリズム（観光）経営とは
　　講義の進め方とツーリズム経営とは何か？について
第 2 回　観光政策・行政
　　観光政策の枠組みと地域観光政策
第 3 回　観光まちづくり
　　サステイナブル（自立的/持続的）ツーリズム
第 4 回　観光行動と観光市場
　　観光者の観光行動による市場動向
第 5 回　ＩＣＴ革命と観光産業
　　ソーシャルICT革命の観光産業への影響
第 6 回　交通産業経営
　　交通事業を取り巻く環境の変化と交通事業の現状
第 7 回　旅行産業経営
　　旅行産業のマーケット環境の変化と具体的な経営戦略
第 8 回　宿泊産業経営
　　日本の宿泊経営の特徴と宿泊市場の変革の実態
第 9 回　外食産業経営
　　外食産業の市場規模と将来性
第 10 回　博物館と美術館
　　収益性と公共性の両立を考える
第 11 回　接遇と顧客満足
　　人が訪れたくなる地域の魅力
第 12 回　集客戦略
　　観光需要の創造と旅行者ニーズの進化
第 13 回　観光産業の人的資源管理
　　観光産業の特殊性を踏まえて必要な人的資源管理
第 14 回　ホテル・アセット・マネジメント
　　ホテル・アセット・マネジメントの概況と具体的な手法
第 15 回　ポストモダンと観光
　　ポストモダンと呼ばれる社会の及ぼす観光の変遷
〔成績評価〕
期末レポート：50%
授業内提出物：40%
授業への発表・取組等：10%
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布
〔参考文献〕
必要に応じて紹介
〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
永年のツーリズム（観光）業界の実務経験を活かして、担当科目の基礎知識と課題について解説し、学生のツーリズムに対する理解が深まるように指導する。
〔オフィスアワー〕
LMS科目になるので質問等は、Phollyの「メッセージ」で受け付けます。原則、次回の授業までに回答します。

国内観光地理概論Ⅰ

7502
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
大中　　育功

〔到達目標〕
将来、ツーリズム業界を目指すなら、これだけは知っておきたい我が国の主要観光地についての基礎知識を学習。特に留学生にとっては、日本の地理・文化を理解するのに大いに役立つ。
◎日本・旅行地理検定の中級試験の合格。
◎旅行業務取扱管理者の国内旅行実務（観光地理）合格レベルや通訳案内士の試験対策として活用できる。（ともに国家資格）
〔授業の概要〕
◎北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄の9地方に分けて、更にその地方を都道府県別にパワーポイントを使用して主要な観光スポットを案内する。
◎自然観光資源（温泉、国立公園・国定公園、山、渓谷、岬、湖沼、河川、鍾乳洞、建造物等）と郷土文化（年中行事、祭り、郷土芸能・民謡、郷土工芸・民芸品、郷土料理・特産品等）を学習する。

◎LMSでPhollyを活用した授業なので、主要な観光スポット・特産物などを「毎回のレポート課題」として出題するので、各自で調べた結果を簡潔にレポートしてもらう。
◎各自で調べることにより、どのような観光資源かを学習できる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
◎「レポート課題」について、必ずどのような所・どのような物かなどを調べて「レポート」として提出してください。（60分）
◎一つの地方の授業終了後、授業で取り上げた観光資源（観光地・温泉・特産物など）の地図上の位置も含めて総合的に把握できるように復習してください。（90分）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　講義の進め方について
第 2 回　北海道①
　　北海道の観光地の自然と郷土文化
第 3 回　北海道②
　　北海道の観光地の自然と郷土文化
第 4 回　東北地方①
　　東北の観光地の自然と郷土文化
第 5 回　東北地方②
　　東北の観光地の自然と郷土文化
第 6 回　関東地方①
　　関東の観光地の自然と郷土文化
第 7 回　関東地方②
　　関東の観光地の自然と郷土文化
第 8 回　中部地方
　　中部の観光地の自然と郷土文化
第 9 回　近畿地方①
　　近畿の観光地の自然と郷土文化
第 10 回　近畿地方②
　　近畿の観光地の自然と郷土文化
第 11 回　中国地方
　　中国の観光地の自然と郷土文化
第 12 回　四国地方
　　四国の観光地の自然と郷土文化
第 13 回　九州地方①
　　九州の観光地の自然と郷土文化
第 14 回　九州地方②
　　九州の観光地の自然と郷土文化
第 15 回　沖縄地方
　　沖縄の観光地の自然と郷土文化
〔成績評価〕
期末試験（筆記）：50%
4授業内提出物：40%
授業への発表・取組等：10%
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布
〔参考文献〕
国内旅行地理ベーシック300+α　（定価：2,200円 / 出版：JTB総合研究所）
JTB時刻表
その他授業中に必要に応じ紹介
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
永年のツーリズム（観光）業界の実務経験を活かして、担当科目の基礎知識について解説し、学生のツーリズムに対する理解が深まるように指導する。
〔オフィスアワー〕
LMS科目になるので質問等は、Phollyの「メッセージ」で受け付けます。原則、次回の授業までに回答します。

振付Ⅳ-2

1826
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　後期
佐藤　　真左美

〔到達目標〕
振付作品を劇場で上演する（卒業公演の実施)

〔授業の概要〕
授業開始15分間：ウォームアップ・基礎体力運動
65分間：振付作業を行う。実際に振付をした際に発生してくる不具合を調整する。
10分間：作業工程の報告。全員での話し合い。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業ノート作成をする
授業開始前10分間：各自でのストレッチ、ウォームアップ
授業終了10分間：グループメンバー同士でのフィードバックとお互いの評価をする
準備学習：古典バレエ作品の鑑賞、画像検索　（120分程度の作品）
〔授業計画〕
第 1 回　振付作業１
各自の振付作品（もしくは担当ピース）を実際にダンサーに振付ける
リハーサル開始
第 2 回　振付作業２
各自の振付作品（もしくは担当ピース）を実際にダンサーに振付ける
第 3 回　振付作業３
各自の振付作品（もしくは担当ピース）を実際にダンサーに振付ける
第 4 回　振付作業４
各自の振付作品（もしくは担当ピース）を実際にダンサーに振付けていく
第 5 回　中間報告会
どのくらい仕上がってきているかの中間報告と各作品の中間発表をする
問題点、疑問点、また演出面での不具合など、全員での話し合い
第 6 回　リハーサル１
４年生担当作品を中心でのリハーサルをする
第 7 回　リハーサル２
４年生担当作品を中心でのリハーサルをする
第 8 回　スタッフ下見
劇場スタッフ下見
各担当者は、自分の担当する演目の作業プランを作成し、スタッフに説明をする
第 9 回　リハーサル３
全員での通し稽古
第 10 回　卒業公演本番
卒業公演本番
・劇場入り～本番終了までのスケジュールを滞りなく運営する
・現場ノート作成する
第 11 回　卒業公演の反省会
卒業公演の反省会と成果についてを意見を出し合い話しあう。
第 12 回　後期試験のための課題について
後期試験課題のための振付作業開始する
第 13 回　後期試験課題に取り組む
振付作業をする
第 14 回　中間報告
各自の取り組みの様子を報告する。
不具合な点などあったらば話し合いをする。改善と発展を目標とする。
第 15 回　事前発表
実際の試験と同じ状況での各自の作品発表をする
〔成績評価〕
課題提出30%
授業時間内評価（積極的発言力、検索力）４０％
卒業制作の発表 30%

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
毎週水曜日　昼休み時間（11時30分～12時10分）
バレエコース講師控え室で直接に質問、相談をお受けいたします

バレエテクニックⅢ-2

1822
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
1単位　後期
佐藤　　真左美

〔到達目標〕
卒業公演の本番舞台でクラシックバレエダンサーとして観衆を魅了する演技をする。
〔授業の概要〕
授業開始から30分間：基礎体力のための中級レベルのバレエレッスン
50分間：クラシックバリエーション（ソロ）の踊りの練習
10分間：フィードバックと次の授業での目標項目の設定

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前10分間各自ストレッチ、授業終10分間各自クールダウンのストレッチ、
授業時間外の準備学習として週2時間から3時間のボディメンテナンスのためのトレーニングを行う
〔授業計画〕
第 1 回　リハーサル１
各自、卒業公演で踊る演目のリハーサル開始
正しく振付を覚える
第 2 回　リハーサル２
実際に音楽と一緒に練習してみる
第 3 回　リハーサル３
繰り返し練習
スタミナの維持

第 4 回　リハーサル４
本番同様に演目順にリハーサルする
不具合な点、振付が曖昧な点などをチェックする
第 5 回　リハーサル５
前回のフィードバックから、改善の点があった場合なまずそこから直しを開始する
各自の出来栄え点など意見を出し合い、後半のリハ運営に繋げる
第 6 回　リハーサル６
再び繰り返し練習と全体リハ
第 7 回　リハーサル７
再び繰り返し練習と全体リハ
第 8 回　舞台を想定しての通し稽古
実際の本番と同じ順番で、本番同様にリハをしてみる
第 9 回　問題点の改善のために
前回のリハからの反省点と、不具合な点をやり直す。
バレエコース全員の作品に対する理解度、モチベーションなども話しあう
第 10 回　卒業公演本番
バレエコース全員の力で、よりよい舞台を創るようにチーム一丸で取り組む
第 11 回　卒業公演反省会
卒公を終えての反省点と、自分に変化が起きたかどうかなど、全員での
ディスカッションを中心の授業
第 12 回　後期試験課題提示
後期試験の課題提示
リハ開始
第 13 回　後期試験課題
後期試験の課題提示
リハ開始
第 14 回　中間発表
各自、課題の踊りを実演する
第 15 回　最終リハ
後期試験のための課題曲の最終リハーサル

〔成績評価〕
・課題提出３０％　　・授業時間内評価６０％（積極的発言、質疑応答能力）
・授業時間内制作発表　１０％

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
毎週水曜日　昼休み時間（11時30分～12時10分）
バレエコース講師控え室で直接に質問、相談をお受けいたします

バレエテクニックⅣ-2

1823
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
1単位　後期
佐藤　　真左美

〔到達目標〕
卒業公演の本番舞台でクラシックバレエダンサーとして観衆を魅了する演技をする。
〔授業の概要〕
授業開始から30分間：基礎体力のための中級レベルのバレエレッスン
50分間：クラシックバリエーション（ソロ）の踊りの練習
10分間：フィードバックと次の授業での目標項目の設定

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前10分間各自ストレッチ、授業終10分間：各自クールダウンのストレッチ
授業時間外の準備学習として週2時間から3時間のボディメンテナンスのためのトレーニングを行う
〔授業計画〕
第 1 回　リハーサル１
各自、卒業公演で踊る演目のリハーサル開始
正しく振付を覚える
第 2 回　リハーサル２
実際に音楽と一緒に練習してみる
第 3 回　リハーサル３
繰り返し練習
スタミナの維持
第 4 回　リハーサル４
本番同様に演目順にリハーサルする
不具合な点、振付が曖昧な点などをチェックする
第 5 回　リハーサル５
前回のフィードバックから、改善の点があった場合なまずそこから直しを開始する
各自の出来栄え点など意見を出し合い、後半のリハ運営に繋げる
第 6 回　リハーサル６
再び繰り返し練習と全体リハ
第 7 回　リハーサル７
再び繰り返し練習と全体リハ
第 8 回　舞台を想定しての通し稽古
実際の本番と同じ順番で、本番同様にリハをしてみる
第 9 回　問題点の改善のために
前回のリハからの反省点と、不具合な点をやり直す。
バレエコース全員の作品に対する理解度、モチベーションなども話しあう
第 10 回　卒業公演本番
バレエコース全員の力で、よりよい舞台を創るようにチーム一丸で取り組む

第 11 回　卒業公演反省会
卒公を終えての反省点と、自分に変化が起きたかどうかなど、全員での
ディスカッションを中心の授業
第 12 回　後期試験課題提示
後期試験の課題提示
リハ開始
第 13 回　後期試験課題提示
後期試験の課題提示
リハ開始
第 14 回　中間発表
各自、課題の踊りを実演する
第 15 回　最終リハ
後期試験のための課題曲の最終リハーサル

〔成績評価〕

・課題提出３０％　　・授業時間内評価６０％（積極的発言、質疑応答能力）
・授業時間内制作発表　１０％

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

毎週水曜日　昼休み時間（11時30分～12時10分）
バレエコース講師控え室で直接に質問、相談をお受けいたします

公演演習Ⅰ

1815
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　後期
佐藤　　真左美

〔到達目標〕

バレエコース卒業公演
公演当日までの制作日程、練習時間配分、演出部、衣装部、音響手配など公演事業を運営する作業工程《プラン》を実現させる

〔授業の概要〕

１:作業工程（スケジュール）に従って上演作品ためのリハーサル
２:担当部門の作業工程の報告と必要事項の要求などを話し合い
３:実技リハーサルと作業工程の話し合いの両方向からの授業体制のため、毎回必ず筆記用具
　ノートを持参。公演事業作業工程ファイルを作成する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業前10分間各自ストレッチ、ウォームアップ・授業終10分間各自クールダウンのストレッチ
授業時間外の準備学習として：週2時間から3時間のボディメンテナンスのためのトレーニングを行う。上演作品のための歴史背景等検索。

〔授業計画〕

第 1 回　上演作品選出《全体作品》
これまでのバレエコース卒業公演の作品紹介。
各年度の特有の作品選出について。作品選出に必要である事項について。
第 2 回　卒業生作品の説明
卒業生の創作作品、もしくは演出作品について。
卒業生作品は基本、卒業生が自ら創作、指導する。毎回個性のある作品、演出方法などを発表してきた。これについてのガイダンスを新入生と行う。
第 3 回　リハ開始　１
全体作品から振付開始
群舞から振付開始（全員必ず順番、振付は覚えること）
第 4 回　リハ　２
リハ１の内容を引き続き作業する
第 5 回　リハ　３
群舞の場面の出来上がりをチェック
ソリストなどの踊りの振付も開始
第 6 回　リハ　４
技術面の正確性、安定性、確実な重心バランスなど技術面の充実作業
第 7 回　リハ　５
リハ　４の内容を引き続き作業する
第 8 回　作品全体像を考える
技術面の確実、安定時期になってきたため、作品の時代背景など全体像について
全員で考察する
第 9 回　問題点をつくる
前回の作品像についての考察から、独自の作品像、理解度を高めるために
問題点（技術面だけでなく、時代背景にあった動作、動きの質）などについて
新たなる問題点（取り組み）を考える。
第 10 回　全体稽古（スタッフ下見）
舞台監督、照明のスタッフへの舞台作業プランの提出
衣装等のサンプル本の提出
全体リハ　《通し稽古》
第 11 回　下見の反省点
スタッフ下見からの反省点、弱点、などを選出、改善する
第 12 回　リハ映像からチェックする
毎回のリハの様子を画像保存。下見リハも終えたこの時期にあらためて画像確認して弱点の改善。
舞台表現の足りてない点に着目。
第 13 回　最終段階　通しリハ１

通し稽古
第 14 回　通しリハ２
通し稽古
第 15 回　最終リハ
通し稽古
〔成績評価〕
・課題提出３０％　　・授業時間内評価５０％（積極的発言、質疑応答能力）
・授業時間内制作発表　２０％

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
毎週水曜日（昼休み時間　１１時３０分～１２時１０分）
バレエコース講師控え室にて　質問、相談を受けます

バレエテクニックⅡ-2

1817
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
1単位　後期
佐藤　　真左美

〔到達目標〕
卒業公演の本番舞台でクラシックバレエダンサーとして観衆を魅了する演技をする。
〔授業の概要〕
授業開始から30分間：基礎体力のための中級レベルのバレエレッスン
50分間：クラシックバリエーション（ソロ）の踊りの練習
10分間：フィードバックと次の授業での目標項目の設定
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前10分間各自ストレッチ、ウォームアップ、授業終10分間各自クールダウンのストレッチ
授業時間外の準備学習として：週2時間から3時間のボディメンテナンスのためのトレーニングを行う
〔授業計画〕
第 1 回　リハーサル1
各自、卒業公演で踊る演目のリハーサル開始
正しく振付を覚える
第 2 回　リハーサル２
実際に音楽と一緒に練習してみる
第 3 回　リハーサル３
繰り返し練習
スタミナの維持
第 4 回　リハーサル４
本番同様に演目順にリハーサルする
不具合な点、振付が曖昧な点などをチェックする
第 5 回　リハーサル５
前回のフィードバックから、改善の点があった場合なまずそこから直しを開始する
各自の出来栄え点など意見を出し合い、後半のリハ運営に繋げる
第 6 回　リハーサル６
再び繰り返し練習と全体リハ
第 7 回　リハ―サル７
再び繰り返し練習と全体リハ
第 8 回　舞台を想定しての通し稽古
実際の本番と同じ順番で、本番同様にリハをしてみる
第 9 回　問題点の改善のために
前回のリハからの反省点と、不具合な点をやり直す。
バレエコース全員の作品に対する理解度、モチベーションなども話しあう
第 10 回　卒業公演本番
バレエコース全員の力で、よりよい舞台を創るようにチーム一丸で取り組む
第 11 回　卒業公演反省会
卒公を終えての反省点と、自分に変化が起きたかどうかなど、全員での
ディスカッションを中心の授業
第 12 回　後期試験課題提示
後期試験の課題提示
リハ開始
第 13 回　後期試験課題
後期試験の課題提示
リハ開始
第 14 回　中間発表
各自、課題の踊りを実演する
第 15 回　最終リハ
後期試験のための課題曲の最終リハーサル
〔成績評価〕
・課題提出３０％　　・授業時間内評価6０％（積極的発言、質疑応答能力）
・授業時間内制作発表　１０％
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
毎週水曜日　昼休み時間（11時30分～12時10分）
バレエコース講師控え室で直接に質問、相談をお受けいたします

振付Ⅱ-2

1824
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　後期
佐藤　　真左美

〔到達目標〕
振付作品を劇場で上演する（卒業公演の実施)
〔授業の概要〕
授業開始15分間：ウォームアップ・基礎体力運動
70分間：振付作品リハーサル
5分間：次回のための振付作業工程を話し合う
〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
授業ノート作成をする
授業開始前10分間：各自でのストレッチ、ウォームアップ
授業終了10分間：グループメンバー同士でのフィードバックとお互いの評価をする
準備学習：古典バレエ作品の鑑賞、画像検索　（120分程度の作品）

〔授業計画〕
第 1 回　振付作業１
振付者による振付開始
各踊りごと（小グループ）での作業をする
第 2 回　振付作業２
振付者による振付開始
各踊りごと（小グループ）での作業をする
第 3 回　振付作業３
振付者による振付開始
各踊りごと（小グループ）での作業をする
第 4 回　振付作業４
振付者による振付開始
各踊りごと（小グループ）での作業をする
第 5 回　中間報告会
各グループごとの中間発表を行う。
フォーメーションの不具合などを調整する
第 6 回　リハーサル１
４年生担当作品を中心でのリハーサルをする
第 7 回　リハーサル２
４年生担当作品を中心でのリハーサルをする
第 8 回　スタッフ下見
劇場スタッフ下見
各担当者は、自分の担当する演目の作業プランを作成し、スタッフに説明をする
第 9 回　リハーサル３
全員での通し稽古
第 10 回　卒業公演本番
卒業公演本番
・劇場入り～本番終了までのスケジュールを滞りなく運営する
・現場ノート作成する
第 11 回　卒業公演の反省会
卒業公演の反省会と成果についての話し合いをする。
第 12 回　後期試験のための課題について
後期試験課題のための振付作業開始する
第 13 回　後期試験課題に取り組む
振付作業をする
第 14 回　中間報告
各自の取り組みの様子を報告する。
不具合な点などあったらば話し合いをする。改善と発展を目標とする。
第 15 回　事前発表
実際の試験と同じ状況での各自の作品発表をする
〔成績評価〕
課題提出30%
授業時間内評価（積極的発言、制作発表）４０％
卒業制作の発表 30%
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
毎週水曜日　昼休み時間（11時30分～12時10分）
バレエコース講師控え室で直接に質問、相談をお受けいたします

振付Ⅲ-2

1825
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　後期
佐藤　　真左美

〔到達目標〕
振付作品を劇場で上演する（卒業公演の実施)
〔授業の概要〕
授業開始15分間：ウォームアップ・基礎体力運動
70分間：振付作品リハーサル
5分間：次回のための振付作業工程を話し合う
〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
授業ノート作成をする
授業開始前10分間：各自でのストレッチ、ウォームアップ
授業終了10分間：グループメンバー同士でのフィードバックとお互いの評価をする
準備学習：古典バレエ作品の鑑賞、画像検索　（120分程度の作品）
〔授業計画〕
第 1 回　振付作業１
振付者による振付開始
各踊りごと（小グループ）での作業をする
第 2 回　振付作業２

振付者による振付開始
各踊りごと（小グループ）での作業をする
第 3 回　振付作業３
振付者による振付開始
各踊りごと（小グループ）での作業をする
第 4 回　振付作業４
振付者による振付開始
各踊りごと（小グループ）での作業をする
第 5 回　中間報告会
振付者による振付開始
各踊りごと（小グループ）での作業をする
第 6 回　リハーサル１
４年生担当作品を中心でのリハーサルをする
第 7 回　リハーサル２
４年生担当作品を中心でのリハーサルをする
第 8 回　スタッフ下見
劇場スタッフ下見
各担当者は、自分の担当する演目の作業プランを作成し、スタッフに説明をする
第 9 回　リハーサル３
全員での通し稽古
第 10 回　卒業公演本番
卒業公演本番
・劇場入り～本番終了までのスケジュールを滞りなく運営する
・現場ノート作成する
第 11 回　卒業公演の反省会
卒業公演の反省会と成果についての話し合いをする
第 12 回　後期試験のための課題について
後期試験課題のための振付作業開始する
第 13 回　後期試験課題に取り組む
振付作業をする
第 14 回　中間報告会
各自の取り組みの様子を報告する。
不具合な点などあったらば話し合いをする。改善と発展を目標とする。
第 15 回　事前発表
実際の試験と同じ状況での各自の作品発表をする

〔成績評価〕
課題提出30%
授業時間内評価（積極的発言、制作発表）４０％
卒業制作の発表 30%

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
毎週水曜日　昼休み時間（11時30分～12時10分）
バレエコース講師控え室で直接に質問、相談をお受けいたします

接客ｻｰﾋﾞｽﾏﾅｰ実習論

2014
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
多田羅　理恵

〔到達目標〕
航空業界やホテル業界で必要なサービスマナー全般について学び、就職後すぐに実践に移せるようにすることが目標。身だしなみや所作などの外的要素だけでなく、内面からの美しさを兼ね備えた人になること目指す。

〔授業の概要〕
接客業で大切な接客応対について学ぶにあたり、まずは自己分析をしグループワークを通して他人から自分がどう見られているのかを知ることからはじめる。
常に人から見られていることで意識しなければいけないのは姿勢。
この授業では毎回ヨガを30分ほど取り入れ（月末には1時間のヨガレッスン）、自分の心と身体に向き合う時間をとる。ヨガを通して自分を客観視することでの気づきを得る。姿勢改善のみならず集中力を養うことを目的とする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
自己分析
自己PRを考える

心と身体の状態を観察し、ヨガをしていくことでの心身の変化についてのレポート課題

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
自己紹介
椅子を使ったチェアヨガ体験
第 2 回　サービスマナーの基本
マナーとは
第一印象の大切さを学ぶ
自己分析と人からの評価を知る（グループワーク有り）
第 3 回　身だしなみの基本
おしゃれと身だしなみの違いを知る
服装・ヘアスタイル・メイク・香りの印象について学ぶ
第 4 回　挨拶とは/姿勢と心理の関係を知る
動作や態度を通して与える印象について学ぶ
間違った敬語や言葉遣いを知る
ペアワークを通して実体験から姿勢と心理の関係を学ぶ
第 5 回　自分の心と身体を観察するヨガ体験
ヨガマットの上で１時間のヨガを体験する
レッスン前後の自分の心身の変化を記録する

第 6 回　お辞儀と接客用語
TPOに合わせたお辞儀について学ぶ
接客に必要な10大用語を知る
電話応対について学ぶ
第 7 回　ホスピタリティー/なぜ航空業界やホテル業界なのか
ホスピタリティーとは何かを知る
何のためにホテルで働きたいのか、航空業界で働きたいのか、お客様に何を提供したいのかを改めて考える
第 8 回　自分の内側に目を向け心身のメンテナンスを行う
ヨガマットの上で１時間のヨガレッスンを体験する
自分の心と身体の変化を感じる
第 9 回　ホスピタリティーエピソードのシェア
リッツカールトンでのおもてなしについて知る
ディズニーランドでのエピソードについて、グループワークで考える
第 10 回　サービスとホスピタリティーの違い
第９回で学んだホスピタリティーをふまえて、改めてサービスとホスピタリティーの違いを学ぶ
第 11 回　コミュニケーションについて
バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションについて知る
第 12 回　ヨガをしていく中での自分の変化を感じる
ヨガマットの上で１時間のヨガレッスンを体験する
ヨガを続けていく中で感じた心身の変化を、レポートに繋げる
第 13 回　初対面の会話術/人間関係とコミュニケーション
話し方のポイントを学び、注意点を知る
会話の進め方を知る
反射の原則と共感の法則について知る
聴くということの重要性を学ぶ
第 14 回　就職活動のマナー
会社訪問時のマナーを知る
入室時退出時のマナー、面接中の姿勢を学ぶ
面接の練習
第 15 回　定期試験
定期試験

〔成績評価〕
受講態度及び定期試験（筆記試験）等による評価とする
定期試験　50%
レポート課題　20%
授業への取組み　30%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
接客１年生　お客さまに信頼される50のコツ　ダイヤモンド社
JALの心づかい　河出書房新社
その他、適宜授業内で紹介

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
履歴書の書き方や面接の指導をします

情報数理学Ⅱ

4302
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
若杉　　祥太

〔到達目標〕
・表計算ソフト及び高度な統計処理ソフトの操作技法を身に付ける。
・シミュレーションや授業分析、論文作成のための高度な統計処理方法について知る。
・アンケートなどのデータをもとに高度な統計分析ができる。

〔授業の概要〕
表計算ソフト及び高度な統計処理ソフトを用いて、高度な統計処理方法を学ぶ。また、演習を通して知識と技能を身に付ける。実際には、WEBアンケート作成やフィールド調査を行い、収集したデータをもとに分析を行う。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
高度な授業分析や卒業論文作成などのために、必ず身に付けないとならない知識技能であり、
しっかりと身に付くまで授業外学習をすること。
予習：毎時指定した教科書範囲を熟読してくること（毎回2時間）。
復習：毎時指定した教科書の知識問題・実践問題を解いてくること（毎回2時間）。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報数理学Ⅱの概要
第 2 回　平均値の比較
帰無仮説と対立仮説、t検定とF検定
第 3 回　母集団の分散の比較
F検定による分析方法と等分散・不偏分散
第 4 回　等分散のｔ検定
等分散のｔ検定による分析方法
第 5 回　不偏分散のｔ検定
不偏分散のｔ検定による分析方法
第 6 回　対応のあるｔ検定
対応のあるｔ検定による分析方法
第 7 回　比率の比較
比率の比較と期待値の算出の統計的理解、X2検定による分析方法
第 8 回　分散分析

分散分析の統計的理解とF分布
第 9 回　1要因の分散分析
1要因の分散分析と統計的理解
第 10 回　2要因の分散分析
2要因の分散分析と統計的理解
第 11 回　テキストマイニング
形態素解析とクラスタ分析、共起ネットワーク、コレスポンデンス分析
第 12 回　論文作成のための統計分析記述方法
図表の作成方法と有効数字、表記法
第 13 回　アンケート作法とWEBアンケート作成
さまざまなアンケートと尺度、WEBを用いたアンケート作成方法
第 14 回　アンケート調査と分析
アンケート調査と分析
第 15 回　最終発表とまとめ
アンケート調査・分析結果の発表と学習のまとめ

〔成績評価〕
最終分析発表（50%）
レポート課題（50%）
※レポート課題については評価後、個別コメントつけて返します。

〔教科書〕
相澤裕介「統計処理に使うExcel 2016活用法―データ分析に使えるExcel実践テクニック」カットシステム、2016（2200円（税抜））

〔参考文献〕
後藤正幸　他「ビジネス統計　統計基礎とエクセル分析（ビジネス統計スペシャリスト・エクセル分析スペシャリスト対応）」オデッセイコミュニケーションズ、2015（2500円(税抜)）

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、情報システム（実習を含む。）、高一種（情報）、選択

【実務経験の活用】
各種調査分析担当の経験より効果的な統計的理解を指導する。

〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 2限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

マルチメディア技術Ⅱ

4304
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
谷口　知司

〔到達目標〕
・マルチメディア技術が社会の様々な分野で活用されている実態について理解する。
・マルチメディア技術を利用・活用する上で必要な情報モラルについて理解する。
・教材開発などで留意すべき権利関係について法規も含め基本的な理解ができる。
・マルチメディア技術をコミュニケーションに活用するための教員として必要な知識技能を習得する。

〔授業の概要〕
マルチメディア技術が社会の様々な分野で活用されている実態について理解するとともに、その特性や仕組みについての理解を深める。また、マルチメディア技術との関わりからメディアリテラシーや情報モラル、権利関係法規などについても考える。さらに、演習では、マルチメディア技術の社会での活用事例の知識を前提として、それらを教育コミュニケーションにどのように活用していくかについて、教員として必要な知識技能の習得を目指す。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
課題作成においては授業時間外の予習および復習、グループ学習が必要です。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、マルチメディア技術の概要
第 2 回　ソーシャルメディア
コミュニケーションの進化と形態、ソーシャルメディアの影響
第 3 回　社会インフラとサービス
交通、医療、福祉
第 4 回　ビジネスを支えるメディア
金融、電子商取引、マーケティング
第 5 回　教養とエンタテインメント
書籍、音楽、映像・画像、ゲーム
第 6 回　生活環境を支えるメディア
生活館きゅを支える様々なメディア
第 7 回　メディアと情報モラル①
メディアリテラシー、情報モラル
第 8 回　メディアと情報モラル②
合意形成、問題解決
第 9 回　メディア活用と法規
著作権を中心に
第 10 回　メディアと人間の発達
メディア社会、メディアと人間の発達
第 11 回　メディア社会の行方
情報技術の発展と社会、情報社会人

第 12 回　マルチメディア技術の活用①
マルチメディア技術と教育コミュニケーションに関する演習
第 13 回　マルチメディア技術の活用②
マルチメディア技術と教育コミュニケーションに関する演習
第 14 回　マルチメディア技術の活用③
マルチメディア技術と教育コミュニケーションに関する演習
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
学習の振り返りとまとめ

〔成績評価〕
演習30%
レポート30%
課題発表40%

〔教科書〕
小泉宣夫・圓岡偉男「情報メディア論」講談社、2016（2400円（税抜））

〔参考文献〕
文化庁『著作権テキスト』https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/92466701_01.pdf

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）、高一種（情報）、選択

〔オフィスアワー〕
授業時間の前後

自動車工学実験実習Ⅱ

3251
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
成瀬　　優享

〔到達目標〕
自動車の基本構造 と各構成部分品の作動の原理を習得し、説明できるようになる。
基本的な構造を理解した上で、必要な整備を実施できるようになる。

〔授業の概要〕
実習を中心とし、自動車の動力源となるエンジンの分解組立な どを行いエンジン構造や作動原理など、国土交通省が定める養成課程の 実習を実施する。
それぞれの講義で作業効率化、危機管理等について討議し、学びの出力を行い考えをまとめる力と学びを実行する能力を高めるため、アクティブラーニングを実施する。
※自動車工学実験実習Ⅰを履修のこと
※PPE（Personal protection Equipment：個人保護装備）を備えない場合、出席を認めない
※原則的に対面授業とするが、感染症・その他事情によりオンデマンド授業を併用する場合があるので、通信環境を整えておくこと

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に指定する箇所の予習（90分）を実施すること。
授業終了後、課題を配布するので、内容を復習し次回授業開始時に提出すること。

〔授業計画〕
第 1 回　材料・特性
自動車に用いられる材料と特性に関して、基礎知識から環境問題を含めた応用までを取り扱う。
第 2 回　機械要素
ネジ・歯車・等基本構成部品を確認し、身近な物でそれらの機構がどのように用いられ、どのような問題が生じているのかをグループ討議し、発表を行う
第 3 回　自動車電装原理・作動・構造の概念
自動車電装部品の模型や実物の分解実習を通じ、電装の原理・動作・構造の概念を学ぶ
第 4 回　エンジン分解・測定実習Ⅰ
エンジンを分解し、組み立てや調整を前提とした整理方法を学ぶ
第 5 回　エンジン分解・測定実習Ⅱ
分解した部品ごとの洗浄方法や管理方法の考え方を実技を通じて学ぶ
第 6 回　エンジン分解・測定実習Ⅲ
分解後の部品の検査の必要性とその方法を実技を通じて学ぶ
第 7 回　エンジン分解・測定実習Ⅳ
検査結果に基づき、調整や交換を行いエンジンを組み立てる方法を学ぶ
第 8 回　エンジン分解・測定実習Ⅴ
組み立てたエンジンの最終調整・完成検査の実施
第 9 回　エンジン調整・完成検査
作業班ごとに作業に関する統括・発表を行う
第 10 回　トランスミッション実習Ⅰ
エンジン作業で習得した技能を踏まえ、分解洗浄を実施する
第 11 回　トランスミッション実習Ⅱ
エンジン作業で習得した技能を踏まえ、調整・組み立てを実施し、作業に関する取り纏めと発表を行う
第 12 回　クラッチ・プロペラシャフト・デフ分解・調整・測定・組み立て
単体部品を用い、それぞれの分解組み立て作業を実施し、作業方法や注意点を確認し、その発表を行う
第 13 回　ブレーキキャリーパー関係分解・調整・測定・組み立て
単体部品を用い、それぞれの分解組み立て作業を実施し、作業方法や注意点を確認し、その発表を行う

第 14 回　ブレーキマスターシリンダー分解整備
単体部品を用い、それぞれの分解組み立て作業を実施し、作業方法や注意点を確認し、その発表を行う
第 15 回　各種保安灯火装置点検調整・保安
灯火類の点検・交換・調整方法・基準を学ぶ

〔成績評価〕
試験50％課題・小テスト25％態度行動、取り組み評価25％

〔教科書〕
国土交通省自動車局監修 自動車整備士養成課 程 教科書
・基礎自動車整備作業
・基礎自動車工学

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
【実務経験の活用】
整備士としての実務経験を活かし、自動車や自転車の整備作業実習をおこなう。また、物販や在庫管理に関わった経験から、関連する接客対応や商品の案内方法等を統合し、連結した実習授業の展開を行う。
潜水士として従事した各種業務より、安全・危機管理を取り入れた実技実習を行っている。

〔オフィスアワー〕
火曜日2限目（12時10分～13時40分）
※授業準備等により不在となる可能性があるため、事前に連絡すること

キャリア基礎　経営⑤

8131
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
成瀬　　優享

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
2) 円満に意志疎通を図ることができる。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
4) 論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲を持つことができる。

〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、前期はクラスまたは学科を軸に活動する。
・授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動（アクティブラーニング）である。
・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
・毎時記入する小レポートは担当教員が採点返却する。これはプレゼンテーション能力を育む。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、各自で身に着けておくことを推奨する。
・次週までの課題提示があるので、事前に熟読しておくことを望む。(準備と事後で約２時間)

〔授業計画〕
第 1 回　リーダーシップ論について
リーダーシップ論について
リーダーシップに必要な概念についての理解を深めることができるようになる。
第 2 回　キャリア形成（SPI、就職、教職試験対策）
就職に必要なさまざまな情報活用、スキルアップについての各種情報を得ることにより、自身のスキルアップ向上に貢献できるようになる。
第 3 回　学園祭について
大学のイベント、学園祭についての各種情報について知り、有意義な参加で楽しい学生生活を過ごすことができるようになる。
第 4 回　社会保障制度について
社会人になって加入する各種諸制度についての知識や理解ができるようになる。
第 5 回　ほめ言葉
ほめ言葉演習を通じ、相手のことを考えてコミュニケーションスキルを向上させることができる。
第 6 回　オーディエンス
聞き手のスタンスで相手に対する理解度、親密度の違いが理解できるようになる。
第 7 回　図形カード
的確な指示をおこなうための説明手順、効率的な会話技術について理解を深めることができるようになる。
第 8 回　各コース別クラスによるメニュー（1）
各コースに必要なメニューの紹介をし、事前情報を得ることで理解を深めることができる。
第 9 回　各コース別クラスによるメニュー（2）
各コースに必要なメニューの紹介をし、事前情報を得ることで理解を深めることができる。
第 10 回　（全）キャリア形成について（1）…働く…
就職部主催：働くことの意味、意義を知って、実際の就職活動や将来目指す職業への具体的な関心度を深める。
第 11 回　(全)キャリア形成について(2)…SPIなど…
就職部主催：就職試験の日程掌握、SPI対策、基礎学力向上の秘訣など、就職に必要な具体的キャリア形成をステップアップするための手法を知る。
第 12 回　（全）裁判員制度について

DVD映像、裁判員に選ばれた場合での各種判例ケースを想定し、裁判員の立場に立ったケースでの思考、知見を養う。

第 13 回　図書館の紹介
図書館の効率的な利用方法を知って、勉学や就職に役立つ情報入手方法の理解を深めることができるようになる。

第 14 回　キャリア形成について…先輩からのメッセージ…
就職が内定した4年生のインタビューを見て、就職についての理解をより現実的に深めることができる。

第 15 回　クラス別　後期試験レポート作成準備
卒論発表会日程の場合は参加をする。進級情報の整理掌握をする。

〔成績評価〕
・レポート評価100%
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる

〔教科書〕
相互理解を深める　コミュニケーション実践学 沖裕貴・林徳治 ぎょうせい ISBN9784324090053 ￥2,000　＋　税

〔参考文献〕
ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
火曜日　１２時１０分～１３時：４０分　（研究棟自動車職員室）
連絡先　naruse@ashiya-u.ac.jp 可能な限り、フォリーのメールで送ってください。
※授業準備等により不在となる可能性があるため、事前に連絡すること
その他　一部対面を除き、LMS科目です。

四輪自動車整備基礎2-Ⅱ

5406
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
池田　　和三

〔到達目標〕
各講義で使用する工具の知識と、使用方法を身に着ける。
実務現場での即戦力として活躍できる人材を育成する。

〔授業の概要〕
主に実技作業を通じて、それぞれの作業における技術・技能の向上を目指す。また、各回の最終回で、それぞれの学びをまとめ、発表を行う。
※四輪自動車整備基礎1－Ⅰ・1－Ⅱ・２－Ⅰ履修済み者を対象とする
※PPE（Personal protection Equipment：個人保護装備）を備えない場合、出席を認めない

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に指定する箇所の予習（90分）を実施すること。
授業終了後、課題を配布するので、内容を復習し次回授業開始時に提出すること。

〔授業計画〕
第 1 回　講義　補機付帯部品交換技術１
補器装置概論
第 2 回　実習　補機付帯部品交換技術２
補器付帯部品脱着
第 3 回　講義　故障・原因探究技術１
故障原因探求概論
第 4 回　実習　故障・原因探究技術２
故障探求
第 5 回　講義　ハイブリッド車両・電気自動車１
ハイブリッド車概論
第 6 回　実習　ハイブリッド車両・電気自動車２
絶縁工具取扱
第 7 回　実習　ハイブリッド車両・電気自動車３
メインバッテリー脱着
第 8 回　講義　各種適合表読解
適合表読解技術
第 9 回　講義　各種適合表読解
適合表読解課題実践
第 10 回　講義　接客技術１
接客対応・受付　グループワーク
第 11 回　講義　接客技術２
接客対応・説明　グループワーク
第 12 回　講義　接客技術３
接客技術・原因の説明と対処の提案　グループワーク
第 13 回　講義　接客・作業フロー
受付・作業・引き渡し　グループワーク
第 14 回　実習　接客・作業１
作業・接客実践演習
第 15 回　実習　接客・作業２
作業・接客実践演習

〔成績評価〕
試験80% 課題・小テスト10% 態度行動、取り組み評価10%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
国土交通省自動車局監修 自動車整備士養成課程教科書
・基礎自動車整備作業
・基礎自動車工学

・三級・二級自動車ガソリンエンジン
・三級・二級自動車シャシ
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、その他
〔備考〕
【実務経験の活用】
整備士としての実務経験を活かし、自動車や自転車の整備作業実習をおこなう。また、物販や在庫管理に関わった経験から、関連する接客対応や商品の案内方法等を統合し、連結した実習授業の展開を行う。
潜水士として従事した各種業務より、安全・危機管理を取り入れた実技実習を行っている。
〔オフィスアワー〕
木曜日　11：30～12：10

自転車整備基礎Ⅱ

5401
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
成瀬　　優享

〔到達目標〕
機械装置や構造物の役割を視覚情報から判断できるようになる。
機械装置の役割に応じて､適切な調整ができるようになる。
競技用自転車の分解・組み立て・調整ができるようになる。
〔授業の概要〕
競技用自転車を用い、各部品の名称や使用工具名称を覚える事から始める。
それぞれの装置の役割や構造、動作原理を分解組み立て・調整作業を通じて理解していく。
※2級自動車整備士資格取得希望者は履修のこと
※自転車整備基礎Ⅰを履修のこと
※人留学生対象定員12名（内容からベトナム人留学生を優先とする）
※原則的に対面授業とするが、感染症・その他事情によりオンデマンド授業を併用する場合があるので、通信環境を整えておくこと
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に指定する箇所の予習（90分）を実施すること。
授業終了後、課題を配布するので、内容を復習し次回授業開始時に提出すること。
〔授業計画〕
第 1 回　各種ベアリングメンテナンス
各所に用いられているベアリング毎の役割を整理すると共に、用いられている素材やシールによって異なるメンテナンスを学ぶ
第 2 回　ホイールスポーク分解
ホイールスポークの役割、張力、材質や形状について学び、分解方法と状態評価を実施する
第 3 回　ホイールスポーク組付
ホイールやハブ、目的により異なるスポーク組付けパターンと、基礎的な組付け調整手順を学び組付けを実践する
第 4 回　ホイールの調整Ⅰ
ホイールの振れ取りとセンタリングの方法を学び、実践する
第 5 回　ホイールの調整Ⅱ
スポーク張力の調整と触れ取りを実践する
第 6 回　車両完成検査
組み立てたホイールや他部品を組付けし、車両完成検査の手順と故障探求を実施する
第 7 回　実技模擬試験
車両分解・組み立て模擬試験
第 8 回　実技模擬試験
車両分解・組み立て模擬試験
第 9 回　変速比の計算
変速比・車輪外径・速度計算
第 10 回　法令
自転車（軽車両）に関わる法令と保険
第 11 回　自転車の安全・保安装備
安全・保安装備の種類と取り付け方法、法令基準
第 12 回　学科模擬試験
学科模擬試験
第 13 回　車両メンテナンスⅠ
競技用自転車を想定したロールプレイング
第 14 回　車両メンテナンスⅡ
競技用自転車を想定したロールプレイング
第 15 回　車両メンテナンスⅢ
競技用自転車を想定したロールプレイングの振り返り
統括・発表
〔成績評価〕
試験50％ 小テスト・課題製作25％ 態度行動、取り組み評価25％
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
・自転車組立、検査及び整備マニュアル
・自転車技士学科試験過去問題

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他
〔備考〕
【実務経験の活用】
整備士としての実務経験を活かし、自動車や自転車の整備作業実習をおこなう。また、物販や在庫管理に関わった経験から、関連する接客対応や商品の案内方法等を統合し、連結した実習授業の展開を行う。
潜水士として従事した各種業務より、安全・危機管理を取り入れた実技実習を行っている。

〔オフィスアワー〕
火曜日2限目（12時10分～13時40分）
※授業準備等により不在となる可能性があるため、事前に連絡すること

四輪自動車整備基礎1-Ⅱ

5405
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
池田　　和三

〔到達目標〕
四輪自動車に関する各種工具の知識と、使用方法を身に着ける。
実務現場で基礎的な内容において即戦力として活躍できるようになる。
基本的な内装整備作業が出来るようになる。
〔授業の概要〕
主に実技作業を通じて、それぞれの作業における技術・技能の向上を目指す。また、各回の最終回で、それぞれの学びをまとめ、発表を行う。
※四輪自動車整備基礎1－Ⅰ履修済み者を対象とする。
※PPE（Personal protection Equipment：個人保護装備）を備えない場合、出席を認めない。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に指定する箇所の予習（90分）を実施すること
授業終了後、課題を配布するので、内容を復習し次回授業開始時に提出すること
〔授業計画〕
第 1 回　内装取り外し技術Ⅰ
　　ピラーと天井の取り外し
第 2 回　内装取り外し技術Ⅱ
　　ドアスイッチ、ドアの取り外し
第 3 回　内装取り外し技術Ⅲ
　　シート・フロアカーペット・センターコンソール取り外し作業
第 4 回　オーディオデッドニング技術
　　デッドニングの目的、種類、作業手順等
第 5 回　スピーカー交換作業
　　適合判別方法、故障・事故事例、脱着実技
第 6 回　ナビゲーション交換作業
　　適合判別方法、故障・事故事例、脱着実技
第 7 回　配線引き直し作業
　　配線新設に伴う注意点、事故事例、バッテリー直結配線引き込み実技
第 8 回　カメラ取付
　　バックカメラ取付作業実技
第 9 回　内装組戻し技術Ⅰ
　　内装組戻し実技
第 10 回　内装組戻し技術Ⅱ
　　内装組戻しと作業確認
第 11 回　音響調整概論
　　音響調整に用いる調整項目と目的
第 12 回　音響調整技術
　　音響調整実践
第 13 回　クイックサービス
　　各種クイックサービス実践
第 14 回　引き渡し前点検
　　車両引渡し前最終点検確認項目と引渡し方法
第 15 回　引き渡しロールプレイング
　　完成車両引渡しロールプレイング
〔成績評価〕
試験80％ 課題・小テスト10％ 態度行動、取り組み評価10％
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
国土交通省自動車局監修 自動車整備士養成課程教科書
・基礎自動車整備作業
・基礎自動車工学
・三級・二級自動車ガソリンエンジン
・三級・二級自動車シャシ
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、その他
〔備考〕
【実務経験の活用】
整備士としての実務経験を活かし、自動車や自転車の整備作業実習をおこなう。また、物販や在庫管理に関わった経験から、関連する接客対応や商品の案内方法等を統合し、連結した実習授業の展開を行う。
潜水士として従事した各種業務より、安全・危機管理を取り入れた実技実習を行っている。
〔オフィスアワー〕
木曜日　11：30～12：10

機械工作・計測実習Ⅱ

1245
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
成瀬　　優享

〔到達目標〕
整備士に求められる作業やそれに伴い発生する公害・災害を学ぶ。
整備作業における基本的工具名称を覚え、使用方法を習得する。
工作機器・計測工具の安全な取り扱いに関する技能を習得する。
各種保護具の適切な取り扱い及び運用を学ぶ。
機器類取り扱いに関連する労働安全衛生法等の関連法を知る。
〔授業の概要〕
項目に沿った実習を主体として実施する。
計測作業や工作の基礎を身に着け、課題製作を実施する。

課題製作過程において、どのような危険が考えられたか、効率化するためにどのような点を工夫したかなどの発表・議論を行い学びを深める。それぞれの単元ごとに取り組みを振り返りグループディスカッションを行う。
※機械工作・計測実習Ⅰを履修のこと
※日本人学生においては、1年次　機械整備基礎を履修のこと
※留学生においては、1年次　自転車整備基礎を履修のこと
※PPE（Personal protection Equipment：個人保護装備）を備えない場合、出席を認めない
※原則的に対面授業とするが、感染症・その他事情によりオンデマンド授業を併用する場合があるので、通信環境を整えておくこと

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に指定する箇所の予習（90分）を実施すること。
授業終了後、課題を配布するので、内容を復習し次回授業開始時に提出すること。

〔授業計画〕
第 1 回　ホイールアライメントテスター類
第 2 回　コンプレッションゲージ・ラジエータープレッシャーテスター オイルプレッシャーゲージ・パキュームゲージ
第 3 回　タイミングライト・サーキットテスター
第 4 回　電装品用テスター
第 5 回　エンジン点検作業
第 6 回　バッテリーテスター・充電作業
第 7 回　その他整備作業 検査用機械装置
第 8 回　車体洗浄機作業実技
第 9 回　バルブシートグラインダー、スプリングゲージ
第 10 回　電気溶接実技
第 11 回　アルミ溶接技術
第 12 回　小型モビリティに関する課題作業の実施
第 13 回　小型モビリティに関する課題作業の実施
第 14 回　小型モビリティに関する課題作業の実施
第 15 回　小型モビリティに関する課題作業の実施

〔成績評価〕
試験50% 課題製作・小テスト25% 態度行動、取り組み評価25%

〔教科書〕
国土交通省自動車局監修 自動車整備士養成課程 教科書
・基礎自動車整備作業
・基礎自動車工学

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
【実務経験の活用】
整備士としての実務経験を活かし、自動車や自転車の整備作業実習をおこなう。また、物販や在庫管理に関わった経験から、関連する接客対応や商品の案内方法等を統合し、連結した実習授業の展開を行う。
潜水士として従事した各種業務より、安全・危機管理を取り入れた実技実習を行っている。

〔オフィスアワー〕
火曜日2限目（12時10分～13時40分）
※授業準備等により不在となる可能性があるため、事前に連絡すること

航空事業概論

7305
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
東山　愛

〔到達目標〕
エアライン業界に関心を持つ学生に、航空事業で行われている輸送・サービス全体について最新の情報や体験談を交えて、分かりやすく講義する。また、航空会社をはじめとする航空関連産業で働くためにどうすれば良いのか、どういう意識を持てば良いのか等、就業意識や社会で働く力を高めることを目標とする。

〔授業の概要〕
パワーポイントを使用しての授業とする。講義を理解しやすいように適宜プリントを配布する。また、参考に関連映像を視聴する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
日頃より航空産業における報道などに関心を払うこと。また、毎回のテーマに沿って、疑問点・関心ごとを整理するなどの事前準備をしてくること。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
講座概要・受講ルール・評価の説明
第 2 回　エアライン業界の概要
一機の飛行機が運航するために様々な業務の役割と専門性が求められている。航空業界全体のイメージについて講義する。
第 3 回　定時・快適・利便の追求
顧客が求めるサービス品質を理解し、専門的な業務により高い品質を提供することが求められていることを理解する。
第 4 回　情報・予約部門
航空券の予約部門、航空輸送サービスを提供するため情報部門は必須である。最新の予約・情報部門について航空券販売方式なども含め解説する。
第 5 回　空港サービス①
最新の空港事情・空港の役割重要性や課題を含めて考察する。
第 6 回　空港サービス②
空港の花形であるグランドスタッフの業務について理解を深める。
第 7 回　運航支援（オペレーション）
運航方式、管制、飛行ルートなどを解説。飛行機はなぜ飛ぶのかについてもわかりやすく説明。お

客様から見えない場面での業務のホスピタリティを実感する。

第 8 回　運航乗務員・整備士
エアラインにとって最も重要な安全を支えるパイロットと整備士の仕事を取り上げ、お客様に提供するサービスについて考える

第 9 回　客室乗務員
華やかに見えるCAの実態や厳しい訓練についても具体的に解説する。

第 10 回　機内サービス
機内を快適に過ごしていただく為の機内サービス。機内食工場から毛布に至るまで機内サービスのハードウエアについて解説する。

第 11 回　航空貨物
最速の物流手段である航空貨物。貨物専用機の驚くべき輸送能力や特別な輸送機材などを学習。

第 12 回　エアラインサービスの多様化
LCCとFSCのサービス比較。多様な顧客ニーズへの対応（ユニバーサルサービスなど）

第 13 回　航空と安全
航空最大の使命である安全性。航空産業が如何に自己を撲滅させるために努力しているかを具体例を交えて解説する。

第 14 回　エアラインを支える様々な仕事
安全に定時に運航し、お客様に快適に過ごしていただくために重要な様々な仕事を解説する。

第 15 回　まとめ
今までに学んできたことの復習と確認

〔成績評価〕
●定期試験　60%
●授業内レポート　20%
●授業への取り組み・態度　20%（提出期限厳守・レポート提出時コピペ厳禁など）

〔教科書〕
特になし。適宜、プリントを配布する。

〔参考文献〕
航空産業入門（ANA総合研究所）東洋経済出版
日本の空を問う（伊藤元重）日本経済新聞社

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
後期　月曜日　12時30分から13時30分
LMSを予定しているため、質問・相談はメールかPhollyのメッセージで受付。
メールアドレス：higashiyama@ashiya-u.ac.jp

技術科総合演習

3404
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
安東　茂樹

〔到達目標〕
・技術科教員として教科内容を理解し指導法を確立する。(知識･技能，関心･意欲，主体的態度)
・技術科教育における教材（題材・教材教具）の意義を理解しその開発ができる。(知識･技能，思考･判断)
・技術科教育の学習指導案を作成し授業実践できる。(知識･技能，思考･判断･表現，主体的態度)

〔授業の概要〕
授業テーマとして「技術科教育の目標及び内容の総括とその実践」「教材（題材や教材教具を含む）意味と在り方，及び作成」「学習指導案の示し方とその授業実践」について取り組む。

技術科教育の応用発展として，技術科教育がめざす指導法，教材（題材を含む）の在り方，実際に求められる評価の在り方などについて扱い，授業内容についてディスカッションを通してまとめる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業外の学習として，「技術科教育概論」の講読と課題レポート，関連書物の読解，学習指導案の作成等を求める。

具体的には，「授業前の購読や読解（90 分）」「授業後のレポート作成等（90 分）」

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
技術科総合演習の授業のとらえや時間外学習の内容理解

第 2 回　「技術科教材論」の理解（その１）
教材開発の視点の読解と理解

第 3 回　「技術科教材論」の理解（その２）
教材開発の方法とその実践

第 4 回　「技術科教材論」の理解（その３）
製作題材と導入題材の理解と実践

第 5 回　ディスカッション（その１）
教材開発についての考察

第 6 回　ディスカッション（その２）
自分で考えた教材の具体化

第 7 回　ディスカッション（その３）
自分で考えた教材の意義や実践を発表

第 8 回　中間評価
これまでの学修で学んだことをまとめて発表

第 9 回　「技術科教育概論」の理解（その１）
技術科の指導計画　（読解と発表）

第 10 回　「技術科教育概論」の理解（その２）
技術科の授業設計（読解と発表）

第 11 回　「技術科教育概論」の理解（その３）
技術科の授業分析（読解と発表）

第 12 回　「技術科教育概論」の理解（その４）

技術科の学習指導（読解と発表）
第 13 回 「技術科教育概論」の理解（その５）
技術科の学習評価（読解と発表）
第 14 回 ディスカッション
技術科教育の教員として求められるものについての追求
第 15 回 最終評価
自分の考える技術科教育についての追求（レポート課題）

〔成績評価〕
レポート（30%），授業における課題への取組状況(40%)，授業での発表等（30%）で総合的に評価する。

〔教科書〕
新編 技術科教材論（令和3年4月 竹谷出版）
技術科教育概論（平成30年4月 日本産業技術教育学会 技術教育分科会）
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
技術・家庭の教科書(令和3年2月 開隆堂，東京書籍，教育図書）
技術科教育の研究（1993年4月 日本産業技術教育学会編）

〔参考文献〕
授業中に適宜、資料を配布する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場の経験を活かして、学校教育における技術科教育の指導法の在り方、教材開発の方法、及び評価活動の方法など、具体的・実践的に導入し指導する。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期　②水曜日 11:00~12:00、金曜日 12:30~13:30
③研究棟 安東研究室　④s-andoh@ashiya-u.ac.jp　⑤その他(来室の際、事前にメールでアポイントを取ること)

中等教科教育法Ⅱ（技術）

4325
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
安東　茂樹

〔到達目標〕
・技術科教育の授業を実践するために，中等教科教育法Ⅰで学んだ基礎・基本の知識・技能をベースに応用・発展的な指導力を習得する。(知識･技能，関心･意欲･態度)
・技術科の教材化として，地域性や学校の独自性に対応できる教材の作成ができる。(思考･判断･表現)
・実際の授業で，よりわかりやすい授業が遂行できる実践力を身に付け，共に学ぶ仲間と協働し，技術科教育に関する理解を深める。(関心･意欲･態度，知識･技能)

〔授業の概要〕
毎時、体験的な授業で教師力を育成します。技術科教育を総括的に整理し，各内容の指導での強みと弱みを知り補完する。
実際の教育現場、授業の見学によって，さらに指導力を高める。また，技術科教育を深く理解するために，共に学ぶ仲間とチームを組み，教科書内容の比較研究を実施する。
加えて，先輩教員を招聘し教育現場の実情を理解する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
「授業前の予習（90 分)」「授業後に学校訪問等の実践的活動(90 分)」

〔授業計画〕
第 1 回 授業のはじめに（1）
主体的で対話的な深い学びを実施するための教科指導のポイント
第 2 回 授業のはじめに（2）
情報機器の活用と教材のデジタルアーカイブ
第 3 回 エネルギー変換（1）
学習指導要領を読み解くNo4：エネルギー変換
第 4 回 エネルギー変換（2）
技術分野の指導法④：電気・機械等の指導とエネルギー変換の仕組・伝達について指導の育成
第 5 回 エネルギー変換（3）
学習指導案の作成(3)：エネルギー変換の分野における学習指導案の作成
第 6 回 情報の技術（1）
学習指導要領を読み解くNo5：情報の技術
第 7 回 情報の技術（2）
技術分野の指導法⑤：ネットワーク利用の双方向性あるコンテンツのプログラミングの指導方法
第 8 回 情報の技術（3）
技術分野の指導法⑥：計測･制御のプログラミングの教材化と指導方法
第 9 回 情報の技術（4）
学習指導案の作成(4)：情報の分野における学習指導案の作成
第 10 回 学校訪問
授業見学および指導方法の研究
第 11 回 模擬授業③
グループ学習の形態でのマイクロティーチング，一人5分程度（エネルギー変換）
第 12 回 模擬授業④
グループ学習の形態でのマイクロティーチング，一人5分程度（情報の技術）
第 13 回 招聘講師による講話
本学卒業生の技術科教員を招聘した実践的な講話およびQ＆A
第 14 回 授業のまとめ（1）
指導と評価の一体化，観点別評価の方法，絶対評価と相対評価
第 15 回 授業のまとめ（2）
技術科教育の役割と現状の課題

〔成績評価〕
定期試験（30%），毎時の授業に関する小レポート（40%），授業への学ぶ姿勢と取り組み（30%）

〔教科書〕
・『アクティブ・ラーニングで深める技術科教育』（平成27年10月 開隆堂)
・中学校技術･家庭科文科省検定教科書（令和3年2月 開隆堂，東京書籍，教育図書）
・中学校技術･家庭科 学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）
〔参考文献〕
中学校技術科学習ノート（開隆堂出版），その他随時配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。)、中一種（技術)、必修
【実務経験の活用】
教育現場の経験を活かして、学校教育における技術科教育の指導法の在り方、教材開発の方法、及び評価活動の方法など、具体的・実践的に導入し指導する。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期　②水曜日 11:00~12:00、金曜日 12:30~13:30
③研究棟 安東研究室　④s-andoh@ashiya-u.ac.jp　⑤その他(来室の際、事前にメールでアポイントを取ること）

電気電子工学Ⅰ【教職】

2130
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
中岡　　禎雄

〔到達目標〕
・中学校技術・家庭「技術分野」における，「エネルギー変換の技術」の指導に必要な電気、電子工学の専門的な知識を身につける（知識・理解）
・電気エネルギーを安全かつ有効に利用することを指導するための技能と指導力を身につける（技能）
・持続可能な社会の構築につながる電気エネルギーの活用について関心を高め、意欲的に学習や教材製作に取り組む(関心・意欲）
・実験や教材製作を通して、新たな工夫の可能性を探ることができる(創意工夫)
〔授業の概要〕
・実験や学習者同士の話し合いの活動を通して、電気回路や力学的な機構について理解し、社会の変化に伴う新しい技術に適応できる資質や態度を育成する。
・電気エネルギーを利用するための仕組みや電気回路の構成について専門的な知識を身につけ、エネルギー変換に関する技術を社会、環境、経済に着目し考え、意見を発表し合いながら、技術を最適化する見方・考え方を身につける。
・電気エネルギーについて理論に基づいた実験を通して電気製品の安全な使用についての指導力を身につける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
配布資料を参考としたエネルギーの利用とエネルギー変換の技術についての事前学習 （90分）
授業後のレポート作成（90分）
〔授業計画〕
第 1 回　授業を始めるにあたって
　　授業の目標、内容、予習、復習、評価について説明
第 2 回　エネルギー変換に関する技術（１）
　　エネルギーの利用とエネルギーの利用のための技術
第 3 回　エネルギー変換に関する技術（２）
　　エネルギー資源と様々な発電の仕組み
第 4 回　エネルギーの変換と効率
　　エネルギーの変換効率の理論と実験および発電別エネルギー変換効率についての意見交換と発表
第 5 回　電気エネルギーの特徴
　　交流と直流の特徴と、持続可能な社会の構築に向けた電気エネルギーの生産と利用
第 6 回　電気エネルギーの利用（１）
　　回路計の使用法
　　電気エネルギーの熱への変換とその仕組みについて発熱体の観察とジュールの法則に基づいた実験
第 7 回　電気エネルギーの利用（２）
　　電気エネルギーの光への変換とその仕組みについて発熱電球、蛍光灯、ＬＥＤライトの観察とオームの法則に基づいた消費電力実験
第 8 回　電気エネルギーの利用（３）
　　電気エネルギーの動力への返還とその仕組みについてモーターの観察と実験
第 9 回　電気エネルギーに関する理論と実際（１）
　　フレミングの法則を用いた電流と磁界の実験
第 10 回　電気エネルギーに関する理論と実際（２）
　　フレミングの法則に基づいたモーターの教材製作(回路設計)
第 11 回　電気エネルギーに関する理論と実際（３）
　　フレミングの法則に基づいたモーターの教材製作(部品製作)
第 12 回　電気エネルギーに関する理論と実際（４）
　　フレミングの法則に基づいたモーターの教材製作(組み立て)
第 13 回　電気エネルギーに関する理論と実際（５）
　　フレミングの法則に基づいたモーターの教材製作発表
第 14 回　電気機器の安全な使用
　　電気機器の定格と事故防止に伴う仕組みと保守点検
第 15 回　授業のまとめ
　　自己評価、成果発表と意見交換
〔成績評価〕
評価方法および評価の割合を明記すること
出席点は入れないこと
出席状況・出席重視・出席回数を加味する表記は避けること

〔教科書〕
ない場合は「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」など
教職関係授業については下記を必ず明記すること
○○学校学習指導要領（平成○年○月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成○年○月告示、文部科学省）
○○学校学習指導要領解説　○○編（平成○年○月告示、文部科学省）
〔参考文献〕
ない場合は「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」など
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、電気（実習を含む。）、中一種（技術）、必修
〔オフィスアワー〕
対面授業を原則とし、毎回の授業前３０分間をオフィスアワーとし、質問及び相談を受け付ける。

機械基礎実習①

1455
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
中岡　　禎雄

〔到達目標〕
・中学校技術・家庭「技術分野」における，「材料と加工に関する技術」、「エネルギー変換に関する技術」に関する専門的な知識を身に付ける．（知識・理解）
・実験と実習を通じて教育現場での安全で適切な製作・検査・点検のできる能力を身につける。（知識・理解・技能）
・ものづくりへの関心を高め、生活や技術にかかわる課題を見出し、解決しようとする態度を養う（関心・意欲）
・材料の特性を利用して、新しい教材の可能性を探ることができる。(創意工夫・表現力)
〔授業の概要〕
・エネルギー変換に関するものづくりの実践や体験的な学習活動を通して技術科教員に必要な専門的な知識と高い技術力を身につける。
・社会変化に伴う新しい技術に適応し、持続可能な社会の構築に向けた指導者としての資質や能力を身につける。
・教材の製作を通して、技術の見方・考え方を働かせ意見を発表し合い、問題を見いだし課題解決に取り組む力を身につける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学習指導要領に示される技術分野における目標と内容についての理解（予習90分）
安全・適切な製作について（予習90分）
教材製作の過程、結果の自己評価（復習90分）
〔授業計画〕
第 1 回　教材製作における目的と留意事項
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した教材製作の目的と製作にあたっての留意事項と作業工程
第 2 回　製作物の設計
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の設計と意見交換
第 3 回　工程表、部品図作成
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の製作工程と部品図作成および意見交換
第 4 回　製作物の部品製作（１）
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の部品製作と意見交換
第 5 回　製作物の部品製作（２）
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の部品製作と意見交換と自己評価
第 6 回　製作物の部品評価と点検
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の部品の完成度についての自己評価と点検
第 7 回　製作物の組み立て（１）
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の部品の組み立てと意見交換および相互評価
第 8 回　製作物の組み立て（２）
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の部品の組み立てと意見交換および相互評価
第 9 回　製作物の組み立て（３）
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の部品の組み立てと意見交換および相互評価
第 10 回　製作物の中間発表
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の中間発表
製作における課題解決のための意見交換と相互評価
第 11 回　製作物の組み立て（４）
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の部品の組み立てと意見交換および相互評価
第 12 回　製作物の動作確認と修正（１）
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の動作確認と課題発見および課題解決に向けた意見交換と修正作業。
第 13 回　製作物の動作確認と修正（２）
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の動作確認と課題発見および課題解決に向けた意見交換と修正作業。
第 14 回　製作物の仕上げ
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の動作確認と仕上げおよび製作発表準備
第 15 回　製作発表
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の製作発表と意見交換および相互評価
〔成績評価〕
・設計図（10%）
・中間レポート（10%）
・中間発表(10%）
・製作物（10%）
・製作発表（10%）
・後期試験課題レポート（50%）

〔教科書〕
中学校　技術・家庭科　技術分野教科書（東京書籍、開隆堂、教育図書）
中学校学習指導要領解説　技術・家庭編（平成29年7月告示、文部科学省）
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、機械（実習を含む。）、中一種（技術）、必修
〔オフィスアワー〕
対面授業を原則とし、毎回の授業前３０分間をオフィスアワーとし、質問及び相談を受け付ける。その他の時間においても相談の上各学生に対し必要に応じて質問及び相談を受け付ける。

機械基礎実習②

1454
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
中岡　　禎雄

〔到達目標〕
・中学校技術・家庭「技術分野」における,「材料と加工に関する技術」、「エネルギー変換に関する技術」に関する専門的な知識を身に付ける.（知識・理解）
・実験と実習を通じて教育現場での安全で適切な製作・検査・点検のできる能力を身につける。（知識・理解・技能）
・ものづくりへの関心を高め、生活や技術にかかわる課題を見出し、解決しようとする態度を養う（関心・意欲）
・材料の特性を利用して、新しい教材の可能性を探ることができる。(創意工夫・表現力)
〔授業の概要〕
・エネルギー変換に関するものづくりの実践や体験的な学習活動を通して技術科教員に必要な専門的な知識と高い技術力を身につける。
・社会変化に伴う新しい技術に適応し、持続可能な社会の構築に向けた指導者としての資質や能力を身につける。
・教材の製作を通して、技術の見方・考え方を働かせ意見を発表し合い、問題を見いだし課題解決に取り組む力を身につける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学習指導要領に示される技術分野における目標と内容についての理解（予習90分）
安全・適切な製作について（予習90分）
教材製作の過程、結果の自己評価（復習90分）
〔授業計画〕
第 1 回　教材製作における目的と留意事項
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した教材製作の目的と製作にあたっての留意事項と作業工程
第 2 回　製作物の設計
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の設計と意見交換
第 3 回　工程表、部品図作成
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の製作工程と部品図作成および意見交換
第 4 回　製作物の部品製作（１）
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の部品製作と意見交換
第 5 回　製作物の部品製作（２）
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の部品製作と意見交換と自己評価
第 6 回　製作物の部品評価と点検
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の部品の完成度についての自己評価と点検
第 7 回　製作物の組み立て（１）
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の部品の組み立てと意見交換および相互評価
第 8 回　製作物の組み立て（２）
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の部品の組み立てと意見交換および相互評価
第 9 回　製作物の組み立て（３）
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の部品の組み立てと意見交換および相互評価
第 10 回　製作物の中間発表
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の中間発表
製作における課題解決のための意見交換と相互評価
第 11 回　製作物の組み立て（４）
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の部品の組み立てと意見交換および相互評価
第 12 回　製作物の動作確認と修正（１）
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の動作確認と課題発見および課題解決に向けた意見交換と修正作業。
第 13 回　製作物の動作確認と修正（２）
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の動作確認と課題発見および課題解決に向けた意見交換と修正作業。
第 14 回　製作物の仕上げ
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の動作確認と仕上げおよび製作発表準備
第 15 回　製作発表
運動伝達と運動を変化させる仕組みを利用した製作物の製作発表と意見交換および相互評価
〔成績評価〕
・設計図（10%）
・中間レポート（10%）
・中間発表(10%）
・製作物（10%）
・製作発表（10%）
・後期試験課題レポート（50%）

〔教科書〕
中学校　技術・家庭科　技術分野教科書（東京書籍、開隆堂、教育図書）
中学校学習指導要領解説　技術・家庭編（平成29年7月告示、文部科学省）
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、機械（実習を含む。）、中一種（技術）、必修
〔オフィスアワー〕
対面授業を原則とし、毎回の授業前３０分間をオフィスアワーとし、質問及び相談を受け付ける。その他の時間においても相談の上各学生に対し必要に応じて質問及び相談を受け付ける。

電気電子工学実験実習Ⅰ①【教職】

2133
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
中岡　　禎雄

〔到達目標〕
・中学校技術・家庭「技術分野」における,「エネルギー変換の技術」の指導に必要な電気、電子工学の専門的で幅広い知識と正確に作業するための技能を身につける（知識・理解・技能）
・持続可能な社会の構築につながる電気エネルギーの生産と活用に対する意識を高め、情報を発信することができる（関心・意欲）
・電気エネルギーの生産と利用について新たな可能性を探り、発表することができる(創意工夫)
〔授業の概要〕
・実験通して学習者同士の意見交換を行いながら電気エネルギーを有効に活用するための専門的な知識と正確な技術を身につける。
・教材製作を通して電気エネルギーを利用するための仕組みや電気回路の構成について専門的な知識を身につけ、エネルギー変換に関する技術を身につける。
・社会、環境、経済に着目し考え、製作発表を行い、意見交換をしながら技術を最適化する見方・考え方を身につける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
資料による授業前の予習（30分）
授業振り返りレポート（30分）
〔授業計画〕
第 1 回　後期授業を開催するにあたって
到達目標、授業の概要、心構え、準備物、評価規準について
第 2 回　ＬＳＩを利用した照明の回路製作（1）
部品の点検と特性
第 3 回　ＬＳＩを利用した照明の回路製作（2）
ＬＳＩの仕組みと働き
製作に対する安全指導と留意事項
第 4 回　ＬＳＩを利用した照明の回路製作（3）
電気回路の製作
部品のプリント基板へのはんだ付けと点検
第 5 回　ＬＳＩを利用した照明の回路製作（4）
電気回路の製作　照明用シェード製作
動作点検
第 6 回　製作発表に向けて
ＬＳＩを利用した照明の回路製作のまとめと意見交換
発表に向けた製作レポートおよび資料作成
第 7 回　製作発表
ＬＳＩを利用した照明器具の製作発表と意見交換
第 8 回　環境に配慮した電気機器の製作（1）
ダイナモ発電機の仕組みと電圧測定実験
第 9 回　環境に配慮した電気機器の製作（2）
ダイナモ発電機式ラジオ付きＬＥＤライトの各部品のはたらきと仕組み
第 10 回　環境に配慮した電気機器の製作（3）
ダイナモ発電機式ラジオ付きＬＥＤライトのはんだによる蓄電システムプリント基板への部品取り付け
第 11 回　環境に配慮した電気機器の製作（3）
ダイナモ発電機式ラジオ付きＬＥＤライトの蓄電システムプリント基板とダイナモ発電機への配線と点検
第 12 回　環境に配慮した電気機器の製作（4）
ダイナモ発電機とラジオ検波回路の配線と点検
第 13 回　環境に配慮した電気機器の製作（5）
ダイナモ発電機式ラジオ付きＬＥＤライトの動作点検と製作に関する意見交換
第 14 回　製作発表準備
ダイナモ発電機式ラジオ付きＬＥＤライトの製作発表についての資料作成と意見交換
第 15 回　製作発表
教材の社会的、経済的、環境的価値と教材製作における成果発表
発表に対する相互評価
〔成績評価〕
授業振り返りレポート（10%）
製作物（10%）
製作発表（20%）
課題レポート（60%）
〔教科書〕
中学校　技術・家庭科　技術分野教科書（東京書籍、開隆堂、教育図書）
中学校学習指導要領解説　技術・家庭編（平成29年7月告示、文部科学省）
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、電気（実習を含む。）、中一種（技術）、必修
〔オフィスアワー〕
対面授業を原則とし、毎回の授業前３０分間をオフィスアワーとし、質問及び相談を受け付ける。その他の時間においても相談の上各学生に対し必要に応じて質問及び相談を受け付ける。

ブライダルビジネス論

6200
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
松尾　　久美子

〔到達目標〕
・ブライダル業界について幅広い知識を習得する
・ブライダル業界の仕事についての理解を深める
・ブライダル業界への関心を深める
・今後のブライダル業界を考察し、枠にとらわれない斬新なアイデアをだしブライダル企画を考える
〔授業の概要〕
・多様化するブライダル業界の動向や歴史を学び、今後のブライダルビジネスについて考える
・ブライダルに関する仕事への理解を深め、将来も考える
・自身の結婚式、人の結婚式を創造する
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
結婚式、婚礼施設、衣装など様々なブライダルに関する情報を、雑誌やインターネットや身近な人から聞き取り事前に調べておく（30分程度）
〔授業計画〕
第 1 回　結婚式の意味と意義
身近な人の結婚式を知る
結婚式の意味と意義を考える
第 2 回　世界の結婚式
伝統的な結婚式と憧れの結婚式
第 3 回　結婚に至る出会い
出会いの傾向を知る
近年の婚活事情
第 4 回　結婚式のトレンド
ブライダルの流行を知る
第 5 回　ブライダル業界の構成
ブライダル業界に関わる仕事を知る
第 6 回　挙式の種類
挙式スタイルと挙式にまつわる慣習を学ぶ
第 7 回　結婚式の衣装
男性、女性それぞれの衣装と参列者の衣装
第 8 回　披露宴の進行と演出
実際の進行を知りイメージを広げる
第 9 回　ブライダルにおけるお花
お花のスタイルとバリエーション、その役割を知る
第 10 回　結婚式のプランニング①
自分の理想の結婚式を考える
第 11 回　結婚式のプランニング②
お客様の要望とイメージにあった結婚式を企画する
第 12 回　結婚式のプランニング③
企画内容の発表
第 13 回　結婚式のプランニング④
ケースに合わせた結婚式をグループで企画をする
第 14 回　結婚式のプランニング⑤
グループでの企画発表
第 15 回　総まとめ
結婚式の意味と意義を再考する
〔成績評価〕
・授業外課題（５０％）
・授業内発表（２０％）
・定期試験（３０％）
〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
最新ブライダル業界の動向とカラクリがよくわかる本
日本のウエディングプランナー育成プログラム
日本のドレスコーデネーター育成プログラム
ブライダル雑誌
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①後期
②木曜日・午前11：30～12：00
③授業終了後、講義教室で対応します
④質問、相談はＰｈｏｌｌｙのメッセージでお願いします
⑤事前にメッセージでアポを取ること

自動二輪整備基礎Ⅱ

5404
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
藤本　　裕太

〔到達目標〕
実習車の分解、組み立て、調整が完結出来る事を目標とする。
実習を通じて工具に親しむ。
使用方法を習得すると共に、部品や工具の名称と役割を理解し、汎用可能な技能を獲得する。
〔授業の概要〕
実習車（ホンダ、スーパーカブ）を使用し、二輪車の構造、特徴、機械要素を学び、整備士としての技術と技能を開発する。
後期実習は、エンジンを軸に分解整備を行う。
後期学科は、部品の名称、機能、を習得し、二輪車と四輪車との相違点、共通点の理解を深める。
各単元ごとに取り組みについてグループディスカッションを行う。

※自動車技術コース選択者対象
※留学生対象
※講義で紹介されるPPE（Personal protection Equipment：個人保護装備）の購入や着用は講師の指示に従うこと。サンダル等、負傷する危険のある服装での履修は認めない。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業時間外、授業中配布の資料にて予習復習のこと。
〔授業計画〕
第 1 回　学科：エンジンの作動方式、構造と機能　実習：故障探求とエンジン分離
第 2 回　学科：動力伝達装置　実習：クラッチの分解点検
第 3 回　学科：電気装置　実習：シリンダヘッド分解点検
第 4 回　学科：電気装置　実習：シリンダヘッド清掃
第 5 回　学科：燃料及び潤滑剤　実習：シリンダヘッド組み立て
第 6 回　学科：２輪車と４輪車の相違点補足　実習：クランクケース分解
第 7 回　実習：クランクケース内部点検と故障探求
第 8 回　実習：トランスミッションの構造と機能
第 9 回　実習：クランクケース清掃
第 10 回　実習：クランクケース組み立て（左右ケース合わせまで）
第 11 回　実習：クランクケース組み立て（クラッチ組み付け）
第 12 回　実習：クランクケース組み立て（フライホイール側組み付け）
第 13 回　実習：キャブレター組み付けと始動点検
第 14 回　実習：試乗点検と故障個所是正確認
第 15 回　実習：試乗点検と実習テスト
〔成績評価〕
実技試験（９０％）
熟練度合いを測る小テスト（１０％）
〔教科書〕
授業毎参考資料配布
〔参考文献〕
無し
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①後期
②水曜日：　10：00～11：00
③自動車実験室（二輪実習室）
④連絡先　fujimototecnica@gmail.com か、フォーリーのメッセージで質問、相談をしてください。
⑤その他　必ずアポイントメントを取ってください。

舞踊表現Ⅱ-2

1806
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
1単位　後期
谷　えりか

〔到達目標〕
前期で学んだことを踏まえ、更なるテクニックのレベルアップと個性や表現力の向上を目指す。
〔授業の概要〕
・更にテクニックを深めた各トレーニング
・コンビネーションを即座に覚えて踊る
・振り作りに挑戦する
・ショーケース（＝発表）を行う
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・各トレーニングメニューとコンビネーションの復習をしておくこと
〔授業計画〕
第 1 回　新たなトレーニングメニューを覚える・コンビネーションを踊る
・テクニックを強化した各トレーニングメニューを覚える
・筋力トレーニング
・コンビネーションを即座に覚えて踊る
第 2 回　トレーニングメニューの反復・コンビネーションを踊る
・テクニックを強化した各トレーニングメニューの反復
・筋力トレーニング
・コンビネーションを即座に覚えて踊る
第 3 回　ショーケース用のコンビネーションを覚える
・テクニックを強化した各トレーニングメニューの反復
・筋力トレーニング
・ショーケース用のコンビネーションを覚えて踊る
第 4 回　ショーケースのリハーサル
・コンビネーションを更に覚えて踊る
第 5 回　ショーケースのリハーサル
・コンビネーションを更に覚えて踊る
・自身達で振り作りを行う
第 6 回　ショーケースのリハーサル
・全コンビネーションを踊る
第 7 回　ショーケースのリハーサル
・全コンビネーションの振り固め稽古を行う
第 8 回　ショーケースのリハーサル
・全コンビネーションを踊りこむ
第 9 回　ショーケースのリハーサル
・全コンビネーションを更に踊りこむ
第 10 回　ショーケースのリハーサル
・表現や見せ方なども意識し、作品を深める稽古を行う
第 11 回　ショーケースのリハーサル

・更に作品を深める稽古を行う
第 12 回　ショーケースのリハーサル
・最終確認稽古を行う
第 13 回　ショーケース（＝発表）
・作品を踊る
・感想を述べ意見交換を行う
第 14 回　定期試験用振付
・定期試験用振付
・自由部分の振付を考える
第 15 回　まとめ
・総復習
・定期試験用振付の確認

〔成績評価〕
授業態度・意欲（70%）
定期試験（30%）

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
希望日時を応相談

自動車整備実習1-Ⅱ

6512
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
森木　一彦　成瀬　優享

〔到達目標〕
シャシを主体に三級ガソリン自動車レベルから二級ガソリン自動車レベルの構造・機能及び整備技術を習得する。

〔授業の概要〕
班単位での実技を中心に実施し、それぞれの単元で作業への取り組みについて各班での発表・批評をおこなう。
※自動車整備実習1- I を履修のこと
※PPE（Personal protection Equipment：個人保護装備）を備えない場合、出席を認めない
※【校外学習】実車の体験走行を授業の進め具合に応じておこなう予定です。(10月頃)

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に指定する箇所の予習（90分）を実施すること。
授業終了後、課題を配布するので、内容を復習し次回授業開始時に提出すること。

〔授業計画〕
第 1 回　自動車シャシ
総論：自動車の原理と性能
第 2 回　動力伝達装置
概要・構造・機能：クラッチ、トランスミッション、トランスファ
第 3 回　動力伝達装置
整備：ファイナル・ディファレンシャル
第 4 回　アクスル、サスペンション
概要・構造・機能：車軸式、独立懸架式
第 5 回　アクスル、サスペンション
整備：アクスル、サスペンション
第 6 回　ステアリング装置
概要・構造・機能：ステアリング・ギア機構
第 7 回　ステアリング装置
整備：パワーステアリング
第 8 回　ホイール、タイヤ
概要・構造・機能
第 9 回　ホイール、タイヤ
整備：タイヤ、ホイール
第 10 回　ホイール・アライメント
概要・構造・機能：トーイン、キャンバ、キャスタ
第 11 回　ホイール・アライメント
整備：測定、調整
第 12 回　ブレーキ装置
概要・構造・機能：安全装置
第 13 回　ブレーキ装置
整備：ブレーキ装置
第 14 回　ブレーキ装置
整備：制動倍力装置
第 15 回　フレーム、ボデー 概要・構造・機能
概要・構造・機能

〔成績評価〕
試験80% 課題・小テスト10% 態度行動、取り組み評価10%

〔教科書〕
国土交通省自動車局監修 自動車整備士養成課程教科書
・基礎自動車整備作業
・基礎自動車工学
・三級・二級自動車ガソリンエンジン
・三級・二級自動車シャシ

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
【実務経験の活用】
整備士としての実務経験を活かし、自動車や自転車の整備作業実習をおこなう。また、物販や在庫管理に関わった経験から、関連する接客対応や商品の案内方法等を統合し、連結した実習授業の展開を行う。
潜水士として従事した各種業務より、安全・危機管理を取り入れた実技実習を行っている。

〔オフィスアワー〕
開講日の12時～17時

自動車工学1-Ⅱ

5257
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
福田　　芳行

〔到達目標〕

自動車工学基礎1-Ⅱでの履修内容を基礎知識として活用し、ガソリンエンジンの動力→変速機でのトルク変換後の動力→駆動軸の回転動力という流れを数量計算で追跡し、自動車の運動を妨げる各種の抵抗とともに線図上に表し、最終的に自動車の走行性能曲線を描いて、その意味を理解する

〔授業の概要〕

各時の授業では、エンジンからの出力(トルク×回転速度)が、変速機、終減速機といった動力変換ユニットを経て駆動輪の回転動力となるまでのトルクと回転速度の変換過程を、変速機の各変速段ごとに数量計算で追跡していくことが必要となる。このため、多くの計算処理の作業が求められ、それなりの体力と集中力が求められる。学生にとっては、かなりハードな学習内容になると予想されるが、自動車工学という学問の中枢を成す内容であるとの観点で実施する授業である。
授業は、本時の課題提示→数量計算例の板書→課題計算の実施という流れで進める。学生には毎回、計算用シートを配布し、作業を終えた学生から順に計算結果の正誤を点検の上、シートを回収し、次時の授業開始前に返却する。作業を終えてシートを提出した学生には退出を認めるが、ほとんどの場合、作業途中の学生から助言を求められ、ごく自然発生的に学生同士の教え合いが始まる。こうして、極めて有効な相互学習の場が生まれる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・前時に提出した解答用紙の検閲結果に関する自己点検(30)

〔授業計画〕

第 1 回　歯車の基礎
エンジンの動力を自動車の走行条件に応じて、高トルク低回転から低トルク高回転へと適時に切り換える役目を果たす手動変速機の中心的機械要素である歯車について、基礎知識として、歯車諸元、変速比の算出法を解説する。

第 2 回　自動車用手動変速機の仕組み①
自動車用手動変速機の変速段ごと(1速~4速)に採用されている2組の歯車対を図示したワークシートを用いて、変速段ごとに各歯車の歯数(Z1~Z4)から各歯車の回転数(N1~N4)を求め、最終的に、変速段ごとの変速比(i1~i4)を算出する。

第 3 回　自動車用手動変速機の仕組み②
自動車用4速手動変速機の実物を用いて、変速段ごとに、入力軸を10回転させたときの出力軸の回転数を目測して求めた変速比が、歯車の歯数から算出した変速比に等しいことを確かめる。

第 4 回　自動車の走行性能曲線の作成①
エンジンの発生するトルクT(N･m)が、変速機･終減速機を経て、最終的に駆動輪が地面を蹴る駆動力F(N)になるまでの過程を図示したワークシートを用いて、駆動力F(N)の計算手順を解説し、計算式を整理する。

第 5 回　自動車の走行性能曲線の作成②
走行性能曲線のもとになるエンジンの性能曲線について、出力曲線･トルク曲線の形状、特徴、数量範囲などについて解説し、走行性能曲線を作成するために必要な自動車の寸法諸元、エンジン･変速機諸元を板書して整理する。

第 6 回　自動車の走行性能曲線の作成③
変速機の変速段ごと(1速~4速)に得られる最大駆動力(Fmax(N))、最小駆動力(Fmin(N))を計算し、一覧表にする。次に、変速段ごと(1速~4速)に得られる最高速度(Vmax(km/h))、最低速度(Vmin(km/h))を計算し、一覧表にする。

第 7 回　自動車の走行性能曲線の作成④
自動車が走行する際の抵抗となる走行抵抗について、転がり抵抗Rr(N)、空気抵抗Ra(N)の順に発生原理と計算方法を解説し、空気抵抗については5通りの走行速度を設定して、各速度(60km/h,100km/h,140km/h,180km/h)ごとの空気抵抗を算出する。

第 8 回　自動車の走行性能曲線の作成⑤
今一つの走行抵抗である勾配抵抗Rg(N)について、発生の原理と計算方法を解説し、勾配を4通りに設定して各勾配(3%,5%,10%,15%)ごとの勾配抵抗を算出する。

第 9 回　自動車の走行性能曲線の作成⑥
①前時までに計算した各抵抗(Rr(N),Ra(N),Rg(N))を一覧表にまとめる。
②走行性能曲線を作成するための専用グラフ用紙に、横軸ラベル(車速V(km/h))と横軸目盛り(0~200)を記入する。次に、縦第1軸ラベル(駆動力F(N)･走行抵抗R(N))と第1軸目盛り(0~7000)を記入する。さらに、縦第2軸ラベル(エンジン回転数N(rpm))と第2軸目盛り(0~7000)を記入する。

第 10 回　自動車の走行性能曲線の作成⑦
①前時までの専用グラフ用紙に、各変速段ごとの速度領域直線(1速~4速)を描く。
②各変速段ごとの速度領域((Vmin(km/h)~(Vmax(km/h))に対応する放物線状のトルク曲線を描く。

第 11 回　自動車の走行性能曲線の作成⑧
①前時までの専用グラフ用紙に、勾配0%の時の4通りの車速(60km/h,100km/h,140km/h,180km/h)における走行抵抗(R(N))をプロットし、それらの4点を雲形定規で滑らかに結んで曲線を描く。
②以下、勾配3%,5%,10%,15%についても同様の作業を行い、4本の曲線を描く。

第 12 回　自動車の走行性能曲線の作成⑨
前時までの専用グラフ用紙に描いた各直線、各曲線に、それぞれが示す数量(変速段、駆動力(N)、勾配(%))を記入して走行性能曲線を完成させ、前時までの計算で求めた走行抵抗の一覧表に記載した数値とグラフで描いた線上の数値との整合性を確認する。

第 13 回　自動車の走行性能曲線の読み方①
完成した走行性能曲線をもとにして、具体的な走行条件下での自動車の挙動と操縦法(アクセルペダルによる加減速操作、シフトレバーによるアップ･ダウン操作)との関係を把握する。

第 14 回　自動車の走行性能曲線の読み方②
走行性能曲線に関する文献資料を配付して解説し、性能曲線の持つ意味や実際の自動車の挙動との関連等について補足する。

第 15 回　期末試験に関する連絡及び質疑応答
期末試験の出題内容について、概要を箇条書きで板書、解説するとともに、これまでの学習内容における重点事項を板書で確認し、各自で復習しておくべき内容を告知するとともに、質疑応答を行う。

〔成績評価〕
授業で行った演習問題やワークシートによる作業の提出率：2割、期末試験の得点：8割

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
LMSの質問コーナーで、随時、対応する。

自動車工学基礎1-Ⅱ

5259
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
福田　　芳行

〔到達目標〕
①ガソリンエンジンの作動原理について概要を解説し、エンジン性能に大きな影響を及ぼす主要諸元について、基本的な定量計算を行うことができる能力を身につける。
②自動車の操舵機構、制動機構の概要を知り、自動車の動力性能を決定づける要素の影響を、力学的解析、幾何学的検討により理解する。

〔授業の概要〕
本時の課題提示→課題解決に必要な重点事項の解説→例題の板書→解答の板書と解説という流れで授業を進める。学生には課題提示前に、内容に応じてワークシートを配布し、重点事項の理解を円滑に図るよう配慮する。ワークシートは授業終了時に回収して検閲の上、必要に応じて赤ペンを入れて修正し、Good(良好)か否かの評価を付記して、次時の授業開始前に返却する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・前時終了時に提出したワークシートの検閲結果に関する自己点検（30分）

〔授業計画〕

第 1 回　ガソリンエンジンの作動原理
①ガソリンエンジンにおける1行程ごとのピストンと連接棒の位置と吸気弁・排気弁の開閉状態をワークシートの図に書き込んで、それぞれの行程が受け持つ作用を理解する
②ガソリンエンジンの各行程ごとのシリンダ容積Vとシリンダ圧力Pの変化をグラフにし、P-V線図の概要を理解する

第 2 回　ガソリンエンジンの排気量と圧縮比
①ガソリンエンジンの排気量の定義と算出式を解説する
②ガソリンエンジンの圧縮比の定義と算出式を解説する
③ガソリンエンジンのストロークS(cm)、シリンダ内径D(cm)、すき間容積Vc(cm3)を与えて、排気量Vs(cm3)・圧縮比εを求める演習問題

第 3 回　自動車の諸元
①自動車の車両寸法を規定する諸元(全長、全幅、全高、ホイールベース、トレッド)について、図を描きながら理解する
②自動車の車両質量を規定する諸元(車両質量、車両総質量、乗車定員)について、実際の諸元表を参考にしながら理解する
③自動車の動力性能を規定する諸元(エンジン諸元、変速機諸元)について、実際の諸元表を参考にしながら理解する

第 4 回　自動車の舵取り機構①
①自動車の舵取り機構の作動原理について、ワークシートの図に、操舵時の前輪2本の傾き角、旋回中心の位置、前後輪4本の車輪の軌跡を記入し、最小回転半径の長さと舵取り角との関係を理解する
②前輪2本の舵取り角を決定するアッカーマン･ジャント理論の概要を解説する

第 5 回　自動車の舵取り機構②
①自動車の舵取り機構のまとめとして、実車の1/30の車両寸法を持つ4輪平面図を描いたワークシートを用いて、ホイールベースL(mm)、トレッドT(mm)を作図により求め、それらの実際の寸法を計算により求める
②ワークシートに与えられた旋回中心をもとにして、前後輪4輪の回転半径の長さを作図により求め、それらの実際の寸法を計算により求める
③前輪2輪の左右の舵取り角を図面上で実測し、図面に記入する

第 6 回　自動車の制動機構①
①流体の圧力P(Pa)について、単位の意味、大きさの求め方を解説し、例題を解く
②パスカルの原理について総論を解説し、例題として、自動車の制動機構におけるマスタ･シリンダとホイール･シリンダへの応用例を板書し、マスタシリンダに作用する力F1(N)が、マスタシリンダを経てどれだけの力F2(N)に増大されるか、計算過程を解説する

第 7 回　自動車の制動機構②
①自動車の運転者がブレーキペダルを踏む力が、てこの作用により増大されてマスタシリンダに作用するとき、どれだけ大きくなるかの計算過程を解説する
②例題として、ブレーキペダル周りの寸法とペダルへの踏力f(N)を与え、マスタシリンダに作用する力F1(N)を計算する

第 8 回　自動車の制動機構③
前々時、前時の学習内容を踏まえ、ブレーキペダルへの踏力f(N)が、油圧増大回路を経てF2(N)になるまでの過程を計算により求める

第 9 回　自動車の制動機構④
自動車のタイヤの回転を止めるための制動機構として、ドラムブレーキとディスクブレーキについて、ワークシートの図に部品や力のベクトル図を書き込みながら、制動原理を理解する

第 10 回　ホイールアライメント
自動車のホイールアライメント(車輪周りの幾何学的整列状態)について解説する

第 11 回　自動車の燃料①
自動車の燃料であるガソリン･軽油の製造過程について、石油精製過程を中心に、原油から各種石油製品に至るまでの道のりを解説する

第 12 回　自動車の燃料②
①例題として、ガソリン1(?)で、自動車が走行できる距離L(km)を求めるやり方を解説し、計算過程を板書で示す
②ガソリン1(?)で、原付バイクが走行できる距離を求める演習問題

第 13 回　わが国のエネルギー需給構造①
自動車の燃料に関わる関連･発展事項として、資源･エネルギー庁の統計データをもとにして、わが国のエネルギー需給構造をワークシートを用いて解説する

第 14 回　わが国のエネルギー需給構造②
前時の学習をもとにして、わが国の１次エネルギー供給の8割を占める化石燃料に関わり、輸入先･輸送経路･輸送手段等について解説し、化石燃料を取り巻く諸問題についても触れる

第 15 回　期末試験に関する連絡及び質疑応答
期末試験の出題に関して、概要を箇条書きで板書、解説するとともに、これまでの学習内容における重点事項を板書で確認し、各自で復習しておくべき内容を告知し、質疑応答を行う

〔成績評価〕
評価割合
各時の授業で行った演習問題の解答の提出率：2割、期末試験の得点：8割

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
LMSの質問コーナーで、随時、対応する。

ホスピタリティ論Ⅰ

7101
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
東山　愛

〔到達目標〕
●「ホスピタリティ」の意味を理解し、現代社会における重要性を理解することが出来る。（知識・理解）
●「ホスピタリティ」を理解したうえで、実践に移すことができる。（関心・意欲）
●現代社会における「ホスピタリティ」の実践を具体的に考察することができ、その価値を判断できる（思考・判断）

〔授業の概要〕
「ホスピタリティと何か」現代は様々な場面で「ホスピタリティ」という言葉が使われている。この授業では、多面的に考察し、具体的にホスピタリティ産業も取り上げながら、学んでいく。教室を一つの社会と捉え、その中で相互尊重の意識を高めていくことが求められる。ディスカッションなどを交え、積極的に授業に臨むことが期待される。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ホスピタリティ産業（航空・ホテル・テーマパークなど）に関する話題・ニュースなどに興味を持ち、授業に臨む。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の概要理解・進め方・評価の仕方・心構え

第 2 回　ホスピタリティとは
ホスピタリティとは何か。言語・語源からアプローチし、どのようなものかを理解する。

第 3 回　人間の感情とホスピタリティ
「人を思いやる感情」など人間の感情とホスピタリティの関係について考察する。

第 4 回　ホスピタリティと文化
ホスピタリティの概念や人々の心が文化や時代背景などで変化があるのだろうか。地域・民族・宗教などから日本人が持つホスピタリティについて考察する。

第 5 回　ホスピタリティと産業
産業の変化に伴いホスピタリティへの関心の高まり、その重要性を理解する。

第 6 回　ホスピタリティとコミュニケーション１
ホスピタリティはどのように伝えられるのか。コミュニケーションの基本を理解する。

第 7 回　ホスピタリティとコミュニケーション２
コミュニケーションを高める要素を実践形式で理解する。

第 8 回　事例研究Ⅰ
　　事例研究Ⅰ
第 9 回　異文化コミュニケーション
　　異文化コミュニケーションの６つの壁から異文化を理解することの重要性を考察する。
第 10 回　事例研究Ⅱ
　　事例研究Ⅱ
第 11 回　敬語表現
　　ホスピタリティを発揮するために必要な言葉遣いの重要性を知る。
　　普段誤って使っている敬語表現に気づき、正しい敬語を理解する。
第 12 回　ホスピタリティとチームワーク
　　チームで伝えるホスピタリティとは何か。チームワークの重要性を理解する。
第 13 回　事例研究Ⅲ
　　事例研究Ⅲ
第 14 回　グループディスカッション
　　ホスピタリティを発揮しながらグループディスカッションを実践していく。
第 15 回　まとめ
　　まとめ

〔成績評価〕

・定期試験　６０％
・授業内レポート　（１４回分）２０％
・授業への取り組み・態度・発表　２０％　（提出期限厳守・レポート提出時のコピペ厳禁）

〔教科書〕

適宜プリント・資料を配布
必要に応じ映像・関連DVDを使用。

〔参考文献〕

「航空とホスピタリティ」（株）ANA総合研究所（監修）山路顕（編）NTT出版
その他ホスピタリティに関する書籍・事例など適宜紹介

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

後期　月曜日　11時30分から12時30分
LMS授業を予定しているため、質問や相談はメールかPhollyのメッセージで受け付けます。
メールアドレス：higashiyama@ashiya-u.ac.jp

教育課程論【中等】

1302
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
三羽　　光彦

〔到達目標〕

中学校・高等学校の教育課程のしくみについて理解すること、すなわち、中学校・高等学校の教育課程（中等教育課程）の性質・特徴および編制原理を理解し、中学校・高等学校の学習指導要領の特色と概要を把握する。

〔授業の概要〕

教育課程（カリキュラム）とは何か、その類型や教育課程改革の動向について中等教育課程のあり方という観点から理解する。中学校・高等学校の目的・目標について学校教育法、同法施行規則にそって、その意義を理解する。教育課程の性質・特徴および編制原理を理解し、学習指導要領の特色と概要を把握するとともに、その編成方法を具体的に考察する。また学校におけるカリキュラムマネジメントの確立について具体例を検討する。その際、各学校における教育課程編成の具体的なあり方について、受講生同士が意見を出し合って討論し、グループで発表することとする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

指示または配付した参考資料等をあらかじめ90分くらいかけて読んでくること。また授業後適宜に内容のまとめを行うこととする。

〔授業計画〕

第 1 回　教育課程（カリキュラム）とは何か
　　教育の三要素（教育者・学習者・教育内容）とカリキュラム、教育目的・目標と教育課程編成、教育観とカリキュラム観について考察する。
第 2 回　中学校の目的・目標と教育課程構造
　　中学校の教育目的、中学校教育の目標などについて理解し、さらに教科・教科外の教育課程構造を理解する。
第 3 回　高等学校の目的・目標と教育課程構造
　　高等学校の目的、高等学校教育の目標などについて理解し、課程（全日制・定時制・通信制・単位制）や学科（普通・専門・総合学科）などの違いや、教科・教科外の教育課程構造を理解する。
第 4 回　教育課程（カリキュラム）の類型
　　大きく分けて、系統主義的な教科（学問）中心カリキュラムと、経験主義的な児童（生活）中心カリキュラムの二つの類型がある。その相互の特徴と得失を考察する。
第 5 回　学習指導要領の役割と意義
　　戦後登場した学習指導要領の意義とその役割について、戦前法制との比較や学校教育法制全体から考察する。
第 6 回　教育課程改革（カリキュラム開発）の動向
　　1960年代以降のアメリカの教育思想（教育の現代化や人間化）の動向を背景として、揺れ動いたカリキュラム開発論を理解する。
第 7 回　学習指導要領改訂のあゆみ
　　1947年から今日までの学習指導要領の改訂の歩みを理解し、その背景となった社会経済的要因や教育観を考察する。
第 8 回　新学習指導要領改訂の要点
　　新学習指導要領の改訂の背景、その要点（主体的・対話的な深い学びを目指して）について理解する。
第 9 回　教育課程行政と教科書

国（文部科学省）、教育委員会、学校との教育課程編成に関する行政制度を理解し、あわせて教科書と教科書制度の意味を考察する。

第 10 回　学校におけるカリキュラムマネジメント
各学校や学年全体でカリキュラム編成を実施するさい、どのように「チーム学校」で取り組むかその方途を考察する。

第 11 回　アクティブ・ラーニングとカリキュラム編成
「主体的・対話的な深い学び」を実現するためには、アクティブラーニングが必要だといわれている。そううした教育を行うためにはいかなるカリキュラム観、カリキュラム編成が求められるかを考察する。

第 12 回　道徳の教育課程上の位置
学習指導要領で新たに特別な教科として位置づけられた道徳について、その教育課程上の位置や諸問題、中学校と高等学校の違いなどについて考察する。

第 13 回　特別活動の教育課程上の位置
学校行事や自治活動などの特別活動の教育課程上の位置について、また部活動や就職指導について教育課程との関係から考察する。

第 14 回　総合的学習の時間の教育課程上の位置
体験活動やキャリア教育など総合的学習の時間の意義と、その教育課程上の位置について考察する。

第 15 回　まとめ
全体として授業を振り返って、中学校・高等学校の教育課程のしくみについて復習する。

〔成績評価〕

学生に対する評価：定期試験（８０%）、中間小テスト（２0%）、試験・テストをレポートに変えることもある。

〔教科書〕

特になし、適宜資料を提示または配布する。

〔参考文献〕

文部科学省『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』。

〔履修条件〕

〔備考〕

教育の基礎的理解に関する科目、教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）、中一種、高一種、必修

〔オフィスアワー〕

毎週水曜日昼12時30分から14時まで、三羽 研究室（本館4階17）にて。できれば事前にアポを取ってください。

アーツマネジメント

1811
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
井村　　薫子

〔到達目標〕

アーツマネジメントの概念を説明できるようになる。社会の仕組みの中でのアーツマネジャーの存在を関係づけられるようになる。プロジェクトのシュミレーションをプレゼンテーションができるようになる。

〔授業の概要〕

アーツマネジメント論の概念とその成功例を学び、その手法と社会の仕組みとの兼ね合いを考察する。興味のあるテーマを選び、どのようにプロジェクトとして成功させることができるかを資料をやデータを収集して、シュミレーションし、プレゼンテーションする。他の学生の発表について、全員で論議する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

資料やデータを読む
個々のテーマに沿ったプレゼンテーションの準備をする

〔授業計画〕

第 1 回　アーツマネジメント論　入門
アーツマネジメントの歴史と概念。

第 2 回　アーツマネジメントの成功例
アーツマネジメント学会の資料などから実例をみる。

第 3 回　アーツマネジメント学　1
小暮氏の「アーツマネジメント学」より様々な側面からの理論を学ぶ。

第 4 回　アーツマネジメント学　2
小林氏著「芸能と経営」より、手法と公的機関からの援助の求め方の実例を学ぶ。

第 5 回　アーツマネジメント学　3
その他の「アーツマネジメント学」の理論。

第 6 回　アーツマネジメント学　4
欧米や日本でのアーツマネジメントの実際について。

第 7 回　個々のテーマを選ぶ
個々の興味のあるテーマを選ぶ。テーマの選び方について。

第 8 回　プロジェクトスタディーの準備の仕方
プロジェクトスタディーに向けての準備の方法を学ぶ。

第 9 回　資料の作り方
資料やデータの作成方法について。

第 10 回　資料作成と経過報告
個々（もしくはチーム）のテーマについて収集した資料を発表する。

第 11 回　中間発表
中間発表と質疑応答。

第 12 回　プレゼンテーション準備

中間発表の結果を踏まえてグループにて話し合う。
第 13 回　改善案の提案
お互いのプロジェクトについての改善・補足すべきところについて議論する。
第 14 回　プロジェクト発表
各グループのプロジェクト発表と質疑応答。
第 15 回　まとめ
〔成績評価〕
提出物４０％、プレゼンテーション６０％
〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
芸能と経営　小林進著
アーツマネジメント学（水曜社）
アーツマネジメント（放送大学教育振興会）
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
⑴前期・後期
⑵月曜日：13:00～16:00、水曜日：13:00～16:00
⑶芸術文化センターにて
⑷連絡先：k-imura@ashiya-u.ac.jp
⑸来室の際は事前にメールにてご連絡をお願いします

演劇Ⅱ-1

1910
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　前期
谷　えりか

〔到達目標〕
・演劇の応用トレーニングを実践するこよにより、パフォーマンスの幅を広げる
・想像力や柔軟な対応力を磨く
〔授業の概要〕
・体を使った声の出し方と息のコントロール
・声と動きでの表現
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・トレーニングメニューの復習をしておくこと
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
自己紹介及び事業計画の説明
第 2 回　基礎及び応用トレーニングを覚える
呼吸・開口・発声のトレーニング方法と、応用トレーニングメニューのルーティンを覚え実践する
第 3 回　基礎トレーニング及び朗読①
詩を読む
第 4 回　基礎トレーニング及び朗読②
物語を読む
第 5 回　基礎トレーニング及びナレーション
説明文読む
第 6 回　基礎トレーニング及びリポート①
提示したテーマについてリサーチし内容をまとめる
第 7 回　基礎トレーニング及びリポート②
まとめた内容についてリポート発表し意見交換を行う
第 8 回　基礎トレーニング及びマイム①
表現と動きでシチュエーションを体現する
第 9 回　基礎トレーニング及びマイム②
表現と動きで新たなシチュエーションを体現する
第 10 回　基礎トレーニング及び自然な動作①
日常の動作を用いて表現トレーニングを行う
第 11 回　基礎トレーニング及び自然な動作②
喜怒哀楽の表現及び体現トレーニングを行う
第 12 回　基礎トレーニング及びエチュード①
台詞と動きで即座にパフォーマンスする
第 13 回　基礎トレーニング及びエチュード②
新たなテーマの台詞と動きで即座にパフォーマンスする
第 14 回　定期試験用の課題パフォーマンスを覚える
試験課題のパフォーマンスを覚える
第 15 回　まとめ
総復習
〔成績評価〕
授業態度・意欲（70%）
定期試験（30%）
〔教科書〕
必要時、授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
希望日時を応相談

English CommunicationⅢ

2234
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　前期
実務経験有
杉島　　未来

〔到達目標〕
各自が英語検定の最新の試験内容を分析することで、英語の全般的なレベルアップを目指す。
語彙を増やし、英文を読んで内容を理解するリーディング力を強化し、文法、話法、口語表現の理解と確認を行う。リスニングはディクテーションによる自己分析を行う。
〔授業の概要〕
英語検定の試験対策をすることにより、出題形式に 慣れ、試験に合格できるレベルの能力を身に付ける
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
必ず前回分の復習を行ったうえで課題に取組むこと

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（授業概要・単位取得・アンケート)
第 2 回　英検準２級本試験
英語検定合格を図るため、 出題形式に慣れ、英語全般のレベルアップを目指す
第 3 回　英検準２級　文法
第 4 回　英検準２級　会話
英語検定合格を図るため、 出題形式に慣れ、英語全般のレベルアップを目指す
第 5 回　英検準２級　長文
第 6 回　英検準２級　ライティング
第 7 回　英検準２級　リスニング
第 8 回　英検２級本試験
第 9 回　英検２級　文法
第 10 回　英検２級　語彙
第 11 回　英検２級　長文
第 12 回　英検２級　ライティング
第 13 回　英検２級　リスニング
第 14 回　英検準１級本試験
第 15 回　授業の振り返り
この授業の振り返りを行って、定期試験の準備をする

〔成績評価〕
学期末テスト　３０％
小テスト　３０％
学期末テスト　４０％

〔教科書〕
配付資料及び課題内容の説明によるものとする

〔参考文献〕
英語検定試験に関連する書籍全般

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
高校で英語の受験指導をした体験から、画一化された受験英語とは違う角度から英語の取り組みを行い、映画や漫画を使って、大学生が新たに英語を学び直したい気持ちを持てるような指導方法を考案する。

〔オフィスアワー〕
授業終了後、講義教室で対応します

教職論【中等】①

2303
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
中学校・高等学校の教師を目指す者にとって必要な理念・制度・法律などの基礎的知識を修得する。
教師としての資質・使命についての認識を深める。
望ましい教師像の基盤を構築する。重ねて、将来の進路選択を考える機会とする。

〔授業の概要〕
教育に携わる者としての心得や教育の目指すべき姿を学校現場での具体的な事例を扱いながら，受講生個々の資質向上を図る。毎時間の演習課題に取り組みながら、生徒・保護者・地域に信頼される教師像を考察していく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時間の復習と演習課題に取り組む。(120分)
次時に向けて提示する資料を予習して授業に臨むこと。(120分)

〔授業計画〕
第 1 回　教職論の目的及び学校教育の目的
憲法、教育基本法に定める教育の目的。教師という言葉の概念。
第 2 回　教師に求められる資質・能力
教師の仕事の特殊性。これからの教員に求められる資質能力。
「チームとしての学校」が求められる背景。
第 3 回　児童・生徒の発達の特徴
発達段階区分の特徴。学習指導要領（特別活動の目標）から見る発達段階の目標。
受講生の中学時代の成長を振り返る。
第 4 回　生徒指導の意義
学校生活への適応・不適応。生徒理解の原理。
第 5 回　学級活動と生徒指導の関連性
集団形成に必要な学級経営の要素。学級活動と生徒指導の関連性。
第 6 回　授業と生徒指導
生徒の学習環境を整えるために必要な視点。学級担任が扱う実務・公簿などに関する基礎知識。
第 7 回　いじめと体罰
いじめ防止対策推進法の整理。学校教育法第11条から「懲戒と体罰」の違い。
第 8 回　教員の資格と研修
教員免許制度の概要。教員免許更新制の理解。
第 9 回　教員の服務・制度
教員の服務上の義務と勤務時間外の身分上の義務。分限と懲戒。
綱紀粛正及び服務規律の確保。
第 10 回　教員の勤務条件
時間外勤務。休業日・週休日の勤務の違い。主な休暇・休業制度。
第 11 回　特別支援教育の概要とその必要性
障害を抱える生徒への関わり方。「障害者の権利に関する条約」及び「障害者差別解消法」に触れる。
第 12 回　特別の教科道徳
学習指導要領の変遷。道徳の目標及び道徳的価値。道徳科の評価。
第 13 回　学校法規基礎演習①
学校法規の種類。日本国憲法、教育基本法、学校教育法の必修内容を演習を通して理解する。
第 14 回　学校法規基礎演習②

学校教育施行令、学校教育施行規則に必修内容を演習を通して理解する。
教員が国民全体の奉仕者であることの定義。
第 15 回　教師という仕事の意義
授業全体を振り返りながら、教師に求められる資質と受講生自身の課題を整理する。

〔成績評価〕
定期試験75%　　平素の演習レポート25%評価方法および評価の割合を明記すること

〔教科書〕
中学校学習指導要領（平成２９年３月告示、文部科学省）
授業中適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
生徒指導提要等（文部科学省）
教職論（教職につくための基礎・基本）　東海大学出版会等

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教育の基礎的理解に関する科目、教育の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）、中一種、高一種、必修

【実務経験の活用】
中学校教諭や教育委員会での実体験を活かして、「教師に必要な資質」や「学校教育の抱える課題対応」を指導する。

〔オフィスアワー〕
tange@ashiya-u.ac.jp
水曜日　14時～15時　研究室11

生徒・進路指導の理論と方法【中等】

2406
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
湯尾　　慎一

〔到達目標〕
生徒指導（進路指導を含む）に関する基礎的な理論と指導方法を理解することを目標とする。とくに実践的な課題を踏まえて、指導場面に即して適切な生徒指導（進路指導を含む）の基礎となる理論と指導方法を学ぶことを目標とする。

〔授業の概要〕
生徒指導と進路指導の本質と原理、および領域、進め方および方法について概説する。生徒指導や進路指導の方法については集団指導と個別指導の双方の視点から説明する。生徒指導上の諸問題については、生徒の問題行動や教育病理的現象を取り上げて説明する。キーワードは、自己指導力、問題行動、生徒理解、学級経営、自己理解、教科指導、進路指導。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学校教育における諸問題について新聞・雑誌などで知識を付けておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　生徒指導の教育的意義
生徒指導の意義について学ぶ
第 2 回　生徒指導の原理
生徒指導の原理について学ぶ。
第 3 回　生徒指導と進路指導の課題
生徒指導と進路指導の実勢的課題について学ぶ。
第 4 回　生徒指導の理論
発達と相談について学ぶ。
第 5 回　生徒指導と領域
生徒指導の領域について学ぶ。
第 6 回　生徒理解の目的
生徒理解の目的についてまなぶ。
第 7 回　生徒理解の進め方
生徒理解の進め方について学ぶ。
第 8 回　生徒理解の方法(１)
生徒理解の方法について学ぶ。
第 9 回　生徒指導と進路指導
進路指導の理論（進路発達理論）と指導の進め方について学ぶ。
第 10 回　生徒理解の方法(２)
進路指導のための生徒理解について学ぶ。
第 11 回　学級経営の進め方
学級経営の進め方について学ぶ。
第 12 回　教科指導と生徒指導・進路指導
教科指導を通じた生徒指導・進路指導
第 13 回　進路（職業）指導に通じるキャリア教育
将来の職業を見据えたキャリア教育ｊについて学ぶ。
第 14 回　生徒・進路指導体制と教員研修
指導体制を確立するための教職員研修
第 15 回　生徒・進路指導における家庭との連携
家庭との連携について学ぶ。

〔成績評価〕
試験７０％
講義時に提出する小レポート３０％

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
中学校学習指導要領（2017）文部科学省
高等学校学習指導要領（2018）文部科学省
生徒指導提要（2010）文部科学省

〔履修条件〕

〔備考〕
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法含む、中一種、高一種、必修

〔オフィスアワー〕
LMS経由で質問をしてください。

フードビジネス経営論

2448
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
永井　　正信

〔到達目標〕

外食産業、いわゆるフードビジネス業界への就職を目指す学生やこの業界での起業を目指す学生が、業界の概要や動向、ビジネスの基本的な理論や手法を学ぶことを目標とする。また、業界での就職や起業を目指さない学生であっても受講できる。

その場合は、フードサービスの仕組みや楽しさを学ぶことにより、豊かな人生を送る糧と出来るよう指導する。

〔授業の概要〕

フードサービス業界について、その市場規模や歴史、各種業態、チェーンレストランのシステムなど、産業としての業界の現状や今後について解説する。

店舗運営の実際を学ぶと共に上場会社外食トップの特別講義(予定))を取り入れるなど、実学としてのフードビジネス論を理解する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

普段身近にあるフードサービスの世界を、学問として、資料を基に理論的体系的に学べるよう授業を行う予定。

資料の復習や推奨レストランチェーンの授業外での視察（本年度は実施しない予定）などを積極的に行うことで更に理解が深まると考える。

〔授業計画〕

第 1 回　フードサービスの歴史
世界や我が国における食文化の発展や歴史を解説

第 2 回　外食産業の概要
講義の進め方,産業としてのフードサービスを学ぶことの意義を理解

第 3 回　産業としてのフードサービス
業界の市場規模や雇用の役割、産業としての位置づけを解説

第 4 回　フードサービスの業種業態
業種・業態の違いを客単価、客層などの分析により解説

第 5 回　レストラン経営の実際（1）
フードサービスビジネスの収益構造などについて解説

第 6 回　レストラン経営の実際（2）
「商圏」の考え方、より良い「出店立地」の考え方などについて解説

第 7 回　外食経営者による特別講義
実際の経営者によって、最新の業界動向や企業の経営戦略などを講義

第 8 回　チェーンレストランのシステム（1）
チェーンレストランの特徴及び組織運営やフランチャイズチェーン（FC）の概要とその仕組みについて解説（1/2）

第 9 回　チェーンレストランのシステム（2）
チェーンレストランの特徴及び組織運営やフランチャイズチェーン（FC）の概要とその仕組みについて解説（2/2）

第 10 回　フードサービスと人材育成（1）
教育産業と言われるフードサービス業界における教育・評価の仕組みを解説
（1/2）

第 11 回　フードサービスと人材育成（2）
教育産業と言われるフードサービス業界における教育・評価の仕組みを解説
（2/2）

第 12 回　フードサービスの社会的責任
安全・安心を基本とし、環境問題やCSR活動などフードサービス業界の果たすべき役割と現状について解説

第 13 回　フードサービスの課題
フードサービス業界に内在する課題や業界を取り巻く課題について解説

第 14 回　フードサービスの今後の展望
フードサービスのこれからのあり方や取組について解説

第 15 回　まとめ
上記の講義で学んだことを総括する。

〔成績評価〕

毎回の講義の課題レポート及び経営者による特別講義の課題レポートをもとに総合的に評価する。特別講義が実施できない場合は、毎回提出の講義レポートの評価をもとに総合的に評価する。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

【実務経験の活用】

フードサービス業界について、その市場規模や歴史、各種業態、出店戦略、コスト管理、人材育成のあり方など、産業としての外食業界の現状や今後について自らの経営者としての経験と共にチェーンシステム理論をベースに体系的に解説

教室での講義と共に、実際の店舗視察を通じて店舗運営の実際を実地で学ぶ（本年度は実施しない予定）など、実学としてのフードビジネス論を指導

〔オフィスアワー〕

①前期
②水曜日：15：30～17：00
③連絡先：m-nagai@ashiya-u.ac.jp にメールかPhollyのメッセージで質問・相談をしてください。

教育心理学Ⅰ【中等】

3215
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
三浦　　正樹

〔到達目標〕
教職をめざす学生にとって必要な教育心理学の基本的知識の習得をめざす。従来の教育心理学の主要４領域の内、ここでは主に発達・学習領域を中心に述べる。発達領域では代表的な発達理論、遺伝と環境の関係、各発達段階の発達過程及び特徴の理解を目標とする。学習領域では代表的な学習理論、発達を踏まえた学習指導法、学習意欲、学級集団の特徴、教育評価の在り方などの理解を目指す。

〔授業の概要〕
現代の教育心理学は幅も広く奥も深い学問であって、教職をめざす学生にとっては是非身につけておかなければならない学問である。主に発達過程・学習過程全般について述べるが、この授業では特に中等課程の免許取得希望者を対象として意識した授業を展開する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予め授業計画に相当する教科書の章を読んでおくこと。(90分)
復習として、授業で示された重要キィワードをまとめておくこと。(45分)
発展学習として、まとめた重要キィワードについて図書館やネットで調べてみること。(45分)
授業で配布されたプリントを整理して保存しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
　　授業の目的、内容、進め方等について
第 2 回　教育心理学とは何か
　　教育心理学の歴史、内容、立場、方法
第 3 回　発達の理論
　　発達とは何か　エリクソン、ピアジェ、バルテス等発達の主要理論について
第 4 回　遺伝と環境
　　成熟優位説　環境優位説　相互作用説　臨界期　発達と教育の関係
第 5 回　乳幼児期の発達
　　乳幼児期の特徴 身体・運動発達　認知発達　言語発達　母子関係　愛着
第 6 回　児童期の発達
　　児童期の特徴　身体･運動発達　認知発達　言語発達　社会性の発達
第 7 回　青年期の発達
　　思春期・青年期の特徴　身体・運動発達　認知発達　アイデンティティ
第 8 回　青年期以降の発達（生涯発達）
　　成人期　中年期　老年期　生涯発達　ライフサイクル
第 9 回　学習の理論
　　学習の定義と意義　主要な学習理論　認知理論　社会的学習　学習の過程
第 10 回　認知心理学
　　情報処理過程　記憶　概念　思考　問題解決　知能
第 11 回　学習意欲（動機づけ）
　　動機の種類　内発的動機づけ　学習性無力感　学習意欲を高めるために
第 12 回　学習指導
　　有意味受容学習などのさまざまな学習指導法について　協同学習
第 13 回　学級集団の理解
　　学級集団の特徴、発達過程　集団づくり　教師のリーダーシップ
第 14 回　教育評価
　　教育評価の目的、種類、方法　形成的評価　ＰＤＣＡサイクル
第 15 回　まとめ

〔成績評価〕
定期試験(100％)

〔教科書〕
中学校学習指導要領(最新版、文部科学省)
高等学校学習指導要領(最新版、文部科学省)
『発達と教育の心理学』・八千代出版

〔参考文献〕
授業中に随時指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教育の基礎的理解に関する科目、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程、中一種、高一種、必修

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日　12：30～13：30
③教員個人研究室
④miura@ashiya-u.ac.jp
⑤授業終了後、講義室でも対応します。

経済学概論Ⅰ

3221
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
岡田　　光正

〔到達目標〕
経済のグローバル化が進行し、私たちを取り巻く経済環境が大きく変貌しています。それとともに、私たちの日常生活にも様々な影響が現れています。授業では、主要な経済学者の市場観（市場経済に対する見方）の変遷を学習しながら、経済学に対する理解を深めるとともに、現代の経済社会や経済問題を見る目を養います。

〔授業の概要〕
18世紀末からの市場経済をめぐる主要経済学者の市場観（市場経済に対する見方）とその変遷を考察する。スミスの古典派経済学（自由放任主義）、A.マーシャルの新古典派経済学、ケインズ革命と自由放任主義の終焉、ケインズ経済学の全盛とその後の自由放任主義の台頭、破綻について学習しながら、経済学の基本的な概念や考え方、流れを習得します。　　アクティブラーニングとして、毎回、授業内容の要点や授業内容に対する意見を各自まとめて発表してもらいます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
普段から新聞や雑誌の経済記事、トピックなどに目を通したり、テレビのニュースや経済番組を視聴したりして、経済や経済問題への関心を育むように心がけてください。

〔授業計画〕
第 1 回　経済グローバル化について
経済グローバル化が進行し、私たちを取り巻く経済環境が大きく変貌しています。経済のグローバル化とは何か。なぜグローバル化が進行しているのか。授業では、その背景や実態について学習します。

第 2 回　経済のグローバル化の影響について
経済のグローバル化によって、私たちの日常生活にも様々な影響が現れています。授業では、経済のグローバル化の影響について考察します。

第 3 回　市場経済の特徴と機能について
私たちは、「市場経済」の下で経済活動を営み、日々の暮らしに必要な糧を得ています。授業では、市場経済の特徴や機能について学習します。

第 4 回　市場メカニズムについて
市場経済には、価格を誘因として生産が調整され、経済的資源が効率的に配分される仕組みがあります。授業では、こうした機能を司る市場メカニズムについて学習します。

第 5 回　市場経済の限界（失敗）について
市場経済では、市場の競争性が維持されている場合においても、公共財が提供されにくいことや、環境破壊などの外部不経済が発生するなど市場の失敗があることについて考察します。

第 6 回　アダム・スミス『国富論』について
古典派経済学の創始者アダム・スミスが『国富論』（1776年）で展開した分業論や交換論、労働価値説、市場観について学習し、経済学の最初の体系的な著作についての理解を深めます。

第 7 回　スミスの自由放任主義について
スミスが『国富論』で体系化し、その後アルフレッド・マーシャルを祖とする新古典派経済学に引き継がれていく、いわゆる自由放任主義（レッセフェール）の考え方について学習します。

第 8 回　ケインズの失業理論について
ケインズの失業理論を取り上げ、伝統的な経済学の考え方に「革命」をもたらしたとされる、『雇用、利子及び貨幣の一般理論』（1936年）の主要な内容と特徴について理解する。

第 9 回　ケインズの有効需要論について
ケインズの有効需要論について考察し、今日、総需要管理政策として景気対策等に幅広く応用されていることを理解する。

第 10 回　ケインズ経済学と戦後の黄金時代について
ケインズ経済学が戦後、自由経済圏の経済政策基盤として全盛期を迎え、経済の黄金時代（高度成長期）を将来、そのもとで社会保障の充実、国民皆保険制度、主要産業の国有化等、「大きな政府」という考え方が基調となっていくことを理解する。

第 11 回　新自由主義の登場と自由放任主義の復活
1970年代初めに発生した石油危機を契機に、それまでのケインズ経済学に代わって新自由主義（ネオリベラリズム）が登場し、全盛期を迎えます。その背景と新自由主義の基本的な考え方について学習します。

第 12 回　新自由主義的政策の展開について
1980年代にアメリカやイギリス、日本で展開された新自由主義的政策について検討し、ケインズ時代の「大きな政府」に代わって、「小さな政府」が政策基調となることについて理解を深めます。

第 13 回　フリードマンとハイエクの市場論について
自由競争市場の優位性を主張し、政府の介入に反対したフリードマン（1912～2006）と、計画経済に対して自由な市場経済の優位性を説いたハイエク（1899～1992）の市場論について学習します。

第 14 回　新自由主義政策の功罪について
新自由主義の弊害として、日本、欧米諸国における「格差の拡大」が指摘されています。格差拡大の背景やその実態について考えます。

第 15 回　授業のまとめ
授業のまとめを行い、定期試験の準備をします。

〔成績評価〕
定期試験（80%）
平常成績（授業への取り組み・発表など）（20%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

中学校学習指導要領（平成29年7月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年7月告示、文部科学省）
中学校学習指導要領解説　社会編（平成29年7月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　公民編（平成30年7月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
『経済社会学キーワード集』（経済社会学会編、富永健一監修。2015年初版発行）

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「社会学、経済学」、中一種（社会）、必修

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「社会学、経済学（国際経済を含む。）」、高一種（公民）、必修

〔オフィスアワー〕

毎回のLMS授業の内容や課題レポートなどについて質問や疑問、相談があれば、ｅメールにて受け付けます。受講生の皆様とのメールでのやり取りを通じて、理解がより深まり、学園生活の充実につながればと願っています。メール先：rqkw75325@leto.eonet.ne.jp　　時間：毎週水曜日14:30~15:30

なお、メールでの返答が翌日以降になる場合もありますが、ご了承ください。

ネットワーク技術

3318
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕

コンピュータネットワークを活用する知識の習得その活用手法を学び、web技術について広く学習し実験実習をする。教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）

〔授業の概要〕

目的を持ったホームページ作成を通して情報発信モラルについて学習する。

ネット検索にかけるためにはどのようにす履きかなど、SEO対策についても広く学習をする。ホームページ作成については、計画段階と完成段階においてグループディスカッションを行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

基礎用語については事前の学習が必要（自宅や・本館1階のＰＣコーナーにて各自準備が必要）

ＷＥＢ制作については、素材集めや、文章作成は事業時間外に準備が必要

復習については学習確認プリントを配布

事前準備90分＋事後復習90分＋制作が間に合わない場合は本館1階ＰＣコーナーにて制作

〔授業計画〕

第 1 回　ネットワークの歴史について
　　インターネットの歴史について
第 2 回　ネットワークについて
　　そもそもネットワークにつながるとは
第 3 回　ダイアルアップからADSL・光無線LANまで
　　いろんな回線について
第 4 回　ネットワークケーブル作成と調査
　　カテゴリー5ケーブルの作成
第 5 回　簡易ネットワークの構築
　　ハブを使い小規模ネットワークの作成
第 6 回　ネットワークセキュリティについて
　　自分の使っているパソコンのｏｓやウィルス対策ソフト・ウィルスに感染したらどうなるかを事例を見ながら学習
第 7 回　Ｗｅｂ制作準備
　　スタイルシートを使いＷｅｂページの作成準備
　　企画したＷｅｂページをグループディスカッションで発表討議
第 8 回　Ｗｅｂ制作ソフト操作方法
　　ソフトの操作説明
第 9 回　Ｗｅｂページ制作1
　　トップページの重要性と閲覧者の心理
第 10 回　Ｗｅｂページ制作2
　　画像編集（大きなサイズでは表示に時間がかかる）
第 11 回　Ｗｅｂページ制作3
　　リンク構造について
第 12 回　Ｗｅｂページ制作4
　　制作作業
第 13 回　Ｗｅｂページ制作5
　　制作作業
第 14 回　SEO対策について
　　Ｗｅｂページ登録作業方法と検索サイトで上位に来るためには
第 15 回　学習のまとめ
　　全員で各自の作成したＷｅｂページを見て、自分が作成したＷｅｂページとの比較と評価、また、次回に作る機会があった場合の反省点をグループ討議する

〔成績評価〕

授業に対する意欲も評価をします。授業途中のレポート提出と実技、期末には試験を行い総合評価をします。

〔教科書〕

「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕

ここから始めるLAN　日本実業出版社
２台目からのパソコンLAN(株)技術評論社
初めての情報ネットワーク　森北出版(株)

〔履修条件〕

〔備考〕

【実務経験の活用】

学校現場でのネットワーク構造やネット環境、またネットワークを活用した情報発信などの自習作業を行う。

〔オフィスアワー〕

水曜日3限目

放送教育Ⅰ

3403
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
西光　　晴彦

〔到達目標〕
・教育における放送の役割の現状と未来像を学ぶ。
・教育における放送の更なる活用の可能性を探る。
〔授業の概要〕
後期に実施予定の教育における放送の活用、実施の実際を学ぶにあたって前提となるべきメディアを読み解く力（メディアリテラシー）を、実際のメディア活動から学ぶ。
なお、自ら学び、他者と積極的に意見交換するなど、能動的な学びを取り入れる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：指定した配布プリントなどを熟読してくること。
復習：授業で学習した内容を復習し理解しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の年間計画、メディア接触率アンケート実施
第 2 回　マス・コミの成立
マス・コミの歴史と発展と、その時代への影響と役割
第 3 回　マス・コミと大衆文化①
文化の消費者としての大衆(社会的影響)
第 4 回　マス・コミと大衆文化②
商品としての大衆文化「テクノロジーとコミュニケーション技術の発達による」
第 5 回　マス・コミの影響過程①
放送技術とメディアの状況の解説
第 6 回　マス・コミの影響過程②
小集団とオピニオン・リーダーシップ「大衆支配のネットワーク」
第 7 回　マス・コミの影響過程③
マス・メデイアの受け手の相対的独立性
第 8 回　放送の歴史（黎明期）
放送の役割を歴史的に検証「初期」
第 9 回　放送の歴史（発展期）
欧米での歴史的発達段階を中心に考察
第 10 回　放送の歴史（現代）
未来像を探る放送の歴史的発展状況を理解した上で検証する
第 11 回　放送の可能性（娯楽）
現代社会において、放送が担っている役割「娯楽」具体例、具体的番組
第 12 回　放送の可能性（教養）
現代社会において、放送が担っている役割「教養」具体例、具体的番組
第 13 回　放送の可能性（報道）
現代社会において、放送が担っている役割「報道」具体例、具体的番組
第 14 回　放送の可能性（教育）
現代社会において、放送が担っている役割「教育」具体例、具体的番組
第 15 回　前期まとめ試験ガイダンス
前期授業を総括しながら、前期試験の採点方針を提示する
〔成績評価〕
その他平常点10%
小テスト20%
定期試験70%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
資料やプリントは講義中に随時配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
水曜日11：30～12：00

政治学概論Ⅱ

4110
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
安藤　　由香里

〔到達目標〕
現代、自由民主主義体制の下で進展してきた諸政治制度、戦後日本の政治制度や国内における様々な政治過程について楽しく学ぶ。国内政治の仕組みについて多角的な側面から学びながら、現在国内社会で起こっている様々な政治動向や時事問題について、自ら考察できるようにする。
〔授業の概要〕
人間の生活と政治は不可分の関係にあることを理解し「政治」を身近に感じる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
1. 教科書の該当箇所を必ず読んで出席すること。
2. 新聞、雑誌、テレビなどのマスメディアで取り上げられる事件や時事問題に関心を持ち、新聞などの活字情報を取得して読むこと。
〔授業計画〕
1. オリエンテーション・アイスブレイク・評価方法・政治学とは何か
2. 第1章 政治のとらえ方
3. 第2章 国家という枠組み
4. 第3章 政治体制
5. 第4章 選挙と投
6. 第5章 政党と政党システ
7. 第6章 政権とアカウンタビリティ
8. 第7章 執政・立法・司法
9. 第8章 政策過程と官僚制・利益団体
10. 第9章 連邦制と地方制度
11. 第10章 安全保障と平和

12. 第11章 国際政治経済
13. 第12章 国際社会と集団・個人（1）
14. 第12章 国際社会と集団・個人（２）
15. テスト
定期試験
〔成績評価〕
1. テスト 50%
2. 毎回、新聞記事を持参し、討議に積極的に参加する。30%
3. コメント用紙に積極的に記入し提出する
20%
〔教科書〕
砂原庸介ほか『政治学の第一歩 新版』有斐閣ストゥディア(2020)
〔参考文献〕
適宜指定する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「法律学、政治学」、中一種（社会）、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」、高一種（公民）、選択
〔オフィスアワー〕
授業の前後

国際政治学Ⅱ

4344
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
安藤　由香里

〔到達目標〕
1. 国際問題について自らの意見に基づいて議論できる。
2. 現代の国際政治体制の下で展開された戦争や国際協調に関する具体的な事例を取り上げ、単なる「出来事」としてではなく深く理解し、解決案を提示できる。
〔授業の概要〕
安全保障と武力紛争、世界平和のための国際協調などについて問題を考察し、国際政治に対する理解を深めると共に、国際政治体制の下で起こった象徴的な出来事について具体的に学ぶ。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
1. 教科書の該当箇所を必ず読んで出席すること。
2. 新聞、雑誌、テレビなどのマスメディアで取り上げられる国際問題や時事問題に関心を持ち、新聞などの活字情報を取得して読むこと。
〔授業計画〕
1. オリエンテーション・アイスブレイク・評価方法・国際政治とは何か
2. Unit 1. 主権国家の誕生
3. Unit 2. ナショナリズムと帝国主義の時代
4. Unit 3. 第一次世界大戦
5. Unit 4. 第二次世界大戦
6. Unit 5. 冷戦
7. Unit 7. 対立と協調
8. Unit 9. 規範と制度
9. Unit 10. 安全保障
10. Unit 15. 外交交渉
11. Unit 16. 国連の役割
12. Unit 21. 国連PKO, 人道的介入, 平和構築
13. Unit 22. 人権と民主主義
14. Unit 23. グローバリゼーション
15. テスト
定期試験
〔成績評価〕
1. テスト 50%
2. 毎回、新聞記事を持参し、討議に積極的に参加する。30%
3. コメント用紙に積極的に記入し提出する
20%
〔教科書〕
村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣(2015)
〔参考文献〕
適宜指定する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」、高一種（公民）、選択
〔オフィスアワー〕
授業の前後

会計学Ⅰ

4411
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
清原　裕平

〔到達目標〕
「会計」とは、企業等の経済活動の結果（成果）について、一定の測定ルールに従い貨幣額を用いて記録（記帳）し、利害関係者（ステークホルダー）に伝達（報告）するためのシステムといえます。
「会計学Ⅰ」では、こうしたディスクロージャー制度の一環として求められる会計の意義や役割等について、会計基準・企業会計原則・概念フレームワークなどを参照しながら確認するほか、「資産」と「負債」に係る重要論点について学習します。
〔授業の概要〕
授業は、主に教科書及び参考文献を使用して進めていきます。なお、授業の進捗状況に応じて、適宜資料を配付したり、課題を指示したりすることがあります。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
課題を除き、授業時間外・準備学習として求めることは基本的にありません。なお、「簿記」の学習は、「会計学」の深度ある理解や習得に寄与するものと考えます。

〔授業計画〕
第 1 回　会計総論
会計の意義、種類、役割などについて学習します。
第 2 回　企業会計の仕組み
企業会計の仕組みや特徴などについて学習します。
第 3 回　企業会計原則
企業会計原則について原文を参照しながら学習します。
第 4 回　概念フレームワーク
概念フレームワークについて原文を参照しながら学習します。
第 5 回　企業会計制度
会社法、金融商品取引法、法人税法における会計規定などについて学習します。
第 6 回　資産（1）
資産の意義、分類、評価などについて学習します。
第 7 回　資産（2）
流動資産のうち、当座資産や棚卸資産について学習します。
第 8 回　資産（3）
流動資産のうち、棚卸資産やその他の流動資産について学習します。
第 9 回　資産（4）
固定資産のうち、有形固定資産について学習します。
第 10 回　資産（5）
固定資産のうち、無形固定資産や投資その他の資産について学習します。
第 11 回　資産（6）
繰延資産について学習します。
第 12 回　負債（1）
負債の意義、分類、負債性引当金などについて学習します。
第 13 回　負債（2）
流動負債について学習します。
第 14 回　負債（3）
固定負債について学習します。
第 15 回　まとめ
これまで学習した範囲の中から重要論点を再度整理し、学習効果を高めます。
〔成績評価〕
授業への出席及び学習態度　50%
試験　50%
〔教科書〕
『新版　現代会計学（第３版）』（中央経済社）
〔参考文献〕
『新版　会計法規集（第11版）』（中央経済社）
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
①前期
②水曜日　15:20～16:00
③場所　　対面授業の場合は講義教室、ＬＭＳ授業の場合はメールで対応します。
④連絡先　yk-cpa429@agate.plala.or.jp　宛てにメールで質問等の内容を送信してください。
⑤その他（相談する際の留意事項等）
事前予約制となっていますので、必ずアポイントメントを取ってください。

スポーツ経営管理学

5212
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
青山　将己

〔到達目標〕
本授業では、以下3点を到達目標とする。
1. スポーツ経営管理に関する基礎的な知識を習得する。
2. スポーツ経営管理に関する「ヒト・モノ・カネ」の流れについて理解を深める。
3. スポーツ経営管理に関する現場での事例を理解し、問題点や解決策を見つける。
〔授業の概要〕
本授業は、スポーツ経営管理の基礎的概念を学ぶとともに、スポーツにおける「ヒト・モノ・カネ」といった資源のマネジメント方法について理解することを目的とします。また、様々な事例をもとに、現場での問題点や解決策について議論します。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：テレビや新聞、WEB等を通して、スポーツ経営管理に関する情報を収集する。
復習：各回における授業のまとめ、あるいは自身が興味を持ったトピックについて詳細に調べ、理解を深める。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、授業内容、評価方法について
第 2 回　日本のスポーツ振興政策
スポーツ経営管理に関連する日本のスポーツ振興政策について
第 3 回　スポーツチームの経営管理
プロスポーツチームをはじめとするスポーツチームの経営管理について
第 4 回　スポーツリーグの経営管理
Jリーグやプロ野球、Bリーグをはじめとするスポーツリーグの経営管理について
第 5 回　トップスポーツ選手の経営管理
トップスポーツ選手の契約システムやセカンドキャリアについて
第 6 回　大学スポーツの経営管理（UNIVAS）
大学スポーツの経営管理と大学スポーツ協会（UNIVAS）について

第 7 回　スポーツ組織の経営管理
我が国を取り巻くスポーツ組織構造と組織体制について
第 8 回　スポーツファンの経営管理
スポーツにおけるファン・サポーター特性とその行動について
第 9 回　子どもスポーツの経営管理
教育現場や地域における子どもスポーツの経営管理について
第 10 回　健康スポーツの経営管理
フィットネス関連の経営管理とヘルスプロモーションについて
第 11 回　障害者スポーツの経営管理
パラリンピックをはじめとする障害者スポーツの経営管理について
第 12 回　民間スポーツ施設の経営管理
民間スポーツ施設の経営管理と指定管理者制度について
第 13 回　総合型地域スポーツクラブの経営管理
総合型地域スポーツクラブの設置背景と課題について
第 14 回　スポーツイベントの経営管理
メガスポーツイベントや市民マラソンをはじめとするスポーツイベントの経営管理について
第 15 回　スポーツボランティアの経営管理
クラブ・団体ボランティア、イベントボランティア、アスリートボランティアの役割について

〔成績評価〕
定期試験：50%
小レポート・レポート：30%
授業態度：20%

〔教科書〕
使用しない（毎授業、プリントを配布します）。

〔参考文献〕
参考資料は以下の4点である。
1.「よくわかるスポーツマネジメント」（柳沢和雄・清水紀宏・中西純司編著、ミネルヴァ書房）
2.「スポーツマネジメント」（原田宗彦・小笠原悦子編著、大修館書店）
3.「中学校学習指導要領解説：保健体育編」（平成29年7月告示 文部科学省）
4.「高等学校学習指導要領解説：保健体育編」（平成30年7月告示 文部科学省）

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
非常勤のため、連絡はaoyama@ashiya-u.ac.jpまで。

哲学概論Ⅰ

5221
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
小川　　雄

〔到達目標〕
今後、AIの発達と普及により社会のありようは大きく変化すると言われている。このような状況のなかで、わたしたち人間の強みとして着目されているのは、さまざまな存在についてその価値や意味を考察したり、あるいは、目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりする知的な営み、つまり、哲学的な思考である。本講義では、受講生がこうした営為に関心を持ち、哲学的な思考を実践できるようにするために、哲学の歴史を紐解きながら、哲学的な思考の型を紹介する。

到達目標
（1）西洋哲学の基本的知識を身につけること。
（2）その知識を使って考え議論し、自身の主張をほかのひとに伝えられるようになること。
（3）人間を様々な局面から捉えられるようになり、人間の理解を深めること。

〔授業の概要〕
テーマや到達目標に基づいて、本科目では、古代から現代の代表的な哲学思想について学ぶ。これと併せて、新聞記事等の資料をとおして現代の社会問題について考察する機会を設ける。
　Phollyによるオンデマンド形式で授業を進める。詳細は第１回のガイダンスで説明するが、基本的には、講義スライドを視聴して、それに関連した課題に取り組み、課題を提出する、という流れになる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各授業後、その授業で学んだことを要約すること（９０分）と、提示された予習課題に取り組むこと（９０分）。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
成績評価や授業形式、講義内容に関する説明
第 2 回　第１章：古代の哲学①
古代ギリシアの自然哲学について
第 3 回　第１章：古代の哲学②
ソクラテスの思想について
第 4 回　第１章：古代の哲学③
プラトンの思想について
第 5 回　第１章：古代の哲学④
アリストテレスの思想について
第 6 回　第１章：古代の哲学⑤
キケロの思想について
第 7 回　中間レポート
レポートの書き方と課題の公示
第 8 回　第２章：中世の哲学①
キリスト教的な世界観について
第 9 回　第２章：中世の哲学②

教父哲学について
第 10 回　第２章：中世の哲学③
スコラ哲学について
第 11 回　第３章：近代の哲学①
大陸合理論について
第 12 回　第３章：近代の哲学②
イギリス経験論について
第 13 回　第３章：近代の哲学③
ドイツ観念論について
第 14 回　第４章：現代の哲学
プラグマティズムについて
第 15 回　まとめ
講義全体の振り返り

〔成績評価〕
平常点４０％
：それぞれの授業ごとに簡単な確認テストを用意している。それに取り組む。
中間レポート３０％
：第7回に公開する。書式や字数については、第7回で説明する。
期末レポート３０％
：試験期間内に課題を公開する。書式や文字数に関しては、後日こちらが指定する。

〔教科書〕
中学校学習指導要領（平成２９年３月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成３０年３月告示、文部科学省）
中学校学習指導要領解説　社会編（平成２９年７月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　公民編（平成３０年７月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を紹介、配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学」、中一種（社会）、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」、高一種（公民）、必修

〔オフィスアワー〕
基本的に、Phollyでの対応になる。質問や対応してほしいことがあれば、メッセージ機能を使って連絡をとること。

特別活動の指導法【中等】

6201
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
中岡　　禎雄

〔到達目標〕
特別活動は、望ましい集団活動を通して、人格の調和的な発達を図り、健全な社会生活を営む上で、必要な資質を養うことを目標とする教育である。
○ 特別活動の重要性について理解を深める。
○ 特別活動の歴史、教育課程上の位置づけ等について理解を深める。
○ 特別活動の意義・内容・指導方法等についての理解を深める。
○ 将来、教員として、特別活動に積極的に取り組む自覚を持てるようにする。

〔授業の概要〕
生徒が学校生活に魅力を感じるかどうかは、特別活動のあり方に関わっているとも言われるほど重要な役割を担っている。本授業では、特別活動の教育課程における位置、教育活動を通しての意義・内容・指導方法等について、学校の状況や生徒の実態についても触れながら授業を進める。また、教育現場で生きる授業にするため、話し合いや意見をまとめ発表する場を設定し、実践力を身につける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時間後講義内容を、資料やテキストをもとに復習し、レポート作成を行う（90分）

〔授業計画〕
第 1 回　開講にあたって
授業予定・評価方法・テキスト紹介・特別活動の位置づけ・人間形成と特別活動・自らの特別活動の振り返り
第 2 回　特別活動の歴史、生徒の現状と特別活動
特別活動の歴史・生徒の現状と特別活動の役割
第 3 回　特別活動に関わる指導理論
自主性と指導性の関係・個と集団の関係・リーダー性の育成
第 4 回　特別活動の教育的意義、全体指導計画
特別活動の教育的意義・全体指導計画
第 5 回　学級活動・ホームルーム活動(1)
学級活動・ホームルーム活動の目標・内容・指導計画
第 6 回　学級活動・ホームルーム活動(2)
実習計画づくり、学級活動・ホームルーム活動指導案の作成
第 7 回　学級活動・ホームルーム活動(3)
学級生活の向上を図る指導計画
第 8 回　学級活動・ホームルーム活動(4)
学級における人間関係を育む実践の指導計画
第 9 回　生徒会活動(1)
生徒会活動の目標・内容・指導計画
第 10 回　生徒会活動(2)
生徒会活動の組織、指導上の留意点、委員会活動の目的・種類等
第 11 回　部活動
部活動の特質・内容・特質
第 12 回　学校行事
学校行事の目標・内容・特質
第 13 回　特別活動と他の教育活動との関連
特別活動と各教科・道徳・総合的な学習の時間との時間等との関連
第 14 回　特別活動と地域連携
特別活動と地域連携の実際と実践計画

第 15 回　特別活動の指導姿勢、特別活動の評価、まとめ
特別活動の指導姿勢の在り方・特別活動の評価・まとめ

〔成績評価〕
筆記試験・課題提出・自主的な授業態度等を総合的に評価する。
（定期試験60%、授業への取り組み20%・授業内課題20%）

〔教科書〕
中学校学習指導要領解説　特別活動編（平成２９年７月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、総合的な学習の時間の指導法、特別活動の指導法、中一種、高一種、必修

〔オフィスアワー〕
ＬＭＳによる授業を実施し、質問等は随時ＬＭＳを通じて受け付ける

道徳教育の指導法【中等】

6202
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
木村　　重房

〔到達目標〕
（１）道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
（２）教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
（３）作成した学習指導案で模擬授業を実施し、その後授業をふりかえり学習指導案を練り直す。その上で再度、模擬授業を行い、授業力向上の過程を体験する。

〔授業の概要〕
道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義時間中に指示するが、模擬授業の指導案（略案）や模擬授業教材の予習等を課す予定である。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
「道徳教育とはなにか」について講義する。また毎授業のふりかえりのためのノート（B６サイズ）を配布し、毎時間の提出を求める。
第 2 回　学校における道徳教育
学校現場での道徳授業の実際を、資料を示し解説する。その上で、学校現場での課題と道徳教育が求められる教育効果について調べ学習等を用い、探求する。
第 3 回　現代社会における道徳教育の課題
いじめ・モラル等について具体的な事案を取り上げながら、どのように学校現場で指導することが、より効果的か生徒指導との関連も含めて講義し話し合い活動等で学びを深める。
第 4 回　道徳教育の歴史
道徳教育がどのような過程を経て、現在に至ったかを講義する。
第 5 回　子供の心の成長に応じた道徳教育
校種に応じた道徳教育とはどのようなものかを、小学校・中学校等の具体的な教材を示し、講義する。
第 6 回　道徳教育及び道徳教育の目標
学習指導要領及び解説に示された「道徳教育及び道徳教育の目標」を、「学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科　道徳編」に基づき講義する。
第 7 回　学校における道徳教育の必要性
学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の重要性を具体的な学校の取組を紹介した上で、その背景と道徳教育の必要性について講義する。
第 8 回　道徳科の多様な指導方法の理解
道徳科の特質を生かした多様な指導方法の理解するため、模範授業を示し、その上で各自が指導案を作成してグループ別模擬授業（5～10分間）を行う。
第 9 回　道徳授業設計の方法
道徳科における教材の特徴を踏まえた授業設計の方法を指導略案作成を説明し、模範授業を行う。その上で、略案作成を体験し、それに基づく模擬授業体験を行う。
第 10 回　道徳授業の指導案作成
模範となる指導案を提示し、教材を指定して「道徳授業のねらい」や「指導過程」を明確にして指導案を作成する。それに基づく授業実践を生徒役として体験する。
第 11 回　道徳科の学習評価
学習指導要領に基づき、道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を講義する。
第 12 回　模擬授業体験
模擬授業の実施と授業者や生徒役のふりかえりを通して授業改善の視点を身につけるため、模擬授業を生徒役と先生役に分かれて体験する。
第 13 回　授業改善の視点で指導案の修正を行う。

前回の授業体験での生徒役からの授業評価と先生役としてのふりかえりを基に、指導案を修正し、授業改善の方法を体験する。

第 14 回　模擬授業の再挑戦
修正した模擬授業の実施と授業者や生徒役のふりかえりを通して再度授業改善の視点を身につけるため、再度模擬授業に挑戦する。

第 15 回　まとめ
道徳教育を生徒の立場に立ってどのように進めていくかについて講義した上で、14回の学びを自己評価し、そして講座全体の授業評価を行い、それを全員の前で1分間で発表を行う。

〔成績評価〕
定期試験（60%）と授業での提出物（40%）とを合わせて総合的に評価する。

〔教科書〕
中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）
中学校学習指導要領解説　【特別の教科　道徳編】（平成29年7月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、道徳の理論及び指導法、中一種、必修

【実務経験の活用】
教育現場経験より、今日的な課題（いじめ・不登校等）の対応を指導する。

〔オフィスアワー〕
土曜の授業後の教室にて質問等を受け付ける。

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　経営①

8221
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
盛谷　亨

〔到達目標〕
大学生の間に自分が進むべき進路（就職）を明確にするため、各方面の卒業生に来ていただき自分の将来像を描くことが出来ることを目的とする。

〔授業の概要〕
多くの時間本学の卒業生（先輩）に来ていただき、過去の就活体験談や学生生活を振り返った講話をいただきます。また、今大学生の時にしておけば良かったこと、現在の2年生に伝えたいことをお話しいただきます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：自分が進むべき進路とそれに向けて何をすべきかどう行動するべきかを考える。[120分程度]
復習：講義内容を整理し、講義内の不明点を次回講義までに解決する。[120分程度]

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション ①
・「前期学事予定・履修登録確認」

第 2 回　オリエンテーション ②
・「クラス編成：所属コースとクラスの確認」

第 3 回　学外講師を迎えての講義の前に
・「次回より外部講師をお迎えしてキャリア教育を行うに当たり事前指導」

第 4 回　外部講師1
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。

第 5 回　外部講師2
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。

第 6 回　外部講師3
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。

第 7 回　外部講師4
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。

第 8 回　外部講師5
本学卒業生（企業社長・起業者・人事担当者・新卒者・教員採用者）などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や、入社試験について学ぶ。

第 9 回　卒業後の進路について
・「自身の現状と将来に向けた計画について[専門演習の選択について]」

第 10 回　就職部の活用方法
・「就職部の活用方法」

第 11 回　キャリアデザインについて
・「キャリアデザインについて考える。」

第 12 回　専門演習説明会
・「経営教育学科 専門演習担当教員の紹介と各演習内容の説明」

第 13 回　オリエンテーション ③
・「 専門演習 事前授業 （プレゼミ） についての説明」

第 14 回　前期試験・夏期休暇について
・「前期試験・夏期休暇についての心得」

第 15 回　定期試験
・「定期試験」

〔成績評価〕
・課題レポート（100%）
※各回聴講レポートを記入し提出。

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容
②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。
③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

放送教育Ⅱ

3403
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
西光　晴彦

〔到達目標〕
・放送メディアの基礎的な理解をする。
・放送メディアの問題点を知る。
・放送メディアと法律・行政との関係を知る。
・放送メディアの教育への更なる応用の可能性を考察する。
〔授業の概要〕
教育における放送利用の実情、未来像などについて、実例をもとに分かりやすく、かつ具体的に描き出す。なお、自ら学び、他者と積極的に意見交換するなど、能動的な学びを取り入れる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：指定した配布プリントなどを熟読してくること。
復習：授業で学習した内容を復習し理解しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　授業方針のガイダンス
後期授業方針、評価方針の説明と確認
第 2 回　放送の現状と課題（法的問題点）
法規範とメディアの関係
第 3 回　放送の課題と現状（行政、特に国家権力との関係における問題点）
法規範とメディアの関係
第 4 回　放送の課題と現状（市民のアクセス権とメディアスクラムをめぐる今日的問題）
放送法の目的、効果
第 5 回　市民社会における放送の役割と可能
メディアが市民社会への可能性具体的番組視聴
第 6 回　視聴番組をめぐる問題と具体的番組視聴
メディアが市民社会に敵対する可能性
第 7 回　視聴番組の改善点について
放送番組制作の潜在的可能性を探る
第 8 回　放送の教育への応用（総論）
実際に行われている放送教育の素材を使用
第 9 回　放送の教育への応用（各論）
その潜在的可能性を知る
第 10 回　放送の教育への応用
その潜在的可能性を知る
第 11 回　放送環境と法（憲法）
現代日本の法システムを概観
第 12 回　放送環境と法（公法）
メディア全般をコントロールするもの
第 13 回　放送環境と法（私法）
自主規制と視聴者からの改善申告
第 14 回　放送教育総括
現代社会における存在意義、未来の可能性
第 15 回　年間授業のまとめ
年間授業の総括を行う
〔成績評価〕
小テスト20%
その他平常点10%
定期試験70%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
水曜日11：30〜12：00

生理学

1208
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
渡　康彦

〔到達目標〕
ほとんどの生物が持っている体内時計とはどのようなものなのかを解釈する。
様々な生物での体内時計の性質や人の睡眠と体内時計の重要な関係を説明できる。
〔授業の概要〕
体内時計の重要な３つの性質、周期性、温度補償性、同調、そして、いろんな生物の時計のありかについて説明し、時計が実際に使われている様々な生物の事例について概説し、

人と体内時計の関係、とくに睡眠における重要性を述べる。
オンデマンド授業と対面授業を併用していく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
配布プリントを見直す（120分）
プリントでわからないこと、興味のあることなどを調べる（120分）
〔授業計画〕
第 1 回　はじめに
生理学でどのようなことを学ぶかについて知る。
第 2 回　体内時計の性質（1）
体内時計の周期性、温度補償性について考える。
第 3 回　体内時計の性質（2）
体内時計の環境とくに光への同調について考える。
第 4 回　体内時計の光受容器
いろんな生物の体内時計の光受容について考える。
第 5 回　体内時計のありか（1）
昆虫の体内時計はどこにあるのかについて考える。
第 6 回　体内時計のありか（2）
軟体動物や脊椎動物の体内時計のありかについて考える。
第 7 回　体内時計を持つ理由
鳥の渡りとミツバチの八の字ダンスにおける太陽コンパスと体内時計の利用ついて考える。
第 8 回　睡眠の重要性
睡眠への体内時計のかかわりと睡眠の重要性について考える。
第 9 回　人の健康と光と体内時計
体内時計と睡眠と光の関係、睡眠障害への光療法の実施方法とその利用について考える。
第 10 回　体内時計と食事のリズム
朝食と脳の活動、体内時計を動かす光と食事の重要性について考える。
第 11 回　子どもの睡眠
「早寝早起き朝ごはん」の重要性について考える。
第 12 回　時計遺伝子
周期をきめる遺伝子per遺伝子の発現場所、負のフィードバック機構について考える。
第 13 回　光周性（1）
植物の季節適応、光周性について考える。
第 14 回　光周性（2）
動物の季節適応、光周性について考える。
第 15 回　まとめ
生理学についての総括をする。
〔成績評価〕
プリント提出（20%）と期末試験（80%）にて評価する。
〔教科書〕
授業中に適宜プリントを配布する。
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
木曜日2時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

教育心理学Ⅱ

3215
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
三浦　正樹

〔到達目標〕
授業テーマとして、従来の教育心理学の主要４領域の内、後期は主に人格、評価領域を中心に述べる。また、前期の内容を補足し、発展的に述べる。
到達目標としては、教職をめざす学生にとって必要な教育心理学の基本的知識の習得をめざす。また、教育心理学的思考力、教育現場での心理学的判断力の習得を目指す
〔授業の概要〕
現代の教育心理学は幅も広く奥も深い学問であって、教職をめざす学生にとっては是非身につけておかなければならない学問である。
ここでは、人格や適応全般について述べる。
授業理解のため、下記にある予習・復習を行い、主体的に学ぶこと。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予め授業計画にある項目について調べておくこと。(90分)
復習として、授業で示された重要キィワードをまとめておくこと。(45分)
発展学習として、まとめた重要キィワードについて図書館やネットで調べてみること。(45分)
授業で配布されたプリントを整理して保存しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
授業の目的・予定、評価方法、参考文献と資料の紹介
第 2 回　教育心理学とは
教育心理学の領域、教育心理学の新しい動向、学校心理学などについて
第 3 回　学習指導①
授業の設計、有意味受容学習、プログラム学習、発見学習について
第 4 回　学習指導②
適性処遇交互作用、協同学習による指導、自己学習能力について
第 5 回　個性を伸ばす①
個人差、パーソナリティ、知能の個人差、適性、個性について
第 6 回　個性を伸ばす②
自己意識、気質、親の養育態度、養育者との相互作用について
第 7 回　こころの悩み①

欲求不満と不適応、問題行動、性格的弱点を補うための工夫について
第 8 回　こころの悩み②
カウンセリングの種類と機能、学校におけるカウンセリングについて
第 9 回　学級集団①
学級集団とは何か、リーダーシップPM理論、教師とは何かについて
第 10 回　学級集団②
チームワーク、開発型学級、日本の学級集団の特徴について
第 11 回　教育評価①
測定とは、評価とは、教育評価とは、教育評価の目的・方法について
第 12 回　教育評価②
教育評価に生かせる検査、教育評価と数量的なデータについて
第 13 回　感情と教育
感情の理論、感情と教育、心理教育プログラムについて
第 14 回　脳と教育
脳科学の基礎知識、脳のシステム、神経系の発達、脳科学と教育について
第 15 回　まとめ

〔成績評価〕
定期試験(100%)

〔教科書〕
テキストは用いない。

〔参考文献〕
授業中に随時指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日　12：30～13：30
③教員個人研究室
④miura@ashiya-u.ac.jp
⑤授業終了後、講義室でも対応します。

ネットワーク技術

3318
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕
コンピュータネットワークを活用する知識の習得その活用手法を学び、web技術について広く学習し実験実習をする。教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）

〔授業の概要〕
目的を持ったホームページ作成を通して情報発信モラルについて学習する。
ネット検索にかけるためにはどのようにす履きかなど、SEO対策についても広く学習をする。ホームページ作成については、計画段階と完成段階においてグループディスカッションを行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
基礎用語については事前の学習が必要（自宅や・本館1階のＰＣコーナーにて各自準備が必要）
ＷＥＢ制作については、素材集めや、文章作成は事業時間外に準備が必要
復習については学習確認プリントを配布
事前準備90分＋事後復習90分＋制作が間に合わない場合は本館1階ＰＣコーナーにて制作

〔授業計画〕
第 1 回　ネットワークの歴史について
インターネットの歴史について
第 2 回　ネットワークについて
そもそもネットワークにつながるとは
第 3 回　ダイアルアップからADSL・光無線LANまで
いろんな回線について
第 4 回　ネットワークケーブル作成と調査
カテゴリー5ケーブルの作成
第 5 回　簡易ネットワークの構築
ハブを使い小規模ネットワークの作成
第 6 回　ネットワークセキュリティについて
自分の使っているパソコンのｏｓやウィルス対策ソフト・ウィルスに感染したらどうなるかを事例を見ながら学習
第 7 回　Ｗｅｂ制作準備
スタイルシートを使いＷｅｂページの作成準備
企画したＷｅｂページをグループディスカッションで発表討議
第 8 回　Ｗｅｂ制作ソフト操作方法
ソフトの操作説明
第 9 回　Ｗｅｂページ制作1
トップページの重要性と閲覧者の心理
第 10 回　Ｗｅｂページ制作2
画像編集（大きなサイズでは表示に時間がかかる）
第 11 回　Ｗｅｂページ制作3
リンク構造について
第 12 回　Ｗｅｂページ制作4
制作作業
第 13 回　Ｗｅｂページ制作5
制作作業
第 14 回　SEO対策について
Ｗｅｂページ登録作業方法と検索サイトで上位に来るためには
第 15 回　学習のまとめ
全員で各自の作成したＷｅｂページを見て、自分が作成したＷｅｂページとの比較と評価、また、

次回に作る機会があった場合の反省点をグループ討議する

〔成績評価〕

授業に対する意欲も評価をします。授業途中のレポート提出と実技、期末には試験を行い総合評価をします。

〔教科書〕

「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕

ここから始めるLAN　日本実業出版社
２台目からのパソコンLAN(株)技術評論社
初めての情報ネットワーク　森北出版(株)

〔履修条件〕

〔備考〕

【実務経験の活用】

学校現場でのネットワーク構造やネット環境、またネットワークを活用した情報発信などの自習作業を行う。

〔オフィスアワー〕

水曜日3限目

教育学概論Ⅱ①

4208
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
津田　　徹

〔到達目標〕

この講義では、教育とは何かについて、その理念と歴史を理解することができます。教育という概念が登場してきた西洋や日本における歴史について理解することができます。また教育作用が発生してきた社会背景や、子どもに対するとらえ方の変遷、教育機関としての学校や教育方法がどのように発生してきたかを理解し、こうした内容を前提として、教育現象や教育問題を自分で考察し分析し、最終的に説明できることが目標です。

〔授業の概要〕

この講義では、西洋の教育理念の復讐、日本の教育理念の流れを解説します。人類の歴史とともに教育の歴史が発生した経緯を確認し、教育作用が発生してきた古代ギリシアから、西洋中世、ルネサンス、近代教授学の時代、啓蒙時代、近代社会の到来と公教育機関の成立と整備、学習者中心の教育観の芽生え、学校教育におけるユニークな教育理念の展開や教育実践の展開について解説します。また後半以降においては日本の教育理念の展開について、近代以前と近代以後、そして現代の日本の教育や学校教育、学校教育の仕組みについて触れていきます。授業中にどんどん問題提起をします。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

事前学習（予習）については、シラバスの計画を参考に、取り上げられる内容（項目、人物、時代、概念等）についてあらかじめ教科書や書物、インターネットなどを活用して調べておくこと(90分)。

事後学習（復習）については、授業で取り上げた内容について理解できているか、言葉で説明できるかどうか等を確認し、出来ない場合については、教科書やノートを見直しておくこと。また授業内で取り上げた書籍等についてさらに学習を進め内容の深化を目指すこと（90分）。

〔授業計画〕

第 1 回　イントロダクション
講義目標、内容、方法、受講上の注意、評価の方法、参考文献の紹介

第 2 回　西洋教育のめばえ
古代ギリシアの教育理念、古代ローマ・キリスト教の教育理念、西洋中世の教育理念、ルネサンスの教育理念

第 3 回　西洋教育の成長・発展
宗教改革の教育理念、バロック時代の教育理念、啓蒙時代の教育、ロック、ルソー、カントの各教育

第 4 回　西洋教育の成熟
近世の教育、ペスタロッチ、デューイの各教育、20世紀の教育

第 5 回　西洋教育の現在
改革教育、新教育運動、新自由主義、アメリカの教育実践研究

第 6 回　日本の古代の教育
大学・国学、貴族の学校、旧仏教と新仏教と教育

第 7 回　日本の中世の教育
足利学校、金澤学校、家訓と武家社会、世阿弥の思想、貝原益軒の思想

第 8 回　江戸時代の教育（１）
昌平坂学問所、藩校、郷学

第 9 回　江戸時代の教育（２）
私塾、寺子屋

第 10 回　明治時代の教育（１）
学制、公教育の登場、福沢諭吉の思想

第 11 回　明治時代の教育（２）
森有礼の思想、改正教育令、学校令、教育勅語

第 12 回　大正時代の教育
新教育運動、教育研究運動、戦前の教育（国民学校）

第 13 回　戦後の新しい教育
教育基本法、学校教育法、民主主義教育

第 14 回　昭和から平成の学校教育
学習指導要領とその特徴、教育改革の特徴

第 15 回　まとめ
学びを通して得られた視点と教育的課題、質疑応答

〔成績評価〕

定期試験（70%）、講義への取り組み・課題・レポートの提出（30%）

〔教科書〕

広岡義之編、『新しい教育原理ー第2版ー』、ミネルヴァ書房。この書は第1回目から使用します。
内閣府・文部科学省・厚生労働省編、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年）
文部科学省編、『幼稚園教育要領』（平成29年）、東山書房。
文部科学省編、『小学校　学習指導要領』（平成29年）、東洋

館出版。
文部科学省編、『中学校　学習指導要領』（平成29年）、東山書房。
文部科学省編、『高等学校　学習指導要領』（平成30年）、東山書房。
〔参考文献〕
レーブレ（広岡他訳）、『教育学の歴史』、青土社、2015年。
パーマー（広岡他訳）、『教育思想の50人』、青土社、2012年。
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
木曜日3時間目前休み時間。

起業論

5015
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
今岡　　重男

〔到達目標〕
起業（初めて会社やお店などを作り、新たに事業を手がけること）の目的や方法を学び、マーケティング戦略や競争戦略から、効率的な成長を促す成長戦略までを理論・実践の両面から学ぶことを目標にする。
この講義は、起業に関心がある学生はもちろんであるが、一般企業への就職を希望する学生にも役立つものである。
内容は初心者向きで、分かりやすく指導する。
〔授業の概要〕
この授業は、PhollyとYoutubeを使って遠隔で下記の内容で行います。
（1）　まず「起業・開業のための基礎知識」を習得する。

（2）　さらに、起業も目的や方法について学び考える

（3）　実際に起業事の事例から、起業の動機・理念（目的）、起業のプロセス、マーケティング戦略、競争戦略、成長戦略や起業の夢や苦心についても学ぶ。

（4）　最終的には「ビジネスプラン(事業計画)」の立て方まで学ぶことにする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
まず、身の回りにあるお店や会社に関心を持って下さい。お店や会社は、社会の求める商品やサービスを提供し、社会に役立つための活動をしています。もし、自分が起業するとすれば、どのようにして社会に役立とうとするのか、身近なお店や会社の事例を参考にして考えて下さい。さらに、新聞やテレビなどで紹介される企業の成功事例などもよく見て、日ごろから、起業や企業の実際の活動についての関心を高めて下さい。
〔授業計画〕
第 1 回　起業は面白い（授業の進め方説明）
この授業の概要と進め方の説明を行ったあと自己紹介を行う。
起業の具体的事例を紹介しながら、起業の面白さや厳しさを考える。
第 2 回　副業的起業の具体例
多くの会社で原則として副業を禁止してきた。しかし、「積極的に副業を推進する」政府の働き方改革の方針により、今後、多くの会社で副業が禁止から容認に変化していくと考えられる。最初は会社勤務などの本業を持ち空いた時間で副業をするのが安全だと考えられる。その副業を少しずつ大きくしていく起業の具体例を学ぶ。
第 3 回　副業的起業の方法
前回の事例を参考に、どのように副業を開始すればよいか、その方法をステップを考える。
第 4 回　スモールビジネスの実際
まとまった資金や従業員を必要としない「1人での会社経営」を選ぶ経営者が増えている。昨今では大学を卒業後すぐに、または在学中に起業する人も少なくない。
彼らはマイクロアントレプレナー（マイクロ起業家）と呼ばれるが、その目的はビジネスを拡大することだけでなく、「好きなことを仕事にして自由に稼ぐという新しいライフスタイルを実現する」ことだ。そのメリット・デメリットは何だろうか？今回はその具体事例を学ぶ。
第 5 回　起業に向けてのステップ
起業するには次のようなステップを踏むことが重要である。
1.起業の目的・理由を決める　2.アイデアを生み出す　3.コンセプトを決める　4.事業計画を立てる　5.必要な設備・場所・人材を考える　6.資金の調達方法を考える　7.起業の形態を決める　8.起業する時期を考える　9.起業手続きや各種届出、許認可　10.事業のスタート
今回はそのステップを一つずつ学ぶ。
第 6 回　ビジネスモデルとは何か
ビジネスモデルは、簡単に言うと「価値を創造し、提供する仕組み」とか「もうけの仕組み」などと言われている。起業を考える時、どんな事業で収益を上げるか、事業のターゲット層をどこに設定するか、どのような製品やサービスを市場に提供するかなどビジネスモデルを論理的に体系化しなければならない。今回はビジネスモデルとは何かを学ぶ。
第 7 回　ビジネスモデルの作り方
ビジネスのモデルの作り方としてビジネスモデルキャンバスを使用する方法がある。ビジネスモデルキャンバスというのは、どのような方法なのかを学ぶ。
第 8 回　ビジネスモデルの具体例

経営や事業に大きな影響を与えるため、多くの企業はビジネスモデルの構築に力を注いでいる。コンビニやamazon、ユニクロなどの企業はどのようにしてビジネスモデルを作成したのか、具体事例を見ながらビジネスモデルの作り方を学ぶ。

第 9 回　顧客のニーズに合致した価値提供の方法
新しく起業する時に、これから提供する価値と顧客のニーズとのズレを見つけて顧客のニーズにマッチするビジネスアイデアにすることが重要である。今回は、そのための利用する「バリュープロポジションキャンバス」という手法を考える。

第 10 回　バリュープロポジションキャンバスの具体例
提供する価値と顧客のニーズとのズレを見つけるためのバリュープロポジションキャンバスという手法とその具体例について学ぶ。

第 11 回　ビジネスモデルと経営理念
ビジネスモデルを考える時には、経営理念→経営戦略→ビジネスモデルの順に考えることになる。今回は、その最初に考える経営理念（経営目的）について考えてみる。多くの企業の経営理念を実際にみながら、経営理念の重要性について学ぶ。

第 12 回　起業時に考える経営戦略
企業に際して、経営理念→経営戦略→ビジネスモデルはどのように考えるのか、今回はその中で経営理念はどのように考えるのかについて学ぶ。

第 13 回　経営戦略の具体的事例
前回の授業に沿って、どのような経営戦略があるのか。具体的な事例を学びながら、自分が起業する際の経営理念→経営戦略→ビジネスモデルといった一連の流れを考えてみる。

第 14 回　ビジネスプランを書いてみる
自分が起業をすると仮定しビジネスプランを書いてみる。

第 15 回　まとめ
最後に、講義の振り返り復習を行う。

〔成績評価〕
授業における毎回の課題レポートや期末レポートなどを総合的に判定して評価する。

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
長谷川博和『ベンチャー経営論』東洋経済新報社、2018年
グロービス経営?学院『グロービスMBAビジネスプラン』ダイヤモンド社、2010年
柳孝一『ベンチャー経営論 : 創造的破壊と矛盾のマネジメント』日本経済新聞社、 2004年
金井一頼・角田隆太郎『ベンチャー企業経営論』有斐閣、2002年

〔履修条件〕

〔備考〕
私自身の起業経験と研究を活かした授業を行います。起業するための目的や方法を学び、マーケティング戦略や競争戦略から、効率的な成長を促す成長戦略までを講義する。

〔オフィスアワー〕
今回は遠隔授業を行うので、質問や相談のある人は、電話またはメールでで連絡ください。
携帯電話：09083751660
パソコンメールアドレス：imaoka@ashiya-u.ac.jp

人事労務管理論

3014
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
今岡　　重男

〔到達目標〕
企業が活動するためには、人　モノ　カネ　情報といった経営資源が必要である。これらの資源を上手く使って経営に役立てることができれば、企業を発展させることができる。経営資源の中でも、人が最も重要な資源だと言われることがある。
そこで企業経営と人事労務管理について深く学ぶことにより、経営者を目指す学生だけではなく、普通に企業に就職することを目指す学生にとっても、将来、組織の管理者となった場合に、役立つような実践的な人事管理労務の知識習得を目標とする。

〔授業の概要〕
従業員の管理は企業経営の重要課題の一つである。人の管理がうまくいかいかないと、事業もうまくいかない。
そこで、この授業では、人事労務管理の理論的な側面と共に、実際に企業の中で行われている人事労務管理の実践的な内容を具体的な事例や産業界における話題などもできる限り取り入れて分かりやすい授業を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学生は企業内で本格的に働いたことがないと考えられる。
それでも、企業の商品やサービスなら、生活の中でも触れることが多いが、企業内の人事労務管理に直接触れることは通常はない。
従って、テキストの予習や新聞などからの情報収集などで人事労務に関する関心を持つよう努めてください。

〔授業計画〕

第 1 回　授業ガイダンス
授業の進め方の説明と大学において人事労務管理論を学ぶことの意義を解説する。

第 2 回　企業経営と人事労務管理
企業経営者の主要な課題としては、環境変化を読む、戦略を立てる、組織をつくる、人を動かすなどが考えられる。企業は目的に沿ってこの中の人を動かす　という課題に沿ってこの授業を行う。人事労務管理の目的や人事労務管理は誰が行うのかなど、実例のなかで学ぶ。

第 3 回　人事労務管理の領域
人事労務管理の領域は次の5つの領域をいうが、その概要を学ぶ。

人材の確保
人材の配置
人材の育成
給与に関する管理
職場環境の最適化

第 4 回　雇用管理
採用から配置・異動など、人的資源としての人　の確保から活用に至るプロセスと雇用に関わる法的な側面についても学ぶ。

第 5 回　人材育成①
人材育成の基本について学ぶ。

第 6 回　人材育成②
人材育成の具体例について学ぶ。

第 7 回　賃金制度と評価制度
賃金の本質は何かを考え、企業内の賃金制度などの事例研究を踏まえ、評価制度あり方について学ぶ。

第 8 回　マネジメント理論の発展
テイラーの科学的管理法は経営学の始まりと言われているが、その後どのようにしてマネジメント理論が発展していったかについて学ぶ。

第 9 回　科学的管理法からトヨタ生産システムへ
科学的管理法を活用してフォードやトヨタ自動車などが生産システムを開発していったといわれています。科学的管理法をどのようにして活用したのかを考える。

第 10 回　トヨタ生産システム 1
トヨタのものつくり哲学、高い技能を育む風土やカンバン方式等のトヨタ生産システムの概要を学ぶ。また、それが人事労務管理とどのように関係しているかを考える。

第 11 回　トヨタ生産システム 2
トヨタ生産システムを構成するカンバン方式、一個ながし、にんべんのついた自働化、生産管理板、あんどん、THE KAIZENについて学ぶ。また、それが人事労務管理とどのように関係しているかを考える。

第 12 回　G.E.メイヨーの人間関係論
G.E.メイヨーは、1924年から1932年の約8年をかけて労働の生産性を上げる要因を追求する実験を行った。その結果、生産性を高めるためには従業員の士気（モラール）を高めることが必要なこととその士気を高めるためには職場の人間関係の改善が必要であることを主旨とする理論である　人間関係論　を提唱した。1950年代のアメリカ産業界や戦後日本の産業界に大きな影響を与えたこの理論を考察する。

第 13 回　マズローの欲求5段階説
この説は、心理学者A.マズローが　人間は自己実現に向かって絶えず成長する生きものである　と仮定し、人間の欲求を5段階に理論化した。この5つの欲求はピラミッド状の序列があり、低次の欲求が満たされるごとに、もう一つ上の欲求を持つようになるとした。人事管理の世界でも活用されることがあるので学んでおく。

第 14 回　P.F.ドラッカーの目標管理
チームをマネジメントする立場になった時、どのような能力や資質が求められるのか把握しておくことは大切である。ここでは、マネジメントの意味や役割、ドラッカーが提唱したマネージャーに必要な5つの基本能力、マネージャーに求められる資質について学ぶ。

第 15 回　まとめ
全授業を振り返り質疑応答を通じてまとめをする。

〔成績評価〕
毎回の授業後のレポートと期末レポートの総合評価で採点する。

〔教科書〕
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理　第5版』有斐閣アルマ、2015/10/19

〔参考文献〕
奥林康司・上林憲雄・平野光俊　入門人的資源管理　中央経済社、2010年3月1日

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
企業勤務経験も交え、理論と実践の両面から講義を行う。

〔オフィスアワー〕
質問などがあれば、まずimaoka@ashiya-u.ac.jp今岡重男にメールを下さい。メールを頂ければ、電話などでお話しします。

会計学Ⅱ

4411
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
清原　裕平

〔到達目標〕
「会計」とは、企業等の経済活動の結果（成果）について、一定の測定ルールに従い貨幣額を用いて記録（記帳）し、利害関係者（ステークホルダー）に伝達（報告）するためのシステムといえます。
「会計学Ⅱ」では、こうしたディスクロージャー制度の一環として求められる会計の中から、「資本」と「損益」に関する重要論点を学習するほか、学生自身による財務諸表の作成や分析を通じて、会計のより一層の理解と習得を図ります。

〔授業の概要〕
授業は、主に教科書及び参考文献を使用して進めていきます。なお、授業の進歩状況に応じて、適宜資料を配付したり、課題を指示したりすることがあります。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
課題を除き、授業時間外・準備学習として求めることは基本的にありません。なお、「簿記」の学習は、「会計学」の深度ある理解や習得に寄与するものと考えます。
〔授業計画〕
第 1 回　資本（1）
資本の意義、分類などについて学習します。
第 2 回　資本（2）
資本金、資本剰余金、利益剰余金などについて学習します。
第 3 回　資本（3）
自己株式、評価・換算差額等、新株予約権について学習します。
第 4 回　損益（1）
損益の意義、分類、諸原則などについて学習します。
第 5 回　損益（2）
費用収益対応の原則、費用収益の計上原則などについて学習します。
第 6 回　損益（3）
営業収益について学習します。
第 7 回　損益（4）
営業費用について学習します。
第 8 回　損益（5）
営業外損益、特別損益、法人税等について学習します。
第 9 回　財務諸表作成（1）
財務諸表の意義や種類、作成方法などについて学習します。
第 10 回　財務諸表作成（2）
学生自身が実際に財務諸表を作成します。
第 11 回　連結財務諸表
連結財務諸表の意義や目的、作成方法などについて学習します。
第 12 回　企業結合と事業分離
企業結合と事業分離の意義や会計処理などについて学習します。
第 13 回　財務諸表分析（1）
財務諸表分析の意義や目的、方法などについて学習します。
第 14 回　財務諸表分析（2）
学生自身が実際に財務諸表の分析を行います。
第 15 回　まとめ
これまで学習した範囲の中から重要論点を再度整理し、学習効果を高めます。
〔成績評価〕
授業への出席及び学習態度　50%
試験　50%
〔教科書〕
『新版　現代会計学（第３版）』（中央経済社）
〔参考文献〕
『新版　会計法規集（第11版）』（中央経済社）
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
①後期
②水曜日　15:20～16:00
③場所　　対面授業の場合は講義教室、ＬＭＳ授業の場合はメールで対応します。
④連絡先　yk-cpa429@agate.plala.or.jp　宛てにメールで質問等の内容を送信してください。
⑤その他（相談をする際の留意事項等）
事前予約制となっていますので、必ずアポイントメントを取ってください。

経済学概論Ⅱ

3221
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
岡田　　光正

〔到達目標〕
授業では、経済学の伝統的な理論や学説を取り上げ、経済学に対する理解を深めるとともに、現代の様々な経済・社会問題ににアプローチできる経済学的素養を習得する。
〔授業の概要〕
経済学の伝統は、現代の様々な軽罪社規問題を読み解く鍵を提供してくれる豊かな宝庫と言えます。授業では毎回、主要経済学者によって展開された理論や学説をトピックとして取り上げ、その内容について学習しながら、現代の経済社会や経済問題を科学的にみる目を養います。
アクティブラーニングとして毎回、授業内容の要点や授業に対する意見を各自まとめて発表してもらいます。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
普段から新聞や雑誌の経済記事、トピックなどに目を通したり、テレビのニュースや経済番組を視聴したりして、経済や経済問題への関心を育むように心がけてください。
〔授業計画〕
第 1 回　シュンペーターの経済発展論について
シュンペーター（1883～1950）は、企業者の行う不断のイノベーション（革新）が経済を発展させるという理論を構築し、ケインズと並び称せられる天才経済学者の一人。授業では、彼の経済発展論の概要について学習します。
第 2 回　シュンペーターとコンドラチェフ
ニコライ・コンドラチェフ（1892～1938）は、ロシアの著名な経済学者ですが、今日、50年周期の「長期循環」の研究者として有名です。シュンペーターはそれを「コンドラチェフの波」と命名し、世界的に知られるところとなりました。授業では、「コンドラチェフの波」を取り上げ、世界経済の今後を展望します。
第 3 回　イノベーションと企業者精神
シュンペーターが挙げているイノベーションの５つの事例とその遂行に不可欠な企業者精神について学習します。

第 4 回　リカードの比較優位の原理について（1）
イギリスの経済学者リカード（1772～1823）は、「自国の得意とする生産に特化し、それ以外は貿易によって賄えば、互いに利益となる」という比較優位の考え方を提唱、自由貿易を支持しました。授業では、この比較優位の原理について考察します。

第 5 回　リカードの比較優位の原理について（2）
簡単な数値例を用いて、リカードの比較優位の原理について理解を深めます。

第 6 回　比較優位とTPP問題
比較優位の観点からTPP問題（アメリカのTPP不参加、保護貿易主義、中国との貿易戦争等）について考察します。

第 7 回　限界効用理論について（1）
限界効用理論は、1870年代に3人の経済学者、メンガー、ジェヴォンズ、ワルラスによってほぼ同時に提唱されました。これは今日、経済学上の「限界革命」と呼ばれています。これによって経済学と数学が直接結びつき、今日のミクロ経済学の原点となりました。授業では、限界効用、限界効用逓減の法則、無差別曲線等について学習します。

第 8 回　限界効用理論について（2）
与えられた予算制約のもとで効用が最大となる「最適消費量」の求め方について学習します。

第 9 回　演算：最適消費量を求める
簡単な数値例を用いて、最適消費量を求める演算を行います。

第 10 回　ヘンリー・フォードの偉業について
戦後の「大量生産・大量消費」体制の先駆けとなった「自動車王」ヘンリー・フォード（1863～1947）の偉業について考察します。

第 11 回　フォーディズムについて
戦後の「大量生産・大量消費」体制は、ヘンリー・フォードにちなんで、フォーディズムと呼ばれています。戦後の黄金時代をもたらしたフォーディズムについて学習します。

第 12 回　マルクス『資本論』について（1）
今日、格差（社会）の問題が再びクローズアップされ、マルクス（1818～1883）
の『資本論』を見直す動きがみられます。マルクスが『資本論』で暴いたとされる資本主義の実態とは何か、考察します。

第 13 回　マルクス『資本論』について（2）
マルクスは、資本主義についての批判的分析から、自由競争をやめ、計画経済による理想の社会を目指しました。彼が資本主義に代わるものとして描いた理想の社会（社会主義）とはどのようなものだったのか、考察します。

第 14 回　格差の問題について
最近、フランスの経済学者トマ・ピケティが、『21世紀の資本』で、資本主義経済の内的メカニズムの結果として格差と不平等が拡大することを実証しました。グローバル経済化によって、なぜ格差社会が生まれるのか、その背景と実態について考察します。

第 15 回　授業のまとめ
授業のまとめと定期試験の準備をします。

〔成績評価〕
定期試験（80%）
平常成績（20%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

中学校学習指導要領（平成29年7月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年7月告示、文部科学省）
中学校学習指導要領解説　社会編（平成29年7月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　公民編（平成30年7月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
『経済社会学キーワード集』（経済社会学会編、富永健一監修）

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「社会学、経済学」、中一種（社会）、選択
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「社会学、経済学（国際経済を含む。）」、高一種（公民）、選択

〔オフィスアワー〕
毎回のLMS授業の内容や課題レポートなどについて質問や疑問、相談があれば、eメールにて受け付けます。受講生の皆様とのメールでのやり取りを通じて、理解がより深まり、学園生活の充実につながればと願っています。メール先：rqkw75325@leto.eonet.ne.jp 時間：毎週水曜日
14:30~15:30
　なお、メールでの返答が翌日以降になる場合もありますが、ご了承ください。

教育行政学【中等】

1022
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
三羽　光彦

〔到達目標〕
①学校教育を中心とする教育行政の基礎知識を習得する。②教育政策や教育法の改正動向を知る。③近年の教育行政学の研究成果や論点を整理する。④教育と教育行政を動かす法的メカニズムを学校教育の現場に即して理解する。以上を到達目標とし、あわせて将来学校教員となる者のための教職教養としての観点から、学校現場で教育行政的知見を活用できるようにする。

〔授業の概要〕
授業内容は、日本国憲法、教育基本法、学校教育法、地方公務員法、地方教育行政法、学習指導要領など、法制度的な枠組みを軸に、重要な教育行政の基礎知識や研究成果、論点を明らかにする。授業はあらかじめ講義概要と参考文献、参考資料を提示し、それに基づいて自学自習したうえでレポートを提出、そのレポート教師に基づいて学習者同士の話し合を行う形で進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業概要と参考文献や資料を示すのでそれにあたって読んでおくこと(予習100分)、授業内容に即したレポート課題を出すので、それを作成すること、授業後のレポート作成（100分）。

〔授業計画〕
第 1 回　教育行政の意義と機能
教育目的としては個人と国家・社会という二重性、人権保障のシステムとしては自由権と社会権の二重性、教育政策的には、人権保障のシステムとしての理念的側面と人材養成としての現実的側面、それらが矛盾しながら複合している教育行政について理解する。

第 2 回　日本国憲法と教育を受ける権利
日本国憲法の教育条項の意義について、歴史的、国際的に理解し、法解釈をめぐる諸学説を整理する。あわせて教育を受ける権利をめぐる今日的課題を考察する。

第 3 回　教育基本法の意義と論点
2006年に改正された教育基本法（新教育基本法）を1947年に制定された旧教育基本法と照らし合わせながら、各条項の意義、問題点、論点などを整理する。

第 4 回　学習権保障と義務教育制度
現代日本の義務教育法制の基礎を理解した上で、学習権、就学権保障の問題を理解し、夜間中学や義務教育学校、義務教育年限延長や学校統廃合問題について考察する。

第 5 回　教職員の権利と責務
学校教員の勤務条件と権利、専門職としての教員のあり方、さまざまな学校職員の役割と関係、教員の養成・採用・研修のあり方を理解し、あわせて教師の教育の自由についてその法的考察を行う。

第 6 回　公教育の無償制と教育財政
公教育における私費負担問題、公教育の機会均等の原則と無償制原則、高等教育財政と高等教育無償制、私学助成、幼児教育無償制などを理解した上で、日本の文教予算の動向について考察する。

第 7 回　教育行政の原理と教育委員会制度
教育の自主性を尊重し、教育の地方自治を原理とする教育と教育行政の関係、教育条件整備を目的とする教育行政のあり方について考察する。

第 8 回　教育委員会制度の変遷と教育行政改革
戦前教育行政の諸問題、教育委員会制度の理念と原理、教育委員会制度の変遷を理解するとともに、今日の教育行政改革について考察する。

第 9 回　教育課程行政の制度と課題
教育課程行政の仕組み、学習指導要領の役割と法的性格、教科書の検定・採択・使用等について理解した上で、家永教科書裁判が提起した問題について考察する。

第 10 回　初等・中等教育の学校制度とその原理
近代学校の成り立ちと、統一学校運動、中等教育一元化の歴史、戦後日本の中等教育改革の意義を理解し、あわせて2007年学校教育法改正の諸問題を考察する。

第 11 回　近年の学校制度改革の動向
単位制高等学校、総合学科の設置、学校選択制の導入、中等教育学校・義務教育学校の創設などを理解し、学校制度の諸問題を考察する。

第 12 回　幼稚園・保育所の現状と幼児教育の諸問題
幼児教育の義務化問題、無償化の動向、幼保一元化・一体化の課題を理解した上で、あるべき幼児教育を考察する。

第 13 回　高等教育行政と大学
公教育機関としての大学の理念、学問の自由、教育を受ける権利を基礎とした大学自治、大学の質保障・大学評価の問題を理解し、大学教育のあり方を考察する。

第 14 回　特別支援教育の制度と学校の危機管理
特別支援学校の種類、特別支援学級、通級指導について理解し、特別支援教育の理念と制度について考察する。また、学校安全、災害対応、感染症対策など学校の危機管理についても理解を深める。

第 15 回　まとめ
全体として授業を振り返り、学校教育を中心とする教育行政のしくみと課題を復習する。

〔成績評価〕
レポートによって試験を実施する。評価は、最終課題（定期試験レポート）50%、毎時の課題（小レポート）あわせて50%によって評価する。

〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
井深・大橋・中嶋・川口編著『テキスト教育と教育行政』勁草書房、2015年。
文部科学省『小学校学友指導要領』、『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』。

〔履修条件〕
その他

〔備考〕
教育の基礎的理解に関する科目、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）、中一種、高一種、必修

〔オフィスアワー〕
毎週水曜日昼12時30分から14時まで、三羽 研究室（本館4階17）にて。できれば事前にアポを取ってください。

教育学概論Ⅱ②

4209
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
三羽　光彦

〔到達目標〕
この授業では教育の古典ともいえる名著を紹介して、それを解説する形で進めます。古代から現代に至る教育思想家の思索の跡をたどることによって、混迷を深める現代日本の教育を考察する観点を養ってもらいたいと思います。①紹介した思想家の業績、著作の内容、思想の特徴を理解する。②紹介した古典の文章に即してその論点を把握する。④進んで全文を読み進めて自己の教育観と比べながら対話的に考察する。以上が到達目標です。

〔授業の概要〕
教員採用の教職教養の試験問題として、古今東西の著名な教育家の思想や著書を問う問題が頻出しています。しかし読書離れが進んでいるといわれる学生諸君は、そんな古典をじっくり読むことがあるでしょうか。試験対策として人や書物の名前を棒暗記するだけではいかにも悲しいものがあります。「どのようなものであれ、良書を読むことは、その著者である過去の時代のもっとも優れた人たちと会話を交わすようなものである。」とフランスの哲学者デカルトはいいました。今、対話的で深い学力や読解力の必要性が叫ばれています。すぐれた過去の教育家との対話の旅に出かけましょう。何か興味を持った著作があったら、進んで全文を読んでもらえれば案内者として幸せです。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義概要にそって各教育家の思想の特徴と、著作の内容を理解した上で、参考資料や参考文献を図書館やインターネットによって探し、読んでおいて下さい（100分）、授業後には小レポートを作成して提出して下さい（100分）。

〔授業計画〕
第 1 回　プラトンの『ソクラテスの弁明』を読む
ソクラテスは著作を残しておりませんが、プラトンの対話編によってその思想を知ることができます。『ソクラテスの弁明』は、「青少年を惑わした」という理由で裁判にかけられたソクラテスが、市民に向かって自分の信念を述べた様子をプラトンが描いた書です。

第 2 回　孔子の『論語』を読む
『論語』は孔子の死後、弟子たちが編纂した孔子とその弟子の言行録で、儒教の根本的な書とされています。さまざまな名言に富み、古来から中国を始め韓国や日本で人間形成のための基本文献とされてきました。

第 3 回　エラスムスの『愚神礼讃』を読む
『愚神礼讃』は、著名な人文主義者エラスムスによる風刺文学です。ローマ教皇や教会の偽善を皮肉っており、この教会批判はルターの宗教改革をまねいたといわれています。しかしエラスムスは信仰義認説をとるルターにはくみしていません。キリスト教の句磯を学びながら、愚神礼賛さんを読んでいきましょう。

第 4 回　ロックの『統治論』を読む
ロックの『統治論』は、『統治二論』『市民政府二論』ともよばれ、名誉革命を推進した思想を理論化したもので、人民主権に基づく社会契約説が説かれています。子どもの教育についても、さまざまな含蓄のある文章が随所に見られます。

第 5 回　ルソーの『エミール』を読む
最も有名な教育古典ともいえるルソーの『エミール』は、孤児エミールが理想的な教師のもとで成長していく過程を描いた教育小説です。子どもが本来持っている自然な人間性の発達を尊重し、人為的な干渉を控える消極教育が主張されています。

第 6 回　カントの三批判書を読む
人間の認識能力としての理性を理論的に検討した『純粋理性批判』、人間の道徳的能力としての実践理性を検討した『実践理性批判』、対象からその根拠となる普遍的なものを導き出す反省的な判断力を検討した『判断力批判』、この三つを三批判書といいます。難解な書ですがその要点、教育との関係をを考えます。

第 7 回　ペスタロッチーの『隠者の夕暮れ』を読む
ペスタロッチー（1746-1827）は、スイスの教育者で孤児や貧しい家庭の子どもたちの教育に献身しました。数多くの名著がありますが、『隠者の夕暮れ』の味わい深い教育論を読んでみましょう。

第 8 回　コンドルセの『公教育の原理』を読む
『公教育の原理』は、フランス革命の最中に革命議会にコンドルセが提案した公教育組織論です。これは実際には実現しませんでしたが、近代以降の公教育思想の原型を示すものとして評価されています。

第 9 回　貝原益軒の『和俗童子訓』を読む
福岡藩の藩儒であった貝原益軒は、近世を代表する学者であったが、民衆に対する教訓書として『和俗童子訓』を著している。幼少期の教育を重視するとともに、子どもの発達段階を意識した教育論となっており、近世日本を代表する教育思想です。

第 10 回　福沢諭吉の『学問のすゝめ』を読む
「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」というフレーズは誰もがよく知っています。しかし諭吉がいいたかったことはこのあとです。「されば」とつないで、現実には貴賤貧富など人間に雲泥の差があるのはなぜかと問いかけます。教育の必要性を説いた明治期のベストセラーです。

第 11 回　フレーベルの『人間の教育』を読む
フレーベル（1782-1852）はドイツの教育家で幼稚園の創設者として有名です。子どもの遊技の用具として「恩物」を考案したことで有名です。『人間の教育』では「子どもの本姓にある神性の自己展開をはかるのが教育の目的である」と説きました。

第 12 回　デューイの『学校と社会』を読む
児童中心主義と社会改革を志向する経験主義の立場から、プラグマティズムの教育学を確立したのがデューイ（1859-1952）です。その出発点となったシカゴ大学附属の実験学校の報告書が、この『学校と社会』です。

第 13 回　ブルーナの『教育の過程』を読む
スプートニクショック後、全米から教育家を集めてウッズホール会議が開催されました。その議長がブルーナー（1915-2016）でした。その会議をまとめたものが、彼の主著『教育の過程』です。この書は、教育の現代化の理論的基礎を提供しました。

第 14 回　イリイチの『脱学校論』を読む
イリイチ（1926－2002）は、過剰な効率性を追い求めるなかで人間の自律性を喪失させる現代文明を批判しました。そうした文明の組織の最たるものとして学校教育を位置づけています。『脱学校論』はラディカルな現代教育批判として有名です。

第 15 回　フレイレの『被抑圧者の教育学』を読む
フレイレ（1921-1997）はブラジルの思想家で、貧困と抑圧からの解放を自己の思想のよりどころとしています。支配者に都合のいい有能な人材になるのではなく、抑圧からの自己解放を支援する教育こそが真の教育であると説いています。

〔成績評価〕
レポートによって試験を実施する。評価は、最終課題（定期試験レポート）50%、毎時の課題（小レポート）あわせて50%、合計100点によって評価します。

〔教科書〕
教科書は使いません。適宜資料を紹介または提示します。

〔参考文献〕
寺﨑・古沢・増井『教育課程新書・名著解題』共同出版、2009年。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
毎週水曜日昼12時30分から14時まで、三羽 研究室（本館4階17）にて。できれば事前にアポを取ってください。

教育相談の理論と方法【中等】

2407
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
林　　知代

〔到達目標〕
生徒の心理的問題を軽減・緩和し、学校集団生活が充実したものになるため、個々に置かれた状況や特性、発達に即した支援に必要な、心理的基礎知識を身に着け教育現場でどう役立てるのかその方法を学ぶ。

〔授業の概要〕
青年期前期に該当する心身の変化の激しい生徒に対し、彼らの不安や悩みを個々の成長・発達を見据えていかに対応するかについて、テキスト及び資料を基に現場事例や臨床心理学的問題も挟みながら理解を深めていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習として、学ぶ単元についての自身の学校生活や、教育関連のニュースを調べておく。
復習として、授業で知り得たことを具体的に自分の言葉でまとめる。

〔授業計画〕
第 1 回　開講にあたって
授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介

第 2 回　教育相談の意義と概要
学校における教育相談の特徴をチーム学校という視点から理解し意義を認識する。

第 3 回　教師の視点からの生徒理解
信頼に基づく教師と生徒の関係性について理解を深める。

第 4 回　発達の視点からの生徒理解
青年期に生じる不安と自己理解の視点から理解を深める。

第 5 回　教師におけるカウンセリング技法
カウンセリングについて、基本的な理論と心理療法技法を学ぶ。

第 6 回　学校における教育相談の在り方
教育相談に関わるスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教員などの学校内でのあり方を知る。

第 7 回　学校に関連する問題についての理解
いじめ、不登校、中途退学、虐待、非行など、学校と関連する生徒の問題について検討する。

第 8 回　学校に関連する問題についての対応
いじめ、不登校、中途退学、虐待、非行など、学校と関連する生徒の問題への対応を考える。

第 9 回　問題行為についての理解と対応
リストカット、家出、暴力行為、インターネット、性の問題などの問題行為の理解と対応を考える。

第 10 回　発達に注意を要する生徒への理解

特に外見上判別しがたいが発達特性を持つ生徒の集団生活の困難さの気づき理解を深める。同時に保護者への対応についても学ぶ。

第 11 回　中高生に起こりやすい精神疾患と身体疾患
自分では気づかないうちに過剰に適応的であったり抑圧するなどで生じる精神的、身体的疾患を考える。

第 12 回　教育相談に必要な連携
学校の中で、チームとして機能するための教育相談の在り方と、学校外でも専門機関や専門家との協働で動く際の教育相談の役割を説明する。

第 13 回　保護者との協力体制
保護者もそれぞれに個性を持ち社会的役割を担っている存在であることを了解しながら、生徒のバックグラウンドとなっている環境の大きな要素である保護者とどう協力していくかについて考える。

第 14 回　教員のメンタルヘルス
教員が問題を一人で抱え込むことのない環境づくりをチーム学校という概念を念頭に考えていく。

第 15 回　まとめ
定期試験

〔成績評価〕
ポートフォリオ(30%)
授業中の態度(10%)
試験(60%)

〔教科書〕
教育相談の理論と方法 - 中学校・高校編 - (2015、原田真理著　玉川大学出版部)

〔参考文献〕
児童生徒の教育相談の充実について－学校の教育力を高める組織的な教育相談体制付く－（2017年1月　教育相談等に関する調査研究協力者会議報告)、その他。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法、中一種、高一種、必修

【実務経験の活用】
教育現場経験により、今日的な課題（いじめ・不登校等）の対応を生徒視点と教員、保護者の各視点の多次元的捉え方から問題を個々に応じた方向性に導くことの指導をする。

〔オフィスアワー〕
木曜日1限目

デザインマネジメントⅡ

5309
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
井上　徹

〔到達目標〕
企業内における、デザインマネジメント活用方法を身につける事を目標としています。

1.企業内におけるデザインの役割を知る。
2.マネジメントにおけるデザインの有効性を知る。
3.企業・社会においてのデザインマネジメントの活用方法を身につける。

〔授業の概要〕
将来企業においてデザインマネジメントを実施出来る様に
1.企業活動に関わるデザインの役割
2.企業・社会における具体的なデザインマネジメント
を中心に、事例を含めわかりやすく講義します。
・授業内レポートの発表・ディスカッションを行い、全受講者と共に検討。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
予習：
1.話題となっている企業・デザインを図書館やWEBなどを利用して調査する。
2.次回の講義までに、授業内容の不明点を調べる事。(120分程度)
復習：授業内レポートの振返り／講義内容の整理（120分程度)
※講義内容を理解した上で次回の講義に臨む様にしてください。

〔授業計画〕
第 1 回　企業内デザイン部門
・企業デザイン部門の役割とマネジメント

第 2 回　デザイン組織
・企業におけるデザイン部門の組織体系

第 3 回　デザイン部門の活動
・企業におけるデザイン部門の活動

第 4 回　コンカレントデザイン
・コンカレントデザインとは

第 5 回　デザイン評価
・企業・社会におけるデザインの評価方法

第 6 回　コンセプトデザイン
・コンセプトデザインとは

第 7 回　コンセプトデザイン技法
・アイデア創出・表現手法（Kj法・ストーリテリング等)

第 8 回　デザイン領域の変化
・企業におけるデザインマネジメントの領域の変化

第 9 回　デザインプロセス
・企業におけるデザインのプロセス。

第 10 回　デザインコラボレーション
・デザインによる企業のコラボレーションの種類と手法
第 11 回　デザインとイノベーション1.
・イノベーションの基礎知識
第 12 回　デザインとイノベーション2.
・イノベーションのジレンマ
第 13 回　アートマネジメント
・産業としてのアートマネジメント
第 14 回　インクルーシブデザイン
・インクルーシブデザインとは
第 15 回　まとめ・総括
・授業のまとめ
・試験について

〔成績評価〕
定期試験：40%
中間試験：30%
授業内レポート・発表：30%
※中間試験も評価に含みます。
※達成度確認の為に、授業内にて質問することがあります。

〔教科書〕
特になし。

〔参考文献〕
坂下清監修『デザインマネジメント』武蔵野美術大学出版局
長沢 伸也・佐藤 典司編『デザインマネジメント入門―デザインの戦略的活用』京都新聞出版センター
その他、参考文献は授業内にて適宜紹介する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
【実務経験の活用】
企業のデザインマネジメント経験より実践的な手法と基礎知識の講義を行う。

〔オフィスアワー〕
1.学　期：前期・後期
2.日　時：授業終了後／水曜日14：00～15：00
3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室
4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能

5.その他（相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容

②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。

③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

運動学（運動方法学含む）

4019
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
田路　秀樹

〔到達目標〕
本講義の到達目標は、１．骨格筋のしくみ、働きを修得すること、２．運動と力学の法則を修得すること、３．身体重心の求めかたを修得すること、４．走・跳・投、打・蹴・泳・滑における力学的法則を修得すること、５．身体活動の法則の理解を通して効果的な動作を考察することができるようになることである。

〔授業の概要〕
本科目は、教職（保健体育）における必修科目である。本授業は力学・生理学・解剖学などの基礎知識を活用して、身体活動のしくみをよりよく理解し、獲得した知識により指導に役立てるものである。そのために、優れた選手の動作を確認し、法則性等を知り、その法則性を実際に算出したり、図示したりして理解を高めていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
本講義は教科書を基に説明するとともに、ガイダンス時に穴埋め形式になった資料を配布する。授業時は穴埋めを行うことによって理解を深める。授業終了後は、教科書及び資料を熟読し復習する（90分）。授業前には予習として教科書及び資料を必ず読んでくる（90分）。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス、運動学とは
授業の進め方と内容を説明し､際資料を配布する。
運動学の定義、基礎と応用について説明する。
第 2 回　エンジンとしての筋
筋の種類と構造、収縮様式を理解する。
第 3 回　エネルギーと神経
ネルギー供給機構、運動の指令と調整機構を理解する。
第 4 回　骨・からだの構造
骨格系、筋系、からだの軸と関節運動を理解する。
第 5 回　運動と力学
運動の３法則、質量と重量、運動量と力積を理解する。
第 6 回　立つ・重心
立位姿勢、姿勢の調整、身体重心の求め方を理解し、実際に求めてみる。
第 7 回　歩く
歩力学的エネルギーを理解する。
第 8 回　走る
走の力学的エネルギーを理解する。
第 9 回　跳ぶ１
高く跳ぶ力学を理解する。

第 10 回　跳ぶ２
遠くへ跳ぶ力学を理解する。
第 11 回　投げる１
種々の投げる運動１の力学を理解する。
第 12 回　投げる２・打つ１
種々の投げる運動２と打つ動作１の力学を理解する。
第 13 回　打つ２
種々の打つ動作２の力学を理解する。
第 14 回　蹴る・泳ぐ
蹴る動作の法則・効率と泳ぐ動作の力学を理解する。
第 15 回　滑る・回転運動
滑る動作の分析、回転力、モーメントアームを理解する。

〔成績評価〕
基礎知識を活用して、身体活動のしくみを理解し、獲得した知識を指導に役立てることができる者に単位を授与する。到達目標に記載する能力の程度に応じてAからCまで成績を与える。
成績評価の方法：授業中の質疑・発表（10%）、定期試験（90%）を基準として、受講態度を含めて総合的に判断する。

〔教科書〕
ポーツ・バイオメカニクス入門　第３版、金子公宥著、杏林書院、2006年発行
授業開始時に資料を配布する。

〔参考文献〕
スポーツバイオメカニクス、深代・桜井・平野・阿江編著、朝倉書店、2000年発行
バイオメカニクス、金子・福永編、杏林書院、2004年発行

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

〔オフィスアワー〕
授業終了後

小児保健（スポーツ医学）

4012
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
田中　　健一

〔到達目標〕
小児、学童、生徒の心身の健康や安全を守るために必要な知識や技術を得る

〔授業の概要〕
現代社会が抱える健康の諸問題をはじめ、小児から学童、生徒に発生する様々な健康や安全の諸問題について学ぶ。講義では写真や動画、またデモンストレーションをおこない使える知識と技術を習得してもらう

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
次講義の内容を毎回講義の最後に予告する。その内容について参考文献などを見ながら次の授業の予習をしてくることが望ましい。特に運動器疾患の講義については該当部位の解剖学を30分程度予習してくることが望ましい

〔授業計画〕
第 1 回　小児保健（スポーツ医学）概論
・小児保健とは
・学校保健とは
・スポーツ医学とは
第 2 回　保健と健康
・保健と健康について
・日本と世界の死亡率、平均寿命
・疾病構造の変化
・生活習慣病とその危険因子、予防方法
第 3 回　発育・発達
・小児期の区分と各期の発育、発達
・骨の成長過程　など
第 4 回　児童・生徒の運動器障害
・児童、生徒の運動器障害の実態、特徴
・部活動中に発生する外傷、障害　など
第 5 回　足関節・足部のスポーツ外傷・障害
・足関節および足部のスポーツ外傷・障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（足関節内反捻挫、足関節外反捻挫、過剰骨障害、踵骨骨端症など）
第 6 回　膝関節のスポーツ外傷・障害（前半）
・膝関節のスポーツ外傷・障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（前十字靭帯損傷、後十字靭帯損傷、膝内側側副靭帯損傷、膝半月板損傷など）
第 7 回　膝関節のスポーツ外傷・障害（後半）
・膝関節のスポーツ外傷・障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（膝軟骨損傷、膝蓋骨脱臼、膝蓋靭帯炎、鵞足炎、腸脛靭帯炎、膝骨端症など）
第 8 回　股関節・大腿・下腿部のスポーツ外傷・障害
・股関節、大腿部、下腿部のスポーツ外傷・障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（鼠蹊部痛症候群、股関節唇損傷、肉離れ、アキレス腱断裂、骨盤剥離骨折など）
第 9 回　腰部のスポーツ外傷・障害
・腰部のスポーツ外傷・障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（腰椎椎間板ヘルニア、腰椎分離症、筋膜性腰痛症、腰椎圧迫骨折など）
第 10 回　頚部のスポーツ外傷・障害
・頚部のスポーツ外傷・障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（頚椎捻挫、バーナー症候群、頚椎椎間板ヘルニア、脊椎・脊髄損傷など）
第 11 回　肩関節のスポーツ外傷・障害

・肩関節のスポーツ外傷・障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（肩関節脱臼、肩腱板損傷、肩鎖関節脱臼、投球障害肩など）

第 12 回　肘関節・前腕・手関節のスポーツ外傷・障害
・肘関節および前腕、手関節のスポーツ外傷・障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（肘内側側副靭帯損傷、肘内側上顆炎、肘外側上顆炎、TFCC損傷など）

第 13 回　内科的・生命に関わるスポーツ疾患（第１回）
・内科的な急性障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（突然死、熱中症、過換気症候群、運動時側腹痛、運動誘発性アナフィラキシーショックなど）

第 14 回　内科的・生命に関わるスポーツ疾患（第２回）
・内科的な慢性障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（貧血、オーバートレーニング症候群など）

第 15 回　内科的・生命に関わるスポーツ疾患（第３回）
・スポーツ現場で起こりうる生命に関わる疾患の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（頭部外傷（脳震盪）、心臓震盪など）
・医師法と裁判事例

〔成績評価〕

授業内提出物10%、後期試験90%により評価する

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

・廣島英夫 編「新小児保健学」
・JSPO-AT 専門科目テキスト③、④
・臨床スポーツ医学「学校スポーツにおける外傷・障害診療ガイド」
・小出清一 著「スポーツ指導者のためのスポーツ医学」

〔履修条件〕

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、選択

〔オフィスアワー〕

後期、木曜日1限 受業終了後 5～10分程度対応します。 オンライン授業となった場合や直接コミュニケーションを とる時間がない場合はPhollyのメッセージかメールで連絡を お願いします。 メールアドレス:k-tanaka@ashiya-u.ac.jp

---

芸能と経営

5011
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
井村　　薫子

〔到達目標〕

芸能の発達とその時代のスポンサーの変遷を説明できる。芸能と、文化の背景にある政治的な環境を関係づけることができる。現代メディアの中での芸能の経済的効果を討議できるようになる。

〔授業の概要〕

芸能の歴史を通して、スポンサーとなる受容者は誰であったかを類推する。時代によって変遷するメディアの変化をDVDなどの映像資料によりみていく。芸能鑑賞フィールドワーク。現代のメディア芸能の経済的規模の考察。現代人と芸能の関わり合いについて、クラスでディスカッションする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

配布した資料の熟読
授業後のレポートを書く

〔授業計画〕

第 1 回　芸能・芸術の定義
芸能の社会的な位置付けについて。

第 2 回　日本古代の芸能　1
日本神道における芸能。歴史的背景。

第 3 回　日本古代の芸能　2
日本古来の神道における芸能。ビデオ鑑賞（春日大社の巫女舞など）

第 4 回　海外の芸能　1
ヒンズー、ギリシアなどにおける芸能。歴史的背景。

第 5 回　海外の芸能　2
ヒンズー、ギリシアなどにおける芸能ビデオ鑑賞（ヒンズー舞踊）

第 6 回　能楽と狂言　1
能楽と狂言について。足利将軍や社寺の加護とその政治的背景。

第 7 回　能楽と狂言　2
能楽と狂言について　ビデオ鑑賞。

第 8 回　歌舞伎　1

第 9 回　歌舞伎　2

第 10 回　西欧のバレエ
バレエの歴史。ルイ１４世から現代までにおけるパトロネージのまで変遷。

第 11 回　現代の芸能　1
ストリートダンスなどを含む現代のダンスの背景。

第 12 回　現代の芸能　2
マスメディア・テレビの影響について。芸能プロダクションや視聴率の仕組み。

第 13 回　現代の芸能　3
映画について。ディズニーのようなエンターテインメント産業として多角化の例。

第 14 回　現代の芸能　4
インターネット社会でのスポンサーシップ。YouTube等の芸能媒体の変化。

第 15 回　ディスカッション
現代人と芸能の関わりについて、受容側と供給側に分かれてディスカッションする。

〔成績評価〕

レポート提出３０％、ディスカッション３０％、筆記試験４０％

〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する。
〔参考文献〕
大系日本歴史と芸能（平凡社）
日本芸能の起源（大和書房）
芸能の文明開化（平凡社）
世界のダンス（大修館書店）
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
⑴前期・後期
⑵月曜日：13:00～16:00、水曜日：13:00～16:00
⑶芸術文化センターにて
⑷連絡先：k-imura@ashiya-u.ac.jp
⑸来室の際は、事前にメールにてご連絡をお願いします

教職論【中等】②

2303
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
中学校・高等学校の教師を目指す者にとって必要な理念・制度・法律などの基礎的知識を修得する。
教師としての資質・使命についての認識を深める。
望ましい教師像の基盤を構築する。重ねて、将来の進路選択を考える機会とする。
〔授業の概要〕
教育に携わる者としての心得や教育の目指すべき姿を学校現場での具体的な事例を扱いながら，受講生個々の資質向上を図る。毎時間の演習課題に取り組みながら、生徒・保護者・地域に信頼される教師像を考察していく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時間の復習と演習課題に取り組む。（120分）
次時に向けて提示する資料を予習して授業に臨むこと。（120分）
〔授業計画〕
第 1 回　教職論の目的及び学校教育の目的
憲法、教育基本法に定める教育の目的。教師という言葉の概念。
第 2 回　教師に求められる資質能力
教師の仕事の特殊性。これからの教員に求められる資質能力。
「チームとしての学校」が求められる背景。
第 3 回　児童・生徒の発達の特徴
発達段階区分の特徴。学習指導要領（特別活動の目標）から見る発達段階の目標。
受講生の中学時代の成長を振り返る。
第 4 回　生徒指導の意義
学校生活への適応・不適応。生徒理解の原理。
第 5 回　学級活動と生徒指導の関連性
集団形成に必要な学級経営の要素。学級活動と生徒指導の関連性。
第 6 回　授業と生徒指導
生徒の学習環境を整えるために必要な視点。学級担任が扱う実務・公簿などに関する基礎知識。
第 7 回　いじめと体罰
いじめ防止対策推進法の整理。学校教育法第11条から「懲戒と体罰」の違い。
第 8 回　教員の資格と研修
教員免許制度の概要。教員免許更新制の理解。
第 9 回　教員の服務・制度
教員の服務上の義務と勤務時間外の身分上の義務。分限と懲戒。
綱紀粛正及び服務規律の確保。
第 10 回　教員の勤務条件
時間外勤務。休業日・週休日の勤務の違い。主な休暇・休業制度。
第 11 回　特別支援教育の概要とその必要性
障害を抱える生徒への関わり方。「障害者の権利に関する条約」及び「障害者差別解消法」に触れる。
第 12 回　特別の教科道徳
学習指導要領の変遷。道徳の目標及び道徳的価値。道徳科の評価。
第 13 回　学校法規基礎演習①
学校法規の種類。日本国憲法、教育基本法、学校教育法の必修内容を演習を通して理解する。
第 14 回　学校法規基礎演習②
学校教育施行令、学校教育施行規則に必修内容を演習を通して理解する。
教員が国民全体の奉仕者であることの定義。
第 15 回　教師という仕事の意義
授業全体を振り返りながら、教師に求められる資質と受講生自身の課題を整理する。
〔成績評価〕
定期試験75%　　平素の演習レポート25%
〔教科書〕
中学校学習指導要領（平成２９年３月告示、文部科学省）
授業中適宜資料を配布する。
〔参考文献〕
生徒指導提要等（文部科学省）
教職論（教職につくための基礎・基本）　東海大学出版会等
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
教育の基礎的理解に関する科目、教育の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）、中一種、高一種、必修

【実務経験の活用】
中学校教諭や教育委員会での実体験を活かして、「教師に必要な資質」や「学校教育の抱える課題対応」を指導する。

〔オフィスアワー〕
tange@ashiya-u.ac.jp
水曜日　14時～15時　研究室11

政治学概論 I

4110
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
安藤　　由香里

〔到達目標〕
国内政治の仕組みについて多角的な側面から学びながら、現在国内社会で起こっている様々な政治動向や時事問題について、自ら考察できるようにする。
〔授業の概要〕
人間の生活と政治は不可分の関係にあることを理解し「政治」を身近に感じる。現代、自由民主主義体制の下で進展してきた諸政治制度、戦後日本の政治制度や国内における様々な政治過程について学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
1.　教科書の該当箇所を必ず読んで出席すること。
2.　新聞、雑誌、テレビなどのマスメディアで取り上げられる事件や時事問題に関心を持ち、新聞などの活字情報を取得して読むこと。
〔授業計画〕
1. オリエンテーション・アイスブレイク・政治学とは何か
2. Unit1-2 権力と自由/国家・集団・個人
3. Unit3-4 法と政治/政治と非政治
4. Unit5-6 デモクラシーの思想/リベラル･デモクラシーの発展
5. Unit7-9 福祉国家の諸問題/非民主的体制/政治教育
6. Unit10-11 日本の政党政治/政治家と官僚
7. Unit12-13 政治参加と選挙/マス・メディアと政治
8. Unit14-15 世界の中の日本/戦後日本の政治学
9. Unit16-17 主権と国際制度/ナショナリズム
10. Unit18-19 テクノロジーの奇襲/デモクラティック・ピース？
11. Unit20 人権と介入
12. Unit21-22 グローバリゼーションの中のアメリカ/移民問題を通してのEU
13. Unit23-24 戦争責任問題韓国/アジアの地域主義
14. Unit25-26 環境問題と政治/ジェンダーの政治
15. テスト
定期試験
〔成績評価〕
1. テスト 50%
2. 毎回､新聞記事を持参し､討議に積極的に参加する。　30%
3. コメント用紙に積極的に記入し提出する　20%
〔教科書〕
苅部直ほか『政治学をつかむ』有斐閣(2011)
〔参考文献〕
適宜指定する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「法律学、政治学」、中一種（社会）、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」、高一種（公民）、必修
〔オフィスアワー〕
授業の前後

国際政治学 I

4344
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
安藤　　由香里

〔到達目標〕
1. 国際問題について自らの意見を述べられるようになる。
2. 現代の国際政治体制の下で展開された戦争や国際協調に関する具体的な事例を取り上げ、単なる「出来事」としてではなく深く理解する。
〔授業の概要〕
安全保障と武力紛争、世界平和のための国際協調などについて問題を考察し、国際政治に対する理解を深めると共に、国際政治体制の下で起こった象徴的な出来事について、国際政治学者の緒方貞子さんがかかわった事例から具体的に学ぶ。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
1. 教科書の該当箇所を必ず読んで出席すること。
2. 新聞、雑誌、テレビなどのマスメディアで取り上げられる国際問題や時事問題に関心を持ち、新聞などの活字情報を取得して読むこと。
〔授業計画〕
1. オリエンテーション・アイスブレイク・評価方法・国際政治とは何か
2. 1章　国連難民高等弁務官への道①
3. 1章　国連難民高等弁務官への道②
4. 2章　「冷戦後」の始まりークルド難民
5. 3章　「民族浄化」の中でー旧ユーゴ紛争①-1
6. 3章　「民族浄化」の中でー旧ユーゴ紛争①-2
7. 4章　国際政治と人道援助ー旧ユーゴ紛争②-1
8. 4章　国際政治と人道援助ー旧ユーゴ紛争②-2
9. 5章　厳しさを増す人道援助ールワンダ難民①
10. 5章　厳しさを増す人道援助ールワンダ難民②
11. 6章　紛争地域の再生に向けて
12. 7章　同時多発テロとアフガン難民支援
13. 8章　「人間の安全保障」にむけて
14. 終章　イラク戦争、そして日本
15. テスト
定期試験
〔成績評価〕
1. テスト 50%
2. 毎回､新聞記事を持参し､討議に積極的に参加する。　30%
3. コメント用紙に積極的に記入し提出する　20%

〔教科書〕
東野真『緒方貞子ー難民支援の現場から』集英社(2003)
〔参考文献〕
適宜指定する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」、高一種（公民）、選択
〔オフィスアワー〕
授業の前後

不動産ビジネス経営論

1021
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
吉村　　一成

〔到達目標〕
不動産とは、土地や建物などの財産のことを言う。
人は、物としての不動産を様々な形で利用するが、人が利用することによって、その不動産に価値が生じる。そこからまた、不動産ビジネスが展開していくことになる。
本講義では、このようにして発生してきた不動産業の歴史と不動産ビジネスの概要について理解し、不動産と人との関りを通して経済・社会を見る目を養い、加えて不動産業界に就業する学生の基礎知識習得にを目標とする。
〔授業の概要〕
本講義は、不動産業界といわれるビジネスには一体どのようなものがあるのかについて概観すし、社会・経済と不動産との関りを学習する。
前半においては、不動産と人との関りの中で、どのようにして不動産業が発展してきたのかについて学ぶ。
後半においては、不動産業が業態別にどのように分類されるのか、それぞれの業態にはどのような企業があって、どのようなビジネスを行っているのかについて学び、不動産業の果たす役割と今後の展望について考える。
また、住宅又はオフィスなどの不動産の市場分析や投資分析、不動産の評価手法と、不動産ビジネスの関係についても学習する予定である。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習は原則として必要ないが、授業で学習したことから、街中の身近な不動産について興味を持ち、現実に落とし込んで考えてみて欲しい。
〔授業計画〕
【授業計画】
１回目　イントロダクション
２回目　不動産業の歴史①「江戸時代～明治時代⑴」
３回目　不動産業の歴史②「江戸時代～明治時代⑵」
４回目　不動産業の歴史③「大正時代」
５回目　不動産業の歴史④「昭和時代・前期（終戦まで）」
６回目　不動産業の歴史⑤「昭和時代・前期」
７回目　不動産業の歴史⑥「昭和時代・後期」
８回目　不動産業の歴史⑦「昭和時代・末期～平成時代）」
９回目　現代の不動産業にはどのようなものがあるか
10回目　日本の不動産業の業務分野①（住宅）
11回目　日本の不動産業の業務分野②（都市再開発）
12回目　日本の不動産業の業務分野③（賃貸）
13回目　日本の不動産業の業務分野④（不動産流通）
14回目　日本の不動産業の業務分野⑤（不動産証券化、J-REIT）
15回目　不動産業の課題と展望
〔成績評価〕
考える力を養うことを主眼とし、試験は行わず、各授業における課題レポートによって評価する。

〔教科書〕
使用しない
〔参考文献〕
蒲池紀生著「不動産業の歴史入門」（住宅新報社、2008年12月10日）
「業界地図」（東洋経済新報社、2021年版又は2022年版）
一般社団法人不動産協会「日本の不動産業」（2018年版～）（https://www.fdk.or.jp/）
牧野知弘（祥伝社新書、2020年4月10日）
その他参考WEBサイト
　一般社団法人不動産証券化協会（https://www.ares.or.jp/）
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
LMS科目になるので、質問等はメールで受け付ける。
原則として、次回の授業開始日までに回答する。

English CommunicationⅣ

2234
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　後期
実務経験有
杉島　　未来

〔到達目標〕
各自が目標とするスコアをクリアする。
語彙を増やし、英 文を読んで内容を理解するリーディング力を強化する。
文 法、話法、口語表現の理解と確認をする。
〔授業の概要〕
TOEIC Reading Testのスコアアップを図るため、出題形式に慣れ、リーディングの力を磨くタスクを行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の課題に取り組む（約９０分）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、TOEICテストの概要を説明した後、Unit8の例題を解答する。
第 2 回　Unit8

TOEIC Reading Testのスコアアップを図るため、出題形式に慣れ、リーディングの力を磨くタスクを行う。

第 3 回　Unit9
TOEIC Reading Testのスコアアップを図るため、出題形式に慣れ、リーディングの力を磨くタスクを行う。

第 4 回　Unit9
TOEIC Reading Testのスコアアップを図るため、出題形式に慣れ、リーディングの力を磨くタスクを行う。

第 5 回　Unit10
TOEIC Reading Testのスコアアップを図るため、出題形式に慣れ、リーディングの力を磨くタスクを行う。

第 6 回　Unit10
TOEIC Reading Testのスコアアップを図るため、出題形式に慣れ、リーディングの力を磨くタスクを行う。

第 7 回　Unit11
TOEIC Reading Testのスコアアップを図るため、出題形式に慣れ、リーディングの力を磨くタスクを行う。

第 8 回　Unit11
TOEIC Reading Testのスコアアップを図るため、出題形式に慣れ、リーディングの力を磨くタスクを行う。

第 9 回　Unit12
TOEIC Reading Testのスコアアップを図るため、出題形式に慣れ、リーディングの力を磨くタスクを行う。

第 10 回　Unit12
TOEIC Reading Testのスコアアップを図るため、出題形式に慣れ、リーディングの力を磨くタスクを行う。

第 11 回　Unit13
TOEIC Reading Testのスコアアップを図るため、出題形式に慣れ、リーディングの力を磨くタスクを行う。

第 12 回　Unit13
TOEIC Reading Testのスコアアップを図るため、出題形式に慣れ、リーディングの力を磨くタスクを行う。

第 13 回　Unit14
TOEIC Reading Testのスコアアップを図るため、出題形式に慣れ、リーディングの力を磨くタスクを行う。

第 14 回　Unit14
TOEIC Reading Testのスコアアップを図るため、出題形式に慣れ、リーディングの力を磨くタスクを行う。

第 15 回　授業のふりかえり
この授業の振り返りを行って、定期試験の準備をする。

〔成績評価〕
学期末テスト　３０％
小テスト　３０％
学期末テスト　４０％

〔教科書〕
Totally TOEIC L&R Test: Challenge 400 TOEIC テスト：チャレンジ400 南雲堂　1,900円＋税

〔参考文献〕
『はじめての新TOEICテスト全パート総合対策』塚田幸光　アスク出版　1,800円＋税

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
高校で英語の受験指導をした体験から、画一化された受験英語とは違う角度から英語の取り組みを行い、映画や漫画を使って、大学生が新たに英語を学び直したい気持ちを持てるような指導方法を考案する。

〔オフィスアワー〕
授業終了後、講義教室で対応します

ﾎﾞﾃﾞｨ ｺﾝﾃﾞｨｼｮﾆﾝｸﾞ

1808
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
井村　　薫子

〔到達目標〕
ダンサーにとって「体」は長くつきあう大切な「道具」である。自分の体についての知識を深め、正しい体、筋肉、の使い方と治し方、付き合い方を身につける。
ダンサーとしての生命を長く、そしてより楽しく踊れる身体となるように訓練する。

〔授業の概要〕
人体の動きをつかさどる解剖学と人体力学の知識を学習し、日々のレッスンへの活用になるようにする。フロアワークを中心に小さい器具を使っての訓練。また実際に授業内でペアワークを行い、相手の体を使ってエクササイズの効果を実践する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
筋肉、骨、靭帯など授業で学習した解剖学的用語を覚える。授業で行ったワークアウトを普段のレッスン前後に取り入れ活用する。

〔授業計画〕
第 1 回　コンディショニングとは…
コンディショニングの定義（リセットコンディショニングとアクティブコンディショニング）について

第 2 回　背骨・脊柱について
基本姿勢が大切な理由・姿勢アセスメント

第 3 回　クラシックバレエのターンアウトとは？
ターンアウトの正しい「感覚」を覚え、必要な筋力を養う

第 4 回　骨盤とは？

骨盤の置き方、ニュートラルポジションについて
第 5 回　インナーマッスル・アウターマッスルについて
第 6 回　腹筋・背筋運動に重点をおいて
バランスボール・スモールボールを使用しながらエクササイズを行う
第 7 回　股関節運動に重点をおいて
股関節の構造・足の動きと靭帯のつながり
第 8 回　体幹・軸を考える
体幹の構成要素とパワーハウス
第 9 回　ターンアウトを強化する
エクササイズ&ストレッチ
第 10 回　身体の側面について
腹斜筋へのアプローチ・サイドプランク
第 11 回　１～１０の復習とエクササイズ組み立て
第 12 回　故障対策のコンディショニング①
これまでのエクササイズに加え、腰痛・側弯症・股関節・膝痛に効果的なコンディショニングについての説明
第 13 回　故障対策のコンディショニング②
これまでのエクササイズに加え、足底筋膜炎・アキレス腱に効果的なコンディショニングについての説明
第 14 回　ロールプレイ　実践
第 15 回　ロールプレイ　実践

〔成績評価〕
授業毎の意欲、集中力、理解力。
実践とロールプレイからの評価。

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
・表現スポーツのコンディショニング（有吉与志恵　著・秋山エリカ　監修）
・ターンアウトできてますか？（佐藤愛　著）
・ピラティスインストラクターテキスト
・目で見る動きの解剖学（大修館）

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
⑴前期・後期
⑵月曜日：13:00～16:00、水曜日：13:00～16:00
⑶芸術文化センターにて
⑷連絡先：k-imura@ashiya-u.ac.jp
⑸来室の際は、事前にメールにてご連絡をお願いします

体育原理

1019
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
三木　　伸吾

〔到達目標〕
スポーツ・体育とは何かをその存在意義を位置付け、スポーツや体育の本質を考え、あるべきスポーツや体育の原理・原則を明確にしていくことができる。
具体的な到達目標は以下の通りである。
①スポーツ・体育の歴史的背景と理念の変遷を理解することができる
②スポーツ・体育の意義と価値について、多角的な視点から考えることができる
③スポーツ・体育の指導・研究実践にどのように活用していくべきか、自分の考えを確立することができる

〔授業の概要〕
スポーツ・体育の存在意義や歴史的背景、人間形成および教育における効果と課題などを講義の中で浮き彫りにしていく。日常生活としての運動、運動遊びをはじめ体育授業や部活動と、誰もが身体活動と密接な関係にある。改めて、スポーツ・体育とは何かという問いに向き合うことによって、スポーツ科学の学問分野の基盤的思考力を養っていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
2単位の修得には、2時間×15回の授業のほかに合計60時間(4時間×15回)の事前事後学習が必要です。30時間の事前学習(予習)と30時間の事後学習(復習)を目安に学習に取り組んでください。
予習（90分程度）
・次回の授業テーマを予告やシラバスで確認し、その内容の概要を確認しておく
・配布プリントや参考書等を活用し、用語や内容の先行的理解を深めておく
復習（120分程度）
・授業中に示された重要箇所を再度確認し、知識理解の定着をはかる
・授業で取り扱ったテーマに興味関心をもって、身近な体育スポーツに関する理念を整理しておく

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス・体育原理とは
１．講義概要を理解することができる
２．体育原理の学問的立場を理解することができる
第 2 回　体育史と日本における体育理念の変遷
１．体育史が概観でき、人類とスポーツ・体育の関係が理解できる
２．日本におけるスポーツ・体育の関わりと教育的理念の変遷が理解できる
３．歴史的背景から、現代に求められるスポーツ・体育の意義の考えを深めることができる
第 3 回　現代スポーツの周辺①（ルール・制度）

１．スポーツ・体育の特性から、ルール・制度の必要性と変遷を理解することができる
２．現代スポーツの問題点を的確にとらえることができる

第 4 回　現代スポーツの周辺②（宗教・政治・ナショナリズム）
１．スポーツ・体育と宗教・政治・ナショナリズムの関係を理解することができる２．現代スポーツの問題点を的確にとらえることができる

第 5 回　現代スポーツの周辺③（勝利至上主義・ドーピング・フェアプレイ）
１．スポーツ・体育の特性から、勝利至上主義・ドーピング・フェアプレイについて背景を理解することができる
２．現代スポーツの問題点を的確にとらえることができる

第 6 回　体育における人間形成①
体育活動が及ぼす人間形成への影響が理解できる

第 7 回　体育における人間形成②
体育活動が及ぼす人間形成への影響が理解できる

第 8 回　学校体育と身体教育
１．学校体育の位置づけが理解できる
２．身体の概念が理解できる３．学校体育における身体教育の役割が理解できる

第 9 回　体育におけるプレイ論
プレイの概念と教育とも関係が理解できる

第 10 回　体育における競争と共同
体育の特性から、競争や共同といったものへの価値付与が理解できる

第 11 回　体育と指導①（体育教師とコーチ・技術指導）
体育における指導の在り方について考えることができる

第 12 回　体育と指導②（体育・スポーツ指導と体罰）
体育における指導の在り方について考えることができる

第 13 回　子どもからみた体育
多角的な視野をもち、指導者としての体育の在り方を考えることができる

第 14 回　これからの体育
講義内容を振り返り、今後の体育活動に活かす考えを持つことができる

第 15 回　総括・到達度確認テスト
体育・スポーツとは何かという問いに対して、講義全体から得た知見を活かして考えることができる。
体育・スポーツに対する基本的な考えを土台に、スポーツ健康についての専門分野を学んでいこうとする姿勢を持つことができる

〔成績評価〕
①平常点30%　振り返りシートの記入により、毎時間の到達度をチェックする（2%×15回）
②課題・提出物20%　2回のレポートを課す（10%×2回）
③到達度確認テスト50%　15回目の授業で本講義の総括及び60分の到達度確認テストを実施する

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
「教養としての体育原理～現代の体育・スポーツを考えるために～　友添秀則・岡出美則　大修館書店」とする。
中学校学習指導要領解説　保健体育編

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

〔オフィスアワー〕
①後期
②金曜日　14時30分～15時30分　17時10分～17時30分
③場所：講義前後に講師控室で対応します
④連絡先：メール対応　mikisin@osaka-ohtani.ac.jp　もしくはPhollyのメッセージ
⑤その他（相談する際の留意事項）
　来室の際は、事前にメールなどでアポイントを取ってください

哲学概論Ⅱ

5221
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
小川　　雄

〔到達目標〕
今後、ＡＩの発達と普及により社会のありようは大きく変化すると言われている。このような状況のなかで、わたしたち人間の強みとして着目されているのは、さまざまな存在についてその価値や意味を考察したり、あるいは、目的のよさ・正 しさ・美しさを判断したりする知的な営み、つまり、哲学的な思考である。本講義では、受講生がこうした営為に関心を持ち、哲学的な思考を実践できるようにするために、西洋哲学の歴史を紐解きながら、哲学的な思考の型を紹介する。

到達目標
（１）西洋哲学が提示した問題を理解すること。
（２）その問題について考え議論し、自身の主張をほかのひとに伝えられるようになること。
（３）人間を様々な局面から捉えられるようになり、人間の理解を深めること。

〔授業の概要〕
テーマや到達目標に基づいて、本科目では、哲学が取り扱ってきた主題を三つ取り上げる。すなわち、言語と科学と情感である。それぞれの主題を深く掘り下げていきながら、人間を理解するための多角的な視野を養っていく。
　Phollyによるオンデマンド形式で授業を進める。詳細は第1回のガイダンスで説明するが、基本的には、講義スライド

を視聴して、それに関連した課題に取り組み、課題を提出する、という流れになる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

各授業後、その授業で学んだことを要約すること（９０分）と、提示された予習課題に取り組むこと（９０分）。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
　　成績評価や授業形式、講義内容に関する説明
第 2 回　第１章：言語①
　　古代ギリシアのソフィストについて
第 3 回　第１章：言語②
　　弁論術の概説
第 4 回　第１章：言語③
　　弁論術：言説の三類型
第 5 回　第１章：言語④
　　弁論術：「エートス」による説得術
第 6 回　第１章：言語⑤
　　弁論術：「パトス」による説得術
第 7 回　第１章：言語⑥
　　弁論術：「ロゴス」による説得術
第 8 回　中間レポート
　　レポートの書き方と課題の公示
第 9 回　第２章：科学①
　　科学とはなにか
第 10 回　第２章：科学②
　　演繹的な推論
第 11 回　第２章：科学③
　　非演繹的な推論
第 12 回　第２章：科学④
　　仮説演繹
第 13 回　第３章：情感①
　　ルソーの「ピチエ」
第 14 回　第３章：情感②
　　ケアの思想
第 15 回　まとめ
　　全体の振り返り

〔成績評価〕

平常点４０％
：それぞれの授業ごとに課題を用意している。それに取り組む。

中間レポート３０％
：第8回に課題を公開する。
レポート３０％
：試験期間内に公開する。書式や文字数に関しては、こちらが指定する。

〔教科書〕

中学校学習指導要領（平成２９年３月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成３０年３月告示、文部科学省）
中学校学習指導要領解説　社会編（平成２９年７月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　公民編（平成３０年７月告示、文部科学省）

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学」、中一種（社会）、選択
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」、高一種（公民）、選択

〔オフィスアワー〕

基本的には、Phollyで対応する。質問や対応してほしいことがあれば、メッセージ機能を使って連絡をとること。

スポーツ心理学

3015
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
柄木田　　健太

〔到達目標〕

・スポーツ場面や運動場面で生じる様々な心理的変化をスポーツ心理学の知識を基に理解する。
・メンタルトレーニングの基礎と方法を理解し、実践場面で活用できる心理的スキルを身につける。
・自らの気持ちや感情、スポーツパフォーマンスの変化をスポーツ心理学の理論を基に説明することができる。

〔授業の概要〕

前半はスポーツ心理学の諸理論を基に、運動学習や動機づけ、「あがり」のメカニズムとその対処法など、個々のテーマに沿って紹介、解説する。後半には、目標設定技法やリラクセーション技法などに代表されるスポーツメンタルトレーニングの基礎と方法を中心に、様々な心理学的スキルを紹介し、自らに合った心理的スキルの発見、獲得を目指す。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・様々な場面(特にスポーツ場面)での、自らの心の変化に気づくように意識する。
・紹介したメンタルトレーニング技法に取り組み、実際に体験する。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、スポーツ心理学とは？
第 2 回　運動学習
　　運動学習とは？
第 3 回　スポーツスキルの学習
　　運動やスポーツが上手くなるということ
第 4 回　スポーツとやる気
　　やる気の源、「動機づけ」に関する諸理論
第 5 回　スポーツ集団の構造と機能
　　集団過程に関する諸理論
第 6 回　プレッシャーとあがり
　　様々な場面で生じるプレッシャーと「あがり」
第 7 回　あがりへの対処法

パフォーマンスを低下させないための方法
第 8 回　コーチングの心理
良いコーチとはどのようなコーチか？
第 9 回　スポーツカウンセリング
スポーツカウンセリングの方法
第 10 回　メンタルトレーニング①
自己分析の意義と方法
第 11 回　メンタルトレーニング②
目標設定の方法
第 12 回　メンタルトレーニング③
リラクセーション・サイキングアップ
第 13 回　メンタルトレーニング④
イメージトレーニング
第 14 回　メンタルトレーニング⑤
その他の心理技法の紹介(ルーティン・セルフトークなど)
第 15 回　まとめ
これまでの講義のまとめ

〔成績評価〕
授業課題30%
最終レポート70%

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
①後期
②木曜日5限
③対面授業の場合:授業終了後、講義教室にて対応
遠隔授業の場合:Phollyにて対応
④連絡先:Phollyのメッセージにてご連絡ください。

教育哲学Ⅰ

1030
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
廣岡　　義之

〔到達目標〕
子ども一人ひとりの成長や発達を促すという観点から、教師として彼らとどのように主体的な関係を構築していくかという理解を深める。そのために、様々な教育思想家の哲学的理念を自分の生き方やあり方と重ねつつ考察する把握力を身につける。

〔授業の概要〕
１．教育の理念、意義や目的について理解する。
２．教育の哲学的思想について学び、教育哲学に関する基礎的な理論について理解する。
３．様々な教育哲学的思想家の考え方について理解する。
４．教育と実存的に関わるとはどういうことかについて理解する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テキストに沿って進むので、毎回予習・復習を行うこと。毎回発表（プレゼンテーション）を課すので、内容を事前に調べておくこと。(90分)
特に復習においては、人物名や事項についての発展的学習を行うこと。(90分)

〔授業計画〕
第 1 回　フランクルの生涯と思想①誕生から25歳まで
テキストのフランクル略年表前半を熟読すること。
第 2 回　フランクルの生涯と思想②26歳から40歳まで
テキストのフランクル略年表中盤を熟読すること。
第 3 回　フランクルの生涯と思想③41歳から亡くなるまで
テキストのフランクル略年表後半を熟読すること。
第 4 回　フランクルの講演①実存的空虚、実存的療法等
テキスト第1部第1章前半を熟読すること。
第 5 回　フランクルの講演②逆説志向、価値、意味等
テキスト第1部第1章中盤を熟読すること。
第 6 回　フランクルの講演③良心、苦悩、智慧等
テキスト第1部第1章後半を熟読すること。
第 7 回　フランクルを読み解く①幸福、タゴール、生きる意味等
テキスト第2部第1章前半を熟読すること。
第 8 回　フランクルを読み解く②ヘルダーリン、リルケ、自殺、死等
テキスト第2部第1章後半を熟読すること。
第 9 回　フランクルを読み解く③ロゴセラピー、自己超越
テキスト第2部第2章を熟読すること。
第 10 回　フランクルを読み解く④夜と霧、それでも人生にイエスという等
テキスト第2部第3章を熟読すること。
第 11 回　フランクルを読み解く⑤世界存在の意味、人生の問い等
テキスト第2部第4章を熟読すること。
第 12 回　フランクルを読み解く⑥からし種の寓話、意味への意志等
テキスト第2部第5章を熟読すること。
第 13 回　フランクルを読み解く⑦道徳とフランクル思想の関連性
テキスト第2部第6章前半を熟読すること。
第 14 回　フランクルを読み解く⑧山本有三の『路傍の石』とフランクル
テキスト第2部第6章後半を熟読すること。
第 15 回　フランクルを読み解く⑨現代社会に求められているもの
テキスト第2部第7章を熟読すること。

〔成績評価〕
講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。

〔教科書〕
『フランクル哲学と出会って、ほんとうの自分と幸せを感じるための本---フランクル教育哲学入門---』広岡義之著　あいり出版

〔参考文献〕
特になし」
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学」、中一種（社会）、選択
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」、高一種（公民）、選択
〔オフィスアワー〕
Phollyのメッセージで相談・質問をしてください。

情報機器の操作（上級）

1099
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
黒川　　マキ

〔到達目標〕
1. インターネット
　個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
　定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
　数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
　聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる
〔授業の概要〕
　本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
　授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。
　授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備
第 2 回　インターネットの活用
　情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー
第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
　インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護
第 4 回　コンピュータの基本操作
　コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理
第 5 回　Wordによる文書処理
　定型文書の基本
第 6 回　Wordによる文書処理
　表の作成と編集
第 7 回　Wordによる文書処理
　画像処理、図形描画
第 8 回　Wordによる文書処理
　インターネットによる情報検索とWordの活用
第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
　効果的なプレゼンテーション、課題作成
第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
　プレゼンテーションの実施と評価
第 11 回　Excelによるデータ処理
　データの入力と編集、関数による計算
第 12 回　Excelによるデータ処理
　関数による計算、グラフ機能、データベース機能
第 13 回　データサイエンスの基礎
　データサイエンスの意味と意義、データの可視化
第 14 回　データサイエンスの応用
　身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 15 回　まとめ
　WordとExcelを活用した総合課題
〔成績評価〕
毎時間の課題　40%
小テスト　　40%
授業中の取組　20%
〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
LMS授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

情報機器の操作（初級）

1100
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕
情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。

また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。

〔授業の概要〕

１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。

また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。

予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。(180分程度)

〔授業計画〕

第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)

第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作

第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作

第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う

第 5 回　定型文書の作成2
均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。

第 6 回　注目度の高い文書の作成
視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。

第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。

第 8 回　表計算ソフトの操作
オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで

第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1
条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。

第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について

第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析

第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる

第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する

第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
プロジェクターの配線について

第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ

〔成績評価〕

授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)

授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある

〔教科書〕

教職必修　情報機器の操作

教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)

〔参考文献〕

私情教「インターネットと情報倫理」

私情教「基礎的情報モデル」

文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」

〔履修条件〕

〔備考〕

【実務経験の活用】

教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。

〔オフィスアワー〕

月曜日2限

情報機器の操作【留学生対象】

1101
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
林　　泰子

〔到達目標〕

・Gmail（大学の各学生のメール）を活用することができる。

・Wordを活用し、基礎的な文書を作成することができる。

・Excelを活用し、基礎的な計算とグラフを作成することができる。

・Power Pointを活用し、基礎的なプレゼンテーション用スライドを作成することができる。

・ネット社会での情報モラルの重要性を理解し、情報を適切に活用することができる。

〔授業の概要〕

レポート作成、課題・研究発表など、大学でのコンピュータ利用に対応できる基礎的な知識や技能を修得する。

Word、Excel、Power Pointを用いて課題を作成する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
レポート作成、課題・研究発表など、大学でのコンピュータ利用に対応できる基礎的な知識や技能を修得する。
Word、Excel、Power Pointを用いて課題を作成する。
〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
授業の進め方、授業概要、成績評価
Gmailの基礎
第 2 回　Wordを活用した文書作成１
Wordの基本操作、入力チェック、文章の入力
第 3 回　Wordを活用した文書作成２
表と罫線、ビジネス文書
第 4 回　Wordを活用した文書作成３
図形の描画と編集
第 5 回　Wordを活用した文書作成４
表や図形を活用した文書作成
第 6 回　Wordの総復習
Wordのチェックテスト
第 7 回　Excelを活用したデータ処理１
Excelの特徴、データ入力と編集
第 8 回　Excelを活用したデータ処理２
いろいろな計算方法、相対参照、絶対参照

第 9 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化
第 10 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 11 回　Excelの総復習
Excelのチェックテスト

第 12 回　Power Pointを活用したプレゼン資料作成１
スライド作成の基礎
第 13 回　Power Pointを活用したプレゼン資料作成２
効果的で説得力のあるスライド編集
第 14 回　Power Pointを活用したプレゼンテーション
自作のプレゼンテーション用スライドによる発表
第 15 回　情報モラル
情報の適切な取り扱い、情報セキュリティ
〔成績評価〕
課題60%
チェックテスト　40%
〔教科書〕
『留学生のための日本語で学ぶパソコンリテラシー』橋本恵子・林泰子他、共立出版、2,200円＋税

〔参考文献〕
必要に応じて資料を配布します。
〔履修条件〕
その他
〔備考〕
この授業は、パソコン教室で授業支援システムを活用し、課題の配布や回収、テストなどを実施して授業を行います。また、課題の作成状況をこのシステムでモニターしながら、学習の理解状況を把握し授業を進行します。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日：11:00～12:00
③研究室
④y.hayashi@ashiya-u.ac.jp
⑤研究室に来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください。
　質問等は、基本的には授業終了後に講義教室で対応します。
　それ以降は、メールで受け付けます。

情報機器の操作（上級）

1104
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
黒川　　マキ

〔到達目標〕
1. インターネット
　個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
　定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
　数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
　聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる
〔授業の概要〕
　本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
　授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。
　授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備
第 2 回　インターネットの活用
情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー
第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護
第 4 回　コンピュータの基本操作

コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理
第 5 回　Wordによる文書処理
定型文書の基本
第 6 回　Wordによる文書処理
表の作成と編集
第 7 回　Wordによる文書処理
画像処理、図形描画
第 8 回　Wordによる文書処理
インターネットによる情報検索とWordの活用
第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
効果的なプレゼンテーション、課題作成
第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
プレゼンテーションの実施と評価
第 11 回　Excelによるデータ処理
データの入力と編集、関数による計算
第 12 回　Excelによるデータ処理
関数による計算、グラフ機能、データベース機能
第 13 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味と意義、データの可視化
第 14 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 15 回　まとめ
WordとExcelを活用した総合課題

〔成績評価〕
毎時間の課題　40%
小テスト　40%
授業中の取組　20%

〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
LMS授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

情報科学

1307
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
森下　博行

〔到達目標〕
学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標として、パソコンの基本操作を習得しさらに応用できる力を身につけることを目的とする。情報リテラシーから継続して学び、この情報科学を受講してExcelの応用技術を身につける。今後の学生生活や将来の職場で活用できるための力を身につけることを目標とする。

〔授業の概要〕
この授業は、大学生および社会人としての活動において不可欠となっているコンピュータ操作の基本を身につけることを目標とした選択科目である。表計算ソフトウェアの活用技術を修得していることは、大学での調査研究活動や実社会での業務を行う上で有益である。この講義では、大学や企業において一般的に利用される表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelについて、データ入力、関数の利用、グラフ作成、データベース機能の利用等、具体的な操作方法を学習する。また操作のみではなく、具体的な問題の解決など目標を達成するための手段、道具として「Excelを使う」ということを実践的に学び、より効果的にコンピュータを活用する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
当日の朝刊等から、コンピュータ、ユビキタス、スマートフォン等、情報技術に関する問題や時事問題について調べて常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。またタイピング練習は、日常的に行っておく。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
オリエンテーション(ガイダンス)
第 2 回　Excel基本操作(1)
セル操作(ワークシート操作と情報リテラシーの復習)
第 3 回　Excel基本操作(2)
関数の基本(オートSUM／基本書式／関数検索、情報リテラシーの復習)
第 4 回　Excel基本操作(3)
値の表示形式、値の種類
第 5 回　Excel関数(1)
SUM ／ AVERAGE ／ MAX ／ MIN ／ COUNT ／ COUNTA／RANK／絶対参照
第 6 回　Excel関数(2)
ROUND／ROUNDUP／ROUNDDOWN／INT
第 7 回　Excel関数(3)
SUMIF ／ COUNTIF ／ COUNTBLANK ／ AVERAGEIF
第 8 回　Excelデータベース機能
並べ替え／オートフィルタ
第 9 回　Excelグラフ機能
グラフ作成と効果的で訴求力のあるグラフ作成
第 10 回　小テスト
基本的な関数の扱い方(過去の検定試験問題集から)
第 11 回　論理関数 Excel関数基礎(4)
IF
第 12 回　論理関数 Excel関数応用(5)
IF(発展・実践と発展・多重判断文、AND、OR)
第 13 回　データ分析とデータベース関数
VLOOKUP
第 14 回　プレテスト
定期試験を想定した練習問題

第 15 回　定期試験
　　定期試験

〔成績評価〕
受講態度及び定期試験（筆記試験）等による評価とする。
定期試験70%
授業への取り組み10%
ノート点20%

〔教科書〕
「特になし」

〔参考文献〕
「教養情報科学概論」共立出版
「表計算」日本情報処理検定協会出版
その他、適宜授業内で紹介

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

英語Ⅰ②

1502
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
中田　　康行

〔到達目標〕
語を日本語に訳さないで理解できるような程度にまで英語に習熟できることを目標にする。

〔授業の概要〕
この授業では英語の文章を精読し、正確に意味解釈を行う訓練をする。イギリスに留学している学生が生活、文化、旅行、観光などを通してイギリスを紹介する内容の教科書を読む。適宜、英文の構造、慣用法などに注意し英語表現に慣れる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
日頃から英語に接する機会（テレビやインターネットなど）を見つけて、英語に慣れるようにすること。

〔授業計画〕
第 1 回　前期授業の概要・説明
　　授業内容、姿勢)についての説明。成績・評価の方法の説明。
第 2 回　Wedding ceremonies in the world
　　世界の結婚式を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。
第 3 回　Wedding ceremonies in the world
　　テクストの再聞き取り、および練習問題
第 4 回　Funerals in the world
　　世界の埋葬文化（葬式）を扱うエッセイを読む。を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。
第 5 回　Funerals in the world
　　テクストの再聞き取り、および練習問題
第 6 回　Coming of age(s day ceremonies in the world
　　成人式を祝われ方を扱うエッセイを読む。を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。
第 7 回　Coming of age(s day ceremonies in the world
　　テクストの再聞き取り、および練習問題
第 8 回　Toilets in the world
　　世界のトイレ事情を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。
第 9 回　Toilets in the world
　　テクストの再聞き取り、および練習問題
第 10 回　Alcohlibeverages in the world
　　世界の酒に費えのエッセイを読む。を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。
第 11 回　Alcohlibeverages in the world
　　テクストの再聞き取り、および練習問題
第 12 回　Unusual foods in the world
　　世界の珍しい料理を扱うエッセイをよむ、を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。
第 13 回　Unusual foods in the world
　　テクストの再聞き取り、および練習問題
第 14 回　Women’s status in the world
　　女性の地位y社会進出を扱い￥宇エッセイをよむ。を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。
第 15 回　Women’s status in the world
　　テクストの再聞き取り、および練習問題
　　前期授業の要点整理・確認。

〔成績評価〕
授業時の発表(20%)
小テスト(20%)
確認テスト2回(60%)

〔教科書〕
石田隆之監修　Cross-Cultural lAwarenesss
開文社
（教科書を各自購入し、授業に臨むこと。スマホによるコピー等はみとめません。）

〔参考文献〕
授業時に適宜指示。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
随時メールで受け付けます。
アドレス　nakata@ashiya-u.ac.jp

英語Ⅰ③

1503
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
TOEIC新形式の初級レベルの問題に慣れる。
4技能のうち、特に、Reading ,Listeningの基礎を身につける。
教科書にある英文を参考にし、身近な英語表現力を身につける。
〔授業の概要〕
各UnitのPart 1~Part 4はListening とディクテーションを基本にしながら、受講生自身がペアやグループで英文を作成し、英語を発信する練習をする。Part 5～Part 7 は、文法理解と内容理解の練習を重ねていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時間の復習をし、次時の確認テストの学習をすること。（120分）
指示した内容についての十分な予習をしておくことが必要である。（120分）
〔授業計画〕
第 1 回　Unit 1 Activities
TOEICについての説明
人物の動作に関する英語の学習　　現在時制、過去時制の整理
第 2 回　Unit 2 Eating Out
料理、外食などに関する英語の学習
未来形、完了形の整理Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。
第 3 回　Unit 3 Entertainment
娯楽、趣味に関する英語の学習
進行形、助動詞の整理
第 4 回　Unit 4 Travel
旅行に関する英語の学習
受動態、使役動詞の整理
第 5 回　Unit 5 Housing
賃貸物件、リフォームなどに関する英語の学習
There 構文、付加疑問文の整理
第 6 回　Unit 6 School
教育、授業に関する英語の学習
可算名詞、不可算名詞の整理
第 7 回　Unit 7 Health
健康に関する英語の学習
冠詞、代名詞の整理
第 8 回　Unit 8 Shopping
Shoppingに関する英語の学習
形容詞、副詞の整理
第 9 回　Unit 9 Family
家族や家庭に関する英語の学習
比較級、最上級の整理
第 10 回　Unit 10
ニュースに関する英語の学習
不定詞と動名詞の整理
第 11 回　Unit 11 Job Hunting
就職活動に関する英語の学習
前置詞、接続詞の整理
第 12 回　Unit12 Advertisement
広告に関する英語の学習
直接話法、間接話法の整理
第 13 回　Unit 13 Office Work
仕事に関する英語の学習
命令文、感嘆文の整理
第 14 回　Unit 14 Office Messages
仕事に関する英語の学習
命令文、感嘆文の整理
第 15 回　Unit 15 Meetings
会議に関する英語の学習
仮定法の整理
〔成績評価〕
授業での課題への取り組み　25%　　テスト　75%
〔教科書〕
Practical TOEIC Bridge L&R Tests (南雲堂)
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
中学校教諭での英語指導や英語学習に関する知識技能を活かして、英語の知識・技能や英語指導法に関わる指導を行う。
〔オフィスアワー〕
tange@ashiya-u.ac.jp
水曜日　14時～15時

英語Ⅰ④

1504
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
浜本　　幸子

〔到達目標〕
１．類義語、派生語などを学び、語彙力を高める
２．学んだ語彙を積極的にコミュニケーションで利用できるようになる
３．基本的な英語文の構造を理解・習得し、表現力を高める
〔授業の概要〕
基本語彙、類義語、反義語、派生語、文章やまとまりのある会話文などを授業毎に提示する。それらをノートに取り、各自でオリジナルノートを作成する。学んだ内容を使ってクラス内で英語でインタビューをし、その内容を英文書としてまとめ、かつ発表する。

補足として、各回の授業内容に関連する文法事項や練習問題を含んだプリントを配布する場合もある。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

毎回の授業内容（語彙や会話文）を復習し、定着させる。(90分)

副読本の指定された部分を読み、内容を理解して授業に臨む。(90分)

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション・英語力をつける学習方法
英語力を効果的に養う学習方法を複数紹介し、実践する。各自に合った学習方法を見つける。

第 2 回　語彙を増やす１
日常生活で使用する語彙を習得。口頭実践練習。ペアワークで学びを確認しあう。

第 3 回　語彙を増やす２
類義語、反義語、派生語などを習得。口頭実践練習。ペアワークで学びを確認しあう。

第 4 回　語彙を増やす３
ワードマッピングで関連語をまとめて覚え、語彙を増やす。口頭実践練習。ペアワークで学びを確認しあう。

第 5 回　語彙を増やす４
コロケーション、語彙の選択について学ぶ。口頭実践練習。ペアワークで学びを確認しあう。

第 6 回　語彙のまとめ、復習
ワークシートを利用し、ペアでお互いの語彙力を確認しあう。小テスト実施

第 7 回　単語と文１
単語を並べて文を作成。日本語との語順の違いに注目。また、文法的正しさ、内容の適切さなどを考える。

第 8 回　単語と文２
文の構造を考えながら英語で文を作成する。自作の文章をペア相手に読み聞かせ、自分の書いた内容が相手に伝わっているか確認。

第 9 回　学びの実践
今までに習得した内容に関連した文章（副読本など）を読み、各自学びの定着を図る。

第 10 回　発表１
与えられたテーマに沿って、学んだ内容を使って作文し、発表する。

第 11 回　複雑な文１
単分から重文、複文へ理解を深める。副読本等を使って練習。

第 12 回　複雑な文２
複雑な構造の文をわかりやすく分析する。そのうえで、複雑な構造の文を含んだ文章を作り、提出する。

第 13 回　二人の会話
ある特定の状況を設定する。そこで起こりうる会話を考えながら、二人の登場人物が話す内容を英語で考え、会話文を作る。

第 14 回　発表に向けての準備
前回作成した会話文を各ペアで覚え、身振りなども交えて練習する。

第 15 回　発表と評価
すべてのペアがそれぞれ発表し、聞く側としては評価基準に基づいて評価する。

〔成績評価〕

提出物（10%）

小テスト・発表（35%）

定期試験（55%）

〔教科書〕

担当者作成のパワーポイント資料で授業を進めるため、テキストは特に指定しない。

ワークシートや復習の資料などを適宜配布する。

〔参考文献〕

必要に応じて授業中に資料などを配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

木曜日

英語Ⅰ⑤

1505
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
中田　　智也

〔到達目標〕

基本的な文法事項を理解する。

簡単な英語の文を、正確に日本語に訳せるようになる。

簡単な英作文ができるようになる。

〔授業の概要〕

この授業は、大きく分けて、①文法事項の確認、②英文和訳（英語から日本語）、③和文英訳（日本語から英語）、の３つの部分から成ります。①と②で文法事項を理解したうえで③に取り組みます。簡単な英作文を数多くこなすことにより、英語に慣れていきましょう。また、クラス全体で問題を共有しながら、難しく感じる部分も丁寧に学んでいきましょう。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業で学んだことの復習

難しく感じた英文和訳、和文英訳を重点的に復習

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
授業の進め方・決まり事などについて

第 2 回　動詞（1）be動詞　英文和訳
be動詞の意味、使い方、語形変化（原形・現在形・過去形など）
否定文、疑問文の作り方

第 3 回　動詞（1）be動詞　和文英訳

be動詞の意味、使い方、語形変化（原形・現在形・過去形など）
否定文、疑問文の作り方
第 4 回　動詞（2）一般動詞　英文和訳
一般動詞とbe動詞の区別
「三・単・現」の ” s”、規則変化と不規則変化
否定文、疑問文の作り方
第 5 回　動詞（2）一般動詞　和文英訳
一般動詞とbe動詞の区別
「三・単・現」の ” s”、規則変化と不規則変化
否定文、疑問文の作り方
第 6 回　未来形　英文和訳
will と be going to
will と be going to の使い方（will + 動詞の原形、be going to + 動詞の原形）
否定文、疑問文の作り方
第 7 回　未来形　和文英訳
will と be going to
will と be going to の使い方（will + 動詞の原形、be going to + 動詞の原形）
否定文、疑問文の作り方
第 8 回　助動詞　英文和訳
さまざまな助動詞（will, can, may, must など）
助動詞の使い方（助動詞 + 動詞の原形）
否定文、疑問文の作り方
第 9 回　助動詞　和文英訳
さまざまな助動詞（will, can, may, must など）
助動詞の使い方（助動詞 + 動詞の原形）
否定文、疑問文の作り方
第 10 回　冠詞　英文和訳
a,an（不定冠詞）の基本的な使い方と意味
the（定冠詞）の基本的な使い方と意味
冠詞が不要な場合、その他
第 11 回　冠詞　和文英訳
a,an（不定冠詞）の基本的な使い方と意味
the（定冠詞）の基本的な使い方と意味
冠詞が不要な場合、その他
第 12 回　代名詞　英文和訳
代名詞の人称（1人称・2人称・3人称と単数・複数の区別）
代名詞の格変化（例 : ” I” , ” my” , ” me” , ” mine”）
指示代名詞、疑問代名詞、その他
第 13 回　代名詞　和文英訳
代名詞の人称（1人称・2人称・3人称と単数・複数の区別）
代名詞の格変化（例 : ” I” , ” my” , ” me” , ” mine”）
指示代名詞、疑問代名詞、その他
第 14 回　前期のまとめ
前期の要点のおさらい
第 15 回　前期のまとめ
前期の要点のおさらい

〔成績評価〕
毎回のレポート提出とその内容から総合的に評価します。

〔教科書〕
Simply Grammar 〈Revised Edition〉（南雲堂）

〔参考文献〕
適宜資料を配布します。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
LMS科目になるので、質問・相談はPhollyのメッセージで受け付けます。

英語Ⅰ⑥

1506
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
山片　崇嗣

〔到達目標〕
・英語文献等を読むための基本的な英語力を養う。
・基本的な文法や語法を再確認し、英文構造の理解を定着する。
・様々な場面に応じたコミュニケーション力を高める。

〔授業の概要〕
・各章ごとに文法・語法事項の解説と問題を通じて、理解、定着、発展を深める。

※感染症対策等の理由からLMS授業になる場合もあります。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
到達目標に達するために、各章の文法事項を事前に予習し、効果的な授業の理解を目指す。また、授業後の復習を通じて、定着、発展を深める。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の目的・方針、評価方法などの紹介。

第 2 回　第１章　動詞と文型①
自動詞と他動詞

第 3 回　第１章　動詞と文型②
第１・第２・第３文型

第 4 回　第１章　動詞と文型③
第4・第5文型

第 5 回　第２章　時制①
現在時制

第 6 回　第２章　時制②
過去時制

第 7 回　第２章　時制③
完了時制

第 8 回　第３章　助動詞①

・基本用法
・助動詞の種類①

第 9 回　第３章　助動詞②
助動詞の種類②

第 10 回　第４章　受動態①
・能動態と受動態
・受動態の基本形

第 11 回　第４章　受動態②
・受動態の様々な形式
・受動態の否定文・疑問文

第 12 回　第５章　仮定法①
直接法と仮定法

第 13 回　第５章　仮定法②
・仮定法過去
・仮定法過去完了

第 14 回　前期授業のまとめ
第 15 回　定期考査

〔成績評価〕
１．授業参加度・課題
２．定期試験

〔教科書〕
「入門　英文法　問題精講　４訂版」（旺文社）
その他、必要に応じてプリント等を配布します。

〔参考文献〕
文部科学省　学習指導要領（最新版）
中学校　英語テキスト

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
時間：授業開始前の20分間
場所：教室または講師控室

英語Ⅰ⑦

1508
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
野島　晃子

〔到達目標〕
・基礎英文法を再確認しながら単語や熟語の知識を増やすことができる。
・簡単な英文で自分の言いたいことを言えるようになる。
・日常会話レベルのリスニング力をつけることができる。

〔授業の概要〕
さまざまなアクティビティを通して、「英語」という言語がもつ特徴を体得する。そして、日常の簡単なことがらについて英語で話したり、相手に質問したりできるような基礎的なコミュニケーション力を身につけることをめざす。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・毎回の授業内容を復習し、次回の授業にのぞむこと。
・自分が興味をもつ分野において見聞きする英語表現を普段から気に留めること。

〔授業計画〕
第 1 回　Orientation, Unit 1: Welcome to L.A.
・授業方針、目標、内容、評価方法、履修にあたっての注意事項などについて説明する。
・教員およびクラスメイト同士での簡単な自己紹介をする。
・テキスト Unit 1: be動詞

第 2 回　Unit 2: I love fruit!
テキスト Unit 2: 可算名詞／不可算名詞

第 3 回　Unit 3: Campus Life
テキスト　Unit 3: 一般動詞（現在時制）

第 4 回　Unit 4: Lunchtime
テキスト　Unit 4: 代名詞

第 5 回　Unit 5: First Date
テキスト　Unit 5: 一般動詞（過去時制）

第 6 回　Unit 6: Where’s Linda?
テキスト　Unit 6: 進行形

第 7 回　Unit 7: Andy’s News
テキスト　Unit 7: will / be going to

第 8 回　Unit 8: Shopping in Santa Monica
テキスト　Unit 8: 助動詞

第 9 回　Unit 9: Moving Day
テキスト　Unit 9: 前置詞

第 10 回　Unit 10: A Beautiful View
テキスト　Unit 10: 現在完了

第 11 回　Unit 11: Sunday Fun
テキスト　Unit 11: 比較

第 12 回　Unit 12: Seeing Stars
テキスト　Unit 12: WH疑問文

第 13 回　Unit 13: Buying Food for a BBQ
テキスト　Unit 13: 動名詞／不定詞

第 14 回　Unit 14: Putting on a New Face, Unit 15: Nice Surprises
テキスト　Unit 14: 接続詞
テキスト　Unit 15: 受動態

第 15 回　End-of-term Exam
前期期末試験

〔成績評価〕
・授業態度／授業貢献度／コミュニケーションペーパー／ミニテスト／課題　50%
・定期試験　50%

〔教科書〕
『We Love L.A.』Robert Hickling and Misato Usukura, 金星堂, ISBN 978-4-7647-4049-5

〔参考文献〕
必要に応じ適宜指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
LMS科目のため質問等はメールで受け付けし、次回の授業までに回答します。

英語Ⅰ⑧

1509
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
杉島　未来

〔到達目標〕
中学生レベルの基本的な英語の知識を再確認しながら、英語抜きでは成り立たない、私たちの身の回りで接する英語への興味を高め、自信をつける。
　英語の基礎的な問題を解くことで理解を深め、知識を蓄積することができ、なおかつその知識を運用して考える力、思考力や表現力をつけることもできる。最初から簡単にはできないであろうが、思考力・表現力を必要とする問題を自ら回答していくことにより、じっくり問題と向き合って、自分で考え、自分の力で解けたときの高揚感や達成感を経験することにより、各自英語への自信が持てるようになる。
〔授業の概要〕
日常よく使う英語表現を学び、タスクと呼ばれる指定された情報を集めるゲームまたはシミュレーション形式の方法で何度もそれらの表現を口から発し、脳に定着させることで、意識せずに必要な表現が覚えられるようにする。丸暗記ではなく、ある特定の状況を設定し、そのなかで必要な情報を得るために学んだ会話表現を使っていくことで、自然にそれらの表現が使えるようにする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習・復習課題を出します
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（授業概要・単位取得・自己紹介)
第 2 回　自己紹介+T'sComment/ Your comments After reading
第 3 回　Nice to Meet You
第 4 回　This Is My Friend
第 5 回　Where Do People Hang Out?
第 6 回　I Went to That Place
第 7 回　I Have a Question
第 8 回　Would It Be Possible to Study This?
第 9 回　I Have to Miss Next Class
第 10 回　What Are You Doing on Sunday?
第 11 回　What Should We Get?
第 12 回　Yeah, I'll Give You That
第 13 回　Come On! I'll Help You
第 14 回　What Should We Do?
第 15 回　I Can Book the BBQ
〔成績評価〕
授業態度、提出物、小テスト　60%
期末テスト 40%
〔教科書〕
Encounters on Campus
〔参考文献〕
学研パーフェクトコース　中学英語
学習指導要領 他適宜紹介
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
授業終了後、講義教室で対応します

情報機器の操作（初級）

2192
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
中村　宏敏

〔到達目標〕
情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。
〔授業の概要〕
１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。
予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。（180分程度）
〔授業計画〕
第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)
第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作
第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作
第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う
第 5 回　定型文書の作成2

均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。
第 6 回　注目度の高い文書の作成
視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。
第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。
第 8 回　表計算ソフトの操作
オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで
第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1
条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。
第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について
第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる
第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する
第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
プロジェクターの配線について
第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ

〔成績評価〕
授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある

〔教科書〕
教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)

〔参考文献〕
私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。

〔オフィスアワー〕
月曜日2限目

情報機器の操作（初級）

2193
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕
情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。

〔授業の概要〕
１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。
予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。(180分程度)

〔授業計画〕
第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)
第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作
第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作
第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う
第 5 回　定型文書の作成2
均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。
第 6 回　注目度の高い文書の作成
視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。
第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。
第 8 回　表計算ソフトの操作

オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで
第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1
条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。
第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について
第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる
第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する
第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
プロジェクターの配線について
第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ

〔成績評価〕
授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある

〔教科書〕
教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)

〔参考文献〕
私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。

〔オフィスアワー〕
月曜日2限目

英語Ⅲ②

2502
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
中田　　康行

〔到達目標〕
平易な英文を早く読みこなし、理解できるようになることに加えて、様々な英語の慣用表現になれること。

〔授業の概要〕
日本人の学生がイギリスに旅行に出かける話を通して、多様な場面での英語表現に習熟することを心がける。そのような場面には、レストラン、ホテルの予約、買い物や鉄道の切符購入などが含まれる。多様な場面の英語に接することで英語力を高め、表現に習熟する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
普段から、英語の放送や、英字新聞などに取り組んでみること。

〔授業計画〕
第 1 回　授業概要の説明
授業内容、進度の説明。成績・評価方法の確認。
qwWelcome to England
第 2 回　he　Carter Family
ロンドンへの飛行、イギリスの家族との対面。

第 3 回　Fish and Chips for lunch
イギリスの庶民的な食べ物fish and chipsと一般の生活
第 4 回　Train Tickets
イギリスの鉄道について。いかに切符を買い求めるか。またどのような
割引があるのかなど。
第 5 回　AWeekend away
イギリスのホスト・ファミリーと週末の小旅行に出かける際の鉄道の予約予約・利用方法など。
第 6 回　Reserving away
帰りの列車の予約や、行った先の宿泊場所の予約などを確実にしておくこと。小旅行の楽しみ。
第 7 回　At a Restaurant
ストランでの注文の仕方や、そこでの典型的な会話のやり土りなど。チップの習慣など。
第 8 回　London suburba\s
大都市ロンドンの郊外を訪ねて、人々の生活や、街並みの景観などの美しさを読み取る。
第 9 回　Shopping
町での風景。(とりわけクリスマスの時期の町の景観）買い物客の表情など。
第 10 回　The Local Pub
パブは単にお酒を飲むだけの場所ではない。一種の社交の場であることを理解することでイギリス人の生活に根を下ろす文化の一面であることを知る。
第 11 回　At the Post Office

郵便局での言葉のやり取り、切手を買う時の表現や荷物の送り方など・

第 12 回　Shopping for Clothes
服のサイズの表現や、装身具の買い求め方など、何でもない簡単な表現に習熟する。

第 13 回　The Weather
イギリスは雨がよく降る。天候や気候の記述にどのような日常表現が多く使われるかを学ぶ。

第 14 回　Yrk Minster
イギリスを代表する古刹であるヨーク・ミンスターを訪ねることで、その大教会の威様さに感動するだけではなく、大聖堂建築の歴史にも関心を抱かせる。

第 15 回　Going to a Doctor
体調を崩した時に病院などで診察を受けるが、そのような場面での言葉そやり取りを学ぶ。
授業内容の総括と要点の整理。

〔成績評価〕
授％業時の発表(20％))
確認テスト2回(80＆￥％)

〔教科書〕
TerryO‘Brien著　A Trip to Britain（南雲堂）
（スマホ等によるコピーは許可しません。）

〔参考文献〕
業中に指示。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
随時メールで受け付けます。
アドレス　nakata@ashiya-u.ac.jp

英語Ⅲ③

2503
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
TOEIC新形式の初級～中級レベルの問題に慣れる。
4技能のうち、特に、Reading ,Listeningの基礎を身につける。
教科書にある英文を参考にし、身近な英語表現力を身につける。

〔授業の概要〕
各UnitのPart 1~Part 4はListening とディクテーションを基本にしながら、受講生自身がペアやグループで英文を作成し、英語を発信する練習をする。
Part 5～Part 7は、文法理解と内容理解を目標に置く。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時の復習をし、次時の確認テストの学習をすること。(120分)
指示した内容についての十分な予習をしておくことが必要である。(120分)

〔授業計画〕

第 1 回　英語Ⅱの復習
既習の語彙、構文の復習　　授業内で確認テストをする

第 2 回　Unit 9 Shopping
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する

第 3 回　Unit 9 Shopping
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。

第 4 回　Unit 10 Transportation
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。

第 5 回　Unit10 Transportation
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。

第 6 回　Unit 11 Computers
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する

第 7 回　Unit 11 Computers
Part 5～Part 7 の内容理解。新出語彙、語句の学習

第 8 回　Unit 12 Offices
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。

第 9 回　Unit 12 Offices
Part 5～Part 7 の内容理解。新出語彙、語句の学習

第 10 回　Unit 13 Jobs
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。

第 11 回　Unit 13 Jobs
Part 5～Part 7 の内容理解。新出語彙、語句の学習

第 12 回　Unit 14 Business
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。

第 13 回　Unit 14 Business
Part 5～Part 7 の内容理解。新出語彙、語句の学習

第 14 回　Unit 15 MINI TOEIC
模擬テストにより、各自の課題を把握する機会とする

第 15 回　総復習　まとめ
単語、重要語句を復習する。既習の内容から自己表現をする。

〔成績評価〕
授業での課題への取り組み　25％　　テスト　75％

〔教科書〕
RAISING YOUR LEVEL !
FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST （南雲堂）
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
中学校教諭での英語指導や英語学習に関する知識技能を活かして、英語の知識・技能や英語指導法に関わる指導を行う。
〔オフィスアワー〕
水曜日　14時～15時　　研究室11
tange@ashiya-u.ac.jp

英語Ⅲ④

2504
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
浜本　　幸子

〔到達目標〕
１．英語を聴き、読むことを通して必要な情報を的確に収集できるようになる。
２．さまざまな場面での特有の表現を習得し、状況に応じて対応できるようになる。
３．文構造の復習をし、自ら適切な文を考え表現できるようになる。
〔授業の概要〕
さまざまな場面設定毎に作成されたテキストを使用し、聴き取り、発話、作文などを行う。ペアワークやその他の言語活動を取り入れ、実践的なコミュニケーション力を養えるような授業構成にする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
復習中心。毎回の授業で学んだ内容をしっかり定着させるよう、各自の復習が重要。読むこと・　書くこと（90分）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・復習
授業の目標、方針、評価方法等の説明。過去1年間の復習。
第 2 回　空港で
入国審査や空港で必要な語彙、表現を習得する。また、文法の復習として「接続詞」を扱い、表現の幅を広げる。
第 3 回　ホテル
インターネットでホテルの予約をする時やホテル滞在時に必要な語彙、表現を学ぶ。また、文法として「不定詞」を復習する。
第 4 回　レストランで
メニューの見方、注文の仕方など、レストランで必要な語彙、表現を習得する。
文法として「形容詞」を復習する。
第 5 回　前3回の復習と補足
前3回の語彙、文章、文法の復習と補足をし、学んだことを実際に自分の言葉として使用できるよう練習する。
第 6 回　ショッピング
買い物で使用する頻度の高い語彙、表現を習得する。また、「頻度を表す副詞」を復習する。
第 7 回　ベースボール
野球に関連する語彙、表現を習得する。文法として「比較級」を復習する。
第 8 回　ミュージカル鑑賞
ネット上でミュージカルに関する情報を読み、チケットを購入するのに必要な語彙、表現を習得する。また、「現在完了」を復習する。
第 9 回　前3回の復習と補足
前3回の語彙、文章、文法の復習と補足をし、学んだことを実際に自分の言葉として使用できるよう練習する。
第 10 回　旅行案内
ニューヨークへの旅行を想定して情報収集する中で必要な語彙、表現を習得する。
また、「受動態（１）」を復習する。
第 11 回　トラブル・シューティング
忘れ物をしたなど、困ったことが起きたときに必要な語彙、表現を習得する。
また、「受動態（２）」を復習する。
第 12 回　体調不良
体調不良を訴えるときに必要な語彙、表現を習得する。また、「分詞」について復習する。
第 13 回　電話での申し込み
電話で予約をしたり、人を誘ったりするときに必要な語彙、表現を習得する。
また、「動名詞」について復習する。
第 14 回　さよなら、アメリカ
訪問していたアメリカを去るという想定で、必要な語彙、表現を習得する。
また、別れ際の挨拶、感謝の述べ方などを学ぶ。
第 15 回　前５回と全体の復習と補足
前5回の語彙、文章、文法の復習と補足をし、学んだことを実際に自分の言葉として使用できるよう練習する。
〔成績評価〕
提出物（１０％）
小テスト・発表（30%）
定期試験（60%）
〔教科書〕
英語Ⅱで使用したテキストを引き続き使用する。
(Forerunner to Power-Up English, JACET リスニング研究会
発行所：南雲堂)
〔参考文献〕
必要に応じて授業中に紹介する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
木曜日

英語Ⅲ⑤

2505
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
中田　　智也

〔到達目標〕
基本的な文法事項を理解する。
簡単な英語の文を、正確に日本語に訳せるようになる。
簡単な英作文ができるようになる。
英語と日本語の類似点と相違点について、自覚的になる。
〔授業の概要〕
前年度の英語Ⅰ・Ⅱの復習を交えて、学習を進めていきましょう。前年度同様に、英文和訳、和文英訳をこなすなかで文法事項を理解していきましょう。難しいと思うところは、おそらく他にもそう思っている人がいるはずです。遠慮なく質問をするようにしてください。丁寧に学んでいきましょう。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業で学んだことの復習
難しく感じた英文和訳、和文英訳を重点的に復習
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の進め方・決まり事などについて
第 2 回　接続詞　英文和訳
接続詞の種類・意味・使い方
文と文をつなぐ接続詞、句と句をつなぐ接続詞、語と語をつなぐ接続詞
第 3 回　接続詞　和文英訳
接続詞の種類・意味・使い方
文と文をつなぐ接続詞、句と句をつなぐ接続詞、語と語をつなぐ接続詞
第 4 回　進行形　英文和訳
be動詞＋動詞のing形
進行形の意味、現在進行形、過去進行形、未来進行形、その他
否定文、疑問文の作り方
第 5 回　進行形　和文英訳
be動詞＋動詞のing形
進行形の意味、現在進行形、過去進行形、未来進行形、その他
否定文、疑問文の作り方
第 6 回　受動態（受け身形）　英文和訳
be動詞＋動詞の過去分詞形
受け身形の意味、現在形、過去形、助動詞との組み合わせ、その他
否定文、疑問文の作り方
第 7 回　受動態（受け身形）　和文英訳
be動詞＋動詞の過去分詞形
受け身形の意味、現在形、過去形、助動詞との組み合わせ、その他
否定文、疑問文の作り方
第 8 回　完了形（現在完了・過去完了）　英文和訳
have / has＋動詞の過去分詞形
完了形の意味、現在完了、過去完了、その他
否定文、疑問文の作り方
第 9 回　完了形（現在完了・過去完了）　和文英訳
have / has＋動詞の過去分詞形
完了形の意味、現在完了、過去完了、その他
否定文、疑問文の作り方
第 10 回　比較　英文和訳
形容詞と副詞の比較変化
原級、比較級、最上級
第 11 回　比較　和文英訳
形容詞と副詞の比較変化
原級、比較級、最上級
第 12 回　不定詞　英文和訳
to＋動詞の原形
文の中で果たす役割（名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法、原形不定詞）
第 13 回　不定詞　和文英訳
to＋動詞の原形
文の中で果たす役割（名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法、原形不定詞）
第 14 回　動名詞　英文和訳
動名詞の形
文の中で果たす役割（主語、補語、目的語、前置詞の目的語）
第 15 回　動名詞　和文英訳／まとめ
動名詞の形
文の中で果たす役割（主語、補語、目的語、前置詞の目的語）
要点のおさらい
〔成績評価〕
毎回のレポート提出とその内容から総合的に評価します。
〔教科書〕
Simply Grammar 〈Revised Edition〉（南雲堂）
〔参考文献〕
適宜資料を配布します。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
LMS科目になるので、質問・相談はPhollyのメッセージで受け付けます。

英語Ⅲ⑦

2507
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
野島　晃子

〔到達目標〕
・基礎英文法を再確認しながら語彙力の向上を図ることができる。
・簡単な英文で自分の言いたいことを言えるようになる。
・日常会話レベルのリスニング力をつけることができる。

〔授業の概要〕
さまざまなアクティビティを通して、「英語」という言語がもつ特徴を体得する。そして、日常の簡単なことがらについて英語で話したり、相手に質問したりできるような基礎的なコミュニケーション力を身につけることをめざす。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・毎回の授業内容を復習し、次回の授業にのぞむこと。
・自分が興味をもつ分野において見聞きする英語表現を普段から気に留めること。

〔授業計画〕
第 1 回　Course Orientation, Unit 1 and Unit 2
Unit 1: Hello, I'm Bill!
Unit 2: I Was Doing Research
第 2 回　Unit 3 and Unit 4
Unit 3: I'm Gong to Visit Chicago
Unit 4: I Have Been to Nara
第 3 回　Unit 5: I Had Never Seen Such a Cute Animal
第 4 回　Unit 6: We Should Study Very Hard
第 5 回　Unit 7: Tomatoes Are Loved by Many People
第 6 回　Mid Term Test (Unit 1 to Unit 7)
第 7 回　Unit 8: I Study to Be an Interpreter
第 8 回　Unit 9: I Enjoy Talking About "Blood Type"
第 9 回　Unit 10: The Sleeping Student Is Mai
第 10 回　Unit 11: I rRespect Him Because...
第 11 回　Unit 12: She Likes Letters More Than Email
第 12 回　Unit 13: Kyoto Is the Most Famous City in Japan
第 13 回　Unit 14: I Have a Frien Who Lives in Australia
第 14 回　Unit 15: Kota, Whose Dream Is to Be a Teacher
第 15 回　Final Term Test (Unit 8 to Unit 15)

〔成績評価〕
・授業態度／授業貢献度／コミュニケーションペーパー／ミニテスト／課題　40%
・定期試験　中間テスト30% 期末テスト30%

〔教科書〕
『Let's Output in Basic English アウトプットのための基本英語』佐藤臨太郎, ISBN 978-4-7647-4108-9, 金星堂

〔参考文献〕
必要に応じ適宜指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
LMS科目のため質問等はメールで受け付けし、次回の授業までに回答します。

英語Ⅲ⑧

2508
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
杉島　未来

〔到達目標〕
英語の生活語彙、表現を身につけ、さまざまな状況で適切な応答が英語でできる。異文化への理解を高め、異文化に積極的に接することができる。衣食住のさまざまな状況で適切な英会話ができるようになる。

〔授業の概要〕
日常よく使う英語表現を学び、タスクと呼ばれる指定された情報を集めるゲームまたはシミュレーション形式の方法で何度もそれらの表現を口から発し、脳に定着させることで、意識せずに必要な表現が覚えられるようにする。丸暗記ではなく、ある特定の状況を設定し、そのなかで必要な情報を得るために学んだ会話表現を使っていくことで、自然にそれらの表現が使えるようにする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習・復習課題を出します

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（授業概要・単位認定について・春休みの出来事）
第 2 回　クラスメートの春休みの出来事
Warm Up for the Subject
第 3 回　Where Are You Heading?
教科書単語レベルチェック
Dictation Listening
第 4 回　Meeting people en route
Model Conversation
Language Focus
第 5 回　Where Are You Heading?
Communication Focus
Putting It All Together
Self-Assessment
第 6 回　May I See Your Passport?
Warm Up
Model Conversation
Language Focus
第 7 回　May I See Your Passport?
Communication Focus
Putting It All Together
Self-Assessment
第 8 回　Where To?
Warm Up
Model Conversation
Language Focus
第 9 回　Where To?

Communication Focus
Putting It All Together
Self-Assessment
第 10 回　I Asked for a Double
Warm Up
Model Conversation
Language Focus
第 11 回　I Asked for a Double
Communication Focus
Putting It All Together
Self-Assessment
第 12 回　What Would You Suggest?
Warm Up
Model Conversation
Language Focus
Communication Focus
Putting It All Together (Role Play)
第 13 回　Here Are Your Keys
Warm Up
Model Conversation
Language Focus
Communication Focus
Putting It All Together (Role Play)
第 14 回　Turn Left at the Light
Warm Up
Model Conversation
Language Focus
Communication Focus
Putting It All Together (Role Play)
第 15 回　How Much Is This?
Warm Up
Model Conversation
Language Focus
Communication Focus
Putting It All Together (Role Play)

〔成績評価〕
授業態度、提出物、小テスト　60%
期末テスト 40%

〔教科書〕
Encounters Abroad

〔参考文献〕
K. Scheibner & D. Martin, Just Talk, EFL Press
C. Granger, Play Games with English, Heinemann Education Books, TARGET! Elementary, 他適宜紹介

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
授業終了後、講義教室で対応します

日本語聴解・会話Ⅰ

2710
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
前田　真弥

〔到達目標〕
自然な速さの日本語を聞き取り、聞き取った内容を伝えることができる。
また日本語を使って積極的な、円滑なコミュニケーションができるようになる。

〔授業の概要〕
シャドーイングや音読により発音練習を行う。
またロールプレイを通して会話能力を、グループワークを通してコミュニケーション能力を高める。
グループで課題を設定し、それをまとめプレゼンテーションすることによって、調べる、整理する、議論する、発表するスキルの向上を目指す。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業内で学んだことを復習すること。また、授業外活動として課題を出すことがある。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介
第 2 回　会話練習①レストラン・カフェで
少し困った場面での会話を練習。
次週の紹介スピーチ①「私の好きなもの（こと）」の準備。
第 3 回　紹介スピーチ①
「私の好きなもの（こと）」をグループ内で発表する。意見交換。
第 4 回　会話練習②友だちを誘う
授業の後で/休みの日に/旅行に、友だちを誘う練習。
次週の紹介スピーチ②「私の故郷」の準備。
第 5 回　紹介スピーチ②
「私の故郷」をグループ内で発表する。意見交換。
第 6 回　会話練習③アパート、マンションで
あまり親しくない人と会話する練習。
次週の紹介スピーチ③「私のおすすめの本」の準備。
第 7 回　紹介スピーチ③
「私のおすすめの本」をグループ内で発表する。意見交換。
第 8 回　会話練習④ハプニング
ハプニングが起こったときの会話を練習する。
次週のディスカッション導入。
第 9 回　ディスカッション
賛成意見や反対意見を言う練習。
第 10 回　会話練習⑤文化
文化（ファッション、映画、音楽、スポーツなど）について話す。

第 11 回　発表準備①
グループでテーマを決め、アンケートを作成する。協働学習。
第 12 回　発表準備②
作成したアンケートをもとにインタビューする。結果をまとめる。
第 13 回　発表①
グループによる発表。発表に対する相互評価。
第 14 回　発表②
グループによる発表。発表に対する相互評価。
第 15 回　発表③
グループによる発表。発表に対する相互評価。

〔成績評価〕
授業への取り組み30%
授業内提出物30%
授業内発表 40%

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
『中級から上級への日本語会話』（凡人社）
『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳』（国書刊行会）
『日本人がよく使う日本語会話オノマトペ基本表現180』（Jリサーチ出版）

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期
②火曜日　17：00〜17：30
③場所：授業終了後、講義教室で対応します。

日本語文章表現Ⅰ

2711
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
前田　真弥

〔到達目標〕
学術的文章で使われる文型や表現、文章の展開の仕方を学び、日本語で論理的な文章を書く基本的な力をつける。日本語の書き言葉のルールに従って自然な日本語で書くことができるようになることを目指す。

〔授業の概要〕
論理的で明晰な文章にするためにはどんな点に気をつければいいかを、練習問題を解きながら考える。また、テーマにそって実際に作文練習をすることで、日本語によるレポート、小論文作成の技術を身につける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業内で学んだことを復習すること。また、授業外活動として課題を出すことがある。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介
第 2 回　文体
文の種類によって文体が違うことを学習する。
作文①（テーマは授業内で伝える）
第 3 回　モードチェンジ
話し言葉から書き言葉への切り替えができる。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 4 回　正しい構造の文１
主語と述語の関係。修飾する言葉と修飾される言葉の関係を学ぶ。
作文②（テーマは授業内で伝える）
第 5 回　正しい構造の文２
文末の制限を学ぶ。簡潔な文を書く練習。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 6 回　「こと」と「の」
名詞節「こと」と「の」を適切に使い分ける。
作文③（テーマは授業内で伝える）
第 7 回　指示詞
指示詞「こ」と「そ」を使い分ける。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 8 回　文のつながり
接続表現を学ぶ。
作文④（テーマは授業内で伝える）
第 9 回　小論文の中でよく使われる表現１
説明や意見をはっきり述べるための表現を学ぶ。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 10 回　小論文の中でよく使われる表現２
形が似ている表現を使い分ける。
作文⑤（テーマは授業内で伝える）
第 11 回　過去と現在
ル形、タ形、テイル形の使い分けによって、取り上げる出来事の「時」」を正しく表すことができる。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 12 回　説明文
具体的で分かりやすい文章を書く。自分の感想や主観を入れないで客観的に書く。
作文⑥（テーマは授業内で伝える）
第 13 回　意見文
意見を述べるときの文型を学習する。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 14 回　要約文
文章や話の要点をつかんで短くまとめることができる。
作文⑦（テーマは授業内で伝える）
第 15 回　復習
先週の作文フィードバック→書き直し。
これまでに学習したことを復習する。

〔成績評価〕
定期試験30%
授業への取組20%
授業内提出物50%

〔教科書〕
「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕
『小論文への12のステップ』（スリーエーネットワーク）
『レポート・論文を書くための日本語文法』（くろしお出版）
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期
②火曜日　17：00～17：30
③場所：授業終了後、講義教室で対応します。

日本語読解Ⅰ

2713
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
島津　　浩美

〔到達目標〕
大学の授業で必要な、専門的な文章を読んで内容を正確に把握し、その上で自分の考えを表現するといったことができるようになることを目指す。
〔授業の概要〕
文章を文脈の中で正確に把握し､自分なりの意見を発表する。この授業では、あるテーマ関する文章を読み、その内容に関して、考えたり、話し合ったり、調べて書いたりする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
次の課の単語リストが配布されたら､意味を調べておく(30分)
あるテーマに関する文章を読んだ後、話し合ったり、それについての自分の意見を書いたりするため、授業中に考えがまとまらなかったり、調べられなかった場合は、準備してくる。(60分)
〔授業計画〕
第 1 回　あるプロジェクトについての文章を読む
第 2 回　コミュニケーションに関する文章を読む
第 3 回　科学に関する記事を読んで流れを理解する。
第 4 回　人生に関する文章を読んで、筆者の考え方を理解する
第 5 回　家庭科の授業実線に基づいた文章を読んで、筆者の考え方を理解する
第 6 回　環境に関する文章を読んで、その根拠を理解する
第 7 回　ソーシャルメディアに関する文章を読んで、筆者の考え方を理解する
第 8 回　科学的なデータを基にした文章を読んで、筆者の意見を理解する
第 9 回　データの読み取りに必要なグラフの説明の仕方を学ぶ
第 10 回　社会に関する文章を読んで、筆者の主張を読み取る
第 11 回　仕事に関する文章を読んで、働き方の変化を理解する
第 12 回　学習に関する文章を読んで、筆者の考えを理解する
第 13 回　公害に関する文章を読んで、筆者の考えを把握する
第 14 回　自分の国の公害病について調べて発表する
第 15 回　これまでのまとめと復習
〔成績評価〕
授業への参加度・態度　30%
課題・提出物　30%
定期試験　40%
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
小野恵久子　遠藤千鶴　他(2016)
『話す・書くにつながる！日本語読解』 アルク
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②月曜日：　13:00～13:40、17:00～17:30
③場所：　授業前か4限終了後、講義の教室で対応します。
④連絡先：h-shimazu@ashiya-u.ac.jp にメールで連絡するか、Phollyのメッセージで質問・相談してください。
⑤その他：質問や相談がある場合は、事前にメールでアポイントを取ること。
基本的にはLMS科目になるので、質問等はメールで受け付け、次回の授業までに回答します。

日本語漢字・語彙Ⅰ

4424
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
島津　　浩美

〔到達目標〕
中級レベルの漢字300字とそれに関連する語彙を習得する。
中級レベルの漢字300字の読み書きができるようになる。
また、合計650字程度の漢字と語彙を適切に使うことができるようになる。
〔授業の概要〕
テーマに沿って、日本語能力試験N2レベルに必要な漢字を毎回20字ずつ提示をし、その漢字を含んだ文を読んだり、書いたりして、定着を図る。特に中国語漢字との違いに留意する。
各課終了後にの漢字の小テストを行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各回で習った漢字について練習し､正しく覚えておく｡(40分)
次回に習う漢字の語彙を調べておく。(20分)
〔授業計画〕
第 1 回　教室で使う漢字
第 2 回　テストで使われる漢字
第 3 回　形容詞の漢字
第 4 回　漢字の成り立ちと形

第 5 回　自己紹介で使うことば
第 6 回　部屋にあるもの
第 7 回　自動詞・他動詞の漢字
第 8 回　私の町
第 9 回　駅の表示
第 10 回　サイン・広告の表示
第 11 回　料理の作り方に使われることば
第 12 回　コンピューター関連で使われることば
第 13 回　日本での生活に関することば①
第 14 回　日本での生活に関することば②
第 15 回　これまでのまとめ

〔成績評価〕
授業への参加度・態度　20%
小テスト　30%
期末試験　50%

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
佐藤尚子・佐々木仁子（2019）
『留学生のための漢字の教科書　中級700』［改訂版］ 国書刊行会
徳弘康代（2019）
『日本語学習のためのよく使う順漢字2200』

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②月曜日：　13:00～13:40、17:00～17:30
③場所：　授業前か4限終了後、講義の教室で対応します。
④連絡先：h-shimazu@ashiya-u.ac.jp にメールで連絡するか、Phollyのメッセージで質問・相談してください。
⑤その他：質問や相談がある場合は、事前にメールでアポイントを取ること。
基本的にはLMS科目になるので、質問等はメールで受け付け、次回の授業までに回答します。

日本語文章表現Ⅲ

2716
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
中西　　泰洋

〔到達目標〕
◎レポート、卒業論文などの学術的な文章を作成するための基礎的な表現力をつけることを目的とし、そうした学術的文章でよく使われる文系・表現や展開パターンなどについて学ぶ。
◎「日本語文章表現Ⅰ」「日本語文章表現Ⅱ」で学んだことを活用しながら、学術的文章へのステップアップを図っていく。

〔授業の概要〕
◎学習項目について学習者に確認し意見も聞きながら、表現活動をさせる。
◎作成した文章表現について、教授者・学習者自身・学習者相互でチェックし、評価する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
◎履修する専門科目等のテキストの日本語の文章を音読できるように予習して、専門科目等の授業に出席する。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
本授業についての目標・進め方等について説明する。
作文と学術的な文章との違いについて、学習方法について指示する。
ポートフォリオを書かせる。
第 2 回　文章表現の基本
文字や記号の書き方、記号の働き、文体、表現形式について復習する。
第 3 回　課題の提示
論文の構成要素について
序論の構成要素（1）について：課題の提示、問題解決の必要条件の提示、研究行動の提示
第 4 回　目的の提示
序論の構成要素（2）：研究テーマの説明、先行研究の問題点の指摘、研究目的の提示
第 5 回　定義と分類
本論の構成要素（1）：定義、分類、選択
第 6 回　図表の提示
本論の構成要素（2）：図表の提示、数値の大きさの表示、数値の大きさの評価
第 7 回　変化の形容
本論の構成要素（3）：変化の形容、変化の進行の指摘、判明事項の指摘
第 8 回　対比と比較
本論の構成要素（4）：対比、比較
第 9 回　原因の考察
本論の構成要素（5）：原因の考察、予測
第 10 回　列挙
本論の構成要素（6）：存在の指摘、列挙
第 11 回　引用
本論の構成要素（7）：論点の提示、引用
第 12 回　同意と反論
本論の構成要素（8）：同意、反論、注/文献の記述
第 13 回　帰結
本論の構成要素（9）：帰結、換言、補足
第 14 回　結論の提示
結論の構成要素：研究行動の確認、結論の提示、研究の評価、今後の課題の指摘
第 15 回　まとめと今後に向けて
本授業を学習者と共に振り返りながら、まとめを行う。
また、今後の日本語学習について、どのようにすべきかを指示する。

〔成績評価〕
授業での学習状況（約30%）、レポート提出（約70%）で総合的に評価する。
〔教科書〕
プリントを配布する。
〔参考文献〕
授業中に適宜提示し、資料を配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
【実務経験の活用】
国語教育での実務経験を活かした日本語教育を展開する。特に、既習の日本語学習者である留学生を対象とする日本語科目に応用する。
〔オフィスアワー〕
水曜日と木曜日にオフィスアワーを行います。
何か相談したい学生は事前にメールで連絡をお願いします。メールアドレスは nakanishi@ashiya-u.ac.jp です。場所は3階の研究室６です。

情報処理技法Ⅰ①（文書作成）

3501
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
中谷　有里

〔到達目標〕
・Wordの基本的機能や操作方法を知る。
・Wordを使用し、効率的に文書作成ができる。
・Wordを使用し、目的や状況に応じた文書作成ができる。
〔授業の概要〕
文書作成に欠かせないWordを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Word 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ（文書作成）の概要
第 2 回　スキルチェック
Wordのスキルチェック
第 3 回　文書の作成と管理①
文書作成時の注意点、文書の作成、文書の移動
第 4 回　文書の作成と管理②
文書の書式設定、文書のオプションと表示のカスタマイズ
第 5 回　文書の作成と管理③
文書の印刷、文書の保存
第 6 回　文字、段落、セクションの書式設定①
文字列や段落の挿入
第 7 回　文字、段落、セクションの書式設定②
文字や段落の書式設定、文字列や段落の並び替え、グループ化
第 8 回　表の作成
表の作成と変更
第 9 回　リストの作成
リストの作成と変更
第 10 回　参考資料の作成と管理
参照のための情報や記号の作成と管理、標準の参考資料の作成と管理
第 11 回　オブジェクトの挿入と書式設定①
グラフィック要素の挿入と書式設定
第 12 回　オブジェクトの挿入と書式設定②
SmartArtの挿入と書式設定
第 13 回　文書表現の応用①
目的や状況に応じた文書の作成
第 14 回　文書表現の応用②
説得力のある文書の作成
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ
〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%
〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 3限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅰ①（表計算）

3502
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
中谷　　有里

〔到達目標〕
・Excelの基本的機能や操作方法を知る。
・Excelを使用し、効率的に表計算ができる。
・Excelを使用し、目的や状況に応じた表計算ができる。
〔授業の概要〕
表計算で必要とされるExcelを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Excel 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ（表計算）の概要
第 2 回　スキルチェック
　　Excelのスキルチェック
第 3 回　ワークシートやブックの作成と管理①
　　ワークシートやブックの作成と書式設定、移動
第 4 回　ワークシートやブックの作成と管理②
　　オプションと表示のカスタマイズ、配布するための設定
第 5 回　セルやセル範囲のデータの管理①
　　データの挿入と書式設定
第 6 回　セルやセル範囲のデータの管理②
　　データのまとめと整理
第 7 回　テーブルの作成①
　　テーブルの作成と管理
第 8 回　テーブルの作成②
　　テーブルのスタイルと設定オプションの管理、レコードの抽出と並び替え
第 9 回　数式や関数を用いた演算の実行①
　　関数を用いた計算
第 10 回　数式や関数を用いた演算の実行②
　　条件付き関数を用いた計算、関数を用いた書式設定と文字列の変更
第 11 回　グラフやオブジェクトの作成①
　　グラフの作成と書式設定
第 12 回　グラフやオブジェクトの作成②
　　オブジェクトの挿入と書式設定
第 13 回　表計算の応用①
　　目的や状況に応じた視覚的効果を用いた表計算
第 14 回　表計算の応用②
　　表計算の応用②
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ
〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%
〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 3限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

情報表現技法Ⅰ①

3503
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
中谷　　有里

〔到達目標〕
・PowerPointの基本的機能や操作方法を知る。
・PowerPointを使用し、効率的にスライドの作成ができる。
・PowerPointを使用し、目的や状況に応じたスライドの作成ができる。
〔授業の概要〕
プレゼンテーションに欠かせないPowerPointを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist PowerPoint 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション

授業の進め方、成績評価、情報表現技法の概要
第 2 回　スキルチェック
PowerPointのスキルチェック
第 3 回　プレゼンテーションの作成と管理①
スライドの作成
第 4 回　プレゼンテーションの作成と管理②
スライドの挿入と書式設定、スライドの並び替えとグループ化
第 5 回　プレゼンテーションの作成と管理③
プレゼンテーションのオプションや表示の変更、印刷設定
第 6 回　プレゼンテーションの作成と管理④
スライドショーの設定と実行、スライド、配布資料、ノートの変更
第 7 回　グラフィック要素の挿入と書式設定①
テキスト・図形等の挿入と書式設定、図形の並び替えとグループ化
第 8 回　グラフィック要素の挿入と書式設定②
表・グラフ・SmartArtの挿入と書式設定、メディアの挿入と管理
第 9 回　画面切り替えやアニメーションの適用
画面の切り替えの適用、アニメーション設定、タイミングの設定
第 10 回　プレゼンテーションの管理
複数のプレゼンテーションのコンテンツ結合、プレゼンテーションの仕上げ
第 11 回　ビジュアル表現
ビジュアル表現の概要、色と図形、図解表現
第 12 回　効果的なスライドの作成①
効率的で魅力的なスライドの作成
第 13 回　効果的なスライドの作成②
研究発表用スライドの作成
第 14 回　プレゼンテーションの技術
プレゼンテーションの基本と要点
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ

〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%

〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS PowerPoint 2016対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,200円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 3限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅰ①（表計算）

3505
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
中谷　有里

〔到達目標〕
・Excelの基本的機能や操作方法を知る。
・Excelを使用し、効率的に表計算ができる。
・Excelを使用し、目的や状況に応じた表計算ができる。

〔授業の概要〕
表計算で必要とされるExcelを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Excel 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ（表計算）の概要
第 2 回　スキルチェック
Excelのスキルチェック
第 3 回　ワークシートやブックの作成と管理①
ワークシートやブックの作成と書式設定、移動
第 4 回　ワークシートやブックの作成と管理②
オプションと表示のカスタマイズ、配布するための設定
第 5 回　セルやセル範囲のデータの管理①
データの挿入と書式設定
第 6 回　セルやセル範囲のデータの管理②
データのまとめと整理
第 7 回　テーブルの作成①
テーブルの作成と管理
第 8 回　テーブルの作成②
テーブルのスタイルと設定オプションの管理、レコードの抽出と並び替え
第 9 回　数式や関数を用いた演算の実行①
関数を用いた計算
第 10 回　数式や関数を用いた演算の実行②
条件付き関数を用いた計算、関数を用いた書式設定と文字列の変更
第 11 回　グラフやオブジェクトの作成①
グラフの作成と書式設定

第 12 回　グラフやオブジェクトの作成②
　　オブジェクトの挿入と書式設定
第 13 回　表計算の応用①
　　目的や状況に応じた視覚的効果を用いた表計算
第 14 回　表計算の応用②
　　表計算の応用②
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ

〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%

〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 3限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅰ①（文書作成）

3506
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
中谷　有里

〔到達目標〕
・Wordの基本的機能や操作方法を知る。
・Wordを使用し、効率的に文書作成ができる。
・Wordを使用し、目的や状況に応じた文書作成ができる。

〔授業の概要〕
文書作成に欠かせないWordを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Word 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ（文書作成）の概要
第 2 回　スキルチェック
　　Wordのスキルチェック
第 3 回　文書の作成と管理①
　　文書作成時の注意点、文書の作成、文書の移動
第 4 回　文書の作成と管理②
　　文書の書式設定、文書のオプションと表示のカスタマイズ
第 5 回　文書の作成と管理③
　　文書の印刷、文書の保存
第 6 回　文字、段落、セクションの書式設定①
　　文字列や段落の挿入
第 7 回　文字、段落、セクションの書式設定②
　　文字や段落の書式設定、文字列や段落の並び替え、グループ化
第 8 回　表の作成
　　表の作成と変更
第 9 回　リストの作成
　　リストの作成と変更
第 10 回　参考資料の作成と管理
　　参照のための情報や記号の作成と管理、標準の参考資料の作成と管理
第 11 回　オブジェクトの挿入と書式設定①
　　グラフィック要素の挿入と書式設定
第 12 回　オブジェクトの挿入と書式設定②
　　SmartArtの挿入と書式設定
第 13 回　文書表現の応用①
　　目的や状況に応じた文書の作成
第 14 回　文書表現の応用②
　　説得力のある文書の作成
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ

〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%

〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
・富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 3限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがな

い場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

情報リテラシー

4103
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
森下　　博行

〔到達目標〕
学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標として、パソコンの基本操作を習得しさらに応用できる力を身につけることを目的とする。この情報リテラシーを受講してExcelの基礎操作能力の定着を目指す。今後の学生生活や将来の職場で活用できるための力を身につけることを目標とする。

〔授業の概要〕
この授業は、大学生および社会人としての活動において不可欠となっているコンピュータ操作の基本を身につけることを目標とした選択科目である。表計算ソフトウェアの活用技術を修得していることは、大学での調査研究活動や実社会での業務を行う上で有益である。この講義では、大学や企業において一般的に利用される表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelについて、データ入力、関数の利用、グラフ作成、データベース機能の利用等、具体的な操作方法を学習する。また操作のみではなく、具体的な問題の解決など目標を達成するための手段、道具として「Excelを使う」ということを実践的に学び、基礎的なコンピュータを活用する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
当日の朝刊等から、コンピュータ、ユビキタス、スマートフォン等、情報技術に関する問題や時事問題について調べて常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。またタイピング練習は、日常的に行っておく。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　オリエンテーション(ガイダンス)
第 2 回　Excel基本操作(1)
　　セル操作、ワークシート操作
第 3 回　Excel基本操作(2)
　　関数の基本(オートSUM／基本書式／関数検索)
第 4 回　Excel基本操作(3)
　　値の表示形式、値の種類
第 5 回　Excel関数(1)
　　SUM／AVERAGE／相対参照と絶対参照
第 6 回　Excel関数(2)
　　MAX／MIN
第 7 回　Excel関数(3)
　　COUNT／COUNTA／RANK
第 8 回　Excelデータベース機能
　　データベースと並べ替え
第 9 回　Excelグラフ機能
　　グラフ作成と効果的で訴求力のあるグラフ作成
第 10 回　小テスト
　　基本的な関数の扱い方(過去の検定試験問題集から)
第 11 回　論理関数 Excel関数基礎(4)
　　IF
第 12 回　論理関数 Excel関数応用(5)
　　IF(発展・多重判断文)
第 13 回　データベース機能
　　データベース機能などの便利な機能の活用(データの分析と整理)
第 14 回　プレテスト
　　定期試験を想定した練習問題
第 15 回　定期試験
　　定期試験

〔成績評価〕
受講態度及び定期試験（筆記試験）等による評価とする。
定期試験70%
授業への取り組み10%
ノート点20%

〔教科書〕
「特になし」

〔参考文献〕
「これだけは知っておきたい情報リテラシー大学や社会で活躍するために」オーム社
「表計算」日本情報処理検定協会出版
その他、適宜授業内で紹介

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
目的に応じて適切に情報を収集、活用、発信できるよう、情報機器やインターネット、その活用について指導する。

〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

教育学概論Ⅰ①【中等】

4208
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
津田　　徹

〔到達目標〕
人間を人間として成立させているものについて考察する場合、教育作用は非常に大きな位置を占めています。この講義では、教育とは何かについて、その理念と歴史を簡単に知ることができます。なぜ人間に教育が必要なのかという教育の理念の確認から開始して、教育という語の語源、教育の本質、人間活動と教育、現代社会と教育、社会と教育理念等について学ぶことができます。こうした内容をについて理解し、現代社会の自分で考えることを目標とします。

〔授業の概要〕
この講義においては教育学の基礎について、その理念、歴史、内容、方法などについて歴史的、場所的観点から、講

述して、教育学に対する認識を深化させることを目指す。
講義方法は、教科書に従って講述することを基本とするが、場合によっては、討論、発表、視聴覚資料や教材による検討、レポート課題の作成と発表を通して、教育学に対する認識を深化させてゆく予定である。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

事前学習（予習）については、シラバスの計画を参考に、取り上げられる内容（項目、人物、時代、概念等）についてあらかじめ教科書や書物、インターネットなどを活用して調べておくこと(90分)。
事後学習（復習）については、授業で取り上げた内容について理解できているか、言葉で説明できるかどうか等を確認し、出来ない場合については、教科書やノートを見直しておくこと。また授業内で取り上げた書籍等についてさらに学習を進め内容の深化を目指すこと（90分）。

〔授業計画〕

第 1 回　イントロダクション
講義目標、内容、方法、受講上の注意、評価の方法、参考文献の紹介
第 2 回　教育の場所
家庭、学校、地域社会とそれぞれの教育理念
第 3 回　教育の目的（1）
教育の本質、何をめざして教育はなされるべきか、教育基本法など法令等による
目的・目標
第 4 回　教育の目的（2）
人間観と教育観、現代社会と教育への要請
第 5 回　教育の必要性
ポルトマン、アヴェロンの野生児、自己実現の理念
第 6 回　教育観の対立
これまでの教育観の経緯と対立、伝達観と助成観
第 7 回　家庭教育
家庭教育と人間形成、問われる家庭教育、望ましい家庭教育
第 8 回　社会教育
社会教育の理念、生涯学習社会の提唱、社会教育の充実
第 9 回　学校教育
学校教育の理念、近代学校制度の誕生と教師、学校経営
第 10 回　日本の近代化と教育の役割
日本の近代化と教育理念、公教育の誕生
第 11 回　教育理念と教育思想（1）
学制、福沢諭吉、森有礼、教育令、教育勅語
第 12 回　教育理念と教育思想（2）
大正自由教育運動、国民学校令、教育基本法、改正教育基本法
第 13 回　教育理念と教育思想（3）
ソクラテス、コメニウス、ルソーの各生涯と各教育思想
第 14 回　教育理念と教育思想（3）
ソクラテス、コメニウス、ルソーの各生涯と各教育思想
第 15 回　まとめ
学びを通して得られた視点と教育的課題、質疑応答

〔成績評価〕

定期試験（70%）、講義への取り組み・課題・レポートの提出（30%）

〔教科書〕

広岡義之編、『新しい教育原理ー第2版ー』、ミネルヴァ書房。この書は第1回目から使用します。
文部科学省編、『小学校　学習指導要領』（平成29年）、東洋館出版。
文部科学省編、『中学校　学習指導要領』（平成29年）、東山書房。
文部科学省編、『高等学校　学習指導要領』（平成30年）、東山書房。

〔参考文献〕

レーブレ（広岡他訳）、『教育学の歴史』、青土社、2015年。
パーマー（広岡他訳）、『教育思想の50人』、青土社、2012年。
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

教育の基礎的理解に関する科目、教育の理念及び教育に関する歴史及び思想、中一種、高一種、必修

〔オフィスアワー〕

木曜日3時間目前休み時間。

日本国憲法

4333
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
松本　　達也

〔到達目標〕

近代憲法の歴史的理解と日本国憲法の歴史とその体系の理解を目指す。状況に応じて社会的関心を集める問題をその都度取り上げ、憲法的観点から考察する。政治が憲法に基づいて行われていることについて多面的・多角的に考察し、議論し小論文として表現する。

〔授業の概要〕

国法システムの中で、憲法が最高の法規であるということの意味を確認する。国家が存在する以上、その公権力の行使に正当性を与える法、すなわち憲法が必要になる。従って、憲法は国の数だけ存在する。この最高法規を基本から学習することになる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習：一週間の憲法関連の新聞報道
復習：毎回の講義のテーマを２００字程度でまとめる

〔授業計画〕

第 1 回　国家
国家の概念と国家形態
第 2 回　憲法の意義と類型

憲法の意義と類型
第 3 回　近代憲法の成立と特色
英米仏独の憲法、現代憲法の登場
第 4 回　明治憲法の成立と特色
明治憲法の成立過程、特色
第 5 回　日本国憲法の成立
ポツダム宣言の受諾、成立過程とその問題点
第 6 回　日本国憲法の基本原理
国民主権主義、平和主義、人権尊重主義
第 7 回　天皇制
天皇の地位、皇位の継承、権能、摂政、皇室の財産
第 8 回　戦争の放棄
永久平和主義、第９条の解釈論、戦力保持に関する判例
第 9 回　基本的人権の保障
性格、平等権、自由権、社会権、参政権
第 10 回　国会
二院制、組織、職務、会期、権限
第 11 回　内閣
行政権、組織、職務、活動、国会との関係
第 12 回　裁判所
司法権の概念、構成、司法権の地位と裁判官、違憲審査権
第 13 回　財政
基本原理、予算、団体自治、公金支出の制限
第 14 回　地方自治体
地方自治体の本旨、住民自治、団体自治、特別法
第 15 回　憲法改正
憲法典の変更、改正、改正の限界

〔成績評価〕
定期試験：筆記試験５０％
授業内提出物：３０％
授への取り組み姿勢：２０％

〔教科書〕
講義時間毎に教材を配布

〔参考文献〕
文部科学省中・高等学校新学習指導要領

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
① 前期･後期 ② 水曜日／10:00～11:00 ③ 研究室 ④ メール: matumoto@ashiya-u.ac.jp ⑤ 来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。授業の質問は前述のメールまたは、phollyのメッセージで連絡してください。

学習心理学Ⅰ

4409
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
三浦　　正樹

〔到達目標〕
学習の理論の理解。学習意欲、学習指導法、学習理論の応用についての理解。

〔授業の概要〕
一般的に学習とは、経験や勉強によって知識、理解、習熟を増すこと、記憶すること、経験を通して獲得すること、わかることをさす。一方、心理学では学習は経験による比較的永続的な行動の変容とされるが、この授業ではこのような「学習」に焦点をあてて講義する。
授業にあたっては、下記予習・復習を行い、主体的に学ぶこと。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業計画に沿って各回のテーマについてネットなどで調べておくこと。(90分)
授業後は各回のテーマの要点をまとめておくこと。ネットなどで関連項目についてより広く調べてみること。(90分)

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
学習とは　学習心理学の内容
第 2 回　学習の理論（1）
連合説　　パブロフの古典的条件づけ　スキナーによるオペラント条件づけ
第 3 回　学習の理論（2）
認知説　　観察学習　　モデリング　　社会的学習　技能学習
第 4 回　学習意欲（1）
達成動機　マズローによる欲求階層説　内発的動機づけ　原因帰属理論
第 5 回　学習意欲（2）
自己決定理論　アンダーマイニング効果　達成目標理論
第 6 回　学習意欲（3）
学ぶ意欲のプロセスモデル　発達段階と動機づけ　人間関係と動機づけ
第 7 回　学習指導（1）
学習指導の要件　さまざまな学習指導法　　ATI
第 8 回　学習指導（2）
授業設計　インストラクショナルデザイン　学習意欲のデザイン
第 9 回　学習指導（3）
協同学習　アクティブラーニング　構成主義の学習理論
第 10 回　学習理論の臨床的応用（1）
認知行動療法
第 11 回　学習理論の臨床的応用（2）
応用行動分析
第 12 回　学習理論の臨床的応用（3）

特別支援教育への応用
第 13 回　学習と知能
知能とは　知能のモデル　学習と知能の関係
第 14 回　学力と学習
学力とは　学力のモデル　学力と学習の関係
第 15 回　まとめ
〔成績評価〕
期末試験　１００％
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
学習の理論　上・下
バウアー・ヒルガード（梅本堯夫監訳）　培風館
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日　12：30～13：30
③教員個人研究室
④miura@ashiya-u.ac.jp
⑤授業終了後、講義室でも対応します。

日本語Ⅰ①

4420
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
鷲見　　まゆみ

〔到達目標〕
日本語の上級レベル（日本語能力試験N1レベル）の力をつけることを目
的とする
い
〔授業の概要〕
日本語能力試験N1~N2レベルの文章を読み、同時に文法・語彙の使い方を学び、漢字の読み書きも練習する。習った文法・語彙を使って、自分で文を作成する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
間違えた問題、理解できなかった問題を復習する。(30 分)
漢字の練習（30 分）
新しいことばや文法を使って、例文を作る。(30 分)
〔授業計画〕
第 1 回　読解①
自己紹介と本当の自分
第 2 回　文法・語彙①
自己紹介と本当の自分
第 3 回　読解②
若者の自己評価
第 4 回　文法・語彙②
若者の自己評価
第 5 回　読解③
ジェンダーを考える
第 6 回　文法・語彙③
ジェンダーを考える
第 7 回　読解④
ことばと文化
第 8 回　文法・語彙④
ことばと文化
第 9 回　読解⑤
心と体のバランス
第 10 回　文法・語彙⑤
心と体のバランス
第 11 回　読解⑥
働くということ
第 12 回　文法・語彙⑥
働くということ
第 13 回　読解⑦
日本の多様性
第 14 回　文法・語彙⑦
日本の多様性
第 15 回　まとめ
模擬試験　読解
〔成績評価〕
授業への参加度・態度：20%
宿題・提出物：20%
小テスト：30%
期末テスト：30%
〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
「新中級から上級への日本語』(Japan Times)
『日本語総まとめ問題集Ｎ１ 漢字』（アスク）
『新完全マスター文法日本語能力試験Ｎ１』（スリーエーネットワーク）
『日本語能力試験Ｎ１予想問題集改訂版』（国書日本語学校）他。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
phollyの課題の最後に書いてください。 木曜日２限（12：10～13：40）

日本語Ⅰ②

4421
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
中西　　泰洋

〔到達目標〕
◎大学での学習・研究活動に必要な日本語運用能力の基礎（日本語能力試験N1レベル）を習得することを目標とする。
◎日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと他の日本語授業科目と共に履修し、目標の達成を目指す。

〔授業の概要〕
◎日本語能力試験N1レベルの文章（新聞レベルの文章）を読みこなすことを通じて、「読む」「書く」の技能を高めるために、表現に多用される語彙の習得を図る。
◎読解文章のトピックについて、アクティブラーニングを取り入れた学習者同士あるいは学習者と教授者との話し合い等の学習活動を展開する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
◎予習もさることながら、特に、学習した文章を音読する復習を最低でも30分以上は必ずすること。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
本授業についての目標・進め方等について説明する。
日本語の学習方法についての指示等を与える。
ポートフォリオを書かせる。
第 2 回　異文化との出会い
「留学することの意義」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、それぞれの経験も踏まえながらその内容に関して意見を出し合う。
第 3 回　人生とキャリア
「『就活』を考える」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、それぞれの将来の進路に関して意見を出し合う。
第 4 回　地域と共に生きる
「商店街でみんな元気に」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、日常生活に関して意見を出し合う。
第 5 回　自然との共生
「里山ー自然と人間が共生する場所ー」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、自然との共生に関して意見を出し合う。
第 6 回　食にみる世界
「１杯のコーヒーから世界を考える」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、食生活に関して意見を出し合う。
第 7 回　子どもと教育
「教室のお客様」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、教育に関して意見を出し合う。
第 8 回　新聞記事１
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 9 回　新聞記事２
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 10 回　新聞記事３
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 11 回　新聞記事４
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 12 回　新聞記事5
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 13 回　新聞記事６
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 14 回　新聞記事７
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 15 回　まとめと今後に向けて
本授業を学習者と共に振り返りながら、まとめを行う。また、今後の日本語学習について、どのようにすべきかを指示する。

〔成績評価〕
授業での学習状況（約30%）、定期試験（約70%）で総合的に評価する。
〔教科書〕
プリントを配布する。
〔参考文献〕
授業中に適宜提示したり、資料を配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
【実務経験の活用】
国語教育での実務経験を活かした日本語教育を展開する。特に、既習の日本語学習者である留学生を対象とする日本語科目に応用する。
〔オフィスアワー〕
水曜日と木曜日にオフィスアワーを行います。
何か相談したい学生は事前にメールで連絡をお願いします。メールアドレスは nakanishi@ashiya-u.ac.jp です。場所は3階の研究室６です。

日本語Ⅲ①

4422
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
鷲見　　まゆみ

〔到達目標〕
N1レベルの文法力をブラッシュアップしつつ、読解力・語彙力をつけ 、Ｎ１に合格する力をつけていくことを目標とする。
〔授業の概要〕
日本語能力試験N1レベルの読解を中心に、文字・語彙・文法も併行して学び、日本語能力試験Ｎ１に確実に合格できる力を身につける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
まちがった問題、理解できなかった問題を復習する。(30 分)
漢字の練習（30 分）
新しいことばや文法を使って、例文を作る。(30 分)
〔授業計画〕
第 1 回　Ｎ１レベル言語知識　模擬試験
　　Ｎ１レベル　読解・語彙・文法・文字の模擬試験
第 2 回　Ｎ１レベル〈語彙・文法）
　　模擬試験のフィードバック
　　文法・語彙問題演習
第 3 回　読解①
　　パラサイト・シングルの社会的功罪
第 4 回　語彙・文法①
　　パラサイト・シングルの社会的功罪
第 5 回　読解②
　　情報化社会に必要な姿勢や能力とは
第 6 回　語彙・文法②
　　情報化社会に必要な姿勢や能力とは
第 7 回　読解③
　　日本の伝統文化”相撲”
第 8 回　語彙・文法③
　　日本の伝統文化”相撲”
第 9 回　読解④
　　医師不足の悩む日本の医療
第 10 回　語彙・文法④
　　医師不足の悩む日本の医療
第 11 回　読解⑤
　　犯罪　新しい詐欺の形
第 12 回　語彙・文法⑤
　　犯罪　新しい詐欺の形
第 13 回　読解⑥
　　科学技術　ロボットは科学技術の申し子
第 14 回　語彙・文法⑥
　　科学技術　ロボットは科学技術の申し子
第 15 回　Ｎ１レベル〈言語知識）
　　Ｎ１レベル　模擬試験
〔成績評価〕
授業への参加度・態度：20%
宿題・提出物：20%
小テスト：30%
期末テスト：30%
〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
『学ぼう！にほんご　上級』(専門教育出版)
『日本語総まとめ問題集Ｎ１ 漢字』（アスク）
『新完全マスター文法日本語能力試験Ｎ１』（スリーエーネットワーク）
『日本語能力試験Ｎ１予想問題集改訂版』（国書日本語学校）他。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
phollyの課題の最後に書いてください。 木曜日３限（13：50～15：20）

日本語Ⅲ②

4423
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
中西　　泰洋

〔到達目標〕
◎「日本語Ⅰ・Ⅱ」に続き、大学での学習・研究活動に必要な日本語運用能力の基礎 （日本語能力試験N1レベル）を習得することを目標とする。
◎日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと他の日本語授業科目と共に履修し、目標の達成を目指す
〔授業の概要〕
◎日本語能力試験N1レベルの文章（新聞レベルの文章）を読みこなすことを通じて、「読む」「書く」の技能を高めるために、表現に多用される語彙の習得を図る。
◎読解文章のトピックについて、アクティブラーニングを取り入れた学習者同士あるいは学習者と教授者との話し合い等の学習活動を展開する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
◎予習もさることながら、特に、学習した文章を音読する復習を最低でも30分以上は必ずすること。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　本授業についての目標・進め方等について説明する。 日本語の学習方法についての指示等を与える。 ポートフォリオを書かせる。
第 2 回　統計と数字
　　『統計数字を疑う　なぜ実感とズレるのか？』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 3 回　背理法

『数学的思考法　説明力を鍛えるヒント』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 4 回　ぼくは勉強ができない１
『ぼくは勉強ができない』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 5 回　ぼくは勉強ができない２
『ぼくは勉強ができない』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 6 回　「待つ」こと
『態度がわるくてすみません　内なる「他者」との出会い』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 7 回　ついでに何をする？
『おまけより割引してほしい　値ごろ感の経済心理学』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 8 回　同性愛のHIV感染者
「同性愛のHIV感染者　性教育教師に」という文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 9 回　ウイルス発見！
『生物と無生物のあいだ』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 10 回　新聞記事１
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 11 回　新聞記事２
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 12 回　新聞記事3
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 13 回　新聞記事４
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 14 回　新聞記事５
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 15 回　まとめと今後に向けて
本授業を学習者と共に振り返りながら、まとめを行う。また、今後の日本語学習について、どのようにすべきかを指示する。

〔成績評価〕
授業での学習状況（約30%）、定期試験（約70%）で総合的に評価する。

〔教科書〕
プリントを配布する。

〔参考文献〕
授業中に適宜提示したり、資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
【実務経験の活用】
国語教育での実務経験を活かした日本語教育を展開する。特に、既習の日本語学習者である留学生を対象とする日本語科目に応用する。

〔オフィスアワー〕
水曜日と木曜日にオフィスアワーを行います。
何か相談したい学生は事前にメールで連絡をお願いします。メールアドレスは nakanishi@ashiya-u.ac.jp です。場所は3階の研究室６です。

環境保全管理学

5312
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
池田　　聡

〔到達目標〕
受講生の環境保全問題に関する各自の明確な見解と様々な対策を理解
分析能力および表現力の向上
上記の内容を目標にする。

〔授業の概要〕
地球環境の歴史と現状について学習し、環境保全のための対策（家庭や地域においての対策から温暖化等を含む地球規模での対策）について学ぶ。
ネイチャーゲームを用いてのアクティブラーニング。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で指定した課題の復習（30分）
講義内で指定した課題の予習（30分）
毎回講義内で課題資料を配布。

〔授業計画〕
第 1 回　環境保全管理学で何を学ぶかについて
環境保全管理学で何を学ぶかについての導入

第 2 回　過去と現状の地球環境の比較
過去と現状の地球環境の比較について学習する

第 3 回　地球温暖化について学ぶ
地球温暖化について学習する

第 4 回　映像を用いて地球温暖化を考える
　　映像を用いて地球温暖化を学習する
第 5 回　各世代にあわせた環境教育について学ぶ
　　各世代にあわせた環境教育について学習する
第 6 回　種・生態系・遺伝子の多様性について学ぶ
　　種・生態系・遺伝子の多様性について学習する
第 7 回　「沈黙の春」を題材に環境保全を考える
　　「沈黙の春」を題材に環境保全を学習する
　　グループワーク
第 8 回　自然保護の概念と倫理を学ぶ
　　自然保護の概念と倫理について学習する
第 9 回　自然観察の視点から環境保全を学ぶ
　　自然観察の視点から環境保全を学習する
第 10 回　環境問題に関する実践的な取組みについて学ぶ
　　環境問題に関する実践的な取組みについて学習する
第 11 回　エコツーリズムとは何かについて学ぶ
　　エコツーリズムとは何かについて学習する
第 12 回　エコツーリズムの実践例について
　　エコツーリズムの実践例について学習する
　　ネイチャーゲームを用いてのアクティブラーニング
第 13 回　地域の分析能力と表現力について
　　地域の分析能力と表現力について学習する
第 14 回　個人課題の報告
　　個人課題の全体報告
第 15 回　全体のまとめ
　　全体のまとめ及び定期試験の説明

〔成績評価〕

レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

月曜日4限目または水曜日3限目

簿記入門

6101
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
由里　悦子

〔到達目標〕

会計はビジネスの共通言語といわれており、今では「会計」や「簿記」の知識は働くすべての人たちにとって必要不可欠なものとなりました。

本授業では、ビジネスにおいて欠かせない「簿記」の初歩的な仕組みやルール、一連の手続きを習得し、社会人として必要となる簿記の基礎を身につけることを目標とします。

〔授業の概要〕

小規模な株式会社を前提とする商業簿記を学習の範囲とします。

テキストに即して、株式会社のお金や商品の出入りについて、一連の手続きや日常の取引記録のルールを学習します。年間を通して記録が正しく行われているかどうかを確かめるための試算表の作成や貸借対照表、損益計算書という報告書についても学習します。基礎的な簿記の知識（基本用語や仕組み等）と技術（記録、集計、報告）を習得するため、主にテキスト学習と演習の形式で進めます。

電卓（12桁が望ましい、関数電卓は不可）を持参してください。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

簿記の学習は積み重ねの学習であり、各回の内容を正しく理解することが大切です。特に復習に重点を置き、テキストの例題やトレーニングを活用し、電卓とペンを使用して解答欄に書き込む練習が最も効果的な学習方法です。ひとつひとつ確実に理解できるように心がけてください。

〔授業計画〕

第 1 回　簿記の基礎
　　簿記とは何か、目的や概要、簿記の５要素
第 2 回　日常の手続き
　　取引、仕訳、転記、記帳手続や帳簿の種類
第 3 回　商品売買Ⅰ
　　商品の購入と販売の取引、商品売買代金
第 4 回　商品売買Ⅱ
　　商品売買の返品、仕入・売上時の諸掛り
第 5 回　現金預金、クレジット売掛金
　　現金、当座預金、クレジットカードを利用した取引
第 6 回　手形取引、電子記録債権債務・帳簿
　　代金の受け払いに用いる手形や電子記録債権・債務、主要簿と補助簿の関係
第 7 回　その他の取引、訂正仕訳
　　貸付金・借入金、有形固定資産、仮払金・仮受金、仕訳の訂正
第 8 回　試算表
　　試算表の特徴、形式、作成
第 9 回　決算、決算整理Ⅰ
　　決算のあらましと手続き、決算整理（現金過不足、貯蔵品、当座借越、売上原価）
第 10 回　決算整理Ⅱ
　　決算整理（貸倒れ、減価償却）
第 11 回　決算整理Ⅲ
　　決算整理（経過勘定項目）
第 12 回　決算整理後残高試算表、精算表
　　決算整理の後の残高試算表と計算手続きの一覧表となる精算表
第 13 回　帳簿の締切
　　英米式決算法による帳簿の締め切り
第 14 回　株式の発行、剰余金の配当と処分、税金

資本の概要と株式発行の処理、利益の配当と処分、法人税等と消費税
第 15 回　証ひょうと伝票
証ひょうと伝票の仕組み、起票方法や転記の仕方

〔成績評価〕
小テスト　40%　(4回程度実施予定)
期末試験　60%

〔教科書〕
・『よくわかる簿記シリーズ　合格テキスト　日商簿記３級(Ver.12.0)』
(TAC出版　2021年3月25日改訂　2,000円＋税)(バージョンにご注意ください)
・『よくわかる簿記シリーズ　合格トレーニング　日商簿記３級(Ver.12.0)』
(TAC出版　2021年3月25日改訂　1,500円＋税)(バージョンにご注意ください)

〔参考文献〕
特になし(必要になれば授業中に適宜紹介します)

〔履修条件〕

〔備考〕
授業計画は、要望や進捗度に応じて一部変更することがあります。

〔オフィスアワー〕
LMS科目になりますので、質問等はPhollyのメッセージかメールで受け付けます。

教職総合演習1-Ⅰ(面接)

7001
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
1単位　前期
秋本　隆夫

〔到達目標〕
「教育は人なり」といわれるように直接、児童生徒の指導にあたる教師は人間性、教育観、指導力などの資質能力が求めらる。また、教師は児童生徒の前に立ち、模範となったり、指導する立場になるので教師自身の人間性が児童生徒の人間形成に大きな影響を与えます。これに加え、教師には探究心を持ち、自律的に学び続ける姿勢も必要とされている。本授業では、教員採用試験対策として、主として、面接(個人面接、集団面接、集団討議、場面指導など)についての技法を繰り返し体験しながら、目標に向かって励む場として授業を展開したい。また。本授業を通して、学校現場における様々な課題解決への理解を深め、教師としての基本的な資質や実践的な能力の向上を高めていきたい。

〔授業の概要〕
教員として求められる以下の事項を集団面接、集団討議、場面指導及び個人面接などの
形式で演習をすすめる。
(1)使命感や責任感に関する事項
(2)社会性や対人関係能力に関する事項
(3)児童生徒理解や学級経営等に関する事項
(4)教科内容等の指導力に関する事項
(5)学校現場の諸課題の解決に関する事項

〔授業時間外・準備学習(予習復習)〕
受講生が教職への志を強く持ち、中央教育議会答申や新学習指導要領など、最近の教育課題に関連する資料等への関心を持ち、理解を深めるために主体的に取り組むことを希望する。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
本授業の目的、内容、評価方法及び参考文献等の紹介。
第 2 回　教師に求められているもの
国、都道府県市が求めている教師像について紹介をするとともに、自己課題の発見の第一歩とする。また、面接技法の基本について理解する。
第 3 回　教師を目指す志望動機について
「教師を目指す動機、理由」などについて、面接ノートにまとめる。集団的な面接場面において、口頭による回答練習を行う。
第 4 回　各都道府県市が求めている教師像
「なぜ、その自治体を受験するのか?」について、面接ノートにまとめる。集団的な面接場面において、口頭による回答練習を行う。
第 5 回　各都道府県市が目指す教育計画
「受験志望の自治体の目指す教育計画」について、面接ノートにまとめる。集団的な面接場面において、口頭による回答練習を行う。
第 6 回　志望理由②
「なぜ、小学校の先生を目指すのか?」「なぜ、中学校の○○科の先生を目指すのか?」について、面接ノートにまとめる。集団的な面接場面で口頭による回答練習を行う。
第 7 回　教職を目指すための資質について①
「どのような先生になりたいか?」「先生になれば、どのようなことをしたいのか?」など、教職に対する自らの課題を把握し、口頭で回答できるよう、まとめる。
第 8 回　教職を目指すための資質について②
前回の課題に加え、「信頼される先生とは?」「教員として、大切な資質とは?」について、集団的な面接場面において、口頭での回答練習を行う。
第 9 回　学校課題(学習指導)について①
集団討議的な場面を設定し「分かる授業とは?」「楽しい授業とは?」「主体的な学びとは?」「対話的な学びとは?」「深い学びとは?」について、自由討議を行うとともに振り返りにより、理解を深める。
第 10 回　学校課題(学習指導)について②
前回に続き、集団討議的な場面を設定し「分かる授業とは?」「楽しい授業とは?」「主体的な学びとは?」「対話的な学びとは?」「深い学びとは?」

について、自由討議を行うとともに振り返りにより、理解を深める。

第 11 回　学校課題（生徒指導）について①
集団討議的な場面を設定し「不登校についての対応」「いじめ問題への対応」
「体罰について」について、自由討議を行うとともに振り返りにより、理解を深める。

第 12 回　学校課題（生徒指導）について②
「不登校についての対応」「いじめ問題への対応」「体罰について」についての場面指導的な場面を設定し、各個人による、口頭による回答練習を行う。

第 13 回　教育時事（教育課題など）について
学校を取り巻く様々な教育課題について理解を深め、その対応について、口頭による回答練習を行う。

第 14 回　個人面接①
これまでの各項目について、個人面接形式で口頭による回答を行うとともに振り返りにより評価を行う。

第 15 回　個人面接及び授業のまとめ
これまでの各項目について、個人面接形式で口頭による回答を行うとともに教員採用試験に向けての具体的な対策を行う。

〔成績評価〕

・授業への取組、意見発表及び受講意欲・態度　３０％
・毎時間の課題レポート　４０％
・定期試験（課題レポート）３０％

〔教科書〕

小・中学校新学習指導要領（文部科学省）
生徒指導提要（文部科学省）
適時、資料を配付する。

〔参考文献〕

授業内で紹介する。適時、資料を配付する。

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

９：５０～１２：３０（火曜日：金属加工実習室準備室）

教育方法の文学

5299
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
白江　　恒夫

〔到達目標〕

東洋（古代中国）における教育方法の古典「学記」をテキストとして、
・「学記」の訓読（日本語読み）ができる。
・「学記」の読解ができる。
・「学記」の内容説明ができる。
・現代の教育方法との比較ができる。

〔授業の概要〕

・東洋（古代中国）の教育とその方法を記した『礼記＜ライキ＞』巻十八の「学記」を扱う。
・原典が漢文なので、これを訓読文（日本語による書き下し文）に直す。
・訓読した文章を、小項目に分けて読解（内容理解）する。
・現代の教育方法と比較して、通用するものとしないものとを識別する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・原典の本文と訓読文を提供するので、訓読文をノートに自筆書写する。（予習 1 時間）
・授業中に行なった本文と古注の説明をノートに清書する。（復習1.5時間）

〔授業計画〕

第 1 回　四書五経について。
・奈良時代以来、日本の政治、文化、教育に大きな影響を与えた儒教の経典である四書五経について概説する。

第 2 回　『礼記』所収の「大学」と「学記」。
・『礼記』の各一編である「大学」と「学記」との関係について。

第 3 回　「大学」教育の綱領。
・学問教育の必要性と目的について。

第 4 回　古代中国の教育機関。
・家に塾あり。党にショウあり。術に序あり。国に学あり。

第 5 回　教えの大倫七ヶ条。
１、学問を敬するを示す。２、始めを官にする。３、学業に恭順ならしめる。
４、威儀を整える。５、余裕を与えてのびやかにする。６、時を得た教育をする。７、教えの程度を越えない。

第 6 回　正業と居学。
・大学教育の正課と自宅学習について。
・蔵修の学問と息遊の学問との関係。

第 7 回　今（当時）の教育の批判。
・教科書を読み上げて難問を多くし、言が多岐に渡る。
・学習範囲を広めて急ぎ、学生の習熟を顧みない。
・学生の個性・才能を尽くさない。etc。

第 8 回　四法ー教授法の四つの方法ー。
・予法、時法、孫法、摩法について。
・四法の教育効果。

第 9 回　四法の逆の方法。
・四法の逆の教授法と、その教育効果。

第 10 回　師のあるべき姿。
・教えの由りて興る所を知る。
・教えの由りて廃する所を知る。

第 11 回　師のとるべき方法。
・道〈みちひ〉きて牽〈ひ〉かず。
・強〈つと〉めしめて抑〈お〉さず。
・開きて達せず。

第 12 回　学生の四つの偏り。
・多きに失す。　・寡〈すくな〉きに失す。
・易きに失す。　・止るに失す。
第 13 回　学問教育と政治との関連。
・学に至るの難易を知り、その美悪を知る。
・よく博く喩してよく師となり、よく長となりよく君となる。
第 14 回　師の尊厳性。
・師を厳にして道尊し。道尊くして後に、民、学を敬するを知る。
・大学の礼は、天子は北面し、師は南面する。「天子に詔〈つ〉ぐと雖も北面すること無し。」。
第 15 回　実際教育上の技術。
・易しい所を先にし、難しい所を後にする。
・質問規模の大小に応じて答える。
・初めは問う所に応じて答え、やがては大切な問題に導く。
定期考査。

〔成績評価〕
・定期考査（筆記試験又はレポート提出）で評価する（100%）。
・再試験は行わない。

〔教科書〕
・授業中に適宜プリント資料を配付する。

〔参考文献〕
・漢文大系『礼記』（冨山房）。
・新版漢語林（大修館書店）。
・国語辞典。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
・質問等は、各講義後に受け付ける。

英語Ⅱ④

1504
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
浜本　　幸子

〔到達目標〕
１．語彙を増やし、慣用表現を習得する
２．英語を的確に聞き取る力を養成する
３．機能別英語表現を学ぶ

〔授業の概要〕
会話文を中心に、文の仕組みや談話のまとまり・流れを学ぶ。また、様々な機能に沿った表現方法を学び、自分の言葉として使えるよう繰り返し練習を通して定着を図る。さらに、学んだ表現を使って学習者同士で自分の考え、希望などを伝えられるよう実践練習を繰り返し行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学んだ内容をより確実で実践的にするため、小テスト・発表を実施する。それらの学習、練習として、その都度60~90分程度の時間が必要。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション、前期の復習
授業の方針、目標、内容、評価の方法の説明。前期の復習。
第 2 回　Unit 1 -(1)
Pleased to meet you. 人を出迎えたり、紹介するときに必要な語彙・表現を習得する。文法として、be動詞を復習する。
第 3 回　Unit 1 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。
第 4 回　Unit 2 -(1)
Do you remember me? 仕事に関連して、尋ねたり説明したりする語彙・表現を習得する。文法として、一般動詞の現在形を復習する。
第 5 回　Unit 2 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。
第 6 回　Unit 3 -(1)
I spoke to Ms. Hayashi yesterday. 苦情の電話対応時に必要な語彙・表現を習得する。文法として、一般動詞の過去形を復習する。
第 7 回　Unit3 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。
第 8 回　Unit 4 -(1)
When does the meeting start? 会議について、時間や場所など打合せ時に必要な語彙・表現を習得する。文法として、疑問詞を復習する。
第 9 回　Unit4 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。
第 10 回　Unit 5 -(1)
Can you meet me at the airport? 人に何かを依頼するときに必要な語彙・表現を習得する。
第 11 回　Unit 5 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。
第 12 回　Unit 6 -(1)
Feel free to ask me anytime. 職場で機械類の使い方など尋ねる場合に必要な語彙・表現を習得する。
第 13 回　Unit 6 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。
第 14 回　Unit 7 -(1)
I'm thinking about quitting my job. 職場で人に相談したり、励ましたりする場合に必要な語彙・表現を習得する。
第 15 回　Unit 7 -(2)

前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。全体の復習。

〔成績評価〕
提出物（10%）
小テスト・発表（30%）
定期試験（60%）

〔教科書〕
Let's Read Aloud & Learn English! Teruhiko Kadoyama, Simon Capper（成美堂）

〔参考文献〕
必要に応じて授業中に配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
木曜日

日本事情演習

4122
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
浜本　幸子

〔到達目標〕
１．日本の文化、行事、社会情勢を学ぶことで日本についての理解を深める。
２．社会の一員として様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができるような豊かな表現力を養成する。

〔授業の概要〕
一年、12か月を月ごとの文化や行事などを取り上げて、その本来の意味について解説。そして、現代社会でそれらがどんな意味を持ち、どのように行われているかなどについて共に考えていく。また、留学生のそれぞれの出身国での文化や行事の相違点についても話し合う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
復習（90分）
発表内容作成・練習（90分）

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション、自己紹介
授業の目標、方針、評価方法などの説明。自己紹介。
第 2 回　日本の地理、自然環境
47都道府県名と特徴。自然環境、起こりうる災害、防災について。
第 3 回　日本の政治制度、天皇制と皇室
政治制度の概要。天皇制と皇室の概要。
第 4 回　10月の伝統的文化・行事・風習
季節の変わり目での自然の楽しみ方、行事、その意義などについて。
第 5 回　11月の伝統的文化・行事・風習
祝日の意義、現在での一般的な祝い方など。
第 6 回　12月・1月の伝統的文化・行事・風習
冬の行事、年末年始行事や一般的な過ごし方など。
第 7 回　2月・3月の伝統文化・行事・風習
季節の変わり目やそれにかかわる行事について。祝日の意義や現在の受け止め方。
第 8 回　4月・5月の伝統文化・行事・風習
お花見など、季節の行事の楽しみ方、文化としての意義など。
第 9 回　6月・7月の伝統文化・行事・風習
自然の美しさ、自然がもたらすめぐみ、そして自然災害などの脅威について。
第 10 回　8月・9月の伝統文化・行事・風習
夏祭りなど、地域の文化や行事を調べる。それらを通して都会と地方の格差にも注目する。
第 11 回　中間試験
授業で配布されたワークシートを中心に、授業内容の理解度を図る。
第 12 回　試験のフィードバックとスピーチ作成
試験内容について補足と解説を実施。
この授業で学んだことについてテーマを決め、スピーチ原稿を作成。
第 13 回　発表
作成したスピーチを発表し、他者のスピーチを鑑賞、評価する。
第 14 回　伝統的文化の実践
日本の伝統文化を一つ取り上げ、実践する。
第 15 回　まとめと補足、質問
全体をまとめながら補足。質疑応答。

〔成績評価〕
提出物（10%）
中間テスト（40%）
発表(30%)
原稿(20%)

〔教科書〕
担当者作成のパワーポイントを資料として授業を進めるため、テキストは特に指定しない。
毎回ワークシートを配布。

〔参考文献〕
必要に応じて授業中に紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
木曜日

学習心理学Ⅱ

4409
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
三浦　　正樹

〔到達目標〕
知識、理解、記憶、思考、言語など認知心理学の理解。学習と記憶に関する神経心理学的理解。
〔授業の概要〕
一般的に学習とは、経験や勉強によって知識、理解、習熟を増すこと、記憶すること、経験を通して獲得すること、わかることをさす。このように、学習には認知、思考、言語などが関与し、また学習に関連した脳科学からの研究も多い。この授業では認知心理学と神経心理学の側面から学習について講義する。
授業にあたっては、下記予習・復習を行い、主体的に学ぶこと。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業計画に沿って各回のテーマについてネットなどで調べておくこと。(90分)
授業後は各回のテーマの要点をまとめておくこと。ネットなどで関連項目についてより広く調べてみること。(90分)
〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
　　認知心理学とは　学習・記憶の神経心理学とは
　　認知心理学の歴史
第 2 回　認知心理学（1）
　　認知とは　記憶の情報処理モデル　短期記憶　ワーキングメモリと学習
第 3 回　認知心理学（2）
　　長期記憶　エピソード記憶　意味記憶　知識・概念
第 4 回　認知心理学（3）
　　日常記憶　展望記憶　記憶の変容　記憶と臨床
第 5 回　認知心理学（4）
　　認知と教育　メタ認知　学習観　学習方略　「わかる」とは何か
第 6 回　認知心理学（5）
　　教科教育への応用　文章理解　問題解決　外国語学習
第 7 回　認知心理学（6）
　　認知の個人差　メンタルスピード　認知スタイル　認知の性差
第 8 回　神経心理学（1）
　　脳科学と学習・記憶　脳科学の基礎　神経心理学の歴史
第 9 回　神経心理学（2）
　　学習・記憶の神経心理学　シナプス可塑性　記憶障害　認知症
第 10 回　神経心理学（3）
　　脳と感情　感情の理論　感情の神経心理学　ダマシオ　扁桃体　感情と学習
第 11 回　神経心理学（4）
　　高次脳機能障害　失語症　言語野　ロゴジェンモデル　言語と学習
第 12 回　神経心理学（5）
　　脳の機能的非対称性　ラテラリティ　分割脳研究　右半球障害
第 13 回　神経心理学（6）
　　回復・リハビリテーション　　いくつかの回復ケース　　脳の可塑性と学習
第 14 回　認知、教育、学習、脳
　　それぞれの関係性について
第 15 回　まとめ
〔成績評価〕
期末試験　１００％
〔教科書〕
特に用いない。
〔参考文献〕
現代の認知心理学１～７
日本認知心理学会　北大路書房
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日　12：30～13：30
③教員個人研究室
④miura@ashiya-u.ac.jp
⑤授業終了後、講義室でも対応します。

情報機器の操作【初級】

1034
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕
情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。
〔授業の概要〕
１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。

予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。(180分程度)

〔授業計画〕

第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)

第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作

第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作

第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う

第 5 回　定型文書の作成2
均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。

第 6 回　注目度の高い文書の作成
視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。

第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。

第 8 回　表計算ソフトの操作
オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで

第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1
条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。

第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について

第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析

第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる

第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する

第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
プロジェクターの配線について

第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ

〔成績評価〕

授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある

〔教科書〕

教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)

〔参考文献〕

私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」

〔履修条件〕

〔備考〕

【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。

〔オフィスアワー〕

月曜日2限目

情報機器の操作【初等】

2193
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕

情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。

〔授業の概要〕

１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。
予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。(180分程度)

〔授業計画〕

第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)

第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作

第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作
第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う
第 5 回　定型文書の作成2
均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。
第 6 回　注目度の高い文書の作成
視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。
第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。
第 8 回　表計算ソフトの操作
オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで
第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1
条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。
第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について
第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる
第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する
第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
プロジェクターの配線について
第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ

〔成績評価〕
授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある

〔教科書〕
教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)

〔参考文献〕
私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。

〔オフィスアワー〕
月曜日2限目

情報機器の操作【初級】

1100
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕
情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。

〔授業の概要〕
１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。
予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。(180分程度)

〔授業計画〕
第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)
第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作
第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作
第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う
第 5 回　定型文書の作成2
均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。
第 6 回　注目度の高い文書の作成

視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。
第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。
第 8 回　表計算ソフトの操作
オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで
第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1
条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。
第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について
第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる
第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する
第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
プロジェクターの配線について
第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ

〔成績評価〕
授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある

〔教科書〕
教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)

〔参考文献〕
私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。

〔オフィスアワー〕
月曜日2限目

情報機器の操作【初級】

2192
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕
情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。

〔授業の概要〕
１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。
予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。(180分程度)

〔授業計画〕
第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)
第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作
第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作
第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う
第 5 回　定型文書の作成2
均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。
第 6 回　注目度の高い文書の作成
視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。
第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。
第 8 回　表計算ソフトの操作
オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで
第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1

条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。
第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について
第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる
第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する
第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
プロジェクターの配線について
第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ

〔成績評価〕
授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある

〔教科書〕
教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)

〔参考文献〕
私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。

〔オフィスアワー〕
月曜日2限目

情報科学

1307
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
森下　　博行

〔到達目標〕
学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標として、パソコンの基本操作を習得しさらに応用できる力を身につけることを目的とする。情報リテラシーから継続して学び、この情報科学を受講してExcelの応用技術を身につける。今後の学生生活や将来の職場で活用できるための力を身につけることを目標とする。

〔授業の概要〕
この授業は、大学生および社会人としての活動において不可欠となっているコンピュータ操作の基本を身につけることを目標とした選択科目である。表計算ソフトウェアの活用技術を修得していることは、大学での調査研究活動や実社会での業務を行う上で有益である。この講義では、大学や企業において一般的に利用される表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelについて、データ入力、関数の利用、グラフ作成、データベース機能の利用等、具体的な操作方法を学習する。また操作のみではなく、具体的な問題の解決など目標を達成するための手段、道具として「Excelを使う」ということを実践的に学び、より効果的にコンピュータを活用する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
当日の朝刊等から、コンピュータ、ユビキタス、スマートフォン等、情報技術に関する問題や時事問題について調べて常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。またタイピング練習は、日常的に行っておく。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
オリエンテーション(ガイダンス)
第 2 回　Excel基本操作(1)
セル操作(ワークシート操作と情報リテラシーの復習)
第 3 回　Excel基本操作(2)
関数の基本(オートSUM／基本書式／関数検索、情報リテラシーの復習)
第 4 回　Excel基本操作(3)
値の表示形式、値の種類
第 5 回　Excel関数(1)
SUM ／ AVERAGE ／ MAX ／ MIN ／ COUNT ／ COUNTA／RANK／絶対参照
第 6 回　Excel関数(2)
ROUND／ROUNDUP／ROUNDDOWN／INT
第 7 回　Excel関数(3)
SUMIF ／ COUNTIF ／ COUNTBLANK ／ AVERAGEIF
第 8 回　Excelデータベース機能

並べ替え／オートフィルタ
第 9 回　Excelグラフ機能
グラフ作成と効果的で訴求力のあるグラフ作成
第 10 回　小テスト
基本的な関数の扱い方(過去の検定試験問題集から)
第 11 回　論理関数 Excel関数基礎(4)
IF
第 12 回　論理関数 Excel関数応用(5)
IF(発展・実践と発展・多重判断文、AND、OR)
第 13 回　データ分析とデータベース関数
VLOOKUP
第 14 回　プレテスト
定期試験を想定した練習問題
第 15 回　定期試験
定期試験

〔成績評価〕
受講態度及び定期試験（筆記試験）等による評価とする。
定期試験70%
授業への取り組み10%
ノート点20%

〔教科書〕
「特になし」

〔参考文献〕
「教養情報科学概論」共立出版
「表計算」日本情報処理検定協会出版
その他、適宜授業内で紹介

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
目的に応じて適切に情報を収集、活用、発信できるよう、情報機器やインターネット、その活用について指導する。

〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

情報リテラシー

4103
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
森下　博行

〔到達目標〕
学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標として、パソコンの基本操作を習得しさらに応用できる力を身につけることを目的とする。この情報リテラシーを受講してExcelの基礎操作能力の定着を目指す。今後の学生生活や将来の職場で活用できるための力を身につけることを目標とする。

〔授業の概要〕
この授業は、大学生および社会人としての活動において不可欠となっているコンピュータ操作の基本を身につけることを目標とした選択科目である。表計算ソフトウェアの活用技術を修得していることは、大学での調査研究活動や実社会での業務を行う上で有益である。この講義では、大学や企業において一般的に利用される表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelについて、データ入力、関数の利用、グラフ作成、データベース機能の利用等、具体的な操作方法を学習する。また操作のみではなく、具体的な問題の解決など目標を達成するための手段、道具として「Excelを使う」ということを実践的に学び、基礎的なコンピュータを活用する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
当日の朝刊等から、コンピュータ、ユビキタス、スマートフォン等、情報技術に関する問題や時事問題について調べて常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。またタイピング練習は、日常的に行っておく。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
オリエンテーション(ガイダンス)
第 2 回　Excel基本操作(1)
セル操作、ワークシート操作
第 3 回　Excel基本操作(2)
関数の基本(オートSUM／基本書式／関数検索)
第 4 回　Excel基本操作(3)
値の表示形式、値の種類
第 5 回　Excel関数(1)
SUM／AVERAGE／相対参照と絶対参照
第 6 回　Excel関数(2)
MAX／MIN
第 7 回　Excel関数(3)
COUNT／COUNTA／RANK
第 8 回　Excelデータベース機能
データベースと並べ替え
第 9 回　Excelグラフ機能
グラフ作成と効果的で訴求力のあるグラフ作成
第 10 回　小テスト
基本的な関数の扱い方(過去の検定試験問題集から)
第 11 回　論理関数 Excel関数基礎(4)
IF
第 12 回　論理関数 Excel関数応用(5)
IF(発展・多重判断文)
第 13 回　データベース機能
データベース機能などの便利な機能の活用(データの分析と整理)
第 14 回　プレテスト
定期試験を想定した練習問題
第 15 回　定期試験
定期試験

〔成績評価〕
受講態度及び定期試験（筆記試験）等による評価とする。
定期試験70%
授業への取り組み10%
ノート点20%

〔教科書〕
「特になし」

〔参考文献〕
「これだけは知っておきたい情報リテラシー大学や社会で活躍するために」オーム社
「表計算」日本情報処理検定協会出版
その他、適宜授業内で紹介
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
目的に応じて適切に情報を収集、活用、発信できるよう、情報機器やインターネット、その活用について指導する。
〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

情報リテラシー

4104
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
森下　　博行

〔到達目標〕
学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標として、パソコンの基本操作を習得しさらに応用できる力を身につけることを目的とする。この情報リテラシーを受講してExcelの基礎操作能力の定着を目指す。今後の学生生活や将来の職場で活用できるための力を身につけることを目標とする。
〔授業の概要〕
この授業は、大学生および社会人としての活動において不可欠となっているコンピュータ操作の基本を身につけることを目標とした選択科目である。表計算ソフトウェアの活用技術を修得していることは、大学での調査研究活動や実社会での業務を行う上で有益である。この講義では、大学や企業において一般的に利用される表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelについて、データ入力、関数の利用、グラフ作成、データベース機能の利用等、具体的な操作方法を学習する。また操作のみではなく、具体的な問題の解決など目標を達成するための手段、道具として「Excelを使う」ということを実践的に学び、基礎的なコンピュータを活用する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
当日の朝刊等から、コンピュータ、ユビキタス、スマートフォン等、情報技術に関する問題や時事問題について調べて常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。またタイピング練習は、日常的に行っておく。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　オリエンテーション(ガイダンス)
第 2 回　Excel基本操作(1)
　　セル操作、ワークシート操作
第 3 回　Excel基本操作(2)
　　関数の基本(オートSUM／基本書式／関数検索)
第 4 回　Excel基本操作(3)
　　値の表示形式、値の種類
第 5 回　Excel関数(1)
　　SUM／AVERAGE／相対参照と絶対参照
第 6 回　Excel関数(2)
　　MAX／MIN
第 7 回　Excel関数(3)
　　COUNT／COUNTA／RANK
第 8 回　Excelデータベース機能
　　データベースと並べ替え
第 9 回　Excelグラフ機能
　　グラフ作成と効果的で訴求力のあるグラフ作成
第 10 回　小テスト
　　基本的な関数の扱い方(過去の検定試験問題集から)
第 11 回　論理関数 Excel関数基礎(4)
　　IF
第 12 回　論理関数 Excel関数応用(5)
　　IF(発展・多重判断文)
第 13 回　データベース機能
　　データベース機能などの便利な機能の活用(データの分析と整理)
第 14 回　プレテスト
　　定期試験を想定した練習問題
第 15 回　定期試験
　　定期試験
〔成績評価〕
受講態度及び定期試験（筆記試験）等による評価とする。
定期試験70%
授業への取り組み10%
ノート点20%
〔教科書〕
「特になし」
〔参考文献〕
「これだけは知っておきたい情報リテラシー大学や社会で活躍するために」オーム社
「表計算」日本情報処理検定協会出版
その他、適宜授業内で紹介
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
目的に応じて適切に情報を収集、活用、発信できるよう、情報機器やインターネット、その活用について指導する。
〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

世界教育史Ⅱ

3205
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
津田　　徹

〔到達目標〕
社会背景や時代背景などを基本として、その中で展開される教育理念（子ども、教育者、教育機関、文化施設、教育手段など）の展開を、学生自らが関心や興味をもって理解することに努め、最終的に教育史上の主要な展開について簡単に説明することができることを目標とします。

〔授業の概要〕
世界教育の歴史のうち、西洋の教育理念（近世から現代）を解説し、さらに現代の日本の教育現象や教育問題を、学生自身が原典資料や翻訳資料、二次資料などを読解したり調査すること更にはグループ別の議論も試みながら、教育理念の歴史的理解を深化させていきます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前学習（予習）については、シラバスの計画を参考に、取り上げられる内容（項目、人物、時代、概念等）についてあらかじめ教科書や書物、インターネットなどを活用して調べておくこと(90分)。
事後学習（復習）については、授業で取り上げた内容について理解できているか、言葉で説明できるかどうか等を確認し、出来ない場合については、教科書やノートを見直しておくこと。また授業内で取り上げた書籍等についてさらに学習を進め内容の深化を目指すこと（90分）。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
講義目標、内容、方法、受講上の注意、評価の方法、参考文献の紹介
第 2 回　18世紀の西洋教育１
ルソー（『エミール』、消極教育、自然主義教育、近代子ども観）
第 3 回　18世紀の西洋教育２
汎愛派（ザルツマン、汎愛学舎）
第 4 回　18世紀の西洋教育３
ドイツ観念論と教育（カント、フィヒテ、ヘーゲル、シュライエルマッハー）
第 5 回　19世紀の西洋教育１
ペスタロッチ（スイスの貧民教育の祖、基礎陶冶、教育実践活動
第 6 回　19世紀の西洋教育２
フレーベル（『人間の教育』の教育観、幼稚園の理念、恩物
第 7 回　19世紀の西洋教育３
ヘルバルト、段階教授法、教育目的と教育方法、ヘルバルト学派
第 8 回　20世紀の西洋教育１
アメリカ新教育、プラグマティズム、デューイの生涯
第 9 回　20世紀の西洋教育２
デューイの教育観（生活経験、問題解決学習、なすことにより学ぶ）
第 10 回　20世紀の西洋教育３
プログレッシヴィズムとエッセンシャリズム
第 11 回　20世紀の西洋教育４
シュタイナーの教育（ヴァルドルフシューレ）、エレン・ケイの教育活動
第 12 回　20世紀の西洋教育５
モンテッソリの教育（科学的教育、子どもの家、モンテッソリメソッド、感覚教具）
第 13 回　20世紀の西洋教育６
キルパトリックの教育、プロジェクト・メソッド、物作りと教育方法の登場
第 14 回　20世紀の西洋教育７
パーカーストの教育（ドルトン・プラン、アサイメント・ラボラトリー、日本へ）
第 15 回　現代の教育思想家の紹介、まとめ
学びを通して得られた視点と教育的課題、質疑応答

〔成績評価〕
定期試験（70%）、講義への取り組み・課題・レポートの提出（30%）

〔教科書〕
広岡義之他著、『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』、ミネルヴァ書房、2019年。
教科書を毎回使用します。世界教育史Ｉと同じテキストです。一回目から持参すること。

小学校学習指導要領（平成28年度3月告示、文部科学省）
中学校学校学習指導要領（平成28年3月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
パーマー編（広岡他訳）、『教育思想の50人』、青土社。
レーブレ（広岡他訳）、『教育学の歴史』、青土社。

その他、授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
木曜日2時間目前休み時間。

生活とスポーツ

5014
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
別當　　和香

〔到達目標〕
1）講義を通じて、スポーツを「する」「見る」「支える」のそれぞれの視点で参加することができる。

2）現代社会におけるスポーツの役割を人文社会学的な視点から説明することができる。

３）スポーツを生涯の友とするライフスタイルについて、また、生涯スポーツ社会の実現に必要な客体的条件について考える力を身につけることができる。

〔授業の概要〕

スポーツの社会的役割とスポーツ文化の本質を理解することから、生涯スポーツ社会の主体形成と客体整備について学び考える。生涯にわたりスポーツ文化を享受するために、スポーツの本質を理解し、スポーツの果たす機能を理解することが必要である。本講義では、そのために必要な知見や考え方を、課題発見・解決型学習を取り入れて習得していく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習：シラバスで授業内容の確認をおこなっておくこと。(2時間)

復習：講義で客体化された内容をまとめ、自身の生涯スポーツ確立の実現に必要なスポーツを「する」「見る」「支える」の視点から積極的におこなうこと。(2時間)

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
　　授業目的や概要の説明・学習上の諸注意・評価について
第 2 回　現代生活とスポーツ
　　スポーツが担うべき社会的役割について
第 3 回　生活の質と自由時間
　　生活の質に果たす自由時間の機能や役割
第 4 回　自由時間の内容とスポーツ参加
　　自由時間におけるスポーツ参加と生活の質との関係性
第 5 回　スポーツの手段化とスポーツの文化
　　スポーツの意義や価値について
第 6 回　生涯スポーツにおけるスポーツ規範
　　スポーツ規範とスポーツ文化の関係について
第 7 回　生涯スポーツとスポーツ技術
　　生涯スポーツにおける技術や戦術とスポーツ文化の関係について
第 8 回　生涯スポーツとスポーツの物的事物
　　生涯スポーツにおける用品・用具や施設・設備とスポーツ文化の関係性
第 9 回　コミュニティ形成と生涯スポーツ
　　スポーツのコミュニティ形成機能について
第 10 回　スポーツ観戦と生涯スポーツ
　　スポーツの直接的観戦行動と生涯スポーツの関係性について
第 11 回　メディアスポーツと生涯スポーツ
　　スポーツの間接的観戦行動と生涯スポーツの関係性について
第 12 回　生涯スポーツの振興施策
　　我が国のスポーツ振興施策の変遷と諸外国におけるスポーツ振興施策の特徴
第 13 回　スポーツ組織による生涯スポーツ振興への取り組み
　　(1)日本体育協会や国内統括競技団体によるスポーツ振興への取り組み
　　(2)日本レクリエーション協会や各種レクリエーション団体
第 14 回　スポーツ産業による生涯スポーツ振興への取り組み
　　スイミング・フィットネス・テニス・スキーなど各種の民間企業による生涯スポーツ振興への取り組み
第 15 回　自身の生涯スポーツを作る
　　「みる・やる・ささえる」から生涯スポーツへ

〔成績評価〕

≪配点内訳≫

授業への取り組み・態度　40 点
　　課題発表　20 点
　　レポート　40 点

〔教科書〕

必要に応じて資料を配布する

〔参考文献〕

授業時に適宜紹介する

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

担当教員：別當和香
①前期・後期共通
②時間：火曜日13：40～15：20　水曜日10：00～11：30
③連絡先：メール（betto@ashiya-u.ac.jp）にて対応
④基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

日本語Ⅱ①

4420
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
鷲見　　まゆみ

〔到達目標〕

日本語の上級レベル（日本語能力試験N1レベル）に合格できる力をつけ
ることを目的とする

〔授業の概要〕

日本語能力試験N1レベルの文章を読み、文法・語彙の使い方を学び、学んだ文法・語彙を実際に使って、文・文章を作成し、Ｎ１レベルに対応する実践力を身につける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

間違えた問題、理解できなかった問題を復習する。(30 分)
漢字の練習（30 分）
新しいことばや文法を使って、例文を作る。(30 分)

〔授業計画〕

第 1 回　模擬試験
　　言語知識（読解・文法・文字・語彙）

第 2 回　言語知識①
　　模擬試験のフィードバック
　　文法・語彙問題練習
第 3 回　読解①
　　日本語の多様性
第 4 回　文法・語彙①
　　日本語の多様性
第 5 回　総合①
　　復習　模擬試験　（読解）
第 6 回　文法・語彙②
　　環境のためにできること
第 7 回　読解②
　　環境のためにできること
第 8 回　総合②
　　復習　模擬試験
第 9 回　文法・語彙③
　　食の共同性
第 10 回　読解③
　　食の共同性
第 11 回　総合③
　　復習　模擬試験
第 12 回　文法・語彙④
　　笑いのちから
第 13 回　読解④
　　笑いのちから
第 14 回　総合④
　　復習　模擬試験
第 15 回　模擬試験
　　Ｎ１レベル模擬試験　言語知識

〔成績評価〕
授業への参加度・態度：20%
宿題・提出物：20%
小テスト：30%
期末テスト：30%

〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕
『中級から上級への日本語』（専門教育出版）
『改訂版どんなときどう使う日本語表現文型 500』（アルク）
『パターン学ぶＮ１文字語彙問題集』（Ｊリサーチ 出版）
『日本語能力予想試験問題集Ｎ１』（国書会日本 語学校）他

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
phollyの課題の最後に書いてください。 木曜日２限（12：10～13：40）

日本語特別演習Ⅰ

2714
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
鷲見　　まゆみ

〔到達目標〕
日本語能力試験Ｎ１レベルに高得点で合格することを目標とする

〔授業の概要〕
Ｎ１レベルの模擬試験を数多く解きながら、文法力、読解力・語彙力をつけ ていくことを目標とする

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
（予習・復習）及び時間等

間違えた問題、理解できなかった問題を復習する。(30 分)
漢字の練習（30 分）
新しいことばや文法を使って、例文を作る。(30 分)

〔授業計画〕
第 1 回　模擬試験１＜言語知識＞
　　Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題
第 2 回　模擬試験１＜読解＞
　　Ｎ１レベルの読解の総合問題
第 3 回　模擬試験１＜言語知識＞
　　Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題
第 4 回　模擬試験１＜読解＞
　　Ｎ１レベルの読解の総合問題
第 5 回　模擬試験１＜言語知識＞
　　Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題
第 6 回　模擬試験１＜読解＞
　　Ｎ１レベルの読解の総合問題
第 7 回　模擬試験１＜言語知識＞
　　Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題
第 8 回　模擬試験１＜読解＞
　　Ｎ１レベルの読解の総合問題
第 9 回　模擬試験１＜言語知識＞
　　Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題
第 10 回　模擬試験１＜読解＞
　　Ｎ１レベルの読解の総合問題
第 11 回　模擬試験１＜言語知識＞
　　Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題
第 12 回　模擬試験１＜読解＞
　　Ｎ１レベルの読解の総合問題
第 13 回　模擬試験１＜言語知識＞
　　Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題
第 14 回　模擬試験１＜読解＞
　　Ｎ１レベルの読解の総合問題
第 15 回　模擬試験１＜言語知識＞
　　Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題

〔成績評価〕
参加度　３０％
宿題　提出物　１０％

小テスト　３０％
期末テスト　３０％
〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
「授業中に適宜資料を配布する」
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
phollyの課題の最後に書いてください。 木曜日３限（13：50～15：20）

教職総合演習1-Ⅱ（面接）

7001
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　後期
秋本　　隆夫

〔到達目標〕
本授業では、教員採用試験を受験することを前提とし、様々な面接技法を通して、学校現場における課題やあらゆる場面への対応について、理解を深めながら、教師としての基本的な資質や実践的な資質能力の向上を高めていく。
〔授業の概要〕
教員採用試験の面接において、教師として求められる以下の実践的事項について、集団面接、集団討議及び個人面接の基本的な技法についての演習を中心にすすめる。
(1)各都道府県が求める教師像に関する事項
(2)教師を目指す志望動機等に関する事項
(3)教職をめぐる様々な課題に関する事項
(4))教師としての自分の課題を発見し、その課題解決に関する事項
(5)「教師は教室で勝負する」に関する事項
(6)より高い専門性をもった教師に関する事
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
受講生が教職への志を強く持ち、学校現場での実践力の向上に向けて、平素から、教育課題についての情報を適切に収集し、選択し、活用する力を高めておくとともに、熱意をもって、主体的に取り組むことを希望
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
本授業の目的、内容、方法及、評価及び参考文献について紹介する。
第 2 回　教員採用試験について
各都道府県の教員採用試験募集要項についての資料収集を行う。
第 3 回　教員に求められているもの
各都道府県が求めている教師像について、各関係資料から分析を行い、課題設定の第一歩とする。
第 4 回　教師を目指す志望動機について
「教師を目指す動機や理由」について、自由討議を行う。
第 5 回　各都道府県市が目指す教育計画について①
各教育委員会が目指している教育方針、目標及び内容について、理解を深め、教育現場での課題についての関心を高める。
第 6 回　各都道府県市が目指す教育計画について②
教育委員会が目指している教育方針、目標及び内容について、自由討議を行い、教育現場での課題についての関心を高める。
第 7 回　教員の資質について①
教育委員会、学校、児童生徒、保護者及び地域が求める「先生」について、自由討議を行う。
第 8 回　教員の資質について②
教育委員会、学校、児童生徒、保護者及び地域が求める「先生」について、自由討議を行う。
第 9 回　学校における課題①
教育委員会、学校、児童生徒、保護者及び地域が求める「先生」についての自分自身の課題を設定し、教職を目指すための資質向上のための方策を探る。
第 10 回　学校における課題②
学校での主たる活動である学習指導についての課題について、自由討議を行う。
第 11 回　学校における課題③
学校での児童生徒にかかわる諸課題（生徒指導・生活指導）について、自由討議を行う。
第 12 回　学校における課題④
学校組織の一員として、学校を取り巻く課題の解決について、最近の教育時事を踏まえ、自由討議を行う。
第 13 回　教員採用試験対策①
様々な面接技法について、理解を深め、口頭による回答練習を行う。
第 14 回　教員採用試験対策②
各都道府県市の教員採用試験における面接試験について、理解し、その対応ができるように個人的な面接練習を行い、今後の方策をまとめる。
第 15 回　教員採用試験③と授業のまとめ
個人面接の場面を設定し、これまでの項目について、口頭による回答練習を行うとともに今後の課題についての振り返りを行う。
〔成績評価〕
・授業への取組、意見発表及び受講態度　４０％
・毎時間の振り返り　３０％
・課題レポート　　４０％
〔教科書〕
小・中学校新学習指導要領（文部科学省）、生徒指導提要（文部科学省）
適時、資料を配布する。
〔参考文献〕
授業にて、適時、紹介する。
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕

〔オフィスアワー〕
１２：５０～１３：５０（金属加工実習室準備室）

英語Ⅱ③

1503
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
TOEIC新形式の初級レベルの問題に慣れる。
4技能のうち、特に、Reading ,Listeningの基礎を身につける。
教科書にある英文を参考にし、身近な英語表現力を身につける。
〔授業の概要〕
各UnitのPart 1~Part 4はListening とディクテーションを基本にしながら、受講生自身がペアやグループで英文を作成し、英語を発信する練習をする。
Part 5～Part ７は、文法理解と内容理解の練習を重ねていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時間の復習をし、次時の確認テストの学習をすること。（120分）
指示した内容についての十分な予習をしておくことが必要である。（120分）
〔授業計画〕
第 1 回　復習
前期、英語Ｉで学修した単語や語句を中心に復習する。
既習の内容の英文をディクテーションする。
第 2 回　Unit 2 Travel
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。
第 3 回　Unit 2 Travel
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学修。

第 4 回　Unit3 Hotels
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。
第 5 回　Unit 3 Hotels
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学修
第 6 回　Unit 4 Dining
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。
第 7 回　Unit 4 Dining
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。
第 8 回　Unit 5 Sports and Hobbies
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する

第 9 回　Unit 5 Sports and Hobbies
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。
第 10 回　Unit 6 Phone Calls and Emails
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する
第 11 回　Unit 6 Phone Calls and Emails
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。
第 12 回　Unit 7 Health
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する
第 13 回　Unit 7 Health
Part５, Part ６の内容理解。新出語彙、語句の学習。

第 14 回　Unit 8 Ecology
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する
第 15 回　Unit 8 Ecology
Part５, Part ６の内容理解。新出語彙、語句の学習。
〔成績評価〕
授業での課題への取り組み　25%　　テスト　75%
〔教科書〕
RAISING YOUR LEVEL !
FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST　（南雲堂）
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
中学校教諭での英語指導や英語学習に関する知識技能を活かして、英語の知識・技能や英語指導法に関わる指導を行う。
〔オフィスアワー〕
水曜日　14時～15時　研究室11
tange@ashiya-u.ac.jp

心理学入門

3110
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
三島　利江子

〔到達目標〕
①大学基礎教養レベルの心理学の知識の習得
②習得した知識を日常生活で応用できること
これらを主な到達目標とする。
心理学の諸領域に、学生が興味を持てるように講義したい。
心理学を学ぶことで、学生が、自己や他者といった「人間」に対する理解を深めることを期待する。

〔授業の概要〕
心理学全般について講義する。
授業で扱う内容は、学習心理学、発達心理学、認知心理学、社会心理学、臨床心理学など、心理学の諸領域を網羅する。また学習者同士の話し合いの時間を設ける。講義はテキストに沿って進めるため、受講にあたってはテキストを毎回、必ず持参すること。
なお、授業内容は、学生のニーズや、必要に応じて、多少の変更も有り得る。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備学習として、テキストを読み内容を把握する。
〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
授業の目標，授業進行の予定，成績評価方法，参考文献と資料の紹介
第 2 回　心理学とは何か
心理学の目指すこと，心理学の歴史，心理学の研究領域，心理学の研究方法
第 3 回　知覚
知覚心理学とは，知覚の働きにおける「見る」しくみ
第 4 回　動機づけ
動機とは，動機の種類，欲求の階層，外発的動機付けと内発的動機付け，葛藤
第 5 回　発達の理論
発達心理学とは，遺伝と環境，成熟と学習，発達の捉え方
第 6 回　発達の過程
胎児期，新生児期，乳児期，幼児期，児童期，青年期，成人期，老年期
第 7 回　パーソナリティー
その人らしさとは，パーソナリティーの形成，パーソナリティーの諸理論
第 8 回　学習
学習心理学とは，人間行動の進化と特徴，条件付け，社会における学習
第 9 回　認知心理学
認知心理学とは，記憶の諸側面，考える仕組み，知能
第 10 回　社会的認知
社会心理学とは，他人を知る，態度，ステレオタイプ，対人魅力，自己を知る
第 11 回　集団
集団とは，集団凝集性，集団規範，リーダーシップ，人からの影響
第 12 回　適応と不適応
こころの健康，適応と不適応，ストレス，いじめ，非行，犯罪
第 13 回　こころの病とその癒し
こころの病とは，精神障害の種類，カウンセリングと心理療法
第 14 回　心理学を役立てる
日常生活と心理学，心理学を活かせる仕事，心理学に関わる資格
第 15 回　まとめ
授業全体のまとめ　試験について
〔成績評価〕
期末の試験による
〔教科書〕
中里・松井・中村（編著）『新・心理学の基礎を学ぶ』八千代出版
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
金曜　１限　授業終了後，同教室にて　11:30~11:50

英語Ⅱ②

1502
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
中田　康行

〔到達目標〕
英語を日本語に訳さないで理解できるような程度にまで英語に習熟できることを目標にする。
〔授業の概要〕
この授業では英語の文章を精読し、正確に意味解釈を行う訓練をする。世界文化の様々な側面を理解するうえで、英語の重要性を深く認識する。適宜、英文の構造、慣用法などに注意し英語表現に慣れる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
日頃から英語に接する機会（テレビやインターネットなど）を見つけて、英語に慣れるようにすること
〔授業計画〕
第 1 回　後期授業概要の説明。
後期の授業内容、進度の説明、および成績・評価方法の確認。
第 2 回　Greek and Japanese mythologies
ギリシア神話と日本神話に関する共通点や相違点を扱うッセイを読む。語彙の確認、テクストの聞き取り。
第 3 回　Greek and Japanese mythologies
テクストの再聞き取り、および練習問題。
第 4 回　Children’s recreation in the world
子供の遊びを扱うエッセイを読む。語彙の確認、テクストの聞き取り。
第 5 回　Childre n’s recreation in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題。
第 6 回　Sports of the world: the Olympics
オリンピックを扱うエッセイを読む。語彙の確認、テクストの聞き取り。
第 7 回　Sports of the world: the Olympics
テクストの再聞き取り、および練習問題。
第 8 回　A strange custom: geophagy

世界の奇妙な風習や習慣を紹介するを扱うエッセイを読む。語彙の確認、テクストの聞き取り。
第 9 回　A strange custom: geophagy
テクストの再聞き取り、および練習問題。
第 10 回　Religions vary in the world
世界の宗教、言語観、自然崇拝を扱うエッセイを読む。語彙の確認、テクストの聞き取り。
第 11 回　Religions vary in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題。
第 12 回　”Right” always right
「右側通行」や「左側乗船」などの右・左についてのテーマを扱うエッセイを読む。語彙の確認、テクストの聞き取り。
第 13 回　Religions vary in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題。
第 14 回　The past versus the future
世界の国々の過去観・未来観をテーマとするエッセイを読む。観彙の確認、テクストの聞き取り。
第 15 回　The past versus the future
テクストの再聞き取り、および練習問題。後期授業の要点整理・確認。

〔成績評価〕
授業時の発表（２０％）
小テスト（２０％）
確認テスト２回(60％)

〔教科書〕
石井　隆之　監修　Cかいross-Cultural Awareness
開文社
(各自教科書を購入して授業に臨むこと。スマホ等によるコピーは認めません、)

〔参考文献〕
授業時に適宜指示。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
随時メールで受け付けます。
アドレス　nakata@ashiya-u.ac.jp

データサイエンス

3504
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
若杉　　祥太

〔到達目標〕
・Excelを使用した統計処理方法を身に付け、データ分析ができる。
・データを分析し、その数値から原因や今後の将来性を見据えた説得力のある説明ができる。

〔授業の概要〕
ビジネスの場に飛び交うさまざまなデータを有効活用できるように、必要な統計分析方法を身に付ける。
また、データ分析技能を証明する「ビジネス統計スペシャリスト　エクセル分析ベーシック」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：毎時指定した教科書範囲を熟読してくること。
復習：毎時指定した教科書の知識問題・実践問題を解いてくること。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、データサイエンスの概要
第 2 回　基礎統計量①
平均値、中央値の求め方
第 3 回　基礎統計量②
最頻値、レンジの求め方
第 4 回　基礎統計量③
標準偏差の求め方
第 5 回　データの異常値
散布図や折れ線グラフを用いた外れ値の検出
第 6 回　度数分布
度数分布表を用いたデータ全体の分布の把握
第 7 回　単位の異なるデータの比較
標準偏差を用いた標準化
第 8 回　時系列データ①
移動平均を用いた時系列データの分析
第 9 回　時系列データ②
季節調整を用いた時系列データの分析
第 10 回　2変量間の関係性①
集計による比較　質的変数と量的変数の関係性
第 11 回　2変量間の関係性②
散布図を用いた量的変数と量的変数の関係性
第 12 回　2変量間の関係性③
相関係数を用いた量的変数と量的変数の関係性
第 13 回　2変量間の関係性④
回帰分析を用いた直線関係の具体化
第 14 回　2変量間の関係性⑤
ソルバーを用いた条件達成のための最適化
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ

〔成績評価〕
小テスト50％
定期試験50％（実技）
※小テストやレポート課題については評価後、個別コメントつけて返します。

〔教科書〕
現場公規、湊宣明、豊田裕貴「Excelで学ぶ―ビジネスデータ分析の基礎」Odyssey、2016（1,500円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
授業日（オンライン方式）、相談時はPC操作画面を開いた上で行うこと。

英語Ⅱ⑧

1509
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
杉島　　未来

〔到達目標〕
中学生レベルの基本的な英語の知識を再確認しながら、英語抜きでは成り立たない、私たちの身の回りで接する英語への興味を高め、自信をつける。
英語の基礎的な問題を解くことで理解を深め、知識を蓄積することができ、なおかつその知識を運用して考える力、思考力や表現力をつけることもできる。最初から簡単にはできないであろうが、思考力・表現力を必要とする問題を自ら回答していくことにより、じっくり問題と向き合って、自分で考え、自分の力で解けたときの高揚感や達成感を経験することにより、各自英語への自信が持てるようになる。
〔授業の概要〕
授日常よく使う英語表現を学び、タスクと呼ばれる指定された情報を集めるゲームまたはシミュレーション形式の方法で何度もそれらの表現を口から発し、脳に定着させることで、意識せずに必要な表現が覚えられるようにする。丸暗記ではなく、ある特定の状況を設定し、そのなかで必要な情報を得るために学んだ会話表現を使っていくことで、自然にそれらの表現が使えるようにする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習・復習課題を出します。
〔授業計画〕
第 1 回　After Summer Vacation & Quiz
第 2 回　Auxiliary Verbs
第 3 回　Phrasal Verbs
第 4 回　Conjunctions 1
第 5 回　Conjunctions 2
第 6 回　Comparisons
第 7 回　Paragraphs
第 8 回　Tenses 1
第 9 回　Present Perfect & Future
第 10 回　Self-Learning Tech & Quiz
第 11 回　Active Voice & Passive Voice
第 12 回　Tenses 2
第 13 回　Conditionals & Subjunctives
第 14 回　Pronunciation and Stress
第 15 回　Preparation for Term Exam
〔成績評価〕
小テスト、提出物、授業態度　　60%
期末テスト 40%
〔教科書〕
Basic College English Seminar
〔参考文献〕
配布資料
文部科学省　学習指導要領
学研パーフェクトコース　中学英語
学習指導要領 他適宜紹介
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
授業終了後、講義教室で対応します

英語コミュニケーション

2508
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
杉島　　未来

〔到達目標〕
異文化への理解を高め、さまざまな文化的背景を持つ人たちと積極的に接することができるように、リスニングとスピーキングのスキルを向上させる。
英語をかたまりで覚えることにより、表現方法の幅を広げる。動詞中心の日常動作にスポットライトを当てることで、かたまりで英語表現を習得できるようになる。
Reading through compact “culture studies” reference works, lessons focus on understanding a different country or region and the lives and customs of the people who live there.
〔授業の概要〕
英語でコミュニケーションができるようになるには、基本的な文章を暗記し、場面に応じて活用する練習が不可欠なので、日常よく使う英語表現を何度も繰り返し発音することで、英語で会話ができる練習をする。
The readings (China’s own exam hell, South Korea’s beauty obsessions, Africa’s surprisingly modern child-raising practices, New Zealand’s changing farming celebrations, the UAE’s updated sporting traditions, and many other fascinating global cultural phenomena) can be comprehensively overviewed by matching given word meanings and words in context, rewriting sentences by substituting phrases, and retrieving information and ideas from context by oneself.
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
適宜判断して行うものとする。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（自己紹介・適性・アンケート）
第 2 回　Living Room & Bedroom
第 3 回　Kitchen
第 4 回　Bathroom
第 5 回　Housekeeping
第 6 回　Jobs
第 7 回　Public Transportation
第 8 回　Car
第 9 回　School

第 10 回　Hospital
第 11 回　Office
第 12 回　Sports
第 13 回　Leisure
第 14 回　Shopping
第 15 回　Rstaurant

〔成績評価〕
授業態度、提出物、小テスト　60%
期末テスト 40%

〔教科書〕
Expressions For Everyday Actions

〔参考文献〕
配布資料、文部科学省学習指導要領、
What in the World, Japan Goes Global!
World Heritage on DVD
Fifteen English Biographies of Famous Japanese

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
授業終了後、講義教室で対応します

情報機器の操作【上級】

1104
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
黒川　　マキ

〔到達目標〕
1. インターネット
　個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
　定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
　数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
　聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる

〔授業の概要〕
　本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
　授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。
　授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備
第 2 回　インターネットの活用
　情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー
第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
　インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護
第 4 回　コンピュータの基本操作
　コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理
第 5 回　Wordによる文書処理
　定型文書の基本
第 6 回　Wordによる文書処理
　表の作成と編集
第 7 回　Wordによる文書処理
　画像処理、図形描画
第 8 回　Wordによる文書処理
　インターネットによる情報検索とWordの活用
第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
　効果的なプレゼンテーション、課題作成
第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
　プレゼンテーションの実施と評価
第 11 回　Excelによるデータ処理
　データの入力と編集、関数による計算
第 12 回　Excelによるデータ処理
　関数による計算、グラフ機能、データベース機能
第 13 回　データサイエンスの基礎
　データサイエンスの意味と意義、データの可視化
第 14 回　データサイエンスの応用
　身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 15 回　まとめ
　WordとExcelを活用した総合課題

〔成績評価〕
毎時間の課題　40%
小テスト　　40%
授業中の取組　20%

〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
LMS 授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

情報機器の操作【上級】

1099
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
黒川　　マキ

〔到達目標〕

1. インターネット
　個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
　定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
　数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
　聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる

〔授業の概要〕

本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。

授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
　講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備
第 2 回　インターネットの活用
　情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー
第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
　インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護
第 4 回　コンピュータの基本操作
　コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理
第 5 回　Wordによる文書処理
　定型文書の基本
第 6 回　Wordによる文書処理
　表の作成と編集
第 7 回　Wordによる文書処理
　画像処理、図形描画
第 8 回　Wordによる文書処理
　インターネットによる情報検索とWordの活用
第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
　効果的なプレゼンテーション、課題作成
第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
　プレゼンテーションの実施と評価
第 11 回　Excelによるデータ処理
　データの入力と編集、関数による計算
第 12 回　Excelによるデータ処理
　関数による計算、グラフ機能、データベース機能
第 13 回　データサイエンスの基礎
　データサイエンスの意味と意義、データの可視化
第 14 回　データサイエンスの応用
　身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 15 回　まとめ
　WordとExcelを活用した総合課題

〔成績評価〕

毎時間の課題　40%
小テスト　　40%
授業中の取組　20%

〔教科書〕

特になし、授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

LMS授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

情報機器の操作（上級生対象）

2150
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
黒川　　マキ

〔到達目標〕

1. インターネット
　個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
　定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
　数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
　聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる

〔授業の概要〕

本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。
授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備
第 2 回　インターネットの活用
情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー
第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護
第 4 回　コンピュータの基本操作
コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理
第 5 回　Wordによる文書処理
定型文書の基本
第 6 回　Wordによる文書処理
表の作成と編集
第 7 回　Wordによる文書処理
画像処理、図形描画
第 8 回　Wordによる文書処理
インターネットによる情報検索とWordの活用
第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
効果的なプレゼンテーション、課題作成
第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
プレゼンテーションの実施と評価
第 11 回　Excelによるデータ処理
データの入力と編集、関数による計算
第 12 回　Excelによるデータ処理
関数による計算、グラフ機能、データベース機能
第 13 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味と意義、データの可視化
第 14 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 15 回　まとめ
WordとExcelを活用した総合課題
〔成績評価〕
毎時間の課題　40%
小テスト　40%
授業中の取組　20%
〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
LMS 授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

情報機器の操作【上級】

2100
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
黒川　マキ

〔到達目標〕
1. インターネット
個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる
〔授業の概要〕
本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。
授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備
第 2 回　インターネットの活用
情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー
第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護
第 4 回　コンピュータの基本操作
コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理
第 5 回　Wordによる文書処理
定型文書の基本
第 6 回　Wordによる文書処理
表の作成と編集
第 7 回　Wordによる文書処理
画像処理、図形描画
第 8 回　Wordによる文書処理

インターネットによる情報検索とWordの活用
第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
効果的なプレゼンテーション、課題作成
第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
プレゼンテーションの実施と評価
第 11 回　Excelによるデータ処理
データの入力と編集、関数による計算
第 12 回　Excelによるデータ処理
関数による計算、グラフ機能、データベース機能
第 13 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味と意義、データの可視化
第 14 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 15 回　まとめ
WordとExcelを活用した総合課題

〔成績評価〕
毎時間の課題　40%
小テスト　40%
授業中の取組　20%

〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
LMS 授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

情報機器の操作【上級】

2035
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
黒川　マキ

〔到達目標〕
1. インターネット
個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる

〔授業の概要〕
本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。
授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備
第 2 回　インターネットの活用
情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー
第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護
第 4 回　コンピュータの基本操作
コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理
第 5 回　Wordによる文書処理
定型文書の基本
第 6 回　Wordによる文書処理
表の作成と編集
第 7 回　Wordによる文書処理
画像処理、図形描画
第 8 回　Wordによる文書処理
インターネットによる情報検索とWordの活用
第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
効果的なプレゼンテーション、課題作成
第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
プレゼンテーションの実施と評価
第 11 回　Excelによるデータ処理
データの入力と編集、関数による計算
第 12 回　Excelによるデータ処理
関数による計算、グラフ機能、データベース機能
第 13 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味と意義、データの可視化
第 14 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 15 回　まとめ
WordとExcelを活用した総合課題

〔成績評価〕
毎時間の課題　40%
小テスト　40%
授業中の取組　20%

〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
LMS 授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

生活の化学

3021
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
宮崎　　洋祐

〔到達目標〕
私達の周りにはさまざまな化学物質が溢れている。それらは私達の生活に大きく影響し、また、私達はそれらを利用して生活している。本授業では日常生活でのさまざまな現象を化学的に理解できるようになることを目標とする。
〔授業の概要〕
化学の基本原理から反応や物質の成り立ちをわかりやすく説明し、私達の周りにある物質や現象を通して具体的に化学を教える。得た知識を活用できるよう、学習者同士で話し合いをしたり、疑問に思ったところを述べたりする機会を設け、課題に取り組ませる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前のこれまでの復習（30 分）
授業外課題の取り組み（60 分）
〔授業計画〕
第 1 回　物質を構成する元素
化学とはどのような学問か、物質を構成する元素にはどのようなものがあるかを学ぶ。
第 2 回　物質の状態と成分
熱運動と物質の三態、純物質と混合物について学ぶ。
第 3 回　原子とその構造
原子とその構成について学ぶ。
第 4 回　電子配置と周期表
原子の電子配置、周期表と元素の分類の関係について学ぶ。
第 5 回　イオンと分子
イオンのでき方と分子のでき方について学ぶ。
第 6 回　化学結合（その１）
化学結合のうち、イオン結晶を形成するイオン結合について学ぶ。
第 7 回　化学結合（その２）
化学結合のうち、分子や共有結晶を形成する共有結合、分子結晶を形成する分子間力、金属結晶を形成する金属結合について学ぶ。
第 8 回　化学反応（その１）
化学反応および化学反応式のつくり方について学ぶ。
第 9 回　化学反応（その２）
化学反応式が表す量的関係を学ぶ。
第 10 回　酸と塩基
酸・塩基とpH、中和反応を学ぶ。
第 11 回　金属の化学
金属の種類とその性質を学ぶ。
第 12 回　酸化と還元
酸化・還元の定義、酸化数について学ぶ。
第 13 回　金属の酸化還元反応
金属のイオン化傾向、金属の製錬、電池について学ぶ。
第 14 回　プラスチックの化学とリサイクル
プラスチックの種類とその性質、さまざまな資源の再利用を学ぶ。
第 15 回　まとめ
これまでの講義のまとめを行い、項目どうしの関連について学ぶ。
〔成績評価〕
定期試験（６０％）
授業への取り組み・発表（１０％）
授業内提出物（２０％）
授業外課題（１０％）
〔教科書〕
授業中に適宜プリントを配布する。
〔参考文献〕
特になし。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
後期
水曜日：１７：００～１８：００
場所：授業終了後、講義教室で対応します。
連絡先：ymiyazaki@ashiya-u.ac.jpにメールかPhollyのメッセージで質問・相談をしてください。
留意事項：メールやメッセージへの返信は遅れることがあります。

日本語聴解・会話Ⅱ

2710
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
前田　真弥

〔到達目標〕
この授業は、日本語聴解・会話１で培った能力を引き継ぎ、より高度なスタディスキルの展開を目指すことを目的とする。
自然な速さの日本語を聞き取り、聞き取った内容を伝えることができる。また日本語を使って積極的な、円滑なコミュニケーションができるようになる。
〔授業の概要〕
音読やシャドーイングにより発音練習を行う。
グループでのタスクワークを通して、会話能力やコミュニケーション能力を高める。
グループで課題を設定し、それをまとめプレゼンテーションすることによって、調べる、整理する、議論する、発表するスキルの向上を目指す。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業内で学んだことを復習すること。また、授業外活動として課題を出すことがある。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介
第 2 回　ブレインマップ「私の好きな〇〇」
自分に関する多様な話題について日本語で話すことに慣れる。協働学習。
第 3 回　個性的な自己紹介①
少ない語彙でも自分のことを説明できるようになる。協働学習。
第 4 回　個性的な自己紹介②
少ない語彙でも自分のことを説明できるようになる。協働学習。
第 5 回　雑談力を磨く
雑談の場で、自分から会話を始め、会話をリードする。協働学習。
第 6 回　ジグソー・リーディング
自己の役割を明確に持って、議論の場に参加する。協働学習。
第 7 回　説明のコツ
ストーリーや図表をわかりやすく説明できるようになる。協働学習。
第 8 回　偶然について話す
複雑に絡み合う情報を、取捨選択して伝えられるようになる。協働学習。
第 9 回　ピアレスポンス
作文の表現や内容の改善を目指し。コメントのやりとりを行う。協働学習。
第 10 回　ディベート
バランスの取れた効果的な引用の方法を習得する。協働学習。
第 11 回　発表準備①
グループでテーマを決め、アンケートを作成する。協働学習。
第 12 回　発表準備②
作成したアンケートをもとに日本人にインタビューする。結果をまとめる。
第 13 回　発表①
グループによる発表。発表に対する相互評価。
第 14 回　発表②
グループによる発表。発表に対する相互評価。
第 15 回　発表③
グループによる発表。発表に対する相互評価。
〔成績評価〕
授業への取組・発表30%
授業内提出物30%
授業内発表40%
〔教科書〕
「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
『会話の授業を楽しくするコミュニケーションのためのクラス活動40』(スリーエーネットワーク)
『シャドーイングで日本語発音レッスン』(スリーエーネットワーク)
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①後期
②火曜日　17：00～17：30
③場所：授業終了後、講義教室で対応します。

日本語文章表現Ⅱ

2711
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
前田　真弥

〔到達目標〕
この授業は、日本語文章表現１で培ったスタディスキルを引き継ぎ、学術的文章で使われる文型や表現、文章の展開の仕方を学び、日本語で論文を書く基本的な力をつける。また、レポートや論文など複雑な内容や専門的なテーマの文章も書くことができるようになる。さらに、自分の文章を、読む人の立場に立って直せるようになる。
〔授業の概要〕
論文らしい表現とはどういうものか、論理的で明晰な文章にするためにはどんな点に気をつければいいかを、練習問題を解きながら考える。序論、本論、結論の基本的な書き方を学ぶ。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業内で学んだことを復習すること。また、授業外活動として課題を出すことがある。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介。
第 2 回　助詞の使い方
主に格助詞の使い方について理解する。
作文①（テーマは授業内で伝える）
第 3 回　言葉の形の使い分け
言葉の形の使い分けについて理解する。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 4 回　自動詞・他動詞・受身
自動詞・他動詞・受身について理解する。
作文②（テーマは授業内で伝える）
第 5 回　呼応
呼応について理解する。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 6 回　文末表現の調整

文末表現の調整について理解し、うまく記述できるようになる。
作文③（テーマは授業内で伝える）
第 7 回　ひらがなと漢字のバランス
ひらがなと漢字のバランスについて理解する。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 8 回　漢字の選択と誤変換
漢字の選択と誤変換について理解する。
作文④（テーマは授業内で伝える）
第 9 回　カタカナ
カタカナの使い方について理解する。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 10 回　読点の打ち方
読点の打ち方について理解する。
作文⑤（テーマは授業内で伝える）
第 11 回　書き言葉らしさ
書き言葉らしさについて理解し、うまく記述できるようになる。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 12 回　辞書の危険性
辞書の危険性について理解する。
作文⑥（テーマは授業内で伝える）
第 13 回　専門用語の選び方
専門用語の選び方について理解する。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 14 回　接続詞と文章の構成
接続詞と文章の構成について理解し、うまく記述できるようになる。
作文⑦（テーマは授業内で伝える）
第 15 回　復習
先週の作文フィードバック→書き直し。
これまでに学習したことを復習する。

〔成績評価〕
定期試験30%
授業への取組20%
授業内提出物50%

〔教科書〕
「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕
『留学生のためのここが大切文章表現のルール』(スリーエーネットワーク)

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①後期
②火曜日　17：00〜17：30
③場所：授業終了後、講義教室で対応します。

英語Ⅱ⑦

1508
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
野島　晃子

〔到達目標〕
・基礎英文法を再確認しながら単語や熟語の知識を増やすことができる。
・簡単な英文で自分の言いたいことを言えるようになる。
・日常会話レベルのリスニング力をつけることができる。

〔授業の概要〕
さまざまなアクティビティを通して、「英語」という言語がもつ特徴を体得する。そして、日常の簡単なことがらについて英語で話したり、相手に質問したりできるような基礎的なコミュニケーション力を身につけることをめざす。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・毎回の授業内容を復習し、次回の授業にのぞむこと。
・自分が興味をもつ分野において見聞きする英語表現を普段から気に留めること。

〔授業計画〕
第 1 回　Orientation, Chapter 1, Chapter 2
後期授業オリエンテーション
Chapter 1: Preparing for the Trip
第 2 回　Chapter 2, 3
Chapter 2: On the Airplane
Chapter 3: Arrival and Passport Control
第 3 回　Chapter 4, 5
Chapter 4: Banking and Leaving the Airport
Chapter 5: Checking Into the Hotel
第 4 回　Chapter 6
Chapter 6: Hotel Facilities
第 5 回　Chapter 7
Chapter 7: Let’s Eat!
第 6 回　Chapter 8
Chapter 8: Sightseeing
第 7 回　Chapter 9
Chapter 9: Making Small Talk
第 8 回　Chapter 10
Chapter 10: Shopping
第 9 回　Chapter 11
Chapter 11: Feeling Sick
第 10 回　Chapter 12
Chapter 12: Getting Around
第 11 回　Chapter 13
Chapter 13: Checking Out of the Hotel
第 12 回　Chapter 14
Chapter 14: Heading Home
第 13 回　Chapter 15
Chapter 15: Talking About Your Trip
第 14 回　総復習
第 15 回　前期期末試験

〔成績評価〕
・授業態度／授業貢献度／コミュニケーションペーパー／ミニテスト／課題　50%
・定期試験　50%
〔教科書〕
『Simply Traveling: Communication Anytime, Anywhere!』Diane H. Nagamoto and Fumiko Murase, 金星堂, ISBN 978-4-7647-4020-4
〔参考文献〕
必要に応じ適宜指示する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
LMS科目のため質問等はメールで受け付けし、次回の授業までに回答します。

特別講義　企画力基礎講座

4009
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
野島　晃子

〔到達目標〕
・自分のアイデアを形にすることができる。
・効果的なプレゼンテーションとは何かを体得することができる。
・論理的な表現力を身につけることができる。
・他人の話を聴く姿勢を養うことができる。
〔授業の概要〕
現代社会では、どのような分野においても自らの主張などを明確に伝える能力が求められる。この授業では、自分の企画をクラスの前で発表することを最終課題とする。企画といっても、新しい商品の開発など「無から生み出す」ことだけを指すのではない。既存のものから着想を得るための情報収集方法など基礎的な手法を学び、自分のアイデアを形にする練習を積む。また、企画をあたためて終わるのではなく、いかに効果的に伝えるかも重要な要素となる。そのために、プレゼンテーションの方法を基礎から応用まで実践を通して学びスキルを獲得することをめざす。この場合のスキルとは単なる「話し方」ではなく、論の展開や適切な表現方法など多様な側面を指す。そして、発表においては教員のみならず学生相互の評価も取り入れることで、批判的に物事を捉える（「相手を批判する」ことではない）姿勢を養い、自分自身の発表に磨きをかけられるようにする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・毎回の授業内容を復習し、次回の授業にのぞむこと。
・与えられた課題の研究および発表に向けての準備時間を確保すること。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
・授業方針、目標、内容、評価方法、履修にあたっての注意事項などについて説明する。
・教員およびクラスメイト同士でのかんたんな自己紹介をする。
第 2 回　情報収集の方法、読む力の養い方、ブレインストーミングの方法と活用
第 3 回　プレゼンテーションとは何か①
第 4 回　プレゼンテーションとは何か②
第 5 回　３分スピーチの実施に向けて
構想の練り方、発表準備のしかた、聴く側の姿勢について
第 6 回　第１回　３分スピーチ実践①
第 7 回　第１回　３分スピーチ実践②
第 8 回　第１回　３分スピーチの総括と講評、第２回３分スピーチに向けて
第 9 回　第２回　３分スピーチ実践①
第 10 回　第２回　３分スピーチ実践②
第 11 回　第２回　３分スピーチの総括と講評、最終課題「企画発表」に向けての準備について
第 12 回　企画を練る①
第 13 回　企画を練る②
第 14 回　各自の企画発表および講評①
第 15 回　各自の企画発表および講評②
〔成績評価〕
・授業態度／授業貢献度／コミュニケーションペーパー／授業課題／プレゼンテーション　70%
・最終課題レポート　30%
〔教科書〕
適宜プリントを配布する。
〔参考文献〕
必要に応じ適宜指示する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
LMS科目のため質問等はメールで受け付けし、次回の授業までに回答します。

情報機器の操作【留学生】

1101
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
林　泰子

〔到達目標〕
・Gmail（大学の各学生のメール）を活用することができる。
・Wordを活用し、基礎的な文書を作成することができる。
・Excelを活用し、基礎的な計算とグラフを作成することができる。
・Power Pointを活用し、基礎的なプレゼンテーション用スライドを作成することができる。
・ネット社会での情報モラルの重要性を理解し、情報を適切に活用することができる。

〔授業の概要〕
レポート作成、課題・研究発表など、大学でのコンピュータ利用に対応できる基礎的な知識や技能を修得する。
Word、Excel、Power Pointを用いて課題を作成する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前にテキストに目を通して予習しておくこと。また、授業の復習をして分からなかったところなどを振り返り、次の授業での課題作成がスムーズにできるようにしておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
授業の進め方、授業概要、成績評価
Gmailの基礎
第 2 回　Wordを活用した文書作成１
Wordの基本操作、入力チェック、文章の入力
第 3 回　Wordを活用した文書作成２
表と罫線、ビジネス文書
第 4 回　Wordを活用した文書作成３
図形の描画と編集
第 5 回　Wordを活用した文書作成４
表や図形を活用した文書作成
第 6 回　Wordの総復習
Wordのチェックテスト
第 7 回　Excelを活用したデータ処理１
Excelの特徴、データ入力と編集
第 8 回　Excelを活用したデータ処理２
いろいろな計算方法、相対参照、絶対参照
第 9 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化
第 10 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析

第 11 回　Excelの総復習
Excelのチェックテスト
第 12 回　Power Pointを活用したプレゼン資料作成１
スライド作成の基礎
第 13 回　Power Pointを活用したプレゼン資料作成２
効果的で説得力のあるスライド編集

第 14 回　Power Pointを活用したプレゼンテーション
自作のプレゼンテーション用スライドによる発表
第 15 回　情報モラル
情報の適切な取り扱い、情報セキュリティ
〔成績評価〕
課題60%
チェックテスト　40%
〔教科書〕
『留学生のための日本語で学ぶパソコンリテラシー』橋本恵子・林泰子他、共立出版、2,200円＋税
〔参考文献〕
必要に応じて資料を配布します。
〔履修条件〕
その他
〔備考〕
この授業は、パソコン教室で授業支援システムを活用し、課題の配布や回収、テストなどを実施して授業を行います。また、課題の作成状況をこのシステムでモニターしながら、学習の理解状況を把握し授業を進行します。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日：11:00〜12:00
③研究室
④y.hayashi@ashiya-u.ac.jp
⑤研究室に来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください。
　質問等は、基本的には授業終了後に講義教室で対応します。
　それ以降は、メールで受け付けます。

社会と倫理

2108
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
小川　　雄

〔到達目標〕
現代の教育課題の一つは、子どもたちがよりよい社会を築けるように子どもたちを導くことである。そのためには、解決しなければならない二つの問題がある。一つは、よりよい社会とはいったいどのような社会であるのかという問題であり、もう一つは、そのような社会を実現するためになにをすべきかという問題である。本講義では、こうした問題を考える手引きとして著名な思想家の思索を紹介しながら、社会と倫理について考えていく。

到達目標
（1）よりよい社会のあり方について多角的に考えられるようになる。
（2）よりよい社会を形作るためにはどうすればよいかを知る。
〔授業の概要〕
テーマや到達目標に基づいて、本科目では、古代から現代までの代表的な政治哲学や倫理思想について学ぶ。これと併せて、新聞記事等の資料をとおして現代の社会問題について考える機会を設ける。
　Phollyによるオンデマンド形式で授業を進める。詳細は、第1回のガイダンスで説明するが、基本的に、講義スライドを視聴して、それに関連する課題に取り組み、課題を提出する、という流れになる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各授業後、その授業で学んだことを要約すること（９０分）と、提示された予習課題に取り組むこと（９０分）。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス

成績評価や授業形式、講義内容に関する説明
第 2 回　第１章：古代における理想の社会の探究①
古代ギリシアの民主制
第 3 回　第１章：古代における理想の社会の探究②
民主制の失敗
第 4 回　第１章：古代における理想の社会の探究③
プラトンの思想
第 5 回　第１章：古代における理想の社会の探究④
アリストテレスの思想
第 6 回　第２章：帝国の時代～中世①
ヘレニズム・古代ローマ帝国期の社会のありようと倫理的な生活
第 7 回　第２章：帝国の時代～中世②
中世のキリスト教的な世界観と倫理的な生活
第 8 回　中間レポート
レポートの書き方と課題の公示
第 9 回　第３章：近代における理想の社会の探究①
ホッブスの思想
第 10 回　第３章：近代における理想の社会の探究②
ルソーの思想
第 11 回　第４章：現代における理想の社会の探究①
アメリカの共和制
第 12 回　第４章：現代における理想の社会の探究②
デューイの思想
第 13 回　第４章：現代における理想の社会の探究③
コールバーグの「道徳性発達段階説」：概説
第 14 回　第３章：現代における理想の社会の探究④
コールバーグの「道徳性発達段階説」:「役割取得能力」の拡張
第 15 回　まとめ
全体の振り返り

〔成績評価〕
平常点４０％
:それぞれの授業ごとに課題を用意している。それに取り組む

中間レポート３０％
：第8回に課題を公開する。

期末レポート３０％
：試験期間内に課題を公開する。

〔教科書〕
特になし。適宜紹介し、配布する。

〔参考文献〕
講義の中で紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
基本的に、Phollyで対応する。質問や対応してほしいことがあれば、メッセージ機能を使って連絡を取ること。

英語Ⅱ⑤

1505
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
中田　　智也

〔到達目標〕
基本的な文法事項を理解する。
簡単な英語の文を、正確に日本語に訳せるようになる。
簡単な英作文ができるようになる。

〔授業の概要〕
この授業は、大きく分けて、①文法事項の確認、②英文和訳（英語から日本語）、③和文英訳（日本語から英語）、の３つの部分から成ります。①と②で文法事項を理解したうえで③に取り組みます。簡単な英作文を数多くこなすことにより、英語に慣れていきましょう。また、クラス全体で問題を共有しながら、難しく感じる部分も丁寧に学んでいきましょう。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業で学んだことの復習
難しく感じた英文和訳、和文英訳を重点的に復習

〔授業計画〕
第 1 回　前置詞　英文和訳
前置詞の種類・意味・使い方
「時」を表す前置詞、「場所」や「方向」を表す前置詞、その他の前置詞
第 2 回　前置詞　和文英訳
前置詞の種類・意味・使い方
「時」を表す前置詞、「場所」や「方向」を表す前置詞、その他の前置詞
第 3 回　接続詞　英文和訳
接続詞の種類・意味・使い方
文と文をつなぐ接続詞、句と句をつなぐ接続詞、語と語をつなぐ接続詞
第 4 回　接続詞　和文英訳
接続詞の種類・意味・使い方
文と文をつなぐ接続詞、句と句をつなぐ接続詞、語と語をつなぐ接続詞
第 5 回　進行形　英文和訳
be動詞＋動詞のing形
進行形の意味、現在進行形、過去進行形、未来進行形、その他
否定文、疑問文の作り方
第 6 回　進行形　和文英訳
be動詞＋動詞のing形
進行形の意味、現在進行形、過去進行形、未来進行形、その他
否定文、疑問文の作り方
第 7 回　受動態（受け身形）　英文和訳
be動詞＋動詞の過去分詞形
受け身形の意味、現在形、過去形、助動詞との組

み合わせ、その他
否定文、疑問文の作り方
第 8 回　受動態（受け身形）　和文英訳
be動詞＋動詞の過去分詞形
受け身形の意味、現在形、過去形、助動詞との組み合わせ、その他
否定文、疑問文の作り方
第 9 回　完了形（現在完了・過去完了）　英文和訳
have / has＋動詞の過去分詞形
完了形の意味、現在完了、過去完了、その他
否定文、疑問文の作り方
第 10 回　完了形（現在完了・過去完了）　和文英訳
have / has＋動詞の過去分詞形
完了形の意味、現在完了、過去完了、その他
否定文、疑問文の作り方
第 11 回　比較　英文和訳
形容詞と副詞の比較変化
原級、比較級、最上級
第 12 回　比較　和文英訳
形容詞と副詞の比較変化
原級、比較級、最上級
第 13 回　不定詞　英文和訳
to＋動詞の原形
文の中で果たす役割（名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法、原形不定詞）
第 14 回　不定詞　和文英訳
to＋動詞の原形
文の中で果たす役割（名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法、原形不定詞）
第 15 回　後期のまとめ
後期の要点のおさらい

〔成績評価〕
毎回のレポート提出とその内容から総合的に評価します。

〔教科書〕
Simply Grammar 〈Revised Edition〉（南雲堂）

〔参考文献〕
適宜資料を配布します。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
LMS科目になるので、質問・相談はPhollyのメッセージで受け付けます。

日本語特別演習Ⅱ

2712
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
中西　　泰洋

〔到達目標〕
◎日本語能力試験N１に合格するための日本語能力の習得を目標とする。
◎「日本語特別演習Ⅰ」に続き、文字・語彙、文法、読解、聴解のレベルアップを図る。

〔授業の概要〕
◎日本語能力試験N1の予想問題や過去問題を解きながら、学習者に既習の学習項目を確認させる。
◎問題を解くことによって、新たな学習項目を学び、日本語能力を増強する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
◎日常生活において日本語を見聞きすることに努めること。
◎授業後は必ず音読しながら復習を十分にすること。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
本授業についての目標・進め方等について説明する。
日本語能力試験N1のレベルについて説明するとともに、学習方法について指示する。
ポートフォリオを書かせる。
第 2 回　問題解答練習１
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 3 回　問題解答練習２
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 4 回　問題解答練習３
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 5 回　問題解答練習４
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 6 回　問題解答練習５
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 7 回　問題解答練習６
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 8 回　問題解答練習７
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 9 回　問題解答練習８
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 10 回　問題解答練習９
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 11 回　問題解答練習10

類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。

第 12 回　問題解答練習11
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。

第 13 回　問題解答練習12
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。

第 14 回　問題解答練習13
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。

第 15 回　まとめと今後に向けて
本授業を学習者と共に振り返りながら、まとめを行う。
また、今後の日本語学習について、どのようにすべきかを指示する。

〔成績評価〕
授業での学習状況（約30%）、定期試験（約70%）で総合的に評価する。

〔教科書〕
プリントを配布する。

〔参考文献〕
授業中に適宜提示し、資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
【実務経験の活用】
国語教育での実務経験を活かした日本語教育を展開する。特に、既習の日本語学習者である留学生を対象とする日本語科目に応用する。

〔オフィスアワー〕
水曜日と木曜日にオフィスアワーを行います。
何か相談したい学生は事前にメールで連絡をお願いします。メールアドレスは nakanishi@ashiya-u.ac.jp です。場所は3階の研究室６です。

日本語Ⅱ②

4421
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
中西　　泰洋

〔到達目標〕
◎「日本語Ⅰ」に続き、大学での学習・研究活動に必要な日本語運用能力の基礎（日本語能力試験N1レベル）を習得することを目標とする。
◎日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと他の日本語授業科目と共に履修し、目標の達成を目指す。

〔授業の概要〕
◎日本語能力試験N1レベルの文章（新聞レベルの文章）を読みこなすことを通じて、「読む」「書く」の技能を高めるために、表現に多用される語彙の習得を図る。
◎読解文章のトピックについて、アクティブラーニングを取り入れた学習者同士あるいは学習者と教授者との話し合い等の学習活動を展開する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
◎予習もさることながら、特に、学習した文章を音読する復習を最低でも30分以上は必ずすること。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
本授業についての目標・進め方等について説明する。
日本語の学習方法についての指示等を与える。ポートフォリオを書かせる。

第 2 回　「科学」の定義
『99.9%は仮説』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 3 回　現代の若者のマナー
『若者の法則』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 4 回　親孝行な男の子
『日本のむかし話16』からの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 5 回　ゲーム依存症
「ゲームと子ども　依存の陰に空虚感」という文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 6 回　金融教育
「子供への金融教育」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 7 回　言語と文化
『ケジメのない日本語』からの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 8 回　ローソクの進化
「ローソクだって進化する」という文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 9 回　「割り勘」は当然？
「大学生コンパ　男３＋女３＝￥12,000　支払いは・・・」という文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 10 回　新聞記事１
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解す

ると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 11 回　新聞記事２
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 12 回　新聞記事３
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 13 回　新聞記事４
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 14 回　新聞記事５
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 15 回　まとめと今後に向けて
本授業を学習者と共に振り返りながら、まとめを行う。また、今後の日本語学習について、どのようにすべきかを指示する。

〔成績評価〕
授業での学習状況（約30%）、定期試験（約70%）で総合的に評価する。

〔教科書〕
プリントを配布する。

〔参考文献〕
授業中に適宜提示したり、資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
【実務経験の活用】
国語教育での実務経験を活かした日本語教育を展開する。特に、既習の日本語学習者である留学生を対象とする日本語科目に応用する。

〔オフィスアワー〕
水曜日と木曜日にオフィスアワーを行います。
何か相談したい学生は事前にメールで連絡をお願いします。メールアドレスは nakanishi@ashiya-u.ac.jp です。場所は3階の研究室６です。

日本語漢字・語彙Ⅱ

4424
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
島津　浩美

〔到達目標〕
中上級レベルの漢字300字とそれに関連する語彙を習得する。中上級レベルの漢字300字の読み書きができるようになる。また、合計950字程度の漢字と語彙を適切に使うことができるようになる。

〔授業の概要〕
テーマに沿って、日本語能力試験N2レベルに必要な漢字を毎回24字ずつ提示をし、その漢字を含んだ文を読んだり、書いたりして、定着を図る。特に中国語漢字との違いに留意する。
各課終了後に漢字の小テストを行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各回で習った漢字について練習し、正しく覚えておく。(40分)
次回に習う漢字の語彙を調べておく。(20分)

〔授業計画〕
第 1 回　日記で使う漢字
第 2 回　手紙・はがきで使う漢字
第 3 回　買い物で使われることば
第 4 回　空港の表示
第 5 回　テレビの番組表や映画の広告の表示
第 6 回　注意書きの表示
第 7 回　ガイダンスで使われることば
第 8 回　ポスターやお知らせの表示
第 9 回　発表やレポートで使うことば
第 10 回　論文で使われることば
第 11 回　体に関することば
第 12 回　日本の地理で使われることば
第 13 回　植物に関することば
第 14 回　地球に関することば
第 15 回　これまでのまとめ

〔成績評価〕
授業への参加度・態度　20%
小テスト　30%
期末試験　50%

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
佐藤尚子・佐々木仁子（2019）
『留学生のための漢字の教科書　中級700』［改訂版］ 国書刊行会
徳弘康代（2019）
『日本語学習のためのよく使う順漢字2200』

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②月曜日：　13:00～13:40、17:00～17:30

③場所：　授業前か4限終了後、講義の教室で対応します。
④連絡先：h-shimazu@ashiya-u.ac.jp にメールで連絡するか、Phollyのメッセージで質問・相談してください。
⑤その他：質問や相談がある場合は、事前にメールでアポイントを取ること。
基本的にはLMS科目になるので、質問等はメールで受け付け、次回の授業までに回答します。

日本語読解Ⅱ

2713
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
島津　　浩美

〔到達目標〕
大学の授業で必要な、専門的な文章を読んで内容を正確に把握し、その上で自分の考えを表現するといったことができるようになることを目指す。
〔授業の概要〕
テーマに関する2種類の文章を読んで、テーマについて考えたり、クラスメートとディスカッションをしたりして、テーマについて主体的に考える力を養う。具体的には「文章を読む」「自分の考えをまとめ、話す」「他者の考えを聞く」ということを行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
次の課の単語リストが配布されたら､意味を調べておく(30分)
授業で読んだテーマに関して、話し合ったり書いたりするため、授業中に考えがまとめられなかった場合は、まとめておく。(60分)
〔授業計画〕
第 1 回　テーマ１ 働かない働きアリ？①アリとキリギリス
第 2 回　テーマ１　働かない働きアリ？②働かないアリにも働き
第 3 回　テーマ2　血液型①　血液型占いは当たる？
第 4 回　テーマ2　血液型②　血液型で判断してもよいのか
第 5 回　テーマ3　ＩＴ社会①　両親との約束
第 6 回　テーマ3　ＩＴ社会②　ＩＴ断食
第 7 回　テーマ4　喫煙①　祖父とキセルの記憶
第 8 回　テーマ4　喫煙②　喫煙 VS 禁煙　解決は？
第 9 回　テーマ5　Kawaii①　世界共通語となった「カワイイ」
第 10 回　テーマ5　Kawaii②　ミッキーマウス VS キティ
第 11 回　テーマ6　子どもの名前①　個性はルールを守ってこそ
第 12 回　テーマ6　子どもの名前②　名前に込められた親の願い
第 13 回　テーマ7　高齢化の中で①　80歳で3度目のエベレストへ
第 14 回　テーマ7　高齢化の中で②　老人力
第 15 回　これまでのまとめ

〔成績評価〕
授業への参加度・態度　30%
課題・提出物　30%
定期試験　40%
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
清水正幸　奥山貴之　(2018)
『日本語学習者のための読解厳選テーマ10　中上級』 凡人社
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②月曜日：　13:00～13:40、17:00～17:30
③場所：　授業前か4限終了後、講義の教室で対応します。
④連絡先：h-shimazu@ashiya-u.ac.jp にメールで連絡するか、Phollyのメッセージで質問・相談してください。
⑤その他：質問や相談がある場合は、事前にメールでアポイントを取ること。
基本的にはLMS科目になるので、質問等はメールで受け付け、次回の授業までに回答します。

英語Ⅱ⑥

1506
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
山片　崇嗣

〔到達目標〕
・英語文献等を読むための基本的な英語力を養う。
・基本的な文法や語法を再確認し、英文構造の理解を定着する。
・様々な場面に応じたコミュニケーション力を高める。
〔授業の概要〕
・各章ごとに文法・語法事項の解説と問題を通じて、理解、定着、発展を深める。

※感染症対策等の理由からLMS授業になる場合もあります。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
到達目標に達するために、各章の文法事項を事前に予習し、効果的な授業の理解を目指す。また、授業後の復習を通じて、定着、発展を深める。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の目的・方針、評価方法などの紹介。

第 2 回　第６章　不定詞①
to不定詞の基本３用法

第 3 回　第６章　不定詞②

・不定詞の否定
・不定詞のさまざまな形

第 4 回　第７章　動名詞①
動名詞の働き

第 5 回　第７章　動名詞②
・動名詞のさまざまな形
・動名詞の意味上の主語

第 6 回　第８章　分詞①
・分詞の意味
・分詞の形容詞的用法

第 7 回　第８章　分詞②
・分詞形容詞
・分詞構文

第 8 回　第11章　形容詞
・限定用法
・叙述用法

第 9 回　第12章　副詞
・副詞の用法
・副詞があらわす意味と文中での位置

第 10 回　第13章　比較
・比較級と最上級の強調
・さまざまな比較表現

第 11 回　第14章　疑問詞・疑問文
・間接疑問
・付加疑問

第 12 回　第15章　前置詞①
時間と空間を表す前置詞

第 13 回　第15章　前置詞②
前置詞と接続詞の区別

第 14 回　前期授業のまとめ
第 15 回　定期考査

〔成績評価〕
１．授業参加度・課題
２．定期試験

〔教科書〕
「入門　英文法　問題精講　４訂版」（旺文社）
その他、必要に応じてプリント等を配布します。

〔参考文献〕
文部科学省　学習指導要領（最新版）
中学校　英語テキスト

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
時間：授業開始前の20分間
場所：教室または講師控室

視聴覚教育Ⅰ

4320
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位
西光　　晴彦

〔到達目標〕
・視聴覚教育の現状と課題について知る。
・視聴覚教育の今後の在り方について考察できる。

〔授業の概要〕
現代の子ども達は、技術革新により急激に発達した情報化社会の中で生活している。
マスメディアから発信される情報が子ども達に与えてきた影響を研究してゆく。そのために受講学生に毎授業終了から１週間のマスメディアの報道を興味深く観察させ次講義時に発表させ受講学生間で議論させる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：指定した配布プリントなどを熟読してくること。
復習：授業で学習した内容を復習し理解しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　教育と伝達①
人類社会における伝達方法の発達
第 2 回　教育と伝達②
人類社会における教育伝達の歴史
第 3 回　視聴覚教育の史的展開
学習指導における視聴覚教育的補助教材としての発達
第 4 回　視聴覚教育の語源
「視覚教育と視覚的方法」「視聴覚教育」「視聴覚的方法」
第 5 回　視聴覚教育の作用
全国視聴覚教育学会での最新発表論文の検証
第 6 回　視聴覚教育を活かした指導実践事例
公立小学校における国語科学習指導案
第 7 回　文字記号伝達について
文字記号伝達と映像記号伝達の比較調査①
第 8 回　映像記号伝達について
文字記号伝達と映像記号伝達の比較調査②
第 9 回　視聴覚的経験の構造
デールの経験の円錐（具体と抽象）
第 10 回　視聴覚メディアの変化とニューメディア
新しいメディアの登場への社会の情報化的状況の準備
第 11 回　サインとシンボル
新しいメディアの登場への社会の情報化的状況の準備
第 12 回　新しいメディアとしてのコンピュータ
計算機機能から電脳機能を有する発展
第 13 回　電子文房具としてのワープロ

コンピュータを作文の道具として活用することの注意
第 14 回　放送教育の変容情報伝達
システムの特性と進化における放送教育の是非
第 15 回　視聴覚教育の新しい展開
総括としての「視聴覚教育の新しい展開」の討議

〔成績評価〕
その他に講義平常点10%
小テスト20%
定期試験70%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
資料やプリントは講義中に随時配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
木曜日11：30～12：00

視聴覚教育Ⅱ

4320
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位
西光　　晴彦

〔到達目標〕
・視聴覚教育の現状と課題について知る。
・視聴覚教育の今後の在り方について考察できる。
・生涯学習としての視聴覚教育について考察できる。

〔授業の概要〕
現代の子ども達は、技術革新により急激に発達した情報化社会の中で生活している。
マスメディアから発信される情報が子ども達に与えてきた影響を研究してゆく。そのために受講学生に毎授業終了から１週間のマスメディアの報道を興味深く観察させ次講義時に発表させ受講学生間で議論させる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：指定した配布プリントなどを熟読してくること。
復習：授業で学習した内容を復習し理解しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　放送教育①
放送教育の沿革と放送局の種類・放送局の内容別区分
第 2 回　放送教育②
放送教育の特性と放送局の配置とネットワーク
第 3 回　教育放送番組の開始と発達
放送教育の歴史と背景社会情勢と放送開始
第 4 回　学校放送番組の利用
テレビ・ラジオ教材と他の視聴覚教材の違い
第 5 回　放送教育の今後の展開
録画機器の普及、教師の教材感の変化、放送以外の優れた教育メディアの出現
第 6 回　教授活動のモデルと教育機器
学習者の学習を効果的に成立させる様々な活動
第 7 回　コマーシャルメッセージ①
我が国のＣＭの歴史
第 8 回　コマーシャルメッセージ②
ＣＭに関する規定(時間制限・内容制限等)
第 9 回　コマーシャルメッセージ③
特殊なＣＭ・効果のあるＣＭ
第 10 回　生涯教育と視聴覚教育①
生涯教育の考え方と定義「生涯学習意欲向上のための視聴覚教育」
第 11 回　生涯教育と視聴覚教育②
日常生活における視聴覚メディアの利用
第 12 回　生涯教育と視聴覚教育③
生涯学習における視聴覚メディアの利用
第 13 回　生涯教育と視聴覚教育④
生涯教育とメディア活用能力の開発
第 14 回　視聴覚教育の新しい展開
総括としての「視聴覚教育の新しい展開」の討議
第 15 回　試験範囲の確認
重要ポイントの復習・告知

〔成績評価〕
その他平常点10%
小テスト20%
定期試験70%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
資料やプリントは講義中に随時配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
木曜日11：30～12：00

発達心理学Ⅰ

六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
岡野　太郎

〔到達目標〕
1. 胎生期から児童期までの人間の発達過程における心理・行動的特徴を理解し，他者へ適切に説明することができる。
2. 人間の発達過程において生じる様々な問題に対して，得た知識をどのように活かすのか，自ら探求することができる。
3. 人間の心身の働きやその変化に関心を持ち，得た知識を基に自己・他者を観察することを通じて，現代社会における諸問題を総合的に理解することができる。

〔授業の概要〕
本講義は，2年次生以上を対象に開講される専門教養科目であり，臨床教育学部のディプロマ・ポリシーにおける1及び3，経営教育学部のディプロマ・ポリシーにおける2及び4の獲得を目指すものである。
「少子高齢化」が進行している現代において，乳児期・児童期に限らず，高齢期までの発達に着目した「生涯発達」という視点の重要性が高まっている。本講義では，主に胎生期から児童期までの各時期において，人間の心身，認知機能，社会性，感情，対人関係における発達についての基礎的な知識や捉え方について，発達心理学の観点から理解を深めることを目的とする。
なお，本講義は教員の講義を中心として進行するが，内容に応じて視覚教材を使用する他，質問や意見等に対するフィードバックを適宜実施する等，可能な限り双方向・多方向性を持った講義となるよう努める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習（授業前までに1時間以上費やして実施すること）：各回の授業計画に記載のテーマについて，教科書の該当章を読む。その上で，必要に応じて文献やインターネットを利用し，疑問点などをノートに整理する。
復習（授業後に1時間以上費やして実施すること）：配布資料及び講義中に記したノートを読み返し，内容理解に努める。その上で，講義内容に関連したテーマについて，文献やインターネットを利用し調査し，ノートに整理する。
〔授業計画〕
第 1 回　**オリエンテーション**
・授業の進め方や成績評価について
・発達の定義，発達段階と発達課題
・発達をもたらす要因；遺伝と環境
・発達の研究方法
第 2 回　**受胎から誕生まで①**
・胎生期での感覚・運動の発達
・胎内における脳の発達
第 3 回　**受胎から誕生まで②**
・胎内環境による胎児への影響
・胎児期の子育て
第 4 回　**乳児期の発達①**
・乳児期における感覚・知覚・脳の発達
・認知機能の発達
第 5 回　**乳児期の発達②**
・乳児期における身体・運動・言語の発達
第 6 回　**乳児期の発達③**
・乳児期における子育て
第 7 回　**幼児期の発達①**
・幼児期における身体・運動の発達
・認知機能の発達
第 8 回　**幼児期の発達②**
・幼児期における言語の発達
・対人関係の発達
第 9 回　**幼児期の発達③**
・幼児期における子育て
第 10 回　**児童期の発達①**
・児童期における身体・運動の発達
・認知機能の発達
第 11 回　**児童期の発達②**
・児童期における対人関係の発達
・動機・意欲の発達
第 12 回　**児童期の発達③**
・児童期における子育て
第 13 回　**発達障害と臨床①**
・発達障害について；定型発達と非定型発達
・発達障害の分類
第 14 回　**発達障害と臨床②**
・発達障害の支援・治療
・発達障害の子育て
第 15 回　**統括**
「発達心理学Ⅰ」のまとめ，振り返り
〔成績評価〕
授業への積極的参加度（課題の提出状況，授業への取組態度に基づく）：30%
期末試験：70%
〔教科書〕
松田 信樹 (2018). 育ちと学びの心理学――こどもの成長に寄り添うために――　あいり出版
文部科学省 (2018). 高等学校学習指導要領
文部科学省 (2018). 高等学校学習指導要領解説 公民編
その他，適宜授業内において資料を配布する。
〔参考文献〕
三浦 正樹 (編) (2016). 発達と教育の心理学　八千代出版
林 創 (編) 下山 晴彦・佐藤 隆夫・本郷 一夫 (監修) (2019). 公認心理師スタンダードテキストシリーズ⑫ 発達心理学　ミネルヴァ書房
その他，授業内においても適宜紹介する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」、高一種（公民）、必修
〔オフィスアワー〕
各授業日の昼休み，または授業後に設定する。なお，場所は講義室とする。
連絡先：t-okano@ashiya-u.ac.jp

発達心理学Ⅱ

六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
岡野　太郎

〔到達目標〕
1. 思春期・青年期から老年期までの人間の発達過程における心理・行動的特徴を理解し，他者へ適切に説明することができる。
2. 人間の発達過程において生じる様々な問題に対して，得

た知識をどのように活かすのか，自ら探求することができる。
3. 人間の心身の働きやその変化に関心を持ち，得た知識を基に自己・他者を観察することを通じて，現代社会における諸問題を総合的に理解することができる。

〔授業の概要〕

本講義は，2年次生以上を対象に開講される専門教養科目であり，臨床教育学部のディプロマ・ポリシーにおける1及び3，経営教育学部のディプロマ・ポリシーにおける2及び4の獲得を目指すものである。

「少子高齢化」が進行している現代において，乳児期・児童期に限らず，高齢期までの発達に着目した「生涯発達」という視点の重要性が高まっている。本講義では，発達心理学における歴史や様々な理論に触れながら，思春期・青年期から老年期までの各時期において，人間の心身，認知機能，社会性，感情，対人関係における発達についての基礎的な知識や捉え方について，発達心理学の観点から理解を深めることを目的とする。

なお，本講義は教員の講義を中心として進行するが，内容に応じて視覚教材を使用する他，質問や意見等に対するフィードバックを適宜実施する等，可能な限り双方向・多方向性を持った講義となるよう努める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習（授業前までに1時間以上費やして実施すること）：各回の授業計画に記載のテーマについて，教科書の該当章を読む。その上で，必要に応じて文献やインターネットを利用し，疑問点などをノートに整理する。

復習（授業後に1時間以上費やして実施すること）：配布資料及び講義中に記したノートを読み返し，内容理解に努める。その上で，講義内容に関連したテーマについて，文献やインターネットを利用して調査し，ノートに整理する。

〔授業計画〕

第 1 回　**発達心理学とその関連領域**
- 授業の進め方や成績評価について
- 発達心理学とその関連領域

第 2 回　**発達心理学の歴史**
- 発達心理学の歴史

第 3 回　**発達心理学の理論**
- 発達心理学における諸理論

第 4 回　**思春期・青年期の発達①**
- 思春期・青年期における身体，認知機能，対人関係の発達

第 5 回　思春期・青年期の発達②
- 性的成熟について
- アイデンティティの確立とそれにまつわる諸問題
- 学びへの動機づけ

第 6 回　**思春期・青年期の発達③**
- 思春期・青年期特有のライフイベント；仕事，就職活動
- 思春期・青年期における不適応の問題について

第 7 回　**成人期の発達①**
- 青年期からの自立
- 知能・パーソナリティの発達

第 8 回　**成人期の発達②**
- 成人期特有のライフイベント；仕事，結婚

第 9 回　**中年期の発達①**
- 中年期特有のライフイベント；子育て
- 身体・パーソナリティの変化
- 家族関係の変化

第 10 回　**中年期の発達②**
- 中年期に生じる諸問題について
- 中年期から老年期への移行

第 11 回　**老年期の発達①**
- 身体・パーソナリティの変化
- 認知症とそれにまつわる諸問題について

第 12 回　**老年期の発達②**
- 老年期の介護とそれにまつわる諸問題について
- 死の受容

第 13 回　**発達障害と臨床①**
- 自閉スペクトラム症（ASD：Autism Spectrum Disorder）
- ASDに対する支援

第 14 回　**発達障害と臨床②**
- 注意欠如多動症（ADHD：Attention Deficit Hyperactivity Disorder）
- 限局性学習症（SLD : Specific Learning Disorder）
- ADHD，SLDに対する支援

第 15 回　**統括**
- 「発達心理学Ⅱ」のまとめ，振り返り

〔成績評価〕

授業への積極的参加度（課題の提出状況，授業への取組態度に基づく）：30%

期末試験：70%

〔教科書〕

松田信樹 (2018). 育ちと学びの心理学――こどもの成長に寄り添うために―― あいり出版

文部科学省 (2018). 高等学校学習指導要領

文部科学省 (2018). 高等学校学習指導要領解説 公民編

その他，適宜授業内において資料を配布する。

〔参考文献〕

三浦正樹 (編) (2016). 発達と教育の心理学 八千代出版

林創 (編) 下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 (監修) (2019). 公認心理師スタンダードテキストシリーズ⑫ 発達心理学 ミネルヴァ書房

その他，授業内においても適宜紹介する。

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」、高一種（公民）、選択

〔オフィスアワー〕

各授業日の昼休み，または授業後に設定する。なお，場所は講義室とする。

連絡先：t-okano@ashiya-u.ac.jp

環境と生物（1年教育・経営・上級生全学科対象）

2109
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
渡　　康彦

〔到達目標〕
生物の多様性と普遍性を解釈する。
生物の環境への適応を説明できる。
〔授業の概要〕
我々人間を含む生物の世界は多様である。様々な環境に対する生物の適応を生理的な面からみていくと普遍的な面もある。生物のいろんな環境、すなわち温度、水、酸素、光そして時間への適応様式を学んでいく。
当面の間オンデマンド授業が中心となるが、対面授業が可能な場合は学習者同士で話し合い、意見をまとめ発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
配布プリントを見直す（120分）
プリントでわからないこと、興味のあることなどを調べる（120分）
〔授業計画〕
第 1 回　はじめに
環境と生物でどのようなことを学んでいくかについて知る。
第 2 回　生物と温度（1）
変温動物と恒温動物は高温あるいは低温環境にたいしてどのように適応しているのかを考える。
第 3 回　生物と温度（2）
植物は高温あるいは低温環境にどのように適応しているのかを考える。
第 4 回　生物と水
生物の水の出入りを考える。
第 5 回　生物と乾燥
生物が乾燥にたいしてどのように適応しているのかを考える。
第 6 回　生物と酸素
生物の呼吸の仕組みと生物が低酸素状態へどのように適応しているのかを考える。
第 7 回　生物と光（1）
植物の光合成のしくみと光発芽種子、植物の光周性について考える。
第 8 回　生物と光（2）
動物の光周性について考える。
第 9 回　生物と光（3）
光周性のメカニズムについて考える。
第 10 回　地球の進化
地球誕生から地球環境の変化を考える。
第 11 回　生命の進化
生命誕生から生物の進化を考える。
第 12 回　オゾン層
生物への紫外線の影響とオゾン層破壊について考える。
第 13 回　地球温暖化
生物への地球温暖化の影響を考える。
第 14 回　生物と時間
体内時計の重要性を考える。
第 15 回　まとめ
環境と生物についての総括する。
〔成績評価〕
確認問題、レポート提出（60%）と期末試験（40%）にて評価する。
〔教科書〕
授業中に適宜プリントを配布する。
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
火曜日3時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

English Conversation Ⅰ

3424
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　前期
実務経験有
武田　亜希子

〔到達目標〕
正しい発音と日常でよく使われる表現を身につけ、英語でコミュニケーションを図ることができる力を養う。
〔授業の概要〕
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学習事項の復習し、毎回課題を提出
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、英語のリズムとイントネーションについて
第 2 回　Unit1 Hi, I'm Rina. ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 3 回　Unit1 Hi, I'm Rina. ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 4 回　Unit2 How do you spell that? ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 5 回　Unit2 How do you spell that? ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 6 回　Unit3 What's the time? ①

英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 7 回　Unit3 What's the time? ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 8 回　Unit4 Where are you from? ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 9 回　Unit4 Where are you from? ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 10 回　Unit5 What's your favorite food? ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 11 回　Unit5 What's your favorite food? ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 12 回　Unit6 How often do you get your hair cut? ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 13 回　Unit6 How often do you get your hair cut? ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 14 回　Unit7 What kind of music do you like? ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 15 回　Unit7 What kind of music do you like? ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。

〔成績評価〕
毎回の提出物　100%

〔教科書〕
New Getting Into English　南雲堂

〔参考文献〕
適宜プリントを配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕
授業計画及び成績評価については、今後の感染症対策によって授業形態変更の可能性があるため必ずしも確定的ではない。また、クラスの学習状況や理解度に合わせて若干の変更の可能性あり。

〔オフィスアワー〕
質問等は随時Phollyで受け付ける。

社会学概論 I

5301
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
翁　和美

〔到達目標〕
1. 受講生は、社会的存在である人間を理解できるようになる。
2. 受講生は、社会的人間を理解するための補助線となる社会学的用語や概念をあつかうことができるようになる。
3. 受講生は、積極的なstudy（ラテン語で、「熱意をもって追求する」が原義）の心構えを身につけるようになる。

〔授業の概要〕
「社会とはなにか」と問われれば、多くの人は、答えに窮するだろう。それは、自らが生まれ育ち所属する社会が私たちにとって自明であり、その自明性を問いかけることがないほど私たちが社会化されているからである。私たちは誰しもが社会的存在である。この講義では、社会的存在である人間を理解することを第一の目的にする。先人がいかに社会を明らかにし、それと向き合ってきたのかをたどるとともに、私たちが生きている現代社会の具体的な状況や文脈を取り上げて「社会とはなにか」を考えていく。とにかく受講生は深く思考することが求められる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各授業時間内で指示する内容にしたがって、授業内のポイントを要約する。

〔授業計画〕
第 1 回　社会と社会学
社会学の目的と本授業の目標を知る。
第 2 回　産業社会とその組織
近代化の過程とともに、産業社会の特徴について考える。
第 3 回　ジェンダー（社会的・文化的性差）
社会行為の根拠に潜む社会的・文化的性差を見い出す。
第 4 回　教育と学校制度
教育と学校の社会的機能の違いをとらえる。
第 5 回　近代国民国家と民族
近代国民国家の特徴から民族紛争の根本原因を理解する。
第 6 回　近代家族
都市化に注目しながら、現在の核家族化と少子化現象について検討する。
第 7 回　大衆社会
ナチスドイツの台頭を事例に、大衆社会の特徴を学ぶ。
第 8 回　逸脱ー選抜と排除の機制
逸脱に関する理論から社会学的発想を身につける。
第 9 回　文化と貧困
植林を事例に、環境保全ボランティアの「落とし穴」を発見する。
第 10 回　（応用1）自己決定・自己責任論
文化に関する現代社会のイデオロギーを脱構築する。
第 11 回　（応用2）他者関係性
安楽死・尊厳死を事例に、私的領域における関係性の課題を追究する。
第 12 回　（応用3）私的領域の社会化
文化に関する現代社会のイデオロギーならびに私的領域における関係性の課題を解決する糸口を手繰り寄せる。
第 13 回　（実践1）日常生活世界1

ルワンダならびに南アフリカの大量殺戮を事例に、多文化共存実現の手がかりを探る。

第 14 回　（実践2）日常生活世界2
医療の場に「日常生活世界」という社会形式を接ぎ木して、認知症患者と良好な関係を切り結ぶことを試みている事例を参照に、多文化共存実現のヒントを得る。

第 15 回　まとめ
別世界のあり方を構想・模索する力としての社会学をつかむ。

〔成績評価〕
授業内に行なうリアクション・ペーパーと小レポート（配分は40%）ならびに最終課題（配分は60%）で総合的に評価する。リアクション・ペーパーの配点は、回を重ねるにしたがって高くなる。到達目標1と2は、リアクション・ペーパーと小レポートの内容で評価する。到達目標3は、最終課題で評価する。リアクション・ペーパーのテーマは各回で異なるが、いずれも、他受講生の意見や授業内で行なうディスカッションを通じて深めた自身の考えを根拠づけて論理立てて表明する必要がある。最終課題は、受講生の発言内容とリアクション・ペーパーの内容に応じて決定する。

〔教科書〕
「特になし」
「平成29年・30年改訂学習指導要領の詳しい内容」（平成29年3月告示、文部科学省）（URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm）
「学習指導要領の趣旨実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びとの一体的な充実に関する参考資料」（平成33年6月告示、文部科学省）（URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiouen/mext_01317.html）

〔参考文献〕
「特になし」
「授業中に適宜資料を配布する」

〔履修条件〕
その他

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「社会学、経済学」、中一種（社会）、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「社会学、経済学（国際経済を含む。）」、高一種（公民）、必修

〔オフィスアワー〕
本授業は集中講義であるため、質問は授業時間内に受けつける。

教職総合演習Ⅳ-Ⅰ【数学】

7005
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4年
1単位　前期
笠原　　清次

〔到達目標〕
小学校学習指導要領解説算数編の要点を理解するとともに、学習指導の要となる数学の専門的な知識と教養を深めて、教科学習の指導力を向上することができる。

〔授業の概要〕
１．学習指導要領算数科の目標、内容及び指導上の留意事項の理解を深める。
２．数学の問題の解き方を話し合い、解く技能を高める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
１．基礎的な問題は，その都度問題集を用いて予習する。(30分)
２．授業終了後に毎回復習問題を課すので、翌週までに解く。（60分）

〔授業計画〕
第 1 回　学習指導要領
小学校学習指導要領解説算数編を読み，要点を調べる。

第 2 回　数学演習1
数学演習問題基礎（数と式）を解く。

第 3 回　数学演習2
数学演習問題応用（数と式）を解く。

第 4 回　数学演習3
数学演習問題基礎（方程式の利用）を解く。

第 5 回　数学演習4
数学演習問題応用（方程式の利用）を解く。

第 6 回　数学演習5
数学演習問題基礎（関数）を解く。

第 7 回　数学演習６
数学演習問題応用（関数）を解く。

第 8 回　数学演習７
数学演習問題基礎（平面図形）を解く。

第 9 回　数学演習８
数学演習問題応用（平面図形1）を解く。

第 10 回　数学演習９
数学演習問題応用（平面図形2）を解く。

第 11 回　数学演習１０
数学演習問題基礎（空間図形）を解く。

第 12 回　数学演習１１
数学演習問題応用（空間図形）を解く。

第 13 回　数学演習１２
数学演習問題基礎（確率）を解く。

第 14 回　数学演習１３
数学演習問題応用（確率）を解く。

第 15 回　学習のまとめ
自己の課題に挑戦する。

〔成績評価〕
テスト（６０％）
学習姿勢・態度（４０％）
〔教科書〕
小学校学習指導要領解説算数編（平成29年7月　文部科学省）
中学総合的研究問題集　数学　三訂版（旺文社）
〔参考文献〕
授業ごとに問題プリントを配付する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ
〔備考〕
参考文献の問題集３冊は購入し，自学課題とする。
〔オフィスアワー〕
①前　期：月曜日と火曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

演習Ⅰ【ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ･ﾃﾞｻﾞｲﾝ研究】

8348
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
井上　徹

〔到達目標〕
デザインと経営・マネジメントの関係づけて、活用できることを目標とします。
1.社会の動向を分析する力を身につける。
2.自ら考える力を身につける。
3.デザイン・ビジネスセンスを身につける。
4.ビジュアルデザインの基礎制作を方法を知る。
〔授業の概要〕
デザイン分野は、宇宙・地球レベルから国や地域、都市、そして私たちの日常生活の隅々まで広がっている。
専門分野別のデザインと、“広く・新しい”視野により「デザイン」「マネジメント」を、学生生活を通して学びます。
　演習・研究では、基礎的なデザインの意味・重要性を知り、自主的なデザイン分野選択により、社会・企業の中で、どのようなデザイン・知識が必要であるかを活用できる人材の育成を行います。

・研究・調査・実習等の発表・合評・ディスカッション・ディベート。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：テレビ・新聞・WEBなどを通して興味のある情報に注目し、情報収集を行う。(120分程度)
復習：各回の演習で課題として残された問題点などを次回までにまとめる。(120分程度)
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　・講義内容説明・進め方
第 2 回　ビジュアルデザイン基礎1
　　・画面構成1直線
第 3 回　ビジュアルデザイン基礎2
　　・画面構成2曲線
第 4 回　合評会
　　・作品発表・ディベート
第 5 回　ビジュアルデザイン基礎3
　　・色彩構成1
第 6 回　ビジュアルデザイン基礎4
　　・色彩構成2
第 7 回　合評会
　　・作品発表・ディベート
第 8 回　ブランディング1
　　・企業・ブランド調査研究
第 9 回　ブランディング2
　　・フィールドワーク
第 10 回　合評会
　　・研究発表・ディスカッション
第 11 回　エクスペリエンスデザイン1
　　・事例調査・研究
第 12 回　エクスペリエンスデザイン2
　　フィールドワーク
第 13 回　合評会
　　・研究発表・ディスカッション
第 14 回　デザインコンペ
　　・コンペ出品検討：テーマ・作品など
第 15 回　まとめ・総括
　　・講義のまとめ
　　・試験について
〔成績評価〕
研究・作品の完成度（40%）
プレゼンテーション（30%）
発表・ディスカッション・ディベートへの参加度（30%）
〔教科書〕
特になし。
〔参考文献〕
特になし・授業中に適宜資料を配布。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
1.学　期：前期・後期
2.日　時：授業終了後／水曜日14：00～15：00
3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室
4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能

5.その他（相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は

携帯番号等）5.相談内容

②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。

③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

English ConversationⅡ

3424
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
武田　亜希子

〔到達目標〕
正しい発音と日常でよく使われる表現を身につけ、英語でコミュニケーションを図ることができる力を養う。
〔授業の概要〕
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学習内容を復習し、毎回課題を提出
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方について
第 2 回　Unit8 Who's older, you or your sister? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 3 回　Unit8 Who's older, you or your sister? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 4 回　Unit9 How was your weekend? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 5 回　Unit9 How was your weekend? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 6 回　Unit10 Have you ever been abroad? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 7 回　Unit10 Have you ever been abroad? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 8 回　Unit11 What kind of movies do you like? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 9 回　Unit11 What kind of movies do you like? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 10 回　Unit12 What's the weather going to be like? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 11 回　Unit12 What's the weather going to be like? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 12 回　Unit13 What's your favorite coffee shop? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 13 回　Unit13 What's your favorite coffee shop? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 14 回　Unit14 Do you have a part time job? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 15 回　Unit14 Do you have a part time job? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
〔成績評価〕
毎回の提出物　100%
〔教科書〕
New Getting Into English　南雲堂
〔参考文献〕
必要に応じてプリントを配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
授業計画及び成績評価については、今後の感染症対策によって授業形態変更の可能性があるため必ずしも確定的ではない。また、クラスの学習状況や理解度に合わせて若干の変更の可能性あり。
〔オフィスアワー〕
質問等は随時Phollyで受け付ける。

日本教育史

1028
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
廣岡　　義之

〔到達目標〕
日本における古代から現代までの教育の流れをたどり発展の軌跡を追うことによって未来の望ましい教育を構想する。
〔授業の概要〕
日本の教育を、①古代、中世の教育　②明治、大正時代の教育　③昭和、平成時代の教育と区分することによって、最終的に現代の日本の教育がどうしてこのような形で実現されているのかを再検証する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テキストに沿って進むので、毎回予習・復習を行うこと。
毎回発表（プレゼンテーション）を課すので、内容を事前に調べておくこと。(90分)
特に復習においては、人物名や事項についての発展的学習を行うこと。(90分)
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
講義の進め方、試験方法等について理解する。
第 2 回　古代の教育制度と教育の歴史
大和時代、奈良時代、平安時代の教育と教育制度について理解する。
第 3 回　中世の教育制度と教育の歴史
中世の教育と教育制度について理解する。
第 4 回　明治維新と教育（1）
学制、学校令について、詳細に説明することができる。
第 5 回　明治維新と教育（2）
師範学校について詳細に説明することができる。
第 6 回　近代国家の確立と教育（1）
教育勅語について詳細に説明することができる。
第 7 回　近代国家の確立と教育（2）
学校教育制度の整備と拡充について詳細に説明することができる。
第 8 回　大正ﾃﾞﾓｸﾗｼｰと教育
大正自由教育運動、八大教育主張について理解する。
第 9 回　戦時下体制の教育
国民学校と青年学校、学徒動員等、戦時体制下の特徴を説明することができる。
第 10 回　戦後の教育政策（1）
占領軍の管理政策、アメリカ教育使節団、について説明を加えることができる。
第 11 回　戦後の教育政策（2）
教育法規の制定、単線型学校体系について説明を加えることができる。
第 12 回　1950～80年代の教育制度の状況
1950年代～80年代の特徴について説明を加えることができる。
第 13 回　2000年以降の教育制度の状況
2000年以降の教育改革の諸相を理解する。
第 14 回　改正教育基本法について
改正教育基本法の特徴について解説することができる。
第 15 回　教育制度と教職員
教職員をとりまく制度と環境について解説することができる。
定期試験
〔成績評価〕
講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。
〔教科書〕
広岡義之他著『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』ミネルヴァ書房、2019
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
Phollyのメッセージで相談・質問をしてください。

簿記論

6101
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
加茂川　悠介

〔到達目標〕
簿記論では、帳簿への記帳の仕方、および１年間の利益を計算することを目的に決算整理仕訳と精算表を経て損益計算書と貸借対照表が作られる迄の理解がテーマです。

ビジネスを語るうえで欠かせない１年間の利益の計算方法について、商業簿記３級の範囲内の知識の習得が到達目標となります。
〔授業の概要〕
商業簿記３級の範囲となる、商品売買取引から帳簿記帳等や決算整理仕訳までを学習し､本決算までを題材に講じます。

講義と演習を行うため、毎回下記持参のこと。
テキスト
電卓（１２桁電卓が望ましい)。
筆記用具
(鉛筆又はシャープペンシル・消しゴムなど)
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習は望ましいですが効率的ではないので、復習に重点を置いてください。問題を解くことが効果的な復習になるので、テキストに記載されている問題を解くこと。望ましくは参考文献に指定した問題集を解くこと。どのテーマにおいても、自分の力で「仕訳を切ることができるかどうか」意識しながら勉強してください。

〔授業計画〕
第 1 回　商品売買
商品売買における仕訳について学習します。
第 2 回　現金
現金に関する仕訳を学習します。
第 3 回　普通預金等
預金関係について、仕訳を学習します。
第 4 回　小口現金
小口現金に関する仕訳について学習します。
第 5 回　手形と電子記録債権（債務）
手形と電子記録債権（債務）について学習します。
第 6 回　貸付金・借入金
貸付金や借入金について学習します。
第 7 回　その他の債権債務
商品以外のものを後払いで買ったときの仕訳などを学習します。
第 8 回　その他の費用
消耗品などを買ったときの仕訳を学習します。
第 9 回　貸倒れと貸倒引当金
貸倒引当金について学習します。
第 10 回　有形固定資産と減価償却
有形固定資産と減価償却について学習します。
第 11 回　株式の発行、剰余金の配当と処分
株式の発行や剰余金の配当と処分について学習します。
第 12 回　法人税等と消費税
税金関係の仕訳について学習します。
第 13 回　費用・収益の前払い・前受けなど
費用や収益の見越・繰延を学習します。
第 14 回　財務諸表
財務諸表の作成について学習します。
第 15 回　総まとめ
商業簿記３級で学習した範囲の総まとめ。
〔成績評価〕
期末筆記試験（１００％）
〔教科書〕
スッキリわかる日商簿記３級　第１２版
（TAC出版　滝澤ななみ著　１，０００円＋税）
〔参考文献〕
授業では使いませんが復習用に指定します。
よくわかる簿記シリーズ合格トレーニング
日商簿記３級　Ver.12.0
（TAC出版　簿記検定講座編著　１，６５０円）
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
講義の前後で質問等の対応を行います。

バレエの基礎知識Ⅰ

1807
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
新谷　佳冬

〔到達目標〕
イタリアンバレエメソッドの伝統的な教授法によるテクニックを身につける。現代の運動生理学的・解剖学的な見地からそのメカニズムを説明できるようになる。自主学習法を理解し、習得する。バレエ用語の原語表記法を正確に、かつ自由に読み書きできるようなる。
〔授業の概要〕
チェケッティメソッドのレッスンマニュアルを実技で学習しながら、バレエの動きのメカニズムとその練習法を、身体的に、また理論的に理解する。また、フランス語で書かれたバレエ用語の表記と正しい使い方を学習する。セオリー（理論）とボキャブラリーを理解する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
フランス語で書かれた教科書を読みながら、授業で学習したエクササイズを練習する。
自己評価や反省をノートにつける。エクササイズのCD音楽を聴き、リズムを覚える。
〔授業計画〕
第 1 回　前期到達目標について
オリエンテーリング、授業の進め方及び前期到達目標についての説明。
実技ウォームアップの仕方について。
第 2 回　イタリアバレエの伝統とチェケッティ
バレエの歴史上重要な発見と文献を遺したブラシスと、その系統にあるチェケッティの功績及び足跡を知る。前期の課題と到達目標についての説明。（LMS授業）
第 3 回　プリエとバトマンの動き
プリエ、バトマン・タンデュ、バトマン・デガジェ、バトマン・ジュテ、グラン・バトマンのエクササイズの練習法とその理論的メカニズムを理解し、その注意点を確認しながら演習する。また、その分類と用語の正しい使い方と表記方法を学習する。
第 4 回　ロン・デ・ジヤンブの動き
ロン・デ・ジヤンブ・ア・テール、ロン・デ・ジヤンブ・アン・レールについて同様に学ぶ。
第 5 回　フラッペ、フォンジュ、フェッテの動き
バトマン・フラッペ、プチ・バトマン、バトマン・フォンジュ、フェッテ・ア・テールについて同様に学ぶ
第 6 回　バーでのアダージ
アダージ（バー）について同様に学ぶ
第 7 回　ポー・ド・ブラとセンタープラクティス
ポー・ド・ブラについて同様に学ぶ。
第 8 回　セオリー

ポードブラの法則、セオリーについて学ぶ。(LMS授業)
第 9 回　センターでのアダージ
センターでのアダージについて同様に学ぶ。
第 10 回　ピルエット
ピルエットについて同様に学ぶ。
第 11 回　プチ・アレグロとミディアムアレグロ
プチ・アレグロとミディアムアレグロについて同様に学ぶ。
第 12 回　アレグロボキャブラリー
アレグロボキャブラリーについて学ぶ。(LMS授業)
第 13 回　グラン・アレグロとトゥールズ・オン・ディアゴナル
グラン・アレグロとトゥールズ・オン・ディアゴナルについて同様に学ぶ。
第 14 回　ポアントワーク
ポアントワークについて同様に学ぶ。
第 15 回　実技試験
実技試験

〔成績評価〕
実技試験６０％
提出物４０％

〔教科書〕
Cecchetti Intermediate Examination Specification , Imperial Society of Teachers of Dancing

〔参考文献〕
Cecchetti Manual, Imperial Society of Teachers of Dancing

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②月曜日11:40-12:00
③授業前、講義教室
④shintani@ashiya-u.ac.jp

バレエ理論Ⅰ

1827
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
新谷　佳冬

〔到達目標〕
バレエを舞台芸術として捉え、その歴史とともに構成要素を分析しながら鑑賞できるようになる。舞台芸術の伝統的な手法を知り、それらを使った振付を再現できるようになる。現代における表現方法の多様性について討議できるようになる。

〔授業の概要〕
バレエの振付の手法の変遷を時代ごとに学び、その効果や役柄について実際にどのように作品の中で使われているかを理解する。バレエマイムはボキャブラリーを学ぶ。ポアントワーク、パ・ド・ドゥやコールド・バレエはＤＶＤ鑑賞し、理論を理解するとともに、現在の観客としてお互いの意見を述べ合う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ボキャブラリーを自主学習する。(2時間）授業で扱う古典作品のDVDやバレエ公演などを鑑賞し、作品鑑賞ノートをつける。(演目・公演場所・出演・振付・音楽・美術・脚本・演出・感想などを書く。2時間))

〔授業計画〕
第 1 回　バレエの歴史　1
イタリアルネサンスからフランス宮廷へ
第 2 回　バレエの歴史　2
パダクシオンとノベールの時代　(LMS授業)
第 3 回　バレエの歴史　3
ロマンティックバレエの時代
第 4 回　バレエの歴史　4
ロシア・インペリアルバレエの時代
第 5 回　バレエの歴史　5
ディアギレフバレエの時代と20世紀のバレエ
第 6 回　バレエ作品における役柄の種類
クラシカル、デミ・キャラクテール、キャラクテールの役柄の分け方を学ぶ。
第 7 回　バレエマイム　1
マイムの役割とボキャブラリー
第 8 回　バレエマイム　2
古典作品からのマイムシーン（LMS授業）
第 9 回　コールド・バレエ　1
白鳥の湖のコールド・バレエの手法と効果　鑑賞とディスカッション
第 10 回　コールド・バレエ　2
バヤデールのコールド・バレエの手法と効果
第 11 回　コールド・バレエ　3
弦楽セレナーデのコー・ド・バレエの手法と効果
第 12 回　ポアントワークとその視覚的効果
ポアントシューズの登場とラ・シルフィード(LMS授業)
第 13 回　パ・ド・ドゥ　1
プティパ作品におけるパ・ド・ドゥの手法
第 14 回　パ・ド・ドゥ　2
現代作品におけるパ・ド・ドゥの手法
第 15 回　試験
筆記試験

〔成績評価〕
試験評価６０％
提出物　４０％

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
バレエ創作ハンドブック　名作にみる振付と表現の技法　J.ローソン著　大修館書店
バレエ誕生から現代までの歴史　薄井憲二著

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②月曜日15:20-15:40
③授業後、講義教室
④shintani@ashiya-u.ac.jp

バレエの基礎知識Ⅱ

1807
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
新谷　　佳冬

〔到達目標〕
バレエのボキャブラリーを類別できるようになる。バレエの動きの解剖学について説明できるようになる。代表作品の音楽やダンスリズムの特徴を理解しその使い方や判別が可能になる。
〔授業の概要〕
バレエのボキャブラリーを実技で学び、ボキャブラリー表を作成する。
バレエに関する解剖学用語を学ぶ。レッスン曲や代表作品の音楽やダンスリズムが聞き分けられるようになる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ボキャブラリー表をＰＣで作成しながら、記憶する。(2時間)
バレエの解剖学についての本を読む。(2時間)
〔授業計画〕
第 1 回　ボキャブラリーとそのリズム　1
Adage steps
第 2 回　ボキャブラリーとそのリズム　2
Linking steps
第 3 回　ボキャブラリーとそのリズム　3
Pirouette steps
第 4 回　ボキャブラリーとそのリズム　4
Allegro steps
第 5 回　ボキャブラリーとそのリズム　5
Grands Allegro steps
第 6 回　ボキャブラリーとそのリズム
第 7 回　バレエの解剖学 1
骨格と骨
第 8 回　バレエの解剖学　2
筋肉
第 9 回　バレエの解剖学　3
関節と動き
第 10 回　バレエの解剖学　4
ボディベーシック
第 11 回　バレエの音楽　1
音楽形式について
第 12 回　バレエの音楽　2
ダンスリズムについて
第 13 回　バレエの音楽　3
古典作品の音楽について
第 14 回　バレエの音楽　4
現代作品の音楽について
第 15 回　実技試験
ボキャブラリーの実技試験と、ダンスリズム及び解剖学についての口頭試問
〔成績評価〕
実技試験＋口頭試問　６０％
ボキャブラリー表（提出物）４０％
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
やさしいダンスの解剖学　スパージャー著　大修館書店
ダンステクニックとケガ　　ハウス著　　大修館書店
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②月曜日11:40-12:00
③授業前、講義教室
④shintani@ashiya-u.ac.jp

バレエ理論Ⅱ

1827
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
新谷　　佳冬

〔到達目標〕
バレエを総合芸術的に分析して理解できるようになる。特徴別よって分類し作品の意図を類推できる。それぞれの手法によって得られる効果を説明できる。観客の心理や流行についての考察をもって、自分たちの舞台製作に反映できるようになる。
〔授業の概要〕
作品分析に必要な舞台関係の用語や仕組みを学ぶ。構成・振付・音楽・脚本・衣装などの側面から特徴あるバレエを分析し、表を作成する。それぞれの手法によってどのような効果があるかを学び、それがどのように組み合わされて感動に至るのかについて自分の意見をまとめ、クラス全体でデスカッションする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
構成要素に基づいた表をＰＣで完成させる（2時間)）。自分の作品鑑賞ノートを振り返り、自分の意見をまとめる。(2時間)
〔授業計画〕
第 1 回　総合芸術としてのバレエ
バレエの成り立ち（舞台空間＋身体の動き＋演劇＋文学＋音楽＋美術）を学ぶ。
第 2 回　舞台の設備

舞台の仕組み、用語、大道具などの装置について学ぶ。
第 3 回　バレエでの幕の使用法について
各幕の名称と使い方と効果を学ぶ。
第 4 回　舞台照明の発達と役割
舞台の照明方法について学ぶ。
第 5 回　音響について
音響設備と、音響の使い方について学ぶ。
第 6 回　現代の舞台の新しい装置
レーザー光線＋音響、マッピングなどの効果について学ぶ。
第 7 回　身体的表現としてのバレエ　1
バレエの古典的なルールThe Principle Rules of Classical Techniqueを理解する。
第 8 回　身体的表現としてのバレエ　2
アブストラクトなバレエ。身体のみで表現する作品を評価する。
第 9 回　演劇的表現としてのバレエ
どのようにツールである肉体を駆使し、言語によらないstory tellingを可能としているのかを、ポーズを意味あるボディランゲージとして理解する。
第 10 回　卒業公演の作品について　1
自分たちが手掛けた卒業公演の作品について、どのような特徴があるといえるかを、デスカッションする。
第 11 回　卒業公演の作品について　2
自分たちが手掛けた卒業公演の全体的評価と改善点をデスカッションする。
第 12 回　文学的表現としての代表的なバレエ作品例
「a month in the country」(Royal Ballet)を鑑賞し、どのように文学が再現されているかをみる。
第 13 回　音楽を表現するバレエとして代表的な作品例
バランシンのシンフォニーインC（New York City Ballet）を鑑賞し、音楽と動きの関係をみる。
第 14 回　絵画的なバレエとして代表的な例
ピカソが美術を担当した「パラード」(ディアギレフ・バレエ)を鑑賞し、どのように絵画的な要素がバレエに作用したのかをみる。
第 15 回　プレゼンテーション
バレエ作品の特徴に沿ってまとめた一覧表を、プレゼンテーションする。

〔成績評価〕
提出物４０％
プレゼンテーション６０％

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②月曜日15:20-15:40
③授業後、講義教室
④shintani@ashiya-u.ac.jp

現代教育学入門

2327

経営教育学部 > 経営教育学科
1年
2単位　後期
月曜 4限
林　　泰子

〔到達目標〕
1.　教育の役割と基礎知識について説明することができる。
2.　現代の教育の課題について、自らの意見で指摘することができる。
3.　人間・教育・社会の関連について関心を持ち自ら調べる姿勢を持つ。
4.　人間・教育・社会の関連について、課題に対する自分の考えを述べることができる。
５．現代の社会問題から、人間教育に関する自分の考えを述べることができる。

〔授業の概要〕
時代の流れやその国の方向性によって教育も変化していく。人間にとって教育とは何か・・・　教育の基礎知識をもとに、学校教育から企業教育までの多様な教育活動を取り上げ、社会やビジネスでの教育活動に着目して考察していく。また、現代の社会問題から、人間性の育成についても考察していく。
適時、アクティブラーニングを取り入れ、他者との意見交換を通して、多様化する社会の一員として成長していく在り方を探究する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業内容に関する関心あるテーマについて自主的に文献や新聞記事、報道などで情報収集し、十分な授業外学習によって学習成果を高めること。（授業準備90分、授業後のまとめ90分）

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
授業の概要・進め方と注意、成績評価の説明
第 2 回　教育の意味と意義
人間形成と教育、教育と社会
第 3 回　教育実践の基礎理論
学校教育、行動主義と構成主義
第 4 回　キャリアアップ
キャリアアップを支援する様々な教育活動
第 5 回　企業における教育の必要性
人材育成とは？、OJT（On-The-Job Training）
第 6 回　生涯教育と社会いのちの教育
命とは？、いじめ問題、食物廃棄
第 7 回　日本の若者像と教育

学力と学習意欲、自己肯定感

第 8 回　現代人のストレス
様々なストレッサー、ストレスチェック
第 9 回　自分の論文のテーマを考える
先行研究の調べ方、論文検索エンジン
第 10 回　道徳教育と日常のマナー
社会と人間関係、人間性の育成
第 11 回　人間関係とコミュニケーション
ビジネスマナー、報・連・相の必要性
第 12 回　イノベーティブな感性を磨く１
柔軟な思考と課題の検討

第 13 回　イノベーティブな感性を磨く２
論理的な目的達成の手法

第 14 回　イノベーティブな感性を磨く3
論理的な目的達成計画の作成
第 15 回　総括
課題発表と振り返り

〔成績評価〕
・課題提出物　60%
・レポート試験　30%
・授業への取り組み・態度　10%

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜紹介する

〔履修条件〕
その他

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日：11:00～12:00
③研究室
④y.hayashi@ashiya-u.ac.jp
⑤研究室に来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください。
　質問等は、基本的には授業終了後に講義教室で対応します。
　それ以降は、メールで受け付けます。

情報環境論

2232

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1年
2単位　後期
木曜 3限
林　　泰子

〔到達目標〕
・情報の特性について説明することができる。
・情報社会の技術革新と、その利便性・脆弱性について説明することができる。
・情報倫理に関する法や規制について、基本的な要点を説明することができる。
・情報社会の問題事象に対し、他者や社会を考慮した考えを実践することができる。

〔授業の概要〕
情報社会において、情報端末機器、情報コンテンツ、人工知能技術などの様々な技術革新が目覚ましく発展している。そのような環境の利便性・危険性について問題意識をもって学修する。情報と人間、情報と技術、情報と社会生活という３つの側面から概括し、情報の扱いに対する技術的、倫理的問題などを、アクティブラーニングを適宜取り入れ検討する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業内容に関するテーマについて、自主的に文献や新聞記事、報道などで情報収集しまとめておくことが望ましい。十分な授業外学習によって学習成果を高めること。
（授業準備90分、授業後のまとめ90分）

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
授業の概要・進め方と注意、成績評価の説明
第 2 回　情報とは？
情報の特性

第 3 回　情報の可視化
情報のつながりを分析する、自分の情報を分析
第 4 回　メディアの多様性
メディアの概念、マルチメディア、AI技術

第 5 回　情報セキュリティ
情報セキュリティと対策
第 6 回　情報倫理教育
情報倫理と道徳観
第 7 回　ソーシャルメディアとは？
ソーシャルメディアとコミュニケーション

第 8 回　メディア・リテラシー
メディア・リテラシーの概念

第 9 回　情報の捉え方を考える
言語情報、視覚情報
第 10 回　デジタルインフルエンス
デジタル環境の影響
第 11 回　ネット社会と情報
ソーシャルネットワーク時代の情報発信

第 12 回　ビッグデータ
ビッグデータとは？　ビッグデータの活用と分析
第 13 回　情報を読み取る力
情報を読み取り推察する力、物語構成

第 14 回　情報の真実を読み取る力

報道と情報、フェイクニュース

第 15 回　まとめ
今までの授業の振り返り

〔成績評価〕
・課題提出物　60%
・レポート試験　30%
・授業への取り組み・態度　10%

〔教科書〕
授業内で適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜紹介する

〔履修条件〕
その他

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日：11:00～12:00
③研究室
④y.hayashi@ashiya-u.ac.jp
⑤研究室に来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください。
　質問等は、基本的には授業終了後に講義教室で対応します。
　それ以降は、メールで受け付けます。

環境経営Ⅰ

5313
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
3年
2単位　前期
月曜 1限
池田　　聡

〔到達目標〕
CSR環境と経営
地球環境問題と対策
企業におけるCSRの取組とそのガイドライン
上記の内容を目標とする

〔授業の概要〕
CSR環境と経営の基礎知識を学習する。
ネイチャーゲームやSDGｓカード等を用いたアクティブラーニング。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で指定した課題の復習（2時間）
講義内で指定した課題の予習（2時間）
毎回講義内で課題資料を配布。

〔授業計画〕
第 1 回　はじめに
環境経営Ⅰでなにを学ぶのか導入
第 2 回　地球環境問題の推移Ⅰ
地球温暖化、大気汚染、オゾン層の破壊、水・土壌汚染現状と対策
第 3 回　地球環境問題の推移Ⅱ
化学物質と遺伝子の組み換え、生物多様性破壊と対策
第 4 回　地球環境問題の推移Ⅲ
都市化と発展途上国の諸問題
第 5 回　日本の環境問題と国内対策Ⅰ
日本の環境問題の推移、温暖化防止対策とエネルギー対策
第 6 回　日本の環境問題と国内対策Ⅱ
日本の生物多様性対策、廃棄物対策、その他諸問題
第 7 回　企業とCSRⅠ
企業とCSR環境の具体的取組
第 8 回　企業とCSRⅡ
日本の企業とCSRの具体的取組
第 9 回　日本の環境関連法Ⅰ
環境関係規制法、補助金・助成金の概要
第 10 回　日本の環境関連法Ⅱ
中小企業に対するCSRへの取組推進制度
第 11 回　中小企業経営
中小企業経営の現状について
第 12 回　世界の取組Ⅰ
環境関連法の推移と現状
第 13 回　世界の取組Ⅱ
世界のCSRの推移と主要国の取組
第 14 回　日本と世界の比較
日本と世界のCSRの取り組みについての比較
第 15 回　全体のまとめ
全体のまとめと定期試験の説明

〔成績評価〕
レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

環境経営Ⅱ

5313
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
3年
2単位　後期
月曜 2限
教育_選択
池田　　聡

〔到達目標〕
CSR環境と経営
地球環境問題と対策

企業におけるCSRの取組とそのガイドライン
上記の内容を目標とする
〔授業の概要〕
CSR環境と経営の応用知識を学習する。
ネイチャーゲームやSDGｓカード等を用いたアクティブラーニング。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で指定した課題の復習（2時間）
講義内で指定した課題の予習（2時間）
毎回講義内で課題資料を配布。
〔授業計画〕
第 1 回　はじめに
　　環境経営Ⅱで何を学ぶのか導入
第 2 回　企業とCSR環境Ⅰ
　　二酸化炭素排出量削減の取組
第 3 回　企業とCSR環境Ⅱ
　　産業廃棄物の処理と3Rの取組
第 4 回　企業とCSR環境Ⅲ
　　水使用量の削減と水汚染の取組
第 5 回　企業とCSR環境Ⅳ
　　化学物質の適正な取扱いへの取組
第 6 回　企業とCSR環境Ⅴ
　　大気・土壌汚染防止の取組
第 7 回　企業とCSR環境Ⅵ
　　生物多様性保全の取組
第 8 回　企業とCSR環境Ⅶ
　　CSRへの取組
第 9 回　企業とCSR環境Ⅷ
　　CSR環境に関する社内教育
第 10 回　企業経営Ⅰ
　　企業経営の基礎、環境経営
第 11 回　企業経営Ⅱ
　　環境マーケティング
第 12 回　企業経営Ⅲ
　　環境配慮型商品
第 13 回　企業経営Ⅳ
　　環境会計と企業会計
第 14 回　企業経営Ⅴ
　　環境コミュニケーション
第 15 回　全体のまとめ
　　全体のまとめと定期試験の説明
〔成績評価〕
レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

観光地理学

3240
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
1年
2単位　後期
経営_選択
池田　　聡

〔到達目標〕
地理的考察の基礎知識
地図でとらえる現代世界
産業地域と観光地理の理解
上記の内容を目標とする
〔授業の概要〕
地理的考察の基礎知識を学習する。
ネイチャーゲームやSDGｓカード等を用いたアクティブラーニング。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で指定した課題の復習（2時間）
講義内で指定した課題の予習（2時間）
毎回講義内で課題資料を配布。
〔授業計画〕
第 1 回　観光地理学で何を学ぶかについて
　　観光地理学で何を学ぶかについての導入
第 2 回　地理的視野について
　　基礎的な地理的視野について学習する
第 3 回　地球と地図
　　地球と地図について学習する
第 4 回　地図の種類
　　多様な地図についてその用途を学ぶ
第 5 回　地域区分の目的と方法Ⅰ
　　地図の用途について学習する
第 6 回　地域区分の目的と方法Ⅱ
　　地図の用途について学習する
第 7 回　世界の地形Ⅰ
　　世界の地形について学習する
第 8 回　世界の地形Ⅱ
　　世界の気候・土壌・植生について学習する
第 9 回　世界の地形Ⅲ
　　自然環境と人々の生活について学習する
第 10 回　世界の地形Ⅳ
　　自然災害と人々の生活について学習する
第 11 回　産業地域の立地と変容Ⅰ
　　産業と観光について学習する
第 12 回　産業地域の立地と変容Ⅱ
　　農牧業について学習する
第 13 回　産業地域の立地と変容Ⅲ
　　林業と水産業について学習する
第 14 回　産業地域の立地と変容Ⅳ
　　鉱工業について学習する
第 15 回　全体のまとめ
　　全体のまとめ及び定期試験の説明

〔成績評価〕
レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

自然観光資源論

3241
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2年
2単位　前期
火曜 4限
経営_選択
池田　　聡

〔到達目標〕
地理的考察の応用知識
現代世界の地誌的考察
現代生活と地理的理解
上記の内容を目標とする
〔授業の概要〕
地理的考察の応用知識を学習する。
ネイチャーゲームやSDG s カード等を用いたアクティブラーニング。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で指定した課題の復習（2時間）
講義内で指定した課題の予習（2時間）
毎回講義内で課題資料を配布。
〔授業計画〕
第 1 回　自然観光資源論で何を学ぶのか
自然環境資源論で何を学ぶのか導入
第 2 回　村落と都市Ⅰ
村落の発達と機能について学習する
第 3 回　村落と都市Ⅱ
都市の発達と機能について学習する
第 4 回　生活と文化Ⅰ
消費行動の拡大と変化について学習する
第 5 回　生活と文化Ⅱ
余暇活動と観光に関する産業活動について学習する
第 6 回　産業の国際化と世界の結合Ⅰ
産業の国際化と世界の貿易について学習する
第 7 回　産業の国際化と世界の結合Ⅱ
世界の交通について学習する
第 8 回　産業の国際化と世界の結合Ⅲ
世界の通信について学習する
第 9 回　環境エネルギー問題の地域性
地球的規模の開発と保全、エネルギー問題等を学習する
第 10 回　人口・食糧問題の地域性Ⅰ
世界の人口分布と増減、人口問題とその構成について学習する
第 11 回　人口・食糧問題の地域性Ⅱ
食糧需給と食糧問題について学習する
第 12 回　都市・居住問題の地域性
都市問題と都市計画について学習する
第 13 回　人種、民族問題の地域性
世界の人種と民族問題について学習する
第 14 回　国家・領土問題の地域性
現代の国家群と領土に関する諸問題を学習する
第 15 回　全体のまとめ
全体のまとめと定期試験の説明
〔成績評価〕
レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

環境ツーリズム論

3242
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
3年
2単位　後期
月曜 2限
経営_選択
池田　　聡

〔到達目標〕
環境と観光の基礎知識
自然環境と各種旅行形態の基礎知識
上記の内容を目標とする
〔授業の概要〕
観光と自然の応用知識を学習する。
ネイチャーゲームやSDG s カード等を用いたアクティブラーニング。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で指定した課題の復習（2時間）
講義内で指定した課題の予習（2時間）
毎回講義内で課題資料を配布。
〔授業計画〕
第 1 回　はじめに
環境ツーリズム論で何を学ぶのか
第 2 回　エコツーリズムⅠ
エコツーリズムの基礎知識

第 3 回　エコツーリズムⅡ
　　エコツーリズムの実施事例
第 4 回　エコツーリズムⅢ
　　エコツーリズムのまとめ
第 5 回　グリーン・ツーリズムⅠ
　　グリーン・ツーリズムの基礎知識
第 6 回　グリーン・ツーリズムⅡ
　　実施事例とまとめ
第 7 回　スポーツツーリズム
　　自然環境に配慮した旅行形態とは異なる旅行形態
第 8 回　各種契約Ⅰ
　　多様な旅行契約について基礎知識
第 9 回　各種契約Ⅱ
　　旅行契約の効果と意義
第 10 回　行政との関係Ⅰ
　　自然観光と行政との関係について
第 11 回　行政との関係Ⅱ
　　観光資源と行政契約
第 12 回　行政との関係Ⅲ
　　行政機関とその権限
第 13 回　SDGｓⅠ
　　カードゲームを用いたアクティブラーニング
第 14 回　SDGｓⅡ
　　SDGｓの考え方と今後の発展性
第 15 回　全体のまとめ
　　全体のまとめと定期試験の説明

〔成績評価〕
レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

観光自然学

3243
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4年
2単位　前期
火曜 3限
経営_選択
池田　　聡

〔到達目標〕
観光と自然の関連性
各種旅行契約
上記の内容を目標とする

〔授業の概要〕
観光と自然の応用知識を学習する。
ネイチャーゲームやSDGｓカード等を用いたアクティブラーニング。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で指定した課題の復習（2時間）
講義内で指定した課題の予習（2時間）
毎回講義内で課題資料を配布。

〔授業計画〕
第 1 回　はじめに
　　観光自然学で何を学ぶのか導入
第 2 回　自然旅行形態の応用Ⅰ
　　エコツーリズムの応用知識
第 3 回　自然旅行形態の応用Ⅱ
　　エコツーリズムの実践
第 4 回　自然旅行形態の応用Ⅲ
　　グリーン・ツーリズムの応用知識
第 5 回　自然旅行形態の応用Ⅳ
　　グリーン・ツーリズムの実践
第 6 回　各種契約Ⅰ
　　契約の種類と成立
第 7 回　各種契約Ⅱ
　　契約の効果
第 8 回　各種契約Ⅲ
　　契約の解除
第 9 回　各種契約Ⅳ
　　契約の種類
第 10 回　SDGｓⅠ
　　SDGｓの応用知識
第 11 回　SDGｓⅡ
　　ゲームを用いたアクティブラーニング
第 12 回　SDGｓⅢ
　　SDGｓについてのグループディスカッション
第 13 回　観光と自然Ⅰ
　　4年間実施した自然と観光についての振り返り
第 14 回　観光と自然Ⅱ
　　4年間実施した自然と観光についての総括
第 15 回　全体のまとめ
　　全体のまとめと定期試験の説明

〔成績評価〕
レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

多文化社会概論

2232

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
北原　速男

〔到達目標〕
日本における在留外国人数は増加しています。政府は新たに在留資格を創設し、外国人拡大施策を決定しました。
それに伴い留学生についても、大学卒業後引続き就職活動を行う「特定活動」と2019年4月入管法改正に伴い就職内定し就労開始時に申請する特定活動４６号も告示され、制度が運用されている。新たな外国人材の受入れや共生社会実現に向けた取り組みが進められています。
出入国管理政策の変遷と現状を理解し、将来国内外における日本企業、日系企業等で働く際に活躍できる人材になることを目指します。

〔授業の概要〕
国際化・グローバル化が進展するなかで、日本における外国人の出入国数も増加し、中長期にわたり在留する外国人も増加しています。外国人についての在留管理やその変遷や実際の事例に基づき日本の在留管理の特徴や諸課題について学びます。
また国・都道府県・市町村が取り組んでいる外国人受入れ政策について、各自治体により取り組みの状況は異なっている原因や課題について学びます。
さらに日本に暮らすために必要最低限の法的知識を学習することにより、危機管理的な場面での対応を解説します。
本講義は、講義とワークショップから構成しますが、コロナ渦のためオンライン講義及び月1回ＺＯＯＭを併用し講義を行うことも検討しています。
本講義は、講義受講後の課題提出により出席とみなします。講義内容により講義の順序変更もあるので理解しておいてください。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
シラバスを参考に、準備学習については毎時間告知いたします。
授業時間外にも質問等は受け付けます。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス・イントロダクション
授業の概要・目的・今後のスケジュール・評価方法・「入管白書」等のデーター分析資料などについても紹介します。
入管取次申請行政書士の資格説明・実務概要・在留資格変更申請・更新申請などについても解説します。

第 2 回　多文化共生社会とはなにか
日本におけるの変遷を多文化共生について（同化政策について考えます）
日本におけるアイヌ民族・琉球民族など（戸籍・言語・居住地・文化などを学習し、先住民族の権利に関する国際連合宣言との関係性についても学習します）

第 3 回　日本における出入国管理政策の変遷　その１
日本から渡航した移民の変遷を概観します。特にブラジルをはじめとする南米には多くの日本人が移民として渡航しました。特にブラジルには多数の日本人が移民として渡航しました。ブラジルをはじめとする移民の変遷を理解し、特に日系人と在留資格「定住者」との関係性、概要、多様化する諸課題について概観します。

第 4 回　日本における出入国管理政策の変遷　その２
時代の潮流に対応するように在留資格を創設してきた日本の入管政策の変遷を引き続き概観します。「永住者」「特別永住者」などの在留資格が創設された経緯・概要などを日本の入管政策の変遷について理解を深めていきます。また帰化・二重国籍等についても概観します。

第 5 回　出入国管理政策における在留資格の現状　その１
現在在留資格は29種類に分けられますが、個別の活動に基づき在留資格を付与していることから実際にはさらに細分化しています。
例えば高度専門職では同1号（イ・ロ・ハ）・同2号の4種類、特定技能では1号・2号の2種類、介護に至ってはＥＰＦによる介護の「特定活動」「技能実習」の介護従事者など多様です。
活動に基づく在留資格（就労することが出来る在留資格・就労することが出来ない在留資格）・身分又は地位に基づく在留資格に大別されていますが、在留資格や種類について理解を深め概観します。

第 6 回　出入国管理政策における在留資格の現状　その２
留学生にとって卒後の進路は、極めて重要と考えます。日本での就職、日本以外の国で活動するのか、あるいはさらに進学するなど、卒業後の進路は多様です。
そこで日本社会が求めている人材について「技術・人文・国際業務」「高度専門職」「特定活動46号」等について解説します。在留資格「留学」について、在留資格変更申請を行う際の留意点、特に引き続き就職活動を行う「特定活動」などを中心に解説し飛躍するための理解を深めます。

第 7 回　出入国管理政策における在留資格の現状　その３
留学生の進路が決定し内定後には、「留学」から他の在留資格変更申請を行いますが、大多数が「技術・人文・国際業務」に変更になっています。しかし在留資格「技術・人文・国際業務」は、「技術」「人文知識」「国際業務」に分けられます。その延長上にある高度人材を受け入れる「高度専門職」など関連する在留資格についても学習し事例に基づき概観します。

第 8 回　出入国管理政策における在留資格の現状　その４
2017年「技能実習法」が施行されました。日本は技能実習生を抜きにしては農業・水産業・製造業などの産業が成立しない状況下にあります。労働力として日本に来日している技能実習生を受け入れている法律「技能実習法」及び「技能実習制

度」の法的理解や変遷について解説します。さらに諸外国の同様の制度についても概観し、送出し機関・監理団体・法的根拠・課題などについて検討していきます。

第 9 回　出入国管理政策における在留資格の現状　その５
特定技能1号・2号が創設され制度が動き始めました。留学生も今後何らかの形で関連する仕事に就く可能性もあると思料することから制度の概要を理解し概観します。特定技能制度は、深刻化する人手不足に対応するため、生産性向上や国内人材の確保のための取組を行ってもなお人材を確保することが困難な状況にある産業上の分野（14業種）で一定の専門性・技能を有し即戦力となる外国人を受け入れていくというものです。どんな業種が14業種なのか、なぜ人材不足なのか「特定技能」を概観します。

第 10 回　出入国管理政策における在留資格の現状　その６
これまで学習してきた在留資格以外の「日本人配偶者等」「短期滞在」「経営・管理」などの一般的な在留資格について、事例に基づきながらを検討し理解を深めます。また、在留資格は時代の変化や国の在り方によって統合・創設など行われてきています。安全安定を確保しつつ健全な発展を図るためにはどのようなことが必要か考察します。

第 11 回　日本における入国管理政策について
国際間の人の移動が活発化に伴い在留形態が多様化するなかで、不法滞在、不法就労、偽装滞在の防止など適正な在留の確保などが求められます。また難民・避難民の庇護も在留管理行政として求められることから、難民・避難民の庇護についても法的な枠組みを理解し、仕組みについて理解を深めます。

第 12 回　日本における多文化共生への取り組み
居住している外国人と身近に接するのは基礎自治体（市区町村）です。基礎自治体（市区町村）は人口規模・財政規模も多様ですが、外国人を多く受け入れている基礎自治体（市区町村）は差し迫った課題に直ちに取り組んできています。
そうした基礎自治体（市区町村）における多文化共生への取り組みについて事例を紹介し、今後の多文化共生についての取り組みや課題を検討します。

第 13 回　日本で暮す法的理解
外国人の受入れに伴い、言語・慣習・文化などの違いにより軋轢が生じることがあります。そうした日常生活において刑事・民事を問わず事件に巻き込まれた際の対応について解説します。
警察・検察庁・弁護士制度（国選弁護士）など国の刑事手続きについてや民事事件についても、結婚・離婚など「日本人配偶者等」の在留資格との関係を事例を交えて解説し、さらに弁護士を活用する際の法テラスについても解説する。
また今後キャリアアップのためには何をすべきか、また必要なことは何かなど議論を深めます。

第 14 回　日本で暮らすとは（体験から）
日本在住の外国人の体験や経験を視聴します。体験者の都合により本講義は講義日程が変更されることもあるので承知しておいてください。
聴取後、テーマに即して課題について掘り下げ、ディスカッションを通じて自分の考えを論述し、問題の把握力・分析力及び表現力を身に付けます。

第 15 回　まとめ
全講義の振り返りを行い、レポートを作成します。

〔成績評価〕
授業に対する関心、意欲、態度、質問、課題提出などを総合的に判定して評価します。

〔教科書〕
特になし
授業中に適宜資料を配布します。

〔参考文献〕
「入管白書」出入国管理庁
「入管法の実務」山脇泰嗣著　新日本法規
その他、資料は講義中に伝えます。

〔履修条件〕
その他

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
講義の中でメールアドレスを記載し、質問には適宜答えます。また身近な自身を問わず質問したいことがあれば遠慮なく連絡可能です。

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　経営⑥

8226

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
林　　泰子

〔到達目標〕
大学生の間に自分が進むべき進路（就職）を明確にするため、各方面の卒業生に来ていただき自分の将来像を描くことができることを目的とする。

〔授業の概要〕
多くの時間、本学の卒業生（先輩）に来ていただき、過去の就活体験談や学生生活を振り返った講和をいただきます。また、大学生の時にしておけば良かったこと、現在の2年生に伝えたいことをお話しいただきます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
自分が進むべき進路について、考える時間を授業時間外でとってもらいます。また、それに向けて何をすべきかどう行動するべきかを考える。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション①
前期学事予定・履修登録確認

第 2 回　オリエンテーション②

クラス編成：所属コースとクラスの確認
第 3 回　学外講師を迎えての講義の前に
次回より外部講師をお迎えしてキャリア教育を行うに当たり事前指導
第 4 回　外部講師１
本学卒業生で社長や人事部長などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や入社試験について聴く
第 5 回　外部講師２
本学卒業生で社長や人事部長などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や入社試験について聴く
第 6 回　外部講師３
本学卒業生で社長や人事部長などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や入社試験について聴く
第 7 回　外部講師４
本学卒業生で社長や人事部長などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や入社試験について聴く
第 8 回　外部講師５
本学卒業生で社長や人事部長などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や入社試験について聴く
第 9 回　外部講師６
本学卒業生で社長や人事部長などをお迎えして、実際の就職活動について、体験談や入社試験について聴く
第 10 回　企業を取り巻く環境と企業が求める人材
平原先生をお招きし現状解説
第 11 回　「夢」・「目標」を描く「キャリアデザイン」
平原先生をお招きし現状解説
第 12 回　企業の就職試験とは（目的と内容）
平原先生をお招きし現状解説
第 13 回　SPI試験ってどんなものか
平原先生をお招きし現状解説
第 14 回　面接試験の目的と内容
平原先生をお招きし現状解説
第 15 回　オリエンテーション③
前期試験・夏休み休暇について

〔成績評価〕
毎回聴講レポートを記入し提出します。その聴講レポートが試験となります。
レポート（100%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日：11:00～12:00
③研究室
④y.hayashi@ashiya-u.ac.jp
⑤研究室に来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください。
質問等は、基本的には授業終了後に講義教室で対応します。
それ以降は、メールで受け付けます。

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　経営⑥

8226

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
林　　泰子

〔到達目標〕
大学生の間に自分が進むべき進路（就職）を明確にするため、各方面の卒業生に来ていただき自分の将来像を描くことができることを目的とする。

〔授業の概要〕
多くの時間、本学の卒業生（先輩）に来ていただき、過去の就活体験談や学生生活を振り返った講和をいただきます。また、大学生の時にしておけば良かったこと、現在の2年生に伝えたいことをお話しいただきます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
自分が進むべき進路について、考える時間を授業時間外でとってもらいます。また、それに向けて何をすべきかどう行動するべきかを考える。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション①
後期学事予定・履修登録確認
第 2 回　学園祭イベント計画について
学園祭企画もイベント企画の重要な課題であると考えます
第 3 回　学生生活について
クラブ活動や大学行事、アルバイトや就職活動など学内外の活動と学業の両立
第 4 回　外部講師１
マイナビによる就職活動に関わるガイダンス
第 5 回　先輩講師１
本学4年生の就活体験を聞く①
第 6 回　先輩講師２
本学4年生の就活体験を聞く②
第 7 回　先輩講師３
大学院生の経験に学ぶ
第 8 回　外部講師２
就職活動、その具体的な情報収集と活動の方法について
第 9 回　外部講師３
就職活動、その具体的な情報収集と活動の方法について
第 10 回　外部講師４
就職活動、その具体的な情報収集と活動の方法について
第 11 回　専門演習と卒業論文について

専門演習にどのようなものがあるか、卒業論文とは
第 12 回　専門演習説明会
経営教育学科　専門演習担当教員の紹介と各演習の内容の説明　／専門演習登録用紙配布
第 13 回　オリエンテーション②
専門演習　事前授業（プレゼミ）について
第 14 回　オリエンテーション③
専門演習　事前授業（プレゼミ）
第 15 回　経営教育学科　卒業論文発表会
先輩の卒業論文発表を聞く

〔成績評価〕
毎回聴講レポートを記入し提出します。その聴講レポートが試験となります。
レポート（100%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日：11:00～12:00
③研究室
④y.hayashi@ashiya-u.ac.jp
⑤研究室に来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください。
　質問等は、基本的には授業終了後に講義教室で対応します。
　それ以降は、メールで受け付けます。

演習Ⅰ【情報ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】

8325

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
林　　泰子

〔到達目標〕
・学修や体験から得た知見を活かし、研究を計画することができる。
・研究テーマについて、自分の考えを説明することができる。
・論文作成に必要なライティング技術を身につけ、適切な文章を作成することができる。

〔授業の概要〕
・情報やコミュニケーションの基礎を学び、そこから発展的に多様な情報やコミュニケーションの形態について学修する。それらを踏まえ、卒論の研究テーマを参考文献・先行研究・調査を基に絞り込む。
・論文作成の基礎（章立て、文章の書き方など）、研究方法、発表方法などを学習し、基礎的な研究技法（スライド作成、プレゼンテーション、討論など）も身につける。
・自己の研究テーマの組み立てや進め方を検討し、それらをまとめた報告（ゼミ内発表）を課す。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業で提示されたテーマに関する文献や参考資料、および新聞記事、報道などから自主的に必要な情報を収集しまとめておく。十分な授業外学習によって研究意識を高めること。（授業準備90分、授業後のまとめ90分）

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
ゼミ生の自己紹介、ゼミの活動内容、ゼミルールの確認
第 2 回　研究テーマの検討1
研究テーマに関する情報収集
第 3 回　参考文献の輪読および討論1
情報に関する参考文献
第 4 回　参考文献の輪読および討論2
コミュニケーションに関する参考文献
第 5 回　研究テーマの検討2
研究テーマに関する情報収集
第 6 回　論文作成の基礎1
アカデミックライティング
第 7 回　論文作成の基礎2
章立て、論文仕様の文章表現
第 8 回　参考文献の輪読および討論3
先行研究から学ぶ
第 9 回　参考文献の輪読および討論4
先行研究から学ぶ
第 10 回　研究テーマと取り組みの検討1
各自の研究テーマ設定に関する報告
第 11 回　研究テーマと取り組みの検討2
各自の研究テーマ設定に関する報告
第 12 回　研究テーマと取り組みの設定3
各自の研究テーマ設定に関する報告
第 13 回　研究テーマと取り組みの報告準備1
スライド作成、プレゼン練習
第 14 回　研究テーマと取り組みの報告準備2
スライド作成、プレゼン練習
第 15 回　研究テーマと取り組みの報告
ゼミ内発表

〔成績評価〕
・課題提出物　70%
・授業への取り組み　30%

〔教科書〕
・必要に応じて適宜プリントを配布する
・自分の研究テーマにそった文献を、図書館で検索し利用する。

〔参考文献〕
・授業内で適宜参考文献を紹介する

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日：11:00～12:00
③研究室
④y.hayashi@ashiya-u.ac.jp
⑤研究室に来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください。
　質問等は、基本的には授業終了後に講義教室で対応します。
　それ以降は、メールで受け付けます。

演習Ⅰ【情報ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】

8325

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
林　　泰子

〔到達目標〕
・学修や体験から得た知見を活かし、研究を計画することができる。
・研究テーマについて、自分の考えを説明することができる。
・テーマを設定し、主体的に立案に取り組むことができる。
・他者と協調し、課題解決することができる。
・論文作成に必要なライティング技術を身につけ、適切な文章を作成することができる。
〔授業の概要〕
論文作成の基礎（章立て、文章の書き方など）、研究方法、発表方法などを学習し、基礎的な研究技法（スライド作成、プレゼンテーション、討論など）も身につける。
自己の研究テーマの組み立てや進め方を検討し、論文を作成していく。研究の取り組み方針と概要、露見した課題について、それらをまとめた中間発表（今年度分のまとめ）を課す。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
研究テーマに関する文献や参考資料、および新聞記事、報道などから必要な情報を収集しまとめておく。十分な授業外学習によって研究成果を高めること。
(授業準備90分、授業後のまとめ90分)
〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
　　研究テーマの振り返りと確認
第 2 回　研究内容の検討1
　　各自の研究内容に関する報告

第 3 回　参考文献の輪読および討論1
　　先行研究からの学び、章立ての検討
第 4 回　参考文献の輪読および討論2
　　先行研究からの学び、章立ての検討

第 5 回　研究内容と論文作成の検討と実践1
　　論文用資料の検索と文章作成
第 6 回　研究内容と論文作成の検討と実践2
　　論文用資料の検索と文章作成
第 7 回　研究内容の検討2
　　各自の研究内容に関する報告

第 8 回　研究内容と論文作成の検討と実践3
　　各自の研究内容に関する報告、論文用資料の検索と文章作成
第 9 回　研究内容と論文作成の検討と実践4
　　各自の研究内容に関する報告、論文用資料の検索と文章作成
第 10 回　研究内容と論文作成の検討と実践5
　　各自の研究内容に関する報告、論文用資料の検索と文章作成
第 11 回　研究内容と論文作成の検討と実践6
　　中間発表に向けたまとめ
第 12 回　研究内容の中間まとめの発表準備1
　　スライド作成、プレゼン
第 13 回　研究内容の中間まとめの発表準備2
　　スライド作成、プレゼン練習
第 14 回　中間発表
　　研究内容の中間まとめの発表
第 15 回　まとめ
　　今年度の総括と次年度への展望

〔成績評価〕
・課題提出物　70%
・授業への取り組み　30%
〔教科書〕
・必要に応じて適宜プリントを配布する
・自分の研究テーマにそった文献を、図書館で検索し活用する。
〔参考文献〕
・授業内で適宜参考文献を紹介する
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日：11:00～12:00
③研究室
④y.hayashi@ashiya-u.ac.jp
⑤研究室に来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください。
　質問等は、基本的には授業終了後に講義教室で対応します。
　それ以降は、メールで受け付けます。

大学生活入門　経営⑥

8132

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
井村　　薫子

〔到達目標〕
1）小人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
2）円満に意思疎通を図ることができる。
3）コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表及び書くことができる。
4）理論的かつ生産的に議論をし、お互いの畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする
意欲を持つことができる。

〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、前期はクラスまたは学科を軸に活動する。
・授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活
　動（アクティブラーニング）である。
・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、共同作業
　を通してコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
・毎時記入する小レポートは担当教員が採点返却する。これはプレゼンテーション能力を育
　む。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・グループ討議内容を授業中にプレゼンに発表をすることもある。よって、PCなどの情報機器スキル（Word、パワポ）は、各自で身に着けておくことを推奨する。
・次週までの課題の提示をすることがあるので、各自がテキストを事前に熟読しておくことを
　望む。

〔授業計画〕
第 1 回　授業概要説明、フォリーの操作方法など
　遠隔授業（LMS,フォリー）の操作方法などについて、各担当教員を通じ操作方法を習熟できる。
第 2 回　大学について知る
　芦屋大学PV2019動画を見て、大学の諸設備の位置関係や、主な利用用途を知る。各担当教員のHPなどをみて、担当教員の顔などを知ることができるようになる。
第 3 回　各部署の紹介
　大学の各部署の紹介映像を見て、各部署の諸手続きなどを知ることができるようになる。
第 4 回　大学生としての心構え
　大学生としての心構えについて学び、4年間のロードマップを参考に、大学での学修や生活について理解を深めることができる。
第 5 回　強制連結法
　イメージされた断片情報から情報を視覚的に整理することができるようになる。
第 6 回　クラス別 A,B,C　犬バラ法
　犬、バラなどに例え、対話、やりとり場面で、需要的に聴く力を演習する。
第 7 回　生活習慣（1）栄養
　食事の重要性についての理解を深めることができるようになる。
第 8 回　生活習慣（2）運動
　運動の重要性についての理解を深めることができるようになる。
第 9 回　生活習慣（3）睡眠
　睡眠の重要性についての理解を深めることができる。
第 10 回　クラス別　A,B,C　ジェスチャー
　ハンドジェスチャーを積極的に用いた話題の盛り上げ方、効果的に伝える
　力の演習をする。
第 11 回　ハラスメント・DV被害について
　ハラスメント、DV被害についての認識映像を見て、理解を深めることができる。大学内ハラスメント防止委員会からの啓蒙情報内容に参加する。
第 12 回　違法薬物について
　法律で禁じられてた違法薬物使用の実態紹介セミナーに参加し、違法薬物に対する危険性についての理解を深めることができる。
第 13 回　アサーション
　自分も相手も大切にした対応力の演習をする。
第 14 回　問題発見と情報収集力
　新聞記事や論文紀要などから必要な情報収集し、信憑性などの議論を通じ、課題解決スキルを向上することができるようになる。
第 15 回　まとめレポート課題
　前期実施での各メニューの振り返りをレポートにまとめる。

〔成績評価〕
・レポート評価100%
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。

〔教科書〕
相互理解を深める　コミュニケーション実践学　沖祐貴・林徳治　ぎょうせい
ISBN9784324090053　￥2,000　＋　税

〔参考文献〕
ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
⑴前期・後期
⑵月曜日13:00～16:00、木曜日13:00～16:00
⑶芸術文化センターにて

⑷連絡先：k-imura@ashiya-u.ac.jp
⑸事前にメールにてご連絡をお願いします。

キャリア基礎　経営⑥

8132

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
井村　　薫子

〔到達目標〕
1）少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
2）円満に意思疎通を図ることができる。
3）コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し発表及び書くことができる。
4）理論的かつ生産的に議論をし、お互いの畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意
　欲を持つことができる。

〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、前期はクラスまたは学科を軸に活動をする。
・授業内容は、グループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活
　動（アクティブラーニング）である。
・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、共同作業
　を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
・毎時間記入する小レポートは担当教員が採点返却する。これは、プレゼンテーション能力を
　育む。
・（全）記号は全学科合同での実施メニュー

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、PCなどの情報機器
　基礎スキル（Word、パワポ）は各自で身に着けておくことを推奨する。
　またノートPCをはじめIST端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。
・次週までの課題の提示をすることがあるので、各自がテキストを事前に熟読しておくこと
　を望む。

〔授業計画〕
第 1 回　（全）モチベーションアップ（藤、ほか）
　DVD映像を参照...モチベーションを高めるための農活用の方法。プロ100人に
　聴いた極意を知る。
第 2 回　前...（前）学園祭の取組　後...クラス別
　前：（全）学園祭運営委員会メッセージ、企画概要伝達など。
　後：各クラスにて個別面談を望む、各自後期履修状況の進捗確認など。
第 3 回　クラス別　Aほめ言葉 Bトラストウォーク
　Aテキスト...ほめ言葉...相手を意欲的にする力を養う。
　Bテキスト...トラストウォーク...相手の立場に立って情報を伝える力を養う。
第 4 回　クラス別　Aほめ言葉 Bトラストウォーク
　前回実施したメンバーグループA、Bを交代しての演習を実施
第 5 回　（前）学園祭実行委員会より（学生部、ほか）
　大学学園祭の実施、運営、企画にあたり、各イベント内容の周知と任務、役割分担
　など。
第 6 回　（前）税について
　芦屋税務署様より税についての基調講演。参照映像やクイズ形式などにより、税についての深い知見を知る（齋、ほか）
第 7 回　コース別クラスのメニュー（1）
　各自が希望する各コース別（経営、教職、自動車、航空観光、バレエ）に分かれてのコース別メニュー、第1回。各コースメニューの概要説明など。
第 8 回　コース別クラスのメニュー（2）
　各自が希望する各コース別（経営、教職、自動車、航空観光、バレエ）に分かれてのコース別メニュー、第2回目。学外研修メニュー（航空観光）もあり
第 9 回　クラス別メニュー　※留学生は別メニュー
　各クラスでの実施。（各履修進捗状況の個別確認など）留学生対象：外部講師
　..行政書士さんを招き、就労ビザなどの専門的知見を深める。
第 10 回　（前）キャリア形成について（1）...働く...
　就職部主催...働くことの意味、異議を知って、実際の就職活動や将来目指す職業へ
　の具体的な関心度を深める。
第 11 回　（前）キャリア形成について（1）...SPIなど...
　就職部主催...就職試験の日程掌握、SPI対策、基礎学力向上の秘訣など、就職必要な具体的キャリア形成をステップアップするための手法を知る。
第 12 回　（全）裁判員制度について（武、ほか）
　DVD映像、裁判員に選ばれた場合での各種判例ケースを想定し、裁判員の立場に立ったケースでの思考、知見を養う。
第 13 回　コース別クラスのメニュー（2）
　各自が希望する各コース別（経営、教職、自動車、航空観光、バレエ）に分かれてのコース別メニュー、第3回目。コース履修先輩者からのメッセージ等を紹介
第 14 回　（前）キャリア形成について（3）...先輩からの声..

就職部・教職支援センター主催：学生シンポジウム...就活成功への秘訣。
ー就職内定者、教職合格者、インターンシップ体験学生に聴く
第 15 回　クラス別　後期試験レポート作成準備
卒論発表会日程にに重なる場合、そちらへ優先的に参加。後期演習実施メニューレポート内容の整理、年度末、進級情報の掌握など

〔成績評価〕
・レポート評価100％
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。

〔教科書〕
相互理解を深める　コミュニケーション実践学　沖裕貴・林徳治　ぎょうせい
ISBN9784324090053　￥2,000　＋　税

〔参考文献〕
ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容
②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」より連絡する様にしてください。
③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

教育学概論Ⅰ②【中等】

4209

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
小川　　雄

〔到達目標〕
人間を人間として成立させているものについて考察する場合、教育作用は非常に大きな位置を占めています。この講義では、教育とは何かについて、その理念と歴史を知ることができます。なぜ人間に教育が必要なのかという教育の理念の確認から開始して、教育という語の語源、教育のあり方、人間活動と教育、現代社会と教育、社会と教育の理念等について学ぶことができます。こうした内容について理解し、教育のあるべき姿をイメージしながら、その実現に向けて自分で考えることを目標とします。

〔授業の概要〕
この講義においては教育学の基礎について、その理念、歴史、内容、方法などを歴史的、場所的観点から説明して、教育学に対する認識を深化させることを目指す。
講義方法は、phollyを使ったオンデマンド形式で行います。詳細については第１回のガイダンスで説明しますが、基本的には、講義スライドを視聴して、それに関連する課題に取り組み、提出する、という流れです。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前学習（予習）については、シラバスの計画を参考に、取り上げられる内容（項目、人物、時代、概念等）についてあらかじめ書物、インターネットなどを活用して調べておくこと(90分)。
事後学習（復習）については、授業で取り上げた内容について理解できているか、言葉で説明できるかどうか等を確認し、出来ない場合については、ノートを見直しておくこと。また授業内で取り上げた書籍等についてさらに学習を進め内容の深化を目指すこと（90分）。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
講義目標、内容、方法、受講上の注意、評価の方法
第 2 回　教育の場所
家庭、学校、地域社会とそれぞれの教育について
第 3 回　教育の目的（1）
何をめざして教育はなされるべきか、教育基本法など法令等による目的・目標
第 4 回　教育の目的（2）
人間観と教育観、現代社会と教育への要請
第 5 回　教育の必要性
自己実現の理念
第 6 回　教育観の対立（1）
系統主義と経験主義
第 7 回　教育観の対立（2）
学問中心主義と子ども中心主義
第 8 回　家庭教育
家庭教育の意義と役割
第 9 回　社会教育
社会教育の理念と役割
第 10 回　学校教育の歴史（1）
近代から第二次世界大戦までの日本の教育の歴史
第 11 回　学校教育の歴史（2）
第二次世界大戦から現代までの日本の教育の歴史
第 12 回　近代の教育思想
ルソーとペスタロッチの教育思想
第 13 回　現代の教育思想
デューイとノディングズの教育思想
第 14 回　学校教育の現代の課題
スクールカースト
第 15 回　まとめ
学びを通して得られた視点と教育的課題

〔成績評価〕
期末レポート（70％）、各授業に対応した課題の提出（30％）

〔教科書〕
広岡義之編、『新しい教育原理ー第2版ー』、ミネルヴァ書房、２０１５年
〔参考文献〕
内閣府・文部科学省・厚生労働省編、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年）
文部科学省編、『幼稚園教育要領』（平成29年）、東山書房
文部科学省編、『小学校　学習指導要領』（平成29年）、東洋館出版
文部科学省編、『中学校　学習指導要領』（平成29年）、東山書房
文部科学省編、『高等学校　学習指導要領』（平成30年）、東山書房
※他の文献については授業中に適宜紹介する
〔履修条件〕
〔備考〕
教育の基礎的理解に関する科目、教育の理念及び教育に関する歴史及び思想、中一種、高一種、必修
〔オフィスアワー〕
基本的に、Phollyでの対応になります。質問や対応してほしいことがあれば、メッセージ機能を使って連絡をとってください。

演習Ⅰ【技術教育の課題と問題解決】

8355

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
安東　　茂樹

〔到達目標〕
・技術教育（技術科教育や情報科教育を含む）の現代的な課題を探り、その問題意識を設定し、これまで学んできた経験や認識及び調査・実践等を通して、解決するための方法や具現化を求める。（関心･意欲･態度）（知識･技能）
・実践した演習から結果を示し、その考察及び新たな課題を明確にして、自分流の理論構築を行う。（知識･技能）（思考・判断・表現）
〔授業の概要〕
４年次に卒論研究を行うが，今の段階でどのようなテーマ（題目）にしたいかを考えること。興味ある課題，今の時代に求められる課題，今後の技術科教育に求められる課題，楽しい課題，実践的な課題，そして新たな課題など発想を豊かに取り組む。
みんなでディスカッションし，オンデマンドや報告会等や意見交換などをして協議する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
自分で調べることを重視して、文献の資料（書物や印刷物など）、参考文献のアドレス、自分の考えのまとめなどを書き入れた資料を発表する。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業概要、到達目標、演習の進め方、研究報告の詳細などについて説明する。
第 2 回　学びの共同体への参加
各人がその時点で学んでいる事項や課題について資料を提出し、その内容を発表する。
第 3 回　学びの共同体への参加
研究の第１歩として，論文でも，書籍でも，教科書でも，学習指導要領解説でも，統計のデータでも，見つめ直し読み込んで，課題を設定する。
第 4 回　学びの共同体への参加
他の人の発表を聞き、自分なりの考えを述べる。
第 5 回　学びの共同体への参加
他の人の発表を聞き、自分なりの考えを述べる。
第 6 回　学びの共同体への参加
各自でポートフォリオを作成して思考をまとめる。
第 7 回　学びの共同体への参加
各自でポートフォリオを作成して思考をまとめる。
第 8 回　学びの共同体への参加
できるだけ、教育現場を訪問して情報収集する。
第 9 回　学びの共同体への参加
できるだけ、教育現場を訪問して情報収集する。
第 10 回　学びの共同体への参加
可能な限り、個人努力で、繰り返し論考し理論構築する。 →　学びの共同体への参加
第 11 回　学びの共同体への参加
可能な限り、個人努力で、繰り返し論考し理論構築する。
第 12 回　学びの共同体への参加
一連の内容を報告書として、論文にまとめる。
第 13 回　学びの共同体への参加
一連の内容を報告書として、論文にまとめる。
第 14 回　学びの共同体への参加
演習を通して、まとめたことを成果物やプレゼン等で発表し公開する。
第 15 回　学びの共同体への参加
演習を通して、まとめたことを成果物やプレゼン等で発表し公開する。
〔成績評価〕
毎時の課題レポート　30%
授業への取り組み　40%
最終レポート　30%
〔教科書〕
大学生のためのレポート･論文の書き方（平成23年11月、ナツメ社）
〔参考文献〕
「授業中に適宜資料を配布する」
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
①前期・後期　②水曜日 11:00~12:00、金曜日 12:30~13:30
③研究棟 安東研究室　④s-andoh@ashiya-u.ac.jp　⑤その他(来室の際、事前にメールでアポイントを取ること)

演習Ⅰ【技術教育の課題と問題解決】

8355

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
安東　　茂樹

〔到達目標〕
・技術教育（技術科教育や情報科教育を含む）の現代的な課題を探り、その問題意識を設定し、これまで学んできた経験や認識及び調査・実践等を通して、解決するための方法や具現化を求める。（関心･意欲･態度）（知識･技能）
・実践した演習から結果を示し、その考察及び新たな課題を明確にして、自分流の理論構築を行う。（知識･技能）（思考・判断・表現）

〔授業の概要〕
４年次に卒論研究を行うが，今の段階でどのようなテーマ（題目）にしたいかを考えること。興味ある課題，今の時代に求められる課題，今後の技術科教育に求められる課題，楽しい課題，実践的な課題，そして新たな課題など発想を豊かに取り組む。
みんなでディスカッションし，オンデマンドや報告会等や意見交換などをして協議する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
自分で調べることを重視して、文献の資料（書物や印刷物など）、参考文献のアドレス、自分の考えのまとめなどを書き入れた資料を発表する。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
後期の授業概要、到達目標、演習の進め方、研究報告の詳細などについて説明する
第 2 回　学びの共同体への参加
各人がその時点で学んでいる事項や課題について資料を提出し、その内容を発表する。
第 3 回　学びの共同体への参加
研究の第１歩として，論文でも，書籍でも，教科書でも，学習指導要領解説でも，統計のデータでも，見つめ直し読み込んで，課題を設定する。
第 4 回　学びの共同体への参加
他の人の発表を聞き、自分なりの考えを述べる。
第 5 回　学びの共同体への参加
他の人の発表を聞き、自分なりの考えを述べる。
第 6 回　学びの共同体への参加
各自でポートフォリオを作成して思考をまとめる。
第 7 回　学びの共同体への参加
各自でポートフォリオを作成して思考をまとめる。
第 8 回　学びの共同体への参加
できるだけ、教育現場を訪問して情報収集する。
第 9 回　学びの共同体への参加
できるだけ、教育現場を訪問して情報収集する。
第 10 回　学びの共同体への参加
可能な限り、個人努力で、繰り返し論考し理論構築する。 →　学びの共同体への参加
第 11 回　学びの共同体への参加
可能な限り、個人努力で、繰り返し論考し理論構築する。 →　学びの共同体への参加
第 12 回　学びの共同体への参加
一連の内容を報告書として、論文にまとめる。
第 13 回　学びの共同体への参加
一連の内容を報告書として、論文にまとめる。
第 14 回　学びの共同体への参加
演習を通して、まとめたことを成果物やプレゼン等で発表し公開する。
第 15 回　学びの共同体への参加
演習を通して、まとめたことを成果物やプレゼン等で発表し公開する。

〔成績評価〕
毎時の課題レポート　30%
授業への取り組み　40%
最終レポート　30%

〔教科書〕
大学生のためのレポート･論文の書き方（平成23年11月、ナツメ社）

〔参考文献〕
「授業中に適宜資料を配布する」

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
①前期・後期　②水曜日 11:00~12:00、金曜日 12:30~13:30
③研究棟 安東研究室　④s-andoh@ashiya-u.ac.jp　⑤その他
(来室の際、事前にメールでアポイントを取ること)

演習Ⅱ【経営応用研究】

8424

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　前期
政岡　　勝治

〔到達目標〕
卒業論文の完成を目指し、書く力、発表力、質疑応答に対応する力等を付けていく。卒業論文で決めたテーマに沿い、厚く記述する力を付けるように指導する。

〔授業の概要〕
卒業論文は20,000字以上が必要であり、少しづつ書き進める必要がある。このため、毎回の授業で書いてきた原稿を発表し、出席者全員で議論をする。その際に出る質問へ対応し、助言等を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にするように心掛けること。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の授業での卒業論文原稿発表が望ましいが、最低でも3回の授業で一度は発表を心掛けて欲しい。原稿は必ずwordで作成し、発表の量としては、毎回1～2頁程度を目指す。

〔授業計画〕
第 1 回　卒業論文の作成について
昨年説明した、卒業論文の作成の仕方、文章の書き方、参考・引用文献の仕方、章立ての基本、体裁の整え方等基本事項を説明する。
第 2 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする。
第 3 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする。
第 4 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする。
第 5 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする。
第 6 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする。
第 7 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする。
第 8 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする。
第 9 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする。
第 10 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする。
第 11 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする。
第 12 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする。
第 13 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする。
第 14 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする。
第 15 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする。
〔成績評価〕
・毎回の授業での取り組み姿勢（100%）
〔教科書〕
特に無し
〔参考文献〕
卒業論文のテーマに沿い、経営学関係の資料を適宜配布する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
毎週当該授業（専門演習）を行う木曜日2時限のあと、午後2時～3時とする。卒業論文についての相談とともに、就職活動を含めた進路相談にも対応する。

演習Ⅱ【経営応用研究】

8424

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
政岡　勝治

〔到達目標〕
・卒業論文の完成を目指し、書く力、発表力、質疑応答に対応する力等を付けていく。卒業
論文で決めたテーマに沿い、厚く記述する力を付けるように指導する。
・13回目の授業で全体原稿を発表、修正の上、15回目の授業で最終原稿の発表を目指す。
〔授業の概要〕
卒業論文は20,000字以上が必要であり、少しづつ書き進める必要がある。このため、毎回の授業で書いてきた原稿を発表し、出席者全員で議論をする。その際に出る質問へ対応し、助言等を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にするように心掛ける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の授業での卒業論文原稿発表が望ましいが、最低でも3回の授業で一度は発表を心掛けて欲しい。原稿は必ずwordで作成し、発表の量としては、毎回1～2頁程度を目指す。
〔授業計画〕
第 1 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする

第 2 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする
第 3 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする
第 4 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする
第 5 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする
第 6 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする
第 7 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする
第 8 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする
第 9 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする
第 10 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする
第 11 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする
第 12 回　書いてきた原稿の発表
原稿を発表し、出席者全員で議論する。その際に出る質問へ対応し、感想、助言を発表原稿の修正や次の原稿作成の参考にする
第 13 回　全体原稿の発表
全体原稿の発表を目指す。その際にでた、指導助言をもとに、原稿の推敲、修正を行う。
第 14 回　修正原稿の発表
前回の授業での指導助言をもとにして、推敲、修正した原稿を発表し、最終原稿の完成を目指す。
第 15 回　最終原稿の発表
最終原稿を発表し、出席者全員の意見を聞く。卒業論文作成で、苦労したこと、自信のついたことなど、感想を述べる。

〔成績評価〕
毎回の授業での取り組み姿勢（30%）
卒業論文の出来（70%）
〔教科書〕
特に無し
〔参考文献〕
各自のテーマに沿い参考となる経営学の資料を適宜配布する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
当該授業を行う毎週木曜日2時限のあと、午後2時～3時に卒業論文にかかわる質問を受け付ける。同時に就職活動を含め、進路指導の相談も受け付ける。

バレエ概論

1830

経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
新谷　佳冬

〔到達目標〕
バレエを総合芸術として捉え、その構成要素によって作品を分析できる。バレエの歴史ついて説明できるようになる。イタリアンバレエメソッドの伝統的な教授法によるテクニックを身につける。バレエ用語の原語表記法を正確に、かつ自由に読み書きできるようなる。
〔授業の概要〕
バレエの歴史を学び、その伝統を理論と実技の両方で体得する。
チェケッティメソッドのレッスンマニュアルを実技で学習しながら、バレエの動きのメカニズムとその練習法を、身体的に、また理論的に理解する。また、バレエ用語（フランス語）を正しく表記してボキャブラリー表を作成する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ボキャブラリー表をＰＣで作成しながら、記憶する。（９０分）
バレエの歴史についての本を読む。（９０分）

〔授業計画〕
第 1 回　バレエとは何か？
総合芸術であるところのバレエの構成要素
第 2 回　バレエの歴史
イタリアルネッサンス発祥から　20世紀　ディアギレフまで
第 3 回　バレエの美学
プリンシプル　ベーシックルール　調和 と 均整
第 4 回　バレエの伝統

メソッドとバレエマスターの歴史
第 5 回　チケッティメソッド　1
Barre　1
第 6 回　チケッティメソッド　2
Barre　2
第 7 回　チケッティメソッド　3
Centre Practice
第 8 回　チケッティメソッド　4
Centre Adage 1
第 9 回　チケッティメソッド　5
Centre Adage 2
第 10 回　チケッティメソッド　6
Pirouette
第 11 回　チケッティメソッド　7
Allegro 1
第 12 回　チケッティメソッド　8,
Allegro 2
第 13 回　チケッティメソッド　9
Grand Allegro
第 14 回　チケッティメソッド　１０
Pointe
第 15 回　試験
実技試験と口頭試問

〔成績評価〕
実技試験６０％
提出物４０％

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
Cecchetti Manual, Imperial Society of Teachers of Dancing

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②月曜日11:40-12:00
③授業後、講義教室
④shintani@ashiya-u.ac.jp

バレエ理論

1830

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
新谷　　佳冬

〔到達目標〕
舞台芸術としてバレエを捉え、その構成要素を分析しながら鑑賞できるようになる。舞台芸術の伝統的な手法を知り、それぞれの手法によって得られる効果を説明できる。現代の運動生理学的・解剖学的な見地からそのメカニズムを説明できるようになる。

〔授業の概要〕
バレエの手法と効果や役柄について、実際にどのように作品の中で使われているかを理解する。バレエマイム、キャラクターダンスはボキャブラリーを学ぶ。ポアントワーク、パ・ド・ドゥやコールド・バレエはＤＶＤ鑑賞し、理論を理解するとともに、現在の観客としてお互いの意見を述べ合う。また、バレエの動きを解剖学的にとらえる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ボキャブラリーを自主学習する。(90 分)
授業で扱う古典作品のDVDやバレエ公演などを鑑賞し、作品鑑賞ノートをつける。演目・公演場所・出演・振付・音楽・美術・脚本・演出・感想などを書く。(90 分)

〔授業計画〕
第 1 回　バレエのボキャブラリー　1
Center Practice
第 2 回　バレエのボキャブラリー　2
Adage
第 3 回　バレエのボキャブラリー　3
Pirouette の種類
第 4 回　バレエのボキャブラリー　4
Allegro and Linking step
第 5 回　バレエ作品における役柄の種類
クラシカル、デミ・キャラクテール、キャラクテールの役柄の分け方を学ぶ。
舞台の仕組みと名称　舞台用語と舞台の仕組み
第 6 回　バレエマイム　1
マイムの役割とボキャブラリー
第 7 回　コールド・バレエ　1
白鳥の湖のコールド・バレエの手法と効果
第 8 回　コールド・バレエ　2
バヤデールのコールド・バレエの手法と効果
第 9 回　コールド・バレエ　3
弦楽セレナーデのコー・ド・バレエの手法と効果
第 10 回　ポアントワークとその視覚的効果
ポアントシューズの登場とラ・シルフィード
第 11 回　パ・ド・ドゥ
プティパ作品におけるパ・ド・ドゥの手法
第 12 回　バレエの解剖学　1
骨格・骨
第 13 回　バレエの解剖学　2
筋肉・関節
第 14 回　バレエの解剖学　3
動きの解剖学
第 15 回　試験
実技試験と口頭試問

〔成績評価〕
実技試験６０％
提出物４０％

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
バレエ創作ハンドブック　名作にみる振付と表現の技法　J.ローソン著　大修館書店
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②月曜日11:40-12:00
③授業後、講義教室
④shintani@ashiya-u.ac.jp

演習Ⅱ【技術教育の課題と問題解決】

8473

経営教育学部 > 経営教育学科
4単位　前期
安東　　茂樹

〔到達目標〕
・技術教育（技術科教育や情報科教育を含む）の現代的な課題を探り，その問題意識を設定し，これまで学んできた経験や認識及び調査・実践等を通して，解決するための方法や具現化をもとめる。（知識･技能，関心･意欲･態度）
・実践した演習から結果を示しその考察及び新たな課題を明確にして，自分流の理論構築を行う。（思考･判断）
・一連の内容を報告書として論文にまとめ，成果物やプレゼン等で発表し公開する。（知識･技能，思考･判断･表現）
〔授業の概要〕
卒論研究を行うために，どのようなテーマ（題目）にしたいかを考えること。興味ある課題，今の時代に求められる課題，今後の技術科教育に求められる課題，楽しい課題，実践的な課題，新たな課題など発想を豊かに，しっかり考える。
その第１歩として，論文でも，書籍でも，教科書でも，学習指導要領解説でも，統計のデータでも見つめ読み込んで，課題を設定してほしい。状況として，みんなでディスカッションはできないが，オンデマンドで報告会や意見交換などして協議する。
【4年次】 →　学びの共同体の構成と運営
・自分の課題を明確化して，それに関わる資料を提出し，その内容を発表する。
・他の人の発表を聞き，自分なりの考えを述べる。
・順次，ファシリテーターや記録係を担当する。
・教育現場や教育関連企業が開催する研修会等に参加する。
・後輩への指導や助言を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
卒業論文研究のための調査、分析、検討、結果の考察、これからの課題など、自ら授業準備と授業後の復習を推し進める。
「授業前の調査や準備（90 分）」「授業後のまとめや次課題への対応（90 分）」
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
演習Ⅰのまとめ，評価方法の確認，論文の書き方，各テーマの確認等
第 2 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
研究テーマに関わる論文や著書を調べる
自分の課題を明確化して，それに関わる資料を提出し，その内容を発表する。
第 3 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
テーマに関わる論文･著書の内容まとめ
自分の課題を明確化して，それに関わる資料を提出し，その内容を発表する。
第 4 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
研究テーマに関わる論文や著書を調べる
自分の課題を明確化して，それに関わる資料を提出し，その内容を発表する。
第 5 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
テーマに関わる論文･著書の内容まとめ
他の人の発表を聞き，自分なりの考えを述べる。
第 6 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
研究テーマに関わる論文や著書を調べる
他の人の発表を聞き，自分なりの考えを述べる。
第 7 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
テーマに関わる論文･著書の内容まとめ
他の人の発表を聞き，自分なりの考えを述べる。
第 8 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
研究テーマに関わる論文や著書を調べる
順次，ファシリテーターや記録係を担当する。
第 9 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
テーマに関わる論文･著書の内容まとめ
順次，ファシリテーターや記録係を担当する。
第 10 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
研究テーマに関わる論文や著書を調べる
順次，ファシリテーターや記録係を担当する。
第 11 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
テーマに関わる論文･著書の内容まとめ
教育現場や教育関連企業が開催する研修会等に参加する。
第 12 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
研究テーマに関わる論文や著書を調べる
教育現場や教育関連企業が開催する研修会等に参加する。
第 13 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
テーマに関わる論文･著書の内容まとめ
後輩への指導や助言を行う。
第 14 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
研究テーマに関わる論文や著書を調べる
後輩への指導や助言を行う。

第 15 回　研究のまとめ
テーマに関わる論文･著書の内容まとめ

〔成績評価〕
毎授業の課題の提出状況（40%），課題レポートの内容（30%），授業への姿勢や学習内容・成果物等（30%）で総括的に評価する。

〔教科書〕
大学生のためのレポート･論文の書き方（平成23年11月、ナツメ社）

〔参考文献〕
「授業中に適宜資料を配布する」

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
①前期・後期　②水曜日 11:00~12:00、金曜日 12:30~13:30
③研究棟 安東研究室　④s-andoh@ashiya-u.ac.jp　⑤その他(来室の際、事前にメールでアポイントを取ること)

演習Ⅱ【技術教育の課題と問題解決】

8473

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
安東　　茂樹

〔到達目標〕
・技術教育（技術科教育や情報科教育を含む）の現代的な課題を探り，その問題意識を設定し，これまで学んできた経験や認識及び調査・実践等を通して，解決するための方法や具現化をもとめる。（知識･技能，関心･意欲･態度）
・実践した演習から結果を示しその考察及び新たな課題を明確にして，自分流の理論構築を行う。（思考･判断）
・一連の内容を報告書として論文にまとめ，成果物やプレゼン等で発表し公開する。（知識･技能，思考･判断･表現）

〔授業の概要〕
卒論研究を行うために，どのようなテーマ（題目）にしたいかを考えること。興味ある課題，今の時代に求められる課題，今後の技術科教育に求められる課題，楽しい課題，実践的な課題，新たな課題など発想を豊かに，しっかり考える。
その第１歩として，論文でも，書籍でも，教科書でも，学習指導要領解説でも，統計のデータでも見つめ読み込んで，課題を設定してほしい。状況として，みんなでディスカッションはできないが，オンデマンドで報告会や意見交換などして協議する。
【4年次】 →　学びの共同体の構成と運営
・自分の課題を明確化して，それに関わる資料を提出し，その内容を発表する。
・他の人の発表を聞き，自分なりの考えを述べる。
・順次，ファシリテーターや記録係を担当する。
・教育現場や教育関連企業が開催する研修会等に参加する。
・後輩への指導や助言を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
卒業論文研究のための調査、分析、検討、結果の考察、これからの課題など、自ら授業準備と授業後の復習を推し進める。
「授業前の調査や準備（90 分）」「授業後のまとめや次課題への対応（90 分）」

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
演習Ⅰのまとめ，評価方法の確認，論文の書き方，各テーマの確認等
第 2 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
研究テーマに関わる論文や著書を調べる
自分の課題を明確化して，それに関わる資料を提出し，その内容を発表する。
第 3 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
テーマに関わる論文･著書の内容まとめ
自分の課題を明確化して，それに関わる資料を提出し，その内容を発表する。
第 4 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
研究テーマに関わる論文や著書を調べる
自分の課題を明確化して，それに関わる資料を提出し，その内容を発表する。
第 5 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
テーマに関わる論文･著書の内容まとめ
他の人の発表を聞き，自分なりの考えを述べる。
第 6 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
研究テーマに関わる論文や著書を調べる
他の人の発表を聞き，自分なりの考えを述べる。
第 7 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
テーマに関わる論文･著書の内容まとめ
他の人の発表を聞き，自分なりの考えを述べる。
第 8 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
研究テーマに関わる論文や著書を調べる
順次，ファシリテーターや記録係を担当する。
第 9 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
テーマに関わる論文･著書の内容まとめ
順次，ファシリテーターや記録係を担当する。
第 10 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
研究テーマに関わる論文や著書を調べる
教育現場や教育関連企業が開催する研修会等に参加する。
第 11 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
テーマに関わる論文･著書の内容まとめ
教育現場や教育関連企業が開催する研修会等に参加する。
第 12 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
研究テーマに関わる論文や著書を調べる
教育現場や教育関連企業が開催する研修会等に参加する。
第 13 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
テーマに関わる論文･著書の内容まとめ
後輩への指導や助言を行う。

第 14 回　研究調査（学びの共同体の構成と運営）
研究テーマに関わる論文や著書を調べる
後輩への指導や助言を行う。
第 15 回　研究のまとめ（学びの共同体の構成と運営）
テーマに関わる論文･著書の内容まとめ
後輩への指導や助言を行う。

〔成績評価〕
毎授業の課題の提出状況（40％），課題レポートの内容（30％），授業への姿勢や学習内容・成果物等（30％）で総括的に評価する。

〔教科書〕
大学生のためのレポート･論文の書き方（平成23年11月、ナツメ社）

〔参考文献〕
「授業中に適宜資料を配布する」

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
①前期・後期　②水曜日 11:00~12:00、金曜日 12:30~13:30
③研究棟 安東研究室　④s-andoh@ashiya-u.ac.jp　⑤その他(来室の際、事前にメールでアポイントを取ること)

経営戦略論

2324

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
王地　裕介

〔到達目標〕
①経営戦略に関する基本的な概念、背景、定義、策定プロセス、戦略策定の分析ツールについて自分の言葉で説明ができる。
②経営戦略の分析・策定時に適切な理論を取捨選択し、適用することができる。

〔授業の概要〕
経営戦略とは、企業が価値を生み続け、競争優位性を構築するための指針である。
本科目では、２部構成で様々な経営戦略の理論と考え方を学び、戦略の分析や策定に必要な知識の土台を作ることを狙いとする。
第１部（１～４回）は、経営戦略の概要や分析フレームワークの基礎を扱う。
第２部（５～15回）では、経営戦略の10学派の概略を扱う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
①授業前に該当するテキスト内容を読んでおく（60 分）
②授業後に授業内容の復習と小レポート作成（60 分）

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション 経営戦略とはなにか
経営戦略の定義、ビジョンとの関係性、戦略を構成する４要素（事業ドメインの定義、資源の展開、競争優位、シナジー）について
第 2 回　経営戦略の略歴
「テイラーの科学的管理法」から始まる経営戦略論の略歴について
第 3 回　戦略策定プロセス
経営戦略策定に向けた外部分析と内部分析、策定の前提となる経済性分析（規模の経済、範囲の経済、経験曲線効果）について
第 4 回　経営分析フレームワーク
様々な戦略分析手法（アンゾフの成長マトリックス、3C分析、PEST分析など）について
第 5 回　デザイン学派
コンセプト構想プロセスとしての戦略形成：代表的モデル「ＳＷＯＴ分析」
第 6 回　プランニング学派
形式的策定プロセスとしての戦略形成：代表的モデル「シナリオ構築」
第 7 回　ポジショニング学派
分析プロセスとしての戦略形成：代表的モデル「ポーターの基本戦略」
第 8 回　アントレプレナー学派
ビジョン創造プロセスとしての戦略形成：代表的モデル「ビジョナリーカンパニー」
第 9 回　コグニティブ学派
認知プロセスとしての戦略形成：代表的モデル「認知マップ」
第 10 回　ラーニング学派
創発的学習プロセスとしての戦略形成：代表的モデル「ＳＥＣＩモデル」
第 11 回　パワー学派
交渉プロセスとしての戦略形成：代表的モデル「ミドルアップダウン」
第 12 回　カルチャー学派
集合的プロセスとしての戦略形成：代表的モデル「企業のイデオロギー」
第 13 回　エンバイロンメント学派
環境への反応プロセスとしての戦略形成：代表的モデル「条件適応理論」
第 14 回　コンフィギュレーション学派
変革プロセスとしての戦略形成：代表的モデル「トランスフォーメーション」
第 15 回　まとめ
第１～14回講義内容のまとめ

〔成績評価〕
授業毎の小レポート（45％）、期末試験（55％）

〔教科書〕
『戦略サファリ』第２版　ヘンリー・ミンツバーグ他著、斎藤嘉則監訳、東洋経済新報社

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
※LMS科目なので、メールで質問等を送ってください。次回の授業までに回答します。

経営組織論

2324

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
高倉　弘士

〔到達目標〕
組織の成立過程やかたち、人の行動とモチベーションについて理解することをとおして、組織について多角的な視覚を獲得する
〔授業の概要〕
日常、わたしたちはあまり意識することなく、多くの「組織」にであい、かかわっている。皆さんがコンビニエンスストアで買い物をするというときにも、その背後には複雑な「組織」がある。本講義では、なるべく実際に社会で起こっている問題を適宜授業に反映させ、理論だけでなく背後に広がる実態に迫っていくような講義をおこなう。講義をとおして、現代社会との接点を持つことで、経営学の大切さを学んでもらうことを意図している。

講義で話すことは、わたしたちの日常にあふれている。そのため、講義内容をもちいて、日常の現象を説明できるかもしれない、という意識を常に持ち続け受講してほしい。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業内で紹介する参考図書や関連情報サイトを参照してください。ですが、必ずしも図書は購入する必要はありません。
〔授業計画〕
1 ガイダンス 人文科学におけるの経営論の位置と役割
2 経営管理の理論（1） 官僚制／職能別組織
3 経営管理の理論（2） 科学的管理法／ホーソン実験／フォード・システム
4 経営管理の理論（3） 企業文化／終身雇用
5 意思決定について 内発的動機づけ／人間資源アプローチ
6 リーダーシップ論 リーダーの行動／管理者行動
7 経営戦略（1） 創発的戦略／
8 経営戦略（2） シナジー効果
9 経営戦略（3） ドミナント・ロジック
10 競争戦略（1） コスト・リーダーシップ／差別化／集中
11 競争戦略（2） 模倣戦略／特許戦略
12 事業戦略（1） ファイブス・フォース・モデル
13 事業戦略（2） 強み・弱み分析
14 マーケティング（1） マーケティング・ミックス
15 マーケティング（2） CMR／パレートの法則／ブランド
〔成績評価〕
課題提出（50%）、期末評価（50%）で判断する。
課題や期末評価の提出方法や、評価点については授業内で適宜説明する。
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業内で適宜紹介する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
質問については、以下のメールアドレスにおくること。
質問の内容については、次回の授業内で取り上げることがある。
連絡先：h.takakura1@gmail.com

ファッションビジネス経営論

6500

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
15単位　前期
大村　邦年

〔到達目標〕
ファッションをマネジメント（経営）として多面的に考えることは，多くの問題意識と気づきを私たちに与えてくれる。将来，ファッションビジネスの世界をめざす学生にとって，実際のファッション企業がおこなっているさまざま競争優位の経営戦略を学ぶことから，社会で通用する顧客ニーズを基軸とした，柔軟で的確な「思考力」「適応力」「創造力」を身につけることが受講生の最終到達目標となる。
〔授業の概要〕
ファッションビジネスは，これまでさまざまなトレンド（流行）を生み出し，消費社会において中核をなすとともに，カルチャー（文化）もリードしてきた。近年では，ファッションの定義がライフスタイルといえる，衣・食・住の領域まで拡張し，もっとも生活に密着した学びといえる。本講義は，ファッション企業の多様なマネジメントの本質に焦点を当て，「誰に、どのような価値を提供するのか」を念頭に身近な人気ブランドの事例から，その特徴的な差別化された経営戦略を明らかにする。そしてファッション以外の多くの業界でも必要な顧客志向マネジメントの重要性を双方向（学生と教員）の議論をとおして学ぶことになる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
第1回
　予習：なし
　復習：本講義を受講する目標を設定する。
第2回～第12回
　予習：テキストの該当する章を読み込んでおくこと。
　復習：課題レポートで講義内容の問題意識や理解度を

確認する。
第13回～第14回
　予習：講義で指示するブランドの配布資料を事前に読みこむこと。
　復習：課題レポートで講義内容の問題意識や理解度を確認する。
第15回
　予習：これまでの講義資料やレポートを整理する。
　復習：本講義で得た問題意識と気づきをまとめて，自らの目標到達を確認する。
〔授業計画〕

第１回　イントロダクション　ファッションマネジメントとは何か
第２回　ファッションの歴史的変遷①（西洋編）
第３回　ファッションの歴史的変遷②（日本編）
第４回　ファッションマネジメントの進化（分業システムからSPA型ビジネスモデルへ
第５回　ファッションとeコマースのマネジメント戦略
第６回　海外ファッション企業の新たなブランド戦略①（ルイ・ヴィトン）
第７回　海外ファッション企業の新たなブランド戦略②（エルメス）
第８回　海外ファッション企業の新たなブランド戦略③（シャネル）
第９回　ファストファッションにおける競争優位のメカニズム（ZARA）
第10回　急成長アパレルにみる新たなブランディング戦略（マッシュホールディングス）
第11回　ファッションビジネスにおける顧客満足の追求(ノードストローム)
第12回　ファッションの拡張による多角化戦略（ジュングループ）
第13回　新たな市場を創るライフスタイルビジネスとは（ロンハーマン，サザビーリーグ）
第14回　アスレジャービジネスの進展から見えるモノ（ナイキ，ノースフェイス，ルルレモン）
第15回 講義のまとめ（ファッションビジネスの未来はどうなるか）
〔成績評価〕
　毎授業時の課題レポート40％，授業への貢献度10％，期末課題レポート50％で総合的に評価する。
〔教科書〕
大村邦年（2017）『ファッションビジネスの進化―多様化する顧客ニーズに適応する，生き抜くビジネスと何か―』晃洋書房。また，毎回講義のスライド資料を配布する。

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
１．前期
２．曜日：金曜日3限目授業終了後
３．場所：講義教室
４．後日質問のある学生は、下記にメールにて質問を送って下さい。
　次回の授業までに回答します。
　連絡先（大村）：kuniomura@nifty.com
５．その他
　直接質問や相談がある場合は、事前にメールにてアポイントをとること。

自動車ビズネス経営論

2271

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
池田　　和三

〔到達目標〕
授業で得た知識をもとに自動車整備業界全体を理解し、自動車整備士以外の職に就いた場合でも役に立つ知識、スキル、コミュニケーション力等を養う。
〔授業の概要〕
自動車業界での経営概要と必要な法律知識概要に加え、職業人としての心構え、会社内のお金の流れ、接客スキル等とともにコミュニケーション力を身に着ける
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
新聞を読み、記事をきちんと理解し、日ごろから政治・経済・世界情勢・スポーツ・自動車等あらゆるジャンルのニュースに触れ、記事を読み文章を書くことで日本語力の向上を目指す。授業の最初にはその週にあった気になるニュースを一つだけ説明出来るよう読み込み、話せるスキル・説明出来るスキルを身につける。
〔授業計画〕
第 1 回　自動車にかかわる仕事
　自動車整備に携わる立場から整備・販売以外の自動車に関係する仕事を取り上げ、どのような仕事を行っているか、整備士とのかかわりを元にディベード等を実施
第 2 回　身の回りの物の値段と見えない税金
　ガソリンの値段に含まれていて気づかない税金や一次産業の不作・不漁による物価変動の実情による経済の流れ・世の中の動きを確認。身の回りの飲料水や食品添加物についても気づいていないことなどを検証
第 3 回　自動車の改造とその可否

自動車の形状・種類を元に違法改造車を判断する目を養う。街中で見かけた実際の自動車で違法改造の有無や可否について目で見て確認。道路運送車両法に照らし合わせて法律上の根拠等を確認

第 4 回　情報の重要性と使用方法
５０年前、２５年前と現在を比較。販売台数、保有台数、車検台数、整備売上、車検制度の変革等を元に今後の業界予測について

第 5 回　近未来の自動車業界
Maas（Mobility as a service）、ＣASE（Connected＝コネクティッド、Autonomous/Automated＝自動化、Shared＝ シェアリング、Electric＝電動化）、ADAS、５Gとコネクティッドカー等による自動車業界の近未来等を予測

第 6 回　ハイブリッド車、電気自動車、燃料電池車
ハイブリッド車、電気自動車、燃料電池車他環境問題に取り組む自動車の現在の普及台数から今後を予測。メリット・デメリットを含めたインフラ整備の重要性等について

第 7 回　人材不足と高齢化問題
自動車整備業のみならず中小企業の事業合理化、後継者不足による休業・廃業・解散件数の増加傾向他、少子高齢化による人材不足・高齢化等諸問題について

第 8 回　企業からの提案①　レンタル事業　1
授業用に協賛レンタル事業者が作成した動画を見て具体的に気づいたこと・感想・新しく得た知識等を発表し感想文を作成し、ディペード等を実施

第 9 回　企業からの提案②　レンタル事業　2
各自作成した感想文と、レンタルビジネス業の内情、従業員への給与支給にかかる事業者の負担などについて経営者側の立場からディペード等を実施

第 10 回　企業からの提案③　用品販売事業　1
授業用に協賛用品販売事業者が作成した動画を見て具体的に気づいたこと・感想・新しく得た知識等を発表し感想文を作成し、ディペード等を実施

第 11 回　企業からの提案④　用品販売事業　2
用品販売以外でクルマ買取・販売・中古カー用品などの取り扱い（トータルサポート）の実情を確認。FC（フランチャイズシステム）本部と店舗のそれぞれの役割と経営面での実践事業についてディペード等を実施

第 12 回　企業からの提案⑤　用品販売事業　3
戦略（総合的、効果的、大局的、長期的な視点）と戦術（実行上の方策、具体的な手段、実践的な計画）により、お客様満足度（CS）が向上しリピート率につながるであろうキーワードについて、感想文を用いてディペード等を実施。

第 13 回　新聞の読み方・文章の校正
正しい日本語で文章を作成。推敲・出稿・校正・校了・印刷・製本の流れを確認。文章を校正し論文作成に役立てる。新聞の製作と読み方を解説。読む側への情報の与え方としての大見出し・小見出し・リード文・キャプション・本文の役割を説明

第 14 回　自動車関係法令概要
下請代金支払遅延防止法、消費者契約法、特定商取引法、不当表示防止法、ＮＯｘ・ＰＭ法、リサイクル法、産業廃棄物処理法、個人情報保護法、消防法、バーゼル法、著作権法、大気汚染防止法、建築基準法他自動車に関係する法律の概略説明

第 15 回　自動車販売・整備に関する法律用語
留置権、占有権、立証責任、瑕疵担保責任、ガソリンの指定数量、特定有害廃棄物、利害相反、特定物、名誉棄損・信用棄損、重要事項不告知、損害賠償他、販売・整備で使われる主な法律用語を具体的例を元に説明

〔成績評価〕
提出物・課題提出２０％
試験８０％

〔教科書〕
「特になし」
自作PPT及び協力企業からの動画

〔参考文献〕
「特になし」

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
1.学期　後期
2.曜日　月曜日　11：30～12：10
3.場所　教員研究室
4.連絡先　k-ikeda@ashiya-u.ac.jp
5.その他　※LMS科目なので対面とならない場合は、メールかPollyで質問等を送ってください。

舞踊表現基礎

1819

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
井村　　薫子

〔到達目標〕
クラシックバレエ以外の舞踊に触れ、実際に踊ってみる。
舞踊の種類によって、身体の使い方の違いなどについて考察する。
客観的にクラシックバレエの技術について研究する。

〔授業の概要〕
舞踊の種類による身体の使い方の違いなどグループディスカッションを行い、他者との意見交換を積極的に行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回授業後に、小レポートを作成し、提出すること（60分）
〔授業計画〕
第 1 回　授業についてのガイダンス
・ジャズダンスについての概要説明
第 2 回　各トレーニング内容を把握し、ルーティンを覚える
・アイソレーション
・基礎トレーニング
・筋力トレーニング
・クロスフロアステップ
第 3 回　各トレーニングメニューの反復及びコンビネーションを覚える
・各トレーニングメニューの反復
・コンビネーションを覚えて踊る
第 4 回　クロスフロアステップ及びコンビネーションを増やす
・各トレーニングメニューの反復
・新たなクロスフロアステップ及びコンビネーションを増やして踊る
第 5 回　コンビネーションを更に増やす
・各トレーニングメニューの反復
・コンビネーションを更に増やし踊りこむ
第 6 回　コンビネーションを更に増やす
・各トレーニングメニューの反復
・コンビネーションを更に増やし踊りこむ
第 7 回　これまでに覚えたコンビネーションでミニ発表会を行う
・各トレーニングメニューの反復
・仕上げたコンビネーションをミニ発表し、意見交換を行う
第 8 回　ヒップホップの概要について
第 9 回　ヒップホップ実技⑴
・アイソレーション・リズムトレーニングの説明と実演・実行
・ヒップホップ特有の身体の使い方を学び、体感する
第 10 回　ヒップホップ実技⑵
・アイソレーション・リズムトレーニング・ステップの習得
・基礎トレーニングでヒップホップに必要な体作りを行う。
・クラブステップ・ランニングマンの習得と、それらを使ったルーティンを学ぶ。
第 11 回　ヒップホップ実技⑶
・アイソレーション・リズムトレーニング・ステップの習得
・基礎トレーニングでヒップホップに必要な体作りを行う。
・ホーシング・ポップコーンの習得と、それらを使ったルーティンを学ぶ。
第 12 回　ヒップホップ実技⑷
・アイソレーション・リズムトレーニング・ステップの習得
・基礎トレーニングでヒップホップに必要な体作りを行う。
・チャールストン・ロジャーラビットの習得と、それらを使ったルーティンを学ぶ。
第 13 回　ヒップホップ実技⑸
・リズム・ステップの応用
・基礎トレーニングでヒップホップに必要な身体作りを行う。
・実技⑷までに習得したリズムや基本ステップを確認しながら、ステップの応用を学習し、さらにステップを多数学習する。
第 14 回　ヒップホップ実技⑹
前回までに習得したリズムや、応用ステップを確認し、それらを使ったルーティンを学ぶ。また、出来上がったものを少人数のグループに分かれて発表する。
第 15 回　まとめ
ジャズ、ヒップホップの演習を通して、学んだことをまとめ、グループ発表する。
〔成績評価〕
小レポート、実技の理解度・積極度による、総合評価
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
⑴前期・後期
⑵月曜日：13:00～16:00、木曜日：13:00～16:00
⑶芸術文化センターにて
⑷連絡先：k-imura@ashiya-u.ac.jp
⑸来室の際は、事前にメールにてご連絡をお願いします。

舞踊表現応用

1819

経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
井村　　薫子

〔到達目標〕
世界各国の舞踊表現の演習を通して、古典バレエ作品のより深い知識を修得する。
〔授業の概要〕
民族舞踊の実技、それらの国の気候や社会背景、宗教的・社交的慣習などを学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ストレッチ等を行い授業に臨むこと。
ビデオ学習、レポート作成など。
〔授業計画〕
第 1 回　授業についてのガイダンス
第 2 回　キャラクターダンス演習⑴
手の動き、民族舞踊の特性について
第 3 回　キャラクターダンス演習⑵
バーレッスン（プリエ、バットマンタンジュ、バットマンジュテ）
第 4 回　キャラクターダンス演習⑶
バーレッスン（ロンドジャンブ、バットマンフォンデュ）
第 5 回　キャラクターダンス演習⑷
バーレッスン（バットマンフラッペ、アダジオ、グランバットマン）
第 6 回　キャラクターダンス演習⑸
バーレッスン仕上げ
第 7 回　キャラクターダンスのセンターレッスン演習⑴
ポーランドの舞踊
第 8 回　キャラクターダンスのセンターレッスン演習⑵
ハンガリーの舞踊
第 9 回　キャラクターダンスのセンターレッスン演習⑶
ロシアの舞踊
第 10 回　キャラクターダンスのセンターレッスン演習⑷
イタリアの舞踊
第 11 回　キャラクターダンスのセンターレッスン演習⑸
ロシアの舞踊
第 12 回　古典作品の中のキャラクターダンス⑴
「白鳥の湖」より第3幕のキャラクターダンスの実演
第 13 回　古典作品の中のキャラクターダンス⑵
「白鳥の湖」より第3幕のキャラクターダンスの実演
第 14 回　古典作品の中のキャラクターダンス⑶
「白鳥の湖」より第3幕のキャラクターダンスの実演
第 15 回　まとめ
〔成績評価〕
毎回の授業に対する取り組み、提出レポートなど総合評価
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
⑴前期・後期
⑵月曜日：13:00～16:00、水曜日：13:00～16:00
⑶芸術文化センターにて
⑷連絡先：k-imura@ashiya-u.ac.jp
⑸来室の際は、事前にメールにてご連絡をお願いいたします。

経営史

2327

経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　後期
井上　徹

〔到達目標〕
経営史の誕生・展開を学び、経営史の全体像・現代的課題を理解することを目標としています。
1.経営史の意味や役割を理解し自らの言葉で説明できる。
2.企業成長の為の洞察力・客観的・長期的な思考力を知る。
3.経営学の基礎的な考え方・分析手法をみにつける。
〔授業の概要〕
企業経営の歴史的発展過程をアメリカ・イギリス・日本のケースから、通史的に事例を含め、分かりやすく講義。その上で、現代までの、企業経営の変化を学ぶ。
授業内レポートは、映像資料などによる講義も含め講義後に提出。

・授業内レポートの発表・ディスカッションを行い、全受講者と共に検討。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：興味のある業種・企業の動向に目を向ける。（120分）
復習：授業後のレポート作成・講義内容を理解し、次回の講義に臨む。（120分）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
・講義の進め方・講義内容・評価方法の説明。
第 2 回　経営史とは
・経営史とはなにか？
第 3 回　会社の誕生
・会社の歴史的な展開と役割
第 4 回　産業革命
・現代企業の前提とイギリス産業革命
第 5 回　工業化・技術革新
・工場の誕生と機械産業
第 6 回　インフラストラクチャーの発展
・アメリカにおける鉄道業の発展
第 7 回　アメリカにおける経営革新
・ビックビジネスの成立
第 8 回　中間試験
7回までの授業内容をまとめた小テストorレポート。
第 9 回　アメリカ的組織と経営手法
・チャンドラー経営史3部作
第 10 回　・自動車産業
・戦略とマーケット（GM・フォードの事例）

第 11 回　日本の経営発展
　　・近代産業の形成
第 12 回　企業経営の変容
　　・戦前から戦後へ
第 13 回　高度経済成長期の経営
　　・戦後の展開
第 14 回　IT産業
　　・IT産業の登場と発展
第 15 回　まとめ・総括
　　・今後の展望

〔成績評価〕
定期試験：40%
中間試験：30%
課題提出・授業内レポートなど：30%

〔教科書〕
・授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
「ビジネス・ヒストリー （グローバル企業誕生への道程）」ミネルヴァ書房
「1からの経営史」碩学舎「経営史」日本経済新聞出版　等
その他の参考資料は授業内で紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
1.学　期：前期・後期
2.日　時：授業終了後／水曜日14：00～15：00
3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室
4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能
5.その他（相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容
②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。
③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

情報処理技法Ⅱ（文書作成）

3508
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
水曜 4限
朝野　美穂

〔到達目標〕
・Wordの基本的機能や操作方法を知る。
・Wordを使用し、効率的に文書作成ができる。
・Wordを使用し、目的や状況に応じた文書作成ができる。

〔授業の概要〕
文書作成に欠かせないWordを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Word 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　スキルチェック
　　Wordのスキルチェック
第 2 回　文書の作成と管理②
　　文書の書式設定、文書のオプションと表示のカスタマイズ
第 3 回　文書の作成と管理④
　　「文書の作成と管理」の確認問題
第 4 回　文字、段落、セクションの書式設定②
　　文字や段落の書式設定
第 5 回　文字、段落、セクションの書式設定④
　　「文字、段落、セクションの書式設定」の確認問題
第 6 回　表やリストの作成②
　　表の変更
第 7 回　表やリストの作成④
　　「表やリストの作成」の確認問題
第 8 回　参考資料の作成と管理②
　　「参考資料の作成と管理」の確認問題
第 9 回　グラフィック要素の挿入と書式設定②
　　グラフィック要素の書式設定
第 10 回　グラフィック要素の挿入と書式設定④
　　「グラフィック要素の挿入と書式設定」の確認問題
第 11 回　文書表現の応用②
　　説得力のある文書の作成
第 12 回　模擬試験対策②
　　模擬試験の実施、解説
第 13 回　模擬試験対策④

模擬試験の実施、解説
第 14 回　模擬試験対策⑥
模擬試験の実施、解説
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ

〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%

〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
・富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
その他

〔備考〕
水曜日４時限目　情報処理技法Ⅰ（文書作成）も併せて履修すること。

〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：水曜日２限目
・場所：講師控室
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能もしくは直接メールでアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能もしくはメールでも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅱ（表計算）

3507
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
金曜 2限
朝野　美穂

〔到達目標〕
・Excelの基本的機能や操作方法を知る。
・Excelを使用し、効率的に表計算ができる。
・Excelを使用し、目的や状況に応じた表計算ができる。

〔授業の概要〕
表計算で必要とされるExcelを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Excel 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　スキルチェック
Excelのスキルチェック
第 2 回　ワークシートやブックの作成と管理②
ワークシートやブックの書式設定
第 3 回　ワークシートやブックの作成と管理④
「ワークシートやブックの作成と管理」の確認問題
第 4 回　セルやセル範囲のデータの管理②
セルやセル範囲の書式設定
第 5 回　セルやセル範囲のデータの管理④
「セルやセル範囲のデータの管理」の確認問題
第 6 回　テーブルの作成②
テーブルのレコードの抽出、並び替え、「テーブルの作成」の確認問題
第 7 回　数式や関数を使用した演算の実行②
関数を使用した条件付きの計算
第 8 回　数式や関数を使用した演算の実行④
「数式や関数を使用した演算の実行」の確認問題
第 9 回　グラフやオブジェクトの作成②
グラフの書式設定
第 10 回　グラフやオブジェクトの作成④
「グラフやオブジェクトの作成」の確認問題
第 11 回　表計算の応用②
目的や状況に応じた視覚的効果を用いた表計算②
第 12 回　模擬試験対策②
模擬試験の実施、解説
第 13 回　模擬試験対策④
模擬試験の実施、解説
第 14 回　模擬試験対策⑥
模擬試験の実施、解説
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ

〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%

〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
その他

〔備考〕
金曜日１時限目　情報処理技法Ⅰ（表計算）も併せて履修すること。

〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：水曜日２限目
・場所：講師控室
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能もしくは直接メールでアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、

質問等は、Phollyのメッセージ機能もしくはメールでも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅰ（文書作成）

3501
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
水曜 3限
朝野　美穂

〔到達目標〕
・Wordの基本的機能や操作方法を知る。
・Wordを使用し、効率的に文書作成ができる。
・Wordを使用し、目的や状況に応じた文書作成ができる。

〔授業の概要〕
文書作成に欠かせないWordを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Word 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ・Ⅱ（文書作成）の概要
第 2 回　文書の作成と管理①
　　文書作成時の注意点、文書の作成、文書の移動
第 3 回　文書の作成と管理③
　　文書の印刷、文書の保存
第 4 回　文字、段落、セクションの書式設定①
　　文字列や段落の挿入
第 5 回　文字、段落、セクションの書式設定③
　　文字列や段落の並び替え、グループ化
第 6 回　表やリストの作成①
　　表の作成と変更
第 7 回　表やリストの作成③
　　リストの作成、変更
第 8 回　参考資料の作成と管理①
　　参照のための情報や記号の作成と管理、標準の参考資料の作成と管理
第 9 回　グラフィック要素の挿入と書式設定①
　　グラフィック要素の挿入
第 10 回　グラフィック要素の挿入と書式設定③
　　SmartArtの挿入、書式設定
第 11 回　文書表現の応用①
　　目的や状況に応じた文書の作成
第 12 回　模擬試験対策①
　　模擬試験の概要、模擬試験プログラムの学習方法
第 13 回　模擬試験対策③
　　模擬試験の実施、解説
第 14 回　模擬試験対策⑤
　　模擬試験の実施、解説
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ

〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%

〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
その他

〔備考〕
水曜日４時限目　情報処理技法Ⅱ（文書作成）も併せて履修すること。

〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：水曜日２限目
・場所：講師控室
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能もしくは直接メールでアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能もしくはメールでも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅰ（表計算）

3502
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
金曜 1限
朝野　美穂

〔到達目標〕
・Excelの基本的機能や操作方法を知る。
・Excelを使用し、効率的に表計算ができる。
・Excelを使用し、目的や状況に応じた表計算ができる。

〔授業の概要〕
表計算で必要とされるExcelを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Excel 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ・Ⅱ（表計算）の概要
第 2 回　ワークシートやブックの作成と管理①
ワークシートやブックの作成、移動
第 3 回　ワークシートやブックの作成と管理③
ワークシートやブックのオプションと表示のカスタマイズ、配布するための設定
第 4 回　セルやセル範囲のデータの管理①
セルやセル範囲へのデータ挿入
第 5 回　セルやセル範囲のデータの管理③
データのまとめ、整理
第 6 回　テーブルの作成①
テーブルの作成、管理、スタイルと設定オプションの管理
第 7 回　数式や関数を使用した演算の実行①
関数を使用したデータ集計
第 8 回　数式や関数を使用した演算の実行③
関数を使用した書式設定、文字列の変更
第 9 回　グラフやオブジェクトの作成①
グラフの作成
第 10 回　グラフやオブジェクトの作成③
オブジェクトの挿入、書式設定
第 11 回　表計算の応用①
目的や状況に応じた視覚的効果を用いた表計算①
第 12 回　模擬試験対策①
模擬試験の概要、模擬試験プログラムの学習方法
第 13 回　模擬試験対策③
模擬試験の実施、解説
第 14 回　模擬試験対策⑤
模擬試験の実施、解説
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ
〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%
〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
その他
〔備考〕
金曜日２時限目　情報処理技法Ⅱ（表計算）も併せて履修すること。
〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：水曜日２限目
・場所：講師控室
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能もしくは直接メールでアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能もしくはメールでも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅱ（文書作成）

3505
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
中谷　有里

〔到達目標〕
・Wordの応用的な機能や操作方法を知る。
・Wordを使用し、効率的に文書作成ができる。
・Wordを使用し、目的や状況に応じた文書作成ができる。
〔授業の概要〕
文書作成で必要とされるWordを用いて、社会人としてビジネスの場で効果的・効率的に活用できるより高度で実践的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Word 2016 Expert」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
※「情報処理技法Ⅰ（文書作成）」の単位を取得済かつ「Microsoft Office Specialist Word 2016」を取得済（または同等レベル以上の証明書あり）が望ましい。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅱ（文書作成）の概要
第 2 回　スキルチェック
Wordのスキルチェック
第 3 回　文書のオプションと設定の管理①
文書作成時の注意点、文書とテンプレートの管理
第 4 回　文書のオプションと設定の管理②
文書の変更の管理、校閲用の文書の準備
第 5 回　文書のオプションと設定の管理③
情報の安全性の確保
第 6 回　高機能を使用した文書のデザイン
高度な編集や書式設定、スタイルの作成
第 7 回　高機能を使用した参考資料の作成①
索引の作成と管理、参考資料の作成と管理
第 8 回　高機能を使用した参考資料の作成②

フォーム、フィールド、差し込み印刷の管理
第 9 回　ユーザー設定のWord要素の作成①
文書パーツ、マクロ、コントロールの作成と変更
第 10 回　ユーザー設定のWord要素の作成②
ユーザー設定のスタイルセットとテンプレートの作成
第 11 回　ユーザー設定のWord要素の作成③
ほかの言語やユーザー補助機能に対応した文書の準備
第 12 回　文書表現の基本
文書作成のポイント
第 13 回　文書表現の応用①
Wordの利用環境をカスタマイズした文書の作成
第 14 回　文書表現の応用②
効率的な文書の作成
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ

〔成績評価〕
小テスト30%（実技）
定期試験70%（実技）

〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Word 2016 Expert対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（3,000円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
金曜日3時間目
研究棟2階
事前にphollyのメッセージでアポイントを取ってください。

情報処理技法Ⅱ（表計算）

3509
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
中谷　有里

〔到達目標〕
・Excelの応用的な機能や操作方法を知る。
・Excelを使用し、効率的に表計算ができる。
・Excelを使用し、目的や状況に応じた表計算ができる。

〔授業の概要〕
表計算で必要とされるExcelを用いて、社会人としてビジネスの場で効果的・効率的に活用できるより高度で実践的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Excel 2016 Expert」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
※「情報処理技法Ⅰ（表計算）」の単位を取得済かつ「Microsoft Office Specialist Excel 2016」を取得済（または同等レベル以上の証明書あり）が望ましい。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
小テスト30%（実技）
定期試験70%（実技）

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅱ（表計算）の概要
第 2 回　スキルチェック
Excelのスキルチェック
第 3 回　ブックのオプションと設定の管理
管理、校閲の管理
第 4 回　表示形式やレイアウトの適用①
ユーザー定義の表示形式と入力規則、条件付き書式やフィルターの適用
第 5 回　表示形式やレイアウトの適用②
ユーザー設定のブックの要素の作成と変更
第 6 回　表示形式やレイアウトの適用③
ほかの言語に対応したブックの準備
第 7 回　高機能な数式の作成①
名前付き範囲とオブジェクトの定義、数式に関数の適用
第 8 回　高機能な数式の作成②
関数を使用したデータの検索、高度な日付と時刻の関数の適用
第 9 回　高機能な数式の作成③
データ分析・ビジネス分析、数式のトラブルシューティング
第 10 回　高機能なグラフやテーブルの作成①
高度な機能を使用したグラフの作成
第 11 回　高機能なグラフやテーブルの作成②
ピボットテーブルの作成と管理
第 12 回　高機能なグラフやテーブルの作成③
ピボットグラフの作成と管理
第 13 回　表計算の応用①
効率的な集計を必要とする表計算
第 14 回　表計算の応用②
的確な判断と分析を必要とする表計算
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ

〔成績評価〕
小テスト30%（実技）
定期試験70%（実技）

〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Excel 2016 Expert対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（3,000円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
金曜日3時間目
研究棟2階
事前にphollyのメッセージでアポイントを取ってください。

英語Ⅰ【再履修】

1507
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
野島　晃子

〔到達目標〕
１．基本的な単語、熟語を身につける。
２．基礎的な英文の構造を理解し、応用できるようにする。
３．日常会話程度のリスニング力を身につける。
〔授業の概要〕
英語の基本文型などを授業毎に提示する。解説を理解したうえで問題を解き基礎固めをする。
各回の授業内容に関連する文法事項や練習問題を含んだプリントを配布して進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の授業内容（語彙や会話文）を復習し、定着させる。(90分)
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・英語の基礎
授業の進め方についての説明をおこない、英語の基礎の「基礎」の復習を兼ねて問題を解く。
第 2 回　be動詞
be動詞の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 3 回　一般動詞
一般動詞の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 4 回　現在形
現在形の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 5 回　過去形
過去形の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 6 回　未来表現
未来表現の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
小テストの実施
第 7 回　助動詞①
助動詞canの習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 8 回　助動詞②
助動詞mustの習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 9 回　助動詞③
助動詞shouldの習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 10 回　現在進行形
現在進行形の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 11 回　現在完了形
現在完了形の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 12 回　疑問文①
Yes/Noで答えられる疑問文の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
小テスト実施
第 13 回　疑問文②
疑問詞を使った疑問文の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 14 回　これまでの振り返り①
第1回から第15回までに習得した内容の総復習
第 15 回　最終試験
期末試験に相当する試験を実施する
〔成績評価〕
毎回の課題の提出（30%）
小テスト（20%）
定期試験（50%）
〔教科書〕
配布する資料や問題は教員から提示するため教科書は指定しない。
〔参考文献〕
必要に応じて授業中に紹介する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
火曜日

英語Ⅰ⑨

1510
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
成田　沙央子

〔到達目標〕
基礎的な英文法を復習し、英語学習の基盤となる部分をしっかりと作りあげる。語彙を増やし、話法・口語表現を理解し身につける。問題演習や、実際に英語でコミュニケーションをとることを通じて、英語に対する自信を持てるようになる。
〔授業の概要〕
問題演習を通して基本的な英文法を学ぶ。また、視聴覚教材を用い、実際の生きた英語に触れ、リスニング・スピーキングにも取り組み、日常会話やコミュニケーションの基本的な技能を身に着ける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回課題を提出する。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・Unit1
一般動詞とbe動詞（現在形）（1）
第 2 回　Unit1
一般動詞とbe動詞（現在形）（2）
第 3 回　Unit1
一般動詞とbe動詞（現在形）（3）
第 4 回　Unit2
一般動詞とbe動詞（過去形）（1）
第 5 回　Unit2
一般動詞とbe動詞（過去形）（2）
第 6 回　Unit2
一般動詞とbe動詞（過去形）（3）
第 7 回　Unit3
疑問文（1）
第 8 回　Unit3
疑問文（2）
第 9 回　Unit3
疑問文（3）
第 10 回　Unit4
否定文（1）
第 11 回　Unit4
否定文（2）
第 12 回　Unit４
否定文（3）
第 13 回　Unit１・２
復習・問題演習
第 14 回　Unit３・４
復習・問題演習
第 15 回　復習テスト
〔成績評価〕
授業内評価 60%
学期末テスト40%
〔教科書〕
Laugh and Learn: Back to the Basics（南雲堂）
〔参考文献〕
適宜指示する。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
木曜12:10~15:30

英語Ⅰ⑩

1511
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
武田　亜希子

〔到達目標〕
様々な英語表現に触れることによって大学生にふさわしい知識と教養を身につけ、英語の持つ特徴を知り英語を母国語とする人々の文化や考え方を理解できるようになる。

〔授業の概要〕
多様な視点から英語にアプローチし、言葉を通して英語圏の文化を知る。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学習内容を復習し、毎回課題を提出する。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方や評価の方法について説明する。
第 2 回　辞書に親しむ
辞書の引き方や読み方を知る。また、内容と関連した文法を学習する。
第 3 回　"Look Out!" ①
イディオムについて学ぶ。また、内容と関連した文法を学習する。
第 4 回　"Look Out!" ②
イディオムについて学ぶ。また、内容と関連した文法を学習する。
第 5 回　You Are My Sunshine ①
アメリカのカントリー・ウェスタン "You Are My Sunshine"を素材とした文法学習を行う。
第 6 回　You Are My Sunshine ②
アメリカのカントリー・ウェスタン "You Are My Sunshine"を素材とした文法学習を行う。
第 7 回　You Are My Sunshine ③
アメリカのカントリー・ウェスタン "You Are My Sunshine"を素材とした文法学習を行う。
第 8 回　Riddles
英語のなぞなぞを考えることにより、英語という言語の持つ特徴を知る。また、内容と関連した文法を学習する。
第 9 回　コンテクスト
文脈に合わせて柔軟に単語の意味を解釈できる力を養う。また、内容と関連した文法を学習する。
第 10 回　翻訳への第一歩
英文解釈について考え、実践する。また、内容と関連した文法を学習する。
第 11 回　英作文への第一歩
和文英訳について考え、実践する。また、内容と関連した文法を学習する。
第 12 回　同一語の反復を避ける
英文中の言い換えについて学ぶ。また、内容と関連した文法を学習する。
第 13 回　Charmingの本来の意味
自動詞と他動詞の区別について学ぶ。また、内容と関連した文法を学習する。
第 14 回　まとめ①
これまでの学習事項を振り返る。
第 15 回　まとめ②
これまでの学習事項を振り返る。
〔成績評価〕
毎回の提出物　100%
〔教科書〕
行方昭夫『ユニーク英語講座―英語の根幹―』音羽書房鶴見書店

〔参考文献〕
必要に応じてプリントを配布
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
授業計画及び成績評価については、今後の感染症対策によって授業形態変更の可能性があるため確定的ではない。また、クラスの学習状況や理解度に合わせて若干の変更の可能性あり。
〔オフィスアワー〕
質問等は随時Phollyのメッセージ機能で受け付ける。

国際交流論

2231
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
安藤　　由香里

〔到達目標〕
本授業の目的は、身近な話題から国際文化や社会について考え、グローバル化社会での様々な現代的問題をさらに理解することである。
本授業を通して、学生は現代の様々な文化や社会の枠組みの中で起こっている問題について自らの意見を述べることができようになる。
〔授業の概要〕
本授業では、国際交流の意義の理解と国際交流の実践を考える。グローバル化が進展し、人・物・金・情報が地球上を自由に駆け回っている。その中で、国際交流が人間同士の相互理解を促進し、争いを避ける可能性があるため、国際交流の意義、現況、問題点等などを学ぶ。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業と関連する新聞記事を授業の最初に話し合うために毎回持参すること。
〔授業計画〕
1. クラスオリエンテーション・アイスブレイク・国際交流とは何か
2. 現代社会（歴史的・地理的・民族的背景）季節と宗教：祭り、宗教、食べ物
3. 生活習慣：大浴場、ウォシュレット、箸、布団
4. 教育制度：就学前、小学校、中学校、高校、大学
5. 法制度：憲法、司法制度、陪審員制度
6. 社会構造：先輩後輩：年功序列と集団意識
7. 日本の心①：忖度、曖昧、沈黙
8. 日本の心②：建前と本音：根回し
9. 家系と男女関係：日本の家族制度と男女関係
10. 死亡率の低下：日本における育児
11. 少子高齢化社会：高齢化人口の増加
12. 外国人①：移民、難民
13. 外国人②：技能実習、特定技能
14. 少数民族に対する差別：LGBTIQ、部落、先住民族（アイヌ、沖縄）
15. 学生発表、期末レポート提出
〔成績評価〕
1. 期末レポート 3,000語　50%　(最終日提出厳守)
2. クラスでの発表 30%
3. 毎回、新聞記事を持参し、討議に積極的に参加し、コメント用紙に積極的に記入し提出する　　20%
〔教科書〕
適宜
〔参考文献〕

〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
授業の前後

英語Ⅲ①

2501
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
ﾏｼｭｰ ｾﾊﾞｽﾁｬﾝ　ｸｰﾊﾟｰ

〔到達目標〕
基本的な英文法を再確認しながら、ペアワークやグループワークを取り入れて、単に知識だけではなく、日常で使える英語力を養う。
〔授業の概要〕
前期に引き続き、英文法を学びながら、さまざまな文に応用できるよう、練習問題を通して理解を深める。また、視聴覚教材を用いて、生きた英語に触れ、リスニングやスピーキングの力を伸ばす。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎週、講義を復習する。
推奨すること：音段から、英語の歌を聴いたり、映画を見たり、英語に触れるようにする。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　Possessive nouns
第 3 回　Count and non-count nouns
第 4 回　Can and can’t
第 5 回　Simple past regular verbs
第 6 回　Simple past irregular verbs
第 7 回　Subject and object pronouns
第 8 回　How much and how many
第 9 回　There is and there are
第 10 回　Noun and adjective modifiers
第 11 回　Comparative adjectives
第 12 回　Prepositions of time
第 13 回　Future with Be Going To
第 14 回　本試験の準備
第 15 回　まとめ

〔成績評価〕
出席, 参加50%、
小テスト10%
期末テスト40%
〔教科書〕
不要；講師より教材の配布あり）
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
授業後

英語Ⅲ⑨

2509
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
成田　沙央子

〔到達目標〕
基礎的な英文法を復習し、英語学習の基盤となる部分を完成する。語彙を増やし、話法・口語表現を理解し身につける。問題演習や、実際に英語でコミュニケーションをとることを通じて、英語に対する自信を持てるようになる。
〔授業の概要〕
問題演習を通して基本的な英文法を学ぶ。また、視聴覚教材を用い、実際の生きた英語に触れ、リスニング・スピーキングにも取り組み、日常会話やコミュニケーションの基本的な技能を身に着ける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回課題を提出する。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・Unit1
一般動詞とbe動詞（現在形）（1）
第 2 回　Unit1
一般動詞とbe動詞（現在形）（2）
第 3 回　Unit1
一般動詞とbe動詞（現在形）（3）
第 4 回　Unit2
一般動詞とbe動詞（過去形）（1）
第 5 回　Unit2
一般動詞とbe動詞（過去形）（2）
第 6 回　Unit2
一般動詞とbe動詞（過去形）（3）
第 7 回　Unit3
疑問文（1）
第 8 回　Unit3
疑問文（2）
第 9 回　Unit3
疑問文（3）
第 10 回　Unit4
否定文（1）
第 11 回　Unit4
否定文（2）
第 12 回　Unit 4
否定文（3）
第 13 回　Unit 1 ・ 2
復習・問題演習
第 14 回　Unit 3 ・ 4
復習・問題演習
第 15 回　復習テスト
〔成績評価〕
授業内評価 60%
学期末テスト40%
〔教科書〕
Laugh and Learn: Back to the Basics（南雲堂）
〔参考文献〕
適宜指示する。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
木曜12:10~15:30

英語Ⅲ⑩

2510
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
武田　亜希子

〔到達目標〕
様々な英文を読んで理解できる力を身につけ、英語圏の文化や歴史、国民性についての知識と教養を身につける。
〔授業の概要〕
英語や英語圏の人々を理解するために必要な文化的、歴史的事柄について学習し、内容と関連した英文を読んで理解する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学習事項を復習し、毎回課題を提出。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方と評価方法について説明する。
第 2 回　聖書と英語①
聖書が英語や英語圏の文化に与えている影響について学習し、抜粋を読んで理解する。
第 3 回　聖書と英語②
聖書が英語や英語圏の文化に与えている影響について学習し、抜粋を読んで理解する。
第 4 回　マザー・グースと英語①
英国伝承童謡マザー・グースと英米文化の関係性や、それぞれの唄が持つ特徴的なリズムとイントネーションについて学習する。
第 5 回　マザー・グースと英語②

英国伝承童謡マザー・グースと英米文化の関係性や、それぞれの唄が持つ特徴的なリズムとイントネーションについて学習する。

第 6 回　シェイクスピアの名言①
英語圏を代表する作家シェイクスピアについて学び、作品からの抜粋を読んで内容を理解する。

第 7 回　シェイクスピアの名言②
英語圏を代表する作家シェイクスピアについて学び、作品からの抜粋を読んで内容を理解する。

第 8 回　英語のジョーク
英語のジョークを読んで、日本との文化背景の違いについて理解する。また、関連した文法事項を学習する。

第 9 回　キング牧師の演説①
キング牧師について学習し、スピーチ "I Have a Dream"からの抜粋を読んで内容を理解する。また、関連した文法事項を学習する。

第 10 回　キング牧師の演説②
キング牧師について学習し、スピーチ "I Have a Dream"からの抜粋を読んで内容を理解する。また、関連した文法事項を学習する。

第 11 回　アメリカ大統領の英語①
アメリカ歴代大統領について学習し、スピーチから抜粋を読んで内容を理解する。また、関連した文法事項を学習する。

第 12 回　アメリカ大統領の英語②
アメリカ歴代大統領について学習し、スピーチから抜粋を読んで内容を理解する。また、関連した文法事項を学習する。

第 13 回　多読のすすめ
英語学習に効果的な多読について知る。

第 14 回　まとめ①
これまでの学習内容の復習とまとめを行う。

第 15 回　まとめ②
これまでの学習内容の復習とまとめを行う。

〔成績評価〕
毎回の提出物　100%

〔教科書〕
授業中に提示する資料

〔参考文献〕
必要に応じてプリントを配布

〔履修条件〕

〔備考〕
授業計画及び成績評価については、今後の感染症対策によって授業形態変更の可能性があるため確定的ではない。また、クラスの学習状況や理解度に合わせて若干の変更の可能性あり。

〔オフィスアワー〕
質問等はPhollyのメッセージ機能で随時受け付ける。

社会学入門

3101
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
濱田　武士

〔到達目標〕
（1）社会学のテーマに関わるトピックについて理解し社会現象を説明することができる
（2）社会学のテーマとトピックについて体系的に説明することができる。

〔授業の概要〕
現代社会は情報通信技術や移動・交通の進展により様々なものが変化する「加速する社会」といえます。この中にあって、参加する集団や組織、人間関係、それに体験はどのように生まれ、どのように変容し、今度どのような方向に進んでいくのでしょうか。本講義では、主に講義形式の形で日常生活におけるみなさん自身の体験やみなさんがインターネットやテレビなどを通じて取得する情報などの身近な事柄に着目して「いま何が起きているのか」をあらためて理解し、それにより先入観や思い込みを問い直し、「社会とは何か」という問題に対しての興味関心を広げていきたいと思います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
〈予習〉
毎回の授業テーマのキーワードについて新聞、ニュース、インターネットの記事などから情報収集し、自分なりのイメージをもっておいてください。
情報の調べ方は授業の最後に指示をします。
〈復習〉
毎回の授業の最後に提示するお題に対して、授業の内容を踏まえて回答する授業課題（300字程度でまとめる）に取り組んでください。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（授業の概要）および社会学のはじまりについて
社会学の起源やその後の展開が現代社会と関連していることを説明できる。

第 2 回　社会学とは何か
社会と社会学の違いについて説明できる。

第 3 回　「私」をめぐる社会学―自己について
心理学や文学との違いを踏まえて社会学的に自己を説明できる。

第 4 回　ジェンダーとセクシュアリティをめぐる社会学①―「女らしさ」「男らしさ」について
「女らしさ」「男らしさ」が作られたものであることを説明できる。

第 5 回　ジェンダーとセクシュアリティをめぐる社会学②―ジェンダーの社会化
ジェンダーがその時々の社会状況によって個人に要請されるものであることを説明できる。

第 6 回　若者と子どもをめぐる社会学①―若者たちの「やさしい関係」

人間関係について若者に着目してそのあり方の変容を説明できる。
第 7 回　若者と子どもをめぐる社会学②―子どもの貧困
「子どもの貧困」を社会の変容という点から説明できる。
第 8 回　家族をめぐる社会学①―家族の絆とは何か
近代家族の成立を踏まえて家族の結びつきについて説明できる。
第 9 回　家族をめぐる社会学②―結婚の個人化
社会変動という観点から結婚のありようについて説明できる。
第 10 回　労働・職場をめぐる社会学―感情労働
産業構造の変容を踏まえて労働の場面で「心」や感情がやり取りされていることをについて説明できる。
第 11 回　グローバル社会とエスニシティをめぐる社会学①―「エスニシティ」とは何か
近代社会の成立と進展に伴い「エスニシティ」に着目する必要性がでてきたことを説明できる。
第 12 回　グローバル社会とエスニシティをめぐる社会学②―難民・移民をめぐる諸問題
グローバリゼーションの進展との関連で難民・移民をめぐる諸問題を説明できる。
第 13 回　社会運動をめぐる社会学①―デモと民主主義
近代社会の成立や発展を社会運動の観点から説明できる。
第 14 回　社会運動をめぐる社会学②―社会運動
現代における様々な権利が社会運動によって獲得されてきたことを説明できる。
第 15 回　授業のふりかえり
全体的な学習内容についての体系的な整理ができる。

〔成績評価〕
以下の基準で評価を行います。
（1）社会学のトピックの理解について
・可：それぞれの社会学のトピックと関連する事例を紹介しおおまかに説明できる
・秀：それぞれの社会学のトピックと関連する事例を紹介し分析的に説明できる
（2）テーマとトピックの体系的な理解について。
・可:テーマとトピックの関連についておおまかに記述できる
・秀：テーマとトピックの関連について要点をおさえて説明できる

〔教科書〕
教科書は指定しません。
授業ごとに資料を配布します。

〔参考文献〕
各回のテーマに合わせて、新書、解説記事、論文等を紹介します。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
なし

情報処理技法Ⅰ（文書作成）

3501
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
中谷　有里

〔到達目標〕
・Wordの基本的機能や操作方法を知る。
・Wordを使用し、効率的に文書作成ができる。
・Wordを使用し、目的や状況に応じた文書作成ができる。

〔授業の概要〕
文書作成に欠かせないWordを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Word 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ（文書作成）の概要
第 2 回　スキルチェック
Wordのスキルチェック
第 3 回　文書の作成と管理①
文書作成時の注意点、文書の作成、文書の移動
第 4 回　文書の作成と管理②
文書の書式設定、文書のオプションと表示のカスタマイズ
第 5 回　文書の作成と管理③
文書の印刷、文書の保存
第 6 回　文字、段落、セクションの書式設定①
文字列や段落の挿入
第 7 回　文字、段落、セクションの書式設定②
文字や段落の書式設定、文字列や段落の並び替え、グループ化
第 8 回　表の作成
表の作成と変更
第 9 回　リストの作成
リストの作成と変更
第 10 回　参考資料の作成と管理
参照のための情報や記号の作成と管理、標準の参考資料の作成と管理
第 11 回　オブジェクトの挿入と書式設定①
グラフィック要素の挿入と書式設定
第 12 回　オブジェクトの挿入と書式設定②
SmartArtの挿入と書式設定
第 13 回　文書表現の応用①

目的や状況に応じた文書の作成
第 14 回　文書表現の応用②
説得力のある文書の作成
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ

〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%

〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 3限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅰ（表計算）

3502
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
中谷　有里

〔到達目標〕
・Excelの基本的機能や操作方法を知る。
・Excelを使用し、効率的に表計算ができる。
・Excelを使用し、目的や状況に応じた表計算ができる。

〔授業の概要〕
表計算で必要とされるExcelを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Excel 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ（表計算）の概要
第 2 回　スキルチェック
Excelのスキルチェック
第 3 回　ワークシートやブックの作成と管理①
ワークシートやブックの作成と書式設定、移動
第 4 回　ワークシートやブックの作成と管理②
オプションと表示のカスタマイズ、配布するための設定
第 5 回　セルやセル範囲のデータの管理①
データの挿入と書式設定
第 6 回　セルやセル範囲のデータの管理②
データのまとめと整理
第 7 回　テーブルの作成①
テーブルの作成と管理
第 8 回　テーブルの作成②
テーブルのスタイルと設定オプションの管理、レコードの抽出と並び替え
第 9 回　数式や関数を用いた演算の実行①
関数を用いた計算
第 10 回　数式や関数を用いた演算の実行②
条件付き関数を用いた計算、関数を用いた書式設定と文字列の変更
第 11 回　グラフやオブジェクトの作成①
グラフの作成と書式設定
第 12 回　グラフやオブジェクトの作成②
オブジェクトの挿入と書式設定
第 13 回　表計算の応用①
目的や状況に応じた視覚的効果を用いた表計算
第 14 回　表計算の応用②
表計算の応用②
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ

〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%

〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 3限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

教職総合演習Ⅲ-1（論作文）

7003
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4年
1単位　前期
笠原　　清次

〔到達目標〕
○教職者として必要な様々な学校教育にかかる知識・情報を見直し、理解する。
○教育原理の知見を広げ深めるとともに、教職者としてあるべき姿について考察を深めることができる。
〔授業の概要〕
○各種の教育課題を調べまとめるとともに、それぞれの果たしている役割を理解する。
○教員の在るべき姿や学校教育の在り方について、話し合い活動を通して理解を広げ考えを深めるとともに、重要な教育課題について、自分の考えを論理的文章に表し発表することができる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
(１) 毎回、授業で取り上げる資料を繰り返し読んでおく。(３０分)
(２) 論作文は、時間外となっても仕上げ、翌日までに提出する。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス１
授業の目標，予定，進め方，評価方法等について理解する。
論作文(小論文)記述の要点を知る。
第 2 回　ガイダンス２
構想メモを使って論作文(小論文)を書くことを理解する。

第 3 回　児童生徒の指導に関わること１
生徒指導上の問題について，考えを論作文に表す。
第 4 回　児童生徒の指導に関わること２
授業づくりの課題について，考えを論作文に表す。
第 5 回　児童生徒の指導に関わること３
人権教育の課題について，考えを論作文に表す。
第 6 回　児童生徒の指導に関わること４
特別支援教育の課題について，考えを論作文に表す。
第 7 回　学校や教師に関わること１
学校が果たす役割について，考えを論作文に表す。
第 8 回　学校や教師に関わること２
教育課題１（防災教育、学校安全、キャリア教育等）について，考えを論作文に表す。
第 9 回　学校や教師に関わること３
学力、豊かな心)について知識を整理し，考えを論作文に表す。
第 10 回　学校や教師に関わること４
「主体的・対話的で深い学び」について，考えを論作文に表す。
第 11 回　学校や教師に関わること５
教員の資質向上について，考えを論作文に表す。
第 12 回　学校や教師に関わること６
教員の協働性、地域との連携・協働について，考えを論作文に表す。
第 13 回　論作文(小論文)の書き方のまとめ１
過去問の中から一つ選び，考えを論作文に表す。
第 14 回　論作文(小論文)の書き方のまとめ２
自ら問題設定し，考えを論作文に表す。
第 15 回　論作文(小論文)の書き方のまとめ３
これまでの学習を振り返り，論作文の記述の仕方を整理する。
〔成績評価〕
論作文（６０％）
学習姿勢・態度(４０％)
〔教科書〕
自作テキスト「論作文(小論文)の手引き」

〔参考文献〕
随時提供する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
①前　期：月曜日と火曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

教職総合演習Ⅲ-Ⅰ（教職教養）

7007
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
3年
1単位　前期
笠原　　清次

〔到達目標〕
○教職者として必要な学校教育に係る様々な知識・情報を整理し、まとめる。
○教職教養の知見を広げ深めるとともに、教職者としてあるべき姿について考察を深めることができる。
〔授業の概要〕
○教育法規、教育史、教育原理、教育時事等関係資料を調べ、教職教養の理解を確かなものにする。
○教員の在るべき姿や学校教育の在り方について、話し合い活動を通して理解を広げ、教育課題について自分の考えをまとめる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回、授業で取り上げる資料を繰り返し読んでおく。(３０分)
授業時に学修した内容を中心に，練習問題を解き理解を定着させる。(６０分)

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の到達目標及び概要，進め方，予習・復習の仕方，授業計画及び評価について理解する。
第 2 回　教育法規１
学校教育に関する法規を調べ，まとめる。
第 3 回　教育法規２
教職員に関する法規を調べ，まとめる。
第 4 回　教育法規３
教育法規についてまとめる。
第 5 回　教育原理１
人権教育関係法規・資料を調べ，まとめる。
第 6 回　教育原理２
特別支援関係法規・資料を調べ，まとめる。
第 7 回　教育原理３
学校安全・防災教育等関係資料を調べ，まとめる。
第 8 回　教育時事１
中教審関係資料等を調べ，まとめる。
第 9 回　教育時事２
文部科学省通知・通達を調べ，まとめる。
第 10 回　教育時事３
その他各種関係資料，手引き等を調べ，まとめる。

第 11 回　教育史1
西洋教育史を調べ、まとめる。
第 12 回　教育史２
日本教育史を調べ、まとめる。
第 13 回　教育心理１
発達・学習理論を調べ、まとめる。
第 14 回　教育心理２
教育評価・人格心理検査等を調べ、まとめる。
第 15 回　教職教養のまとめ
教職教養に関する要点を整理し，理解を深める。
〔成績評価〕
テスト（６０％）
学習姿勢・態度(４０％)
〔教科書〕
自作テキスト「教職教養資料①教育法規編」「　〃　②人権教育・特別支援教育編」「　〃　③教育時事編」「　〃　教育史・教育心理編」

問題プリントは毎回配付する。

〔参考文献〕
「教職教養ランナー 2022年度版」(一ツ橋書店)
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕
参考文献を予習・復習時に活用し，理解を深める。

〔オフィスアワー〕
①前　期：月曜日と火曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

英語Ⅲ【再履修】

7050
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
野島　晃子

〔到達目標〕
１．さまざまな英語の文型について基礎から応用まで身につける。
２．基本的な会話のリスニング力をつける。
〔授業の概要〕
英文の仕組みや談話のまとまり・流れを学ぶ。語彙・や表現方法を学び、自分の言葉として使えるよう繰り返し練習を通して定着を図る。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の授業内容（語彙や文型）を復習し、定着させる。(90分)
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・実力テスト
授業方針、目標、内容、評価の方法の説明。
基本的な内容の実力テストを実施。
第 2 回　文型
基本的な５文型について復習する。
第 3 回　時制
現在形から未来完了形まで習得する。
第 4 回　助動詞
助動詞を習得する。
第 5 回　不定詞・動名詞
不定詞と動名詞を習得する。
第 6 回　小テスト①
第2回から第5回までの内容の復習テストを実施する。
第 7 回　受動態・分詞
受動態と分詞の習得。
第 8 回　関係詞
関係詞の習得。
第 9 回　比較
比較の習得。
第 10 回　小テスト②
第7回から第9回までの内容の復習テストを実施する。
第 11 回　仮定法

仮定法の習得。
第 12 回　さまざまな構文や表現
間接疑問や強調構文などを習得する。
第 13 回　接続詞・前置詞
接続詞と前置詞の習得。
第 14 回　小テスト③
第11回から第13回までの内容の復習テストを実施する。
第 15 回　全体の振り返りと最終試験
これまでに学習した内容の振り返りと期末試験に相当する試験を実施する。

〔成績評価〕
毎回の課題（20%）
小テスト（30%）
定期試験（50%）

〔教科書〕
配布する資料や問題は教員から提示するため教科書は指定しない。

〔参考文献〕
必要に応じて授業中に紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
火曜日

社会学入門

3101
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
堂本　直貴

〔到達目標〕
①社会学におけるものの見方を学ぶ
②社会学が関心の対象とする現代社会の課題について学ぶ
受講生には、この二点を通じて、現代社会の問題を自分自身に引きつけて考え、より良い答えを求め続ける姿勢を期待します。

〔授業の概要〕
社会学がカバーする対象は多岐にわたり、そのすべてを扱うことは難しいです。
この授業では、指定した教科書を基礎とします。その教科書を用いて、社会学特有のものの見方や概念、用語を学びつつ、受講生が関心をもてる具体的な事例を説明します。
また、受講生には、教科書に記載されたデータやグラフの読み取り、文章の朗読などをしてもらうため、必ず教科書を持参してください。
各回の授業終了時にコメントペーパーを提出してください。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備学習として、教科書の指定箇所を読んでください。
復習としては、配布レジュメの参考文献などを、関心に合わせて読んでください。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の目標／授業進行予定／成績評価方法／参考文献の紹介／社会学とは何か
第 2 回　社会学の歴史①
ヴェーバー／デュルケム／ジンメル
第 3 回　社会学の歴史②
シカゴ学派と社会調査
第 4 回　社会学の歴史③
パーソンズ／マートン／シンボリック相互行為論／エスノメソドロジー
第 5 回　社会学の歴史④
フーコー／ルーマン／ギデンズ／ブルデュー
第 6 回　コミュニケーション
外的コミュニケーションと内的コミュニケーション／印象操作と儀礼的無関心／感情
第 7 回　ジェンダー・セクシュアリティ
ジェンダー、セクシュアリティという概念／性役割の社会化／性別と職業
第 8 回　家族
家族の「定義」／結婚の個人化／夫婦・親子の関係／家族という形の変容
第 9 回　教育
趣味と階層／教育と不平等／子どもの貧困
第 10 回　労働
日本的雇用の再編成／就業形態の多様化と問題点／フォーディズム
第 11 回　都市と地域
コミュニティの現状と意義／再開発の問題／農山村の過疎化と可能性
第 12 回　伝統と宗教
宗教の社会的機能／集合的沸騰／創られた伝統
第 13 回　環境
環境とは／環境問題の歴史／ゴミ（廃棄物）の問題／環境社会学と生活環境主義
第 14 回　メディア
メディアということば／活字からインターネットへ／情報化社会の公共性
第 15 回　まとめ
授業全体のまとめ／試験について

〔成績評価〕
試験（70%）と出席およびコメントペーパー（30%）

〔教科書〕
宇都宮京子, 西澤晃彦, 2020『よくわかる社会学（第3版）』ミネルヴァ書房.
（かならず「第3版」を用意してください。）
＊さらに授業時に、レジュメ等を配布します。

〔参考文献〕
各回の配布資料（レジュメ）に記載します。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
授業終了後に対応します。

健康スポーツ科学概論（1年教育・児童）

2339
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
別當　和香　伊藤　武徳　武田　光平

〔到達目標〕
1）健康を疎外する要因・運動生理学の基礎を理解し、自己の健康感の確立を図ることができる。

2）トレーニングの基礎的知識・応急処置の基本的原理・原則、スポーツ障害についての知識を習得し、自身のコンディショニングを評価することができる。

3）健康とスポーツ科学に関するグループワークを通じて、生活に運動を取り入れ、自身のスポーツライフを豊かにすることができる。

〔授業の概要〕
現代の健康に関する諸問題を取り上げるとともに、自らの健康・体力の維持増進を図る生涯スポーツと自らの能力と技術の限界に挑む競技スポーツを中心に紹介し、健康スポーツ科学への理解を深めていく。また、協同学習を通して生活習慣病の予防方法を理解し、正しい健康管理方法の実践を促す。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：授業計画に記載されているキーワードについて事前に調べておくこと。(2時間)

復習：講義内容を復習し、ノートなどにまとめておくこと。(2時間)

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
講義の進め方、受講の共通理解、評価の内容伝達(伊藤・武田・別當)
第 2 回　健康について①
現代の生活と健康（別當）
第 3 回　健康について②
心の健康（別當）
第 4 回　健康について③
現代の社会と健康（別當）
第 5 回　健康について④
健康と食事、肥満と生活習慣（別當）
第 6 回　大学生活と健康・スポーツ
減量問題、食事バランスガイド、エルゴジェニックエイド（別當）
第 7 回　運動について①
身体を知る、発育・発達とスポーツ（武田）
第 8 回　運動について②
体力づくりと体力の構成要素・新体力テストの測定方法と効果について（武田）
第 9 回　運動について③
トレーニングの原理原則、トレーニングの種類、運動の効果と分類（武田）
第 10 回　スポーツについて
スポーツの意味、「する」「みる」「ささえる」スポーツ（武田）
第 11 回　生涯スポーツについて
生涯スポーツの必要性、年齢別にみるスポーツの関わり方（伊藤）
第 12 回　スポーツにおけるリスクマネジメント
運動プログラム、ジョギング、ストレッチング、ウォーミングアップ、 クールダウン（伊藤）
第 13 回　スポーツ活動中に多い怪我と病気
スポーツ障害の予防と応急処置、熱中症、貧血、突然死（伊藤）
第 14 回　運動・スポーツ活動と安全
応急処置の基本原則、テーピングの基本と注意点(伊藤)
第 15 回　まとめ
まとめテスト(伊藤・武田・別當)

〔成績評価〕
≪配点内訳≫
毎回の授業で各先生の講義における小レポート＋授業態度＋意欲を含んだ得点が各15点
15点×4人＝60点に最終テストの40点を加えて
総合的に評価する。

〔教科書〕
適宜資料配布する
各担当の先生に確認する

〔参考文献〕
文部科学省　学習指導要領・解説(最新版)
適宜紹介する

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場での経験により、生徒とのコミュニケーション法や選手のモチベーションアップ方法などを指導する。
保健授業の経験を活かし、体つくり運動や健康の維持・増進やスポーツ現場における課題や問題の指導を行う。

〔オフィスアワー〕
担当教員：別當和香
①前期・後期共通
②時間：火曜日13：40～15：20　水曜日10：00～11：30
③連絡先：メール（betto@ashiya-u.ac.jp）にて対応
④基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

英語Ⅱ⑩

1511
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
実務経験有
武田　亜希子

〔到達目標〕
様々な英語表現に触れることによって大学生にふさわしい知識と教養を身につけ、英語の持つ特徴を知り英語を母国語とする人々の文化や考え方を理解できるようになる。
〔授業の概要〕
多様な視点から英語にアプローチし、言葉を通して英語圏の文化を知る。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学習内容を復習し、毎回課題を提出。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方や評価方法について説明する。
第 2 回　Proverbs
英語のことわざを学習し、英語圏の人々の国民性を知る。また、内容に関連した文法を学習する。
第 3 回　シェイクスピアの名言①
シェイクスピアの名言を読んで理解できるようになる。また、内容に関連した文法を学習する。
第 4 回　シェイクスピアの名言②
シェイクスピアの名言を読んで理解できるようになる。また、内容に関連した文法を学習する。
第 5 回　キング牧師の演説①
キング牧師について知り、スピーチから英文法を学習する。
第 6 回　キング牧師の演説②
キング牧師について知り、スピーチから英文法を学習する。
第 7 回　洋楽で学ぶ英文法①
英語の歌の歌詞から文法を学習する。
第 8 回　洋楽で学ぶ英文法②
英語の歌の歌詞から文法を学習する。
第 9 回　Jokes
英語のジョークを読んで理解する。ジョークから英語の特徴を理解し、関連した文法を学習する。
第 10 回　多読のすすめ①
小説やコミックなどの抜粋を読んで理解する。また、関連した文法を学習する。
第 11 回　多読のすすめ②
小説やコミックなどの抜粋を読んで理解する。また、関連した文法を学習する。
第 12 回　多読のすすめ③
小説やコミックなどの抜粋を読んで理解する。また、関連した文法を学習する。
第 13 回　英語圏の行事と英語表現
英語圏で一般的に行われる行事と、その際に用いられる英語表現について知る。また、関連した文法を学習する。
第 14 回　まとめ①
これまでの学習の振り返りとまとめを行う。
第 15 回　まとめ②
これまでの学習の振り返りとまとめを行う。
〔成績評価〕
毎回の提出物　100%
〔教科書〕
行方昭夫『ユニーク英語講座―英語の根幹―』南雲堂
〔参考文献〕
必要に応じてプリントを配布
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
授業計画及び成績評価については、今後の感染症対策によって授業形態変更の可能性があるため確定的ではない。また、クラスの学習状況や理解度に合わせて若干の変更の可能性あり。
〔オフィスアワー〕
質問等はPhollyのメッセージ機能で随時受け付ける。

英語Ⅱ⑨

1510
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
成田　沙央子

〔到達目標〕
基礎的な英文法を復習し、英語学習の基盤となる部分をしっかりと作りあげる。語彙を増やし、話法・口語表現を理解し身につける。問題演習や、実際に英語でコミュニケーションをとることを通じて、英語に対する自信を持てるようになる。
〔授業の概要〕
問題演習を通して基本的な英文法を学ぶ。また、視聴覚教材を用い、実際の生きた英語に触れ、リスニング・スピーキングにも取り組み、日常会話やコミュニケーションの基本的な技能を身に着ける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回課題を提出する。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・Unit5
文型と文の要素（1）
第 2 回　Unit5
文型と文の要素（2）
第 3 回　Unit5
文型と文の要素（3）
第 4 回　Unit6
進行形（1）
第 5 回　Unit6
進行形（2）

第 6 回　Unit6
　　進行形（３）
第 7 回　Unit7
　　受動態（１）
第 8 回　Unit7
　　受動態（２）
第 9 回　Unit7
　　受動態（３）
第 10 回　Unit8
　　助動詞（１）
第 11 回　Unit8
　　助動詞（２）
第 12 回　Unit8
　　助動詞（３）
第 13 回　Unit5・6
　　復習・問題演習
第 14 回　Unit7・8
　　復習・問題演習
第 15 回　復習テスト

〔成績評価〕
授業内評価 60%
学期末テスト40%

〔教科書〕
Laugh and Learn: Back to the Basics（南雲堂）

〔参考文献〕
適宜指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
木曜12:10~15:30

教職総合演習4−Ⅱ（数学）

7006
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2年
1単位　後期
笠原　　清次

〔到達目標〕
一般教養数学の知識及び理解を深め、指導力の向上に資することができる。

〔授業の概要〕
１．一般教養としての数学の内容理解を深める。
２．数学の問題の解き方を話し合い、解く技能を高める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
１．基礎的な問題は毎回予習する。(60分)
２．授業終了後に毎回復習問題を課すので、翌週までに解く。(30分)

〔授業計画〕
第 1 回　学習指導要領理解
　　数学（算数）指導の要点を調べ整理する。
第 2 回　数学演習1
　　数学演習問題基礎（数と式）を解く。
第 3 回　数学演習2
　　数学演習問題応用（数と式）を解く。
第 4 回　数学演習3
　　数学演習問題基礎（方程式の利用）を解く。
第 5 回　数学演習4
　　数学演習問題応用（方程式の利用）を解く。
第 6 回　数学演習5
　　数学演習問題基礎（関数）を解く。
第 7 回　数学演習６
　　数学演習問題応用（関数）を解く。
第 8 回　数学演習７
　　数学演習問題基礎（平面図形）を解く。
第 9 回　数学演習８
　　数学演習問題応用（平面図形1）を解く。
第 10 回　数学演習９
　　数学演習問題応用（平面図形2）を解く。
第 11 回　数学演習１０
　　数学演習問題基礎（空間図形）を解く。
第 12 回　数学演習１１
　　数学演習問題応用（空間図形）を解く。
第 13 回　数学演習１２
　　数学演習問題基礎（確率）を解く。
第 14 回　数学演習１３
　　数学演習問題応用（確率）を解く。
第 15 回　学習のまとめ
　　自己の課題に挑戦する。

〔成績評価〕
テスト（６０％）
学習姿勢・態度（４０％）

〔教科書〕
小学校学習指導要領解説算数編（平成29年7月　文部科学省）
中学総合的研究問題集　数学　三訂版（旺文社）

〔参考文献〕
授業ごとに補充問題プリントを配付する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
参考文献の問題集３冊は購入し，自学課題とする。

〔オフィスアワー〕
①前　期：水曜日と木曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

English ConversationⅢ

3425

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
実務経験有
武田　亜希子

〔到達目標〕
正しい発音と日常でよく使われる表現を身につけ、英語でコミュニケーションを図ることができる力を養う。
〔授業の概要〕
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学習内容の復習し、毎回課題を提出
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、英語のリズムとイントネーションについて
第 2 回　Unit1 Hi, I'm Rina. ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 3 回　Unit1 Hi, I'm Rina. ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 4 回　Unit2 How do you spell that? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 5 回　Unit2 How do you spell that? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 6 回　Unit3 What's the time? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 7 回　Unit3 What's the time? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 8 回　Unit4 Where are you from? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 9 回　Unit4 Where are you from? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 10 回　Unit5 What's your favorite food? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 11 回　Unit5 What's your favorite food? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 12 回　Unit6 How often do you get your hair cut? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 13 回　Unit6 How often do you get your hair cut? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 14 回　Unit7 What kind of music do you like? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 15 回　Unit7 What kind of music do you like? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
〔成績評価〕
毎回の提出物　100%
〔教科書〕
New Getting Into English　南雲堂
〔参考文献〕
必要に応じてプリントを配布
〔履修条件〕
〔備考〕
授業計画及び成績評価については、今後の感染症対策によって授業形態変更の可能性があるため必ずしも確定的ではない。また、クラスの学習状況や理解度に合わせて若干の変更の可能性あり。
〔オフィスアワー〕
質問等は随時Phollyのメッセージ機能で受け付ける。

英語Ⅲ⑥

2506

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
山片　崇嗣

〔到達目標〕
・英語文献等を読むための基本的な英語力を養う。
・基本的な文法や語法を再確認し、英文構造の理解を定着する。
・様々な場面に応じたコミュニケーション力を高める。
〔授業の概要〕
・各章ごとに文法・語法事項の解説と問題を通じて、理解、定着、発展を深める。

※感染症対策等の理由からLMS授業になる場合もあります。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
到達目標に達するために、各章の文法事項を事前に予習し、効果的に授業の理解を目指す。また、授業後の復習を通じて、定着、発展を深める。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の目的・方針、評価方法などの紹介。

第 2 回　第16章　接続詞①
・等位接続詞
・従位接続詞

第 3 回　第16章　接続詞②
接続詞のさまざまな表現

第 4 回　第17章　関係詞①-1
・関係代名詞の限定用法
・関係代名詞の継続用法

第 5 回　第17章　関係詞①-2
・前置詞+関係代名詞
・関係代名詞+S+V

第 6 回　第18章　関係詞②-1
・関係副詞
・関係形容詞

第 7 回　第18章　関係詞②-2
・複合関係詞
・疑似関係代名詞

第 8 回　第９章　名詞・冠詞①
・名詞の種類
・可算名詞と不可算名詞

第 9 回　第９章　名詞・冠詞②
・定冠詞と不定冠詞
・冠詞の位置とさまざまな表現

第 10 回　第19章　さまざまな構文①
・強調構文
・否定表現

第 11 回　第19章　さまざまな構文②
・倒置表現
・さまざまな構文例

第 12 回　第20章　動詞の語法
・パターン別用法

第 13 回　第21章　名詞・形容詞の語法
・パターン別用法

第 14 回　前期授業のまとめ
第 15 回　定期考査
〔成績評価〕
１．授業参加度・課題
２．定期試験
〔教科書〕
「入門　英文法　問題精講　４訂版」（旺文社）
その他、必要に応じてプリント等を配布します。
〔参考文献〕
文部科学省　学習指導要領（最新版）
中学校　英語テキスト
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
時間：授業開始前の10分間
場所：教室または講師控室

演劇Ⅱ-2

1910

経営教育学部 > 経営教育学科
1単位　後期
谷　えりか

〔到達目標〕
・舞踊表現に通ずる、演劇的要素をより豊かに表現出来る技術の習得を目指す
・ステージ作りにおいてより理解を深める
〔授業の概要〕
・声と動きでの表現
・オーディションからリハーサルを経て、ショーケースを行う
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・リハーサルでの復習及びショーケースに向けての事前準備をしておくこと
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
ショーケースについての説明
第 2 回　トレーニング及びショーケースのリハーサル
発声や体現の応用トレーニング及びショーケース作品の本読み
第 3 回　トレーニング及びショーケースのリハーサル
発声や体現の応用トレーニング及びショーケース作品の配役オーディション
第 4 回　トレーニング及びショーケースのリハーサル
発声や体現の応用トレーニング及び決定した配役での本読み
第 5 回　ショーケースのリハーサル
立ち稽古
第 6 回　ショーケースのリハーサル
ダンスナンバーの振付１
第 7 回　ショーケースのリハーサル

ダンスナンバーの振付２
第 8 回　ショーケースのリハーサル
ダンスナンバー創作部分の振りづくり
第 9 回　ショーケースのリハーサル
シーン稽古１
第 10 回　ショーケースのリハーサル
シーン稽古２
第 11 回　ショーケースのリハーサル
ダンスナンバーの固め稽古
第 12 回　ショーケースのリハーサル
荒通し及び手直し稽古
第 13 回　ショーケースのリハーサル
通し稽古１
第 14 回　ショーケースのリハーサル
通し稽古２
第 15 回　ショーケース
作品発表

〔成績評価〕
授業態度・意欲（70%）
定期試験（30%）

〔教科書〕
必要時、授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
希望日時を応相談

世界教育史Ⅰ

3205
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
津田　　徹

〔到達目標〕
特に西洋世界の社会背景や時代背景などを基本として、その中で展開される教育理念（子ども、教育者、教育機関、文化施設、教育手段など）の展開を学生自身が関心、意欲をもって、理解することに努め、最終的に教育史上の主要な展開について簡単に説明することができることを目指します。

〔授業の概要〕
世界教育の歴史のうち、西洋の教育理念（古代からバロックまで）を手がかりに、現代の教育現象や教育問題との関連や問題の原理を探ります。また視覚資料（映画、映像、絵画等）を用いたり、文字資料（文学作品等）を実際に読むこと、更にはグループ別の議論なども試みながら、教育理念の歴史的理解を深化させていきます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前学習（予習）については、シラバスの計画を参考に、取り上げられる内容（項目、人物、時代、概念等）についてあらかじめ教科書や書物、インターネットなどを活用して調べておくこと(90分)。
事後学習（復習）については、授業で取り上げた内容について理解できているか、言葉で説明できるかどうか等を確認し、出来ない場合については、教科書やノートを見直しておくこと。また授業内で取り上げた書籍等についてさらに学習を進め内容の深化を目指すこと（90分）。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
講義目標、内容、方法、受講上の注意、評価の方法、参考文献の紹介
第 2 回　古代ギリシア１
ホメロス（英雄叙事詩）、ヘシオドス（農耕と神話）、ピュタゴラス（数学と音楽）
第 3 回　古代ギリシア２
ソクラテス（マイエウティケー）、プラトン（イデア論、対話法、想起説、アカデメイア）
第 4 回　古代ギリシア３
アリストテレス（演繹法、学問の体系化、倫理学、音楽、体育、性格形成）
第 5 回　古代ローマ１
キケロ（ローマ文学の模範）、セネカ（ネロの家庭教師、道徳理論）
第 6 回　古代ローマ２
クィンティリアヌス（ローマの代表的教育、弁論家教育）
第 7 回　西洋教育中世史１
キリスト教、アウグスティヌス、修道院制度、自由七科の成立
第 8 回　西洋教育中世史２
カロリング・ルネサンス（カール大帝、宮廷学校）、大学の公認
第 9 回　西洋教育中世史３
スコラ的教育、トマス・アクィナス、一斉授業
第 10 回　ルネサンスの教育
ヒューマニズムの教育、イタリア人文主義、西ヨーロッパ諸国への影響と教育
第 11 回　宗教改革の時代の教育
ルター、カルヴァンと新教徒の教育政策
第 12 回　反宗教改革の時代の教育
イエズス会の布教活動と教育、日本への影響
第 13 回　17世紀の西洋の教育の展開１
F・ベーコン、実学主義の教育、コメニウスの活躍
第 14 回　17世紀の西洋の教育の展開２
イギリス経験論（ロック）、大陸合理論（デカルト）の各思想と教育
第 15 回　まとめ

学びを通して得られた視点と教育的課題、質疑応答

〔成績評価〕
定期試験（70%）、講義への取り組み・課題・レポートの提出（30%）

〔教科書〕
広岡義之他著、『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』、ミネルヴァ書房、2019年。
教科書を毎回使用します。一回目から持参すること。

小学校学習指導要領（平成28年度3月告示、文部科学省）
中学校学校学習指導要領（平成28年3月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
パーマー編（広岡他訳）、『教育思想の50人』、青土社。
レーブレ（広岡他訳）、『教育学の歴史』、青土社。

その他、授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
木曜2時間目前の休み時間

教職総合演習Ⅱ-1（面接）

7002
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　前期
笠原　清次　中村　整七

〔到達目標〕
・教採面接を繰り返し体験する中で、自分の良さや学ぶ姿勢が強いことを言葉や態度で表現することができる。
・集団面接、集団活動を実体験することを通して、教育課題に対しての自分の考えをつくり、他者の考えを受け止め、話し合いを広げたり、深めたりすることができる。

〔授業の概要〕
教育施策や教育現場の実態から取り組むべき課題等について研究をする。
個人面接・集団面接(討議)・集団活動・場面指導などの演習を各自治体の出題傾向に合わせて行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前の個人面接ノートづくり（2時間）
授業後の個人練習（2時間）

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
個人面接、集団面接について各自治体の傾向を知り、演習を行う。
第 2 回　個人面接・集団面接
各自治体の出題傾向に合わせた個人面接の練習と模擬集団面接の演習を行う。
第 3 回　個人面接・集団活動
各自治体の出題傾向に合わせた個人面接の練習と集団活動の演習を行う。
第 4 回　個人面接・グループ討議
各自治体の出題傾向に合わせた個人面接の練習と模擬グループ討議の演習を行う。
第 5 回　個人面接・集団面接
各自治体の出題傾向に合わせた個人面接の練習と模擬集団面接の演習を行う。
第 6 回　個人面接・集団活動
各自治体の出題傾向に合わせた個人面接の練習と模擬集団活動の演習を行う。
第 7 回　個人面接・グループ討議
各自治体の出題傾向に合わせた個人面接の練習と模擬グルー討議の演習を行う。
第 8 回　場面指導・個人面接
自治体の出題傾向に合わせた場面指導のロールプレイを行う。
ペアで相互個人面接の練習を行う。
第 9 回　集団面接・個人面接
自治体の出題傾向に合わせた課題研究と模擬集団面接と個人面接の演習を行う。
第 10 回　集団活動・個人面接
自治体の出題傾向に合わせた模擬集団活動と個人面接の演習を行う。
第 11 回　集団討議・個人面接
自治体の出題傾向に合わせた課題研究と模擬集団討議と個人面接を行う。
第 12 回　場面指導・個人面接
自治体の出題傾向に合わせた場面指導のロールプレイと個人面接を行う。
第 13 回　場面指導・個人面接
自治体の出題傾向に合わせた場面指導のロールプレイと個人面接を行う。
第 14 回　個人面接
自治体の出題傾向に合わせた個人面接の演習を相互に行う。
第 15 回　個人面接

〔成績評価〕
演習参画意識と学修に取り組む態度を評価する。
面接、討議の中での発言内容を評価をする。

〔教科書〕
授業中に適宜教材資料を配布する。

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
火曜日15:30～17:00・水曜日15:30～17:00
研究室1

英語Ⅱ【再履修】

1507
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
野島　　晃子

〔到達目標〕
1. 基本的な単語、熟語を身につけ、日常会話で使うことができるようにする。
2. 基礎的な英文の構造を理解し、応用できるようにする。
3. 日常会話程度のリスニング力を身につける。

〔授業の概要〕
英語の基本文型やイディオムなどを授業ごとに提示し、解説を理解したうえで問題を解くことでいっそうの基礎固めを図る。
授業内で扱った文型や語彙を復習し定着させ、日常会話へと応用できるようにする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学んだ内容をより確実で実践的にするため、毎回60分程度の復習を推奨する。また、知識の定着を確認するためのテストを３回実施するので、試験対策のための学習を各回60分程度行うことを推奨する。
〔授業計画〕
第 1 回　be動詞、一般動詞の現在形
be動詞、一般動詞の現在形を使った英文に慣れる。
聴き取り：空港での会話、ホテルでの会話。
第 2 回　代名詞
代名詞を使った英文に慣れる。
聴き取り：お礼を言う。
第 3 回　進行形
進行形を使った英文に慣れる。
聴き取り：探しているものを伝える。
第 4 回　時と場所を表す前置詞
時と場所を表す前置詞の使い方に慣れる。
聴き取り：相手にお願いしてみる。
第 5 回　テスト①
第１回から第４回までの内容の復習テストを実施する。
第 6 回　可算名詞・不加算名詞
可算名詞・不可算名詞の使い方に慣れる。
聴き取り：単位の違いを理解する。
第 7 回　一般動詞の過去形
一般動詞の過去形を使った英文に慣れる。
聴き取り：感想を述べる。
第 8 回　疑問形
疑問詞の使い方に慣れる。
聴き取り：会話を続ける。
第 9 回　接続詞、動名詞、不定詞
接続詞、動名詞、不定詞を使った英文に慣れる。
聴き取り：食べ物を注文する、自分のやりたいことを伝える。
第 10 回　テスト②
第６回から第９回までの内容の復習テストを実施する。
第 11 回　未来形、現在完了形
未来形、現在完了形を使った英文に慣れる。
聴き取り：滞在日数を伝える、期間を尋ねる。
第 12 回　比較級・最上級
比較級・最上級を使った英文に慣れる。
聴き取り：おすすめについて話す。
第 13 回　助動詞
助動詞を使った英文に慣れる。
聴き取り：相手を褒める。
第 14 回　受動態
受動態を使った英文に慣れる。
聴き取り：思い出を話す。
第 15 回　テスト③
第１０回から第１４回までの内容の復習テストを実施する。
〔成績評価〕
各回の課題の提出と得点（55%）
テスト①・②・③（各15%合計45%）
〔教科書〕
配布する資料や問題は教員から提示するため教科書は指定しない。
〔参考文献〕
必要に応じて授業内で紹介する。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
集中講義期間中（課題最終締め切り日まで）にメール、Phollyで随時受け付けます。
メールアドレス　nojima@ashiya-u.ac.jp

現代国際事情

2231
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
3年
2単位　後期
火曜 1限
教育_選択
安藤　　由香里

〔到達目標〕
本授業の目的は、現在、国際社会で起こっている事象についてニュースから考えることである。本授業を通して、学生は国際情勢に関する基礎知識を習得し、現代国際情勢について自らの意見を述べることができようになる。
〔授業の概要〕
ニュースを通して、国境を越えて広がる問題に国際社会はどう機能するか、国家間の利害衝突を暴力によらず平和的に処理するための制度および手法はどのようなものがあるか等を学ぶ。
国際法は難しいと思うかもしれないが、ちょっとした知識があるだけで、現代の国際問題が面白いほど理解できる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
1. 教科書の該当箇所を必ず読んで出席すること。
2. 毎回、予習・復習として授業と関連するニュースを新聞で確認し提出すること。
〔授業計画〕
1. クラスオリエンテーション、現代国際事情とニュースの読み方
2. イスラーム国は国か？ (23-31頁)
3. 沖縄が日本から独立するかもしれない？ (32-40頁)
4. 実効支配とはなにか？　(69-80頁)
5. 靖国神社参拝批判は内政干渉？ (81-90頁)
6. 日本の裁判所で外国国家を訴える？ (91-99頁)
7. 在日米軍には日本の法律は及ばない？ (100-107頁)
8. 大使館は「治外法権」か？ (108-115頁)
9. 犯罪者は逃げ得？　(126-136頁)
10. 日本は難民鎖国？　(137-145頁)
11. ヘイトスピーチも自由な表現のうち？ (146-154頁)
12. 中国による南沙諸島の埋め立ては違法？ (155-167頁)
13. 日本の捕鯨活動のなにが問題だったのか？ (225-236頁)
14. 竹島紛争は国際司法裁判所に持ち込めない？ (245-253頁)
15. テスト

〔成績評価〕
1. テスト 50%
2. 毎回､新聞記事を持参し､討議に積極的に参加する。　30%
3. コメント用紙に積極的に記入し提出する　20%
〔教科書〕
森川幸一ほか編『国際法で世界がわかる―ニュースを読み解く32講』 岩波書店(2016)
〔参考文献〕
加藤信行 ほか『ビジュアルテキスト国際法 第2版』有斐閣(2020)
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
授業の前後

日本の歴史

1106
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1年
2単位　前期
火曜 2限
池田　聡

〔到達目標〕
日本の歴史の基礎知識
歴史を時系列的に理解する
上記の内容を目標とする
〔授業の概要〕
日本史の基礎知識を学習する。
報告形式のアクティブラーニングを導入。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で指定した課題の復習（2時間）
講義内で指定した課題の予習（2時間）
毎回講義内で課題資料を配布。
〔授業計画〕
第 1 回　日本の歴史で何を学ぶのか
日本の歴史で何を学ぶのか導入
第 2 回　古代・国家の形成Ⅰ
旧石器時代について学習する
第 3 回　古代・国家の形成Ⅱ
縄文時代・弥生時代について学習する
第 4 回　古代・国家の形成Ⅲ
邪馬台国、ヤマト政権と古墳文化について学習する
第 5 回　律令国家の成立
蘇我氏の国政改革、律令体制の成立過程と律令国家の発足、天平文化について
第 6 回　古代国家の成熟Ⅰ
律令の再編成、文化、政治について学習する
第 7 回　古代国家の成熟Ⅱ
受領と荘園、源氏と東国武士団について学習する
第 8 回　武家政権の誕生Ⅰ
院政と荘園公領制と文化、平氏政権について学習する
第 9 回　武家政権の誕生Ⅱ
鎌倉幕府の成立と文化、承久の乱と執権政治について学習する
第 10 回　武家政権の成長Ⅰ
室町幕府の成立と室町文化について学習する
第 11 回　武家政権の成長Ⅱ
戦国大名、織豊政権について学習する
第 12 回　幕藩体制の成立
幕藩体制の構造、寛永期の文化、文治政治、元禄文化、幕政改革について学習する
第 13 回　近代国家の形成Ⅰ
幕藩体制の変質、開国、について学習する
第 14 回　近代国家の形成Ⅱ
幕末の政局、明治維新について学習する
第 15 回　全体のまとめ
全体のまとめ及び定期試験の説明
〔成績評価〕
レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

世界の歴史

1106
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
1年
2単位　後期
火曜 2限
池田　　聡

〔到達目標〕
世界の歴史の基礎知識
歴史を時系列的に理解する
上記の内容を目標とする
〔授業の概要〕
世界史の基礎知識を学習する。
報告形式のアクティブラーニングを導入。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で指定した課題の復習（2時間）
講義内で指定した課題の予習（2時間）
毎回講義内で課題資料を配布。
〔授業計画〕
第 1 回　世界の歴史で何を学ぶのか
　　世界の歴史で何を学ぶのか導入
第 2 回　イスラームの成立Ⅰ
　　イスラーム教の誕生、発展、文明
第 3 回　イスラームの成立Ⅱ
　　帝国の成立と分裂
第 4 回　ヨーロッパ世界の形成Ⅰ
　　ゲルマン人の大移動、フランク王国の発展とローマ＝カトリック教会
第 5 回　ヨーロッパ世界の形成Ⅱ
　　封建社会の成立と社会の変容
第 6 回　ヨーロッパ世界の形成Ⅲ
　　中世ヨーロッパ文化と諸国の動向
第 7 回　内陸アジアの発展とモンゴル帝国
　　モンゴル帝国の成立と分裂、元の成立
第 8 回　アジア諸地域の発展Ⅰ
　　明の衰退と清の成立と発展
第 9 回　アジア諸地域の発展Ⅱ
　　東アジア・東南アジア・西アジア・南アジアの動向
第 10 回　ヨーロッパの拡大と大西洋世界Ⅰ
　　大航海時代、ルネサンス、宗教改革
第 11 回　ヨーロッパの拡大と大西洋世界Ⅱ
　　主権国家の成立と覇権争い、ヨーロッパ諸国の世界進出と文化
第 12 回　アメリカの変革と国民国家の形成
　　産業革命とアアメリカ独立戦争、アメリカの発展ン
第 13 回　ヨーロッパの変革と国民国家の形成
　　産業革命、フランス革命とナポレオン、ヨーロッパの再編成
第 14 回　世界市場の形成とアジア・ヨーロッパ
　　近世との関連性
第 15 回　全体のまとめ
　　全体のまとめと定期試験の説明
〔成績評価〕
レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

教養の数理

1117

経営教育学部 > 経営教育学科
2単位　前期
齋藤　　治

〔到達目標〕
日常生活や社会生活の場面で数学がどのように使われ、応用されていくプロセスについて、原理的な観点から理解ができるようになる。加えて科学技術の知識を深めることができる。
〔授業の概要〕
数字が持つ意味をより理解することで、応用的な活用により実用製品の改良や工夫の原点となる論理思考を深めることができるスキルアップを目指す。アクティブラーニング、学習者同士の意見交換を取り入れ、理解度をより深める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テーマに沿った小課題を都度出題予定なので、事後30分程度の検証復習ワークが望ましい。また、次回のテーマに沿った内容での事前リサーチ（20分程度）を希望します。
〔授業計画〕
第 1 回　グラフと表の表現
　　数字を並べた表、それを用いたグラフによる描画により、数字がもつ値の表現力向上となる概念を理解できるようになる。
第 2 回　データの把握
　　異なった数字同士を関連付けて並べることにより、何等かの法則や傾向の特徴について理解ができるようになる。
第 3 回　集合の概念
　　同じ、あるいは異なった属性に分類、区分けすることにより、データ識別という効率的な処理方法についての理解ができるようになる。
第 4 回　データの計算処理
　　統計を処理する際の基本となる合計、平均、偏差、分布といった指数の概念が理解できるようになる。
第 5 回　金利、為替、商取引での計算

商取引、財務などで用いる貨幣計算を使った実例場面で用いる、独特な用語の背景を理解することができるようになる。

第 6 回　数値比較による選択
複数ある工業製品などが示す性能を表示する数字から、品質や性能の程度を理解することができるようになる。

第 7 回　スコアシートによる選択
メリット、デメリットをスコア化したマトリックスを用い、特徴に応じてセレクトができるようなスキルを磨くことができるようになる。

第 8 回　確立、期待値による選択
例えば、天気や気温の変動によって服装や持ち物を変化させる判断基準などを論理的に理解をすることが出来るようになる。

第 9 回　平均値を用いた予測
平均、という数値が持つ標準的、という概念から得られる、予想の範囲や評価についての理解することができるようになる。

第 10 回　加重平均を用いた予測
単なる平均だけでは表現が困難な加重平均を用いた予測によって得られる範囲や特徴について理解ができるようになる。

第 11 回　関数を用いた予測
複雑な動作を関数により、単純化する思考について、理解ができるようになる。

第 12 回　データの適切なグラフ表現について
限られたデータから得られた相関関係を適切に表現することの重要性について、理解が深まることが出来るようになる。

第 13 回　有効数字や計算精度の意味について
数字が持つ価値や、範囲についての正しい理解ができるようになる。

第 14 回　複雑系を数値で示すための表現技法
どの実務分野において、解（こたえ）が簡単には求まらない事例があることについて、数値的な感性をもって真相の理解ができるようになる。

第 15 回　各テーマでの関心度合いを集計
受講者が各テーマにおいて一番関心が高い内容、低い内容の数値的評価が理解できるようになる。

〔成績評価〕
毎回、都度小レポートを課した内容の提出をもって評価（80%）
最終の定期試験前でのまとめレポート（20%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
1.学期：前期
2.曜日・時間：水曜日　10：00～11：30
3.場所：研究棟2F電気研究室
4.連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp　…@を半角で
5.その他　LMS 科目です。可能な限り、フォリーのメールで、送ってください。

生活の物理

1117

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
齋藤　治

〔到達目標〕
日常生活場面、ビジネスシーンで活用されている様々な道具（ツール）の動作原理や基本的な特徴について、科学（サイエンス）的な思考や判別ができるようになる。

〔授業の概要〕
物理的な原理そのものを探求するのではなく、身近なアイテムを引用したテーマを積極的に用いて理解を深めていく。アクティブラーニング形式にて応用事例について考察を深め、学習者間同士での意見交換も行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テーマに沿った小課題を都度出題予定なので、事後30分程度の検証復習ワーク、また次回テーマに関する事前リサーチ（約20分）を希望します。

〔授業計画〕

第 1 回　運動力学の３法則
ニュートン力学（相対速度、質量、慣性、加速度、力、作用、反作用）の概念について理解することができるようになる。

第 2 回　物体の運動方程式
古典のニュートン力学の他、解析力学、流体力学、量子力学、といった分野での簡単な考え方についての理解ができるようになる。

第 3 回　円運動、向心力、遠心力
特に工学分野で理解が必要となるこれら回転系運動での諸計算準備のための基礎的な理解ができるようになる。

第 4 回　摩擦、空気抵抗、浮力
空気や水によって生じる抵抗成分、浮力、摩擦といった概念についての理解が深まることができるようになる。

第 5 回　仕事とエネルギー
仕事量、仕事率、重力の位置エネルギー、弾性力、力学的エネルギー保存の法則などについての理解を深めることができるようになる。

第 6 回　熱とエネルギー
熱と温度、熱の移動、熱運動、内部エネルギーについての概念についての理解を深めることができるようになる。

第 7 回　波動とエネルギー
波動の周期、振動数、伝達速度、波動の反射と重ね合わせ、定常波、縦波、横波についての理解を深めることができるようになる。

第 8 回　音波
音についての具体的な理解を深めることができるようになる。
第 9 回　電気とエネルギー
電荷、電気力、クーロン力、についての概念について、理解を深めることができるようになる。
第 10 回　電気と磁気、磁界、電磁誘導、電磁波
電磁気学の分野についての理解を深めることができる。
第 11 回　人類とエネルギーの利用
化石燃料、原子力エネルギー、太陽光発電、潮力風力発電、のそれぞれの特徴について、理解を深めることができる。
第 12 回　再生可能エネルギー
再生可能なエネルギーの種類や方法についての理解を深めることができる。
第 13 回　電気の種類、単位、計算
直流、交流、抵抗、電力、ジュール熱、電力量といった電気に関わる諸単位の計算などについての理解を深めることができる。
第 14 回　弦楽器、管楽器、音波
楽器の種類によって音色が異なる仕組みについての理解を深めることができる。
第 15 回　物理で使用する単位
物理量の単位、数値、計算方法などについて、基本的な理解を習得できるようになる。

〔成績評価〕
毎回、都度小レポートを課した内容の提出をもって評価（80%）
最後の定期試験前でのまとめレポート（20%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
1.学期：後期
2.曜日・時間：水曜日　10：00～11：30
3.場所：研究棟2F、電気研究室
4.連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp　…@を半角で
5.その他　※LMS科目です。可能な限り、フォリーのメールで送ってください。

教職総合演習Ⅲ-1（教職教養）

7008

経営教育学部 > 経営教育学科
4年
1単位　前期
笠原　清次

〔到達目標〕
○教職者として必要な学校教育に係る様々な知識・情報を整理し、まとめる。
○教職教養の知見を広げ深めるとともに、教職者としてあるべき姿について考察を深めることができる。

〔授業の概要〕
○教育法規、教育史、教育原理、教育時事等関係資料を調べ、教職教養の理解を確かなものにする。
○教員の在るべき姿や学校教育の在り方について、話し合い活動を通して理解を広げ、教育課題について自分の考えをまとめる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回、授業で取り上げる資料を繰り返し読んでおく。(３０分)
授業時に学修した内容を中心に，練習問題を解き理解を定着させる。(６０分)

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の到達目標及び概要，進め方，予習・復習の仕方，授業計画及び評価について理解する。
第 2 回　教育法規１
学校教育に関する法規を調べ，まとめる。
第 3 回　教育法規２
教職員に関する法規を調べ，まとめる。
第 4 回　教育法規３
教育法規についてまとめる。
第 5 回　教育原理１
人権教育関係法規・資料を調べ，まとめる。
第 6 回　教育原理２
特別支援関係法規・資料を調べ，まとめる。
第 7 回　教育原理３
学校安全・防災教育等関係資料を調べ，まとめる。
第 8 回　教育時事１
中教審関係資料等を調べ，まとめる。
第 9 回　教育時事２
文部科学省通知・通達を調べ，まとめる。
第 10 回　教育時事３
その他各種関係資料，手引き等を調べ，まとめる。

第 11 回　教育史1
西洋教育史を調べ、まとめる。
第 12 回　教育史２
日本教育史を調べ、まとめる。
第 13 回　教育心理１
発達・学習理論を調べ、まとめる。

第 14 回　教育心理２
　　教育評価・人格心理検査等を調べ、まとめる。
第 15 回　教職教養のまとめ
　　教職教養に関する要点を整理し，理解を深める。
〔成績評価〕
テスト（６０％）
学習姿勢・態度(４０％)
〔教科書〕
自作テキスト「教職教養資料①教育法規編」「　〃　②人権教育・特別支援教育編」「　〃　③教育時事編」「　〃　教育史・教育心理編」

問題プリントは毎回配付する。

〔参考文献〕
「教職教養ランナー 2022年度版」(一ツ橋書店)
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ
〔備考〕
参考文献を予習・復習時に活用し，理解を深める。

〔オフィスアワー〕
①前　期：月曜日と火曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

教職総合演習Ⅳ-2（数学）

7009

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
3年
15単位　後期
笠原　　清次

〔到達目標〕
学習指導の要となる数学（算数）の専門的な知識と教養を深めて、教科学習の指導力を向上することができる。
〔授業の概要〕
１．数学科（算数科）の指導内容及び指導上の留意事項の理解を深める。
２．数学の問題の解き方を話し合い、解く技能を高める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
１．基礎的な問題は毎回予習する。(60分)
２．授業終了後に毎回復習問題を課すので、翌週までに解く。(30分)
〔授業計画〕
第 1 回　学習指導要領理解
　　算数(数学)指導の要点を調べ整理する。
第 2 回　数学演習1
　　数学演習問題基礎（数と式）を解く。
第 3 回　数学演習2
　　数学演習問題応用（数と式）を解く。
第 4 回　数学演習3
　　数学演習問題基礎（方程式の利用）を解く。
第 5 回　数学演習4
　　数学演習問題応用（方程式の利用）を解く。
第 6 回　数学演習5
　　数学演習問題基礎（関数）を解く。
第 7 回　数学演習６
　　数学演習問題応用（関数）を解く。
第 8 回　数学演習７
　　数学演習問題基礎（平面図形）を解く。
第 9 回　数学演習８
　　数学演習問題応用（平面図形1）を解く。
第 10 回　数学演習９
　　数学演習問題応用（平面図形2）を解く。
第 11 回　数学演習１０
　　数学演習問題基礎（空間図形）を解く。
第 12 回　数学演習１１
　　数学演習問題応用（空間図形）を解く。
第 13 回　数学演習１２
　　数学演習問題基礎（確率）を解く。
第 14 回　数学演習１３
　　数学演習問題応用（確率）を解く。
第 15 回　学習のまとめ
　　自己の課題に挑戦する。
〔成績評価〕
テスト（６０％）
学習姿勢・態度（４０％）
〔教科書〕
小学校学習指導要領解説算数編（平成29年7月　文部科学省）
中学総合的研究問題集　数学　三訂版（旺文社）
〔参考文献〕
授業ごとに補充問題プリントを配付する。
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
①前　期：.水曜日と木曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

教職総合演習Ⅳ-1（理科）

7008

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2年
1単位　前期
実務経験有
毛利　　康人

〔到達目標〕
小学校教師として必要な理科に関する基礎知識を幅広く学ぶ。
〔授業の概要〕
過去に出題された教員採用試験の問題を中心に学習する。事前に課題を出し、取組んだ課題を授業で発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備物が必要であれば事前に連絡します。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の意義、目的、授業の進め方についての講義。
第 2 回　生命①
　　生物の構造と機能
第 3 回　生命②
　　生命の連続性
第 4 回　生命③
　　生物と環境の関わり
第 5 回　地球①
　　地球の内部と地表面の変動
第 6 回　地球②
　　地球の大気と水の循環
第 7 回　地球③
　　地球と天体の運動
第 8 回　物質①
　　粒子の存在
第 9 回　物質②
　　粒子の結合
第 10 回　物質③
　　粒子の保存性
第 11 回　物質④
　　粒子の持つエネルギー
第 12 回　エネルギー①
　　エネルギーのとらえ方
第 13 回　エネルギー②
　　エネルギーの変換と保存
第 14 回　環境
　　生物と環境
第 15 回　学習指導要領
　　小学校学習指導要領理科
〔成績評価〕
テスト（８０％）
学習姿勢・態度（２０％）
〔教科書〕
小学校教員採用試験　理科問題集　改訂２版
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
教員や指導主事、管理職の経験を活かし、「教科に関する科目」、「教職に関する科目」で、「教科教育」、「指導案作成」、「模擬授業」、「教育の現状」、「教師の役割」、「今日的な教育課題」などの専門知識や技能の指導を行う。
〔オフィスアワー〕
1.学期　前期・後期
2.曜日・時間：月曜日　11：30～12：30
3.場所：1号館３階、教員研究室　１３
4.　Phollyメッセージ
５、前もってメッセージで連絡すること

教職総合演習Ⅳ-2（理科）

7009

経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　後期
実務経験有
毛利　　康人

〔到達目標〕
小学校教師として必要な理科に関する基礎知識を幅広く学ぶ。
〔授業の概要〕
過去に出題された教員採用試験の問題を中心に学習する。事前に課題を出し、取組んだ課題を授業で発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備物が必要であれば事前に連絡します。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の意義、目的、授業の進め方についての講義。
第 2 回　生命①
　　生物の構造と機能
第 3 回　生命②
　　生命の連続性
第 4 回　生命③
　　生物と環境の関わり
第 5 回　地球①
　　地球の内部と地表面の変動
第 6 回　地球②
　　地球の大気と水の循環
第 7 回　地球③
　　地球と天体の運動
第 8 回　物質①
　　粒子の存在
第 9 回　物質②
　　粒子の結合
第 10 回　物質③
　　粒子の保存性

第 11 回　物質④
　　粒子の持つエネルギー
第 12 回　エネルギー①
　　エネルギーのとらえ方
第 13 回　エネルギー②
　　エネルギーの変換と保存
第 14 回　環境
　　生物と環境
第 15 回　学習指導要領
　　小学校学習指導要領理科

〔成績評価〕
テスト（８０％）
学習姿勢・態度（２０％）

〔教科書〕
小学校教員採用試験　理科問題集　改訂２版

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
教員や指導主事、管理職の経験を活かし、「教科に関する科目」、「教職に関する科目」で、「教科教育」、「指導案作成」、「模擬授業」、「教育の現状」、「教師の役割」、「今日的な教育課題」などの専門知識や技能の指導を行う。

〔オフィスアワー〕
1.学期　前期・後期
2.曜日・時間：水曜日　11：30～12：30
3.場所：1号館３階、教員研究室　１３
4.　Phollyメッセージ
５、前もってメッセージで連絡すること

中等教科教育法Ⅳ（技術）

4324
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　後期
藤本　　光司

〔到達目標〕
中学校技術科教育の授業を実践するために，前期（中等教科教育法Ⅰ）で学んだ基礎・基本の知識・技能をベースに応用・発展的な指導力を習得する。技術科の教材化として，地域性や学校の独自性に対応できる教材作成ができる。実際の授業において，よりわかりやすい授業を遂行できる実践力を身に付ける。共に学ぶ仲間と協働し，技術科教育に関する理解を深める。毎時、体験的な授業で教師力を身に着けていきます。

〔授業の概要〕
これまでに学んできた技術科教育を総括的に整理しつつ，各学生の指導力の強みと弱みを知る。後期は，学外授業を2回設定している。他の授業との兼ね合いがある故，任意の参加とするが，できるだけ実践的な授業を見学してほしい。また，技術科教育を深く理解するために，仲間とチームを組んで教科書内容の比較研究を実施する。一方，先輩教員を招聘し教育現場の実情を深く理解する。
本学のオンラインシステム（Pholly）において課題を提示するので，小レポートや指導案の作成は，このシステムで提出すること。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・授業時間外の学習活動として，技術・家庭科研究大会に参加し最新の指導技術を学ぶ。
・指導案の作成，課題レポート，その他ICT機器の利用技術の実践力を培うため，自前のノートパソコンを所持しておくこと。
・招聘講師への感想文など，授業時間内に完成しない場合はE-mailでの添付提出もある。
・日頃から技術の教科書内容を把握すること。

〔授業計画〕
第 1 回　主体的で対話的な深い学びを実施するための教科指導のポイント
第 2 回　情報機器の活用と教材のデジタルアーカイブ
第 3 回　学習指導要領を読み解くNo4
　　生物育成の技術
第 4 回　技術分野の指導法③
　　生物育成における教材化と指導方法
第 5 回　学習指導案の作成(3)
　　生物物育成の分野における学習指導案を作成する
第 6 回　学習指導要領を読み解くNo5
　　情報の技術
第 7 回　技術分野の指導法④
　　情報の技術における教材化と指導方法
第 8 回　学習指導案の作成(4)
　　情報の分野における学習指導案を作成する。
第 9 回　附属中学校への学校訪問による授業見学および指導方法の研究
第 10 回　模擬授業③
　　グループ学習の形態での模擬授業，一人5分程度
第 11 回　模擬授業④
　　グループ学習の形態での模擬授業，一人5分程度
第 12 回　招聘講師による講話
　　本学卒業生の技術科教員を招聘した実践的な講話およびQ&A。:
第 13 回　教材教具の整備と安全教育
第 14 回　まとめ
　　指導と評価の一体化，観点別評価の方法，絶対評価と相対評価
第 15 回　振り返り
　　技術科教育の役割と現状の課題
　　※15回目の後、定期試験

〔成績評価〕
演習への取り組み (20%)、共に学ぶ仲間との協働態度 (10%)
課題レポートへの取組(20%)、模擬授業における授業実践力(20%)
技術科採用試験摸試、最終試験(30%)、上記の内容を総合的に評価する

〔教科書〕
『相互理解を深める コミュニケーション実践学 改訂版』、中学校技術・家庭科教科書（開隆堂，東京書籍）、中学校技

術・家庭科　学習指導要領（文部科学省）、技術・家庭科ハンドブック

〔参考文献〕

観点別学習状況の評価規準と判定基準 中学校技術・家庭」，北尾 倫彦，2012

「技術科教育における技能の形成と支援」，山本利一，2010

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

水曜日１，２限

金曜日４限

中等教科教育法Ⅲ（技術）

4324
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
2単位　前期
藤本　　光司

〔到達目標〕

中学校技術科教育の授業を実践するために必要とされる知識・技能を横断的に習得する。技術科教育の歴史を理解し，現行および次期学習指導要領に示されている内容を熟知する。教育実習に臨む前に，実際に授業を遂行できる実践力を身に付ける。共に学ぶ仲間と主体的・対話的で深い学びとして協働し，技術科教育に関する理解を深める。毎時、体験的な授業で教師力を身に着けていきます。

〔授業の概要〕

中学校技術・家庭科における技術分野について，その目的，歴史的変遷，現状の課題について概説する。学生は自分の指導力の強みと弱みを知り，模擬授業により指導力の向上をめざす。授業スタイルは，学校の教室を想定したグループワークを取り入れる。教育実習に向けて，板書計画や指導案作成，ICT機器活用による効果的指導法など，実務的な能力を高める。他方，先輩教員を招聘し現場の現状と課題を認識し教師力を高める。

本学のオンラインシステム（Pholly）において課題を提示するので，小レポートや指導案の作成は，このシステムで提出すること。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・授業時間外の学習活動として，附属中学校の授業見学を実施しミニレポートを記述する。

・教育実習に向けた指導案作成は，授業時間外の課題とします。ノートパソコン等の所持は必須。

・招聘講師の講話は，貴重な体験ですので、欠席がないように。

・学習指導案、模擬授業の練習などは自主学習

・試験では、技術科摸試を行います。

・日頃から技術の教科書内容を把握すること。

〔授業計画〕

第 1 回　中学校技術科の歴史
　　戦前から現代の教育について

第 2 回　技術・家庭科の目標
　　教育にかかわる法律について

第 3 回　学習指導要領を読み解くNo1
　　総則，新旧学習指導要領の比較

第 4 回　学習指導要領を読み解くNo2
　　材料と加工の技術

第 5 回　技術分野の指導法①
　　構想図，第三角法など設計・製作図の指導

第 6 回　技術分野の指導法②
　　木材・金属など材料の特徴や加工法を整理し指導力

第 7 回　学習指導案の作成(1)
　　設計・製図，材料と加工の分野における学習指導案を作成する。

第 8 回　学習指導要領を読み解くNo3
　　エネルギー変換

第 9 回　技術分野の指導法③
　　電気・機械等，エネルギー変換の仕組・伝達の指導力を身に付ける。

第 10 回　技術分野の指導法④
　　電気気・機械等，エネルギー変換の仕組・伝達の指導力を身に付ける。

第 11 回　学習指導案の作成(2)
　　エネルギー変換の分野における学習指導案を作成する。

第 12 回　招聘講師による講話
　　本学卒業生の技術科教員を招聘した実践的な講話およびQ＆A。任務についての講話。※15回後、定期試験：

第 13 回　模擬授業①
　　グループ学3習の形態での模擬授業，一人5分程度

第 14 回　模擬授業②
　　グループ学習の形態での模擬授業，一人5分程度

第 15 回　招聘講師による講話
　　教育行政から教育公務員としての任務について

〔成績評価〕

演習への取り組み（20%）、共に学ぶ仲間との協働態度（10%）課題レポートへの取組(20%)、模擬授業における授業実践力(20%)

技術科採用試験摸試、最終試験(30%)、上記の内容を総合的に評価する。

〔教科書〕

中学校技術・家庭科文科省検定教科書（開隆堂，東京書籍），中学校技術・家庭科　学習指導要領（最新版，文部科学省）、『技術科教育概論』、九州大学出版会、2018

〔参考文献〕

『アクティブ・ラーニングで深める技術科教育』（安東茂樹・藤本光司他，開隆堂)

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
水曜日１，２限
金曜日４限

教育実習事後指導【情報】

1001
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
1単位　後期
林　　泰子

〔到達目標〕
教育実習を終えて、学習指導案の作成・授業の実施と評価のあり方について確認し、より良い授業を展開するための手法や研究方法について身につける。
〔授業の概要〕
高校情報科で教育実習を終えた学生を対象に、教育実習でのビデオ映像の分析し、学習事項を確認する。また良い授業をするための手法や研究方法について事例を示して考察する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
▽予習
毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。

▽復習
毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。また、毎回課題を出題するので、次回までに必ずしておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　教育実習の総括（1）
教育実習での研究授業のビデオ映像による分析。
第 2 回　教育実習の総括（2）
前回に引続き教育実習での研究授業のビデオ映像による分析。
第 3 回　教育実習の総括（3）
前回に引続き教育実習での研究授業のビデオ映像による分析。
第 4 回　より良い授業をめざして（1）
教育実習での研究授業のビデオ映像による分析からより良い授業を検討する。
第 5 回　より良い授業をめざして（2）
前回に引続き教育実習での研究授業のビデオ映像による分析からより良い授業を検討する。
第 6 回　情報科教育の研究法（実践研究の進め方）
より良い授業を展開するための手法や情報科教育の研究法について、具体的な事例を示して紹介する。
〔成績評価〕
・課題レポートの提出50%
・授業への取組・実習状況など50%
※小テストやレポート課題については評価後、個別コメントつけて返します。
〔教科書〕
高等学校学習指導要領解説「情報編」文部科学省
〔参考文献〕
適宜紹介する
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日：11:00～12:00
③研究室
④y.hayashi@ashiya-u.ac.jp
⑤研究室に来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください。
　質問等は、基本的には授業終了後に講義教室で対応します。
　それ以降は、メールで受け付けます。

教育実習【情報】

1012
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
4単位　前期
林　　泰子

〔到達目標〕
全体目標
１．教育実習の意義や心得等、教育実習に臨む態度と能力を持つことができる。
２．授業実践者に相応しい技術科の知識や技能、指導力を持つことができる。

個別目標：
・教職関連の科目について、十分理解し実習生としての自覚をもって実習に臨むことができる。
・最新の学習指導要領「情報」の内容が反映された指導案を作成することができる。
・ICT機器などを利用して、技術科4領域の内容を熟知し指導できる。
・授業改善についての相互評価を行い、指導方法や指導技術の改善を行うことができる。
・様々な場面で生徒理解に努め、実習校に対して有意義な活動を行うことができる。
〔授業の概要〕
教職課程及び教科に関する専門科目の学習で身につけた知識や理解をもとに、高等学校情報に赴き実地体験を行う。教育実習の後半に担当教員が実習校を訪問して研究授業などを見学する。また、教育実習の事前・事後指導を行う。事前指導では、教育実習の意義や実習にあたっての心得を

中心に、教材研究、指導案作成、模擬授業、授業評価を確認する。事後指導では、各自の教育実習を振り返り、学生間で学びや反省を共有して学びを深める。実習中は、生徒との対話的で深い学びを自ら企画し教師力を磨く。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・教科指導以外にも様々な教育活動があるので、学校の勤務中にしかできないことを実習校で行い、教材研究や指導案の作成などは時間外学習で行う。（120分）

・担当教員や管理職の指示があれば、校外学習や休日の部活指導等にも積極的に参加する。（120分）

〔授業計画〕

実習校にて指導を仰ぎ、管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

〔成績評価〕

教育実習の実績（40%）、指導案＆研究授業の実績（40%）、教育実習の感想記録、生徒・担当教員などへのお礼の手紙など（20%）で総合的に評価する。

〔教科書〕

高等学校学習指導要領解説、情報編など

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

①前期・後期

②木曜日：11:00～12:00

③研究室

④y.hayashi@ashiya-u.ac.jp

⑤研究室に来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください。

質問等は、基本的には授業終了後に講義教室で対応します。

それ以降は、メールで受け付けます。

教育実習【情報】

1012
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4単位　後期
林　　泰子

〔到達目標〕

全体目標

１．教育実習の意義や心得等、教育実習に臨む態度と能力を持つことができる。

２．授業実践者に相応しい技術科の知識や技能、指導力を持つことができる。

個別目標：

・教職関連の科目について、十分理解し実習生としての自覚をもって実習に臨むことができる。

・最新の学習指導要領「情報」の内容が反映された指導案を作成することができる。

・ICT機器などを利用して、技術科4領域の内容を熟知し指導できる。

・授業改善についての相互評価を行い、指導方法や指導技術の改善を行うことができる。

・様々な場面で生徒理解に努め、実習校に対して有意義な活動を行うことができる。

〔授業の概要〕

教職課程及び教科に関する専門科目の学習で身につけた知識や理解をもとに、高等学校情報に赴き実地体験を行う。教育実習の後半に担当教員が実習校を訪問して研究授業などを見学する。また、教育実習の事前・事後指導を行う。事前指導では、教育実習の意義や実習にあたっての心得を中心に、教材研究、指導案作成、模擬授業、授業評価を確認する。事後指導では、各自の教育実習を振り返り、学生間で学びや反省を共有して学びを深める。実習中は、生徒との対話的で深い学びを自ら企画し教師力を磨く。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・教科指導以外にも様々な教育活動があるので、学校の勤務中にしかできないことを実習校で行い、教材研究や指導案の作成などは時間外学習で行う。（120分）

・担当教員や管理職の指示があれば、校外学習や休日の部活指導等にも積極的に参加する。（120分）

〔授業計画〕

実習校にて指導を仰ぎ、管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

〔成績評価〕

教育実習の実績（40%）、指導案＆研究授業の実績（40%）、教育実習の感想記録、生徒・担当教員などへのお礼の手紙など（20%）で総合的に評価する。

〔教科書〕

高等学校学習指導要領解説、情報編など

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

①前期・後期

②木曜日：11:00～12:00

③研究室

④y.hayashi@ashiya-u.ac.jp

⑤研究室に来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください。

質問等は、基本的には授業終了後に講義教室で対応します。

それ以降は、メールで受け付けます。

教職総合演習Ⅳ-1（英語）

7012
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　前期
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
教員採用試験に出題される英語問題に対応できるだけの文法力、読解力の素地を培い、自ら課題を解決する力を身につける。
〔授業の概要〕
英語学習の基礎を培うために、学習した内容を学生相互で確認し合ったり、疑問を出し合い、課題解決の方法を身につける。そして自立学習の素地を培う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業課題の予習90分、授業内容の復習９０分は必至である。
〔授業計画〕
第 1 回　会話の基本表現
出題頻度の高い会話文の基本表現を整理する。
近隣自治体の過去問題の傾向を整理する。
第 2 回　英文法①
名詞、形容詞、副詞、疑問詞の役割を具体例をもとに整理する。
第 3 回　英文法②
時制　現在形、過去形、未来を表す表現を整理する。
また、進行形、完了形の特徴を整理する。
第 4 回　英文法③
受動態と比較・最上級を整理する
第 5 回　英文法④
不定詞、分詞の特徴と役割を整理する。
第 6 回　英文法⑤
関係詞の種類と役割、仮定法の構造と役割を整理する。
第 7 回　長文読解①
名詞構文、無生物主語の構文を含んだ英文の読解方法を整理する。
長文の接続詞thatを見極める。
第 8 回　長文読解②
設問の答えを説明文から見つける方法を学習する。
スキミング、スキャニングなどの技法を学ぶ。メール文やニュース記事などの特徴を整理する。
模擬問題の演習。
第 9 回　長文読解③
関係代名詞と関係副詞を見極め、長文の内容を理解する演習を行う。
模擬問題の演習。
第 10 回　長文読解④　　まとめ
強調・倒置・省略・挿入などの特殊構文を整理する。
模擬問題の演習。
〔成績評価〕
授業毎に実施する確認テストを参考に評価する。
〔教科書〕
小学校学習指導要領　外国語活動・外国語（平成29年告示)
よくわかる総合英語問題集　Gakken
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
毎週木曜日3限、研究室

教職総合演習Ⅳ-1（理科）

7011
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　前期
渡　　康彦

〔到達目標〕
教職に必要な学習指導要領を基にした指導内容に係る事柄と理科の基礎的知識について学び、その知識や技能を身に付けることができる。
〔授業の概要〕
小学校理科の問題について、協同して課題解決を進めていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前の予習（90 分）
授業後の問題解答（90 分）
〔授業計画〕
第 1 回　力のはたらき
力の分解とつり合い、バネの伸び、圧力と浮力などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 2 回　力と運動
等速直線運動や等加速度直線運動、自由落下、鉛直投げ上げ投射などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 3 回　エネルギー
力学的エネルギー保存の法則などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 4 回　光と音
光の性質や音の性質などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 5 回　電磁気
オームの法則を用いた電流・電圧・抵抗の大きさや消費電力などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 6 回　物質の構成

物質の分類や化学反応式などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 7 回　物質の状態
質量パーセント濃度や溶解度などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 8 回　物質の変化
酸とアルカリ、中和、酸化還元反応、電気分解などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 9 回　物質の性質
気体の発生と溶液の性質などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 10 回　植物の世界
植物の分類や光合成などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 11 回　動物の世界
ヒトの血液の成分、血液循環、消化酵素、動物の分類などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 12 回　生物のつながり
細胞、遺伝、食物連鎖、物質の循環などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 13 回　大地の変化
火山の形、火成岩の分類、地震などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 14 回　大気の変化
湿度、日本の天気などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 15 回　太陽系と宇宙
星の動き、太陽の南中高度、惑星、星座などについて演習問題を解き、理解を深める。

〔成績評価〕
試験（６０％）
学習姿勢・態度（４０％）

〔教科書〕
小学校学習指導要領解説理科編（平成29年7月　文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
資格取得希望者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
火曜日3時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します

教職総合演習Ⅳ-1（社会）

7014
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
1単位　前期
中村　吉次郎

〔到達目標〕
教職に必要な学習指導要領を基にした指導内容に係る事柄と社会科の基礎的知識について学び、その知識や技能を身に付け、教員採用試験に向けた自学につなげることができる。

〔授業の概要〕
教員採用試験に向けた専門教養社会科の各分野の問題について、課題解決を協働で進めていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
「授業前の予習（90 分）」
「授業後の問題の復習（90 分）」

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
教員採用試験の過去問題を紹介しながら、講座全体の授業内容のオリエンテーションを行う。
第 2 回　日本史1
「日本の古代から中世の歴史」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 3 回　日本史2
「日本の近世の歴史」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 4 回　日本史3
「日本の近代の歴史」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 5 回　地理1
「人間と地球に関する」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 6 回　地理2
「世界の国々と産業」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 7 回　地理3
「日本の地理と産業」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 8 回　政治1
「民主主義の基本原理と制度」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 9 回　政治2
「現代政治の特徴」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 10 回　経済1
「現代経済の特質とその働き」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 11 回　経済2
「日本経済史と労働問題や社会福祉等の社会の課題」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 12 回　国際政治

「国際政治に関わること」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 13 回　国際経済
「国際経済に関わること」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 14 回　環境問題
「環境問題に関わること」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 15 回　まとめとテスト
講座全体をふり返り、まとめを行い、評価テストを実施する。

〔成績評価〕
評価テストを実施する。

〔教科書〕
「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕
「授業中に適宜資料を配布する」

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
〇非常勤のためオフィスアワーはない。
連絡者・中村　整七

教職総合演習Ⅳ-2（社会）

7016
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
1単位　後期
中村　吉次郎

〔到達目標〕
教職に必要な社会科の学習指導要領を基にした指導内容に係る事柄と基礎的知識について学び、その知識や技能を身に付け、教員採用試験に向けた自学につなげることができる。

〔授業の概要〕
教員採用試験に向けた専門教養社会科の各分野の問題について、課題解決を協働で進めていく

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
「授業前の予習（90 分）」
「授業後の復習（90 分）」

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
教員採用試験の過去問題を紹介しながら、講座全体の授業内容のオリエンテーションを行う。
第 2 回　日本史1
「日本の古代から中世の歴史」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 3 回　日本史2
「日本の近世の歴史」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 4 回　日本史3
「日本の近代の歴史」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 5 回　地理1
「人間と地球に関する」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 6 回　地理2
「世界の国々と産業」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 7 回　地理3
「日本の地理と産業」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る
第 8 回　政治1
「民主主義の基本原理と制度」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 9 回　政治2
「現代政治の特徴」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 10 回　経済1
「現代経済の特質とその働き」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 11 回　経済2
「日本経済史と労働問題や社会福祉等の社会の課題」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 12 回　国際政治
「国際政治に関わること」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 13 回　国際経済
「国際経済に関わること」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 14 回　環境問題
「環境問題に関わること」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 15 回　まとめとテスト
講座全体をふり返るまとめを行い、評価テストを実施する。

〔成績評価〕
評価テストを実施する。(100%)

〔教科書〕
「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕
「授業中に適宜資料を配布する」

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
〇非常勤のためオフィスアワーはない。
連絡者・中村　整七

教職実践演習【中高】

教職実践演習【中高】

教職実践演習【中高】

教職実践演習【中高】

3026
六麓荘キャンパス
経営教育学部 ＞ 経営教育学科
4年
2単位　後期
水曜 4限
教職課程履修者対象・技術・保健体育への分化

青木　敦英　藤本　光司　三羽　光彦　林　知代　林　泰子　三浦　正樹　中村　光男　奥野　拓司

〔到達目標〕

・中等教育現場で教員として通用するためには使命感や責任感、生徒に対する理解を基本とし、科目に対する専門的な知識ならびに教育スキルが必要とされる。本科目においては、上記のような能力の涵養と定着を目指す。

〔授業の概要〕

第1回から第8回においては、中等教育を取り巻く様々な環境、要因に対する知識の定着を図り、第9回以降は、保健体育、技術それぞれの科目指導に関する専門的な知識の獲得を図る。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

事前学習 : 各回のテーマを確認し、そのテーマに応じて、新聞（時事）や書籍（各論・総論）などを自身で確認する。
事後学習 : 各回の講義を受けて、事前学習時に自分自身が用意した事前の課題への考え方や、捉え方の変化をノートなどに書き留める。

〔授業計画〕

第 1 回　イントロ
教職実践演習の授業概要と成績評価について
授業設計と学習評価：評価が4観点から3観点に（担当：藤本）

第 2 回　生徒理解
特別活動と部活指導（担当：青木）

第 3 回　情報教育
GIGAスクールと情報モラル（担当：林(泰)）

第 4 回　生徒理解
発達障害の理解，カウンセリングマインド（担当：林(知)）

第 5 回　生徒理解
不登校生徒への対応（担当：三浦）

第 6 回　学校運営
チーム学校とカリキュラムマネジメント（担当：三羽）

第 7 回　生徒指導
体罰・セクハラ（担当：中村）

第 8 回　人権教育
いじめ・学級運営（担当：奥野）

第 9 回　採用試験に向けて
教員採用試験に向けて
【技術・情報】担当：藤本
【保健・体育】器械運動の指導理論と実践的指導法および評価方法について
【社会・公民】担当：奥野

第 10 回　子どものスマホ活用の状況と今後の課題
【3分野共通】
ゲスト講師講演
－　生徒指導で苦労するネットいじめの現状　－
講師：竹内和雄（兵庫県立大学）

第 11 回　科目別各論【第2回】
【技術・情報】材料加工の分野と環境教育（SDGs）との関連
【保健・体育】陸上競技の指導理論と実践的指導法および評価方法について
【社会・公民】

第 12 回　科目別各論【第3回】
【技術・情報】エネルギー変換分野の理論と実践および評価の方法
【保健・体育】武道と水泳の指導理論と実践的指導法および評価方法について
【社会・公民】

第 13 回　科目別各論【第4回】
【技術・情報】情報分野の理論と実践および評価の方法
【保健・体育】球技の指導理論と実践的指導法および評価方法について
【社会・公民】

第 14 回　科目別各論【第5回】
【技術・情報】生物育成分野の理論と実践および評価の方法
【保健・体育】保健分野の理論と実践的指導法および評価方法について
【社会・公民】

第 15 回　科目別各論【第6回】
【技術・情報】チーム学校として，これからの教員の資質能力について
【保健・体育】これからの保健体育科の教員に求められる資質および能力について
【社会・公民】

第 16 回　最終試験
最終試験

〔成績評価〕

出席が10／15を下回った場合、最終試験を受けることができない。
評価は最終試験100点満点の評価とするが、授業中の積極性、各回の出席状況を加点要素として最大40点分まで扱う。

〔教科書〕

【技術・情報】指定なし※必要に応じてレジュメなどを配布する。
【保健・体育】指定なし※必要に応じてレジュメなどを配布する。
【社会・公民】

〔参考文献〕
適宜、対象項目の資料を配布する。
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
1. 履修条件は、教育実習修了者もしくは今期に教育実習を行う学生に限る。
2. 開講計画は、前半に共通のカテゴリー内容で開講。後半は，教科に関する科目担当の専任教員や招聘講師で開講する。
3. 後半の教科は，取得免許とともに卒業後に必要な教科を学生が選択して受講すること。
〔オフィスアワー〕
オフィスアワーは複数担当のため、各教員の指定する時間にアポイントを取っての対応とする。

健康スポーツ科学実習

2339
六麓荘キャンパス
経営教育学部 > 経営教育学科
1単位　前期
実務経験有

西光　哲治　別當　和香　伊藤　武徳　武田　光平

〔到達目標〕
1）健康教育である運動・スポーツを実践することができる。

2）運動・スポーツを通して、自身の体力を向上させ、健康的な生活習慣の確立を身に付けることができる。

3）さらに、スポーツを通じて『コミュニケーション能力』『協調性』などの社会人基礎力を図ることができる。
〔授業の概要〕
近年、「運動不足」「体力の低下」「身体活動量の低下」が各年代の生活習慣病の原因であると多くの研究で明らかにされ、急務に改善しなければならない問題とされている。このような背景から、実技授業を通して体力の強化やケガをしない身体づくりはもちろんのこと、様々な運動やスポーツのルールの理解や運営方法を学び、スポーツの楽しさや表現力を習得する。実習場所は、福山記念館フロア（①）・第2体育館フロア（②）・卓球場（③）・グランド（④）の4ヶ所でおこない、各週学生が移動をして様々な競技を体験する。
◇受講要件◇
・実技科目にふさわしい服装で受講すること
・体育館では室内シューズを使用すること
・15分を過ぎての入室及び15分以上の退室は欠席扱いとする
・腕時計、ピアス等の着用禁止
・爪は短く、長い者はテーピングで保護する事
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：シラバスを確認し、関連スポーツに関する各競技のルールや特性などをノートにまとめておくこと。(2時間)

復習：実習でできたこと等をノートにまとめ、自身の健康維持・増進に向けて積極的にスポーツの実践を図ること。(2時間)
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方や成績評価の方法、受講マナーについてガイダンスを行う。
担当教員の紹介。（別當・武田）
第 2 回　新体力テスト①
①筋力・筋持久力系のテスト実施　（伊藤・西光）
②持久力・柔軟系のテスト実施　（武田）
③瞬発力系のテスト実施　（別當）
第 3 回　新体力テスト②
①筋力・筋持久力系のテスト実施　（伊藤・西光）
②持久力・柔軟系のテスト実施　（武田）
③瞬発力系のテスト実施　（別當）
第 4 回　新体力テスト③
①筋力・筋持久力系のテスト実施　（伊藤・西光）
②持久力・柔軟系のテスト実施　（武田）
③瞬発力系のテスト実施　（別當）
第 5 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価①
①バスケットボール：伊藤　②バトミントン：武田　③卓球：西光　④サッカー：別當
第 6 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価②
①バスケットボール：伊藤　②バトミントン：武田　③卓球：西光　④サッカー：別當
第 7 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価③
①バスケットボール：伊藤　②バトミントン：武田　③卓球：西光　④サッカー：別當
第 8 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価④
①バスケットボール：伊藤　②バトミントン：武田　③卓球：西光　④サッカー：別當
第 9 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価⑤
①バレーボール：伊藤　②ショートテニス：武田　③キンボール：西光　④ハンドボール：別當
第 10 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価⑥
①バレーボール：伊藤　②ショートテニス：武田　③キンボール：西光　④ハンドボール：別當
第 11 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価⑦
①バレーボール：伊藤　②ショートテニス：武田　③キンボール：西光　④ハンドボール：別當
第 12 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価⑧
①バレーボール：伊藤　②ショートテニス：武田　③キンボール：西光　④ハンドボール：別當

第 13 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価⑨
①ラグビー：伊藤・西光　②インディアカ：武田　④アルティメット：別當
第 14 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価⑩
①ラグビー：伊藤・西光　②インディアカ：武田　④アルティメット：別當
第 15 回　新体力テスト最終評価
グループ討議及びテストレポート（別當・伊藤）

〔成績評価〕

≪配点内訳≫
授業への意欲・態度（30%）
体力テスト結果(20%)
実技点(30%)
テストレポート(20%)

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

文部科学省　学習指導要領・解説（最新版）
適宜紹介する

〔履修条件〕

〔備考〕

【実務経験の活用】
教育現場での経験により、生徒とのコミュニケーション法や選手のモチベーションアップ方法などを指導する。
保健授業の経験を活かし、体つくり運動や健康の維持・増進やスポーツ現場における課題や問題の指導を行う。

〔オフィスアワー〕

毎週木曜日10:00～16:00
事前に下記のメールアドレスに連絡下さい。
tetsuji@ashiya-u.ac.jp
記念館1階西光哲治研究室